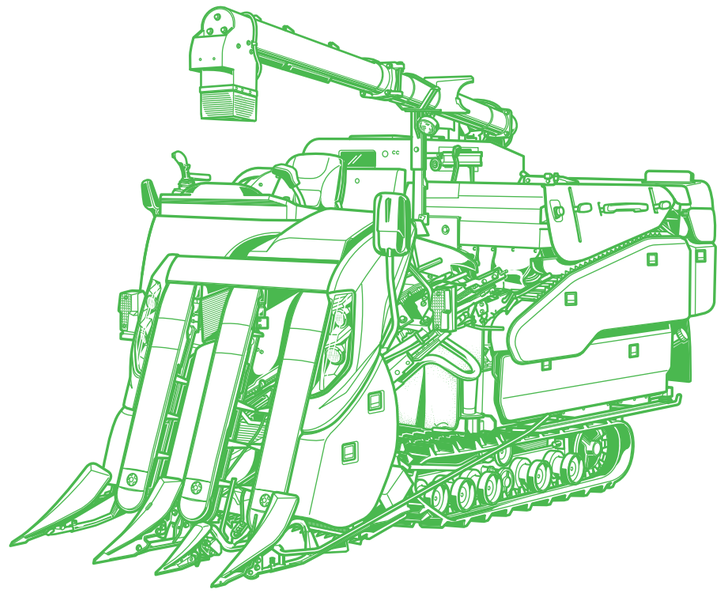
XC334

コンバイン

取扱説明書

XC334



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください



このラベルは「(社)日本陸用内燃機関協会排出ガス自主規制適合エンジン」であることを示しています。

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

ホーン	駐車ブレーキ
エンジン回転数［**低回転**］	燃料
エンジン回転数［**高回転**］	エンジン油圧
ウインカランプ	バッテリ充電
ヘッドランプ	
ヘッドランプと作業灯	
再生禁止	
駐車再生	
再生状態	

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号（製造番号）は…？

型　　式

機械番号（製造番号）

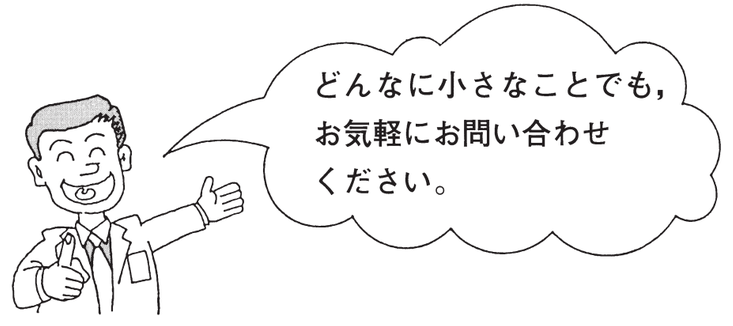
●ご使用状況は…？

（何速で，どんな作業のとき）

●どのくらい使用されましたか？

（約 _____ アール使用後）

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



（ご相談窓口）お買いあげ先

TEL　　（　　）

専門用語の説明

• **予熱（グロー）**	エンジンの始動を容易にするための補助装置
• **パワーステアリングレバー**	油圧式の操向操作レバーと刈取部昇降レバー
• **ブレーキターン**	左右どちらかのクローラを停止させて方向を変える旋回
• **ソフトターン**	左右のクローラの回転差で方向を変える旋回
• **接地センサ**	ほ場面に接地して刈取部とほ場面の高さ（刈高さ）を一定に保持するセンサ
• **デバイダ**	こくかんを分けすくい上げる部分
• **ドレーン（プラグ）**	エンジンオイル・トランスミッションオイルの排油栓，ラジエータの水を抜く栓
• HST	油圧式の無段変速装置
• **アジャスト**	調節を意味する
• **主変速レバー**	**［前進］［後進］**の切換え及びそのスピードをコントロールするレバー
• **１番スクリュ**	精選されたこく粒を横搬送するスクリューコンベア
• **２番スクリュ**	粗選されたこく粒やわらくずを横搬送するスクリューコンベア
• **チャフシーブ**	こく粒を粗選する桟状の板
• **トウミ**	選別風を発生させるファン
• **グレンシーブ**	こく粒を精選するあみ体
• **送じん調節レバー**	こぎ胴内の作物移動速度を調節するレバー
• **排じん調節板**	選別されたわらくずの排出に抵抗をかける板
• **こぎ胴**	脱こくするドラム
• **フィードチェーン**	作物を挟持搬送するチェーンコンベア
• **縦スクリュ**	精選されたこく粒を縦搬送するスクリューコンベア
• **こぎ胴オープン**	こぎ胴を上に上げる機構
• **揺動板（シーブケース）**	揺動運動してこく粒を選別する装置
• **アンローダ**	グレンタンクからもみを排出する筒

はじめに

このたびは，三菱マヒンドラ農機製品をお買上げいただきありがとうございます。
製品をご使用になる前に本書をよくお読みいただき，正しくお使いください。本書は，いつでもご覧頂ける場所に，大切に保管してください。なお，予告なく製品の仕様が変更されることがあります。本書の内容が，製品と一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示がある安全ラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠安全ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **危険**	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠ **警告**	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ **注意**	注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。
重要 ：	注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補足 ：	その他，使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は，稲・麦の刈取り・収穫用の作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は，保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確かめのうえ，お間違いのないようお願いいたします。
なお，説明は**【XC334LK 仕様】**を基本とし，**【XC334LK 仕様】**と取扱いが異なる場合はそのつど追加説明してあります。従って，機種及び仕様区分によっては付いていない装置の説明もあります。

［例］　XC334 L K
①　②　③

①刈取条数・
　エンジン出力によって　･･･［334］（３条刈り・34PS）

②自動車体水平制御装置
　によって　･･･［L 仕様］（左右モンロー）

③刈高さ制御によって　･･･［K 仕様］（上昇自動）

諸装置			備考
自動化装置	自動刈高さ制御	上昇自動	［K仕様］
	自動こぎ深さ制御		
	刈取オートクラッチ［刈取部上昇時搬送駆動停止機能］		
	アンローダ自動旋回制御		
	自動エンジン停止装置		
ファインビューメータ			
手動アクセルダイヤル			
副変速切換えスイッチ			
作業（楽刈）レバー			
旋回モード切換えスイッチ			
引起しオープン			
刈取オープン			
左分草かん電動開閉スイッチ			
刈取かき込みペダル			
手こぎレバー			
パワークラッチ〔脱こく・刈取・もみ排出〕			
もみこぼれ防止シャッタ			
アンローダリモコン			
無線アンローダリモコン			オプション
集中注油装置			
刈取防じんカバー			オプション
ＤＣ電源ソケット			
ディーゼル微粒子除去装置(DPF)			

目次

安全作業をするための注意事項 11

サービスと保証について 45

ご相談窓口 45
認定番号 46
補修用部品の供給年限について 46
取扱説明書の収納場所について 46
小型特殊自動車について 47
1. 小型特殊自動車取得の届出および標識（ナンバプレート）の取付け 47
2. 損害賠償保険について 47
3. 運転免許証の携帯 47

装置の名称と取扱い 48

機体方向説明 48
装置各部の名称とはたらき 49
1. 機体前方の装置の名称 49
2. 機体後方の装置の名称 51
3. レバー、スイッチ類の名称 53
3.1 運転席周りのレバー、スイッチ類の名称 53
3.2 レバー、スイッチ類の詳細 54
4. エンジン操作関係の名称とはたらき 55
4.1 メインスイッチ 55
4.2 手動アクセルダイヤル 55
5. 走行操作関係の名称とはたらき 55
5.1 主変速レバー、副変速レバー、副変速切換えスイッチ 55
5.2 駐車ブレーキペダル（駐車ブレーキ） 56
5.3 パワーステアリングレバー 56
5.4 旋回モード切換えスイッチ 57
5.5 運転席（シート） 58
5.6 刈取下降ロックスイッチ 58
6. 刈取、脱こく関係の名称とはたらき 59
6.1 作業レバー（楽刈レバー） 59
6.2 引起し変速レバー 59
6.3 左分草かん開閉スイッチ 59
6.4 刈取りかき込みペダル 60
6.5 エンジン停止スイッチ 60
6.5.1 機体の作業状態への復帰のしかた 61
6.6 トウミ調節レバー 62
6.7 チャフ調節レバー 62
7. グレンタンク関係の名称とはたらき 62
7.1 もみ排出スイッチ 62
8. 電装関係の名称とはたらき 63
8.1 ファインビューメータ 63
8.1.1 ファインビューメータの各メータ 63
8.1.1.1 エンジン回転計 63
8.1.1.2 燃料計 63
8.1.1.3 速度計 63
8.1.1.4 負荷メータ 63
8.1.2 マルチナビ 64
8.1.2.1 移動走行、通常作業時のマルチナビの表示 64
8.1.2.1.1 アワメータ、オイル、充電表示 64
8.1.2.1.2 水温、シーブ、もみ表示 64
8.1.2.2 異常発生時のマルチナビの表示 65
8.1.2.3 誤操作時のマルチナビの表示 67
8.2 コンビネーションスイッチ、ホーンスイッチ 68

8.2.1 ライティングスイッチ 68
8.2.2 ホーンスイッチ 68
8.2.3 ウインカスイッチ 68
8.3 DC 電源ソケット 69
自動化装置の名称とはたらき 69
1. 自動化装置の走行操作関係の名称とはたらき 70
1.1 自動車体水平制御装置（左右モンロー）[L 仕様] 70
1.1.1 水平自動スイッチ [L 仕様] 70
1.1.2 傾斜角手動調節スイッチ [L 仕様] 70
1.1.3 上げ基準スイッチ [L 仕様] 71
1.1.4 後進時機体上昇スイッチ [L 仕様] 71
1.2 水平操作手動スイッチ [L 仕様] 72
1.3 自動化装置の刈取、脱こく関係の名称とはたらき 72
1.3.1 自動こぎ深さ制御装置 72
1.3.1.1 自動こぎ深さスイッチ 72
1.3.2 手動こぎ深さ制御 73
1.3.2.1 手動こぎ深さスイッチ 73
1.3.2.2 穂先センサの位置調節について 73
1.3.3 自動刈高さ制御装置 [K 仕様] 73
1.3.3.1 上昇（リフト）自動スイッチ [K 仕様] 74
1.3.3.2 高さ調節ダイヤル [K 仕様] 74
1.3.3.3 上昇自動（リフト）[K 仕様] 74
1.3.4 刈取オートクラッチ 75
1.3.4.1 オートクラッチ切換えスイッチ 75
1.4 自動化装置のグレンタンク関係の名称とはたらき 75
1.4.1 アンローダ自動旋回制御装置 75
1.4.1.1 アンローダ自動旋回スイッチ（左、右、後） 76
1.4.1.2 収納スイッチ 76
1.4.1.3 停止スイッチ 76
1.4.2 アンローダ手動スイッチ 77
1.4.3 もみの排出および停止操作 78
DPF 装置（ディーゼル微粒子除去装置）のはたらきと取扱い 78
1. DPF スイッチパネル 79
1.1 再生状態ランプ 79
1.2 駐車再生スイッチ 79
1.3 再生禁止スイッチ 80
2. DPF 再生処理方法について 81
2.1 自動再生処理について 83
2.2 駐車再生処理のしかた 83
運転のしかた 84
運転前の点検 84
1. 前日の異常箇所の点検 84
2. コンバイン周りの点検 84
3. 日常点検項目 85
新車時の扱い方法 87
1. ならし運転について 87
エンジンの始動と停止のしかた 87
1. エンジンの始動のしかた 87
2. 暖機運転について 89
3. 燃料切れ後のエンジン再始動のしかた 89
4. バッテリが上がったときのエンジン始動のしかた 89
5. エンジンの停止のしかた 90
移動走行について 90
1. 移動走行前の準備 90
2. 発進のしかた 93
3. 旋回のしかた 95
4. 停車、駐車のしかた 95

5. 道路走行時の注意事項 95
5.1 ウインカスイッチの操作 96
輸送について 96
1. トラックとあゆみ板の準備 96
2. トラックへ積込み時のコンバインの準備 96
3. トラックへの積込み、積降しのしかた 96
3.1 トラックへの積込み、積降し操作のしかた 97
4. トラック上でのコンバインの処置 98
収穫作業のしかた 99
作物とほ場の条件 99
1. 作物の条件 99
1.1 作物の長さ 99
1.2 作物の倒伏 99
1.3 作物の濡れ 99
2. ほ場の条件 99
2.1 ほ場のぬかるみ 99
2.2 ほ場の傾き 99
ほ場の準備 100
1. あぜぎわの手刈り（枕刈り） 100
刈取作業のためのコンバインの準備 100
1. 刈取作業の準備のしかた 100
1.1 各部への注油 100
1.2 デバイダカバーの取外しと収納 100
1.3 左分草かんのセット 101
1.4 旋回モードの選択 101
1.5 排わら処理の選択 102
1.6 排わら切断長さの選択 103
1.7 リヤシュート、サイドシュートの準備 103
1.7.1 リヤシュート、サイドシュートのセットのしかた 103
1.7.2 リヤシュート、サイドシュートの調整のしかた 103
1.8 アンローダの準備 104
2. アンローダを折りたたむ方法、伸ばす方法 104
2.1 アンローダを折りたたむ方法 105
2.2 アンローダを伸ばす方法 106
刈取作業のしかた 107
1. ほ場の出入りのしかた 107
2. 刈取作業の手順 108
3. ほ場で刈る方法と旋回のしかた 111
3.1 刈取部のデバイダの条合わせのしかた 111
3.1.1 通常の回り刈りのときのデバイダの条合わせ 111
3.1.2 刈始め、あぜぎわ刈り、中割り作業のときのデバイダの条合わせ 112
3.2 あぜぎわを刈る方法 112
3.3 広いほ場の場合の刈取り 112
3.4 刈取作業後の旋回のしかた 113
4. 湿田作業のしかた 113
5. 作物に合わせた変速の選択方法 113
5.1 刈取変速、引起し変速の選択方法 113
5.1.1 副変速切換えスイッチでの刈取変速の選択 114
5.1.2 引起し変速レバーでの刈取変速の選択 114
6. もみの排出のしかた 114
7. 手刈りでの枕刈り脱こくのしかた 119
8. 作業に合わせた各部の調整、調節のしかた 121
8.1 刈取部の調整、調節 121
8.1.1 デバイダの上下調整 121
8.1.2 引起し爪高さの調節 122
8.1.3 刈刃の高さ調節 123
8.1.4 右穂先チェーン爪ガイドの調整 124

8.2 脱こく部の調整、調節 125
8.2.1 こぎ室送じん調節レバーの調節 125
8.2.2 排じん調整板の調整 125
8.2.3 トウミの開度による風力とチャフのすき間の開度の調節 125
9. マルチナビによる異常の確認と処置 127
10. マルチナビによる故障の確認と処置 133
メンテナンス 136
各部の開閉と脱着のしかた 136
1. エンジンルームの開閉 136
1.1 エンジンルームを開く方法 136
1.2 エンジンルームを閉じる方法 137
2. こぎ胴の開閉 137
2.1 こぎ胴を開く方法 137
2.2 こぎ胴を閉じる方法 138
3. 刈取部の開閉 138
3.1 刈取部を開く方法 139
3.2 刈取部を閉じる方法 144
4. 引起し部の開閉 146
4.1 引起し部を開く方法 147
4.2 引起し部を閉じる方法 148
5. カッタ部の開閉 149
5.1 カッタ部を開く方法 149
5.2 カッタ部を閉じる方法 150
6. シーブケースの脱着 150
6.1 シーブケースの抜出し方法 150
6.2 シーブケースの取付け方法 152
7. 受あみの脱着 153
8. 受あみ脱着金具の使用方法 154
8.1 受あみ脱着金具の保管について 154
8.2 受あみ脱着金具を使用した受あみの脱着 154
9. 引起しサイドカバーの脱着 155
9.1 引起しサイドカバーの取外し方法 155
9.2 引起しサイドカバーの取付け方法 155
10. 引起しカバーの脱着 155
10.1 引起しカバーの取外し方法 155
10.2 引起しカバーの取付け方法 156
11. 左サイドカバーの脱着 156
11.1 左サイドカバーの取外し方法 156
11.1.1 左サイドカバー上、下の取外し方法 156
11.1.2 左サイドカバー内 1、内 2、内 3 の取外し方法 156
11.2 左サイドカバーの取付け方法 157
12. グレンタンク下カバーの脱着 157
12.1 グレンタンク下カバーの取外し方法 157
12.2 グレンタンク下カバーの取付け方法 157
13. 運転席後カバー 1、2 の脱着 157
13.1 運転席後カバー 1、2 の取外し方法 157
13.2 運転席後カバー 1、2 の取付け方法 157
14. カッタ左サイドカバーの脱着 157
14.1 カッタ左サイドカバーの取外し方法 157
14.2 カッタ左サイドカバーの取付け方法 158
15. カッタ切換えカバーの開閉 158
15.1 カッタ切換えカバーを開く方法 158
15.2 カッタ切換えカバーを閉じる方法 158
16. グレンタンクの開閉 158
16.1 グレンタンクを開く方法 159
16.2 グレンタンクを閉じる方法 160
各部の掃除と注油のしかた 160

1. 各部の掃除 161
1.1 各部の掃除のしかた 161
1.2 掃除箇所 161
1.2.1 脱こく部内の掃除 162
1.2.2 フロントカバー内の掃除 162
1.2.3 ベルトカバー内の掃除 162
1.2.4 フィードチェーン終端部、排わら搬送部の掃除 163
1.2.5 1 番スクリュ上部の掃除 163
1.2.6 1、2 番横スクリュ下部の掃除 163
1.2.7 1 番縦、横スクリュの掃除 164
1.2.8 2 番処理胴（ツースバー）の掃除 165
1.2.9 2 番縦スクリューケースの掃除 166
1.2.10 シーブケース後部（3 番出口）の掃除 166
1.2.11 カッタ部内の掃除 166
1.2.12 こぎ室内の掃除のしかた 166
1.2.13 グレンタンク内の掃除 167
1.2.14 グレンタンク下部の掃除 167
1.2.15 アンローダ縦スクリュの掃除 167
1.2.16 アンローダ水平スクリュの掃除 168
1.3 掃除後の処置と確認 168
2. 各部の注油 168
2.1 自動集中注油装置による注油 168
2.1.1 自動集中注油装置による注油のしかた 168
2.2 エア抜きの方法 170
2.3 注油箇所、集中注油ノズルの掃除、グリース塗布 170
2.3.1 自動集中注油箇所と掃除のしかた 170
2.3.1.1 刈刃の自動集中注油箇所 170
2.3.1.1.1 刈刃のノズル掃除 170
2.3.1.2 引起しチェーン、右穂先チェーン、右株元チェーン、左穂先チェーン、左株元チェーンの自動集中注油箇所 171
2.3.1.2.1 引起しチェーンのノズル掃除 171
2.3.1.2.2 右穂先チェーンのノズル掃除 172
2.3.1.2.3 右株元チェーンのノズル掃除 172
2.3.1.2.4 左穂先チェーン、左株元チェーンのノズル掃除 172
2.3.1.3 株元供給チェーン、供給サポートチェーン、供給サポートチェーン駆動チェーン、こぎ深さチェーン、フィードチェーンの自動集中注油箇所 173
2.3.1.3.1 株元供給チェーンのノズル掃除 173
2.3.1.3.2 供給サポートチェーン、供給サポートチェーン駆動チェーンのノズル掃除 173
2.3.1.3.3 こぎ深さチェーンのノズル掃除 174
2.3.1.3.4 フィードチェーンのノズル掃除 174
2.3.1.4 排わら穂先チェーン、排わら株元チェーン、排わら入力チェーンの自動集中注油箇所 175
2.3.1.4.1 排わら穂先チェーン、排わら株元チェーン、排わら入力チェーンのノズル掃除 . 175
2.3.2 手差し注油箇所 176
2.3.2.1 搬送レールピン支持部の手差し注油箇所 176
2.3.2.2 排わら株元チェーンテンション部の手差し注油箇所 177
2.3.2.3 排わら入力チェーンの手差し注油箇所 177
2.3.2.4 カッタ駆動ギヤ、ギヤスプロケットの手差し注油箇所 177
2.3.3 グリース塗布箇所 177
2.3.3.1 クローラ張りボルト（左、右）のグリース塗布箇所 177
2.3.3.2 フィードチェーンクラッチピンのグリース塗布箇所 178
2.4 注油、ノズル掃除後の処置と確認 178
定期点検 178
1. オイル、フィルタ類の交換とチェーン、ベルト、クローラの張り調整 178
2. 廃棄物の処理について 179
3. 洗車時の注意 179
4. 使用者が行ってはいけない修理 179
5. 定期点検一覧表 180
6. 給油、給水、注油点検一覧表 186

7. 燃料、オイル、グリースの点検、補給、交換 189
8. 燃料の補給 189
8.1 燃料の給油 189
8.2 燃料の補給方法 190
9. エンジンオイルの点検、補給、交換 190
9.1 エンジンオイルの点検、補給 190
9.2 エンジンオイルの交換 191
9.2.1 エンジンオイルの排油のしかた 191
9.2.2 エンジンオイルの給油のしかた 191
10. トランスミッションケースオイルの点検、補給、交換 191
10.1 トランスミッションケースオイルの点検、補給 192
10.2 トランスミッションケースオイルの交換 192
10.2.1 トランスミッションケースオイルの排油のしかた 192
10.2.2 トランスミッションケースオイルの給油のしかた 192
11. フィードチェーン駆動ケースオイルの補給 192
11.1 フィードチェーン駆動ケースオイルの補給方法 193
12. こぎ胴駆動ケースオイルの補給 193
12.1 こぎ胴駆動ケースオイルの補給方法 193
13. 各部のグリース補給 193
13.1 グリースニップルからのグリース補給 194
13.2 固定転輪部、後輪部のグリース補給［L 仕様除く］ 194
13.3 固定転輪部、揺動転輪部のグリース補給［L 仕様］ 195
13.4 後輪部のグリース補給［L 仕様］ 196
13.5 スイングアーム部、トラックフレーム部のグリース補給［L 仕様］ 196
13.6 アンローダ部のグリース補給 197
14. ラジエータ冷却水の点検、補給、交換 197
14.1 ラジエータ冷却水の点検、補給 197
14.2 ラジエータ冷却水の交換 198
15. エアクリーナの点検、掃除、交換 199
15.1 エアクリーナの点検、掃除、交換方法 199
16. パイプ、ホース類の点検 200
16.1 パイプ、ホース類の点検方法 200
17. 防じんあみ、各フィンの掃除方法 202
17.1 各フィンの取外し方法 202
18. 油水分離器（セパレータ）の点検、排水、掃除 203
18.1 油水分離器（セパレータ）の点検 203
18.2 油水分離器（セパレータ）の排水 203
18.3 油水分離器（セパレータ）の掃除 203
19. 燃料フィルタカートリッジの交換 204
19.1 燃料フィルタカートリッジの交換方法 204
20. エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 204
20.1 エンジンオイルフィルタカートリッジの交換方法 204
21. HST オイルフィルタカートリッジ、油圧サクションオイルフィルタカートリッジの交換 205
21.1 HST オイルフィルタカートリッジ、油圧サクションオイルフィルタカートリッジの交換方法 205
22. 各部ワイヤの点検、調整 206
23. 駐車ブレーキワイヤの点検、調整 207
24. フィードチェーン停止ワイヤの点検、調整 207
25. 刈取クラッチワイヤの点検、調整 208
26. 脱こくクラッチワイヤの点検、調整 208
27. カッタ切換えカバー開閉ワイヤの点検、調整 209
27.1 排わら切換えカバー（カッタ切換えカバー）の点検、開閉ワイヤの張り調整 209
28. 排わらレールワイヤの点検、調整 211
29. もみ排出クラッチワイヤの点検、調整 212
30. 各部ベルトの点検、調整 214
30.1 各部ベルトの点検 217
30.2 各部ベルトの調整 217
31. ファン駆動ベルトの点検、調整 217
32. ミッション駆動ベルトの点検、調整 218

33. 刈取駆動ベルトの点検、調整 218
34. 脱こく駆動ベルトの点検、調整 219
35. 補助搬送（突起付）ベルトの点検、調整 219
36. こぎ胴駆動ケース駆動ベルトの点検、調整 220
37. こぎ胴駆動ベルトの点検、調整 221
38. 1 番・2 番・チェーン駆動ベルトの点検、調整 221
39. 揺動駆動ベルトの点検、調整 221
40. カッタ駆動ベルトの点検 222
41. タンク駆動ケース駆動ベルトの点検、調整 222
42. スクリュ駆動ベルトの点検、調整 223
43. 各部チェーンの点検、調整 223
43.1 各部チェーンの点検 224
43.1.1 各部チェーンの点検箇所 224
43.1.2 各部チェーンの調整 225
44. 引起しチェーンの点検、調整 225
45. 左穂先チェーン、右穂先チェーンの点検 226
46. 左株元チェーン、右株元チェーンの点検、調整 226
47. 株元供給チェーンの点検、調整 227
48. 供給サポートチェーンの点検、調整 227
49. 供給サポートチェーン駆動チェーンの点検 228
50. こぎ深さチェーンの点検、調整 228
51. フィードチェーンの点検、調整 228
52. 排わら穂先チェーン、排わら株元チェーンの点検 229
53. 排わら入力チェーンの点検 229
54. 刈刃の点検、調整 229
54.1 刈刃の点検、取外し 230
54.2 刈刃のすき間調整 230
54.3 刈刃の取付け 231
55. こぎ歯の点検、交換 232
55.1 こぎ歯の点検 232
55.2 こぎ歯の交換 232
56. わら切刃の点検、組換え、交換 233
56.1 わら切刃の点検、組換え、交換方法 233
56.1.1 穂先側のわら切刃の点検、組換え、交換 233
57. カッタ部の点検、増締め 234
57.1 切断軸、供給軸の増締め 235
58. フィードチェーンクラッチスプリングの点検、調整 237
59. 吐出口ブーツの点検、交換 237
59.1 吐出口ブーツの交換 237
60. バッテリの点検、交換 237
60.1 補水が不要なバッテリの点検、交換 237
60.1.1 バッテリの点検 237
60.1.2 バッテリの補充電、交換 239
60.2 補水が必要なバッテリの点検、交換 240
60.2.1 補水が必要なバッテリの点検、補水 240
60.2.2 補水が必要なバッテリの補充電、交換 240
61. 電気の各配線コード、各ヒューズの点検、交換 241
61.1 各配線コードの点検、交換 241
61.2 各ヒューズの交換 241
61.3 スローブローヒューズ、バッテリ（+）コードの点検、交換 243
62. ランプの電球の点検、交換、ホーンスイッチの点検 244
63. 反射器の点検、交換 245
64. クローラの点検、調整 245
65. トラッククローラ（転輪）の点検 247
刈取作業後の手入れ 248
1. 毎日の作業後の手入れ 248
2. 長期格納時の手入れ 248
2.1 長期格納時の各部の掃除、注油と補修 248

2.2 長期格納時のラジエータ冷却水の保管 248
2.2.1 長期格納時のラジエータ冷却水の排水 248
2.2.2 長期格納時のラジエータ冷却水と不凍液の配合 248
2.3 長期格納時のバッテリの保管 249
2.4 長期格納時の各レバー、その他の操作 249
コンバインの不調と処置 250
コンバインの処置時の注意 250
わらが詰まるときの処置 250
1. 自動エンジン停止装置がはたらいたときの処置 250
1.1 供給搬送部、フィードチェーン部の処置 250
1.2 フィードチェーン終端部、排わら搬送部の処置 250
1.3 2 番縦スクリュの処置 251
1.4 カッタ部、排わらチェーン部の処置 251
2. シャーピンが破損したときの処置 252
2.1 引起しチェーン駆動軸のシャーピンの確認 252
2.2 供給サポートチェーン駆動軸のシャーピンの確認 252
もみが詰まるときの処置 253
1. アンローダからもみが排出されないときの処置 253
1.1 もみ排出クラッチが作動せずもみが排出されない場合の処置 253
その他の不調と処置 254
1. けん引フックについて 254
付表 255
主要諸元 255
付属部品 257
オプション（別売品） 257
1. 走行部のオプション 257
1.1 湿田用泥玉防止スクレーパー覧 257
2. 刈取部のオプション 257
2.1 スイスイデバイダー覧 257
2.2 前分草ガイド一覧 257
2.3 刈取部脱着用刈取スタンド一覧 257
2.4 刈取り防じんカバー一覧 257
2.5 左分草かん後（サイドデバイダ）一覧 257
3. 脱こく部のオプション 257
3.1 種子用交換部品一覧 257
4. こく粒処理部のオプション 257
4.1 無線アンローダリモコン一覧 257
4.2 作業灯一覧 257
4.3 延長アンローダー覧 257
5. 排わら処理部のオプション 258
5.1 カッタ切換えカバー電動切換え装置一覧 258
5.2 カッタ後部標準結束機一覧 258
5.3 カッタ後部ドロッパー覧 258
5.4 シュータ式拡散装置一覧 258
6. 運転席部のオプション 258
6.1 キャノピー覧 258
6.2 バックミラー一覧 258
消耗部品 258
1. バッテリ、スローブローヒューズ一覧 258
2. ヒューズ一覧 259
3. ランプ（電球）一覧 259
4. ラジエータホース一覧 259
5. オイルクーラホース一覧 260
6. 燃料ホース一覧 260
7. 燃料フィルタカートリッジ一覧 260
8. エンジンオイルフィルタカートリッジ一覧 261

9. 油圧サクションオイルフィルタカートリッジ、HST オイルフィルタカートリッジ一覧 261
10. ウォータセパレータエレメント一覧 261
11. エアクリーナー一覧 261
12. インレットパイプ、オイルセパレータホース一覧 262
13. 吐出口ブーツ一覧 262
14. オイルドレーンゴムホース一覧 262
15. 排水ホース一覧 263
16. 各ワイヤ一覧 263
17. フロントハンプ一覧 264
18. 受あみ一覧 264
19. こぎ歯一覧 264
20. わら切刃一覧 265
21. 刈刃一覧 265
22. 穂先センサ一覧 265
23. 各チェーン一覧 265
23.1 株元供給チェーン一覧、こぎ深さチェーン一覧 265
23.2 フィードチェーン一覧 266
23.3 供給サポートチェーン一覧、供給サポートチェーン駆動チェーン一覧 266
23.4 引起しチェーン一覧、右穂先チェーン、右株元チェーン一覧、左穂先チェーン、左株元チェーン一覧 266
23.5 排わら穂先チェーン、排わら株元チェーン一覧 266
24. カッタ刃、供給刃一覧 267
25. クローラ一覧 267
26. 突起付ベルト一覧 267
27. ファン駆動ベルト一覧 267
28. 各ベルト一覧 268
指定オイル 270
1. 指定オイルについて 270
索引 271

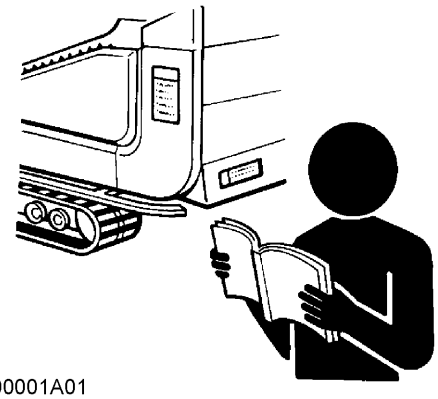
安全作業をするための注意事項

安全作業をするために、本章の注意事項を必ず守ってください。
本機をご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をよく読み理解したうえで、安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項は本章で述べたとおりですが、これ以外にも、本文の中で危険、警告、注意、重要、補足としてそのつど取り上げています。

一般的な注意事項

1. 正しい運転および作業方法

- 取扱説明書および機械に貼り付けている安全ラベルをよく読み、正しい運転、作業方法を覚えてください。死亡または傷害を負うおそれがあります。
- 本書記載事項以外についても、安全には細心の注意を払ってください。安全ラベルはいつもきれいにしておいてください。



1GAGG00001A01

2. 体の調子が悪いとき

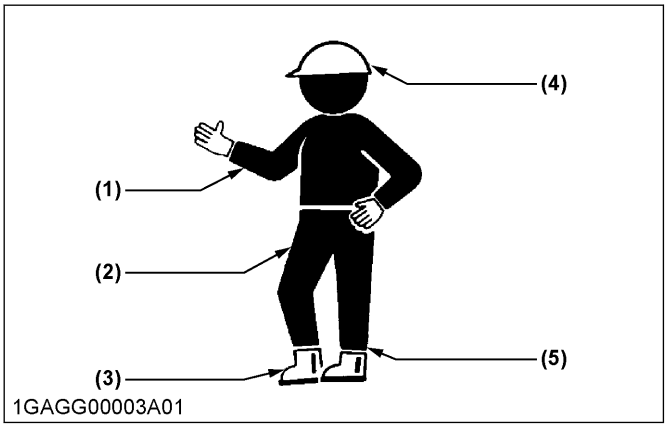
- 体の状態が悪いときには運転操作をしないでください。思わぬ事故の原因になります。
- 運転操作には的確な判断が必要です。次の状態の方は、機械の運転操作を行わないでください。
  - お酒を飲んでいる方
  - 睡眠不足の方
  - 妊娠中の方
  - 過労、病気の方
  - 16 歳未満の方



1GAGG00002A01

3. 作業に適した服装

- 作業時には、運転者、補助者とも作業に適した服ならびにヘルメット、滑りにくい靴を着用してください。レバーや作動部に引っ掛かったり、滑ったりして、傷害を負うおそれがあります。
- だぶついた服は着用しないでください。
- そで口はきっちりと止めてください。
- はち巻き、首巻き、腰タオルは着用しないでください。
- サンダル、スリッパなどの履物は着用しないでください。
- 必要に応じて安全靴、保護メガネや手袋などを着用してください。
- 点検整備には帽子と安全な服装を着用してください。
  作業内容によってはヘルメット、安全靴、保護メガネ、防塵マスク、防音具、保護手袋などの保護具を着用してください。
  各保護具は使用前に機能を確認してください。



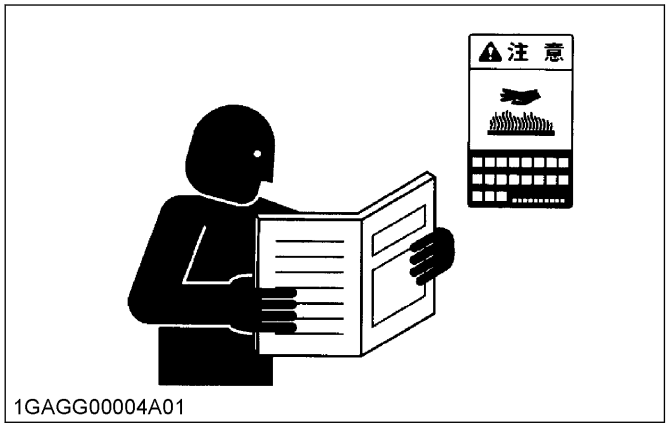
1GAGG00003A01

(1) スッキリしたそで口
(2) 身に合った服
(3) 滑りにくい靴
(4) ヘルメット
(5) スッキリしたスソ

⚠ 安全作業をするための注意事項

4. 運転してはいけない人

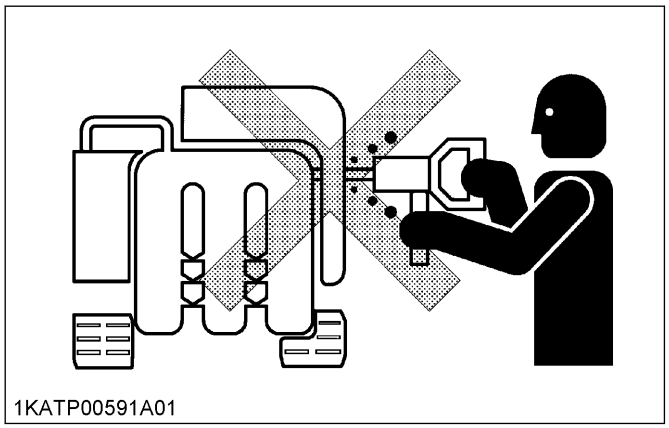
- 取扱説明書および安全ラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。死亡または傷害をまねくおそれがあります。
- 機械を他人に貸すとき、運転させるときは、取扱説明書を読ませるとともに、取扱方法や安全な使用方法を説明して、安全な作業ができるよう指導してください。



1GAGG00004A01

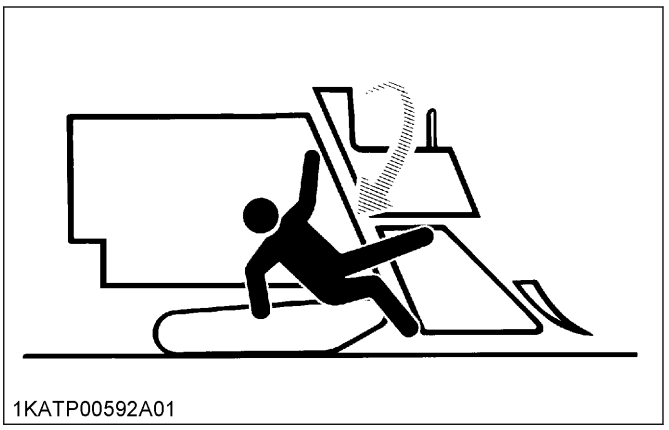
5. 改造禁止

- 機械を改造しないでください。安全性を損ない、思わぬ事故の原因になります。


1KATP00591A01

6. 飛乗りおよび飛降り禁止

- 運転席に乗り降りするときは、飛び乗ったり飛び降りたりしないでください。転倒、転落し、傷害を負うおそれがあります。
- 平たんな場所でハンドルをしっかり握り、すべらないようにステップに足をしっかり掛けて乗り降りしてください。


1KATP00592A01

7. 同乗禁止

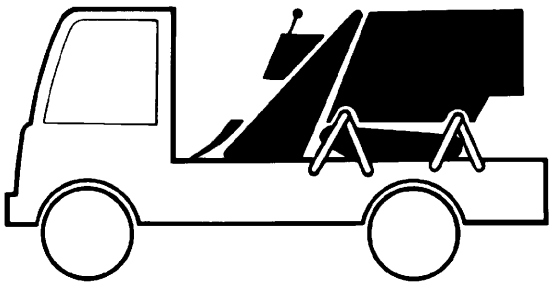
- 運転者以外は機械に乗らないでください。振り落とされたり、ひかれたりして、死亡または傷害を負うおそれがあります。
- 動いている機械に飛び乗ったり、飛び降りたりしないでください。


1KATP00593A01

8. 公道の走行

- 公道を走行するときは交通法規や安全ルールを守ってください。交通事故をまねき、死亡または傷害を負うおそれがあります。
- 公道を走行する場合は、所定の手続きと運転免許証が必要です。
- 公道を走行できない機械は、トラックで運搬してください。

⚠ 安全作業をするための注意事項



1KATP00594A01

9. 夜間の使用禁止

- 夜間の作業や移動走行は避けてください。交通事故や転倒、転落をまねき、死亡または傷害を負うおそれがあります。
- やむをえず夜間作業を行うときは、ヘッドランプや作業灯を必ず点灯してください。
- やむをえず夜間に移動走行するときは、必ずヘッドランプを点灯し、作業灯は消灯させてください。

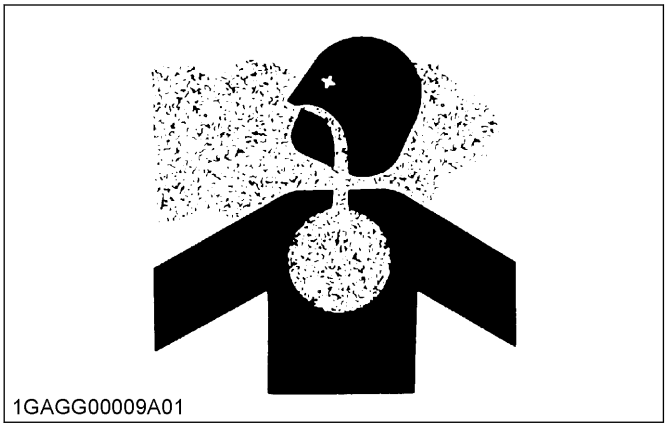


1KATP00595A01

作業前の注意事項

1. 屋内で運転するとき

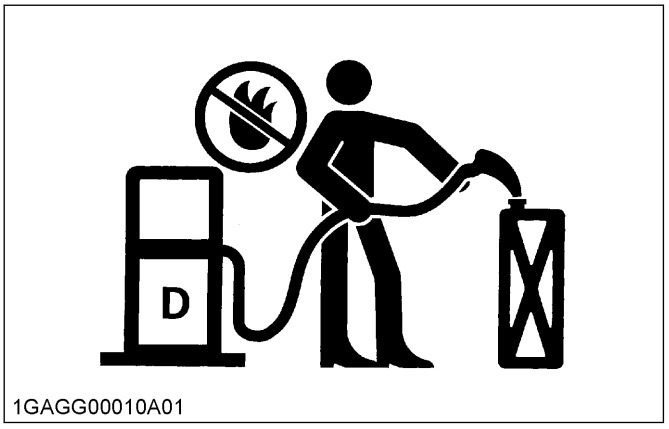
- 屋内で運転するときは、排気ガスに注意して適切な換気をしてください。エンジンの排気ガスは有毒です。中毒を起こし死亡事故にいたるおそれがあります。
- 排気管を屋外に延長するか、ドアや窓を開け、外気がじゅうぶん入るようにしてください。



1GAGG00009A01

2. 火気厳禁

- 燃料補給中は火気厳禁。くわえタバコや裸火照明は近づけないでください。火災の原因になります。
- 燃料補給するときはエンジンを必ず止めてください。
- 燃料やオイルをこぼしたときは、きれいに拭き取ってください。

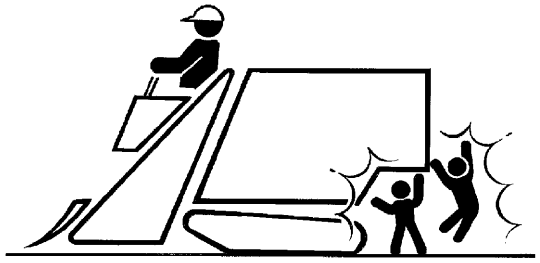


1GAGG00010A01

3. 周囲の安全

- 機械を動かすときは周囲の安全に気を付けてください。回転物に巻き込まれたり、挟まれて重大な傷害を負うおそれがあります。
- エンジンを始動するときは、運転席に座って、主変速レバーを**[停止]**位置、副変速レバーを**[N]**“（中立）”以外の位置にセットし、作業レバーを**[切]**位置にセットして、ホーンを鳴らすなど合図してください。
- 機械を発進するときや、作業レバーを入れるときは、ホーンを鳴らすなど合図してから操作してください。

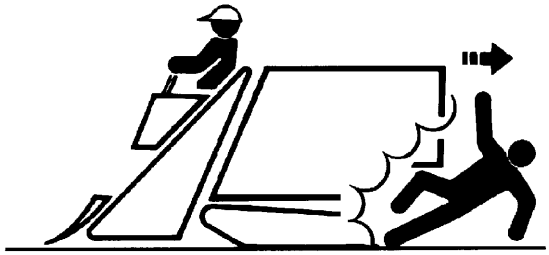
⚠ 安全作業をするための注意事項



1KATP00596A01

4. 初めての運転

- 初めて運転する人は、操作になれるまで低速で運転してください。思わぬ事故の原因となります。



1KATP00597A01

5. 作業前点検

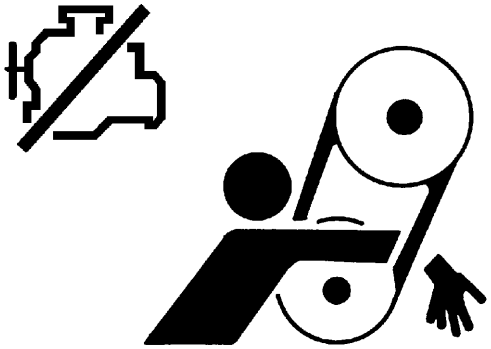
- 作業前点検（日常点検）を実施してください。整備不良による事故で傷害を負うおそれがあります。
- 運転の前には運転前の点検（84 ページ）の点検を行ってください。異常があれば整備してから運転してください。



1GAGG00013A01

6. 点検、整備、掃除、および給油するとき

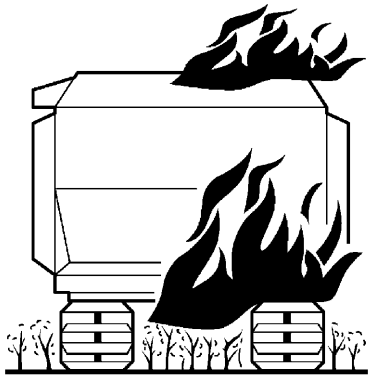
- 点検、整備、掃除、給油するときは、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてください。回動部に巻き込まれて傷害を負うおそれがあります。
- 取り外した安全カバー、保護カバーは必ずもとどおりに取り付けて作業してください。



1GAGG00014A01

7. わらくずの付着点検

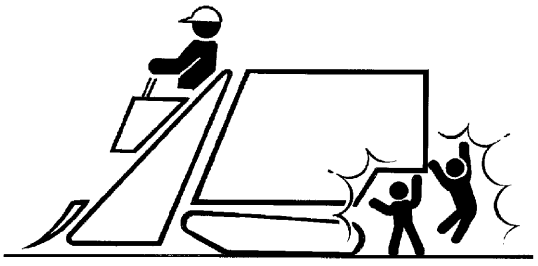
- 次の部分に堆積しているわらくずなどのごみや泥の堆積、付着した燃料はきれいに取り除いてください。火災の原因になります。
  - 各ベルトカバー内
  - 各回転物カバー内
  - エンジン周辺
  - マフラおよびその周辺（排気口までの部位）
  - バッテリ周辺
  - プーリ周辺
  - 配線部周辺
  - 燃料タンク周辺
  - 燃料配管周辺（タンク、フィルタ、ポンプ、配管）
  - 防じんあみ周辺



1PANZ00280A01

8. 子供を機械に近づけない

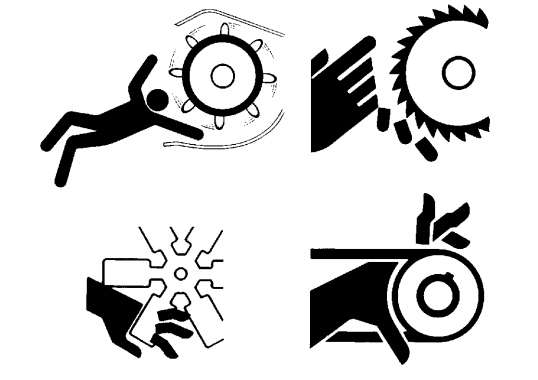
- 点検整備中および作業中は機械に子供を近づけないでください。回転物に巻き込まれたり、挟まれて重大な傷害を負うおそれがあります。



1KATP00596A01

9. 各部を開閉するとき

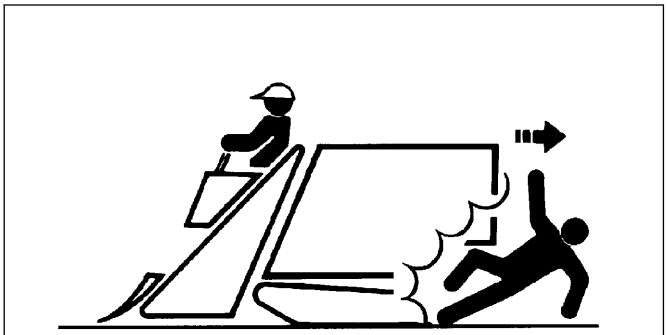
- 次の箇所を開閉するときは、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてください。内部の回転物に接触したり、巻き込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。
  - 刈取部、引起し部、こぎ胴、カッタ部、結束機、グレンタンク、エンジンルーム
- 各部の開閉を行うときは平たんな場所で行ってください。
- 刈取部、引起し部、こぎ胴、カッタ部、結束機を開いたときは、ストッパを掛けてください。
- 各部を開いたままエンジンを始動しないでください。



1KATP00598A01

10. 後進するとき

- 後進するときは、機械の周りに人や障害物などが無いか、バックミラーや目視でも必ず後方の確認をしながらゆっくりと運転操作を行ってください。
- 夜間は視界が悪いため、運転操作を行うときは、特に機械の周りに人や障害物などが無いか確認しながらゆっくりと運転操作を行ってください。



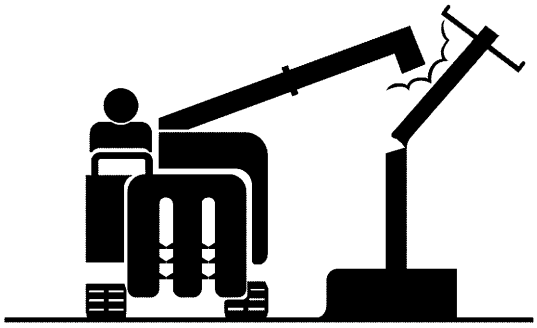
1KATP00597A01

移動走行、ほ場の出入り、駐車時の注意事項

1. 移動走行するとき

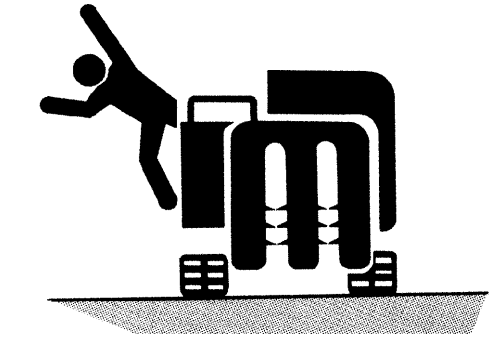
移動走行するときは、次の事項を守ってください。人や物を傷つけたり、機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

- 機体各部に付着しているわらくずや排気管に堆積している泥、付着した燃料はきれいに取り除いてください。
- 作業レバーを**[切]**位置にし、もみ排出クラッチを“切”にして、運転者以外に人を乗せないでください。
- もみはすべて排出してください。
- 副変速レバーを切り換えるときは、平たんな場所で主変速レバーを**[停止]**位置にし、走行をいったん止めてから行ってください。
- 副変速切換えスイッチを押すときは、走行をいったん止めるまたは機体の速度を 1.0 m/s 以下に落としてから副変速を切り換えてください。
- 刈取部のデバイダ先端にはデバイダカバーを取り付けてください。
- 補助デッキ、左分草かんを収納して、機体幅を狭くしてください。
- アンローダを下げ、アンローダを折りたたんでアンローダ支えに収納してバンドを掛けてください。
- **[L 仕様]** 自動車体水平制御は、機体を一番下げた状態にしてください。
- 次のように、旋回モードを“ソフトターン”に切り換えてください。
  - 旋回モード切換えスイッチを押して“ソフト”にしてください。


1KATP00599A01

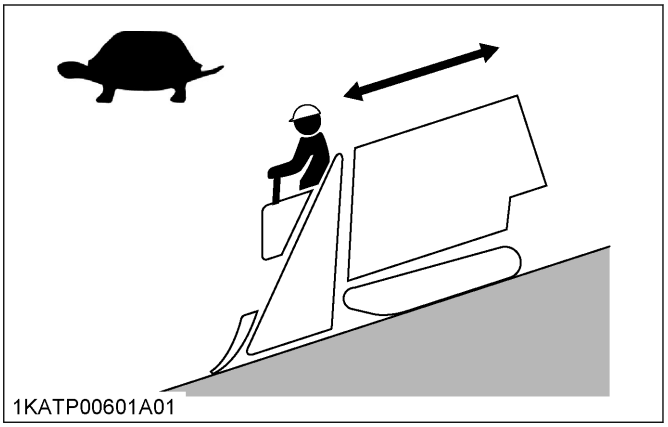
2. 急旋回禁止

- 移動走行時は急旋回をしないでください。機械から振り落とされたり、転倒するおそれがあります。
- 方向を変えるときは、走行速度を落として（低速にして）、パワーステアリングレバーをゆっくり操作して旋回してください。


1KATP00600A01

3. 左右の傾きのある傾斜地での走行

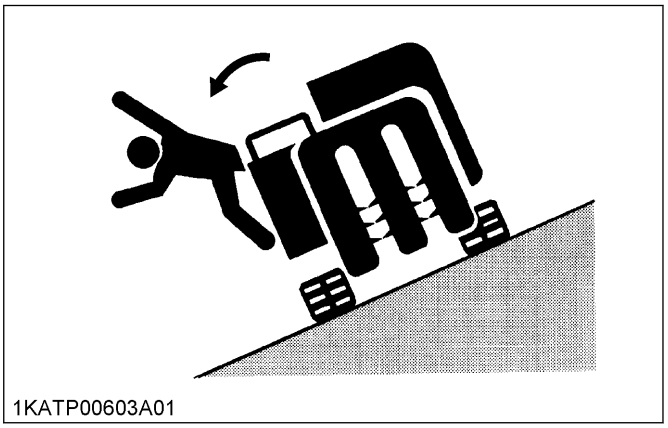
- 右または左方向の傾きがある傾斜地は走行しないでください。機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。
- 坂道（傾斜地）やほ場の進入路では、上りまたは下り方向に低速でゆっくりと走行してください。
- 坂道（傾斜地）では、右または左に傾いた方向に走行しないでください。
- 坂道（傾斜地）では、斜め走行や旋回をしないでください。


1KATP00601A01


1KATP00602A01

4. 坂道での走行

- 坂道（傾斜地）では走行速度を落としてください。暴走したり、転倒するおそれがあります。
- もみはすべて排出してください。
- 坂道（傾斜地）では、急なパワーステアリングレバーの操作や副変速切換えスイッチ、副変速レバー、駐車ブレーキペダル、かき込みペダル、旋回モード切換えスイッチ、アンローダリモコンの操作はしないでください。
  [L 仕様] は水平操作手動スイッチ、傾斜角手動調節スイッチの操作もしないでください。
- 坂道（傾斜地）では、斜め走行や旋回はしないでください。


1KATP00603A01

5. 道幅が狭く、高所にある道路

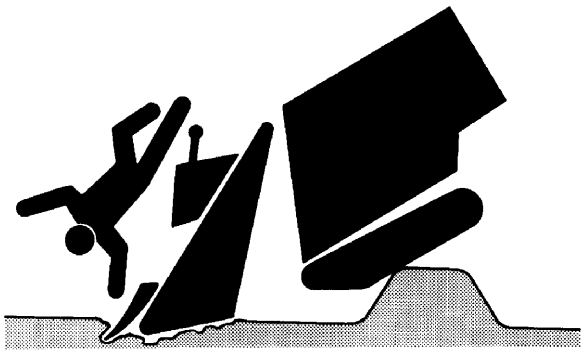
- 道幅に余裕が無く高所にある道路（土手）は、走行しないでください。機体のバランスをくずして転倒、転落するおそれがあります。
- 溝のある農道や、両側が傾斜している農道は路肩に注意してください。
- 溝、穴、土手の近くは走行しないでください。
- 水溜まりや草のおい茂った場所など、地面がよく見えないときは、事前に降車してよく確かめてください。



1KATP00604A01

6. ほ場の出入り

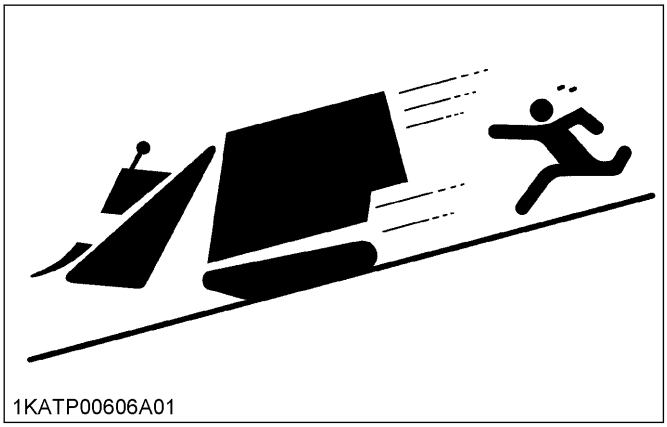
- ほ場の出入りで、あぜなど段差のある場所ではあゆみ板を使ってください。機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。
- 10 cm 以上の段差のある場所では、段差の 4 倍以上の長さで基準に合ったあゆみ板を使ってください。
- あゆみ板は段差に直角に置いてください。
- グレンタンク内のもみはすべて排出してください。



1KATP00605A01

7. 駐車するとき、運転席を離れるとき

- 駐車するときや運転席を離れるときは、平たんな場所に止め、副変速レバーを**[低速]**位置にし、駐車ブレーキを掛け、刈取部を地面に当たるまで降ろして、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてください。機械が暴走し、思わぬ事故のおそれがあります。
- やむをえず坂道（傾斜地）で駐車するときは、さらに木片などで確実に車止めをしてください。

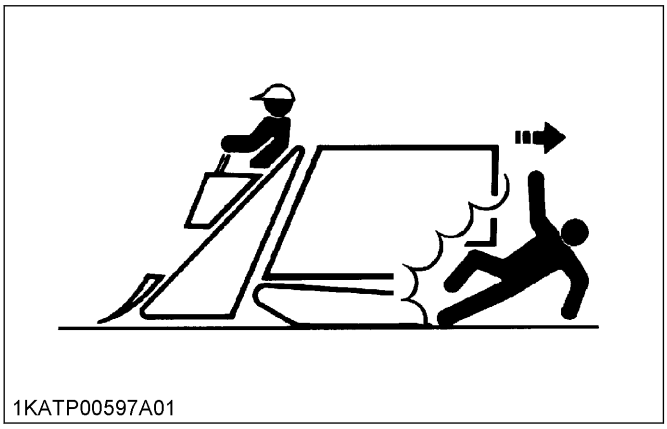


1KATP00606A01

作業時の注意事項

1. 共同作業するとき

- 共同作業するときは、ホーンを鳴らすなどの合図を行ってください。補助者は運転席から見えにくい位置にいることがあり、思わぬ事故を起こすおそれがあります。
- エンジン始動時、および各作業のクラッチやスイッチを入れるときは、ホーンを鳴らすなど合図し、必ず補助者の OK をもらってください。
- 補助者が機械に近づくときは、運転者に知らせることを徹底してください。

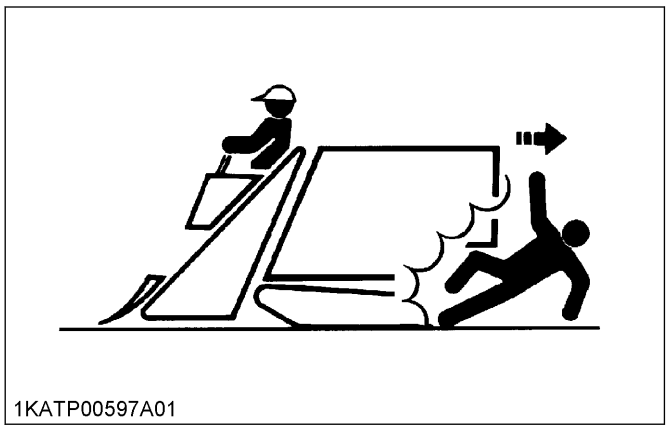


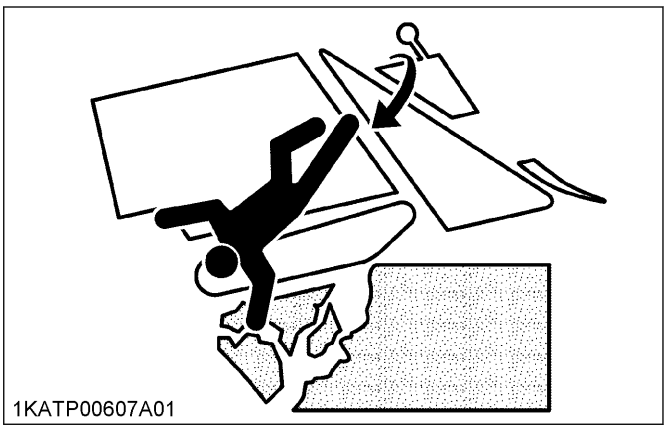
1KATP00597A01

2. 刈取作業をするとき

- 刈取作業中は、運転者以外がほ場に立ち入らないようにしてください。
  後進時等に補助者等が運転席から見えにくい位置にいることがあり、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

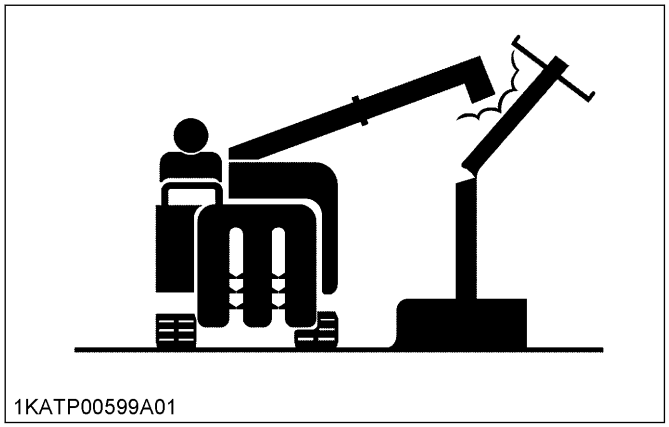
⚠ 安全作業をするための注意事項


1KATP00597A01


1KATP00607A01

3. アンローダを動かすとき

- アンローダを動かすときは、旋回範囲に人がいないことや障害物が無いことを確認してください。人や物を傷つけたり、機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。
- 旋回範囲に人がいたり、障害物があるときは、アンローダを動かさないでください。
- 折りたたみ式のアンローダを伸ばして作業するときは、周囲に人や障害物が無いことを確認してください。
- アンローダは、アンローダ支えに収納した状態で作業を行ってください。

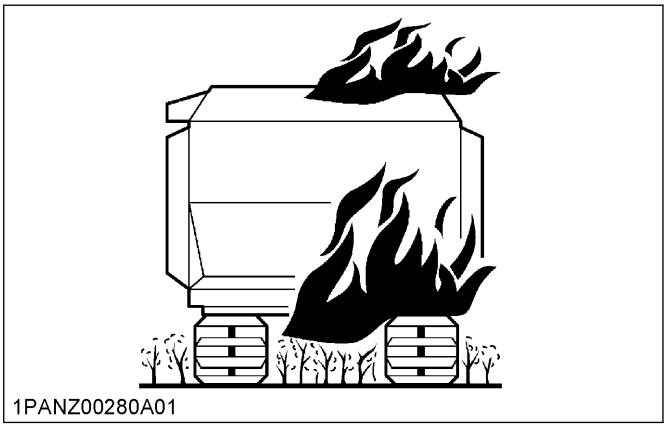

1KATP00599A01

4. すみ刈りを行うとき

- すみ刈りを行うときは後方をじゅうぶん確認してください。後退し過ぎると、転倒、転落するおそれがあります。

5. 湿田で作業するとき

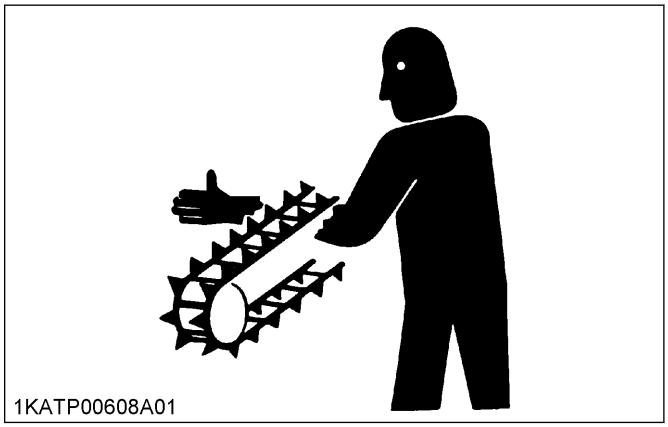
- マフラの排気口が泥で詰まるような湿田のほ場では作業をしないでください。火災が発生するおそれがあります。
- 湿田の状態により刈取作業を行うとき、ほ場の状態をよく確認して、泥が排気管内に侵入しないようにしてください。


1PANZ00280A01

6. 手こぎ作業するとき

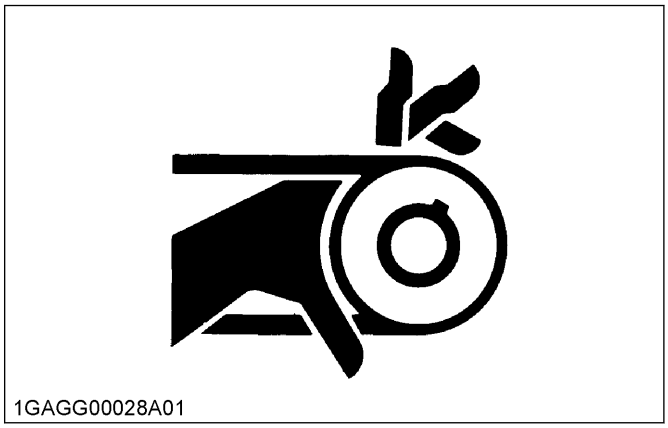
- 手こぎ作業するときは、手や腕の位置を必ずチェーンの外側に配置して、少量ずつ供給してください。チェーンに巻き込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。
- 機械は平たんな場所に止めて、刈取部を地面に接地して刈取部を止め、駐車ブレーキを掛けてください。
- そで口はきっちり止めて、手袋、はち巻き、首巻き、腰タオルは着用しないでください。
- **[L 仕様]** 自動車体水平制御は、機体を一番下げた状態に操作してください。
- **[刈取防じんカバー付]** 刈取防じんカバーを開けてください。
- 次のように刈取クラッチを“切”に入れて、手こぎレバーを起こし、枕こぎ台の上にわらを乗せて手刈り脱こくしてください。
  - 作業レバーを**[刈取切]**位置

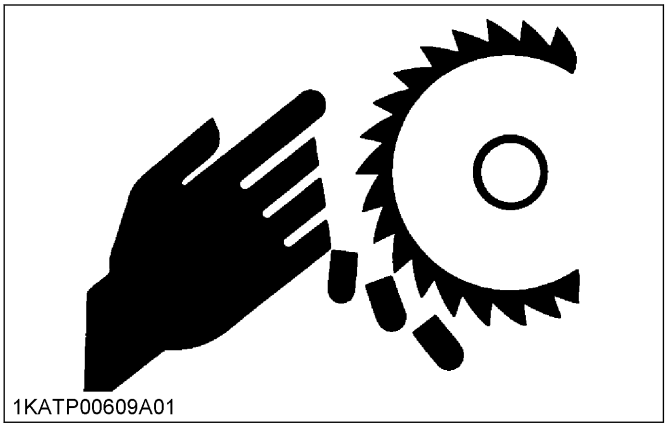
- 脱こく部入り口にたまった、わらやもみなどを脱こく部に入れるときは、チェーンに手や腕が巻き込まれないように、少量ずつ作業してください。


1KATP00608A01

7. 異常に気づいたら

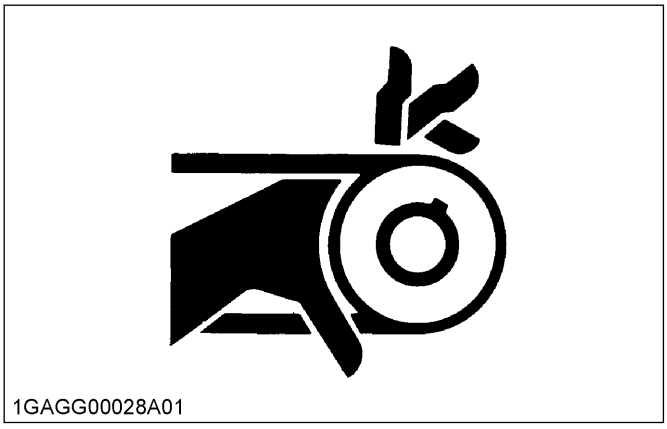
- 異常に気づいたら、すぐエンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてください。カッタ刃やチェーンなどの作動部に接触したり、巻き込まれて、重大な傷害を負うおそれがあります。
- わらの巻付きや詰まりを取り除くときや、もみの点検、掃除をするときは、作業レバーを**[切]**位置にし、もみ排出クラッチを"切"にして、エンジンを必ず止めて処置してください。
- カッタに詰まったわらなどの作物を取り除くときは、厚手の手袋を着用して少しずつ取り除いてください。
- 素手で刃先には触らないでください。
- 引起し部を上げて刈取部に詰まったわらなどの作物を取り除くときは、下降防止のロック金具を掛けてください。


1GAGG00028A01


1KATP00609A01

8. 点検および掃除で外したカバー

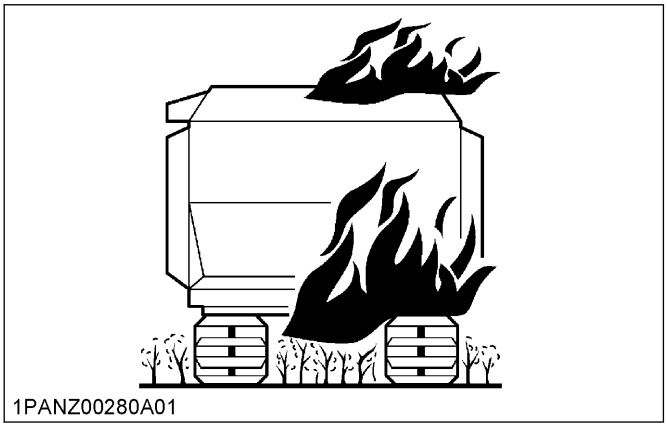
- 点検や掃除で外したカバーは、必ず取り付けてください。内部の回転物に接触したり、巻き込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。
- ベルトやチェーンのカバー、および掃除口や点検窓のカバーなどを外したままで運転しないでください。


1GAGG00028A01

作業後、格納時の注意事項

1. 駐車場所

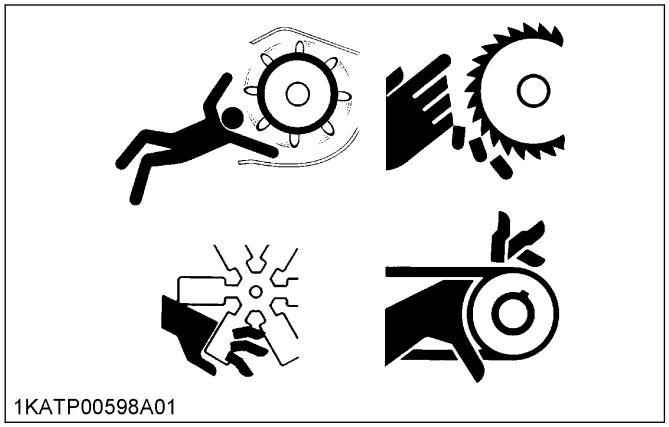
- わらくずや枯れた雑草の上に機械を止めないでください。わらくずや枯れた雑草は燃えやすく、火災が発生するおそれがあります。


1PANZ00280A01

⚠ 安全作業をするための注意事項

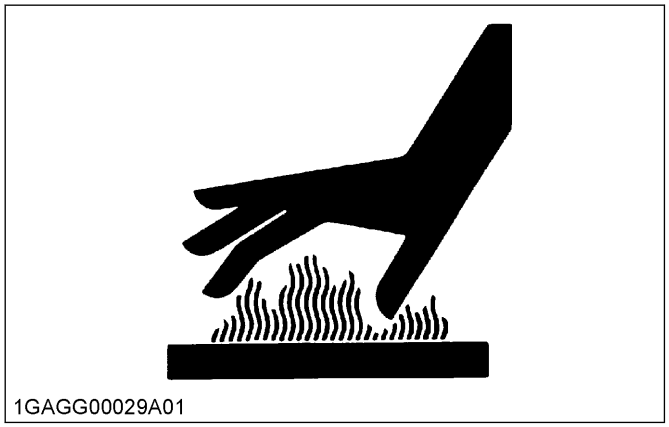
2. 点検および掃除をする前に

- 点検、掃除する前に、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてください。機械に巻き込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。


1KATP00598A01

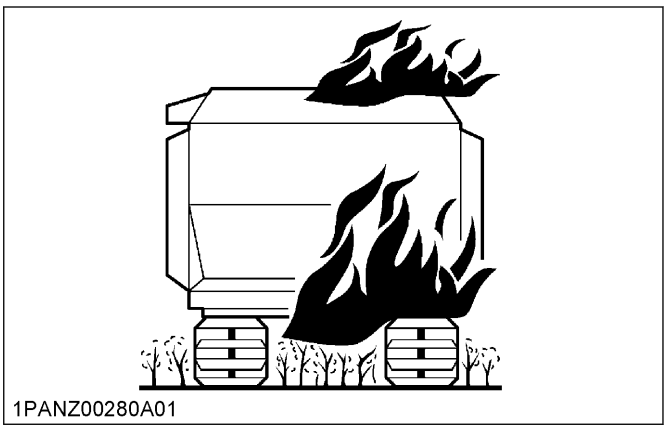
3. 点検および掃除をするとき

- 点検、掃除は、エンジン停止後、各部が冷えてから行ってください。やけどを負うおそれがあります。
- エンジン本体、マフラ、排気管は、エンジン停止直後は触れないでください。


1GAGG00029A01

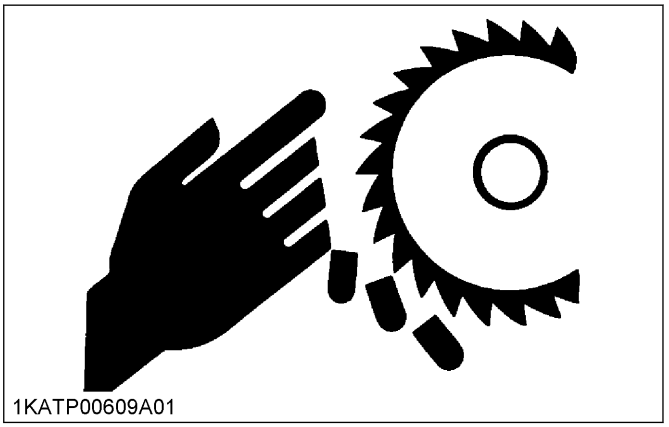
4. わらくずの除去

- 次の部分に堆積しているわらくずなどのごみや泥の堆積、付着した燃料は、きれいに取り除いてください。火災の原因になります。
  - 各ベルトカバー内
  - 各回転物カバー内
  - エンジン周辺
  - マフラおよびその周辺（排気口までの部位）
  - バッテリ周辺
  - プーリ周辺
  - 配線部周辺
  - 燃料タンク周辺
  - 燃料配管周辺（タンク、フィルタ、ポンプ、配管）
  - 防じんあみ周辺


1PANZ00280A01

5. 刈刃に触らない

- 掃除するときは、刈刃やカッタ刃の刃先に触らないでください。刃先で傷害を負うおそれがあります。


1KATP00609A01

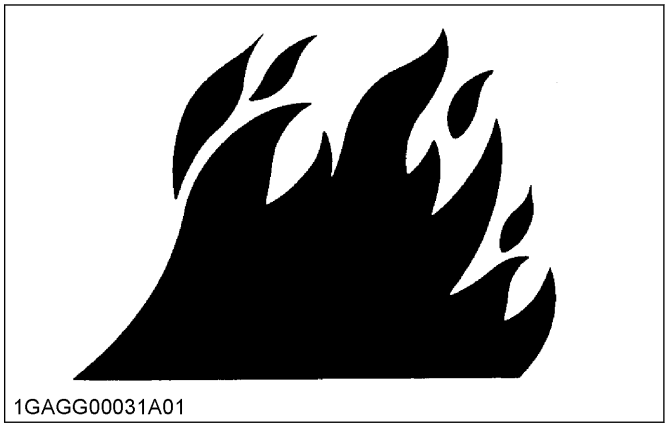
6. バッテリの取扱い

- バッテリの近くに裸火（マッチ、ライタ、タバコの火など）を近づけたり、バッテリケーブルをショートさせないでください。バッテリからは水素ガスの発生があり、引火爆発のおそれがあります。


1GAGG00030A01

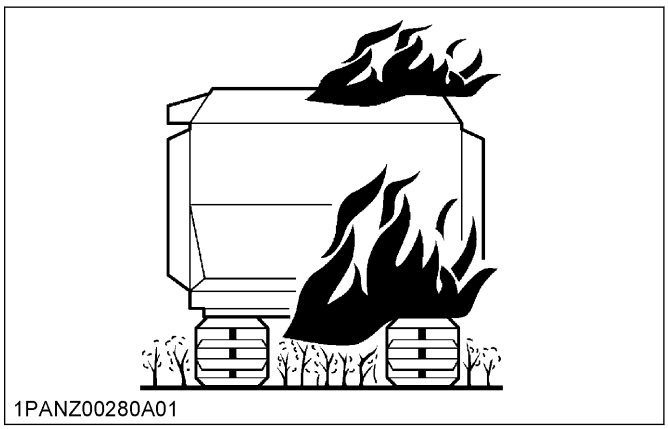
7. 電気配線の点検

- ワイヤハーネスやバッテリコードなど電気配線に被覆の破れや、挟み込みがないか点検してください。ショートによる火災発生のおそれがあります。


1GAGG00031A01

8. 機体にカバー（おおい）を掛けるとき

- 機体にカバー（おおい）を掛けるときは、エンジン、マフラが冷えてから掛けてください。火災が発生するおそれがあります。


1PANZ00280A01

点検整備時の注意事項

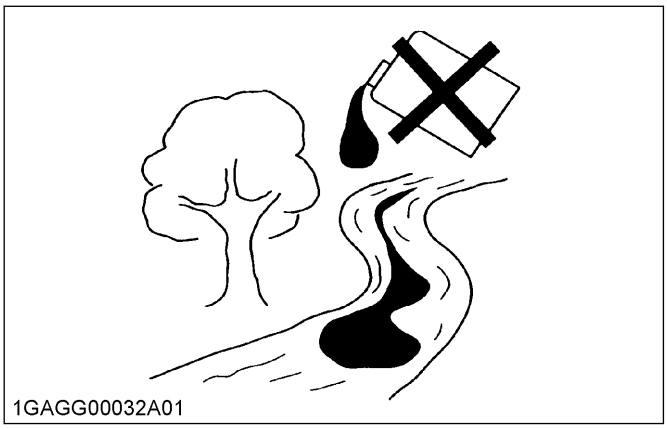
1. 定期点検整備

- 定期点検整備を行い、各部の保守をしてください。整備不良による事故で傷害を負うおそれがあります。


1GAGG00013A01

2. 廃棄物の処理

- 廃棄物をみだりに捨てたり、焼却しないでください。環境汚染につながります。
- 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
- 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
- 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリ、ゴム類、その他の有害物を廃棄または焼却するときは、購入先または産業廃棄物処理業者などの事業者に相談して、所定の規則に従って処理してください。


1GAGG00032A01

3. DPF 再生処理を行うとき

DPF 再生処理中は、マフラ、排気ガスが高温になるため、DPF 再生処理を行うときは、次の事項を守ってください。中毒を起こし死亡事故にいたる、やけどを負う、または火災が発生するおそれがあります。

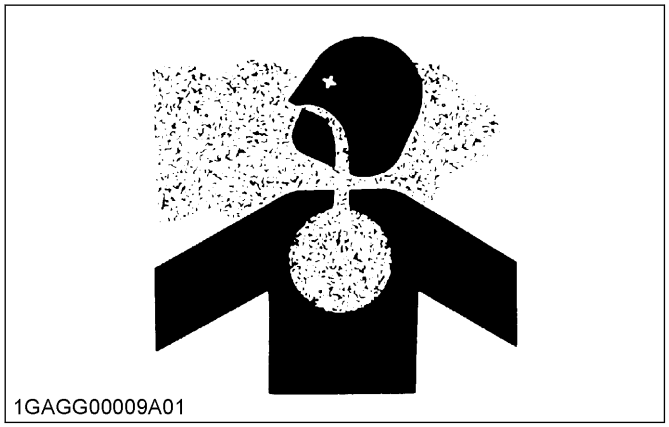
DPF

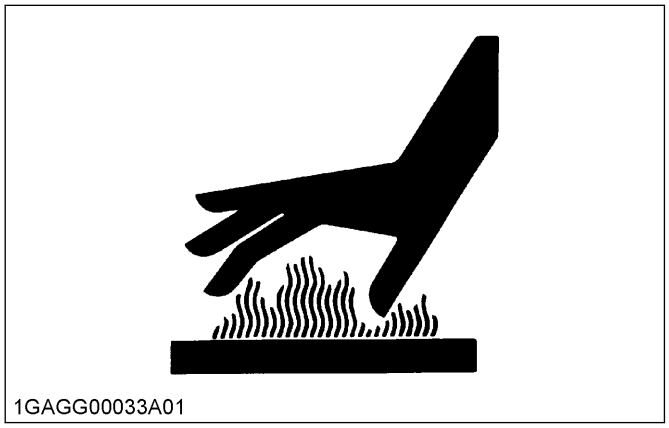
ディーゼル微粒子除去装置(Diesel particulate filter)

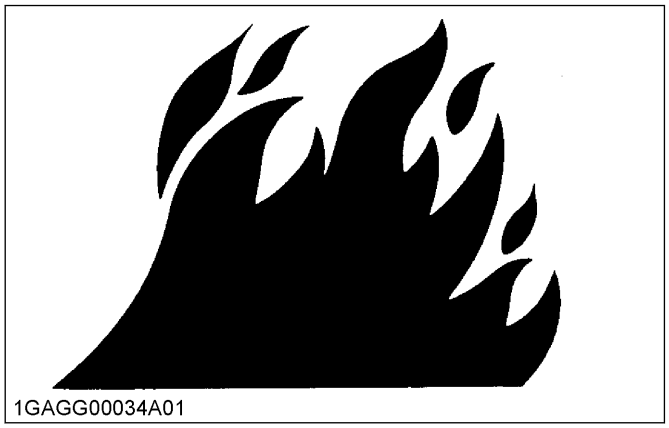
- DPF 再生処理中はコンバインから離れないでください。
- 納屋、倉庫など換気の悪い場所では再生処理を行わないでください。
- 高温の排気ガスが当たらないように、コンバインの周囲に人や可燃物を近づけないでください。

⚠ 安全作業をするための注意事項

- 火災防止のため、DPF マフラの周囲は可燃物を取り除き、常にきれいにしておいてください。

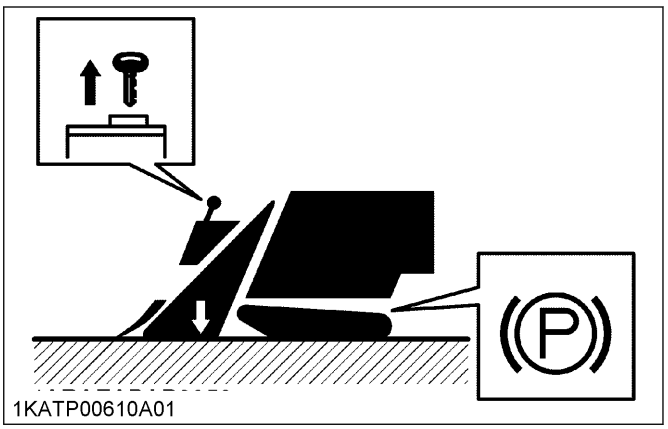

1GAGG00009A01


1GAGG00033A01


1GAGG00034A01

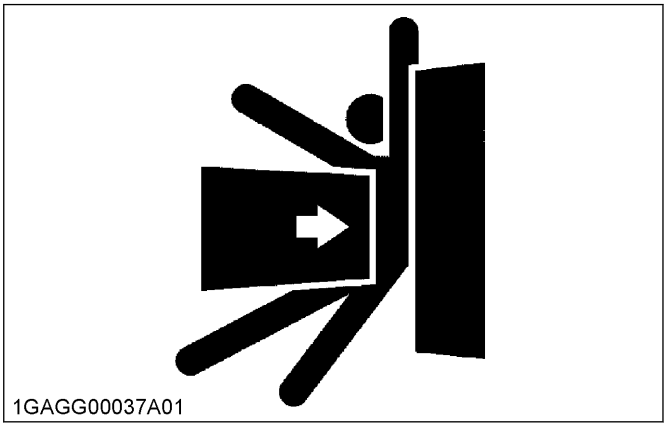
4. 点検、整備、交換、および掃除するとき

- 各部の点検、整備、交換、掃除するときは、平たんな場所で、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜き、作業レバーを**[切]**位置にセットして、もみ排出クラッチを“切り”、駐車ブレーキを掛けてください。機械に挟まれたり、巻き込まれて傷害を負うおそれがあります。


1KATP00610A01

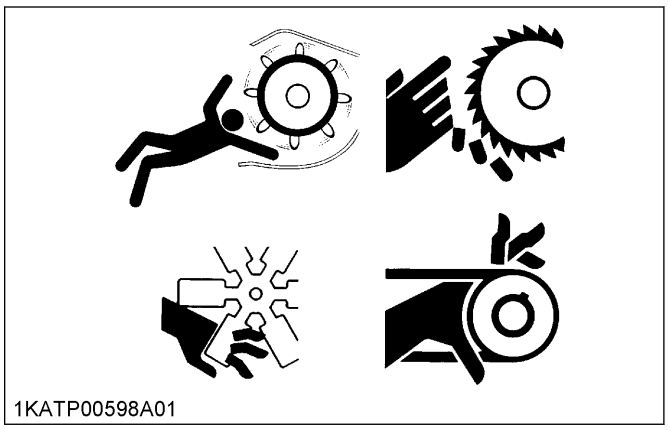
5. 刈取部、引起し部、こぎ胴、カッタ部、結束機、およびグレンタンクを開くとき

- 刈取部、引起し部、こぎ胴、カッタ部、結束機、グレンタンクを開いたときは、ストッパで固定してください。機械に挟まれて傷害を負うおそれがあります。


1GAGG00037A01

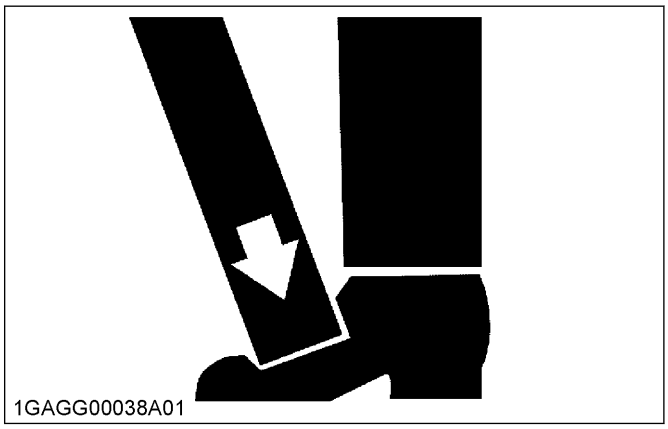
6. エンジンを回すとき

- 次の箇所を開いたままエンジンを回さないでください。内部の回転物に接触したり、巻き込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。
  - 刈取部、引起し部、こぎ胴、カッタ部、結束機、グレンタンク、エンジンルーム


1KATP00598A01

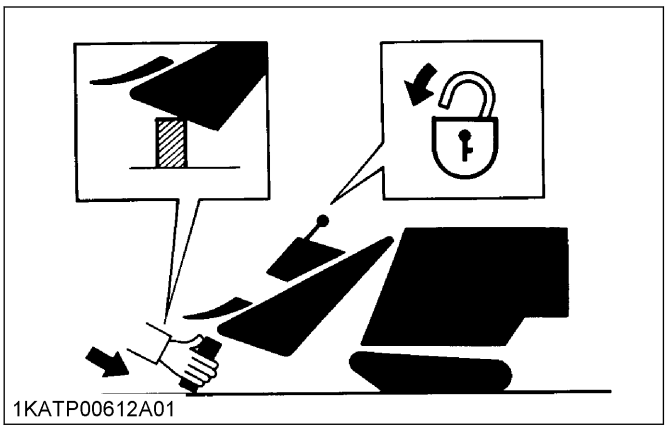
7. 重量物の脱着作業

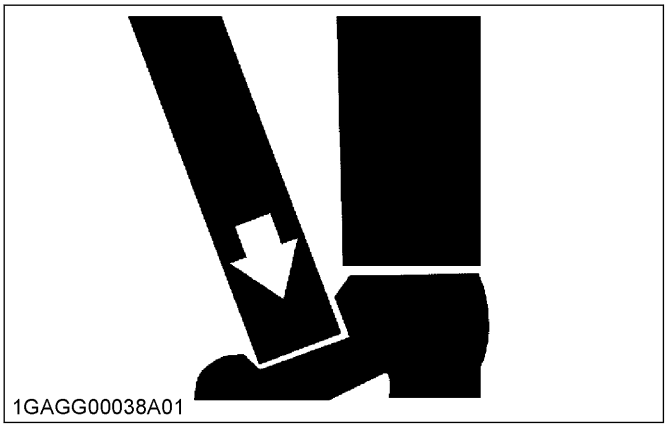
- シーブケースや切断軸アッシ、結束機など重量物の脱着作業は、2 人以上で行ってください。不意の落下により、傷害を負うおそれがあります。


1GAGG00038A01

8. 刈取部を上げて点検、整備、および掃除するとき

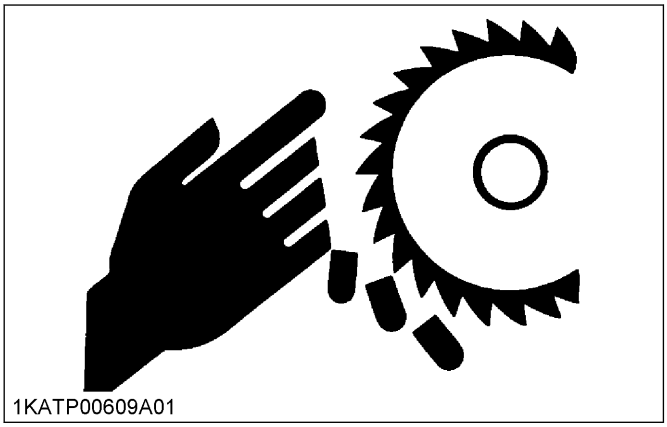
- 刈取部を上げるまたは開いて点検、整備、掃除するときは、刈取部をロックするとともに、落下防止の歯止めをしてください。機械に挟まれて、傷害を負うおそれがあります。
- 作業前に、エンジンを必ず止めて、駐車ブレーキを掛けてください。
- 刈取部の下へもぐったり、足や手をつっこんだりしないでください。
- **[L 仕様]** 刈取部を開くときは、平たんな場所で、自動車体水平制御は機体を一番下げた状態にしてください。


1KATP00612A01


1GAGG00038A01

9. 刈刃、カッタ刃、およびわら切刃の調整および交換

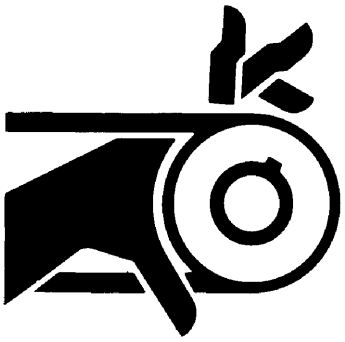
- 刈刃、カッタ刃、わら切刃を調整、交換するときは、手袋を着用し、直接刃先に触らないでください。刃先で傷害を負うおそれがあります。


1KATP00609A01

10. 取り外したカバー類

- 取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。内部の回転物に接触したり、巻き込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠ 安全作業をするための注意事項



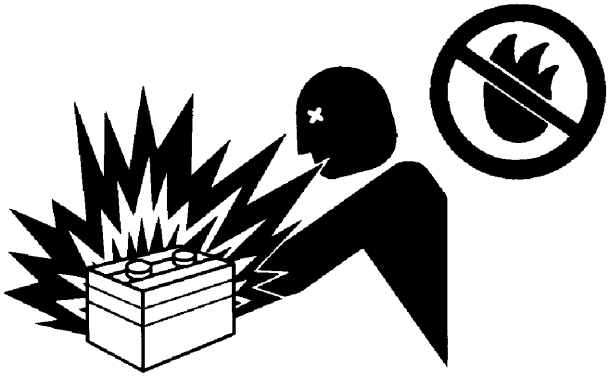
1GAGG00028A01



1GAGG00040A01

11. バッテリを取り外すとき

- バッテリを取り外すときは、最初にマイナス（–）側のケーブルを取り外してください。ヤケドや発火爆発のおそれがあります。
- バッテリの近くに裸火（マッチ、ライタ、タバコの火など）を近づけたり、バッテリケーブルのショートによるスパークをさせないでください。
- バッテリを取り付けるときは、最初にプラス（+）側のケーブルをプラス（+）側の端子に取り付けてください。



1GAGG00030A01

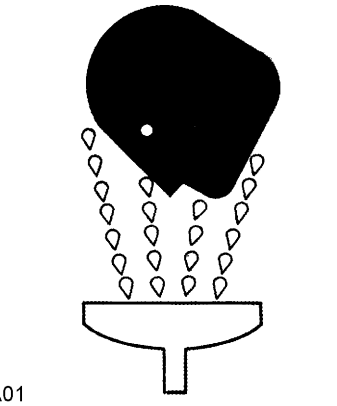
12. バッテリの液量

補水タイプ

- バッテリは液面が*“LOWER*（最低液面線）*”*以下になったままで使用や充電をしないでください。*“LOWER*（下限）*”*以下で使用や充電を続けると、爆発の原因となることがあります。
- バッテリ液が不足していれば、すぐに*“UPPER LEVEL*（上限）*”*と*“LOWER LEVEL*（下限）*”*の間に補水してください。
- 充電は機械から取り外して行ってください。
- 充電は風通しの良い場所で行ってください。
- 放電したバッテリにブースタケーブルなどの配線コードを接続して始動するときは、取扱方法をよく読みそれに従ってください。

13. バッテリ液（希硫酸）を体に付着させない

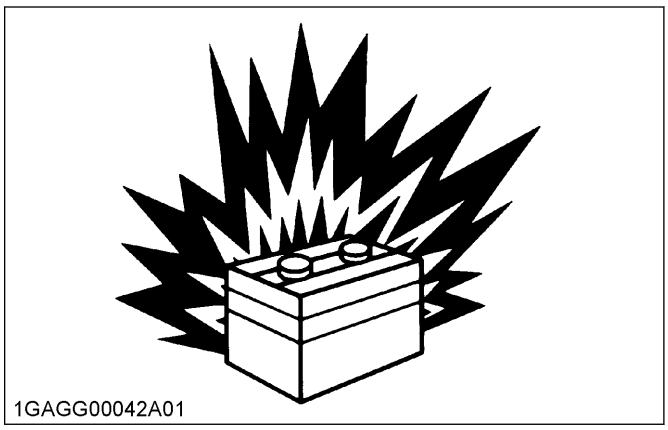
- バッテリ液（希硫酸）を体に付着させないでください。失明やヤケドのおそれがあります。
- 目に入ったときや飲み込んだときは、すぐ水でよく洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。
- 皮ふ、衣服に付いたときは、すぐ水でよく洗ってください。

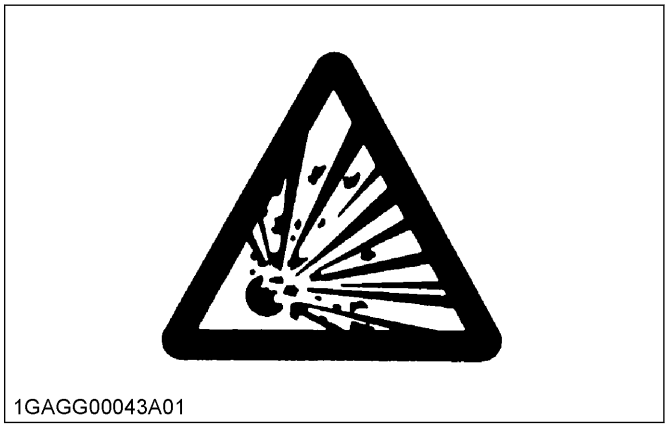


1GAGG00041A01

14. 指定外のバッテリは使わない

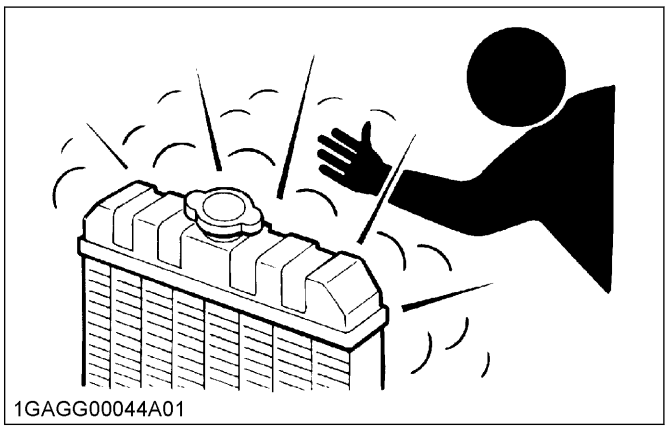
- 指定外のバッテリは使わないでください。思わぬ事故が発生するおそれがあります。
- 取扱説明書で指定しているバッテリを使用してください。

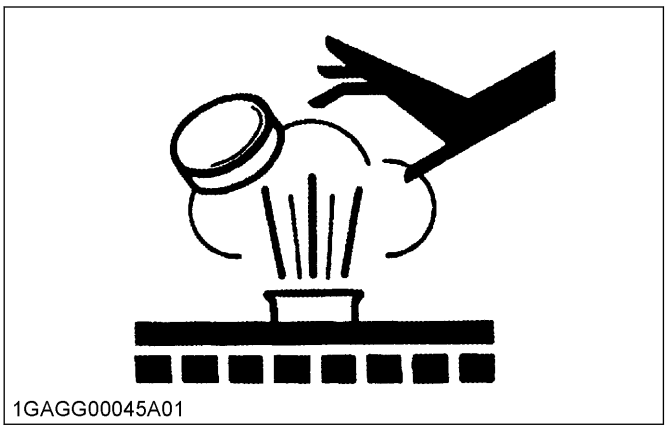

1GAGG00042A01


1GAGG00043A01

15. ラジエータの圧力キャップおよびリザーブタンク

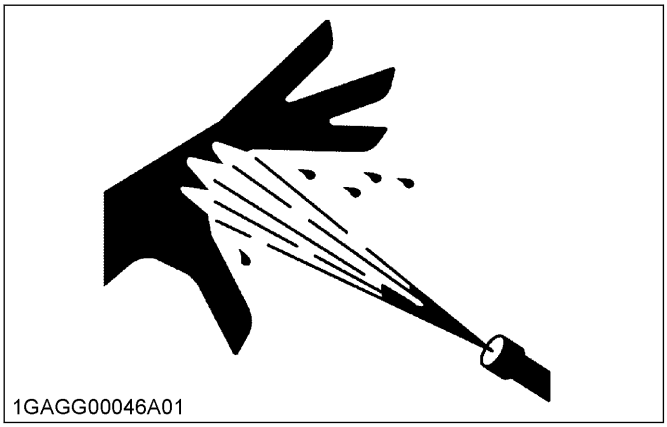
- ラジエータの圧力キャップやリザーブタンクは、エンジンが冷えてから開けてください。熱湯や蒸気が吹き出して、ヤケドや傷害を負うおそれがあります。
- エンジン停止後、30 分以上経過してからラジエータの圧力キャップを徐々にゆるめて蒸気の圧力を抜いてから開けてください。

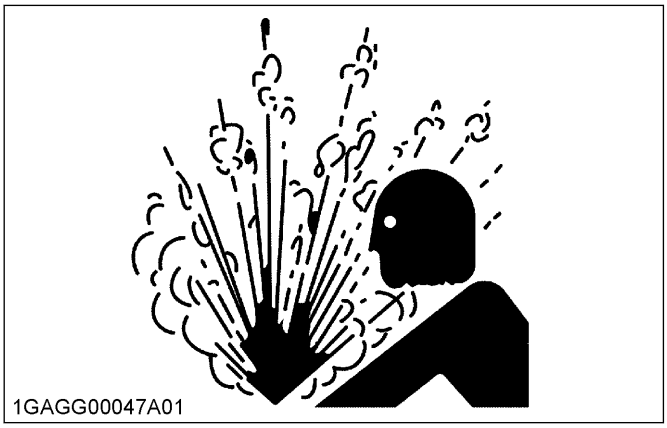

1GAGG00044A01


1GAGG00045A01

16. ホース類の交換

- 燃料ホース、ラジエータホース、オイルドレンホースは、2 年ごとに交換してください。燃料や熱湯が漏れて、火災やヤケドを負うおそれがあります。
- ゴム類は時間がたつと劣化するので、定期的に交換してください。

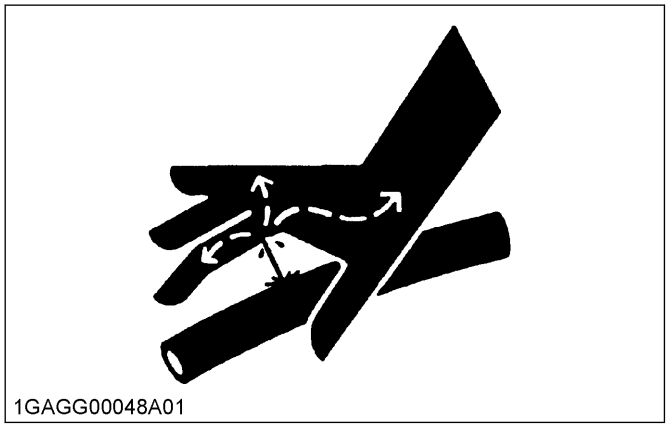

1GAGG00046A01

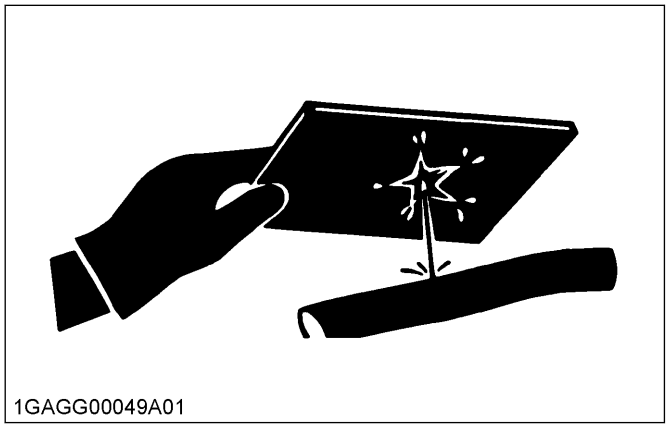

1GAGG00047A01

17. 燃料噴射管および油圧パイプの漏れ点検

- 燃料噴射管や油圧パイプなどの配管類からの高圧油の漏れは、厚紙や板などの面材を使って点検してください。油が皮ふに侵入して、強度のアレルギーや感染症を引き起こす可能性があります。

- 高圧噴油に直接手を触れないでください。もし、触れた場合は、直ちに医者の診断を受けてください。

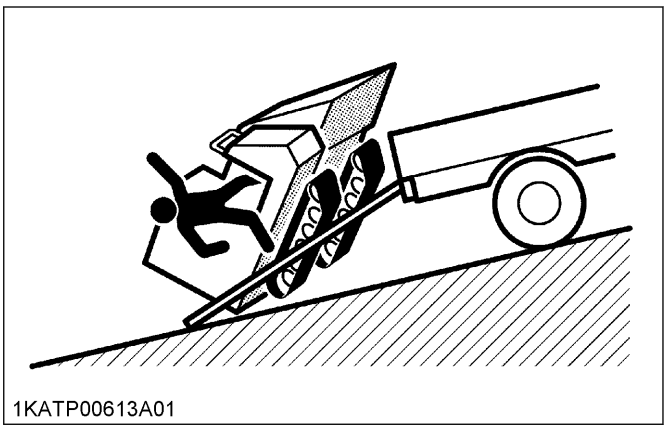

1GAGG00048A01


1GAGG00049A01

運搬時の注意事項

1. 機械の積込みおよび積降し作業

- トラックへの積込み、積降しは平たん地で行ってください。あゆみ板がずれたり、トラックが動いたりして機械が落下するおそれがあります。
- 機械の重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。
- トラックの駐車ブレーキを掛け、トラックの変速レバーを“*R*（後進）”または“*1* 速”に入れたあと、さらにタイヤに車止めを行い、トラックが動かないようにしっかり固定してください。
- できるだけ助手の立ち会い誘導のもとに行ってください。
- 周囲に人を近づけないでください。


1KATP00613A01

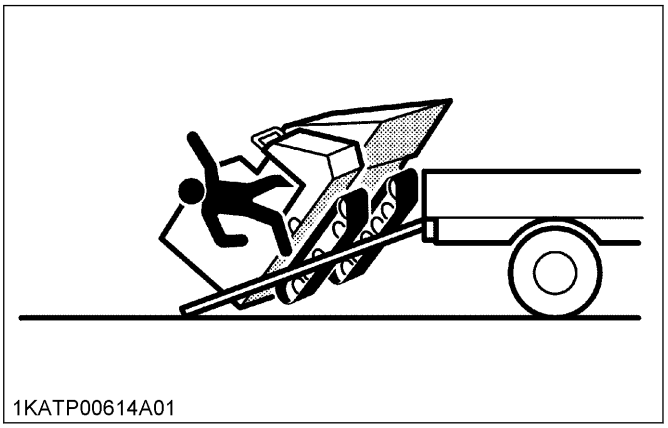
2. あゆみ板

- 積込み、積降しには基準に合ったあゆみ板を使ってください。あゆみ板がずれたり、外れたりして機械が落下するおそれがあります。

あゆみ板の基準

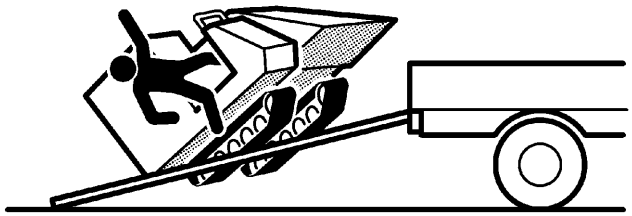
長さ	トラックの荷台の高さの 4 倍以上
幅	55 cm 以上
数量	2 枚
強度	1 枚が 2400 kg 以上に耐えうる

- あゆみ板はフック、すべり止めが付いている物を使ってください。
- あゆみ板はトラックの荷台に平行に確実に掛けてください。


1KATP00614A01

3. 機械の積込みおよび積降し前

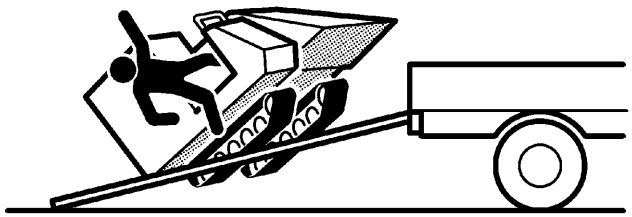
- 積込み、積降し前に、もみはすべて排出してください。バランスがくずれて、転倒、転落するおそれがあります。
- アンローダを下げ、アンローダ支えに収納してバンドを掛けてください。
- **[L 仕様]** 自動車体水平制御は、機体を一番下げた状態にしてください。



1KATP00615A01

4. 機械の積込みおよび積降し時の速度

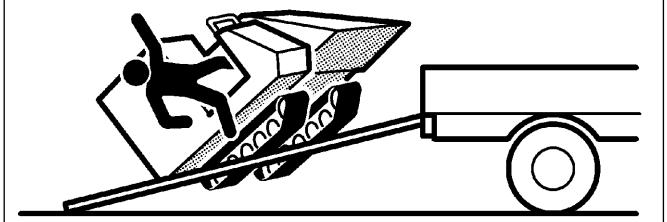
- トラックへの積込み、積降しは最低速で行ってください。バランスがくずれて、転倒、転落するおそれがあります。
- 作業レバーを**[切]**位置に入れ、もみ排出クラッチを“切って”ください。
- 積込みは前進で、積降しは後進で作業してください。
- 結束機を装着している機械は後進で積込み、前進で積降しを作業してください。



1KATP00615A01

5. 機体の方向修正時の注意

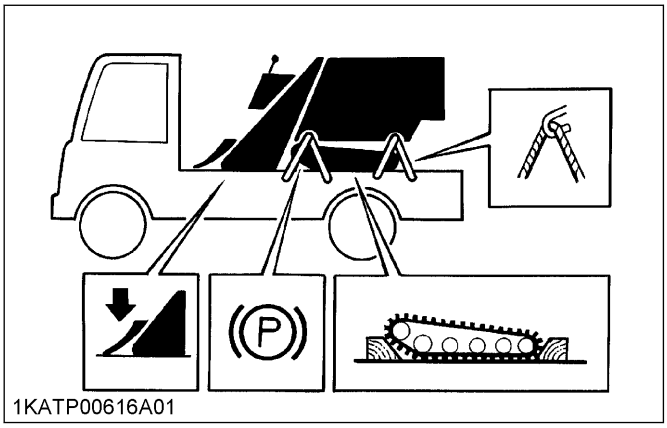
- あゆみ板の上では方向修正しないでください。急旋回したり、暴走して落下するおそれがあります。
- あゆみ板の上では、パワーステアリングレバーの操作や副変速切換えスイッチ、副変速レバー、駐車ブレーキペダル、かき込みペダル、旋回モード切換えスイッチ、アンローダリモコンの操作はしないでください。
  [L 仕様] は水平操作手動スイッチ、傾斜角手動調節スイッチも操作しないでください。
- 方向を変えるときは、いったん地上または荷台にもどって方向を修正し、再度やり直してください。



1KATP00615A01

6. トラック荷台上での機械の固定方法

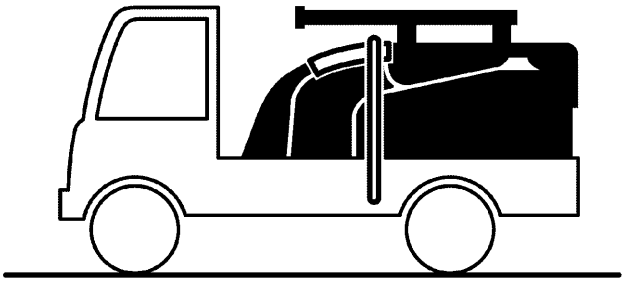
- トラックの上では、刈取部を床に当たるまで降ろして、駐車ブレーキを掛けてください。機械が動き、思わぬ事故が発生するおそれがあります。
- **[L 仕様]** 自動車体水平制御は、機体を一番下げた状態にしてください。
- 副変速レバーを**[低速]**位置にし、駐車ブレーキを掛けてください。
- 所定の“ロープ掛けフック *4* か所”にロープを掛けてしっかり床に固定してください。
- 車止めしてください。



1KATP00616A01

7. 機体の各カバーの固定

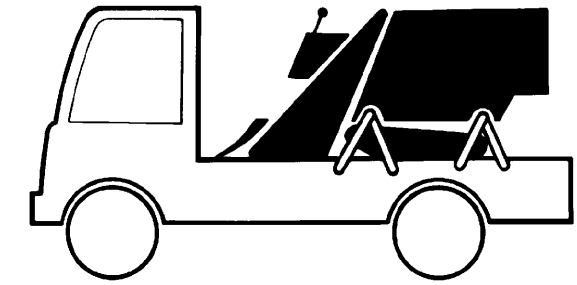
- トラックに積んだときは、機体の各カバーを固定してください。輸送中に風圧で破損、脱落のおそれがあります。
- 樹脂カバー、着脱の簡単なカバー、折りたたみ部品などは、ロープで確実に固定するか、外して荷台に置いてください。
- **[刈取防じんカバー付]** 刈取防じんカバーは閉じてください。



1KATP00617A01

8. 機械輸送時の注意

- 輸送中の急発進、急ブレーキ、急旋回は避けてください。輸送中に機械が動き、思わぬ事故のおそれがあります。



1KATP00594A01

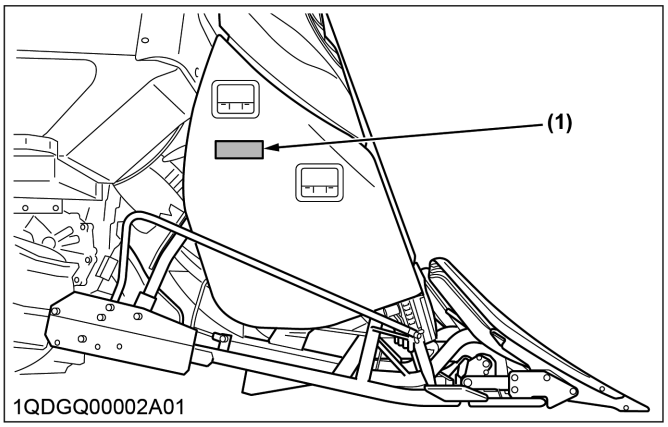
安全ラベル

1. 安全ラベルの内容、貼付位置

(1)品番　97700001260

⚠ 警　　告

中に回転物がありけがをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

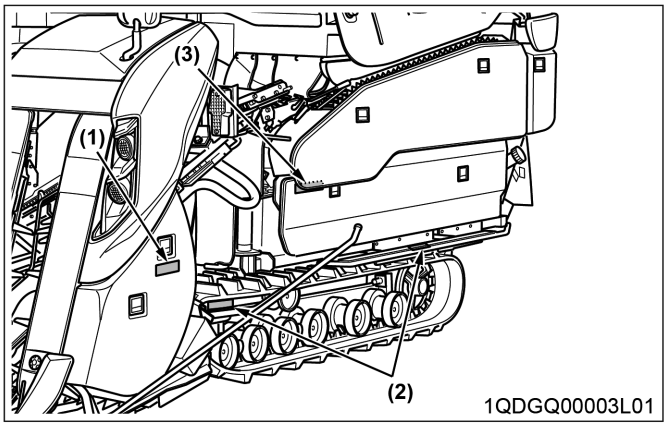


(2) 品番　97700001770

⚠警告	人に当たりケガをさせるおそれがあるので、移動するときは必ず収納すること。

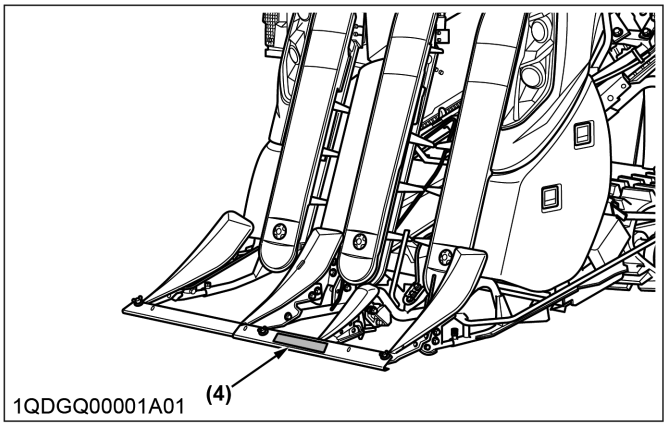
(3) 品番　97710000290

⚠警告	1．刈取オープン作業は平たんで安全な場所で，刈取部の昇降以外はエンジンを必ず止めて行って下さい。 2．刈取部をオープンしたまま，走行しないで下さい。 3．枕木などで刈取部の落下防止の歯止めをして下さい。



(4) 品番　96030000670

⚠警告	デバイダ先端に当たるとケガをするおそれがあるので、移動するときは必ず本品を取り付けること。



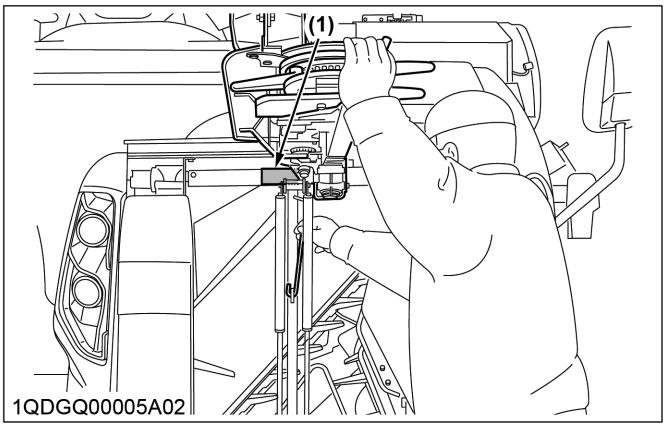
1MMCA00001A01jaJP

⚠ 安全作業をするための注意事項

(1)品番　97710000700

⚠ 警告

1. 引起しオープン状態で、刈取部を回転させると非常に危険ですので、エンジンは絶対に始動しないこと。
2. 引起し装置が落下して身体がはさまれる恐れがあるので、ロック棒で必ず固定すること。

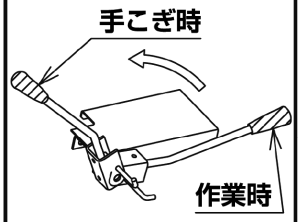


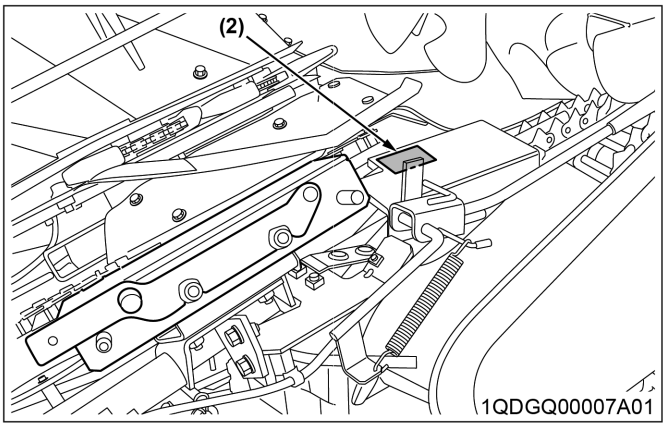
(2) 品番　97720000500

⚠ 警　告

1. 手こぎをするときは必ずレバーを上げて行ってください。
2. 手こぎレバーの操作は、必ずグリップを持って行ってください。

手こぎ時：上げ
通常作業時：下げ





1MMCA00002A01jaJP

⚠ 安全作業をするための注意事項

(1) 品番　97710000650

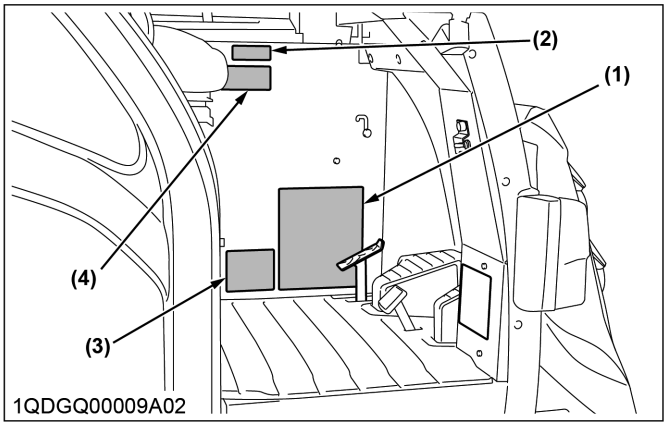
⚠ 警　告

作業前
1. 安全に作業するために、取扱説明書を読んで、機械の使い方を覚えること。
2. エンジンを始動するときは、主変速レバーを「停止」にし、駐車ブレーキペダルを踏み込み、各作業クラッチを「切」にすること。
3. 屋内は排気ガスが溜まり易く、ガス中毒の危険があるので換気すること。
4. ケガをするおそれがあるので、掃除・点検・調整のときは、各クラッチを切りエンジンを必ず停止すること。

移動・作業中
1. 発進するときや脱こく部・刈取部を作動するときは、周囲の安全を確かめ合図して、機械に人を近付けないこと。
2. 転落・転倒事故の危険があるので、傾斜地・路肩の軟弱な道路・ガケ際などは走行しないこと。
3. 走行を停止するときは、主変速レバーを操作して「停止」の位置にすること。
4. 道路交通法規定により、トラック運搬時（特にキャビン付）は地上高3.8m以下で運行すること。
5. 刈取作業時以外（あぜ乗越時、移動走行時、運搬時、格納時、坂道（傾斜地）走行時）は、「もみ」をすべて排出または降ろして、各作業クラッチを「切」にし、M仕様（車体水平制御）は一番下げた状態にすること。

積込・積降ろし
転倒・転落事故の危険があるので、車への積み込みおよびあぜ越えは以下を守ること。
① 積み込むときは前進で、降ろすときは後進にすること。
② 副変速を「低速」にし、エンジンの回転を落として（2000rpm以上）、低速にすること。
③ あゆみの上ではパワーステアリングレバーを操作しないこと。
方向を変えるときは、いったん地上または荷台に戻って向きを正し、再度やり直すこと。
④ あゆみ板は段差の4倍以上の長さで、すべり止めがあり、基準に合ったものを使用すること。

駐・停車
1. 火災の危険があるので、機械を停止するときは、切リワラや雑草の上に止めないこと。
2. 急発進・暴走の危険があるので、副変速レバーを操作するときは、平坦な場所で主変速レバーを「停止」の位置にし、駐車ブレーキペダルをいっぱいに踏むこと。
3. 機械から離れるときは、エンジンを止めて始動キーを抜き、駐車ブレーキを必ずロックすること。また、坂道で駐車するときは車止めをして暴走を防ぐこと。



(2)品番　97710000960

⚠ 警　告

エンジンを始動するときは、主変速レバーを「停止」にし、駐車ブレーキを「入」にし、各作業クラッチを「切」にすること。

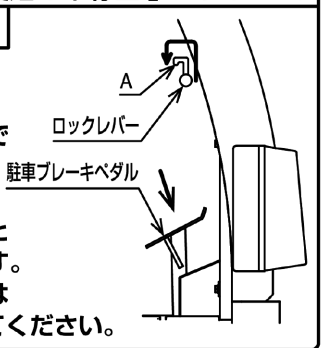
(3)品番　97710000630

⚠ 警　告

傾斜地での暴走を防ぐため必ず下記を守ること。
1.駐車するときは、車止めをすること。
2.駐車ブレーキを解除するときは、副変速を「低速」又は「高速」にし、主変速を「停止」にすること。

駐車ブレーキの取り扱い

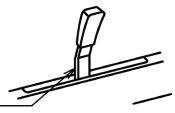
主変速レバーを完全に停止位置に戻し、駐車ブレーキペダルをロックがかかるまでいっぱいに踏んでください。
駐車ブレーキペダルを踏みながらレバーを上に上げると駐車ブレーキが解除されます。
路上走行時はロックレバーはAの位置に引き上げておいてください。



(4) 品番　97700001720

⚠ 警　告

坂道で副変速レバーを操作すると，機械が暴走するおそれがあるので、絶対に操作しないこと。

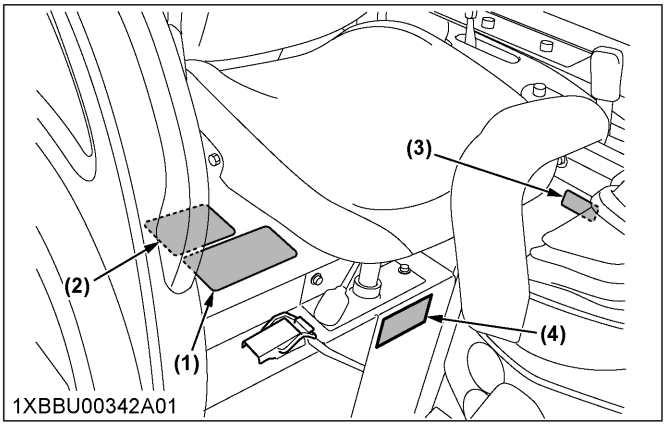


1MMCA00003A01jaJP

⚠ 安全作業をするための注意事項

(1) 品番　97710000950

⚠ 警　告	
	オーバーヒートで点検口を開いたり運転席をオープンして、エンジンを点検・整備するときは、次の手順を守ること。 1 .エンジンを止める。 2 .必ず停止後３０分以上経過してからエンジンルームを開けること。 エンジンが冷えていないときは、ラジエータ部・リザーブタンク部より熱湯が吹き出し、ヤケドをするおそれがあります。



(2) 品番　97710000670

⚠ 警　告	
	エンジンを回転したままエンジンルームを開けるとファンやベルトでケガをするおそれがあるのでエンジンルームを開けるときは、エンジンを必ず止めること。
	マフラ・ハイキカン・エンジンなどの高温部に触れるとヤケドをするので、高温部に絶対に触れないこと。

(3) 品番　96030000400

⚠ 警　告	
	マフラ・ハイキカン・エンジンなどの高温部に触れるとヤケドをするので、高温部に絶対に触れないこと。

(4) 品番　97720000520

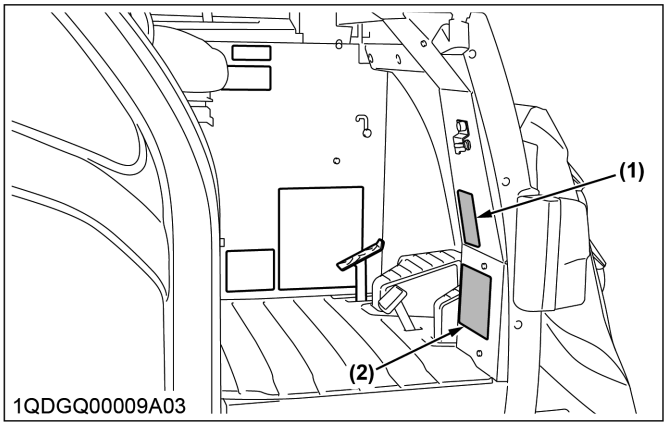
⚠ 警　告
本製品にはＤＰＦ（ディーゼル・パティキュレート・フィルタ）が搭載されています。 ＤＰＦの再生処理中はマフラ、排気ガスが高温になります。 ＤＰＦの再生処理を行うときは以下のことを守ってください。 １．納屋や倉庫など囲まれた場所で再生処理を行わないでください。 ２．再生処理中は排気管周辺から人や動植物が離れていることを確認してください。 ３．再生処理中は排気管周辺に燃えやすいものがないことを確認してください。 詳しくは取扱説明書をご覧ください。

1MMCA00004A01jaJP

(1) 品番　97710000640

⚠警 告

刈取部を上昇して点検調整を行う時には、必ずロックスイッチを下げてロック金具をセットすること。

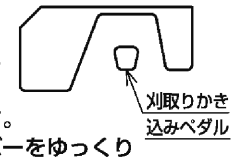


(2) 品番　97710000660

⚠ 警　　告

1. 刈取りかき込みペダルを傾斜地や、あゆみ板の上で踏むと、暴走する恐れがあるので踏まないこと。
2. 機体が動いている時は、刈取りかき込みペダルを踏んでも機体が止まらない場合があるので、主変速レバーが「停止」以外にあるときは、刈取りかき込みペダルを踏まないこと。

刈取りかき込みペダルの操作方法

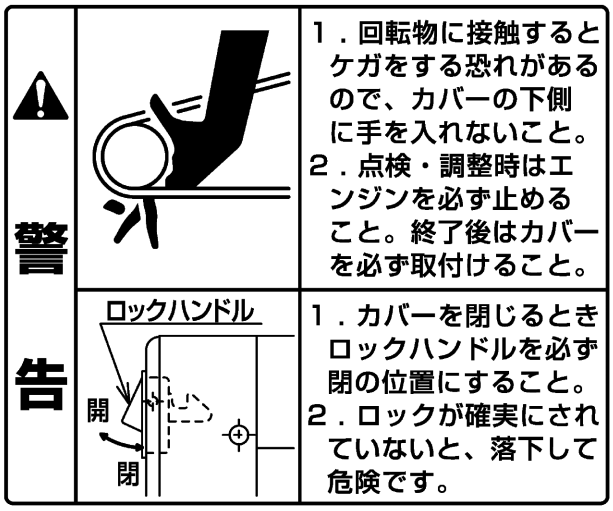


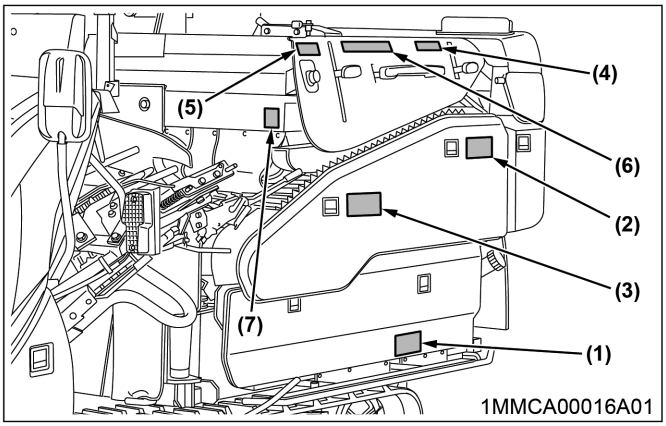
① 主変速レバーを「停止」位置にし機体の停止を確認して下さい。
② 刈取りかき込みペダルを踏みます。
③ ペダルを踏んだまま、主変速レバーをゆっくりと前進方向へ動かしてかき込み作業を行います。
④ かき込み作業終了後は主変速レバーを「停止」にした後かき込みペダルから足を離して下さい。
⑤ 上記手順を守らないと機械が故障する場合がありますので、必ず手順を守って下さい。

1MMCA00005A01jaJP

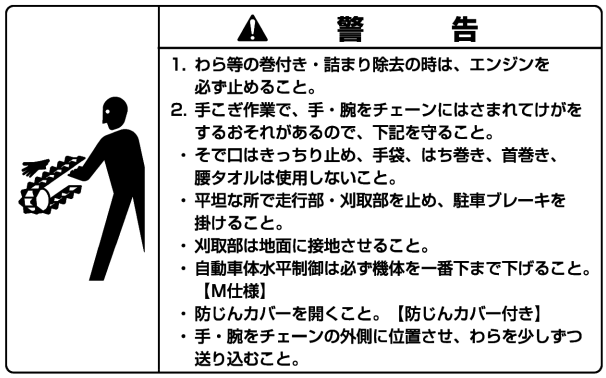
⚠ 安全作業をするための注意事項

(1) 品番　97700001270
(2) 品番　97700001740

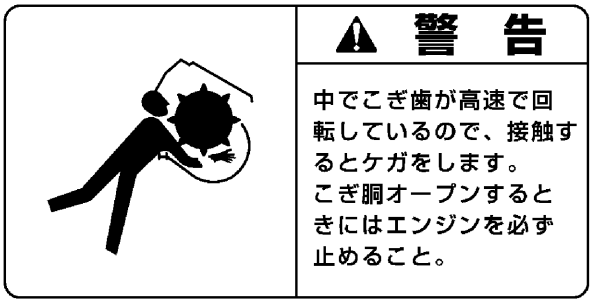




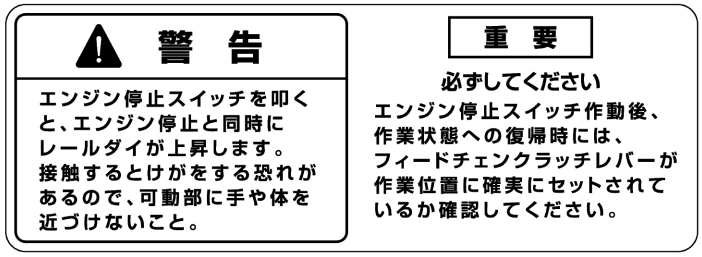
(3) 品番　97720000550



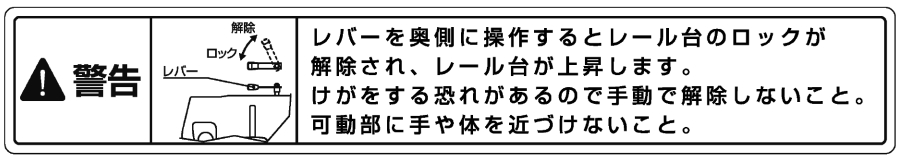
(4) 品番　97710000140



(5) 品番　97720000540



(6) 品番　97710000910

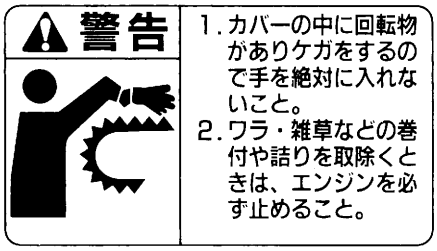


(7) 品番　97710000900

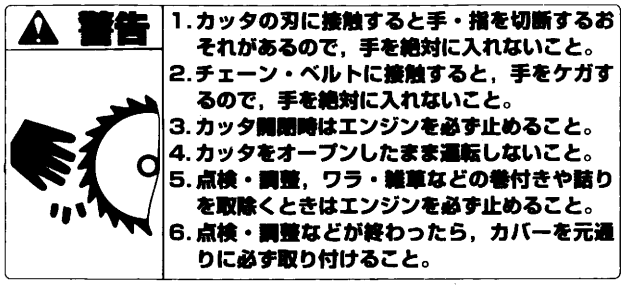


1MMCA00006A01jaJP

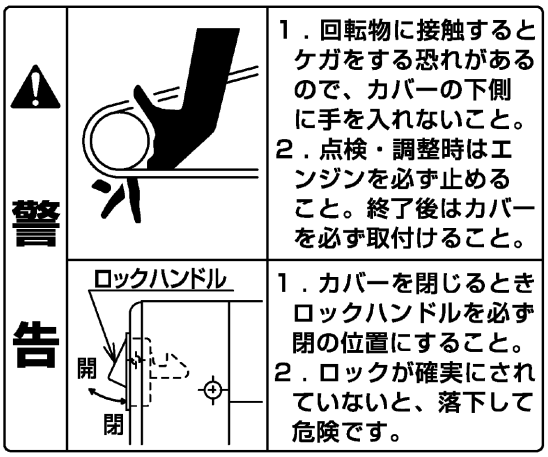
(1) 品番　97430001760

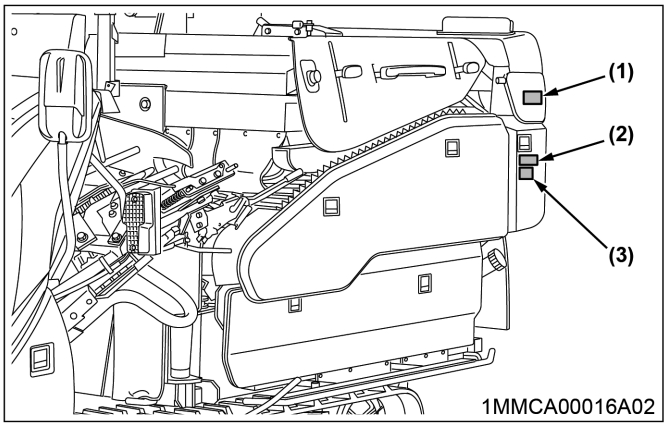


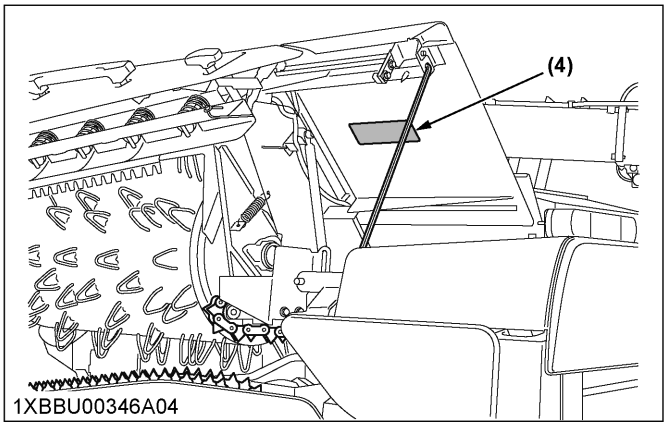
(2) 品番　97710000740



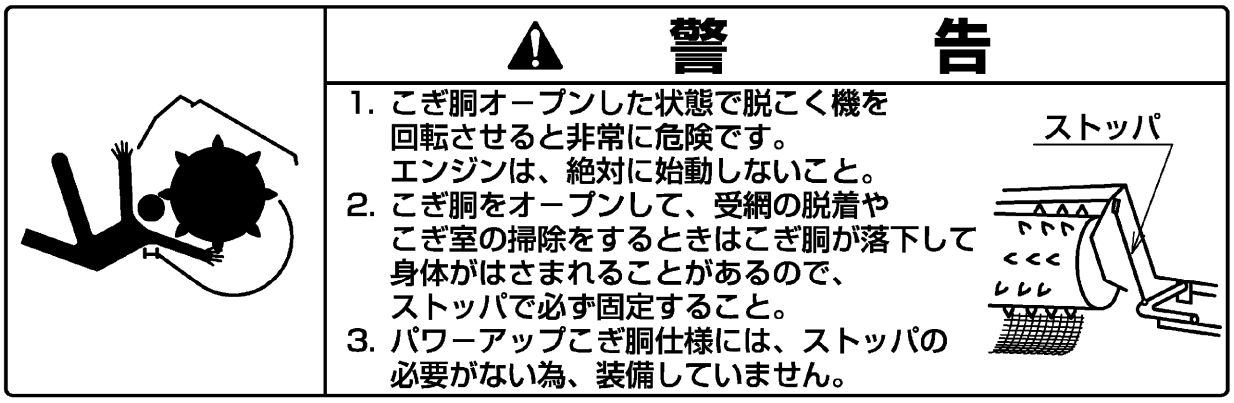
(3) 品番　97700001740







(4) 品番　97430004210



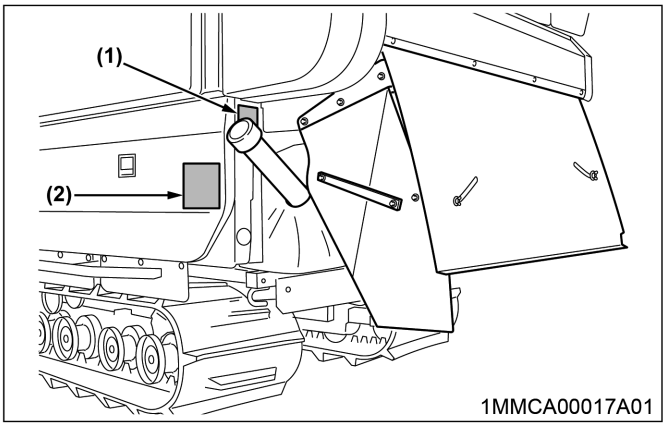
1MMCA00007A01jaJP

⚠ 安全作業をするための注意事項

(1) 品番　97700001290

⚠ 警　告

中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。



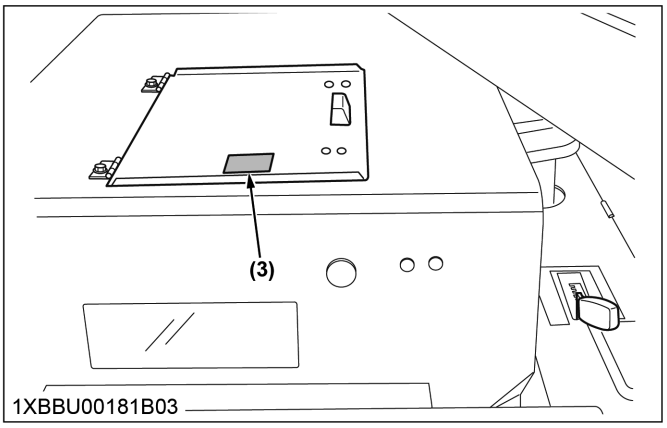
(2) 品番　97700001700

⚠ 警　告

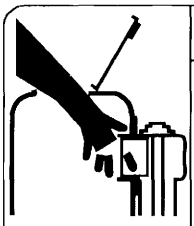
火気厳禁

・火災のおそれがあるので給油するときはエンジンを止めること。

ディーゼル軽油



(3) 品番　97430001680



⚠ 警　告

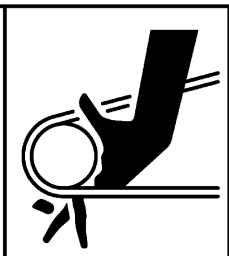
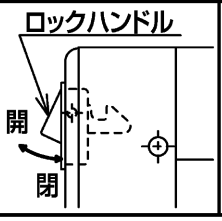
1. タンクの中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。
2. 手を入れるときは必ずエンジンを停止すること。

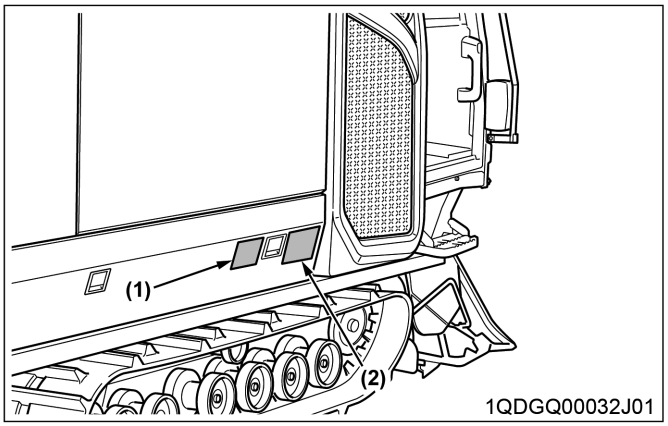
変形や落下のおそれがあるので、タンクの上に物を載せないこと。

1MMCA00008A01jaJP

⚠ 安全作業をするための注意事項

(1) 品番　97700001270

⚠ 警告		1．回転物に接触するとケガをする恐れがあるので、カバーの下側に手を入れないこと。 2．点検・調整時はエンジンを必ず止めること。終了後はカバーを必ず取付けること。
		1．カバーを閉じるときロックハンドルを必ず閉の位置にすること。 2．ロックが確実にされていないと、落下して危険です。



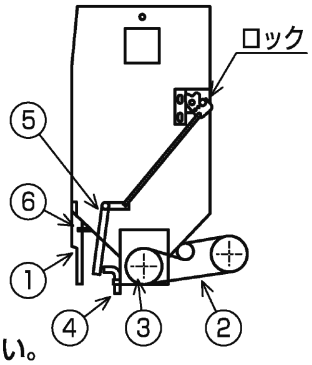
(2) 品番　97710000240

⚠ 警　　告

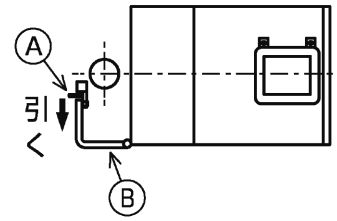
グレンタンクをオープンするときは、ベルトに手をはさまれたりタンクに身体が挟まれる恐れがあるので、平坦な場所で、内部の「もみ」を排出し、エンジンを停止してからオープンすること。

◆タンクオープンのしかた

1）タンク内を空にしてエンジンを停止してください。
2）カバー①を外し、ベルト②をプーリ③から外してタンク固定ピン④を抜いてください。
3）タンクオープンレバー⑤を持って手前に引きロックを解除し、さらに取っ手⑥を持ってタンクを開いてください。
4）タンクを閉じる時は上記の逆の手順で確実にタンクを固定しベルトをかけてください。



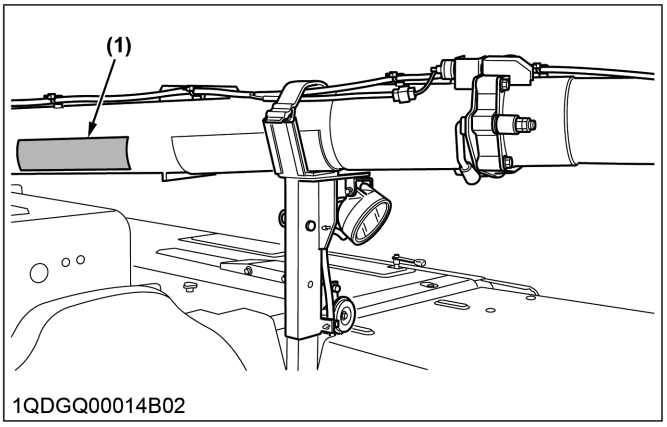
◆タンクをオープンする時は、カッタを閉じてください。



◆カバーⒷを開く時は、カバーⒶの取っ手を引いてください。閉じる時はカバーⒷを押し込んでください。

1MMCA00009A01jaJP

⚠ 安全作業をするための注意事項

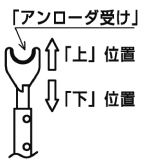


(1) 品番　97700000450

⚠ 警　告			
		アンローダが自然に動きケガをするおそれがあるので、アンローダを伸ばしたり、折りたたんだりするときはアンローダを水平の状態にしエンジンを止めること。	あぜ越え・移動時およびトラックで輸送する場合、アンローダが人・物にぶつかる危険があるので、下記を守ること。 1．「アンローダ受け」を「下」位置にする。 2．アンローダを収納する。 3．アンローダを折りたたむ。 4．アンローダを浮き上がらないようにバンドで固定する。
手をはさみ、ケガをするおそれがあるので、「アンローダ受け」に手を置かないこと。	アンローダ先端が大きく動き、ケガをするおそれがあるので、アンローダの作用範囲に人がいるときはアンローダをうごかさないこと。		

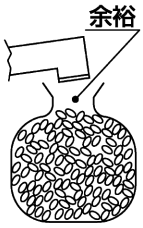
「アンローダ受け」の取扱い

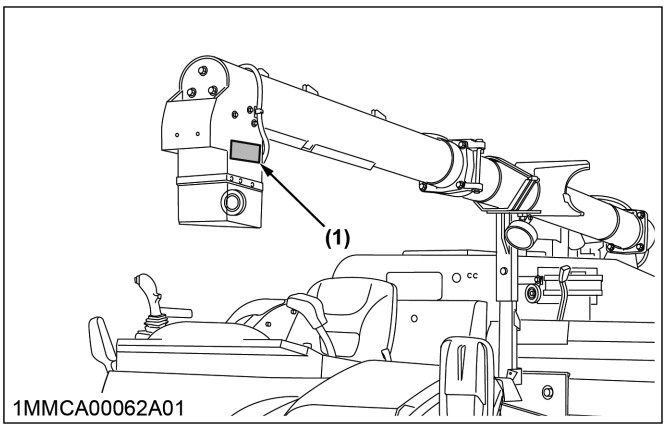
アンローダからの「もみ」こぼれをなくすために下記を守ってください。
1．作業時は「アンローダ受け」を「上」位置にしてください。
2．「もみ」の排出を途中で止めて、アンローダを「アンローダ受け」に戻さないでください。
3．アンローダを折りたたむときは、アンローダをいったん最上位まで上昇させた後、「アンローダ受け」に戻してから折りたたんでください。



---

(1) 品番　97700001730

⚠ 警　告	余裕
中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。	 袋詰め時、余裕を持って排出クラッチを切ること。 アンローダが詰まると、駆動系統の故障の原因になります。



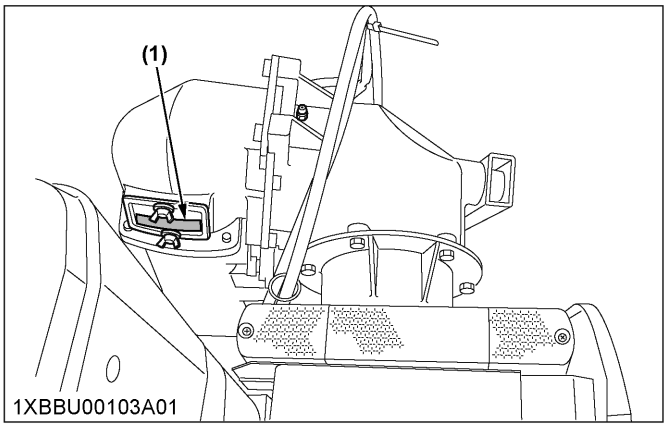
1MMCA00010A01jaJP

(1)品番　97700000440

⚠警 告

掃 除 口

中に回転物がありケガをするので、清掃時はエンジンを必ず止めること。清掃後はフタを必ず閉じること。

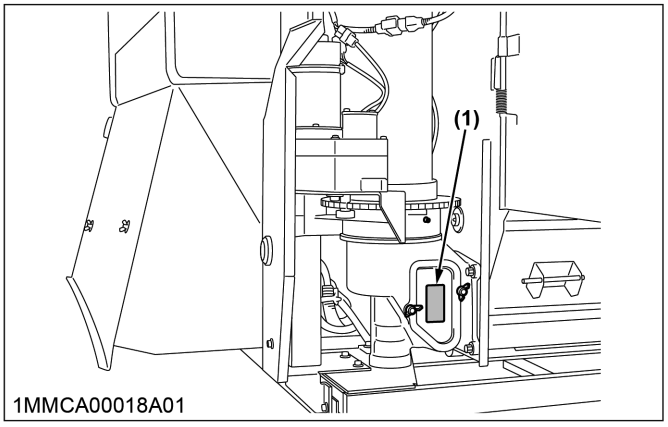


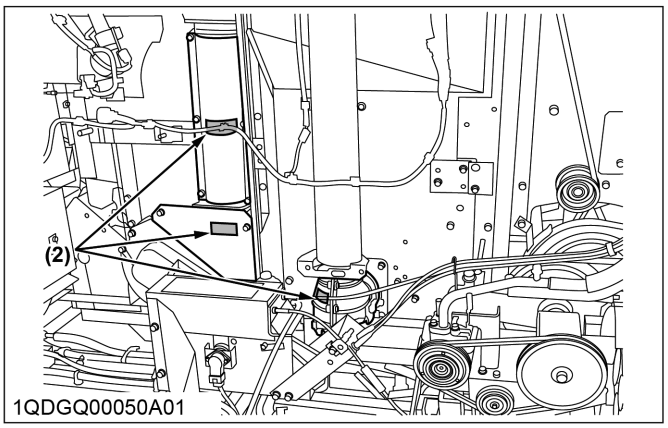
(2)品番　97720000180

⚠ 警 告

掃　除　口

中に回転物がありケガをするので、清掃時はエンジンを必ず止めること。清掃後はフタを必ず閉じること。





1MMCA00011A01jaJP

⚠ 安全作業をするための注意事項

(1) 品番　96030000400

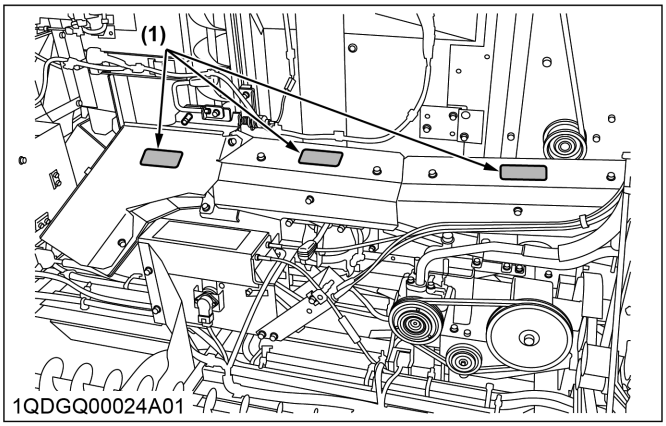
⚠ 警　告

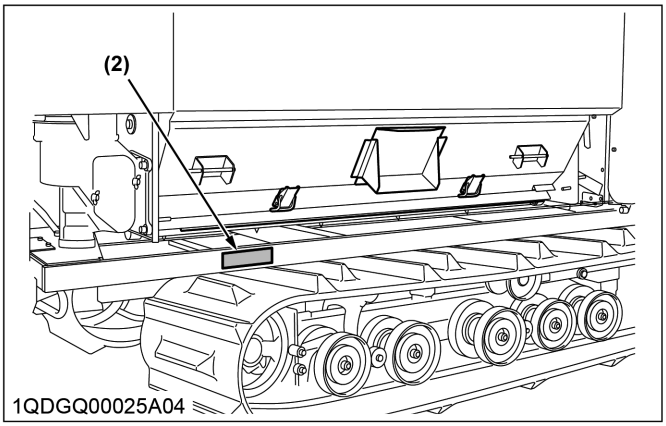
マフラ・ハイキカン・エンジンなどの高温部に触れるとヤケドをするので、高温部に絶対に触れないこと。

(2) 品番　97720000410

⚠ 警　告

やけどをする恐れがあるので、エンジン運転時及び停止直後は排気出口周辺に手や身体を近づけたり触れたりしないこと





(1) 品番　97700001750

⚠ 警告

掃　除　口

中に回転物がありケガをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。

(2) 品番　97700001760

⚠ 警告

掃　除　口

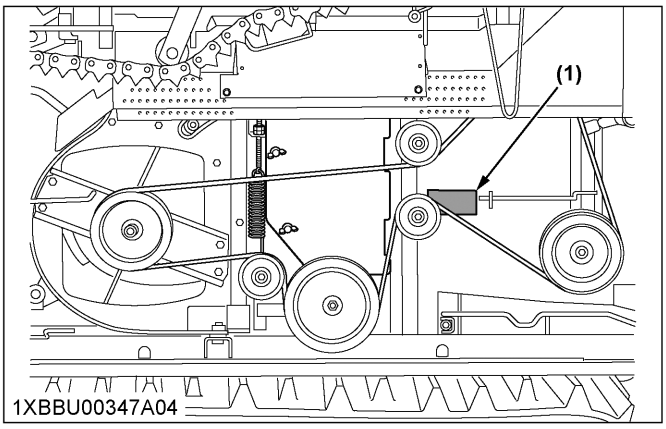
中に回転物がありケガをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。

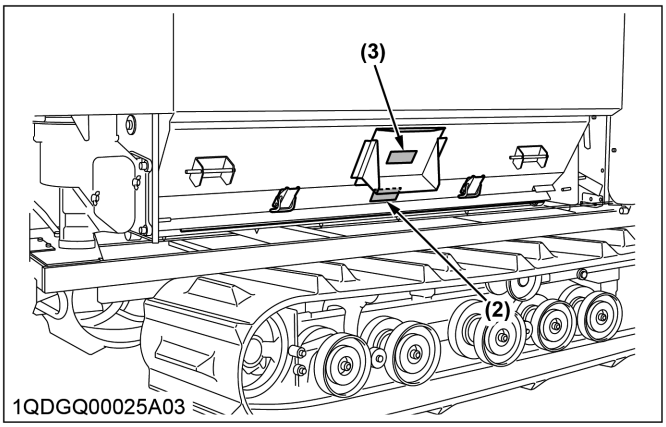
(3) 品番　97700000430

⚠ 警　告

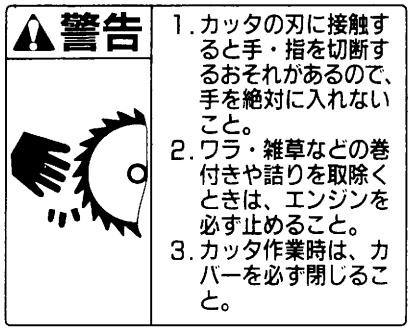
中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に開けないこと。

1MMCA00012A01jaJP

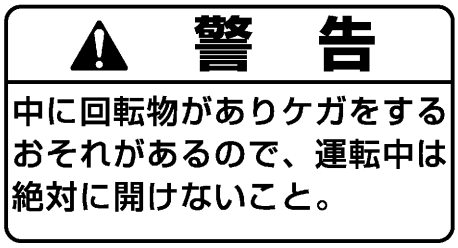


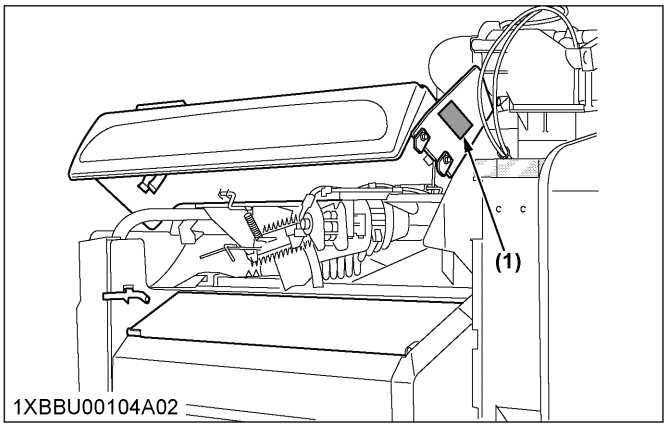


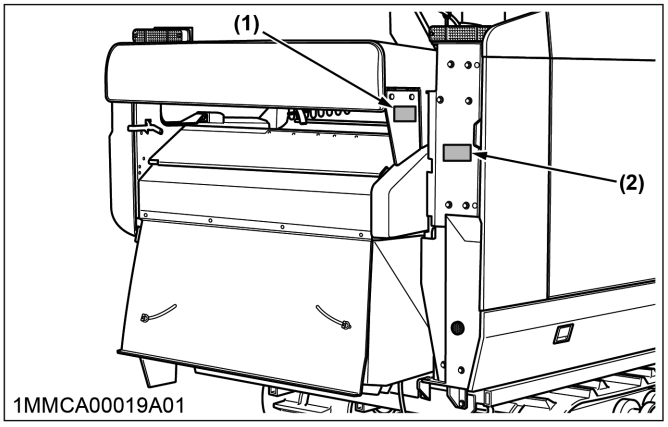
(1)品番　97430001550



(2)品番　97700000430

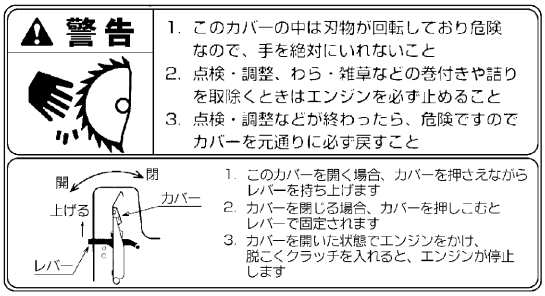




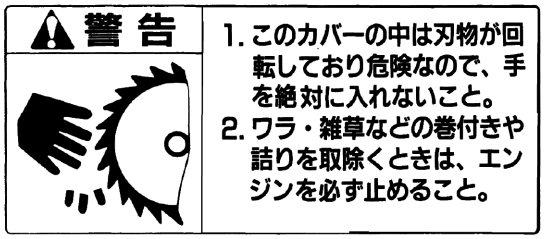


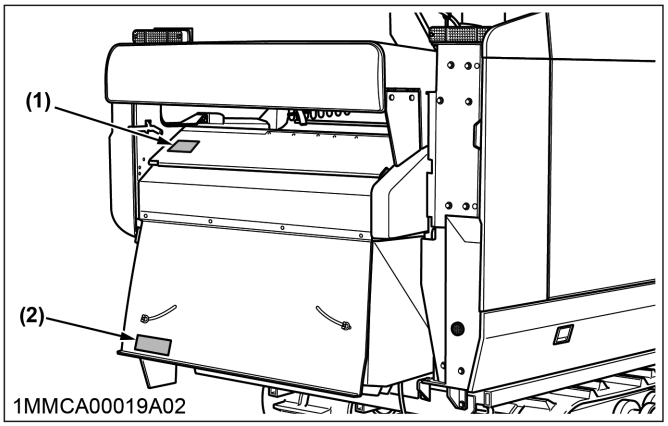
---

(1)品番　97430001610



(2)品番　97430001590





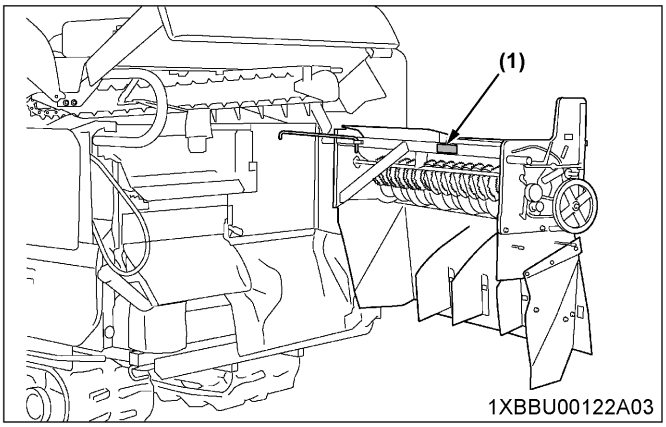
1MMCA00013A01jaJP

⚠ 安全作業をするための注意事項

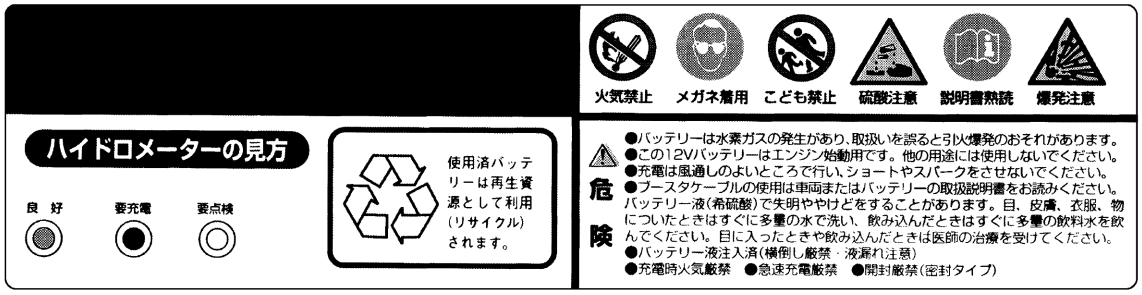
(1)品番　97700000310

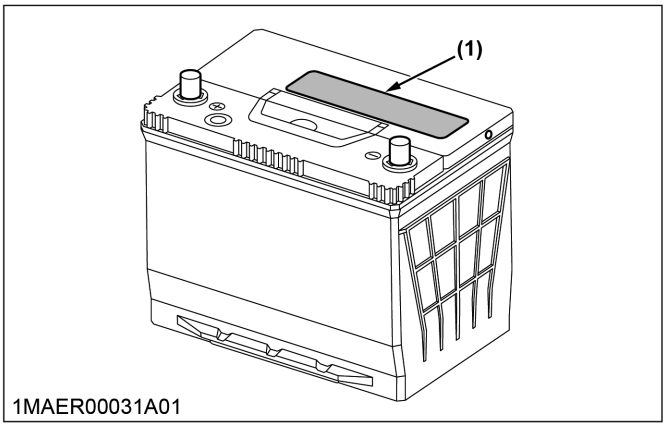
⚠ 警告

1. カッタをオープンしたら、不用意な動きを防ぐため規制金具で確実にロックすること。
2. カッタの刃に触れると手・指を切るので、巻付きや詰りを取除くとき刃に絶対触れないこと。



(1)品番　99920000320

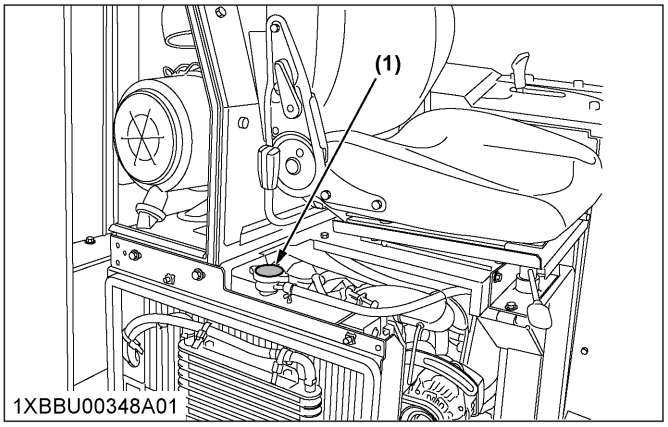




1MMCA00014A01jaJP

(1)品番　97430001500





1MMCA00015A01jaJP

2. 安全ラベルの取扱い

安全ラベルをよく読み理解して、安全注意事項を守ってください。

- 安全ラベルは、いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
- 安全ラベルがよごれた場合は、石鹸水で洗い、やわらかい布で拭いてください。
  シンナやアセトンなどの溶剤を使うと、文字や絵が消えることがあります。
- 高圧洗浄機で洗車すると、高圧水により安全ラベルが剥がれるおそれがあるので、高圧水を直接安全ラベルに掛けないでください。
- 破損や紛失した安全ラベルは、製品購入先に注文し、新しい安全ラベルに貼り替えてください。
- 新しい安全ラベルを貼る場合は、貼付面の汚れを完全に拭き取り、乾いた後、もとの位置に貼ってください。
- 安全ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは、安全ラベルも同時に交換してください。

3. 表示ラベルの記載について

- 機械に貼り付けてあるラベルに記載の**［M 仕様］**は**［L 仕様］**と読みかえてください。

サービスと保証について

この製品には、保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

ご相談窓口

⚠ 警告

- **機械の改造は危険ですので、改造しないでください。**

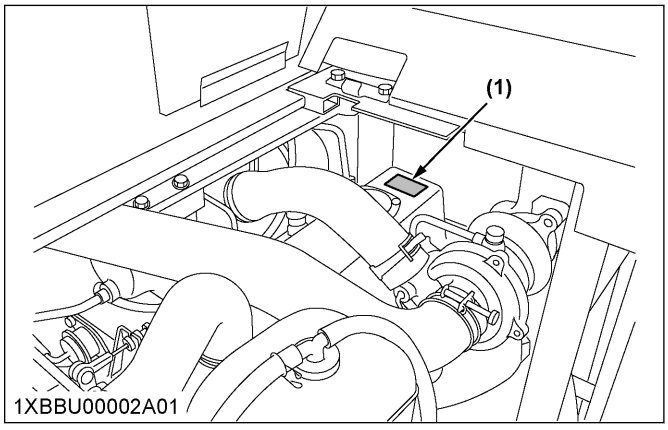
重要：

- **機械を改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。**

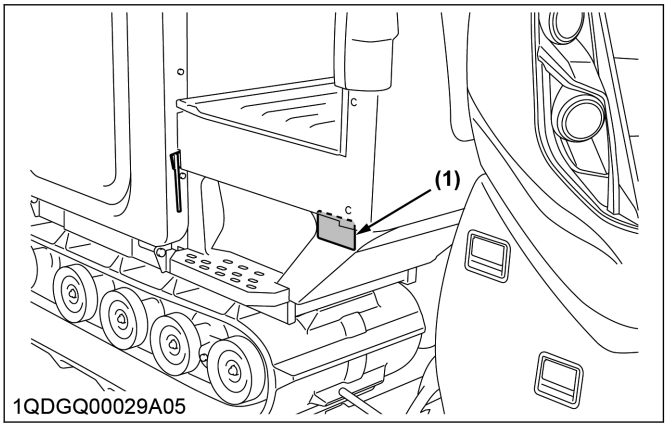
ご使用中の故障やご不審な点およびサービスについてのご用命は、お買上げいただいた購入先にそれぞれ“ご相談窓口”を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際、次の事項を併せてご連絡ください。

- 販売型式、区分と車台番号
- エンジンの型式名(model)と番号(serial)

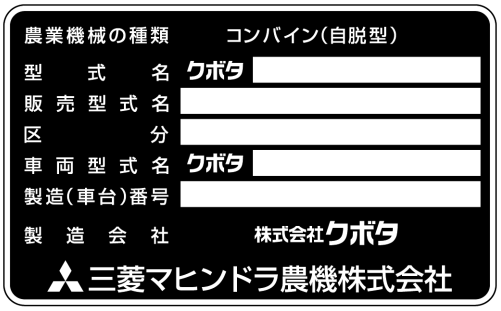
なお、部品ご注文の際は、購入先に純正部品表を準備しておりますので、そちらでご相談ください。



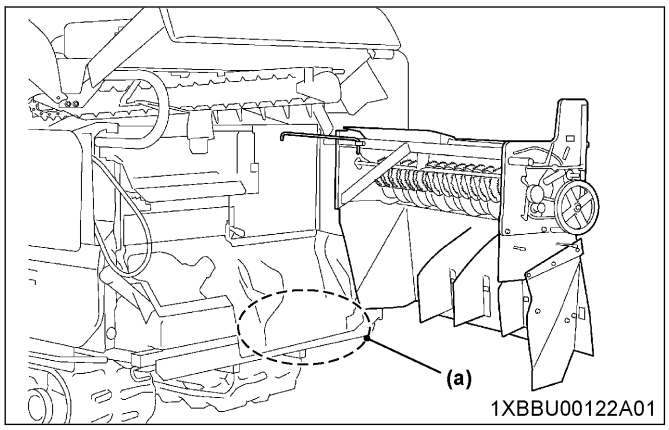
(1) エンジン番号

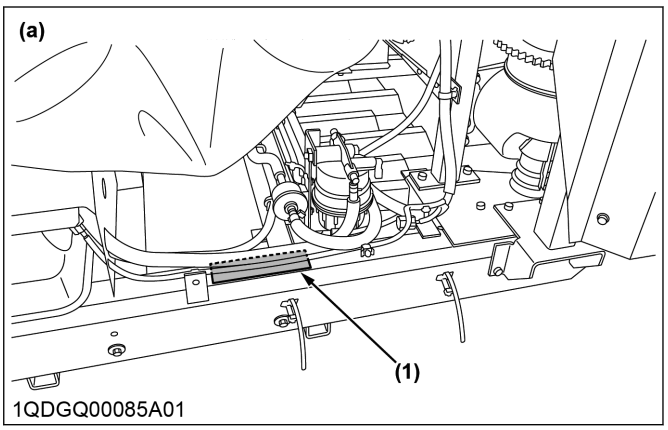


(1)



(1) 銘板





(1) 車台番号

認定番号

安全性検査、型式検査（国検）の農機型式名および認定番号が必要な場合は、次表の型式名および番号をご使用ください。

商品名	農機型式名	安全性検査合格番号	小型特殊自動車
			車両型式名
XC334	クボタ R2304	申請中	クボタ YDM-C331

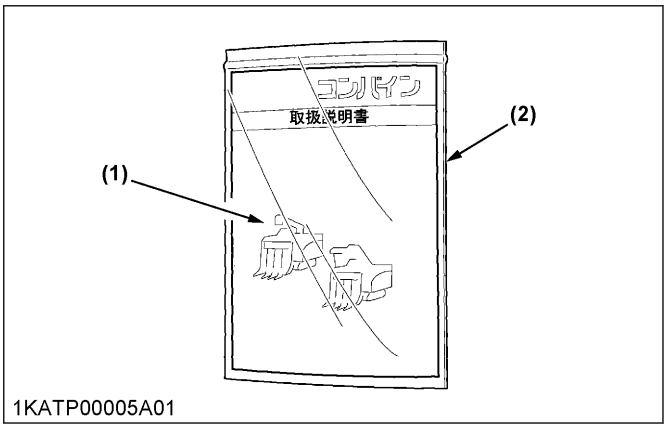
補足：
- **届出には型式認定番号が必要ですが、打刻されている車台番号で代用することができます。**
- **詳しくは購入先に連絡してください。**

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打切り後 9 年といたします。
ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期などの期限についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に既述の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

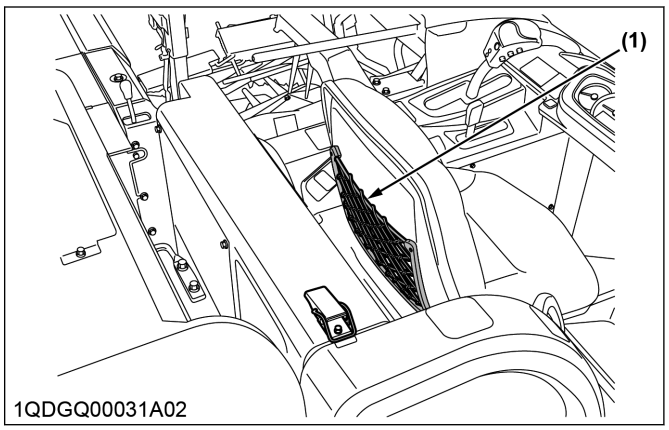
取扱説明書の収納場所について

1. 本冊子を付属部品のビニール袋にいれてください。
   出荷時は取扱説明書がビニール袋に入っています。



(1) 取扱説明書　　*(2)* ビニール袋

2. 運転席（シート）裏側にある取扱説明書収納場所に本冊子を収納して、常時携帯してください。



(1) 取扱説明書収納場所

補足：

- **取扱説明書収納場所は、デバイダカバー収納後の組付け部品の保管場所としても使用してください。（デバイダカバーの取外しと収納（100 ページ）を参照）**

小型特殊自動車について

このコンバインは、道路運送車両法の農耕作業用小型特殊自動車に該当します。

警告

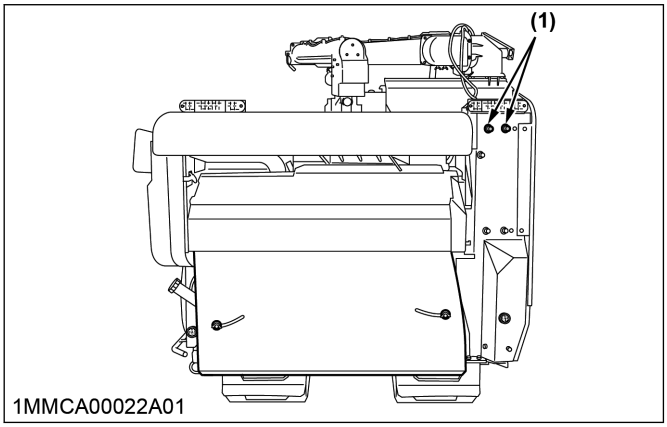
- **道路を走行するときは、小型特殊自動車の法規を守り安全運転をしてください。**

補足：

- **作業灯は『道路運送車両法の保安基準第 *42* 条（灯火の色等の制限）』において、“走行中に使用しない灯火”とされ、点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。**
- **このコンバインは、小型特殊自動車で『道路運送車両法』の保安基準が適用されます。次のうち 1 つでも条件を満足しないと保安基準に適合しませんので特にご留意してください。**
  - **認定を受けたエンジン以外は搭載して走行することはできません。**
  - **エンジンおよび本機で封印されている箇所は触らないでください。封印が外されたと認められる場合は、一切の保証はいたしません。**
  - **認定時の構造を変更した状態では、道路走行することはできません。**
  - **結束機、ドロッパ、スイスイデバイダなどのオプションを装着した場合は公道を走ることができません。装着した状態で移動するときは、トラック輸送してください。カッタは、装着したままで走行できます。（トラックとあゆみ板の準備（96 ページ）、トラックへ積込み時のコンバインの準備（96 ページ）、トラックへの積込み、積降しのしかた（96 ページ）、トラック上でのコンバインの処置（98 ページ）を参照）**

1. 小型特殊自動車取得の届出および標識（ナンバプレート）の取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は、市町村条例により、その取得を市町村役所に届け、標識（ナンバプレート）の交付を受けなければなりません。
手続きは市町村により多少異なりますので詳細は、購入先にご相談ください。
届出が済むと標識（ナンバプレート）が交付されますので、車体の取付け位置に取り付けてください。



(1) 標識（ナンバプレート）取付位置

2. 損害賠償保険について

万一の交通事故補償に備え、任意保険に加入されることをお勧めします。

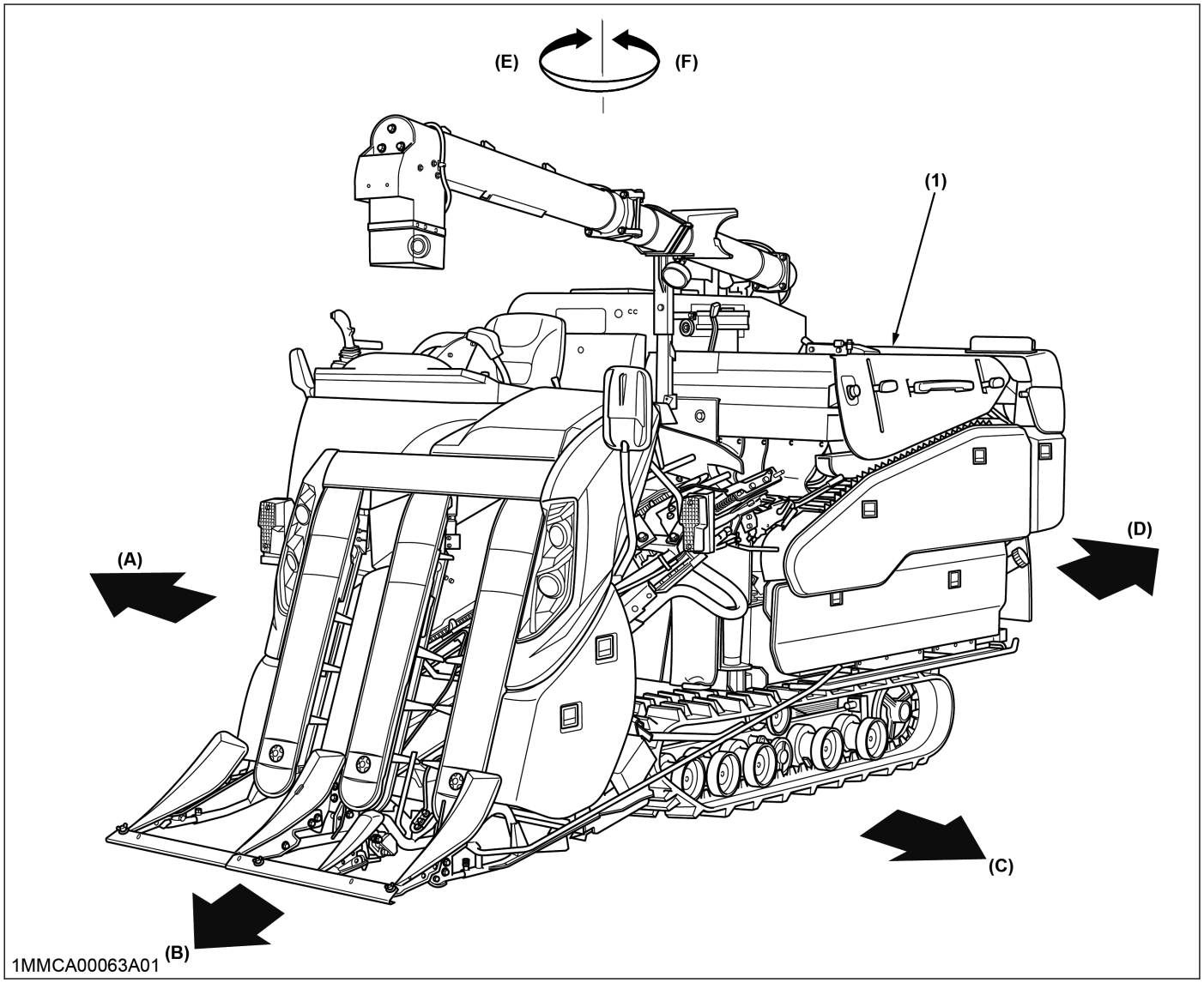
3. 運転免許証の携帯

公道走行時は、大型特殊自動車の運転可能な運転免許証が必要です。必ず所持してください。

装置の名称と取扱い

機体方向説明

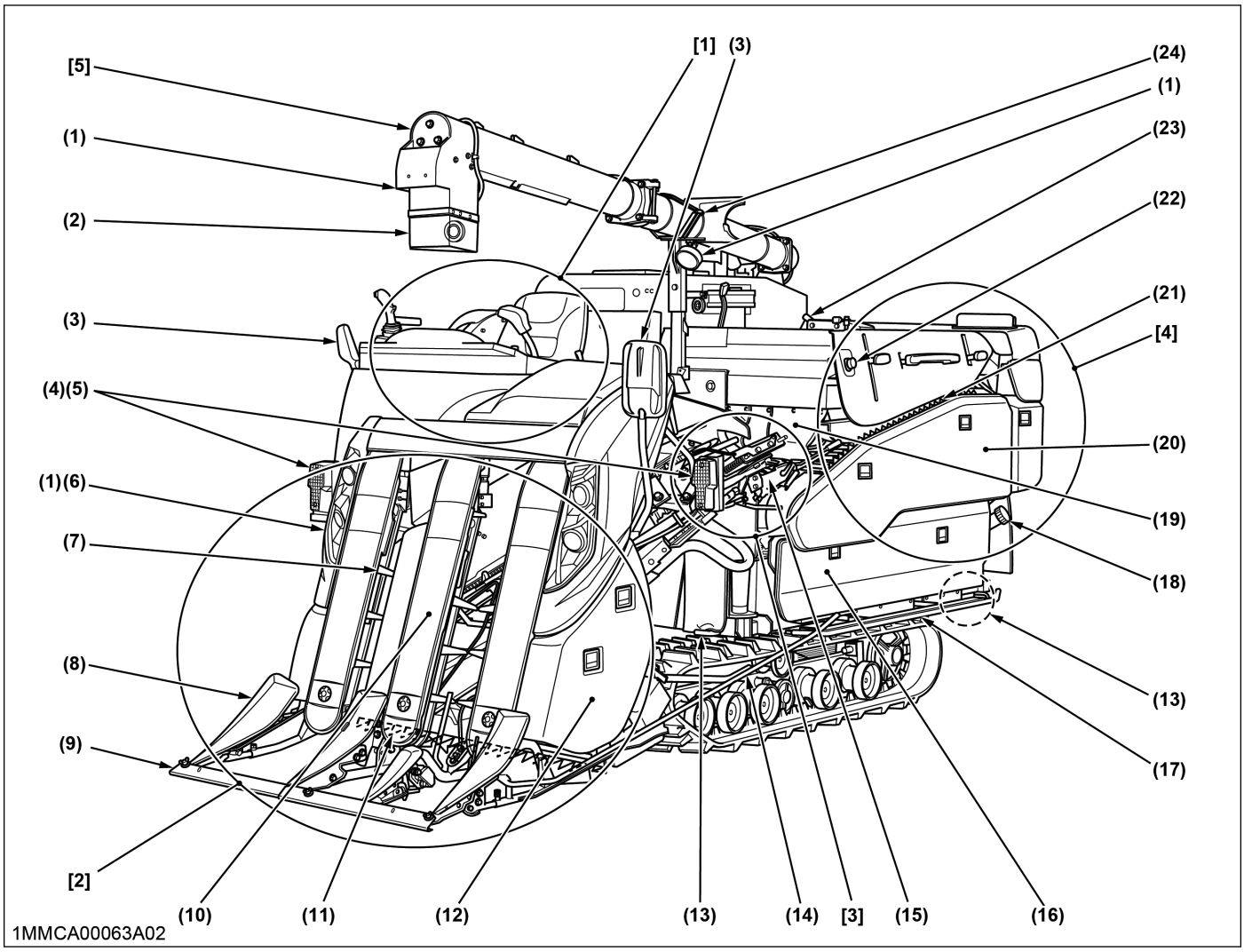
この取扱説明書で使用している機体の前後、左右、左回り、右回りなどの方向は、次図のとおりです。



(1) 機体
(A) 右側
(B) 前方
(C) 左側
(D) 後方
(E) 右回り（時計方向）
(F) 左回り（反時計方向）

装置各部の名称とはたらき

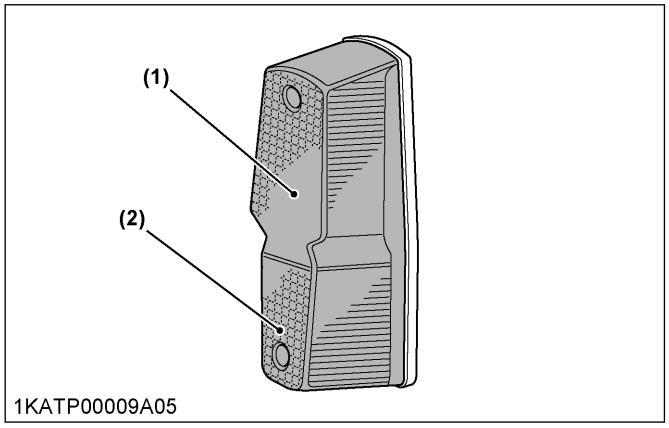
1. 機体前方の装置の名称



(1) 作業灯
(2) 吐出口
(3) バックミラー
(4) ウインカランプ（方向指示器）
(5) 車幅灯
(6) ヘッドランプ
(7) 引起し爪
(8) デバイダ
(9) デバイダカバー
(10) 引起しカバー
(11) 刈刃
(12) 引起しサイドカバー左
(13) ロープ掛けフック
(14) 左分草かん
(15) 供給サポートチェーン
(16) 左サイドカバー下
(17) 補助デッキ
(18) 燃料供給口
(19) 脱こく部入口
(20) 左サイドカバー上
(21) フィードチェーン
(22) エンジン停止スイッチ
(23) こぎ室送じん調節レバー
(24) アンローダ受け（支え）

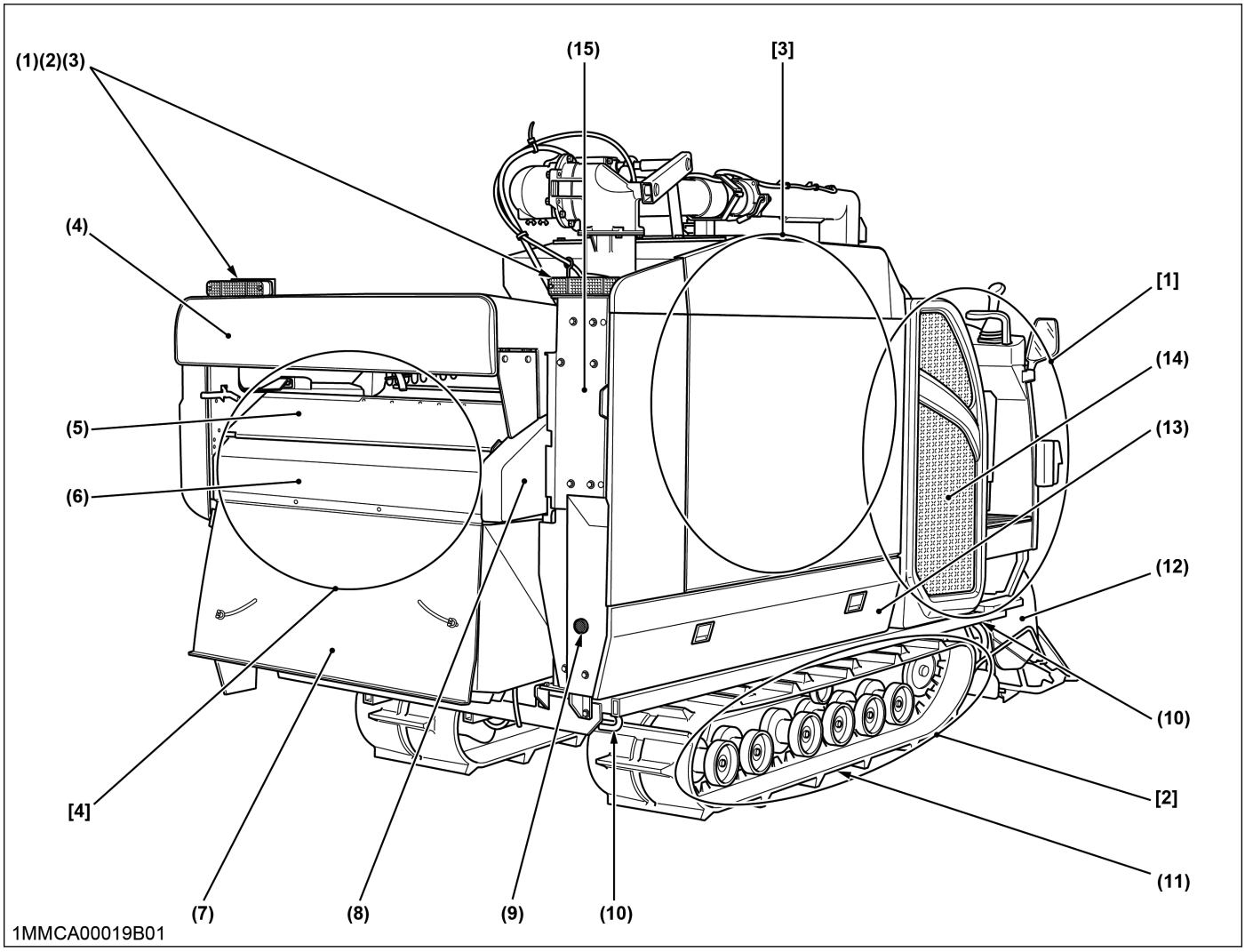
[1]	運転操作部	エンジンの始動、停止や移動走行、刈取作業の運転操作を行う所
[2]	刈取部	作物の引起しと刈取を行う所
[3]	供給搬送部	刈り取った作物を脱こく部へ搬送する所
[4]	脱こく部	作物の脱こくを行う所
[5]	アンローダ	グレンタンクからもみを排出する筒

機体前側のライト詳細



(1) ウインカランプ（方向指示器）
(2) 車幅灯

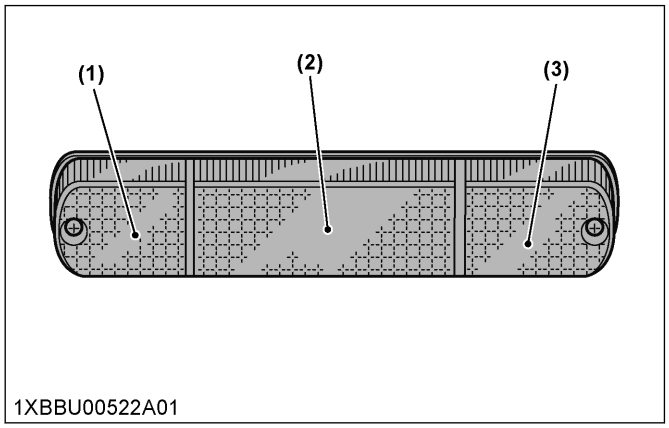
2. 機体後方の装置の名称



(1) ウインカランプ（方向指示器）
(2) 尾灯兼制動灯（ブレーキランプ）
(3) 後退灯（バックランプ）
(4) 排わら上部カバー
(5) カッタ切換えカバー
(6) カッタ
(7) リヤシュート
(8) カッタ右サイドカバー
(9) 反射器
(10) ロープ掛けフック
(11) クローラ
(12) 引起しサイドカバー右
(13) グレンタンク下カバー
(14) 防じんカバー
(15) グレンタンク後部カバー

[1]	エンジン部	運転席下部にある動力装置
[2]	走行部	クローラにより走行を行う所
[3]	グレンタンク部	脱こくで精選されたもみを一時貯蔵したあとアンローダで排出を行う所
[4]	わら処理部	わらの切断やばら落しなどわらの処理を行う所

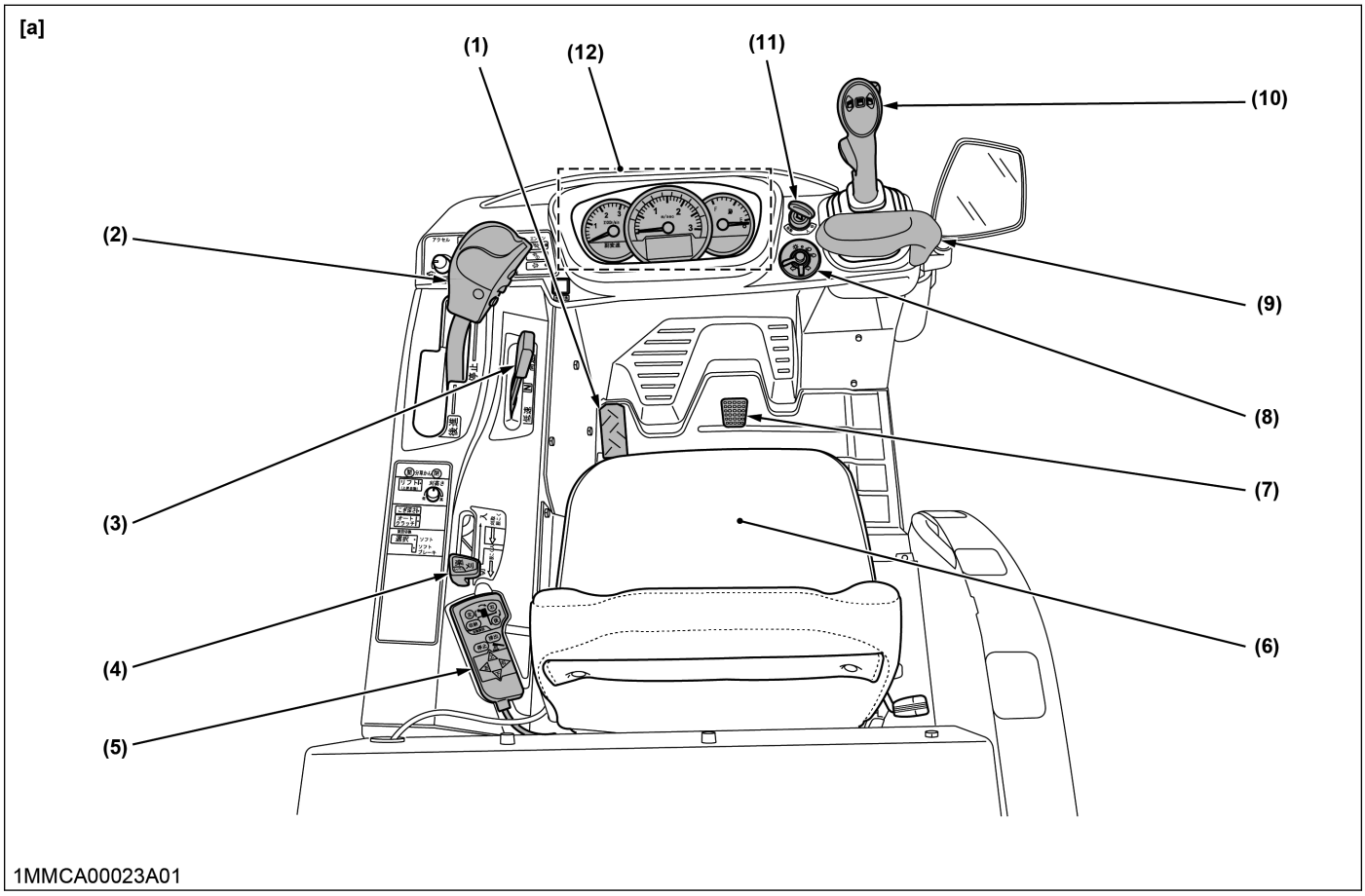
機体後側のライト詳細



(1) ウインカランプ（方向指示器）
(2) 尾灯兼制動灯（ブレーキランプ）
(3) 後退灯（バックランプ）

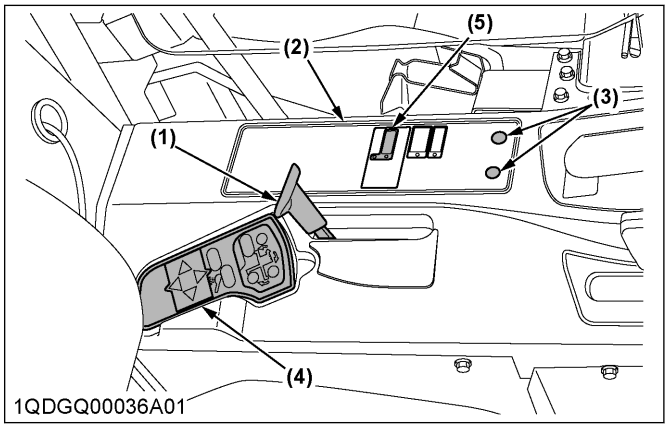
3. レバー、スイッチ類の名称

3.1 運転席周りのレバー、スイッチ類の名称



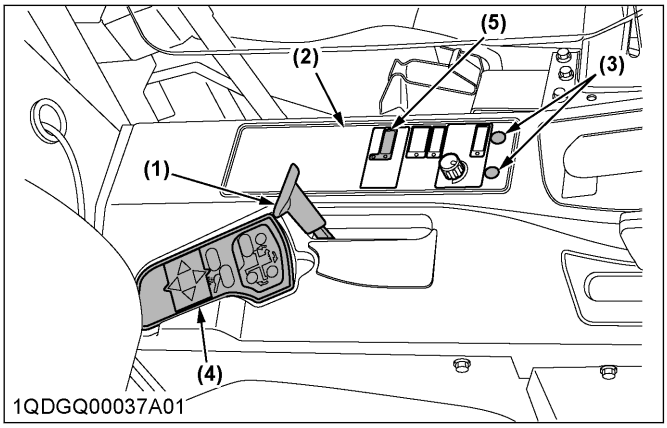
(1) 駐車ブレーキペダル（駐車ブレーキ）
(2) 主変速レバー
(3) 副変速レバー
(4) 作業レバー
(5) マルチアンローダリモコン
(6) 運転席（シート）
(7) 刈取りかき込みペダル
(8) コンビネーションスイッチ
(9) ハンドル
(10) パワーステアリングレバー
(11) メインスイッチ
(12) ファインビューメータ
[a] イラストは *L* 仕様

［L 仕様除く］



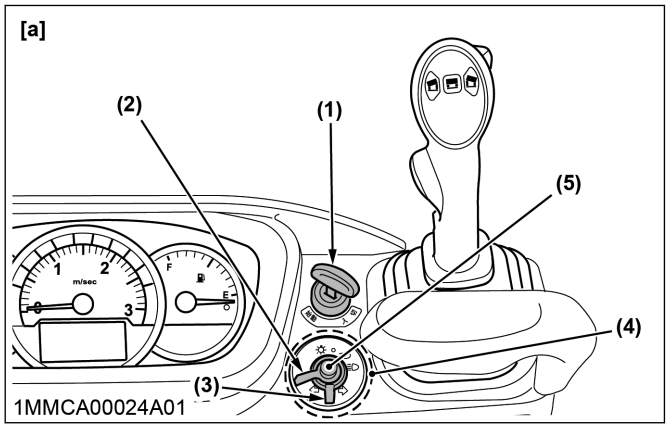
(1) 作業レバー
(2) スイッチパネル
(3) 左分草かん開閉スイッチ
(4) マルチアンローダリモコン
(5) 旋回モード切換えスイッチ

［L 仕様］

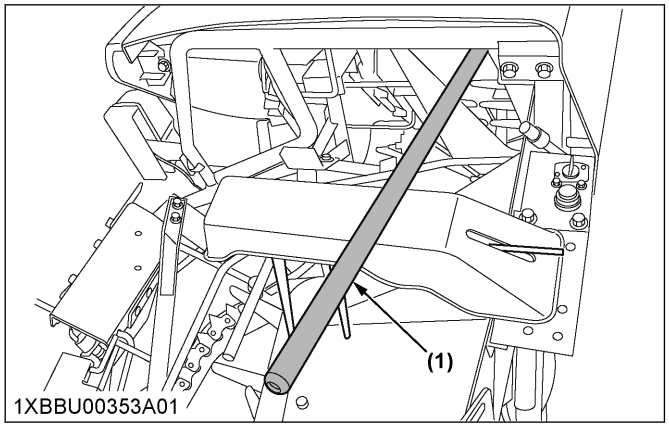


(1) 作業レバー
(2) スイッチパネル
(3) 左分草かん開閉スイッチ
(4) マルチアンローダリモコン
(5) 旋回モード切換えスイッチ

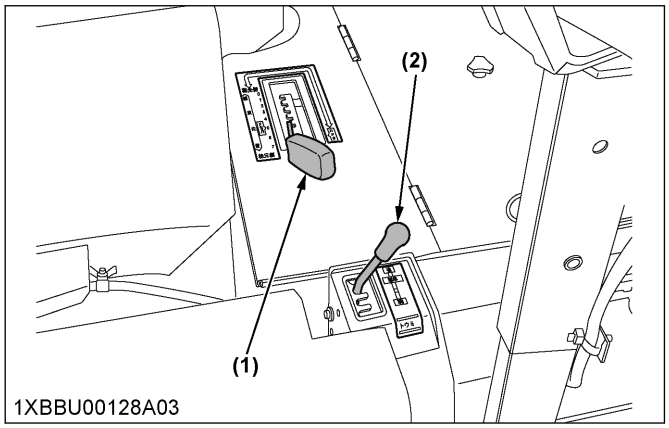
3.2 レバー、スイッチ類の詳細



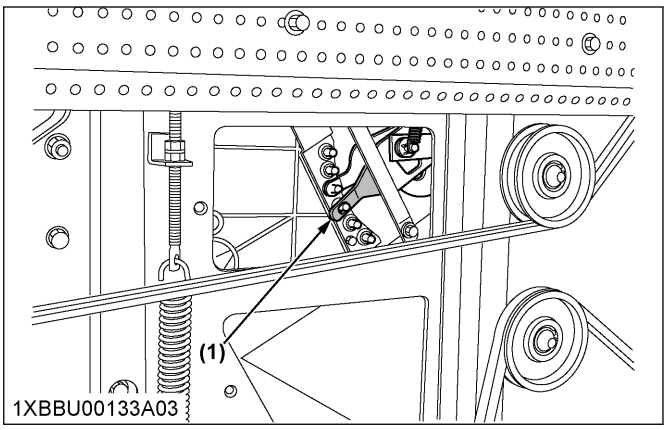
(1) メインスイッチ
(2) ライティングスイッチ
(3) ウインカスイッチ
(4) コンビネーションスイッチ
(5) ホーンスイッチ
[a] イラストは *L* 仕様



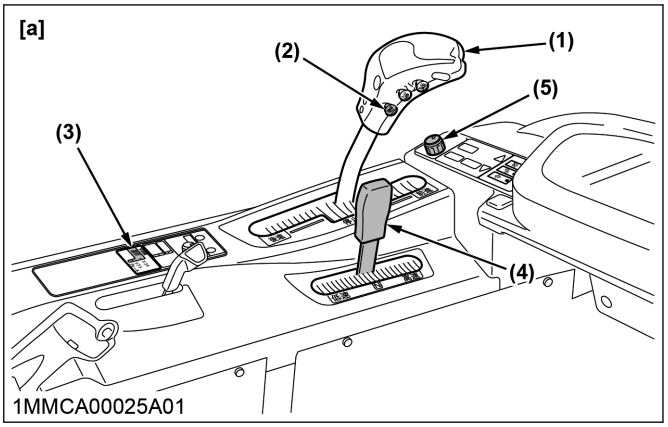
(1) 引起し変速レバー



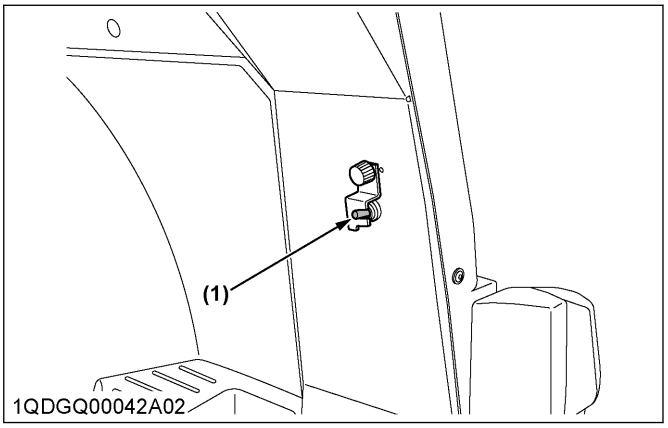
(1) わら処理切換えレバー
(2) トウミ調節レバー



(1) チャフ調節レバー



(1) 主変速レバー
(2) 副変速切換えスイッチ
(3) 旋回モード切換えスイッチ
(4) 副変速レバー
(5) 手動アクセルダイヤル
[a] イラストは *L* 仕様

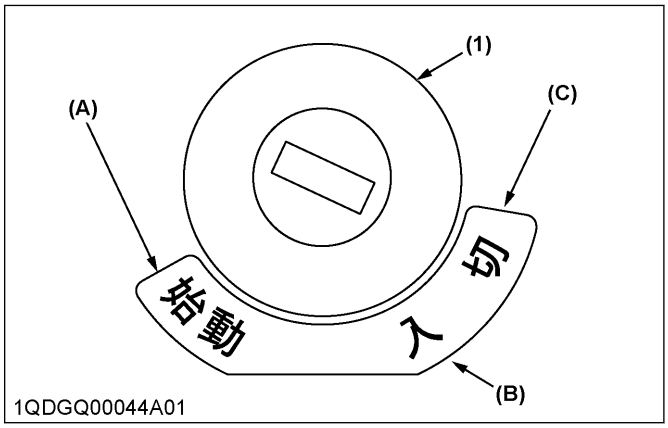


(1) 刈取下降ロックスイッチ

4. エンジン操作関係の名称とはたらき

4.1 メインスイッチ

コンバインの電源の“入”、“切”、およびエンジンの“始動”、“停止”を行うスイッチです。



(1) メインスイッチ

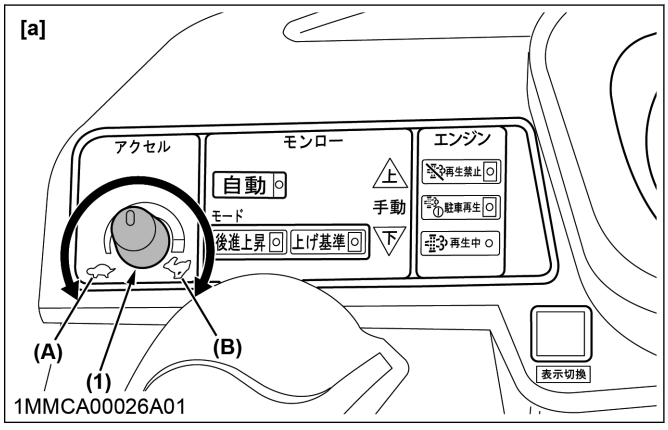
(A)	始動	セルモータが回転し、エンジンが始動する位置
(B)	入	電気（電装）装置がはたらく位置
(C)	切	キーが抜き差しできるエンジン停止中の位置

補足：

- **エンジン始動後、メインスイッチのキーから手を離すとキーは、[入]の位置に戻ります。**

4.2 手動アクセルダイヤル

エンジン回転をコントロールするダイヤルです。
手動アクセルダイヤルを右に回すと回転数が上がります。



(1) 手動アクセルダイヤル　　*[a]* イラストは *L* 仕様

(A)		エンジン回転低回転の位置
(B)		エンジン回転高回転の位置

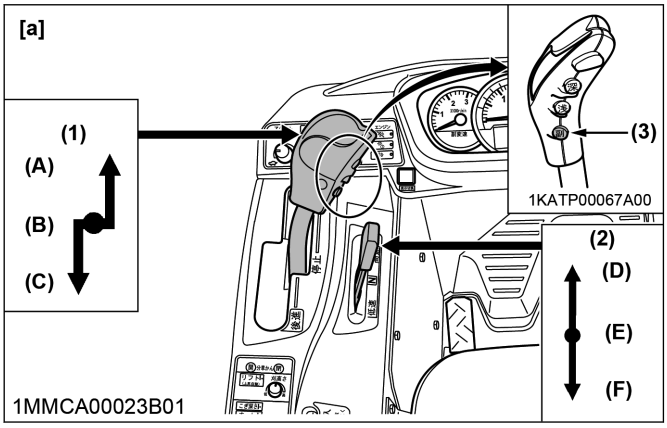
補足：

- **エンジン回転計は、ファインビューメータ（63 ページ）を参照してください。**

5. 走行操作関係の名称とはたらき

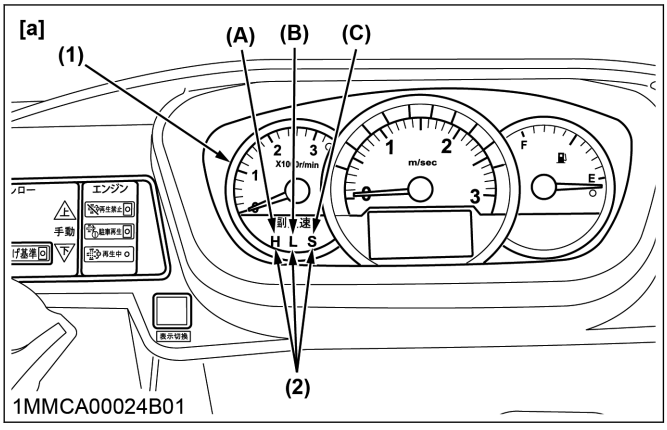
5.1 主変速レバー、副変速レバー、副変速切換えスイッチ

移動走行時や刈取作業時に変速をするレバー、スイッチです。



(A) 前進　　*[a]* イラストは *L* 仕様
(B) 停止
(C) 後進
(D) 高速
(E) *N*（中立）
(F) 低速

(1)	主変速レバー	機体の前進、後進を無段階で操作できる
(2)	副変速レバー	**[低速]**、**[高速]**の 2 段階
(3)	副変速切換えスイッチ	副変速レバー位置により次のように変速できる • **副変速レバーが[低速]位置** “*S*（倒伏位置）”、“*L*（作業位置）”の 2 段階 • **副変速レバーが[高速]位置** “*L*（作業位置）”、“*H*（走行位置）”の 2 段階



(1) エンジン回転計　　*[a]* イラストは *L* 仕様

(2)	副変速表示部	副変速レバーが**[高速]**位置のとき、副変速切換えスイッチを押すと**[L]**“（作業位置）”または**[H]**“（走行位置）”に切り換わり、副変速レバーが**[低速]**位置のときは、**[L]**“（作業位置）”または**[S]**“（倒伏位置）”に切り換わりる。

（次へ続く）

(A)	H（走行位置）	移動走行時に使用
(B)	L（作業位置）	刈取作業時に使用
(C)	S（倒伏位置）	

重要：
- **駐車ブレーキが掛かっているときは、主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。**

補足：
- **旋回中は走行負荷が高く、主変速レバーに負荷が伝わり、レバー位置が元に戻ることがあります。**
- **駐車ブレーキを掛けると、主変速レバーは[停止]位置に固定され、主変速レバーを操作しても動きません。**
- **後進するときは、主変速レバーを[後進]側に引いてください。[後進]位置にするとバックブザーが鳴り、後退灯（バックランプ）が点灯します。**
- **副変速切換えスイッチと副変速レバー操作の組み合わせにより、速度が*"S*（倒伏位置）"⟷*"L*（作業位置）"⟷*"H*（走行位置）"の 3 段階に切り換わります。**
- **副変速切換えスイッチと副変速レバーを操作することにより、エンジン回転計の下側にある"副変速"の表示部に次表のように表示します。**

副変速レバー操作	副変速切換えスイッチ操作		
[低速]	"S（倒伏位置）"	⟷	"L（作業位置）"
▲ ▪ ▼	▲ ▪ ▼		▲ ▪ ▼
[高速]	"L（作業位置）"	⟷	"H（走行位置）"

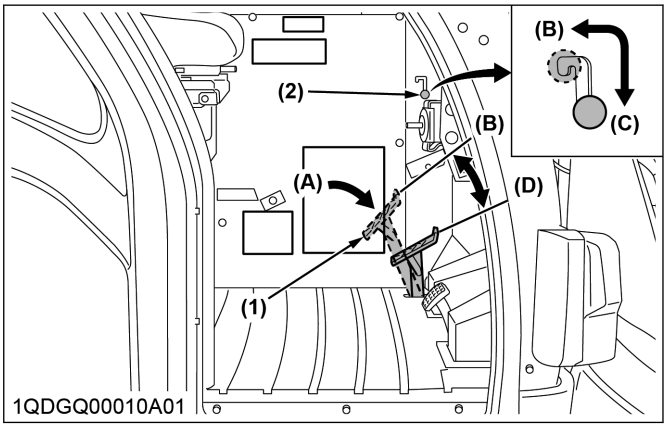
- **副変速切換えスイッチを押すと、"副変速"の表示部の表示により、液晶ディスプレイに次表のように表示します。**

副変速表示部	液晶ディスプレイ表示
[S] （倒伏位置）	〝副変速 S 倒伏〟
[L] （作業位置）	〝副変速 L 作業〟
[H] （走行位置）	〝副変速 H 走行〟

- **メインスイッチのキーを[入]位置にセットした直後の副変速切換えスイッチは*"L*（作業位置）"です。**
- **副変速切換えスイッチが*"H*（走行位置）"の状態で刈取作業を開始すると、*"L*（作業位置）"へ自動的に切り換わります。**
- **刈取作業中は、副変速切換えスイッチを押しても*"H*（走行位置）"には切り換わりません。**
- **主変速レバーが"中立"位置以外の位置でエンジンを始動しようとすると、液晶ディスプレイに〝主変速を中立にする〟と表示します。**
- **刈取作業は*"L*（作業位置）"または*"S*（倒伏位置）"、傾斜地（あぜ越えやあゆみ板）で移動するときは*"S*（倒伏位置）"、通常の移動走行時は*"H*（走行位置）"で使用してください。**
- **副変速切換えスイッチを*"H*（走行位置）"に切り換えると、旋回モード切換えスイッチで選択している位置に関係無く旋回力が"ソフトターン"に固定されます。**

5.2 駐車ブレーキペダル（駐車ブレーキ）

1. 駐車ブレーキペダルを踏み込むとブレーキが掛かります。また、駐車ブレーキロックレバーを解除位置からロック位置にしたあと、駐車ブレーキペダルを踏み込むと駐車ブレーキが掛かります。
2. 駐車ブレーキを解除するときは、駐車ブレーキペダルを少し踏み込みながら、駐車ブレーキロックレバーを解除位置に引き上げてください。



(1) 駐車ブレーキペダル
(2) 駐車ブレーキロックレバー
(A) 踏み込む
(B) 解除
(C) ロック
(D) ロック（駐車ブレーキ位置）

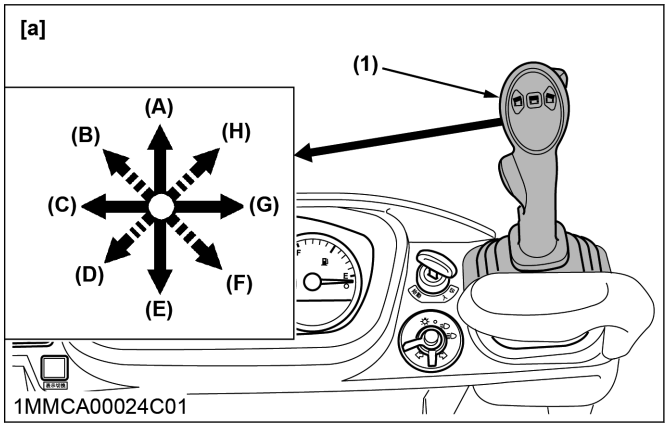
重要：
- **駐車ブレーキが掛かっているときは、主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。**

補足：
- **駐車ブレーキを掛けると主変速レバーは、[停止]位置に固定され、主変速レバーを操作しても動きません。**
- **路上を含む移動走行時は、駐車ブレーキペダルを"解除"位置にしてください。**
- **駐車ブレーキペダルを踏み込まないと、エンジンは始動しません。また、駐車ブレーキペダルを踏み込まずにエンジンを始動しようとすると、液晶ディスプレイに〝駐車ブレーキを踏む〟と表示します。**

5.3 パワーステアリングレバー

パワーステアリングレバーは、機体走行時の進路変更と刈取部の昇降を操作するレバーです。

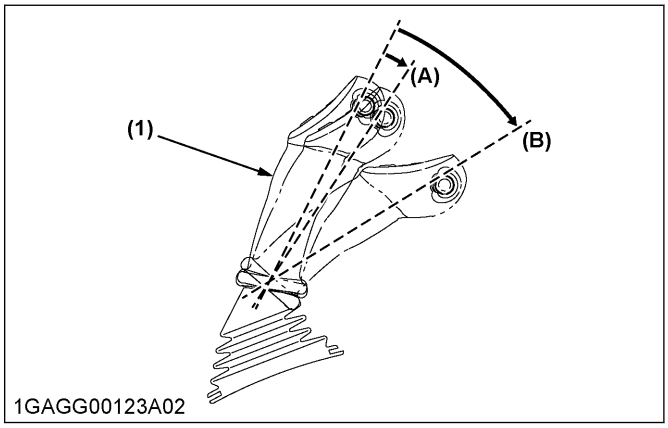
左⟷右	レバーを倒した方向に機体の進路が変わります。倒す角度に応じて進路の方向修正から旋回します。
下げ ↕ 上げ	レバーを倒した方向に刈取部が上下に動きます。
左・下　右・下 左・上　右・上	レバーを倒した方向に機体の進路が変わると同時に、刈取部が上下に動きます。



(1) パワーステアリングレバー　*(A)* 下（刈取部下げ）
(B) 左・下
(C) 左（左旋回）
(D) 左・上
(E) 上（刈取部上げ）
(F) 右・上
(G) 右（右旋回）
(H) 右・下
[a] イラストは *L* 仕様

補足：

- **刈取部の“上昇”⟷“下降”操作時、パワーステアリングレバーを倒す量に応じて昇降速度が変化します。昇降速度は、パワーステアリングレバーを倒す量が大きいほど速くなります。**

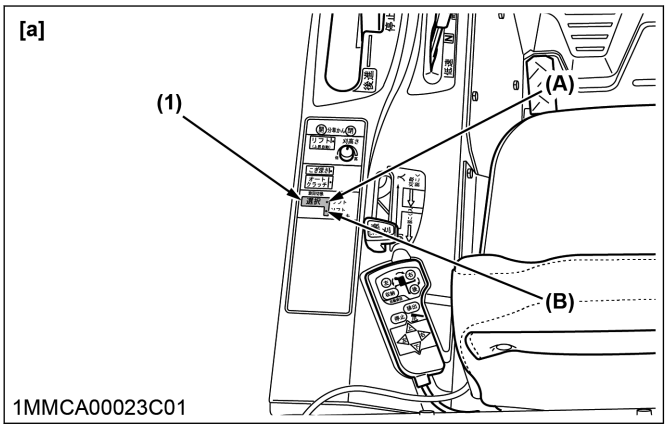


(1) パワーステアリングレバー　*(A)* 低速
(B) 高速

- **エンジンが停止中で、刈取部が上がっているときにパワーステアリングレバーを前方（“下”方向）に倒しても刈取部は下がりません。**

5.4 旋回モード切換えスイッチ

旋回方式を選択するスイッチです。作業条件に応じて切り換えてください。



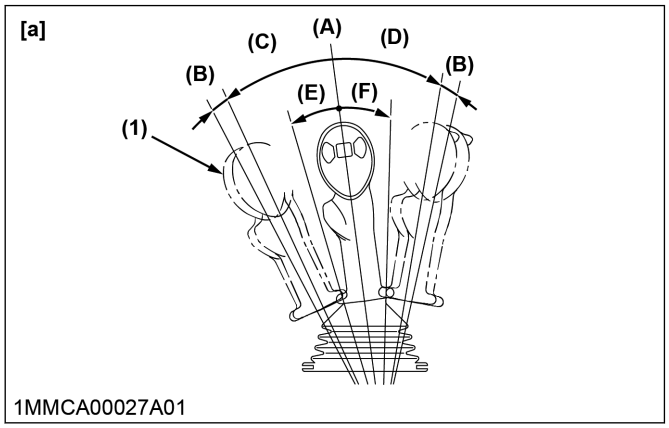
(1) 旋回モード切換えスイッチ　*[a]* イラストは *L* 仕様

(A)	“ソフトターン”	左右のクローラに回転差をつけ両輪で駆動しながら旋回します。 旋回半径はやや大きくなりますが、湿田やほ場の荒れを少なく作業する場合や移動走行時に使用してください。
(B)	“ソフト・ブレーキターン”	パワーステアリングレバーを右または左に倒すと、ソフトターンで旋回し、一定角度以上倒すとブレーキターンに切り換わります。 ブレーキターンは、倒した方向のクローラの駆動が停止した状態で旋回します。 小回りが必要なときに使用してください。

補足：

- **通常の刈取作業を行うときは、“ソフト・ブレーキターン”にしてください。**

運転席に座って操作する方向



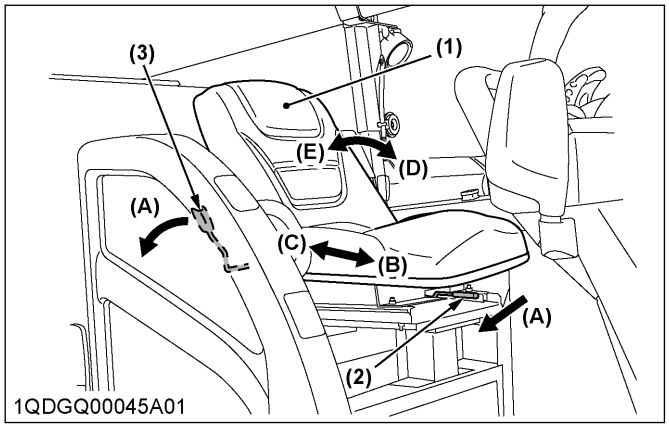
(1) パワーステアリングレバー
(A) ソフトターン範囲
(B) ブレーキターン範囲
(C) 左旋回
(D) 右旋回
(E) 左方向修正
(F) 右方向修正
[a] イラストは *L* 仕様

- **副変速切換えスイッチを“*H*（走行位置）”に切り換えると、旋回モード切換えスイッチで選択しているモードに関係無く旋回力が“ソフトターン”に固定されます。**
- **旋回モード切換えスイッチを操作すると、液晶ディスプレイに〝旋回切換　ソフト〟または〝旋回切換　ブレーキ〟と表示します。**

5.5 運転席（シート）

運転席は、“前、後”方向と“前傾斜”方向に調節できます。“前、後”方向は前後調節レバー、“前傾斜”方向はチルトレバーをそれぞれ引いて調節してください。

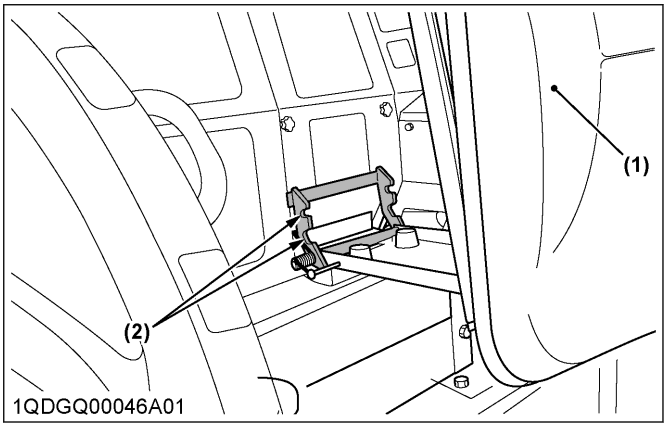
- 前後調節レバーでシートの前後を調節します。
- チルトレバーでシートの傾きを調節します。



(1) 運転席（シート）
(2) 前後調節レバー
(3) チルトレバー
(A) 引く
(B) 前
(C) 後
(D) 前傾
(E) 後方

補足：

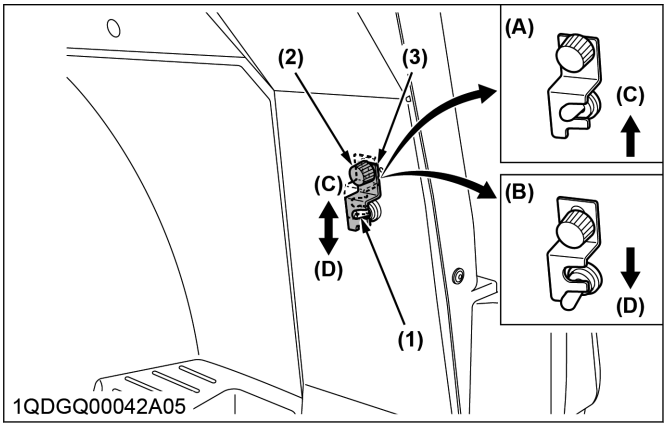
- **前傾斜方向は 2 段階に調節できますが、運転席後下の切欠部にロッドを必ず掛けてフックしてください。**



(1) 運転席（シート）
(2) 切欠部

5.6 刈取下降ロックスイッチ

刈取部を下降防止するロックスイッチです。
刈取下降ロックスイッチを下げる（“ロック”位置）と、パワーステアリングレバーを操作しても刈取部は下降しません。



(1) 刈取下降ロックスイッチ
(2) 樹脂ボルト
(3) スイッチロック金具
(A) アンロック状態
(B) ロック状態

(C)	解除	解除するときは、刈取下降ロックスイッチを上げる（“解除”位置）
(D)	ロック	刈取下降ロックスイッチを下げる（“ロック”位置）と、パワーステアリングレバーを操作しても刈取部は下降しない

補足：

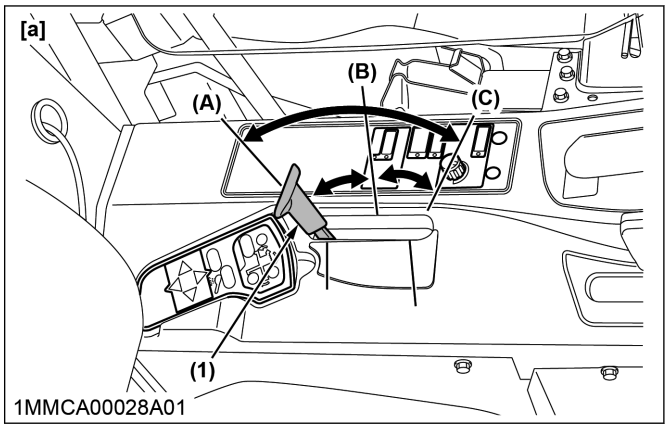
- **刈取下降ロックスイッチを下げたときは、必ずスイッチロック金具で刈取下降ロックスイッチを固定し解除防止してください。また、刈取下降ロックスイッチを上げたときも、誤作動防止のため、スイッチロック金具で固定してください。スイッチロック金具は樹脂ボルトをゆるめて動かしてください。**

- **エンジンを始動しないと刈取部は上昇、下降しません。**

6. 刈取、脱こく関係の名称とはたらき

6.1 作業レバー（楽刈レバー）

脱こく部と刈取部の動力の“入、切”、およびエンジン回転を刈取作業時の回転数に自動調整するクラッチレバーです。

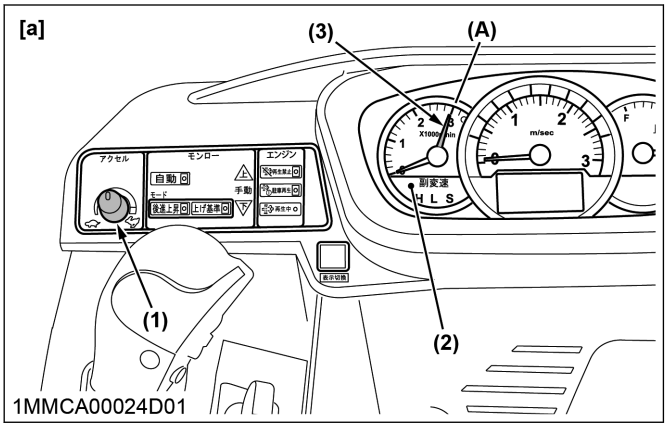


(1) 作業レバー　　*[a]* イラストは *L* 仕様

(A)	**[切]**	脱こく部と刈取部が停止
(B)	**[刈取切]**	刈取部が停止状態
(C)	“刈取、脱こく” **[入]**	脱こく部と刈取部が作動し、エンジン回転数を刈取作業時の回転数に自動調整する

補足：

- **作業レバーを“刈取、脱こく”[入]位置にすると、脱こく部が作動すると同時にエンジン回転数が刈取作業時の回転数に自動的にセットされ、自動こぎ深さ制御がはたらきます。また、このとき刈取部は作動状態です。**
- **作業レバーを[切]位置から[刈取切]位置にしたとき、脱こく部と刈取部は停止状態です。また、作業レバーを“刈取、脱こく”[入]位置から[刈取切]位置にすると刈取部が停止し、脱こく部は作動状態となります。**
- **作業レバーを“刈取、脱こく”[入]位置にしたときのエンジン回転数は、手動アクセルダイヤルの位置に関係無く、作業回転となります。**

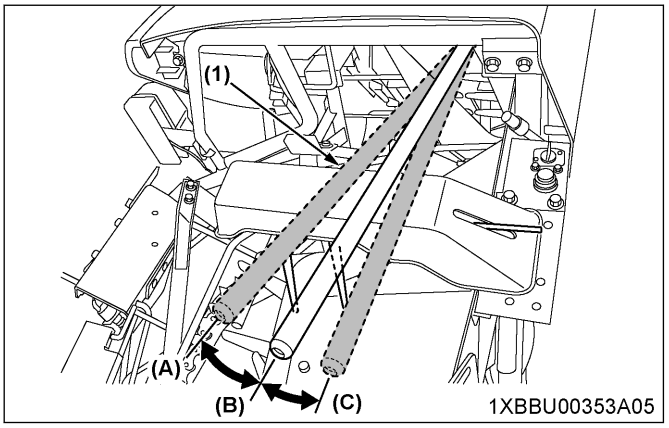


(1) 手動アクセルダイヤル
(2) エンジン回転計
(3) 指針
(A) 刈取作業時の回転数
[a] イラストは *L* 仕様

- **作業レバーを“刈取、脱こく”[入]位置にしたあとにエンジン回転数の調整を行うときは、手動アクセルダイヤルを回してください。手動アクセルダイヤルで設定したエンジン回転数が優先されます。**
- **作業レバーを“刈取、脱こく”[入]から[切]位置にしたとき、エンジン回転数は刈取作業時の回転数の状態です。**

6.2 引起し変速レバー

刈取部の速度を切り換えるレバーです。
作物や作業状態に合わせて“低速”、“高速”の 2 段階に変速します。



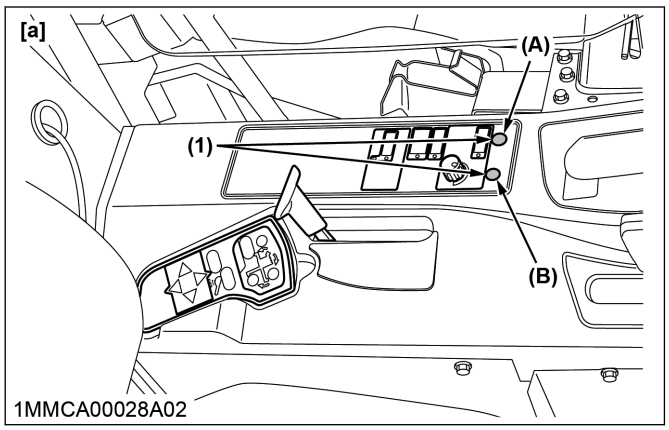
(1) 引起し変速レバー
(A) 低速
(B) 中立
(C) 高速

補足：

- **刈取変速、引起し変速の選択方法（113 ページ）を参照して適正な引起し速度を選んでください。**
- **引起し部の開閉を行うときは、引起し変速レバーを“中立”位置にしてください。**
  （引起し部の開閉（146 ページ）を参照）

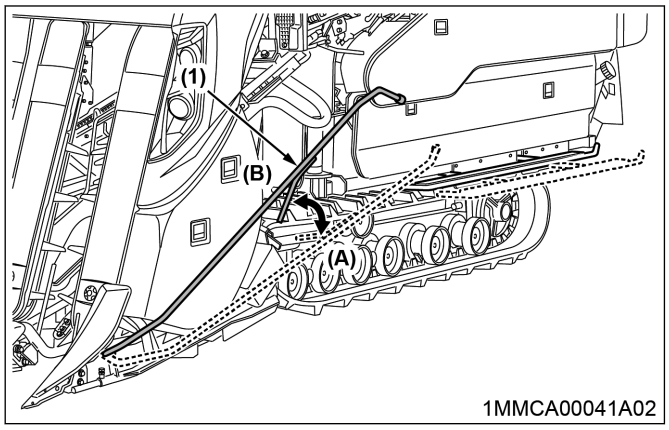
6.3 左分草かん開閉スイッチ

左分草かん前を開閉するスイッチです。



(1) 左分草かん開閉スイッチ　　*[a]* イラストは *L* 仕様

(A)	**[開]**	押し続けると左分草かんが開く（倒れる）
(B)	**[閉]**	押し続けると左分草かんが閉じる（上がる）



(1) 左分草かん　　*(A)* 開
(B) 閉

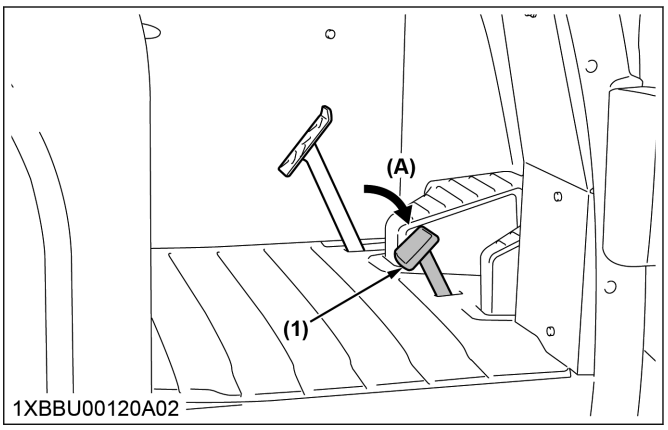
補足：

- **左分草かん開閉スイッチを操作すると、エンジン停止中でも、メインスイッチのキーが[入]の位置で左分草かんは開閉しますが、バッテリ上がり防止のため、エンジンを始動してから操作してください。**
- **左分草かんは手動でも開閉操作が行えます。**
- **左分草かん開閉スイッチを押すと、液晶ディスプレイに〝分草かん　開〟または〝分草かん　閉〟と表示します。**

6.4 刈取りかき込みペダル

あぜぎわなどの前進しながら刈取作業できない状況で刈取作業する場合、機体の走行を停止した状態で作物を刈り取るときに使用するペダルです。
作業レバーを**[入]**位置にしたあと、かき込みペダルを踏み込み、主変速レバーを**[前進]**側に操作すると刈取部および搬送部が動き、作物を刈り取り（かき込み）ます。

1. 主変速レバーをいったん**[停止]**位置に戻します。
2. かき込みペダルをいっぱいまで踏み込みます。
3. そのあと、主変速レバーを再度**[前進]**側に操作します。



(1) 刈取りかき込みペダル　　*(A)* 踏み込む

補足：

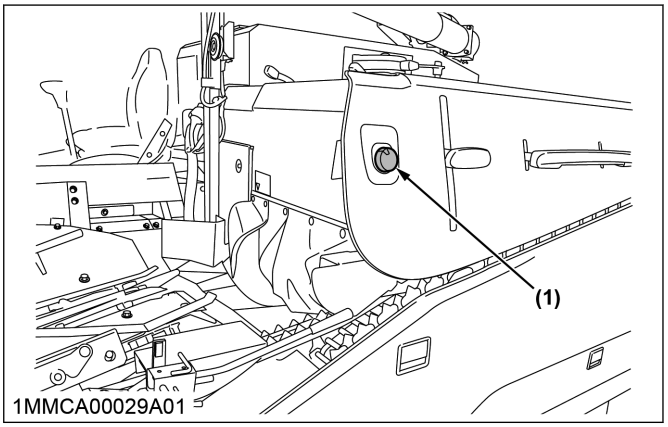
- **誤操作による急発進を防ぐため、主変速レバーをいったん[停止]位置近くまで戻さないとペダルを離しても発進しません。**
- **かき込み作業中に誤作動を起こすおそれがあるため次の事項を守ってください。**
  - **かき込みペダルから足を離さないでください。**
  - **パワーステアリングレバーを左または右方向に動かさないでください。**
- **次の条件のときは、かき込みペダルを踏み込んでも刈取部が作動しません。**
  - **駐車ブレーキが掛かっているとき**
  - **作業レバーが[切]位置のとき**
- **作業レバーが[刈取切]位置のとき、かき込みペダルを踏み込んだ状態で主変速レバーを操作すると機体が前進または後進します。**

かき込み作業を終了するとき

1. 主変速レバーをいったん**[停止]**位置に戻します。
2. かき込みペダルから足を離します。

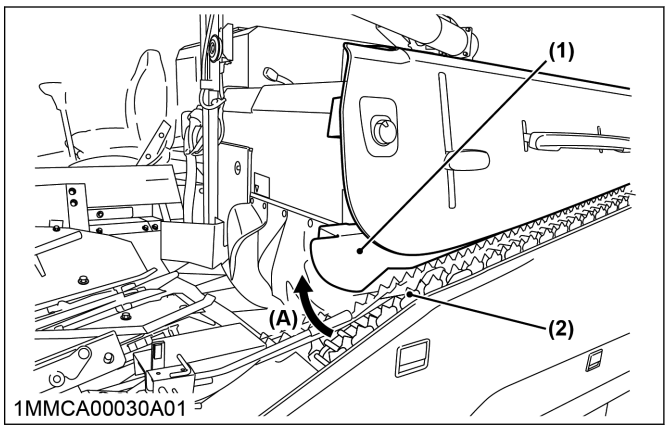
6.5 エンジン停止スイッチ

エンジンを停止するスイッチです。



(1) エンジン停止スイッチ

エンジン停止スイッチを押すと、エンジンが停止すると同時にブザーが鳴り、フィードチェーンが急停止し、レール台前方部が上方へ開きます。



(1) レール台
(2) フィードチェーン
(A) 上がる

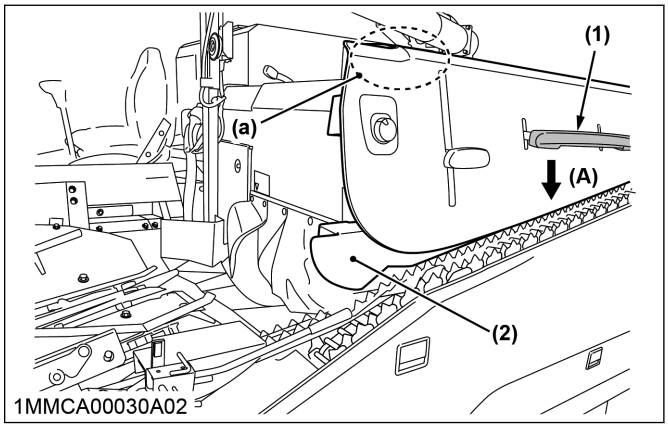
補足：

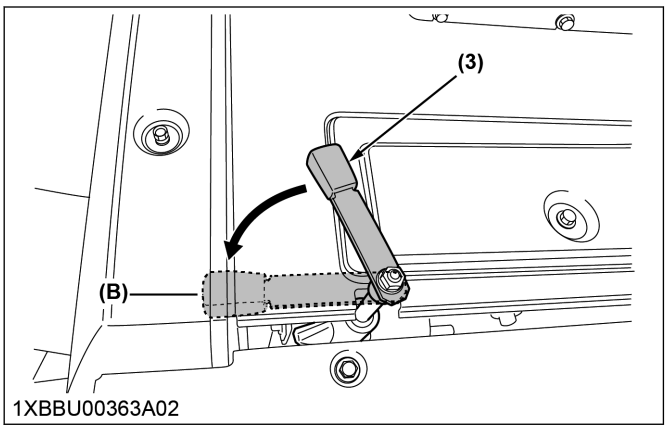
- **エンジン停止スイッチを押すと、液晶ディスプレイに〝エンジン停止しました〟⟷〝メインスイッチ切にして下さい〟を一定時間交互に表示します。**

6.5.1 機体の作業状態への復帰のしかた

エンジン停止スイッチで停止した機体を作業状態へ復帰するための手順です。

1. メインスイッチのキーを**[切]**位置、作業レバーを**[切]**位置、主変速レバーを**[停止]**位置にセットします。
2. オープンハンドルを持ってレール台を下方へ押さえながら、レール台ロックレバーを引いて、レール台ロックレバーを“作業時レバー位置”にセットしてレール台を固定します。



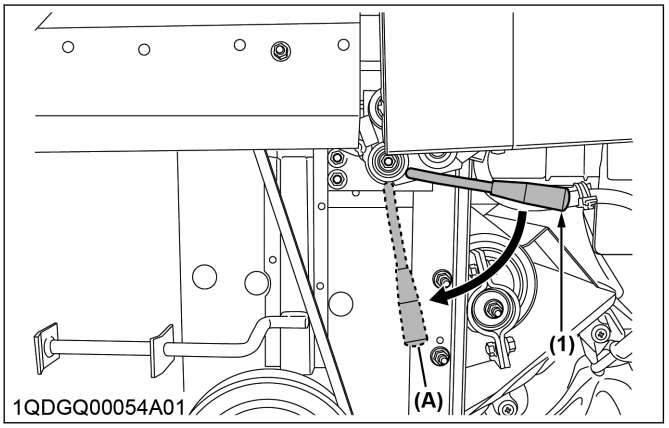


(1) オープンハンドル
(2) レール台
(3) レール台ロックレバー
(A) 下方へ押す
(B) 作業時レバー位置

補足：

- **レバーが引けないときは、メインスイッチのキーを[入]位置にして約 10 秒待ったあと、[切]位置に切り換え、再度、レバーを引いてください。**

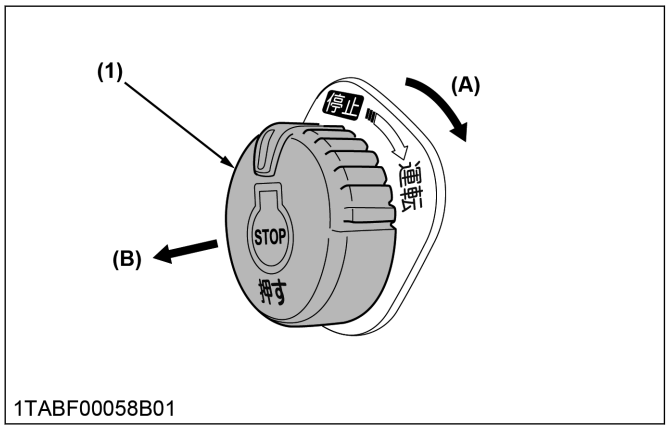
3. 左サイドカバー上を取り外します。
4. 左サイドカバー下を取り外し、フィードチェーンクラッチレバーを“作業時レバー位置”にセットします。



(1) フィードチェーンクラッチレバー
(A) 作業時レバー位置

5. 左サイドカバー上、下を取り付けます。

6. エンジン停止スイッチを**[停止]**位置から時計方向いっぱいまで回してから、手前方向に“コツン”と音が鳴るまで確実に引き上げ、**[運転]**位置にセットします。

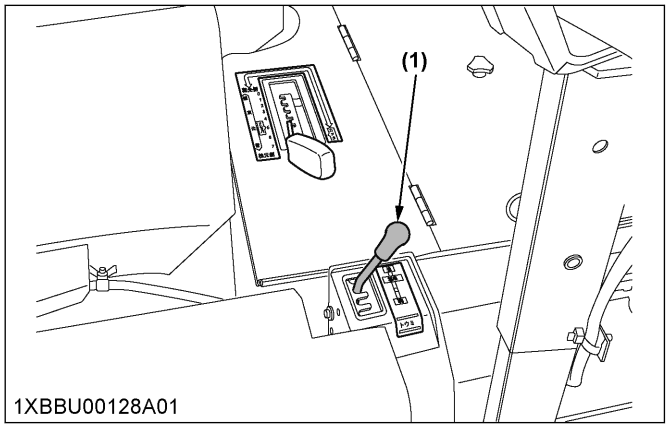


(1) エンジン停止スイッチ　　*(A)* 回す
(B) 引く

補足：
- **レール台が上方に開いたままエンジンを再始動し、次のように脱こくクラッチを“入”にセットすると、エンジンが停止すると同時にブザーが鳴ります。**
  – 作業レバーを[刈取切]または[入]位置
- **フィードチェーンクラッチレバーが“作業時レバー位置”に無いときは、エンジンや脱こく部は作動しますが、フィードチェーンは作動しません。**

6.6 トウミ調節レバー

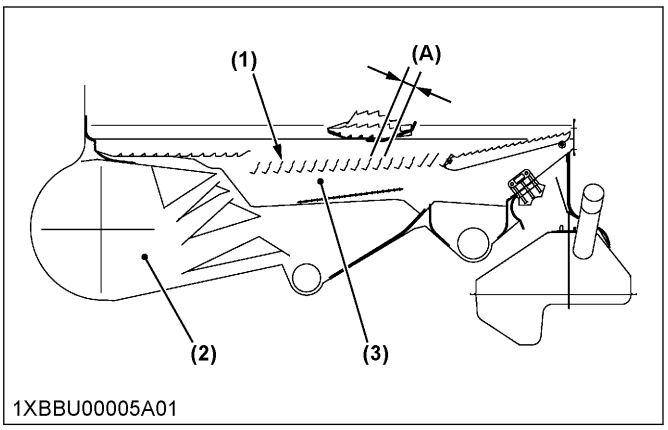
トウミの風力調節を行うレバーです。
作物や選別状態に合わせて 4 段階の調節ができます。



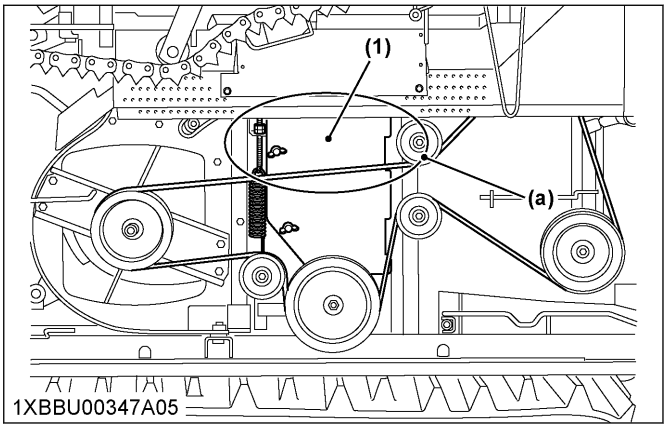
(1) トウミ調節レバー

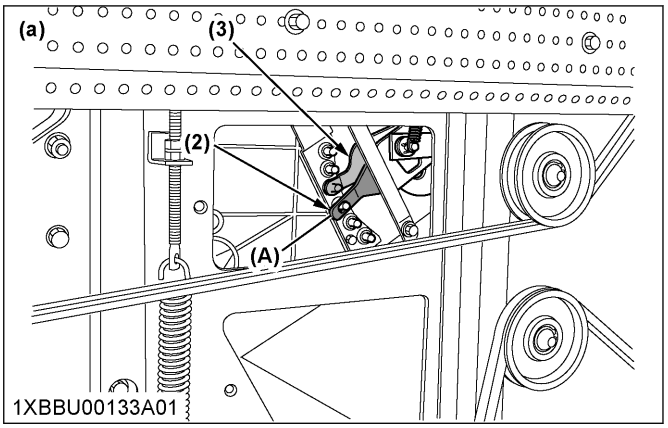
6.7 チャフ調節レバー

シーブケースにあるチャフのすき間（開度）の調節を行うレバーです。
作物や選別状態に合わせて 6 段階の調節ができます。



(1) チャフ　　*(A)* すき間（開度）
(2) トウミ
(3) シーブケース





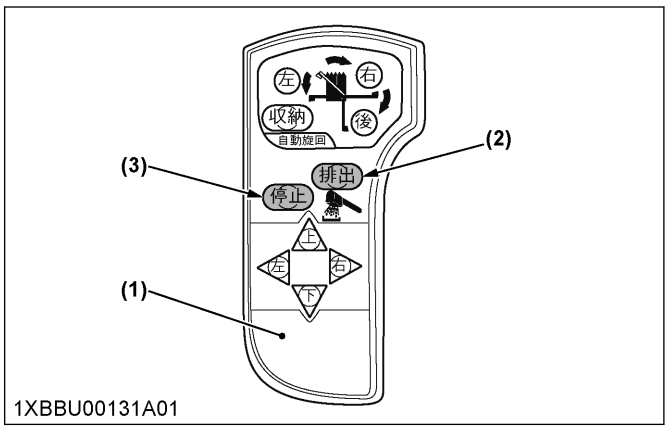
(1) *1* 番スクリュ上部左掃除口カバー
(A) *4* 段目（出荷時）
(2) チャフ調節レバー
(3) 固定用レバー

補足：
- **チャフ調節レバーは、左サイドカバーを取り外し、脱こく部左の掃除口カバーを取り外すとあります。**
- **調節は、チャフ調節レバーで行ってください。また、固定用レバーは動かさないでください。**
- **出荷時は、上から*“4* 段目”位置です。**

7. グレンタンク関係の名称とはたらき

7.1 もみ排出スイッチ

グレンタンク内のもみを排出操作するスイッチです。



(1) マルチアンローダリモコン

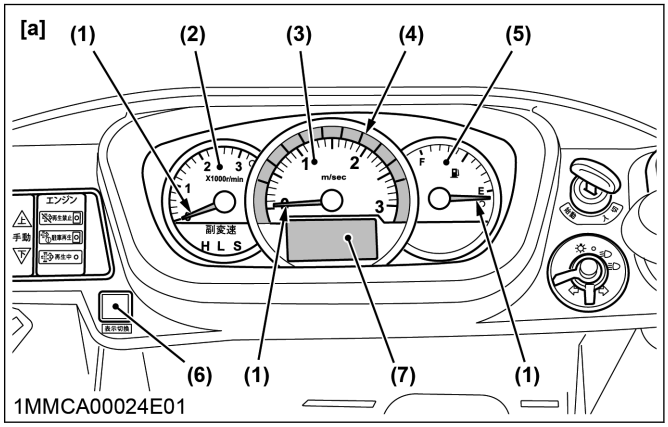
(2)	もみ排出スイッチ	押すとアンローダからもみを排出
(3)	もみ排出停止スイッチ	もみの排出中に押すと、もみの排出が停止

補足：

- **エンジン始動後に、アンローダが収納状態になっているときや、作業レバーが[切]位置になっていないときは、もみ排出スイッチを操作しても、もみは排出されません。**

8. 電装関係の名称とはたらき

8.1 ファインビューメータ



(1) 指針
(2) エンジン回転計
(3) 速度計
(4) 負荷メータ
(5) 燃料計
(6) 表示切換えスイッチ
(7) マルチナビ（液晶ディスプレイ）

[a] イラストは *L* 仕様

補足：

- **メインスイッチのキーを[切]位置から[入]位置にすると、各ランプが一定時間すべて点灯してランプ点灯確認すると同時に、各メータの指針が動いて作動確認します。**

8.1.1 ファインビューメータの各メータ

8.1.1.1 エンジン回転計

1 分間のエンジン回転数を指針で表示します。
エンジン回転数の単位は r/min (rpm)です。

8.1.1.2 燃料計

燃料の残量を指針で表示します。
燃料の残量は**[E]**“空”⟷**[F]**“満タン”です。

8.1.1.3 速度計

1 秒間に進む距離を指針で表示します。
速度計の単位は m/s です。

補足：

- **ほ場条件により実際の速度と異なる場合があります。**

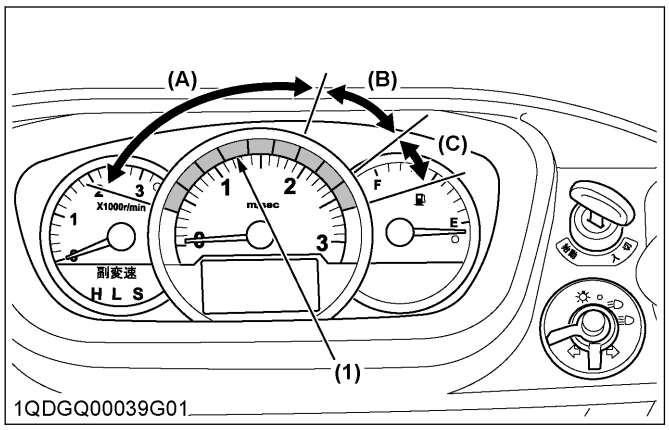
8.1.1.4 負荷メータ

刈取作業中にエンジンに掛かる負荷の大きさに応じて順番にランプが点灯します。

補足：

- **エンジン回転数は、負荷が大きくなるほど下がります。負荷メータのランプ点灯表示で次表のようになります。**

状態	負荷メータの目盛	ランプの色
適正状態	**適正範囲** 6 目盛	緑色
⬇		
減速	**減速範囲** 2 目盛	オレンジ色
⬇		
即時減速	**即時減速範囲** 1 目盛	赤色



(1) 負荷メータ
(A) 適正範囲
(B) 減速範囲
(C) 即時減速範囲

8.1.2 マルチナビ

マルチナビは機械の状態や状況（通常作業時、異常発生時、誤操作時など）に応じて、液晶ディスプレイに必要な情報を表示します。

補足：
- **表示切換えスイッチは、液晶ディスプレイに異常や警報を表示したときに通常表示に戻す場合やメンテナンス作業で使用します。**

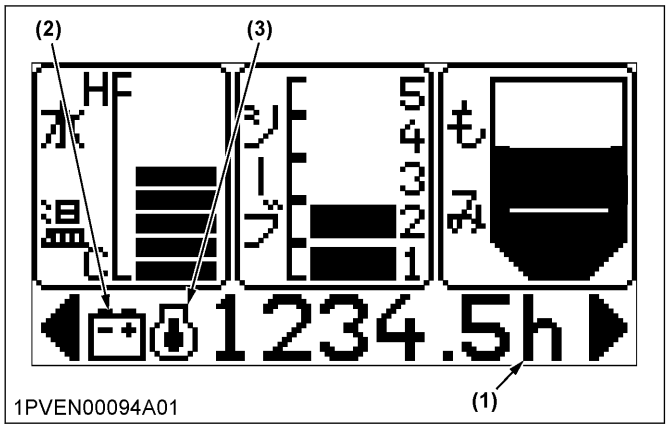
8.1.2.1 移動走行、通常作業時のマルチナビの表示

8.1.2.1.1 アワメータ、オイル、充電表示

駐車ブレーキが掛かっていない状態でメインスイッチのキーを**[切]**位置から**[入]**位置にすると表示します。エンジンは停止状態です。

"アワメータ"表示
単位はｈ（時間）
エンジン運転時間の積算使用時間を表示します。

"オイル、充電"表示
オイルの圧力と充電状態に異常が発生したとき、警報を出す準備状態にあることを表示します。



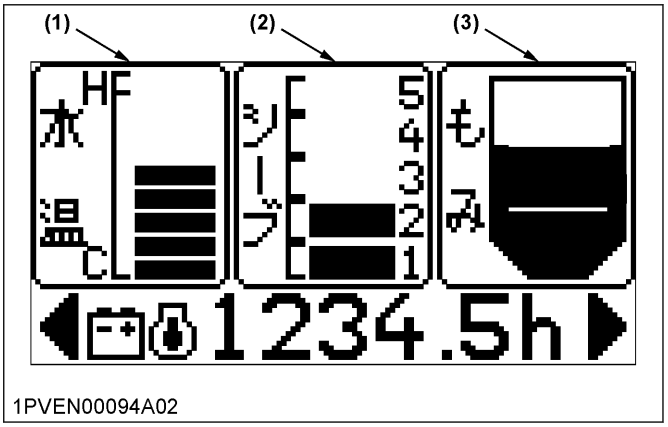
(1) アワメータ
(2) 充電
(3) オイル

重要：
- **異常が発生したときは、直ちに購入先に連絡してください。**
- **メインスイッチのキーが[入]でエンジンが停止状態では表示していますが、表示が消えているときは警報機能に異常があります。その場合は、直ちに購入先に連絡してください。**

補足：
- **エンジン始動中、異常発生時以外のときは、オイル、充電表示はされません。**

8.1.2.1.2 水温、シーブ、もみ表示

エンジン始動後、作業時の基本表示〝水温〟、〝シーブ〟、〝もみ〟を表示します。



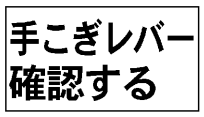
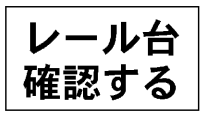
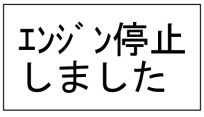
(1) 水温
(2) シーブ
(3) もみ

8.1.2.2 異常発生時のマルチナビの表示

補足：
- **処置については、マルチナビによる異常の確認と処置（127 ページ）を参照してください。**

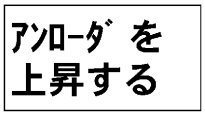
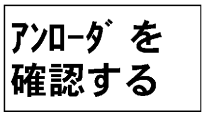
燃料を給油	 1GAGG00136A01	燃料の残量が少なくなると表示します。
充電系異常	 1GAGG00137A01	充電系統に異常が発生すると表示します。
エンジン油圧異常	 1GAGG00138A01	エンジンオイルの圧力が異常に低下すると表示します。
オーバーヒート	 1GAGG00139A01	エンジンの冷却水温が高温になると表示します。
負荷	 1GAGG00140A01	刈取作業中にエンジンに大きな負荷が掛かると表示します。
もみ満杯	 1KATP00637A01	グレンタンク内のもみが満杯になると表示します。
2 番	 1KATP00638A01	2 番処理ケース内、または 1 番、2 番縦スクリューケース内が詰まると、表示します。
こぎ深さ	 1KATP00639A01	自動こぎ深さ制御がはたらいている状態で、穂先センサにわらの引掛かりなどの異常が発生すると表示します。
シーブ	 1KATP00640A01	脱こく機の選別板上のもみの量が異常に多くなったとき表示します。

（次へ続く）

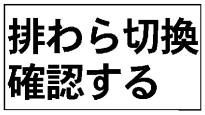
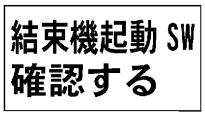
排わら	 1KATP00709A01	フィードチェーン終端部にわらが詰まり、“エンジン自動停止装置”の作動によりエンジンが自動停止すると表示します。
カッタ	 1KATP00642A01	わら処理（カッタ）部にわらが詰まり、“エンジン自動停止装置”の作動によりエンジンが自動停止すると表示します。
DPF	 1GAGG00145A01	DPF が自動再生できなくなると表示します。
手こぎレバー	 1PVEN00420A01	手こぎレバーが“手こぎ”位置のとき、刈取作業を開始すると表示します。
レール台	 1PVEN00421A01	レール台の前方部が上方に開いたまま、次のように脱こくクラッチを“入れる”と、エンジンが停止し、表示します。 ・ 作業レバーを**[刈取切]**または**[入]**位置
燃料系水混入	 1GAGG00146A01	油水分離器（セパレータ）に水がたまり、排水レベルになると表示します。
排気管外れ	 1QDGQ00055A01	エンジン始動後に排気管が外れると、エンジン回転が低下し、表示します。
エンジン停止スイッチ	 1QDGQ00164A01	エンジン停止スイッチが押されると表示します。
結束詰まり	 1KATP00644A01	**[オプションで結束機を付けた場合]**結束機にわらが詰まり、“エンジン自動停止装置”の作動によりエンジンが自動停止すると表示します。
結束ひも切れ	 1KATP00644A01	**[オプションで結束機を付けた場合]**結束機のひもが切れ、“エンジン自動停止装置”の作動によりエンジンが自動停止すると表示します。

8.1.2.3 誤操作時のマルチナビの表示

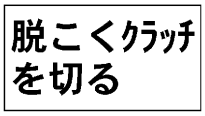
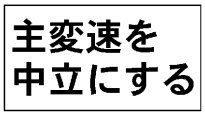
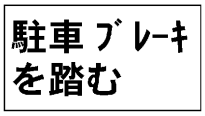
アンローダ誤操作時の表示

アンローダを上昇する	 1GAGG00149A01	アンローダ“下降不可範囲”内および“下降規制範囲”内で、誤ったアンローダリモコンの操作をすると表示します。 **補足：** • **“下降不可範囲”については、もみの排出のしかた（114 ページ）を参照してください。**
アンローダを確認する	 1GAGG00150A01	アンローダが収納位置以外の位置のとき、走行を開始すると表示します。

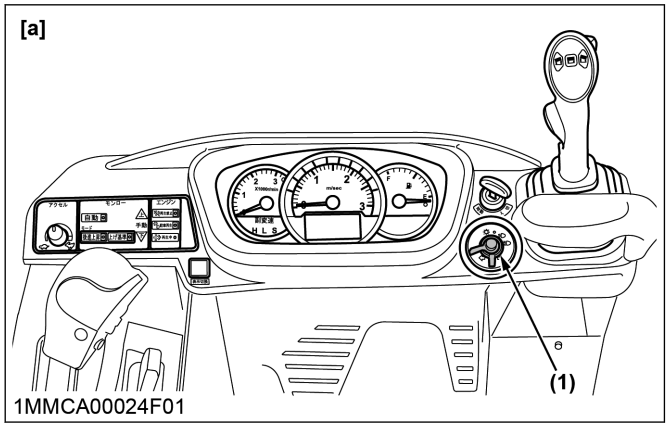
その他の操作時の表示

排わら切換確認する	 1KATP00647A01	カッタ部にわらや雑草が詰まり、カッタ切換えカバーが切り換わらなかったときに表示します。
結束機起動 SW 確認する	 1KATP00648A01	**［オプションで結束機を付けた場合］**結束機起動スイッチが“*ON*（入）”位置のとき、わら処理切換えスイッチを押すと表示します。

エンジン始動時にメインスイッチのキーを**[始動]**位置にしたとき、始動条件を満たしていない場合、その内容を表示します。

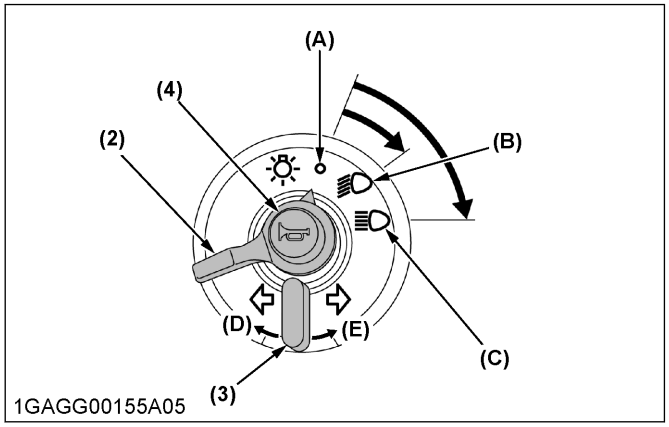
脱こくクラッチを切る	 1GAGG00151A01	• 作業レバーが**[刈取切]**または**[入]**位置のときに表示します。
主変速を中立にする	 1GAGG00152A01	主変速レバーが**[停止]**（中立）位置以外のときに表示します。
駐車ブレーキを踏む	 1GAGG00153A01	駐車ブレーキペダルを踏んでいないときに表示します。
停止 SW 確認する	 1QDGQ00055A01	排気管が外れているときに表示します。

8.2 コンビネーションスイッチ、ホーンスイッチ



(1) コンビネーションスイッチ　*[a]* イラストは *L* 仕様

(1)コンビネーションスイッチの詳細



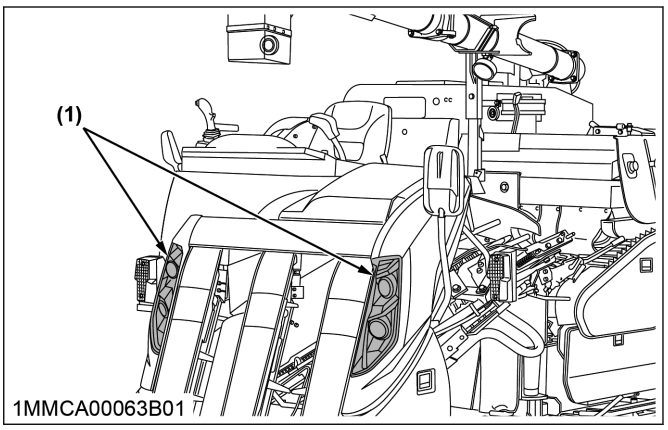
(2) ライティングスイッチ
(3) ウインカスイッチ
(4) ホーンスイッチ
(A) ヘッドランプ、作業灯消灯位置
(B) ヘッドランプ点灯、作業灯消灯位置
(C) ヘッドランプ、作業灯点灯位置
(D) 左点滅
(E) 右点滅

8.2.1 ライティングスイッチ

スイッチを操作するとランプが点灯します。

重要：

- **刈取部の左、右にあるヘッドランプと作業灯のカバーに保護ビニールが貼られているときは、保護ビニールをはがしてください。ライトの熱でビニールが溶けたりライトが高熱になり破損する原因となります。**



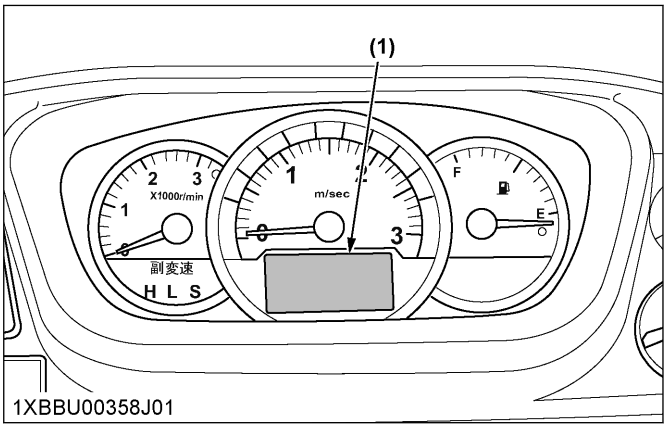
(1) 保護ビニール

8.2.2 ホーンスイッチ

ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。

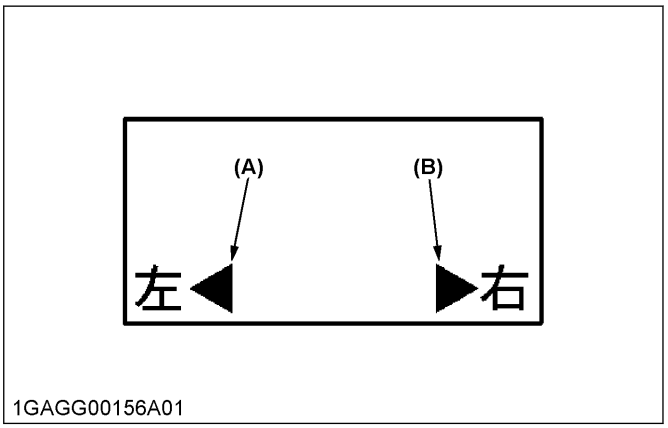
8.2.3 ウインカスイッチ

旋回方向に操作すると、ウインカランプが点滅すると同時にマルチナビの液晶ディスプレイに旋回方向のウインカ表示が点滅します。



(1) 液晶ディスプレイ

(1)液晶ディスプレイのウインカ表示ランプ

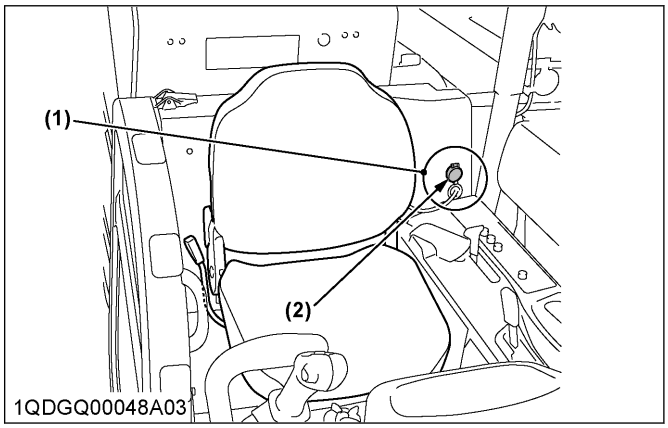


(A) 左点滅　*(B)* 右点滅

重要：
- **ウインカスイッチを操作した際、ウインカ表示“左”◀または“右”▶が高速点滅（いつもより点滅速度が速い）したときは、ウインカランプの故障またはハーネスのカプラの接続不良が発生しています。（処置については、電気の各配線コード、各ヒューズの点検、交換（241 ページ）、ランプの電球の点検、交換、ホーンスイッチの点検（244 ページ）を参照）**

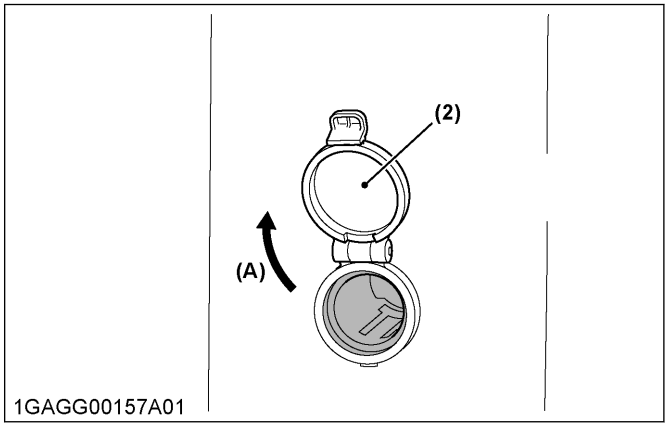
8.3 DC 電源ソケット

12 V 用電源として使用してください。
DC 電源ソケットを使用するときは、キャップを上げてソケットを差し込んでください。また、使用後はキャップを閉じてください。



(1) *DC* 電源ソケット　　*(2)* キャップ

(1) DC 電源ソケットの拡大図

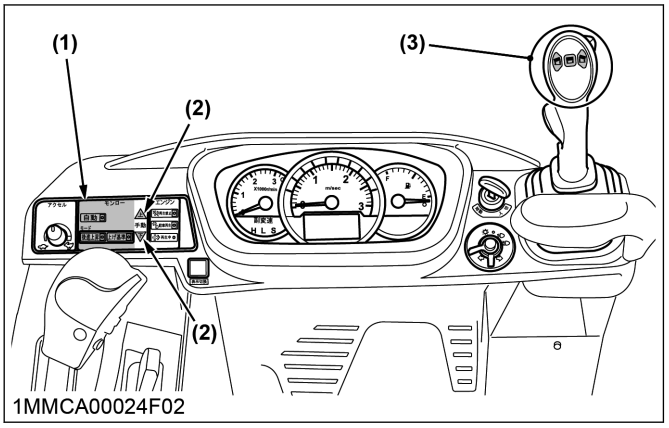


(2) キャップ　　*(A)* 上げる

補足：
- **DC 電源の最大容量は 120 W です。**
- **DC 電源ソケットはメインスイッチが[切]位置のときには使用できません。**

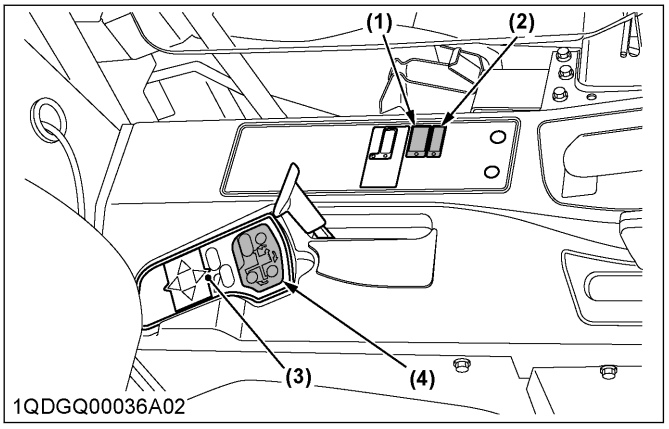
自動化装置の名称とはたらき

[L 仕様]



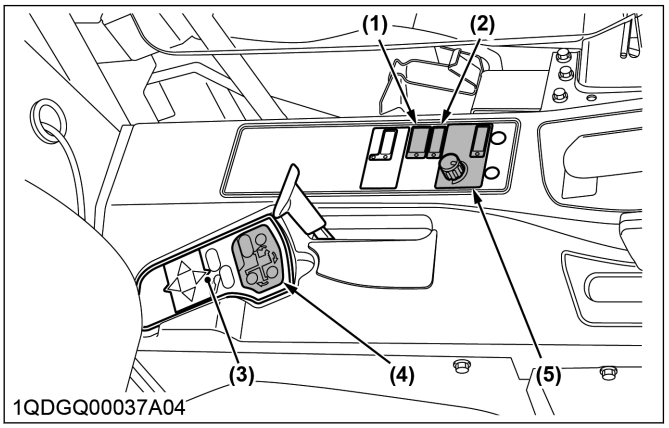
(1) 自動車体水平制御装置（左右モンロー）　　*(2)* 水平操作手動スイッチ
(3) 傾斜角自動調節スイッチ

[L 仕様除く]



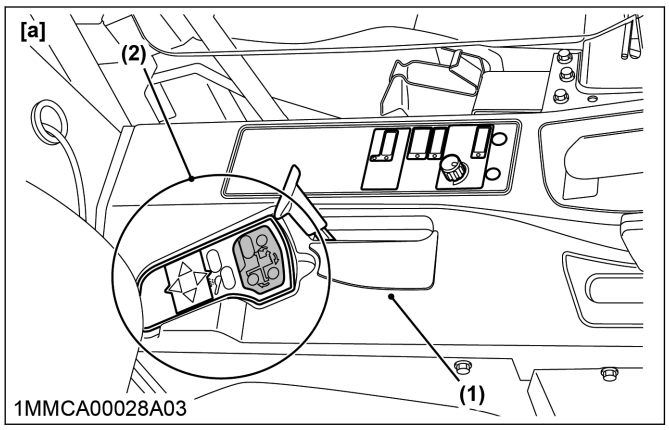
(1) 刈取オートクラッチ　　*(3)* マルチアンローダリモコン
(2) 自動こぎ深さ制御装置　　*(4)* アンローダ自動旋回制御

[L 仕様]



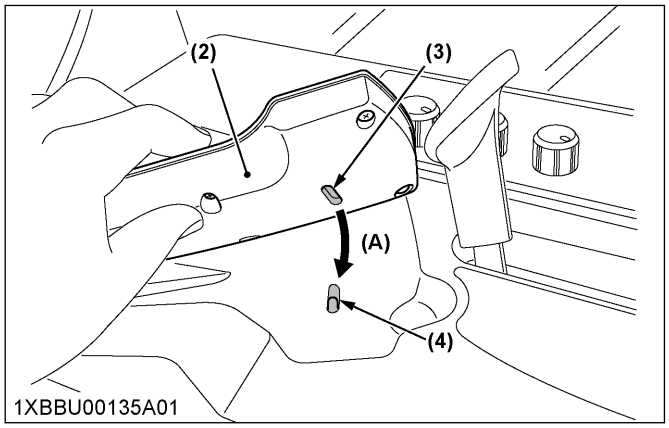
(1) 刈取オートクラッチ　　*(4)* アンローダ自動旋回制御
(2) 自動こぎ深さ制御装置　　*(5)* 自動刈高さ制御装置
(3) マルチアンローダリモコン

補足：
- **アンローダリモコンを左サイドパネル部に収納するときは、アンローダリモコン裏側の凹部を左サイドパネル部収納側の凸部に差し込んでください。**



(1) 左サイドパネル　　*[a]* イラストは *L* 仕様
(2) マルチアンローダリモコン

(2)マルチアンローダリモコン収納時



(3) 凹部　　*(A)* 差し込む
(4) 凸部

1. 自動化装置の走行操作関係の名称とはたらき

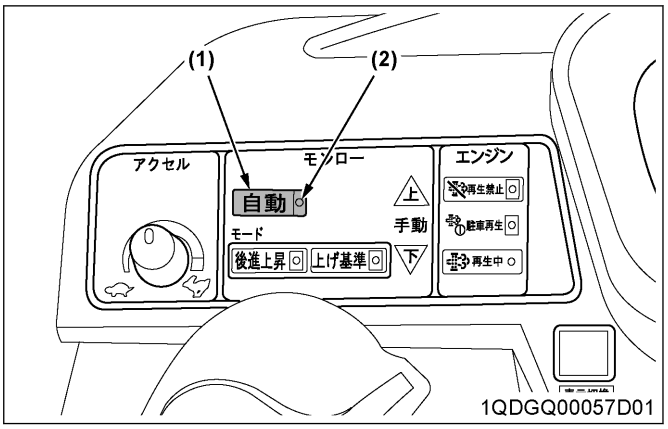
1.1 自動車体水平制御装置（左右モンロー）[L 仕様]

自動車体水平制御装置は、脱こく部が作動しているときに機体が左、右に傾くと、自動的に機体を水平状態に修正、保持する装置です。

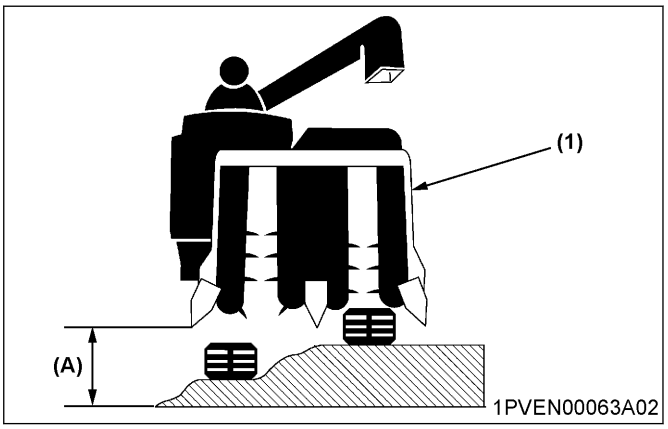
1.1.1 水平自動スイッチ［L 仕様］

自動車体水平制御を“入、切”するスイッチです。
水平自動スイッチを操作すると、液晶ディスプレイに〝モンロー入〟または〝モンロー切〟を一定時間表示します。

自動車体水平制御“入”	モンロー 入 1GAGG00160A01	ランプが点灯し、自動制御が作動します。
自動車体水平制御“切”	モンロー 切 1GAGG00161A01	ランプが消灯し、自動制御が解除されます。



(1) 水平自動スイッチ　　*(2)* ランプ



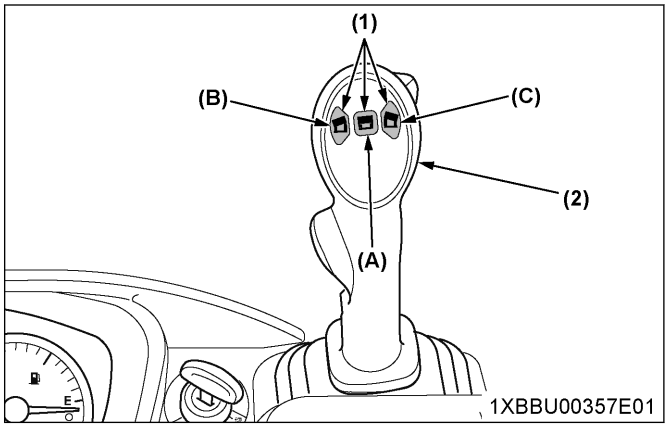
(1) 機体　　*(A)* 水平

補足：

- **自動で作業した後、作業レバーを[切]位置にセットする、または水平自動スイッチを“切る”と、機体は左右ともに最下降位置まで下がります（下限復帰）。また、下降中に、水平操作手動スイッチを操作すると下降が停止します。**

1.1.2 傾斜角手動調節スイッチ［L 仕様］

自動車体水平制御がはたらいているとき、機体を左または右に傾けた状態に制御するスイッチです。



(1) 傾斜角手動調節スイッチ　*(2)* パワーステアリングレバー

(A)		スイッチを押すと、左右水平となる状態で制御します。
(B)		スイッチを押している間、機体が“右上り”になります。また、スイッチから手を離すと、そのときの機体が傾いた状態（機体傾斜角）を保持するように制御します。
(C)		スイッチを押している間、機体が“左上り”になります。また、スイッチから手を離すと、そのときの機体が傾いた状態（機体傾斜角）を保持するように制御します。

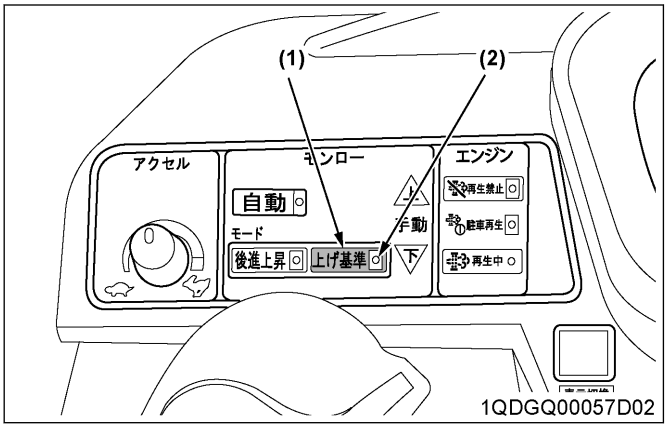
補足：

- **傾斜角手動調節スイッチの  または  スイッチを押している間、機体が傾きます。**
- **水平自動スイッチが“切”で自動車体水平制御が解除されているとき、 または  スイッチを押すと機体がその方向に傾きます。また、 スイッチを押すと機体は“最下降位置”まで下降します。**

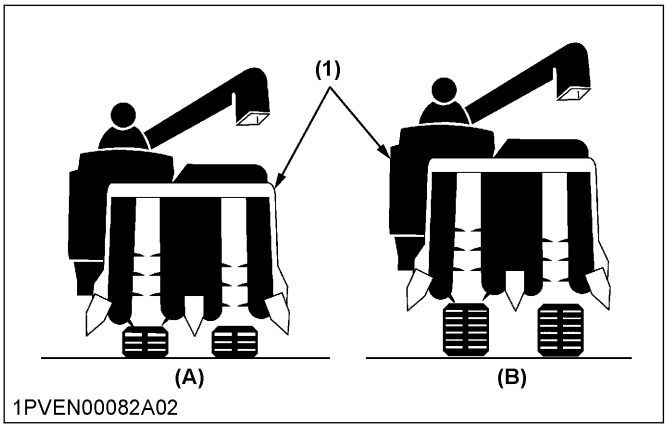
1.1.3 上げ基準スイッチ［L 仕様］

自動車体水平制御がはたらいているとき、水平制御の基準の高さを切り換えるスイッチです。
上げ基準スイッチを操作すると、液晶ディスプレイに〝上げ基準入〟または〝上げ基準切〟を一定時間表示します。

上げ基準“入”	 1KATP00653A01	ランプが点灯し、上げ基準で作動します。
上げ基準“切”	 1KATP00654A01	ランプが消灯し、下げ基準で作動します。



(1) 上げ基準スイッチ　*(2)* ランプ



(1) 機体
(A) 下げ基準（最下降位置）
(B) 上げ基準（最上昇位置）

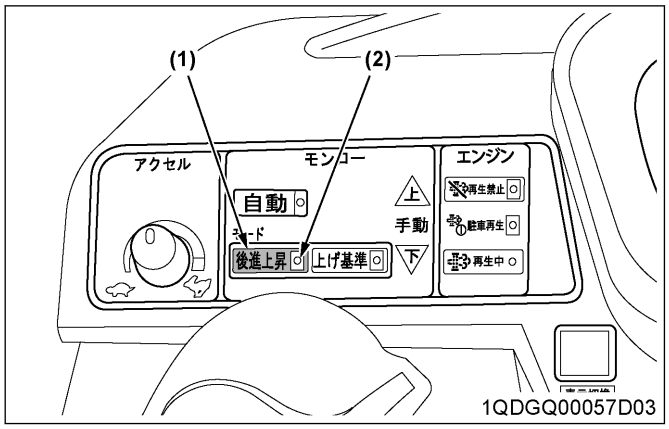
補足：

- **通常は“下げ基準（ランプ消灯）”で作業してください。**
  深い湿田での刈終わり時、旋回が困難な場合に上げ基準スイッチを押して“上げ基準（ランプ点灯）”状態に切り換えることで、旋回が容易になります。
  直進刈取状態になれば、再び上げ基準スイッチを押して“下げ基準（ランプ消灯）”に戻してください。
- **超湿田で“上げ基準”を選択したまま刈取作業すると、車体が深みにはまった場合、脱出不能になることがあります。超湿田では“下げ基準”で刈取作業してください。**

1.1.4 後進時機体上昇スイッチ［L 仕様］

自動車体水平制御が“下げ基準”で制御されているとき、機体が後進時のみ、“上げ基準”に切り換えるスイッチです。
後進時機体上昇スイッチを操作すると同時に、液晶ディスプレイに〝後進上昇入〟または〝後進上昇切〟を一定時間表示します。

後進時上昇“入”	後進上昇 入 1KATP00655A01	ランプが点灯し、後進時“上げ基準”で作動します。
後進時上昇“切”	後進上昇 切 1KATP00656A01	ランプが消灯し、後進時“下げ基準”で作動します。

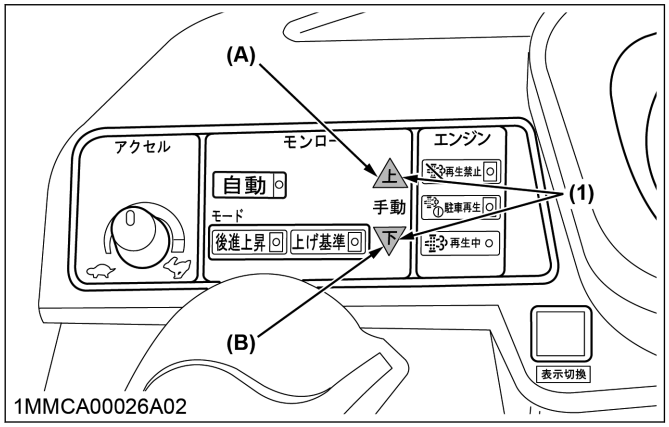


(1) 後進時機体上昇スイッチ　　*(2)* ランプ

補足：
- **乾田では後進時機体上昇スイッチを“切って”ください。**
- **湿田で後進時に機体が後上りになり後進しにくいときは、後進時機体上昇スイッチを“入れて”ください。**

1.2 水平操作手動スイッチ［L 仕様］

機体の“上昇”⟷“下降”を行う手動の操作スイッチです。



(1) 水平操作手動スイッチ

(A)	**[上]**	押すと機体が上昇
(B)	**[下]**	押すと機体が下降

補足：
- **水平操作手動スイッチを押している間、機体が上昇または下降します。**
- **傾斜地では操作しないでください。**
- **モンロー操作時、特に全上昇、全下降時は、エンジン回転数を上げてください。**

1.3 自動化装置の刈取、脱こく関係の名称とはたらき

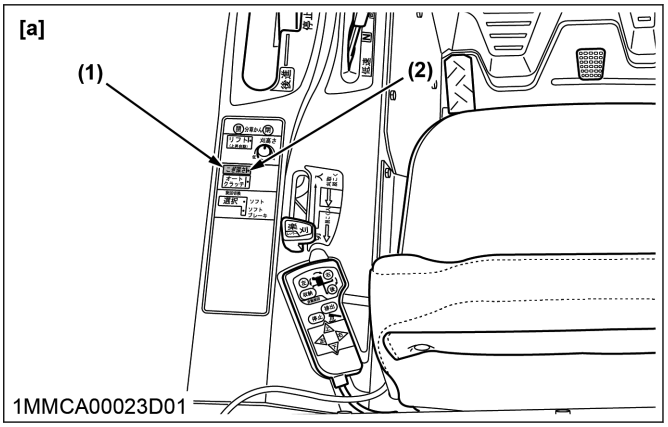
1.3.1 自動こぎ深さ制御装置

自動こぎ深さ制御装置は、作物の長さに応じて、適正なこぎ深さを保つ装置です。

1.3.1.1 自動こぎ深さスイッチ

自動こぎ深さ制御を“入、切”するスイッチです。
自動こぎ深さスイッチを操作すると、液晶ディスプレイに〝こぎ深さ入〟または〝こぎ深さ切〟を一定時間表示します。

自動こぎ深さ制御“入”	こぎ深さ 入 1KATP00661A01	ランプが点灯し、自動こぎ深さ制御が作動します。
自動こぎ深さ制御“切”	こぎ深さ 切 1KATP00662A01	ランプが消灯し、自動こぎ深さ制御が解除されます。



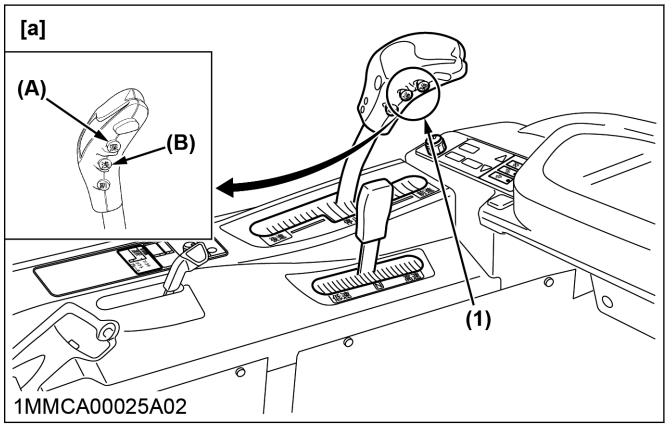
(1) 自動こぎ深さスイッチ　　*[a]* イラストは *L* 仕様
(2) ランプ

補足：
- **株元側、穂先側の穂先センサに浮きわらや雑草が引っ掛かると、正常な自動制御ができませんので取り除いてください。**
- **次の条件、状態のときは、手動で操作してください。**
  - **約 130 cm 以上の長かん作物を刈り取るとき**
  - **遅れ穂が多く、こぎ残しが出るとき**
  - **極端に作物の長さが不揃いのとき**
  - **雑草が多いとき**
  - **倒状作物を低速で刈り取るとき**

1.3.2 手動こぎ深さ制御

1.3.2.1 手動こぎ深さスイッチ

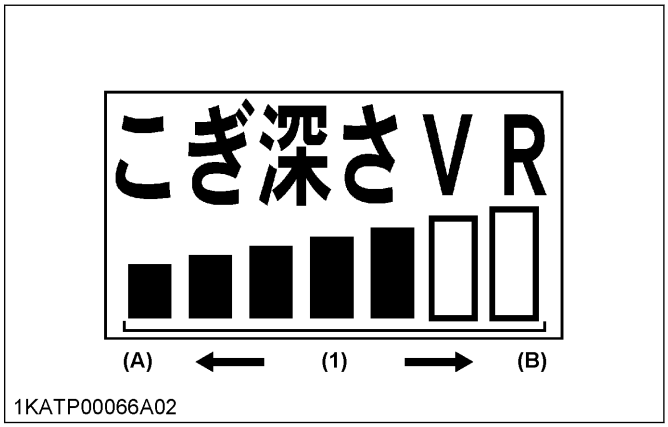
こぎ深さの調節を手動で行うスイッチです。
手動こぎ深さスイッチを操作すると同時に、液晶ディスプレイに 7 段階の目盛でこぎ深さチェーンの位置を表示します。



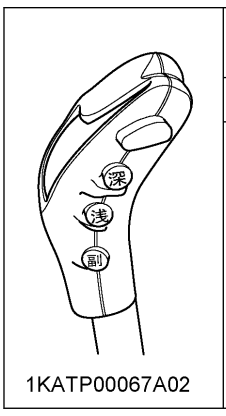
(1) 手動こぎ深さスイッチ　　*[a]* イラストは *L* 仕様

(A)	**[深]**（深こぎ）を押すとこぎ深さチェーンが上がる
(B)	**[浅]**（浅こぎ）を押すとこぎ深さチェーンが下がる

液晶表示



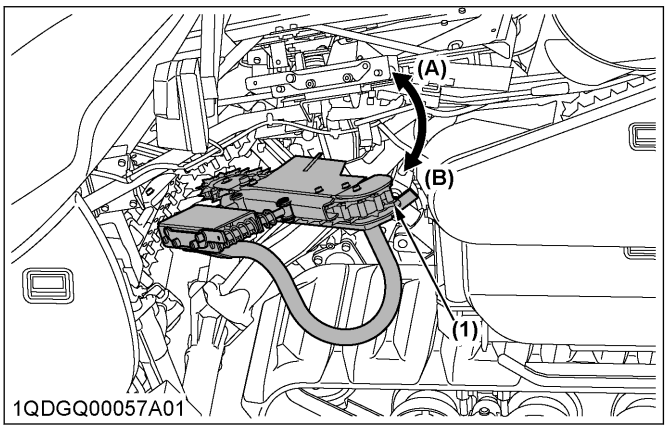
(1) こぎ深さ
(A) 浅い
(B) 深い



手動こぎ深さスイッチの操作	こぎ深さチェーンの動き
深	上がる
浅	下がる

補足：

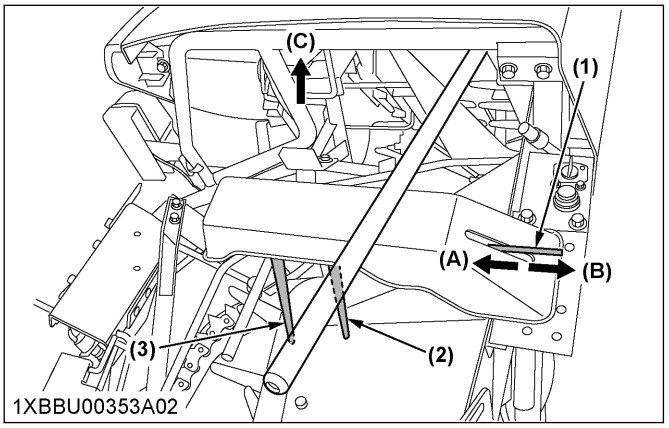
- **自動制御がはたらいているときでも、手動こぎ深さスイッチによる操作が優先されます。**



(1) こぎ深さチェーン
(A) 深こぎ
(B) 浅こぎ

1.3.2.2 穂先センサの位置調節について

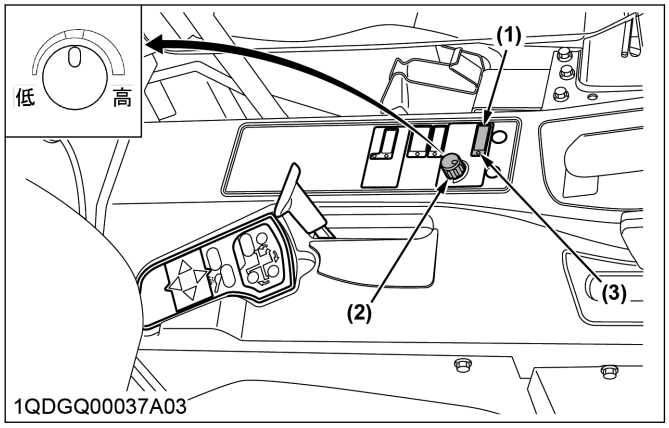
穂先センサの位置調節はこぎ深さ調節レバーで行います。
こぎ深さ調節レバーは、通常は“ほぼ中央”に合わせてください。
穂先センサの調節は、こぎ深さ調節レバーを“深”の方向に倒すと、深こぎ気味に保持され、こぎ深さ調節レバーを“浅”の方向に操作すると、浅こぎ気味に保持されます。



(1) こぎ深さ調節レバー
(2) 穂先センサ（穂先側）
(3) 穂先センサ（株元側）
(A) 深
(B) 浅
(C) 前方

1.3.3 自動刈高さ制御装置［K 仕様］

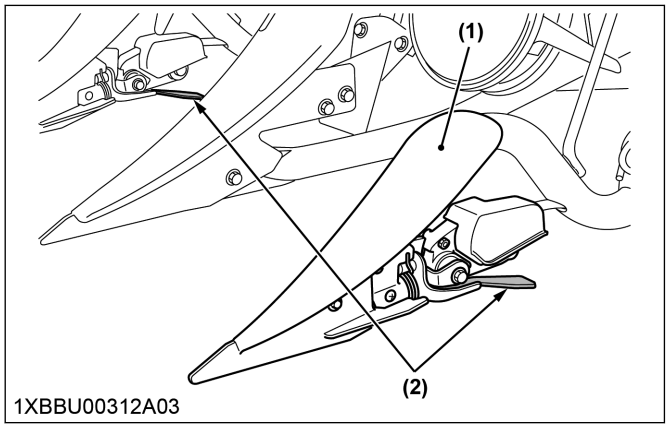
自動刈高さ制御装置は、刈取作業中の刈取部の高さを地面に対して、一定以上の高さに修正する（“リフトモード”）または一定の高さに修正、保持する（“オートモード”）装置です。



(1) 上昇（リフト）自動スイッチ *(3)* ランプ
(2) 高さ調節ダイヤル

補足：

- **自動制御がはたらいているときでも、パワーステアリングレバーによる操作が優先されます。**
- **高さ調節ダイヤルを[低]側に調整すると、地面の状態により、デバイダの突込みを生じる場合があります。**
- **刈始めに、切わらや土の盛上りを接地センサが検知して刈取部が上昇する場合は、前進しながらパワーステアリングレバーで適正な高さに修正してください。**
- **接地センサの下部に泥やわらが付着すると、誤動作することがありますので、エンジンを必ず止めてから泥やわらを取り除いてください。**



(1) デバイダ　　*(2)* 接地センサ

- **左右両方の接地センサがほ場の溝やわだちの上を通ると、デバイダが地面に突っ込むおそれがありますので、上昇（リフト）自動スイッチを“切（ランプ消灯）”にし、パワーステアリングレバーを操作して刈取作業を行ってください。**

1.3.3.1 上昇（リフト）自動スイッチ［K 仕様］

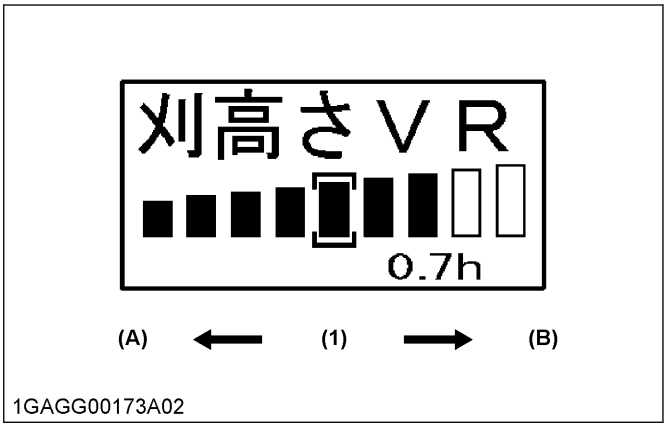
上昇（リフト）制御の“入／切”をするスイッチです。
上昇（リフト）自動スイッチを操作すると、液晶ディスプレイに〝楽刈リフト入〟／〝楽刈リフト切〟を一定時間表示します。

上昇（リフト）制御“入”	楽刈 リフト 入 1KATP00663A01	ランプが点灯し、上昇（リフト）制御が作動します。
上昇（リフト）制御“切”	楽刈 リフト 切 1KATP00664A01	ランプが消灯し、上昇（リフト）制御が解除されます。

1.3.3.2 高さ調節ダイヤル［K 仕様］

ほ場条件に応じて刈取部の高さ調節を行うダイヤルです。
高さ調節ダイヤルを“時計方向”に回すと刈高さが“高く”なり、“反時計方向”に回すと刈高さが“低く”なります。
また、液晶ディスプレイに 9 段階の目盛で刈取部の高さを表示します。

液晶表示



(1) 刈高さ　　*(A)* 低い　*(B)* 高い

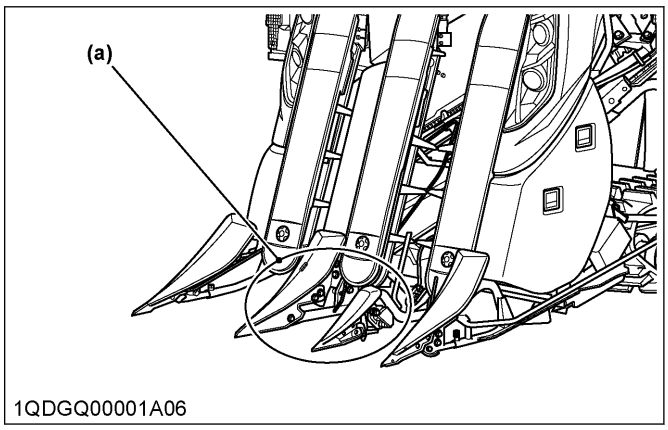
補足：

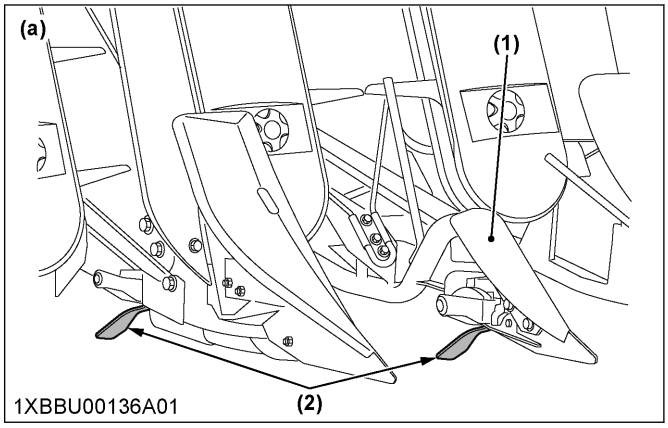
- **ほ場に溝やわだちがあるときは、突込み防止のため、高さ調節ダイヤルの低 1～低 3 では使用しないでください。**

1.3.3.3 上昇自動（リフト）［K 仕様］

上昇自動（リフト）［K 仕様］
デバイダの地面への突込みを防止する制御のみを行います。刈取部を下降する操作はパワーステアリングレバーで行ってください。

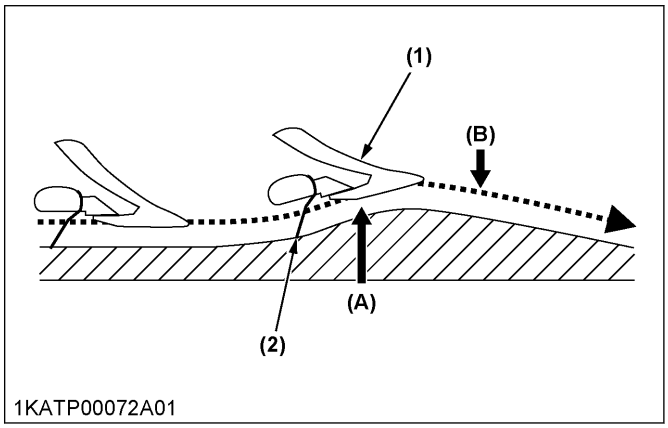
[K 仕様]





(1) デバイダ　　*(2)* 接地センサ

上昇自動（リフト）[K 仕様]



(1) デバイダ　　*(A)* 自動上昇
(2) 接地センサ　　*(B)* 手動で下げる

1.3.4 刈取オートクラッチ

刈取オートクラッチは、刈取部および脱こく部が作動中に、次の操作により刈取部が地面から一定の高さまで上昇すると停止し、一定の高さまで下降すると再度動き出す自動クラッチです。
パワーステアリングレバーの操作で刈取部が一定の高さまで上昇すると、刈取搬送部が停止します。

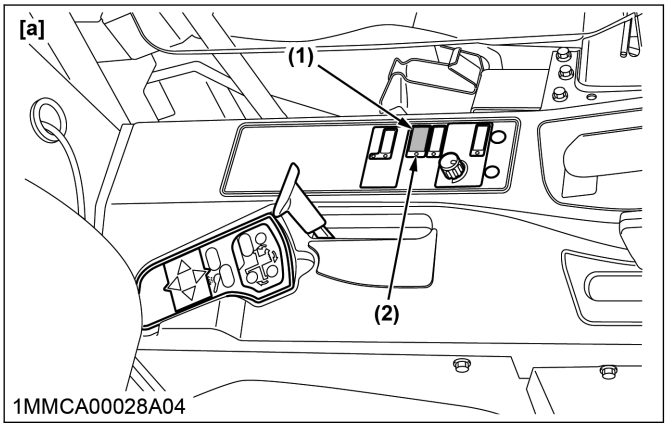
補足：

- **刈取オートクラッチは、刈取搬送部の自動停止機能はありますが、フィードチェーンの自動停止機能はありません。**

1.3.4.1 オートクラッチ切換えスイッチ

刈取オートクラッチを“入、切”するスイッチです。
オートクラッチ切換えスイッチを操作すると、液晶ディスプレイに“**オートクラッチ入**”または“**オートクラッチ切**”を一定時間表示します。

オートクラッチ“入”	 1GAGG00175A01	ランプが点灯し、刈取オートクラッチが作動します。
オートクラッチ“切”	 1GAGG00176A01	ランプが消灯し、刈取オートクラッチが解除されます。

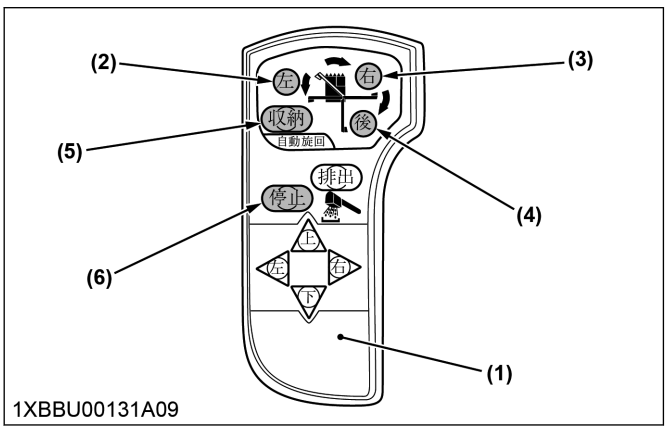


(1) オートクラッチ切換えスイッチ　　*[a]* イラストは *L* 仕様
(2) ランプ

1.4 自動化装置のグレンタンク関係の名称とはたらき

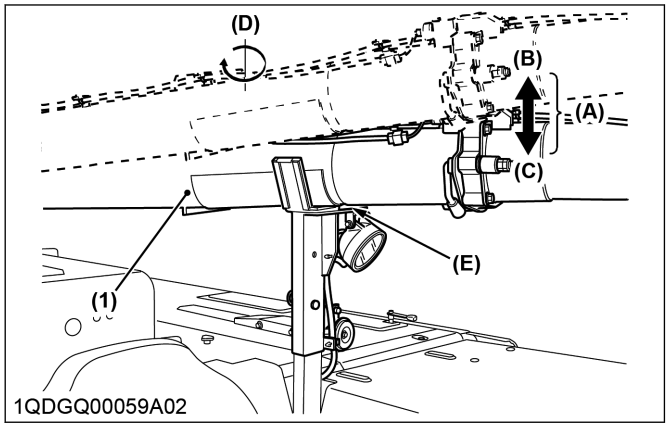
1.4.1 アンローダ自動旋回制御装置

アンローダ自動旋回制御装置は、**[左]**、**[右]**、**[後]**のアンローダ自動旋回スイッチの操作によりアンローダが“排出位置”に自動旋回し、収納スイッチの操作によりアンローダが“収納位置”に自動旋回する装置です。



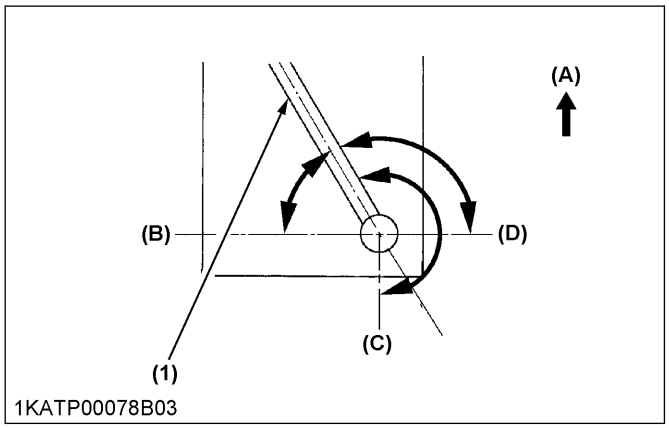
(1) マルチアンローダリモコン

(2)	**[左]**	アンローダ自動左旋回スイッチ	押すとアンローダが選択した排出位置まで自動旋回する
(3)	**[右]**	アンローダ自動右旋回スイッチ	
(4)	**[後]**	アンローダ自動後旋回スイッチ	
(5)	収納スイッチ		押すとアンローダが収納位置まで自動旋回する
(6)	停止スイッチ		アンローダの自動旋回中に押すと、動作が停止



(1) アンローダ
(A) 動作開始範囲内
(B) 上昇
(C) 下降
(D) 旋回
(E) 収納位置

排出位置



(1) アンローダ
(A) 前方
(B) 左
(C) 後方
(D) 右

補足：

- **自動旋回制御装置作動中でもアンローダ手動スイッチの操作が優先され、その後の自動旋回は停止します。**
- **自動旋回制御でアンローダが収納位置に戻った直後にアンローダ自動旋回スイッチを押しても自動旋回は作動しません。10 秒程度待ってからアンローダ自動旋回スイッチを押す、または停止スイッチを 1 度押してからアンローダ自動旋回スイッチを押してください。**

1.4.1.1 アンローダ自動旋回スイッチ（左、右、後）

[左]、**[右]**、**[後]**のアンローダ自動旋回スイッチを押すと、アンローダが選択した排出位置まで自動旋回します。

補足：

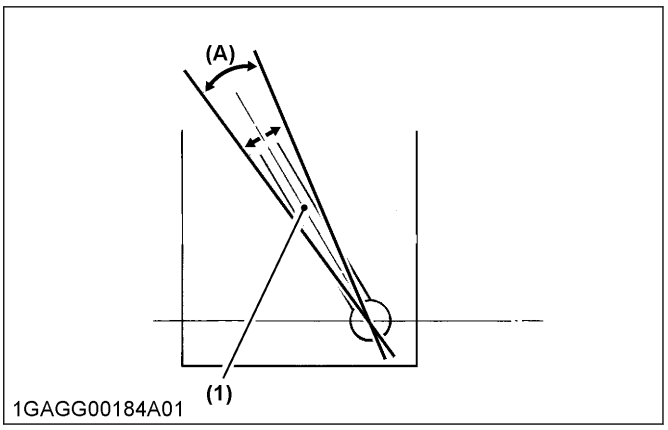
- **アンローダが動作開始範囲外にあるときは、アンローダ自動旋回スイッチ（[左]、[右]、[後]）を押してもアンローダは自動旋回しません。旋回するときは、アンローダ手動スイッチで手動で操作する、またはアンローダをいったんアンローダ受けに収納したあとアンローダ自動旋回スイッチを操作してください。**

1.4.1.2 収納スイッチ

収納スイッチを押すと、アンローダが収納位置まで自動旋回します。

補足：

- **アンローダが動作開始範囲内にあるときは、収納スイッチを押してもアンローダは収納しません。収納するときは、アンローダ手動スイッチで手動で操作してください。**



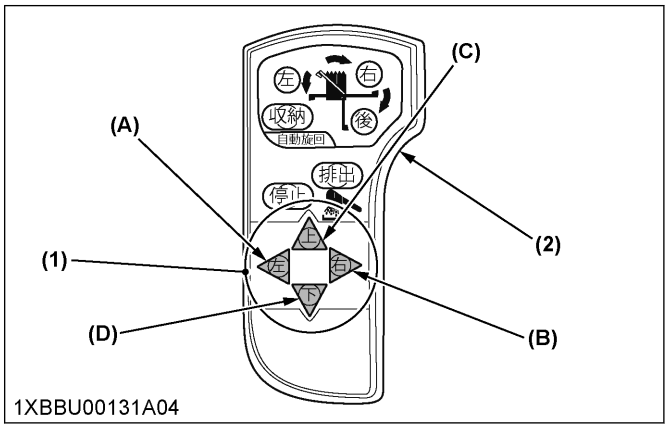
(1) アンローダ
(A) 動作開始範囲

1.4.1.3 停止スイッチ

自動上昇、旋回、下降途中で停止スイッチを押すと、その位置でアンローダが停止します。

1.4.2 アンローダ手動スイッチ

アンローダの旋回および上昇、下降の操作を行う手動の操作スイッチです。

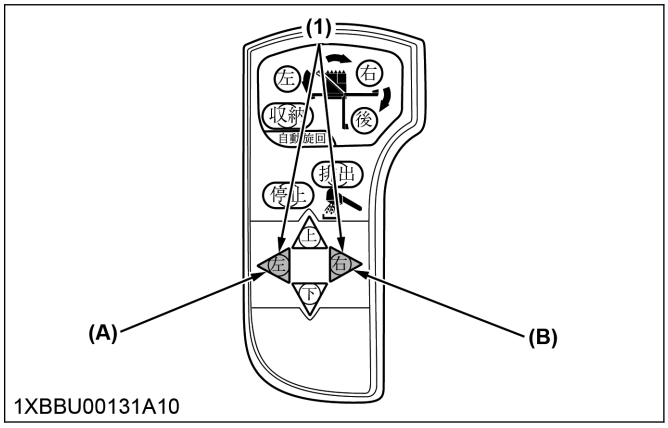


(1) アンローダ手動スイッチ　　*(2)* マルチアンローダリモコン

(A)	押すとアンローダが左（反時計方向）に動く
(B)	押すとアンローダが右（時計方向）に動く
(C)	押すとアンローダが上昇する
(D)	押すとアンローダが下降する

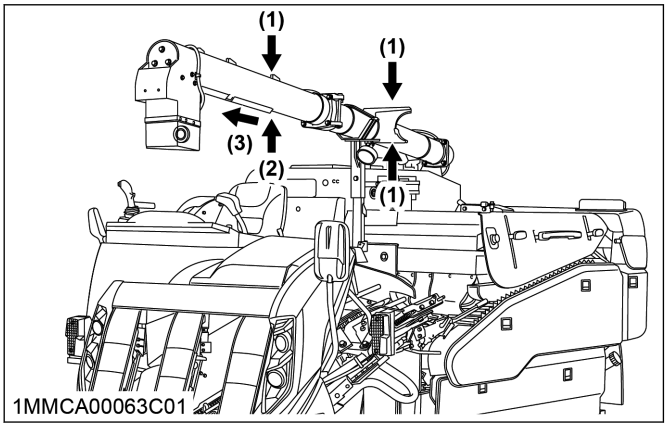
補足：

- **アンローダ手動スイッチの[左]、[右]とアンローダに貼付している操作方向識別ラベルを確認し、アンローダ手動スイッチを操作してください。アンローダ手動スイッチの[左]“（赤色）”を押すとアンローダは左旋回（ラベル赤色方向）し、アンローダ手動スイッチの[右]“（青色）”を押すとアンローダは右旋回（ラベル青色方向）します。**

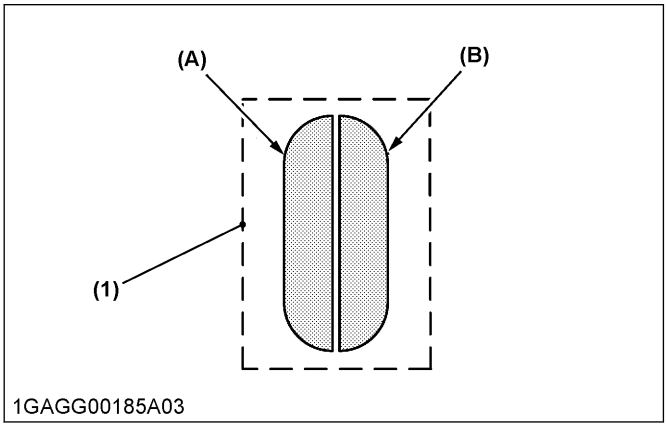


(1) アンローダ手動スイッチ　　*(A)* 赤色（左旋回）
(B) 青色（右旋回）

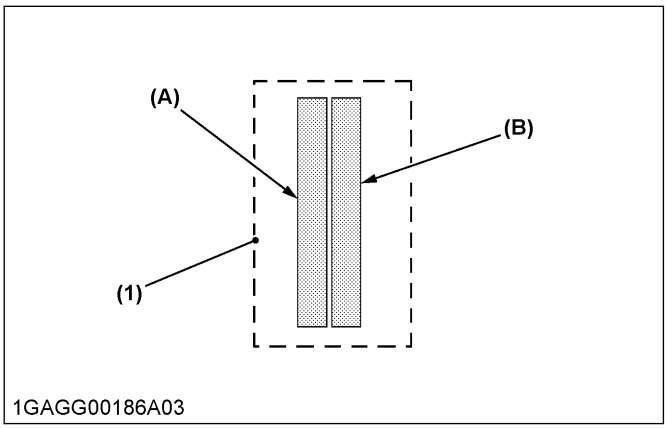
アンローダ操作方向識別ラベル貼付位置×5 か所



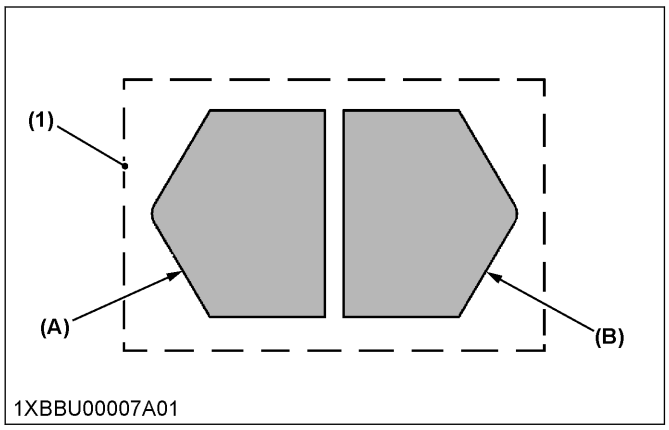
(1) アンローダ操作方向識別ラベル *1* 貼付位置
(2) アンローダ操作方向識別ラベル *2* 貼付位置
(3) アンローダ操作方向識別ラベル *3* 貼付位置



(1) 操作方向識別ラベル *1*　　*(A)* 青色（右旋回）
(B) 赤色（左旋回）

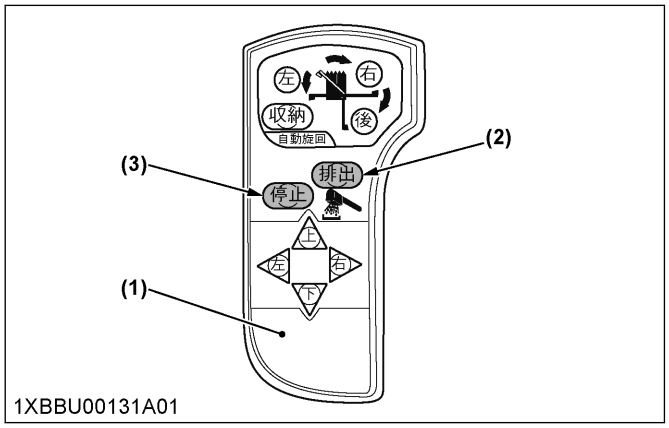


(1) 操作方向識別ラベル *2*　　*(A)* 青色（右旋回）
(B) 赤色（左旋回）



(1) 操作方向識別ラベル *3*　　*(A)* 青色（右旋回）
(B) 赤色（左旋回）

1.4.3 もみの排出および停止操作



(1) マルチアンローダリモコン

(2)	もみ排出スイッチ	押すとアンローダからもみを排出
(3)	もみ排出停止スイッチ	もみの排出中に押すと、もみの排出が停止

補足：
- **アンローダ受けにアンローダが収納状態のとき、もみ排出スイッチを押してももみは排出されません。**

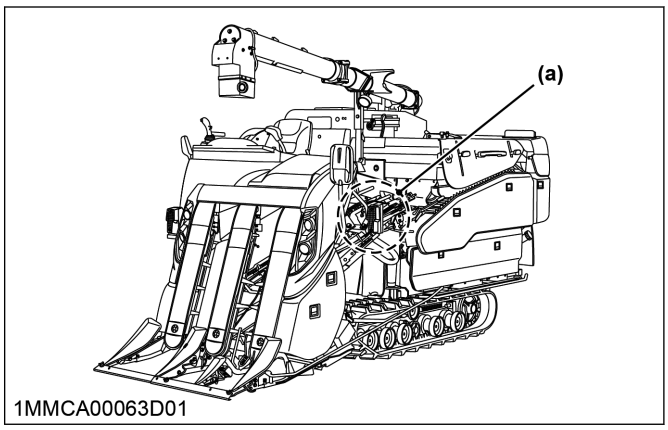
DPF 装置（ディーゼル微粒子除去装置）のはたらきと取扱い

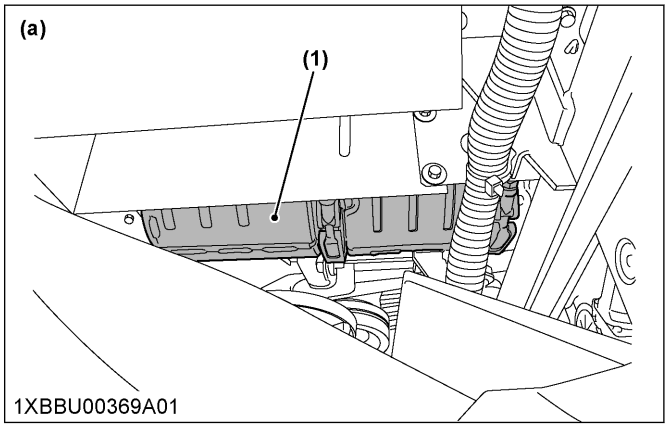
DPF（ディーゼル・パーティキュレート・フィルタ）は、ディーゼルエンジンから排出される排気ガス中のPM（ススなど粒子状物質）をフィルタで捕集し、大気中に放出されるPMの量を削減させます。

⚠ 警告
- **排気ガス中毒になるおそれや、DPF 再生中の高温状態の排気管やマフラに接触してヤケドや火災が発生する原因となるため、次の事項を遵守してください。**
  - **納屋や倉庫など換気の悪い場所では、再生処理を行わないでください。**
  - **再生処理を行う前には、排気管やマフラおよびそれらの周辺部に、発火する原因となる燃えやすいゴミなどがあれば取り除いてください。**
  - **DPF 再生中は、排気管やマフラおよびそれらの周辺部に人を近づけないでください。また、コンバインからは離れないでください。**
  - **自動再生モードでは刈取作業中でも再生処理が始まりますので、わらなどの燃えやすい物が多い場所の上ではコンバインを停止しないでください。また、コンバインを停止する場合は、排気管の後方にわらなどの燃えやすいものが少ない場所に停止してください。**
  - **DPF 再生中とその直後 5 分程度は、手こぎ作業をしないでください。**
    再生処理の直後 5 分程度は、まだ排気管やマフラが高温です。
  - **一日の作業終了後は、排気管やマフラおよびそれらの周辺部にわらなどの燃えやすい物が溜まっていないか点検し、溜まっていたら掃除して取り除いてください。**

DPF 装置は、捕集した PM を DPF 内で燃焼させて PM 除去フィルタ内を浄化および再生します。また、DPF の再生処理方法には“自動再生”と“駐車再生”の 2 とおりがあります。
通常は、刈取作業時を含むコンバインの運転中は自動再生モードになっています。
自動再生モード中は、DPF 内に PM が堆積されると自動再生機能がはたらき、PM を自動的に除去します（自動再生処理）。また、PM が DPF 内に堆積し、駐車再生の警報が発生したときは、駐車再生処理を行って堆積した PM を除去してください。

補足：
- **自動再生モードはエンジン回転数が *“2000 rpm* 以上”ではたらきます。**
- **通常、再生処理には 10 分～30 分程度掛かります。再生処理に掛かる時間は、外気温度、排気温度、エンジン回転数によって変わります。**
- **再生処理終了直後は、DPF および排気管、マフラはまだ高温です。排気装置（DPF、排気管、マフラ）を冷却するために、5 分間程度エンジンの運転を継続することをお勧めします。**

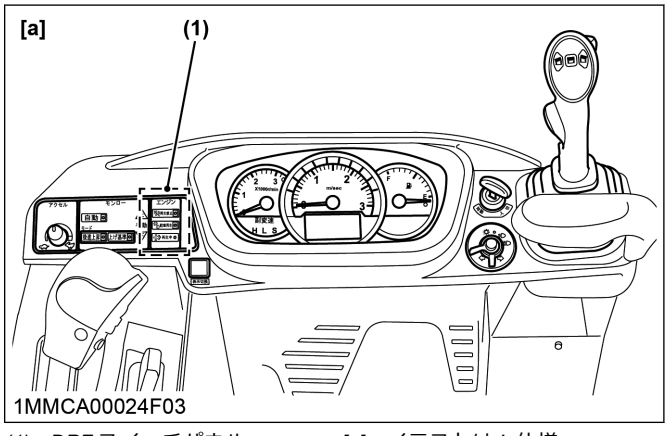




(1)　DPF

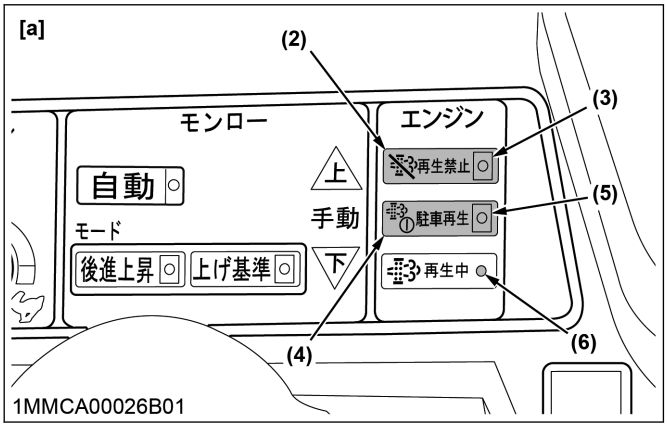
1. DPF スイッチパネル

DPF スイッチパネルには、DPF 内の PM 除去処理を行うスイッチや、DPF 内の PM 除去の状態を知らせるランプがあります。
DPF 内に堆積した PM の除去については、各スイッチの操作やランプ表示の確認を行ってください。



(1)　DPF スイッチパネル　　*[a]*　イラストは *L* 仕様

(1) DPF スイッチパネルの詳細



(2)　再生禁止スイッチ
(3)　再生禁止ランプ
(4)　駐車再生スイッチ
(5)　駐車再生ランプ
(6)　再生状態ランプ

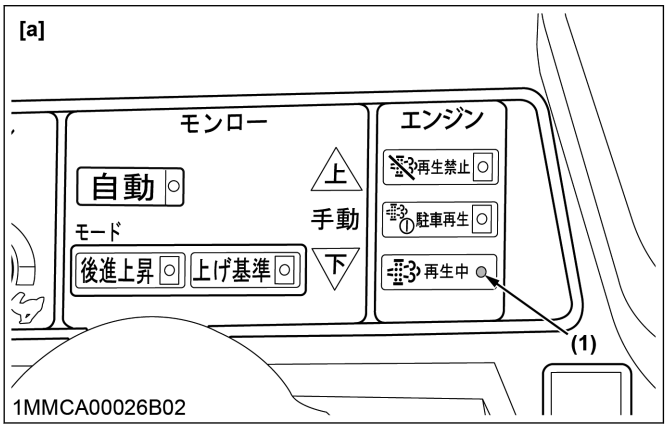
[a]　イラストは *L* 仕様

1.1 再生状態ランプ

DPF 内に一定量の PM が堆積したとき、自動再生または駐車再生の処理を開始すると“点灯”（再生処理中）し、再生の処理が終了すると“消灯”（再生処理終了）して再生処理状態を知らせるランプです。
再生状態ランプが“点滅”している場合は、DPF 内の異常を表します。自動再生および駐車再生はできません。直ちに購入先に連絡してください。

補足：

- **自動再生処理を開始しても警報ブザーは鳴りません。**



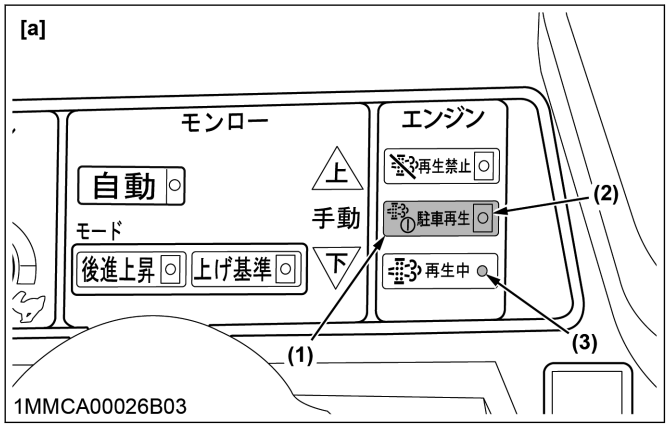
(1)　再生状態ランプ　　*[a]*　イラストは *L* 仕様

1.2 駐車再生スイッチ

PM が DPF 内に一定量堆積すると、駐車再生ランプが“点滅”すると同時に、警報ブザーが鳴ります。その際に PM を除去するため、駐車再生処理するスイッチです。
駐車再生処理するとき、駐車再生スイッチを押すと駐車再生ランプが“点滅”から“点灯”に切り換わります。また、再生状態ランプも点灯します。

駐車再生処理が終わると、駐車再生ランプおよび再生状態ランプは“消灯”します。
（駐車再生方法については、DPF 再生処理方法について（81 ページ）を参照）

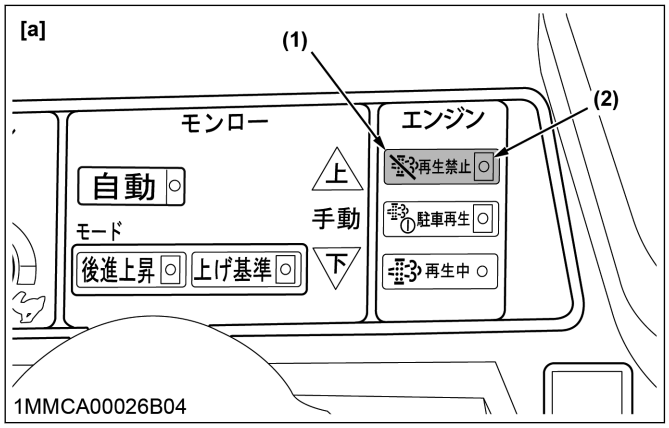
補足：
- **警報ブザーは初回は数回鳴ったあと停止しますが、その後、堆積量が増加すると駐車再生処理を開始するまで鳴り続けます。**



(1) 駐車再生スイッチ
(2) 駐車再生ランプ
(3) 再生状態ランプ
[a] イラストは *L* 仕様

1.3 再生禁止スイッチ

再生処理を禁止（停止）するスイッチです。
納屋や倉庫など換気の悪い場所で自動再生が始まった場合、DPF やマフラおよびそれらの周辺部に発火する原因となる燃えやすいゴミ、可燃物などの異物があった場合など、一時的に再生処理を禁止（停止）するときに押してください。
自動再生または駐車再生の処理中に再生禁止スイッチを押すと、同時に再生禁止ランプが“点灯”し、再生処理を停止します。また、再度再生禁止スイッチを押すと、再生禁止ランプが“消灯”すると同時に、自動再生または駐車再生の処理が可能な状態となります。

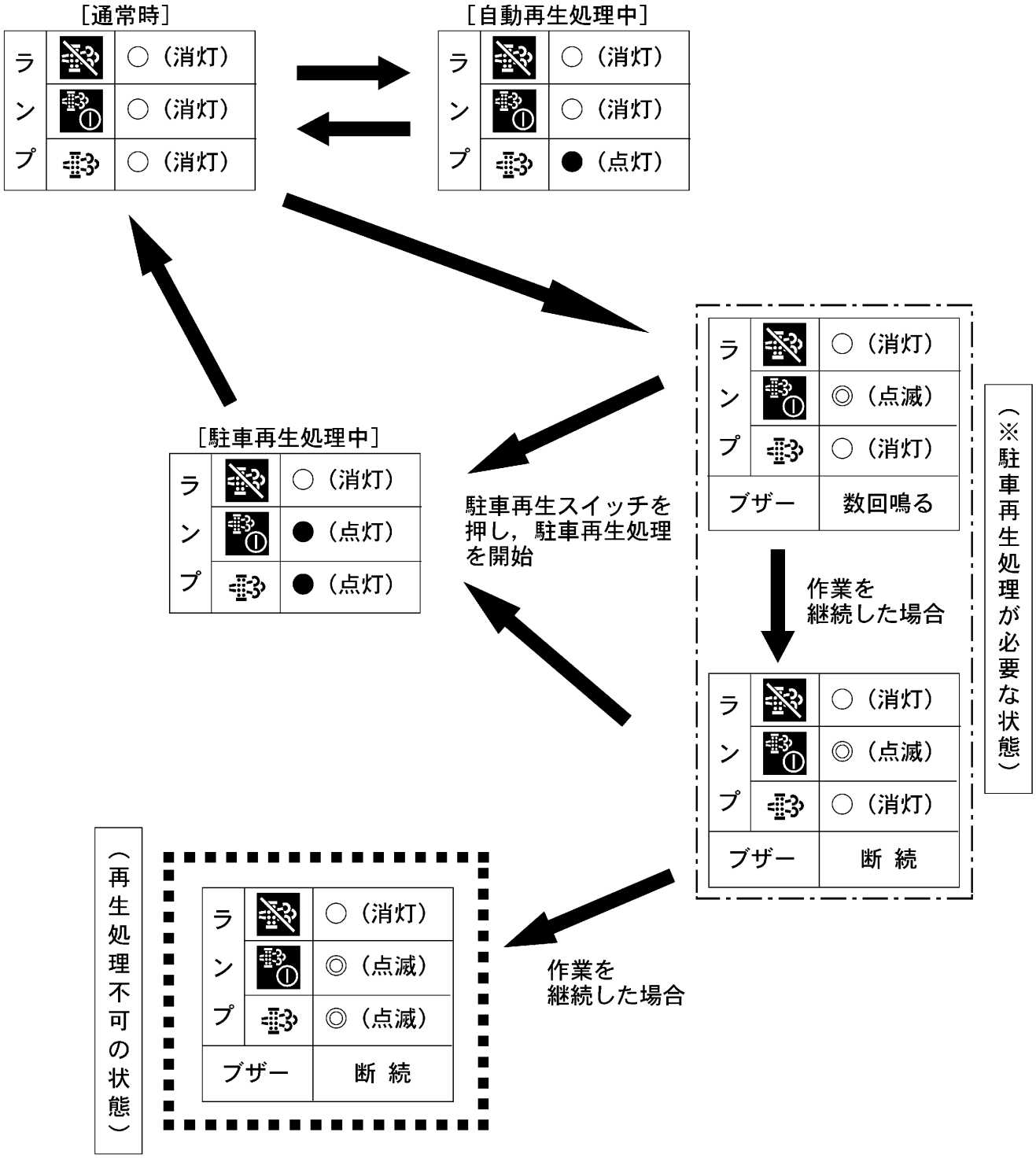


(1) 再生禁止スイッチ
(2) 再生禁止ランプ
[a] イラストは *L* 仕様

補足：
- **再生禁止スイッチ“入”の状態は、エンジンを停止すると解除されます。**
  メインスイッチのキーを[切]位置から[入]位置に切り換えると、再生禁止スイッチは常に“切”（ランプ“消灯”）の状態です。

2. DPF 再生処理方法について

DPF の再生処理方法には、“自動再生”と“駐車再生”があります。
再生禁止スイッチを利用しないときの DPF スイッチパネルのランプおよびブザーの主な関係は次図のとおりです。



※この状態になると，再生処理はできません。
直ちに作業を中止し，購入先に連絡してください。

1PANZ00085A01jaJP

重要：

- **駐車再生ランプが点滅し、警報ブザーが鳴ったときは、刈取作業を中止し、駐車再生処理してください。継続して作業し、さらに警報ブザーが断続的に鳴り、同時に液晶ディスプレイに"DPF 異常"と表示した場合は、直ちに作業を中止して、駐車再生してください。**
  このとき再生状態ランプが点滅し、駐車再生ができない場合は、直ちに購入先に連絡してください。DPF の故障の原因となります。

補足：

- **駐車再生の警報を無視し続けると、エンジンの出力が低下します。また、エンジン出力が低下した状態が継続し、作業能率が低下するので注意してください。**
- **再生処理するとき、自動再生処理と駐車再生処理でエンジン回転数が異なるので注意してください。**
- **自動再生中はエンジン回転を 2000 回転以上に維持してください。エンジン回転数が低いと自動再生が完了しない場合があります。**
- **指定の純正エンジンオイル以外のエンジンオイルを使用すると、再生処理（自動再生および駐車再生）する頻度が増加し、作業能率の低下や燃料消費量の増加の原因となるので、必ず指定の純正エンジンオイルを使用してください。**

指定エンジンオイル	指定オイル D10W-30 DH2

2.1 自動再生処理について

メインスイッチのキーを**[切]**位置から**[入]**位置に切り換えると、自動再生モード（再生禁止スイッチが切）になり、自動的に再生処理を開始します。

1. PM が堆積すると、再生状態ランプが点灯し自動再生を開始します。

   補足：
   - **自動再生を開始すると、マルチナビの液晶ディスプレイに〝自動再生〟／〝開始しました〟と一定時間表示します。**

2. 自動再生が終了すると、再生状態ランプが消灯します。

2.2 駐車再生処理のしかた

補足：
- **駐車再生処理中に、各レバー、ペダル、スイッチは触らないでください。“駐車再生処理条件”の状態が解除されると、駐車再生処理が途中で停止するため、再度駐車再生処理する必要があります。緊急で駐車再生処理を停止したい場合は、再生禁止スイッチを押してください。**

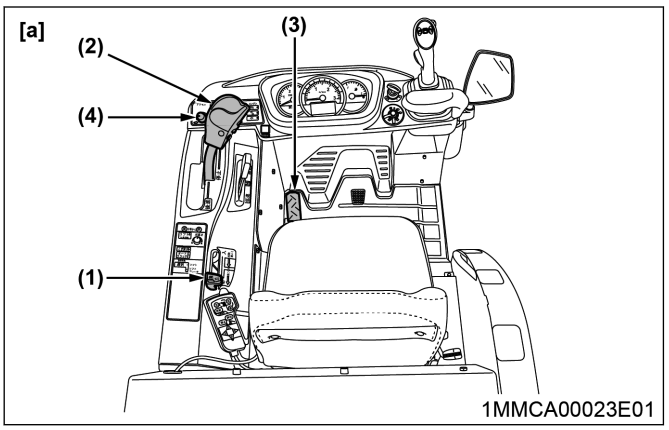
PM が DPF 内に一定量堆積したときには、駐車再生処理してください。
PM が一定量堆積すると、駐車再生ランプが点滅すると同時に、警報ブザーが鳴ります。

補足：
- **警報ブザーは初回は数回鳴ったあと停止しますが、その後は駐車再生処理を開始するまで鳴り続けます。**

1. 作業をいったん中止したあと、平たんな場所に移動します。

   補足：
   - **納屋や倉庫など換気の悪い場所へは移動しないでください。**

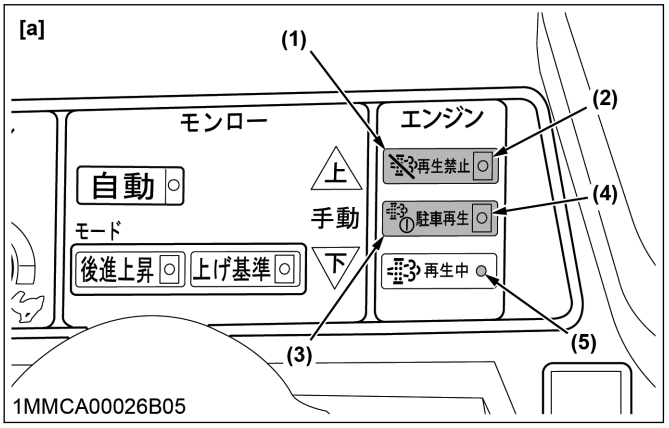
2. 各レバー、ペダル、およびスイッチを次の駐車再生処理条件の状態にセットします。
   a. 作業レバーを**[切]**位置にセットします。
   b. 主変速レバーを**[停止]**位置にセットします。
   c. 駐車ブレーキペダルを“ロック”位置にセットします。
   d. アクセルダイヤルを🚗位置にセットします。



(1) 作業レバー
(2) 主変速レバー
(3) 駐車ブレーキペダル
(4) アクセルダイヤル
[a] イラストは *L* 仕様

   e. 再生禁止スイッチを確認し、再生禁止ランプが“入”（“点灯”）の状態のときは、再生禁止スイッチを押して“切”（再生禁止ランプが“消灯”）の状態に切り換えます。

3. 駐車再生スイッチを押します。
   エンジン回転数が上がると同時に、駐車再生ランプと再生状態ランプが“入”（“点灯”）状態となり、駐車再生処理が開始します。



(1) 再生禁止スイッチ
(2) 再生禁止ランプ
(3) 駐車再生スイッチ
(4) 駐車再生ランプ
(5) 再生状態ランプ
[a] イラストは *L* 仕様

   補足：
   - **駐車再生処理を開始すると、マルチナビの液晶ディスプレイに〝駐車再生〟／〝開始しました〟と一定時間表示します。**

駐車再生処理が終了すると、エンジン回転数がアイドリング回転数まで下がると同時に、駐車再生ランプと再生状態ランプが“切”（“消灯”）状態に切り換わります。

運転のしかた

運転前の点検

⚠ 警告

- **平たんで安全な場所で、エンジンを始動してからの確認作業以外は、エンジンを止めて、メインスイッチのキーを抜き、駐車ブレーキを必ず掛けてから行ってください。**
- **バッテリの点検、充電、交換中は火気厳禁です。**
- **各部の調整、点検、交換を行うときは、各レバー類を“切”位置にして回転部を止め、エンジンを止めて、メインスイッチのキーを抜いてから作業をしてください。**
- **刈取部を上げた状態で作業するときは、刈取下降ロックスイッチを“ロック”位置にして刈取部の下降防止を行ってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。**
- **取り外した回転部のカバー類は、外したままでは衣服など着衣の一部を巻き込むおそれがあり危険ですので、点検後は必ず取り付けてから作業をしてください。**
- **燃料やオイル補給中は火気厳禁です。**
- **運転前にブレーキ、クラッチや安全装置などの日常点検を行い、摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また、定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。**
- **使用前にはオイル、燃料が規定量入っているか必ず点検してください。**
- **燃料、オイルがこぼれた場合は、きれいに拭き取ってください。**
- **バッテリ、マフラ、エンジン、燃料タンク、ベルトカバー内、プーリ、カッタ部内、または配線部周辺にゴミまたは燃料の付着、わらくずや泥の堆積などの異物があると火災の原因になることがありますので、取り除いてください。**
- **作業前にマフラ、排気管やその周辺の断熱材に破損やはがれが無いか点検してください。**
- **刈刃やカッタの掃除や注油時は、手袋を着用し刃部に注意しながら行ってください。**

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は 1 日 1 回、運転前に欠かさず行ってください。
（点検、調整方法の詳細は、定期点検一覧表（180 ページ）を参照）

重要：
各部への給油と交換

- **燃料、オイルを必要に応じて補給してください。**
- **点検するときは機体を水平な場所に置いて行ってください。傾いていると正確な量を示しません。**
- **使用するエンジンオイル、ミッションオイル、グリースは、必ず指定の“指定オイル、指定グリース”を使用してください。**
- **燃料補給の際は、ゴミや水が混入しないようにしてください。**
- **エンジンを掛けた状態で長時間放置すると、DPF 装置に PM（ススなど粒子状物質）が堆積しやすくなりますのでご注意ください。また、駐車再生要求のブザーが鳴った場合、そのまま放置を続けると、DPF 装置の再生処理能力を超える PM（ススなど粒子状物質）が堆積し、DPF 装置にトラブルが発生する原因になります。**

1. 前日の異常箇所の点検

前日の作業中に異常を感じた箇所があれば、使用前に支障が無いか点検してください。

2. コンバイン周りの点検

コンバインの周りを歩いて次の項目を点検します。

- ボルトやナットのゆるみや脱落が無いか
- 車体各部の変形や損傷が無いか
- 油漏れや水漏れなどの異常が無いか
- 機体各部にわらくずがたまっていないか
- マフラ、排気管やその周辺の断熱材に破損やはがれが無いか

3. 日常点検項目

機体の周りを歩いて

点検箇所	点検内容	異常があった場合の処置	参照ページ
機体各部	• 損傷や変形は無いか。	• 修理または交換する。	—
	• ボルトやナットのゆるみや脱落は無いか。	• 補充や増締めをする。	—
	• 油漏れや水漏れは無いか。	• ホースやパイプの取付部の締付け、または部品交換をする。	200
	• わらくずがたまっていないか。	• 掃除する。	161、250
	• 安全ラベル（⚠ マークのあるラベル）の損傷やはがれは無いか。	• 新しいラベルに貼り替える。	29
カッタ部内	• わらや泥の付着、またはわらの巻付きは無いか。	• 掃除する。	166
刈刃	• 刃の損傷は無いか。	• 交換する、または購入先に連絡してください。	229
わら切刃			233
カッタ刃			234
受あみ	• 摩耗量の確認 極端な摩耗や破損は無いか。	• 組換えまたは交換する。	153
こぎ歯			232
クローラ	• たるみや損傷は無いか。	• 調整または交換する。	245
防じんあみ	• 詰まりは無いか。	• 掃除する。	202
反射器	• 汚れや損傷は無いか。	• 掃除または交換する。	245

グレンタンクを開いて

点検箇所	点検内容	異常があった場合の処置	参照ページ
油水分離器（セパレータ）	• カップ内に水が溜まっていないか。	• 排水する。	203
排気管、およびカバー内部	• ゴミまたはわらくずがたまっていないか。	• 掃除する。	—

エンジン周りを確認して

点検箇所	点検内容	異常があった場合の処置	参照ページ
エンジンオイル	• 油量は規定量（オイルゲージの“上限線と下限線の間”）あるか。	• 規定量まで補給する。 **エンジンオイル** 指定オイル D10W-30 DH-2	190
ラジエータ冷却水	• リザーブタンクの水量は規定量（タンクの“*FULL* 線と *LOW* 線の間”）あるか。	• 清水を規定量まで補給する。	197
ラジエータフィン	• 詰まりは無いか。	• 掃除する。	202
オイルクーラフィン			
燃料クーラフィン			
エアクリーナ	• エレメントが汚れたり、ほこりが詰まっていないか。	• 掃除またはエレメントを交換する。	199
ファン駆動ベルト	• たるみは無いか。	• 調整する。	217
	• 損傷は無いか。	• 交換する。	
ミッション駆動ベルト	• たるみは無いか。	• 調整する。	218
	• 損傷は無いか。	• 交換する。	
パイプ、ホース	• 油漏れや水漏れは無いか。	• 取付部の締付けまたは交換する。	200
配線コード	• コネクタの外れは無いか。	• 接続する。	241

（次へ続く）

点検箇所	点検内容	異常があった場合の処置	参照ページ
配線コード	• 被覆の損傷は無いか。	• 交換する。	241
断熱材	• 破損は無いか。	• 交換する。	136 ☆
エンジン本体	• 油漏れやゴミが堆積しているところはないか。	• 交換、修理または掃除する。	—

• 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については、購入先または整備工場で行ってください。

運転席に座りメインスイッチを入れて

点検箇所	点検内容	異常があった場合の処置	参照ページ
各ランプ	• 各スイッチを操作すると点灯または点滅するか。	• 球切れを調べ、交換をする。	244
		• ヒューズ切れを調べ、交換をする。 • 配線コードの切れを調べ、交換または接続をする。	241
		• バッテリの充電または交換する。	237
液晶ディスプレイ	• 表示はされているか。 • 切換えスイッチを押すと表示内容が変わるか。	• ヒューズ切れを調べ、交換をする。 • 配線コードの切れを調べ、交換または接続をする。	241
		• バッテリの充電または交換する。	237
燃料計	• 作業に必要な燃料はあるか。	• 軽油を補給する。	189
ホーン	• スイッチを押すと鳴るか。	• ヒューズ切れを調べ、交換をする。 • 配線コードの外れを調べ、接続をする。	244、241
バックブザー	• 主変速レバーを**[後進]**位置にするとブザーが鳴るか。	• ヒューズ切れを調べ、交換をする。 • 配線コードの外れを調べ、接続をする。	241
バッテリ	• エンジンは始動するか。	• 充電または交換する。	237

エンジンを始動して

点検箇所	点検内容	異常があった場合の処置	参照ページ
エンジン回転計	• 回転計の作動に異常は無いか。	• 購入先に連絡してください。	63
速度計	• 速度計の作動に異常は無いか。	• 購入先に連絡してください。	63
エンジン、マフラ	• 異音はしないか。 • 排気ガスの色に異常は無いか。	• 購入先に連絡してください。	—
刈刃	• 注油後の動きに異常は無いか。	• 調整または交換する。	229
各チェーン			224
各レバー	• 各レバーの作動に異常は無いか。	• 調整する。	206、207、208
駐車ブレーキ	• 機体は停止するか。また、遊び量は適正か。	• 調整する。	207
エンジン停止スイッチ	• スイッチを押すと、ブザーが鳴りエンジンが停止し、レール台の前方部が上方に開き、フィードチェーンが停止するか。	• ヒューズ切れを調べ、交換をする。 • 配線コードの外れを調べ、接続をする。	60、241

重要：

• 処置したあとに異常が直らないときは、購入先に連絡して修理を依頼してください。

新車時の扱い方法

新車時の上手な運転操作やメンテナンスがコンバインの寿命に影響を及ぼします。
新車のコンバインは厳重な検査のもとに出荷されていますが、コンバインの各部の部品はならし運転されていません。ならし運転期間中はコンバイン各部の部品がなじむまでは、走行速度は低速で、過負荷となる刈取作業は避けてください。
コンバインの性能を最大に発揮させたり、長期にわたる耐久力を維持させるためには、適正なならし運転が重要です。
新車時は、ならし運転期間の取扱い方法を遵守してください。

1. ならし運転について

- 急発進や急ブレーキ操作はしないでください。
- 寒い日や冬期にコンバインを使用するときは、エンジンはじゅうぶん暖機運転をしてください。
- 高速での刈取作業は避けてください。
- 整地されていない凹凸道路では低速走行をしてください。

これらはならし運転以降も必要な事項ですが、新車時は特に注意してください。

エンジンの始動と停止のしかた

⚠ 警告

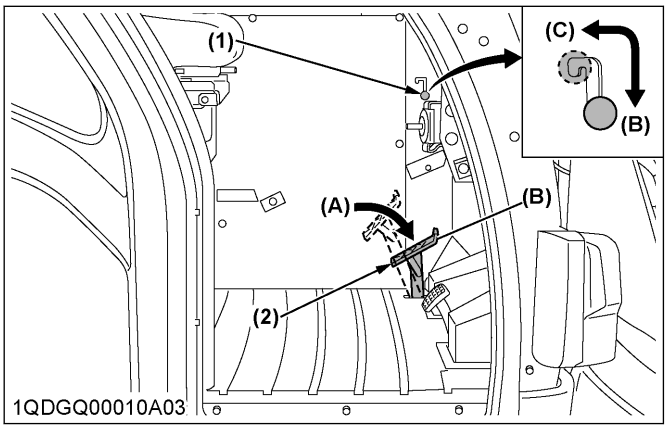
- **エンジン排気ガスによる排気ガス中毒をさけるため、換気の悪い納屋、倉庫でエンジンを回さないでください。**
- **この取扱説明書前編の『安全に作業をするための注意事項』の内容を必ずお読みいただいて、安全作業を心掛けてください。**
- **コンバインに貼ってある安全ラベルの内容を必ずお読みください。**
- **コンバインに乗り降りするときは、飛び乗ったり飛び降りたりしないでください。転倒、転落してケガをするおそれがあります。**
- **始動操作は、ホーンを鳴らすなど周囲の人に始動の合図をしてから行ってください。**
- **副変速レバーが“*N*（中立）”位置では、油圧ロックが作動しないため、坂道で駐車ブレーキを解除すると暴走し危険です。**
  （周囲の安全（13 ページ）を参照）

1. エンジンの始動のしかた

1. ハンドルをしっかりと握り、補助ステップに確実に足を掛けてすべらないように注意しながら運転席に座ります。

   重要：
   - **運転席へ乗り降りするときは、ハンドル以外は握らないでください。特にパワーステアリングレバーを握って乗り降りすると、変形したり、破損する原因となります。またパワーステアリングレバーが変形したり破損すると、正常なコンバインの運転が行えなくなるおそれがあります。**

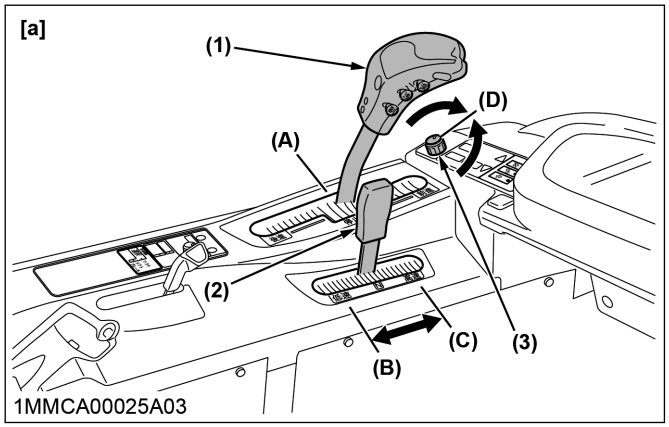
2. 運転席（シート）の調整を行って、楽な姿勢で運転操作が行える状態にします。
   （運転席（シート）（58 ページ）を参照）
3. 駐車ブレーキを掛けます。
   a. 駐車ブレーキロックレバーをロック位置にします。
   b. 駐車ブレーキペダルをロックするまでいっぱい踏み込みます。



(1) 駐車ブレーキロックレバー
(2) 駐車ブレーキペダル
(A) 踏込む
(B) ロック
(C) 解除

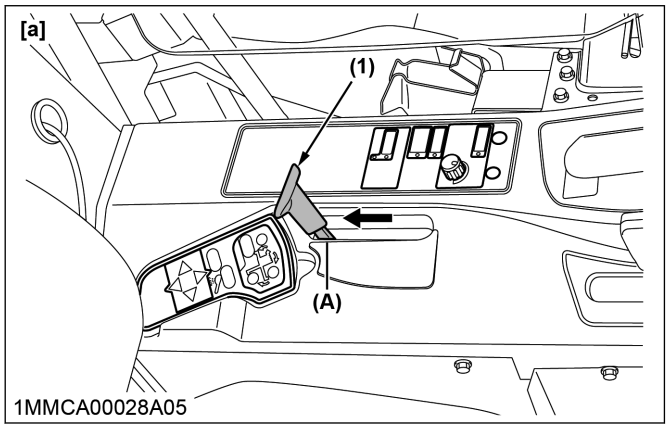
補足：
- **駐車ブレーキペダルを踏むと主変速レバーが[停止]位置に戻ります。また、ブレーキペダルが“ロック”位置の場合は、主変速レバーは動きません。**

4. 各レバー位置の確認をします。
   a. 主変速レバーが**[停止]**位置にあることを確認します。
   b. 副変速レバーを**[低速]**または**[高速]**の位置にします。
   c. 手動アクセルダイヤルを中央ぐらいの位置まで回します。



(1) 主変速レバー
(2) 副変速レバー
(3) 手動アクセルダイヤル
(A) 停止
(B) 低速
(C) 高速
(D) 中央
[a] イラストは *L* 仕様

   d. 作業レバーを**[切]**位置にします。



(1) 作業レバー
(A) 切
[a] イラストは *L* 仕様

補足：

- **各レバーの位置がエンジンの始動条件に合っていないと、メインスイッチのキーを回してもエンジンは始動せず液晶ディスプレイに次の内容を表示しますので、始動条件に合うように処置を行ってください。**

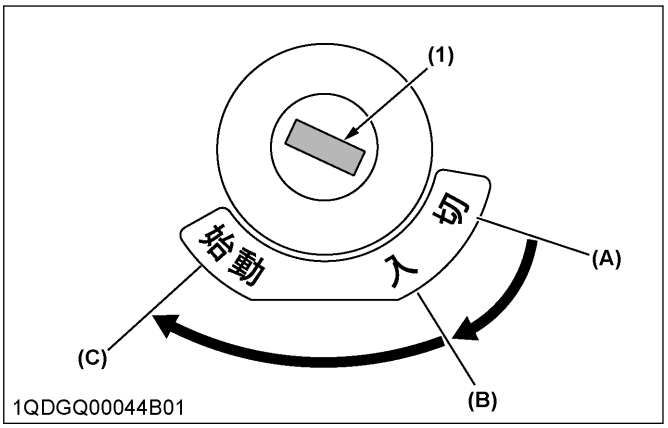
メッセージ	処置
"脱こくクラッチを切る"	作業レバーを**[切]**位置にする。
"主変速中立にする"	主変速レバーを**[停止]**"（中立）"位置にする。
"駐車ブレーキを踏む"	駐車ブレーキペダルを踏み込む。
"停止 SW 確認する"	排気管の取付けを確認する。

5. エンジンを始動します。

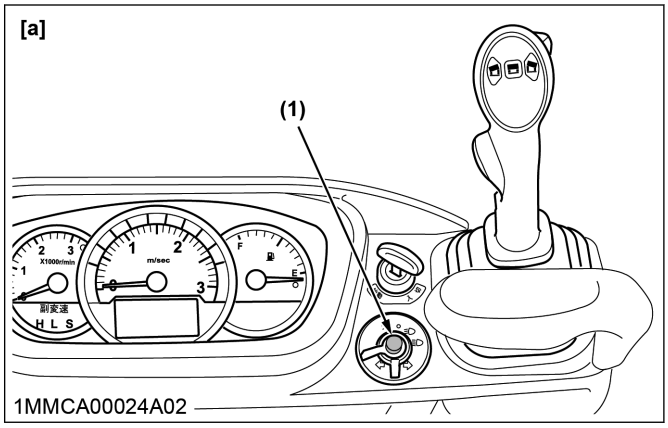
補足：

- **エンジンを始動するとき、メインスイッチのキーを[入]位置から[始動]位置に回しても、次の理由によりエンジンがすぐに始動しません。エンジンを始動するときはメインスイッチのキーを[入]位置の状態で一定時間待ってからエンジンを始動してください。**
  - **マイコンがエンジンの始動条件を判定するまで約 2 秒掛かります。**
  - **次のように脱こくクラッチが"入"でエンジンを停止した場合、次回エンジンを始動するときは、そのレバーを[切]位置にしたあと、メインスイッチのキーを[入]位置にしてからエンジンの始動条件が整うまでに約 3 秒掛かります。**
    したがって、この場合はメインスイッチのキーを[入]位置にして約 5 秒待ってください。
    - **作業レバーが[刈取切]または"脱こく、刈取"[入]位置**

   a. メインスイッチのキーを差し込みます。
   b. メインスイッチのキーを**[入]**位置まで回します。
   c. ホーンスイッチを押してホーンを鳴らします。
   d. メインスイッチのキーを**[始動]**位置まで回します。



(1) キー
(A) 切
(B) 入
(C) 始動



(1) ホーンスイッチ　　*[a]* イラストは *L* 仕様

重要：
- **メインスイッチのキーを[始動]位置に回して 10 秒たっても始動しないときは、いったんメインスイッチのキーを[切]位置にして、30 秒ほど休止してから、エンジンを再始動してください。[始動]位置で 10 秒以上回すと故障の原因になります。**
- **エンジン回転中にメインスイッチのキーを[始動]位置に回すと故障の原因になります。**

補足：
- **メインスイッチのキーを[入]位置にすると、マルチナビの液晶ディスプレイに“アワメータ”、“オイル”、“充電”が表示されますが、エンジンを始動してもオイルまたは充電の図柄の表示が消えないときは、購入先に連絡し、処置してください。**
- **駐車ブレーキが掛かっている状態でメインスイッチのキーを[入]位置にすると“駐車ブレーキ(P)”が優先して表示し、駐車ブレーキを解除すると表示は消えます。**
- **ホーンを鳴らすなどして始動の合図を周囲の人に送ります。**

2. 暖機運転について

エンジン始動後、エンジン回転数を約 1500 rpm に合わせて通常（寒冷時以外）約 5 分間～10 分間は負荷を掛けずに暖機運転を行ってください。

重要：
- **暖機運転を行うのはオイルを各部にじゅうぶんゆきわたらせるためで、始動してからすぐ負荷を掛けると、エンジンの焼付きや、ミッションや油圧系統の故障の原因になります。**
- **寒冷時は暖機運転を怠るとパワーステアリングレバーが操作できなくなったりブレーキが効かなくなるなど“油圧系統の故障”につながりますので、次表を目安に暖機運転を行ってください。**

気温	暖機運転時間
0 ℃～-10 ℃	約 10 分
-10 ℃～-15 ℃	10 分～15 分
-15 ℃～-20 ℃	15 分～20 分
-20 ℃以下	20 分以上

3. 燃料切れ後のエンジン再始動のしかた

運転中に燃料切れで停止した場合は、エンジンを再始動してください。

1. 次のように脱こくクラッチ、刈取クラッチ、およびエンジンを“切り”ます。
   - 作業レバーおよびメインスイッチのキーを**[切]**位置にセットします。
2. 燃料タンクに燃料を補給します。
3. エンジンの始動のしかた（87 ページ）の“手順 *1*～手順 *4*”を確認後、エンジンを始動します。

補足：
- **メインスイッチのキーを[入]位置にセットすると約 5 秒～10 秒で自動的にエア抜きされます。**

4. バッテリが上がったときのエンジン始動のしかた

危険
- **バッテリの近くに裸火（マッチ、ライター、タバコの火など）を近づけたり、（+）端子と（–）端子が金属工具やブースタケーブルなどの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。**

バッテリ上りによりエンジンが始動できなくなったときは、バッテリの補充電または交換を行ってください。（バッテリの点検、交換（237 ページ）を参照）
補充電や交換がすぐに行えないときは、救援車のバッテリにブースタケーブルを接続して始動してください。

重要：
- **接続するバッテリは、必ず 12 V の物を利用してください。それ以外のバッテリを利用すると、故障の原因となります。**
- **バッテリを直列につないで始動しないでください。電装品が破損するおそれがあります。**
- **充電異常による場合（充電ランプ点灯）は購入先に連絡してください。**

補足：
- **ブースタケーブルの取扱いは、ブースタケーブルの取扱説明書に従ってください。**

1. ブースタケーブル（赤）をコンバイン側と救援車側のバッテリの“（＋）端子”にそれぞれ接続したあと、ブースタケーブル（黒）を救援車側のバッテリの“（－）端子”に接続し、コンバイン側はバッテリから離れた箇所の金属部で塗装がされていない箇所に接続します。
2. 利用するバッテリが車などの場合は、エンジン回転を上げます。
3. コンバインのエンジンを始動します。
4. ブースタケーブルを取付けの逆の手順で取り外します。

5. エンジンの停止のしかた

1. 作業レバーを**[切]**位置にセットします。
2. 手動アクセルダイヤルを“（低回転）”位置にセットします。
3. メインスイッチのキーを**[切]**位置にセットしてエンジンを停止します。

重要：
- **エンジン停止中にメインスイッチのキーが[入]位置で長時間放置すると、“バッテリ上り”となります。**
- **メインスイッチのキーを[切]（停止）の位置にセットしてもエンジンが停止しない場合は、速やかに購入先に連絡して、対応してもらってください。その間、機械を次の状態にセットして待機してください。**
  a. **機械を屋外の平たんで安全な場所まで移動して、エンジンアイドリング状態で停車します。**
  b. **各作業クラッチレバーを“切”位置にセットします。**
  c. **駐車ブレーキを掛けます。**

移動走行について

警告
- **グレンタンク内に残っているもみはすべて排出してください。**
- **安全のためヘルメットを着用してください。**
- **運転者以外の人を乗せないでください。**
- **あぜやコンクリートの畦畔など 10 cm 以上の段差のある所ではあゆみ板を使ってください。**
- **[L 仕様]水平操作手動スイッチで機体をいっぱいまで下げた状態にしてください。**
- **あぜ越えや傾斜地（坂道やあゆみ板を使うとき）での走行は、副変速レバーを[低速]位置、副変速切換えスイッチを“S（倒状位置）”位置にし、低速で走行してください。**
  走行途中に停止するときは、主変速レバーを操作して停止してください。
- **あぜごえや傾斜地（坂道やあゆみ板を使うとき）の走行途中でパワーステアリングレバーの操作や副変速切換えスイッチ、副変速レバー、ブレーキペダル、かき込みペダル、旋回モード切換えスイッチ、アンローダリモコンを操作すると、機械の移動方向が変化したり、急降下、落下する危険がありますので操作しないでください。**
  [L 仕様] は水平操作手動スイッチ、傾斜角手動調節スイッチも操作しないでください。
- **あゆみ板を使うときや坂道を走行するときは、速度を最低速にし、あぜや傾斜方向に対して上り方向は前進、下り方向は後進で直角に走行してください。斜めに走行すると転倒してケガをするおそれがあります。**
- **次のような所は、転倒しケガをするおそれがあるので走行しないでください。**
  - **両側が傾斜していたり、溝のある道路の路肩**
  - **道幅に余裕が無く高い所にある道路（土手）**
  - **路肩の弱い道路**
  - **路面の凹凸（溝や穴、窪地など）の落差の大きい所や路面が草などでおおわれてよく見えない所**

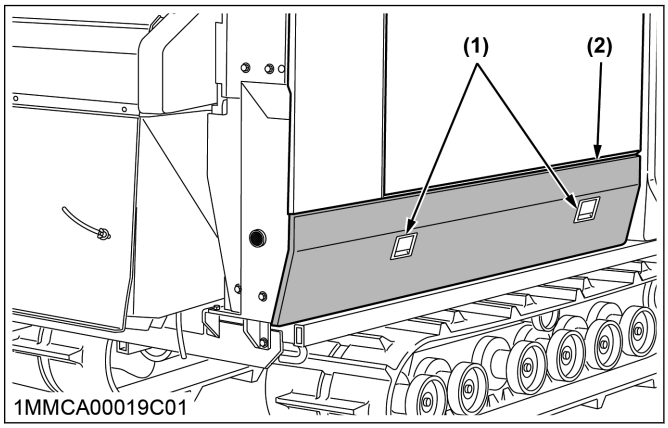
重要：
- **路面の凹凸（溝や穴など）や荒れた路面上は走行しないでください。クローラの破損や早期摩耗の原因となります。**
- **アンローダ受けにアンローダを必ず収納してください。**

補足：
- **結束機、ドロッパ、スイスイデバイダなどのオプションを装着している場合は、『道路運送車両法』の違反となりますので公道を走行できません。必ずトラックなどの運搬車に乗せて移動してください。**
- **『道路運送車両法』の“保安基準”に抵触するおそれがあるため、公道走行する前には必ず次の項目を確認し、異常があるときは購入先に連絡して処置を行ってください。また、異常があるときは必ずトラック輸送を行ってください。**
  - **機械の周囲を回って油漏れ、水漏れ、燃料漏れが発生している場合**
  - **エンジン音に異常がある場合**
  - **旋回異常がある場合**
  - **ブレーキ、各変速、各クラッチに異常がある場合**
  - **各警報（ブザー）、灯火装置（スイッチ、ランプ）に異常がある場合**

1. 移動走行前の準備

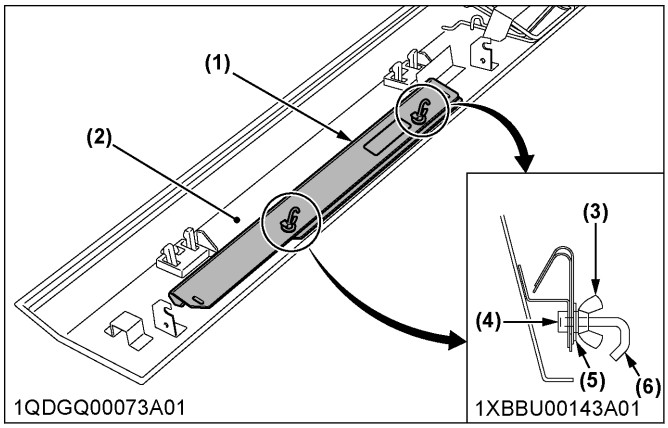
警告
- **平たんな場所に置き、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてください。**
- **木や電線に接触して破損したり、周囲の人にケガをさせるおそれがあるので、アンローダを収納状態にしてください。**
- **取り外したカバー類は必ず取り付けてください。**

1. グレンタンク内に残っているもみは、すべて排出します。
   （もみの排出のしかた（114 ページ）を参照）
2. デバイダカバーを取り付けます。
   a. 取手を引きます。
   b. グレンタンク下カバーを外します。



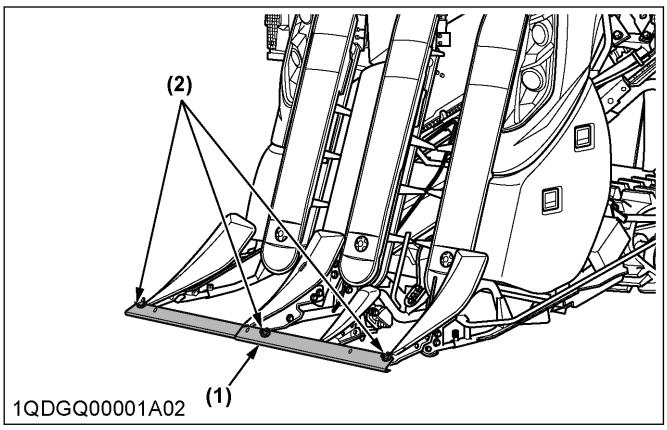
(1) 取手　　*(2)* グレンタンク下カバー

   c. グレンタンク下カバー裏側のデバイダカバーを取り付けている蝶ナットをゆるめて、J 形金具、平座金を取り外してデバイダカバーを外します。



(1) デバイダカバー
(2) グレンタンク下カバー
(3) 蝶ナット
(4) ナット部
(5) 平座金
(6) J 形金具

   d. デバイダカバーを装着します。
   e. J 形金具、バネ座金、平座金、蝶ナットを取り付けてデバイダカバーを固定します。

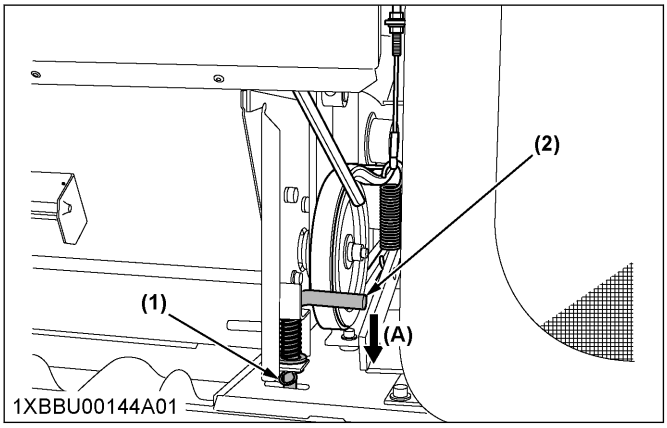


(1) デバイダカバー　　*(2)* J 形金具、バネ座金、平座金、蝶ナット

補足：

- **J 形金具、平座金各 1 個とバネ座金 3 個は運転席裏側の取扱説明書収納場所に保管している袋などから取り出してください。**

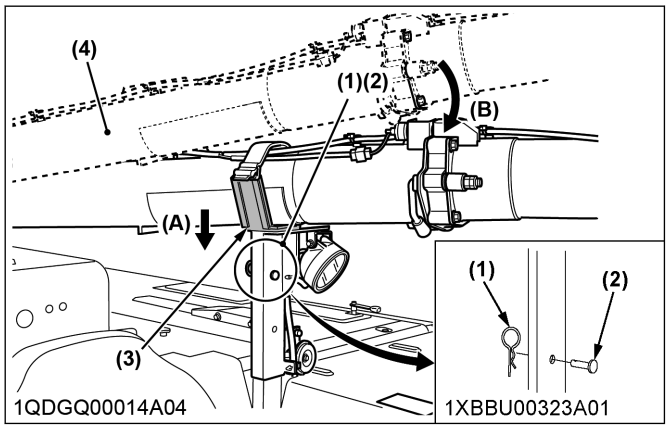
3. グレンタンクを固定します。
   a. スナップピンを取り付けます。
   b. タンク固定ピンを差し込みます。
   c. グレンタンクの固定を確認します。



(1) スナップピン
(2) タンク固定ピン
(A) 差し込む

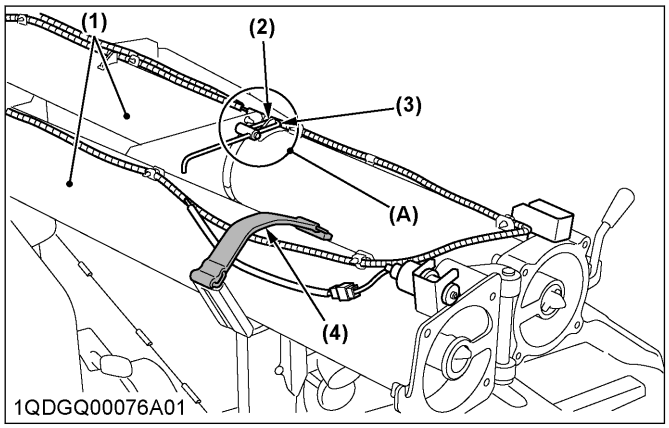
4. グレンタンク下カバーを取り付けます。

5. アンローダを収納します。
   a. スナップピンを外して頭付きピンを外します。
   b. アンローダ受けを下位置にします。
   c. アンローダをアンローダ受けに収納します。



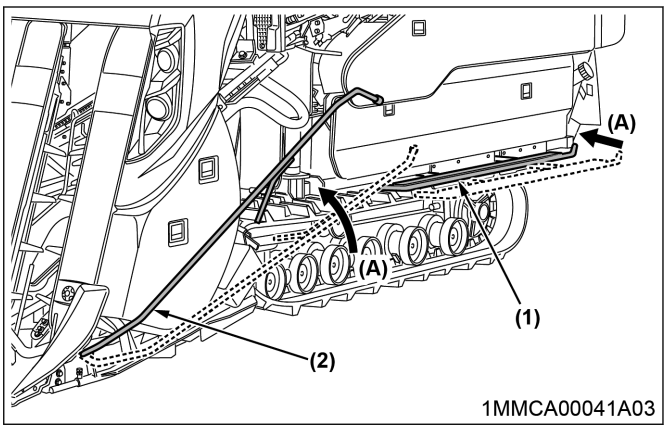
(1) スナップピン
(2) 頭付きピン
(3) アンローダ受け
(4) アンローダ
(A) 下位置にセット
(B) 収納固定

   d. アンローダを折りたたみ、フックにステーを引っ掛けます。
   e. アンローダをバンドで固定します。



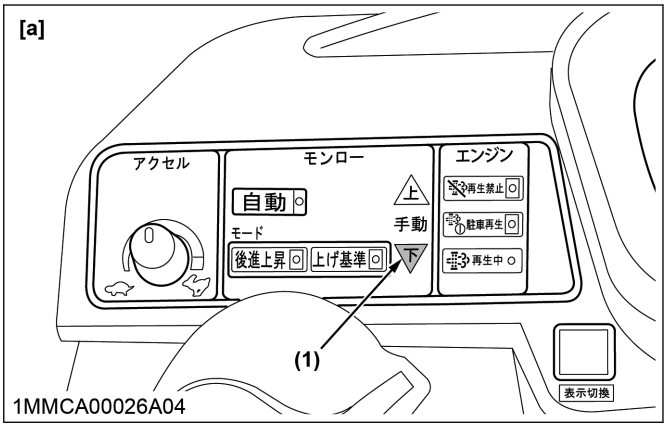
(1) アンローダ
(2) フック
(3) ステー
(4) バンド
(A) 引っ掛ける

6. 補助デッキ、左分草かんを収納します。
   a. 補助デッキを収納します。
   b. 左分草かんを収納します。



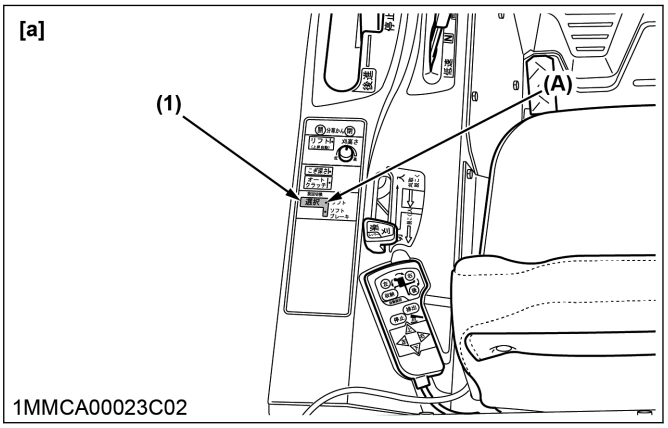
(1) 補助デッキ
(2) 左分草かん
(A) 収納

7. **［L 仕様］**水平操作手動スイッチの**[下]**を押して機体をいっぱいまで下げた状態にします。



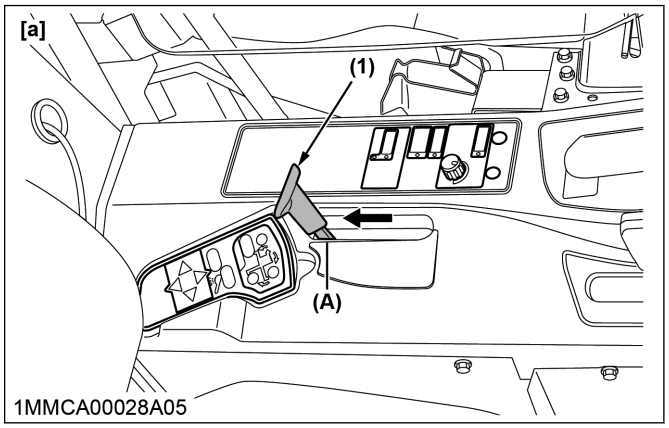
(1) 水平操作手動スイッチ（下）
[a] イラストは *L* 仕様

8. 旋回モードを“ソフトターン”にします。
   • 旋回モード切換えスイッチを押して“ソフト”にします。



(1) 旋回モード切換えスイッチ
(A) ソフトターン
[a] イラストは *L* 仕様

9. 次のように各作業クラッチを“切”にします。
   • 作業レバーを**[切]**位置にします。

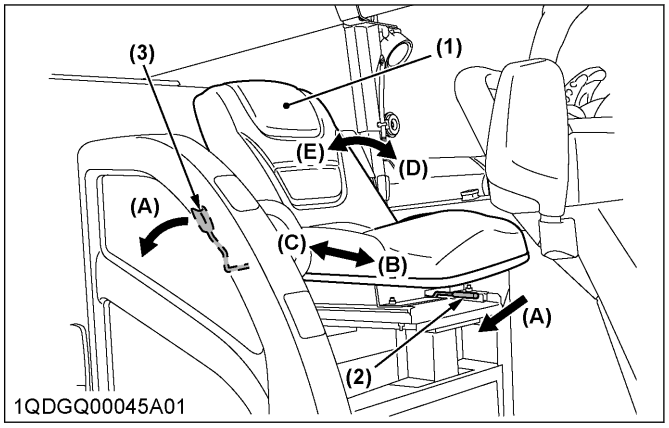


(1) 作業レバー
(A) 切
[a] イラストは *L* 仕様

2. 発進のしかた

⚠ 警告
- **発進をするときは、周囲の安全を確かめてホーンなどで合図を行ってから発進してください。**
- **急発進は危険ですので、ゆっくりと発進してください。**

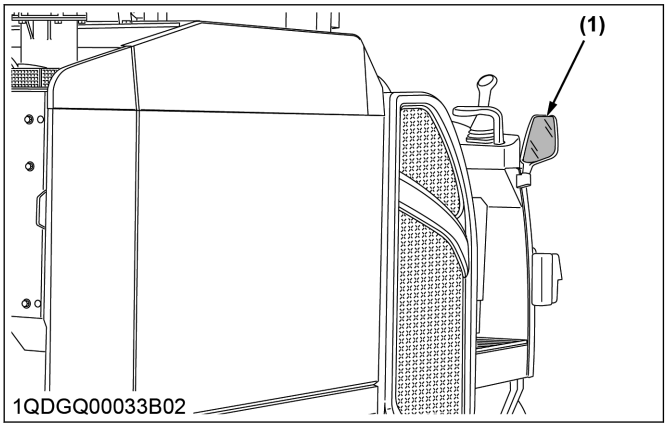
1. 運転席、バックミラーの調整を行います。
   a. 前後調節レバーでシートの前後調節をします。
   b. チルトレバーで運転席の傾きを調節します。



(1) 運転席（シート）
(2) 前後調節レバー
(3) チルトレバー
(A) 引く
(B) 前
(C) 後
(D) 前傾
(E) 後方

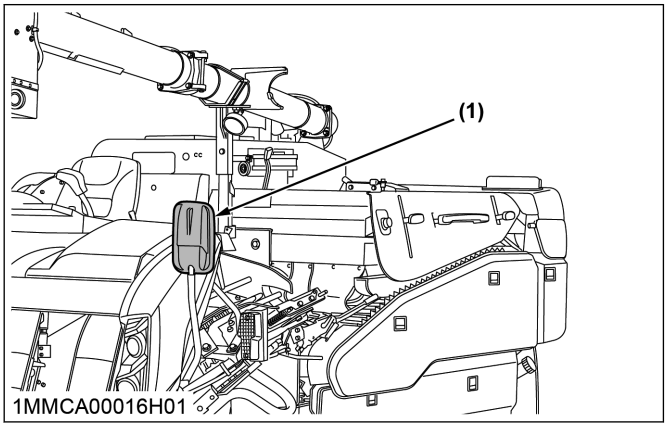
   c. 後方の状況がわかるようにバックミラーを調整します。

右側



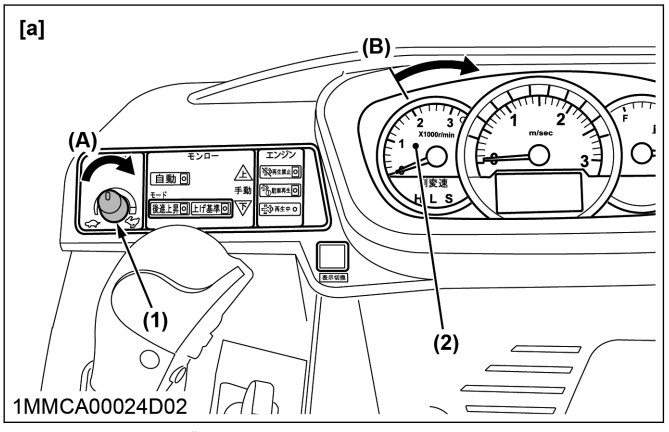
(1) バックミラー

左側



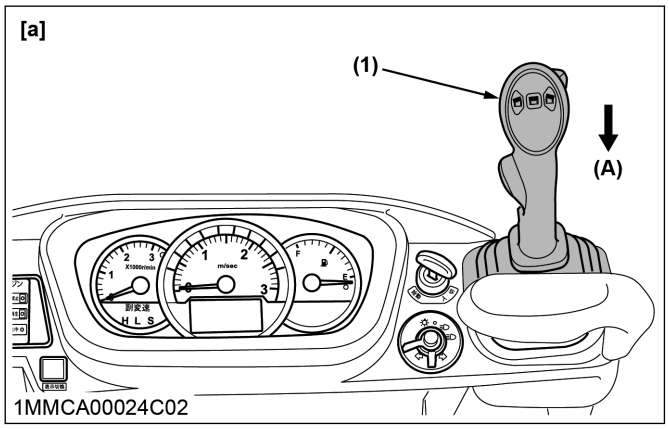
(1) バックミラー

2. 手動アクセルダイヤルを操作します。
   a. エンジンを始動します。
   b. 手動アクセルダイヤルを回してエンジン回転数を“*2000 rpm*”以上にします。

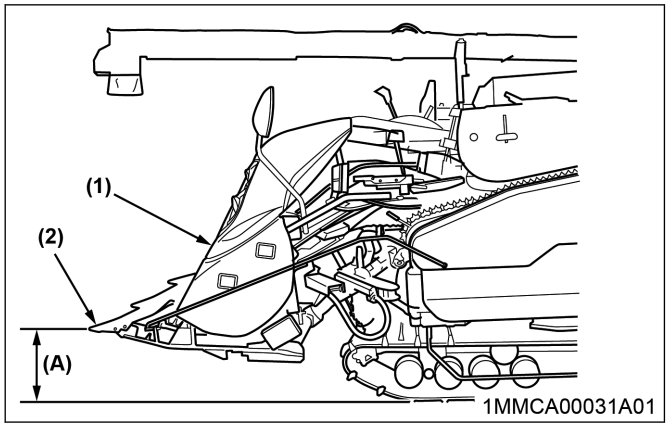


(1) 手動アクセルダイヤル
(2) エンジン回転計
(A) 回す
(B) *2000 rpm* 以上
[a] イラストは *L* 仕様

3. 刈取部を上げます。
   a. パワーステアリングレバーを引き、刈取部のデバイダを地面から次図に示す高さまで上げます。

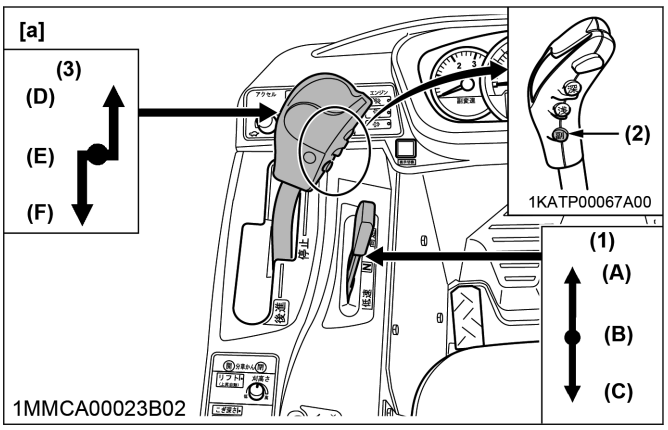


(1) パワーステアリングレバー　*(A)* 引く
[a] イラストは *L* 仕様

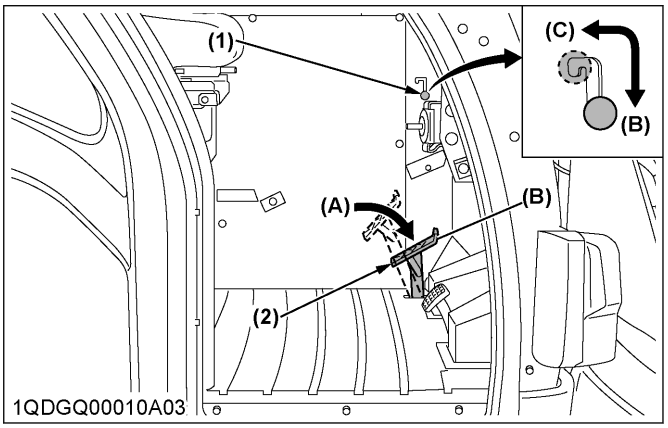


(1) 刈取部　*(A)* 約 *28 cm*
(2) デバイダ先端

4. 走行速度を選んで発進します。
   主変速レバーを**[停止]**位置より前に押すと“前進”し、後に引くと“後進”します。
   a. 副変速レバーと副変速切換えスイッチで速度を選びます。
   b. 駐車ブレーキペダルを踏み込みます。
   c. 駐車ブレーキロックレバーを引上げて駐車ブレーキを解除します。
   d. 主変速レバーを操作し前、後進します。



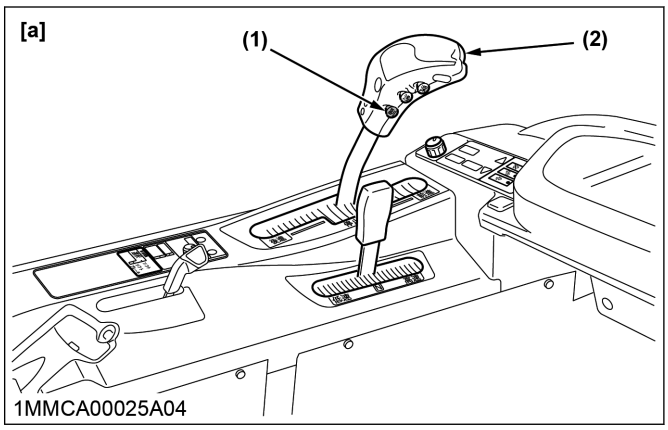
(1) 副変速レバー　*(A)* 高速
(2) 副変速切換えスイッチ　*(B)* *N*（中立）
(3) 主変速レバー　*(C)* 低速
(D) 前進
(E) 停止
(F) 後進
[a] イラストは *L* 仕様



(1) 駐車ブレーキロックレバー　*(A)* 踏込む
(2) 駐車ブレーキペダル　*(B)* ロック
(C) 解除

重要：

- **駐車ブレーキが掛かっているときは、主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。また、駐車ブレーキが掛かっている状態で主変速レバーを動かして警報が鳴ったときは、主変速レバーを[停止]位置にして駐車ブレーキを解除してください。**
- **副変速レバーの切換えは平たんな場所で主変速レバーを[停止]位置にし、ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込み走行をいったん止めてから行ってください。故障の原因となります。**
- **走行中に副変速切換えスイッチを押したとき、急激な増、減速に伴うショックが発生することがあるため、副変速切換えスイッチを押すときは、主変速レバーを操作して、機体をいったん停止する、または機体の速度を 1.0 m/s 以下に落としてから副変速を切り換えてください。**



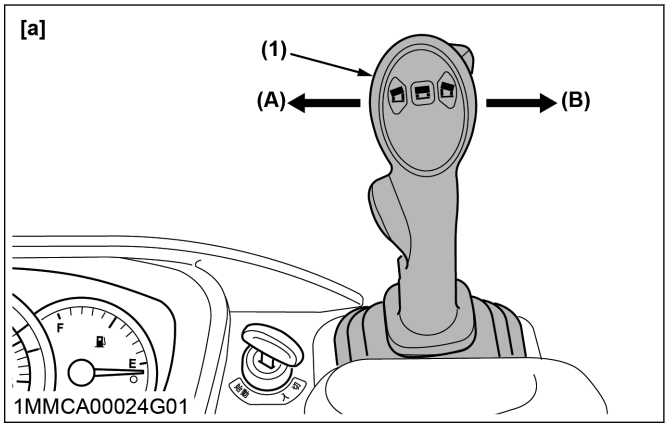
(1) 副変速切換えスイッチ
(2) 主変速レバー
[a] イラストは *L* 仕様

補足：
- **副変速レバーが切り換えにくいときは、主変速レバーを少し[前進]側に動かして停止に戻してから切り換えてください。**

3. 旋回のしかた

⚠ 警告
- **高速走行時、パワーステアリングレバーを強く操作すると急旋回して危険ですので、旋回前に必ず減速してください。**

旋回する方向にパワーステアリングレバーを倒します。倒す角度に応じて旋回半径が変わります。また、いっぱいまで倒すと急旋回します。

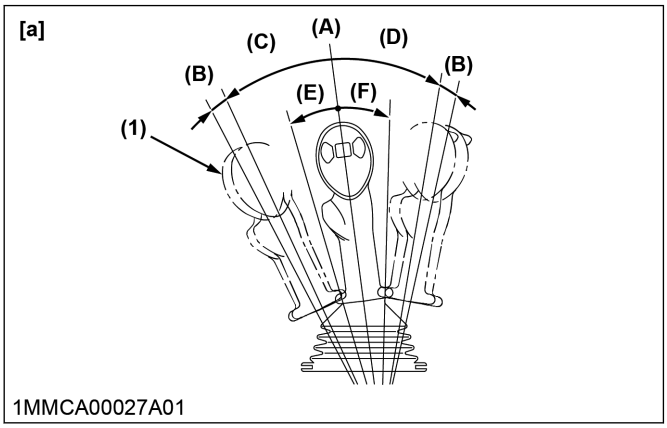


(1) パワーステアリングレバー
(A) 左旋回
(B) 右旋回
[a] イラストは *L* 仕様

重要：
- **砂利道での急旋回は、クローラに石がかみこみ故障するおそれがありますので避けてください。**

補足：
- **旋回モードを*“*ソフト・ブレーキターン*”*に切り換えて、次図の*“(A)”*から*“(B)”*の範囲に切り換わるとブレーキターンとなります。**

運転席に座って操作する方向



(1) パワーステアリングレバー
(A) ソフトターン範囲
(B) ブレーキターン範囲
(C) 左旋回
(D) 右旋回
(E) 左方向修正
(F) 右方向修正
[a] イラストは *L* 仕様

4. 停車、駐車のしかた

⚠ 警告
- **コンバインを離れるときは、平たんで安全な場所に置き、刈取部を降ろして駐車ブレーキを掛け、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてください。**
- **やむをえず坂道で駐車するときは、木片などで車止めをし、暴走を防いでください。**

1. 主変速レバーを**[停止]**位置にします。
2. 駐車ブレーキを掛けます。

   重要：
   - **駐車ブレーキが掛かっているときは、主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。**
3. 手動アクセルダイヤルを“（低回転）”位置にします。
4. 副変速レバーを**[N]**“（中立）”以外の位置にします。
5. 刈取部を降ろして地面に接地します。
6. エンジンを停止してメインスイッチのキーを抜きます。

5. 道路走行時の注意事項

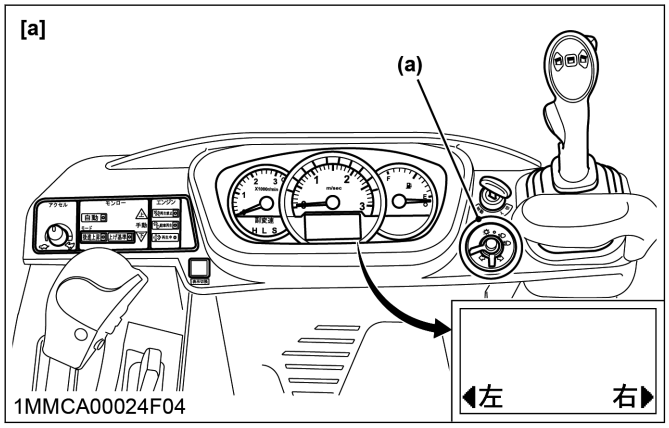
⚠ 警告
- **結束機、ドロッパ、スイスイデバイダなどのオプションを装着した状態で移動するときは、トラック輸送してください。**
- **夜間など暗いときに移動走行するときは、ヘッドランプを必ず点灯し、作業灯は必ず消灯してください。**

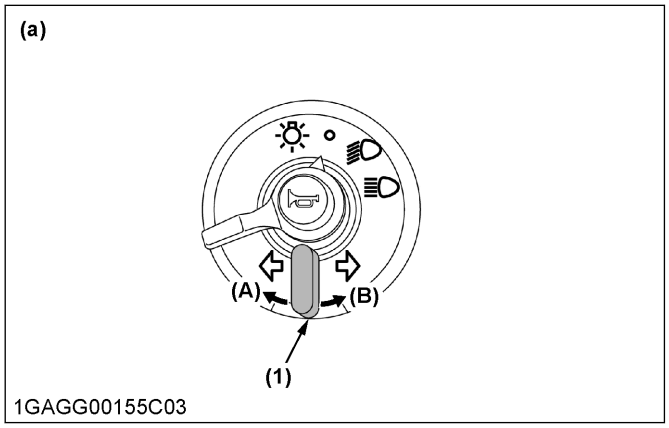
道路走行中、進路方向を変えるときは、ウインカ（方向指示器）で進路方向を他の自動車に知らせてください。

補足：
- **道路を走行するときは、大型特殊自動車の運転免許証を必ず携帯し、『小型特殊自動車の法規』を守り安全運転をしてください。**
- **作業灯は『道路運送車両法の保安基準第 *42* 条（灯火の色などの制限）』において、“走行中に使用しない灯火”とされ、点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから、道路走行中の点灯は禁止されています。**

5.1 ウインカスイッチの操作

1. ウインカスイッチを旋回方向に操作します。
   ウインカランプが点滅し、マルチナビの液晶ディスプレイに◀“（左方向）”または▶“（右方向）”方向を示す矢印が点滅表示します。





(1) ウインカスイッチ

(A) 左点滅
(B) 右点滅
[a] イラストは *L* 仕様

補足：
- **旋回が終わるとウインカスイッチを中央に戻してください。**

輸送について

1. トラックとあゆみ板の準備

⚠ 警告
- **積込み、積降しは平たん地を選び、トラックの駐車ブレーキを掛け、トラックの変速レバーを R（後進）または 1 速に入れたあと、さらにタイヤに車止めを行い、トラックが動かないようにしっかりと固定してください。**
- **あゆみ板はフックが付いている物で、じゅうぶんな強度、幅、長さのある基準に合ったすべり止め付きの物を使用し、コンバインの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。**
- **あゆみ板を荷台に掛けるときは、段差が無く平行で、左、右のあおりに機体が接触しない位置に合わせてください。**

あゆみ板の基準

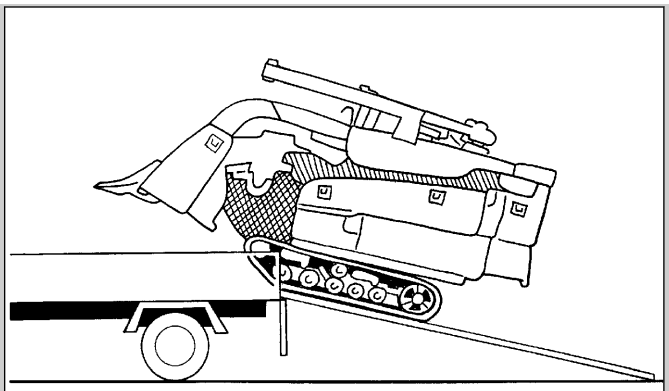
長さ	トラックの荷台の高さの 4 倍以上
幅	55 cm 以上
数量	2 枚
強度	1 枚が 2400 kg 以上の重量に耐えうる

2. トラックへ積込み時のコンバインの準備

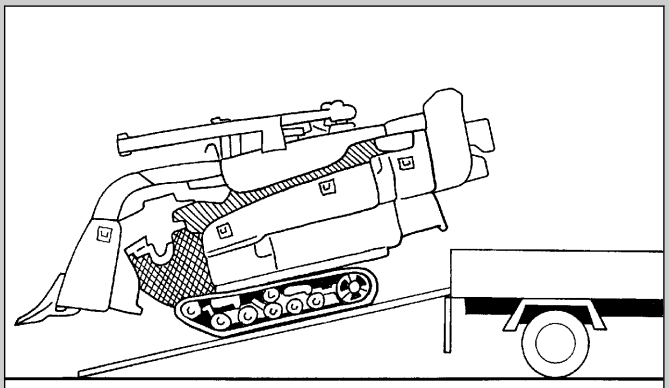
1. もみをすべて排出します。
2. アンローダ受けを下（収納）位置にしてアンローダを収納します。
3. 折りたたみ式アンローダを折りたたみます。
4. バンドで固定します。
5. 次のように各作業クラッチを“切”にします。
   - 作業レバーを**[切]**位置にします。
6. **[L 仕様]** 自動車体水平制御（モンロー）を機体いっぱいまで下げます。
7. 補助デッキや左分草かんをそれぞれ収納します。
8. デバイダカバーを取り付けます。
   （移動走行前の準備（90 ページ）を参照）

3. トラックへの積込み、積降しのしかた

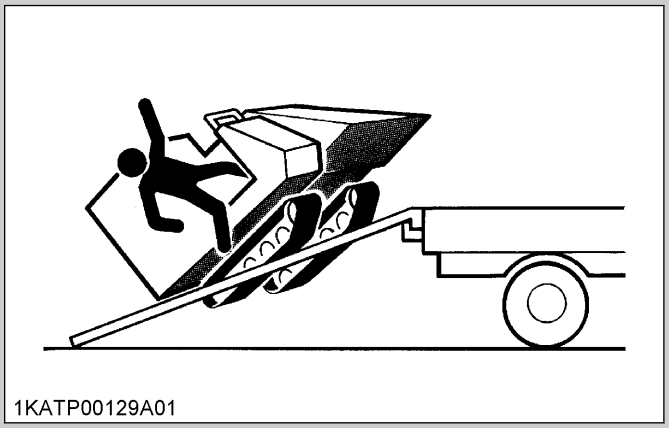
⚠ 警告
- **積込みは前進で、積降しは後進で行ってください。ただし、オプションで結束機を付けた機械は後進で積込み、前進で積降しを行ってください。**
- **平たん地を選び、できるだけ助手の立合い誘導のもとに行ってください。また、助手以外の人をコンバインの周辺に近づけないでください。特にコンバインの前後に人を近づけないでください。**


1XBBU00009A01

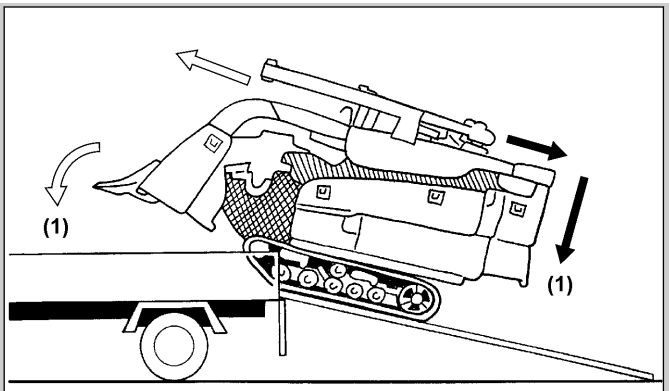
［オプションで結束機を付けた場合］


1XBBU00010A01

- **あゆみ板の途中でパワーステアリングレバーの操作や副変速切換えスイッチ、副変速レバー、駐車ブレーキペダル、旋回モード切換えスイッチ、アンローダリモコンを操作すると、機械が急降下し落下する危険がありますので、操作しないでください。［L 仕様］は水平操作手動スイッチ、傾斜角手動調節スイッチも操作しないでください。方向を変えるときは、いったん地上または荷台に戻って方向を修正し、再度上りまたは下り直してください。**


1KATP00129A01

- **機体が凸部を越えるときは、急にコンバインの姿勢が変わりますのでじゅうぶん注意してください。**

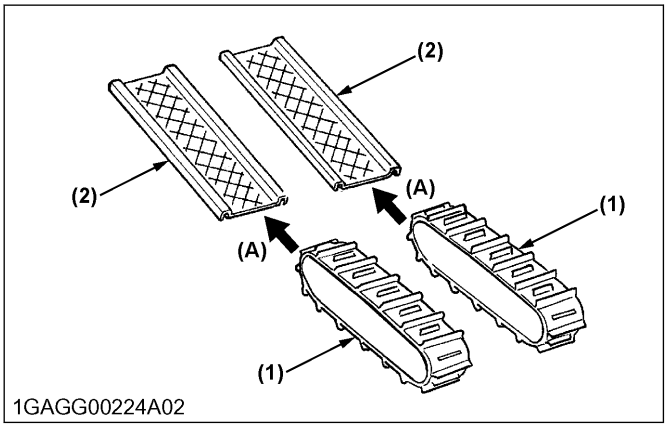


1XBBU00011A01

(1) 急に下がる箇所

3.1 トラックへの積込み、積降し操作のしかた

1. 次のように各作業クラッチを“切”にします。
   - 作業レバーを**[切]**位置にします。
2. **［L 仕様］**水平操作手動スイッチで機体を“最下降位置”まで下げます。
3. パワーステアリングレバーで刈取部を上げます。
4. 手動アクセルダイヤルを操作してエンジン回転数を2000 rpm 以上にし、副変速レバーを**[低速]**位置、副変速スイッチを“*S*（倒伏位置）”位置にします。
5. 主変速レバーをゆっくり操作して、“低速”で走行します。
6. あゆみ板の前でいったん停止し、あゆみ板の中央に左右のクローラを合わせ、機体から降りてあゆみ板と平行になっているか確認してから積込み、積降ろしをします。



1GAGG00224A02

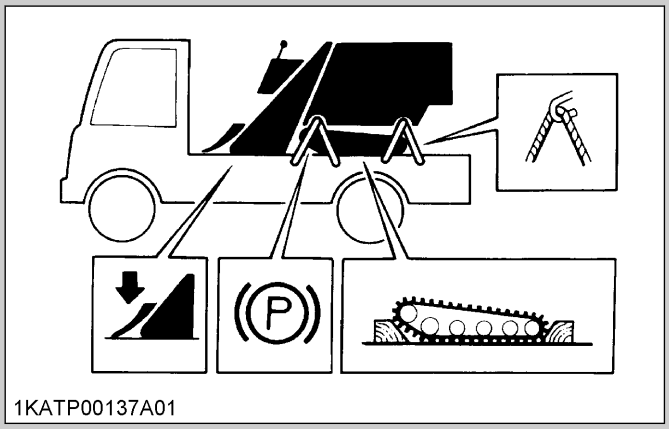
(1) クローラ　　*(A)* 合わす
(2) あゆみ板

7. 荷台に乗せ終わったら刈取部を接地させて駐車ブレーキを掛けます。

4. トラック上でのコンバインの処置

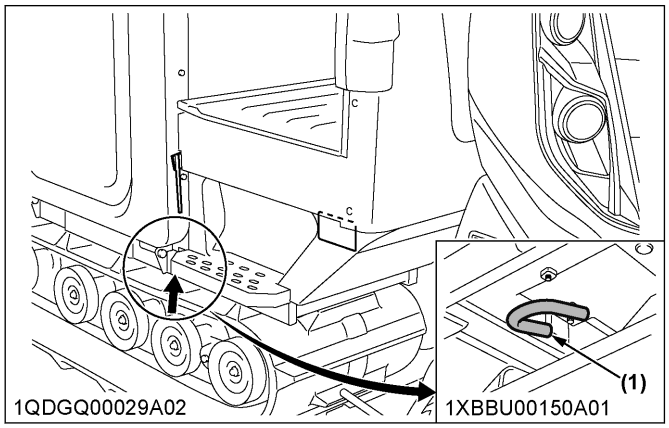
警告

- **刈取部を床まで降し、駐車ブレーキを掛け、車止めをし、ロープでしっかりトラックに固定してください。**

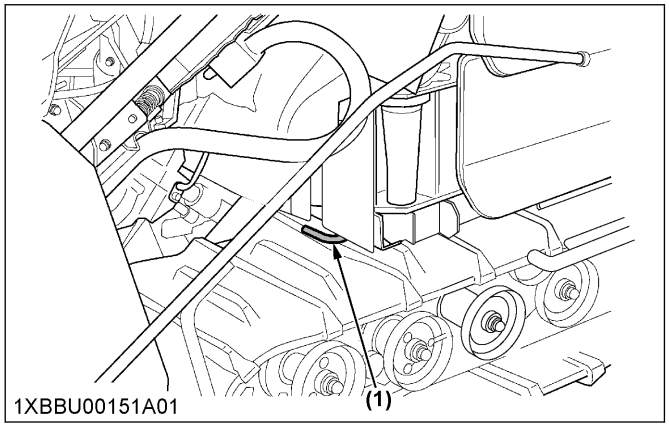


1. コンバインをトラックの荷台に乗せます。
2. 刈取部を床まで降ろし、駐車ブレーキを掛けてエンジンを停止します。
3. コンバインにロープを掛けます。
   ロープを掛けるときは、必ず指定のロープ掛け用のフック 4 か所に掛けてください。

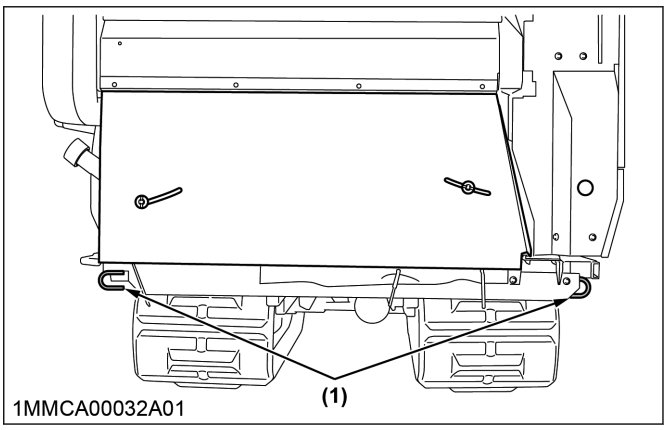
運転席下側



左側前



後側



(1) ロープ掛けフック

重要：

- **ロープ掛けフック以外の所には、ロープを掛けないでください。**
- **ロープ掛けフックはけん引作業に使用しないでください。また、けん引作業を行うときにロープをロープ掛けフックに掛けないでください。**

収穫作業のしかた

作物とほ場の条件

作物の状態やほ場の状態によっては、刈取作業ができない場所があります。作業を始める前によく確かめて、収穫量が上がる能率の良い作業を行ってください。

1. 作物の条件

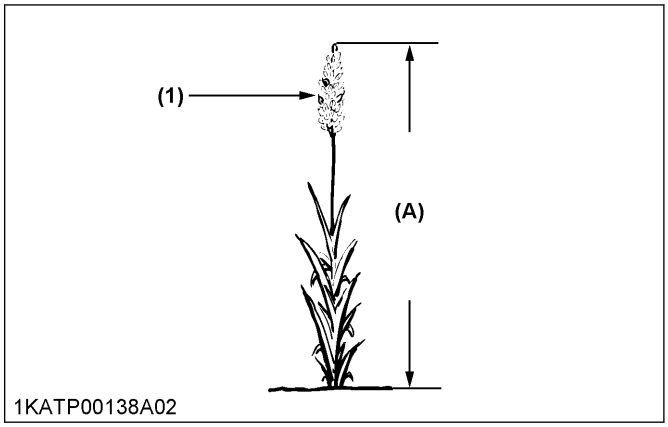
重要：

- **湿田の倒伏や濡れ作物の刈取作業を行うとき、受あみが目詰まりを起こすことがあります。この場合排じんロス（もみの飛散）が多くなります。このような場合には作業をいったん中止し、受あみの目詰まりを取り除いてください。**
  掃除を行うときは、必要に応じて受あみを取り外してください。
  （受あみの脱着（153 ページ）を参照）

1.1 作物の長さ

刈り取れる長さは、標準の刈高さで次の条件を満たしていること。

標準の刈高さ	全長約 55 cm～130 cm

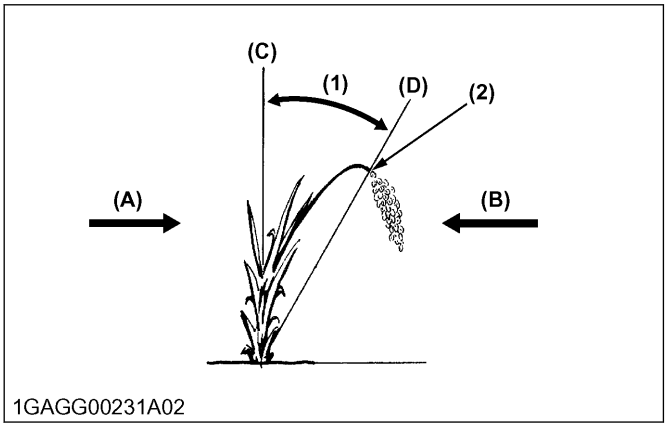


(1) 作物　　*(A)* 全長

1.2 作物の倒伏

作物の倒れかた（倒伏角）により、刈取り方向に注意してください。

刈取りかた（方向）	倒伏角
追刈り	85 度以下
向刈り	70 度以下



(1) 倒伏角
(2) 穂首
(A) 追刈り
(B) 向刈り
(C) 立毛位置
(D) 倒伏位置

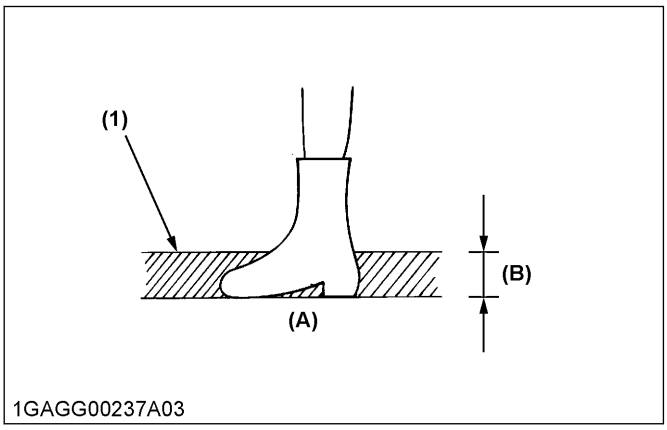
1.3 作物の濡れ

作物は乾いて、手でしごいて濡れていない状態が適期です。

2. ほ場の条件

2.1 ほ場のぬかるみ

足の沈み量を測って目安にしてください。



(1) ほ場　　*(A)* 長靴をはいた状態

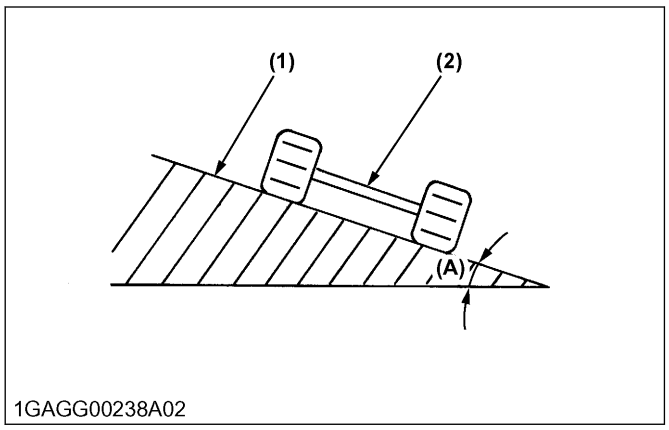
(B)	沈み量	25 cm まで

補足：

- **刈取作業が行えるほ場のぬかるみの沈み量は、土の性質によって変わります。**

2.2 ほ場の傾き

傾斜角度 5 度以上では、刈取作業できません。



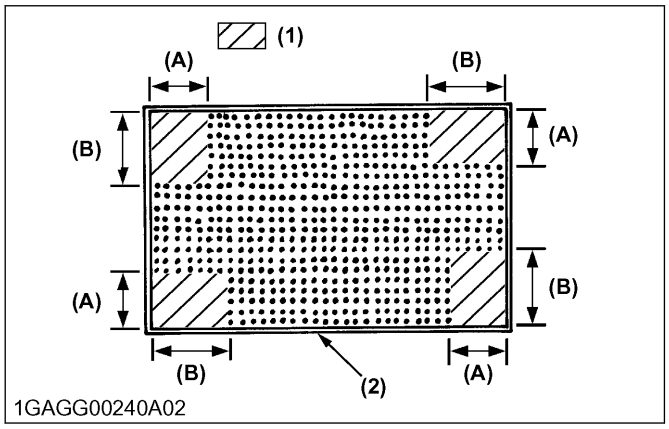
1GAGG00238A02

(1) ほ場
(2) コンバイン
(A) 傾斜角度

ほ場の準備

1. あぜぎわの手刈り（枕刈り）

コンバインをほ場に入れる前に、あぜぎわの四隅で旋回が楽に行えるように、旋回ができる範囲（面積）の手刈りをします。これを枕刈りといいます。

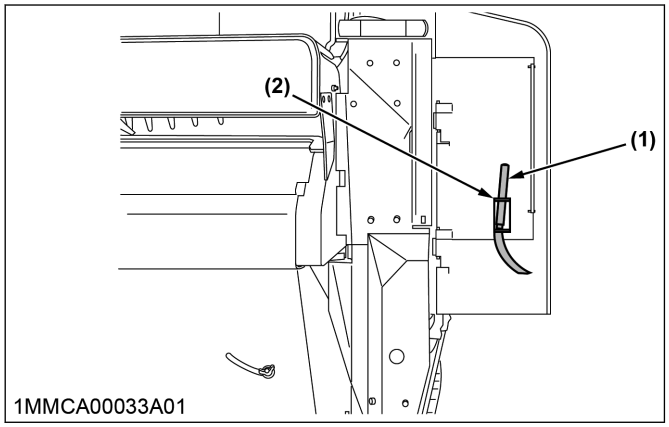


1GAGG00240A02

(1) 手刈り範囲
(2) ほ場
(A) *2 m～3 m*
(B) *4 m～5 m*

補足：

- **カマの収納場所は次図の位置にあります。**



1MMCA00033A01

(1) カマ
(2) カマ差し金具

刈取作業のためのコンバインの準備

警告

- **平たんな場所に置き、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてください。**
- **取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。**

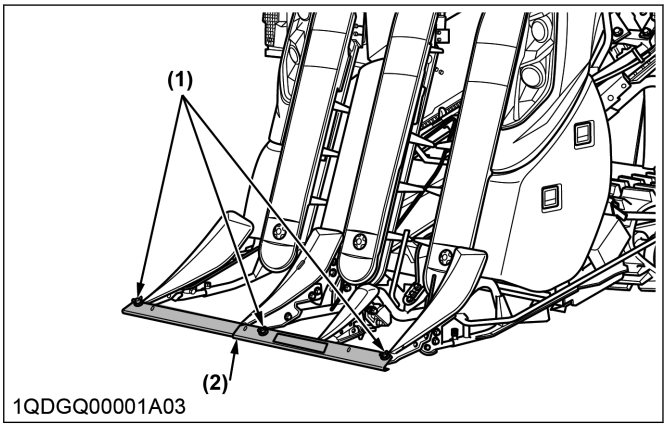
1. 刈取作業の準備のしかた

1.1 各部への注油

作業前に刈刃や各チェーンに注油を行ってください。
（各部の注油（168 ページ）を参照）

1.2 デバイダカバーの取外しと収納

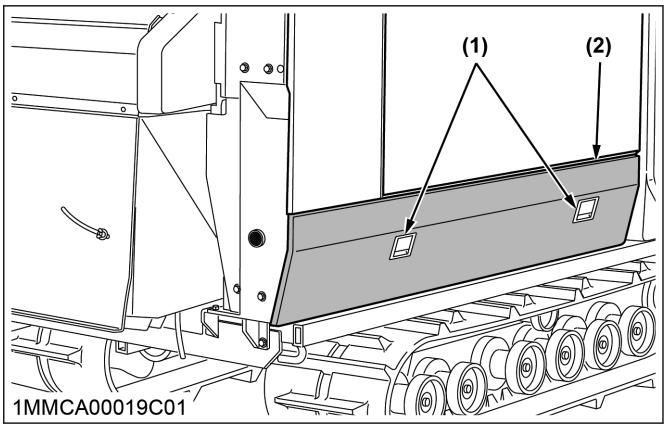
1. 蝶ナットをゆるめます。
2. デバイダカバーを外します。



1QDGQ00001A03

(1) 蝶ナット
(2) デバイダカバー

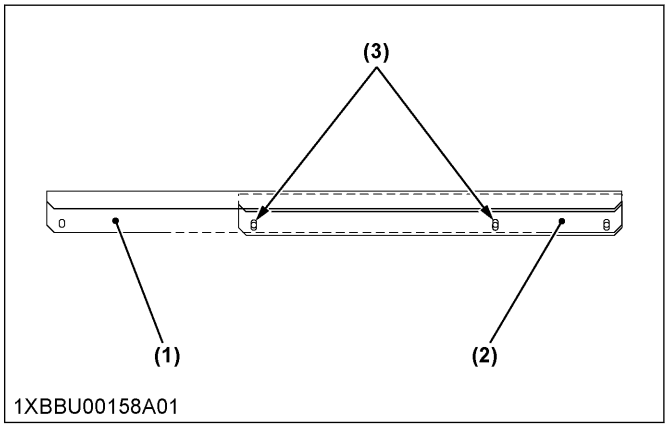
3. 取手を引きます。
4. グレンタンク下カバーを外します。



1MMCA00019C01

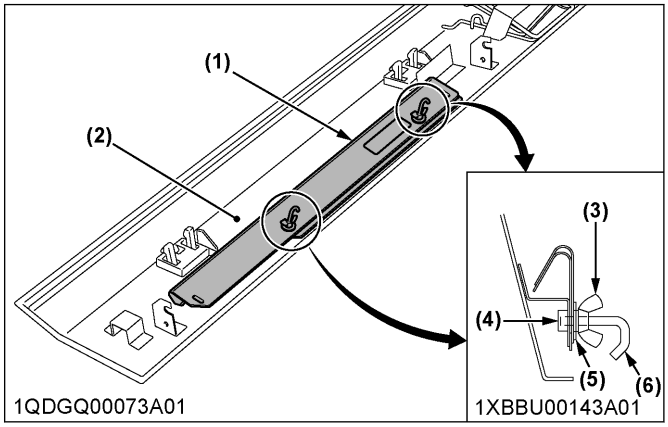
(1) 取手
(2) グレンタンク下カバー

5. 次のように 2 枚のデバイダカバーを重ね、グレンタンク下カバーに取り付けるための取付穴 2 か所を合わせます。
   - デバイダカバー左の内側にデバイダカバー右を重ね、取付穴 2 か所を合わせます。



(1) デバイダカバー左
(2) デバイダカバー右
(3) 取付穴

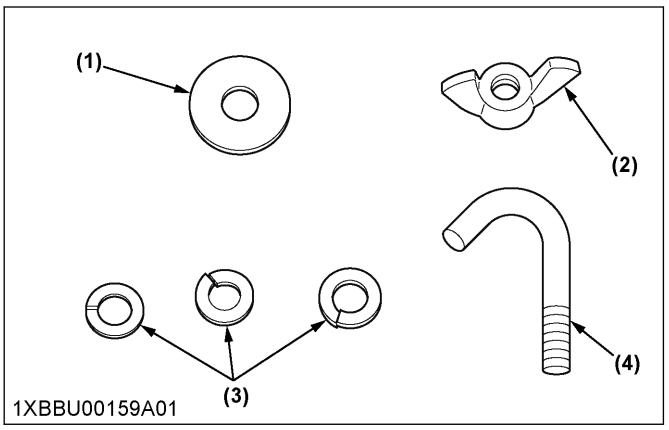
6. 取り外した J 形金具に蝶ナット、平座金を差し込み、グレンタンク下カバーのナット部に J 形金具を取り付けて手で締め付けます。
7. J 形金具の蝶ナットを締め付けます。



(1) デバイダカバー
(2) グレンタンク下カバー
(3) 蝶ナット
(4) ナット部
(5) 平座金
(6) J 形金具

補足：

- **デバイダカバーの取付けに使用しない部品（J 形金具、平座金、蝶ナット各 1 個、バネ座金 3 個）はビニール袋など入れ物に入れたあと、運転席裏側にある取扱説明書収納場所に無くさないように保管してください。**

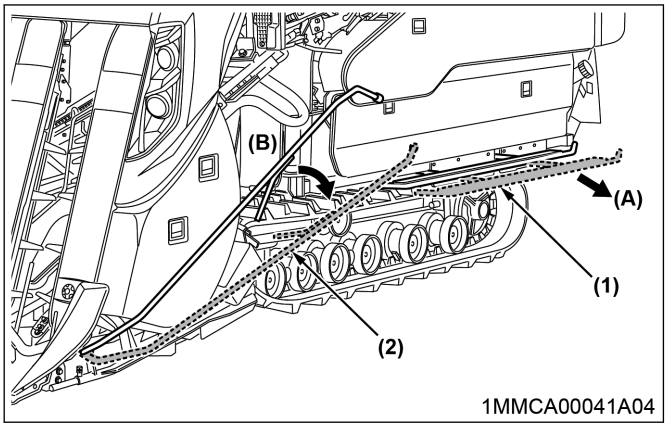


(1) 平座金
(2) 蝶ナット
(3) バネ座金
(4) J 形金具

8. グレンタンク下カバーを機体に取り付けます。

1.3 左分草かんのセット

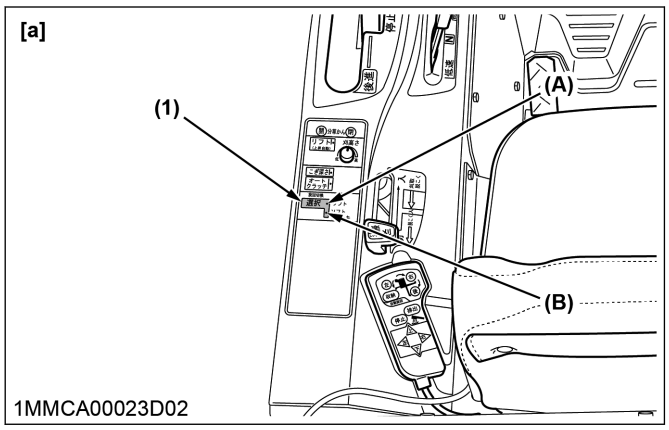
1. 補助デッキを引き出します。
2. 左分草かんを開きます。



(1) 補助デッキ
(2) 左分草かん
(A) 引き出す
(B) 開く

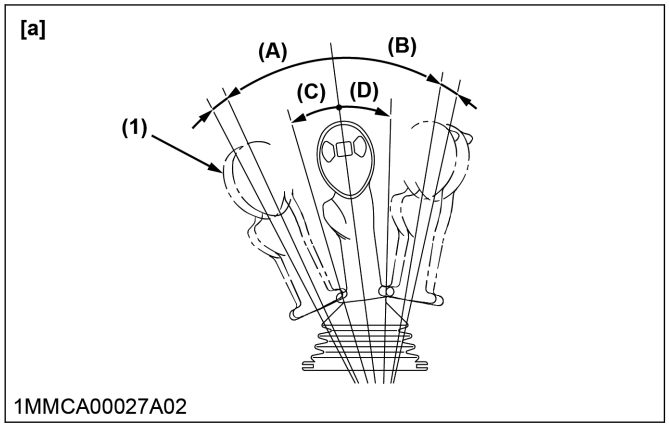
1.4 旋回モードの選択

旋回モード切換えスイッチを操作して、旋回モードを作業条件に応じて切り換えてください。



(1) 旋回モード切換えスイッチ
(A) ソフトターン
(B) ソフト・ブレーキターン
[a] イラストは *L* 仕様

運転席に座って操作する方向



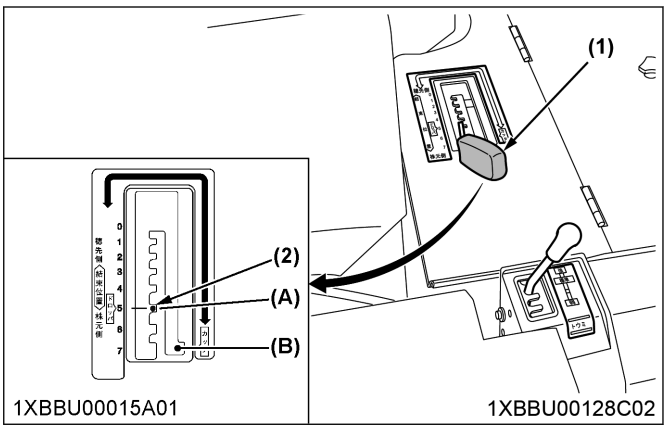
(1) パワーステアリングレバー
(A) 左旋回
(B) 右旋回
(C) 左方向修正
(D) 右方向修正
[a] イラストは *L* 仕様

補足：

- **“ソフト・ブレーキ”で作業を行った際に機体の振動が大きいとき、湿田での作業時、ほ場の荒れが大きいときなどは、“ソフト”に切り換えてください。**

1.5 排わら処理の選択

わら作業切換えレバーを操作して、排わら処理の選択をしてください。



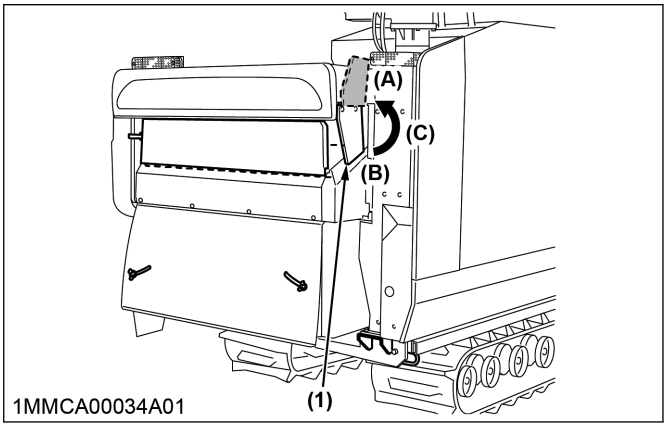
(1) わら作業切換えレバー
(2) 切欠部
(A) ドロッパ、バラ落し作業位置
(B) カッタ作業位置

重要：

- **作業中にわら作業切換えレバーを切り換えるときは、搬送されている作物が完全に流れ終わってから行ってください。故障の原因となります。**

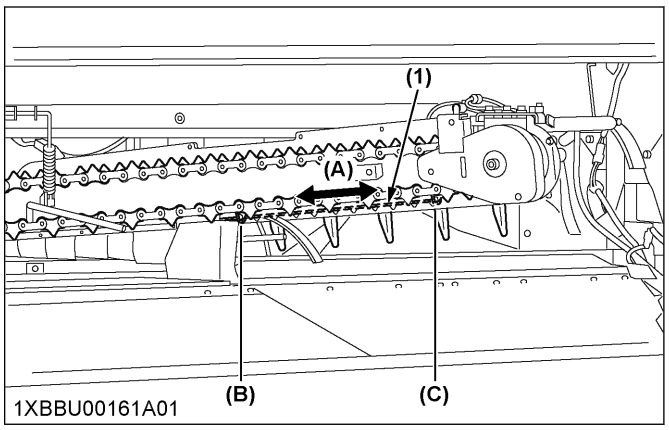
補足：

- **“ドロッパ、バラ落し”作業を選択するときは、わら作業切換えレバーを[5]の切欠部の位置にしてください。**
- **“ドロッパ、バラ落し”作業を選択したときに、わら作業切換えレバーの位置が[1]～[4]の切欠部にあると、わらを踏み付けたり、[6]～[7]の切欠部にあると、排わらチェーンがわらを巻き上げて詰まりの原因となります。**
- **“ドロッパ、バラ落し”作業のときは、穂先カバーを上げてください。**



(1) 穂先カバー
(A) ドロッパ、バラ落し作業位置
(B) カッタ作業位置
(C) 上げる

- **切換えレバーを操作すると、カッタ部の排わら切換えカバーが開閉すると同時に、排わらレールがスライドします。**



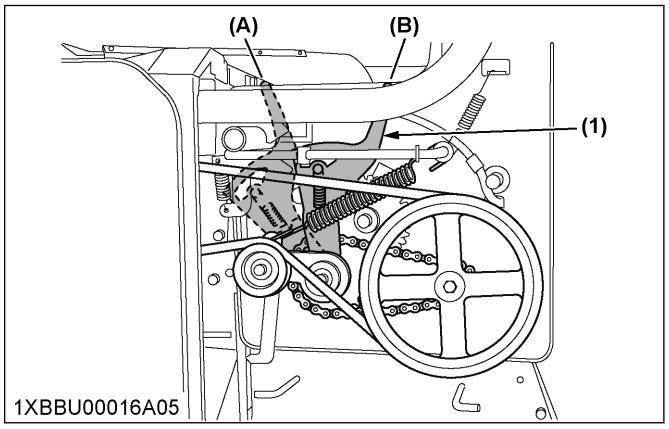
(1) 排わらレール

(A) スライド
(B) カッタ作業位置
(C) ドロッパ、バラ落し作業位置

1.6 排わら切断長さの選択

わらの切断長さの切換えを行ってください。
切り換えるときはカッタ左サイドカバーを外してください。

1. 切換えレバーで“短切断”、“長切断”を選択します。



(1) 切換えレバー

(A) 長切断（*180 mm* 切断）
(B) 短切断（*60 mm* 切断）

補足：

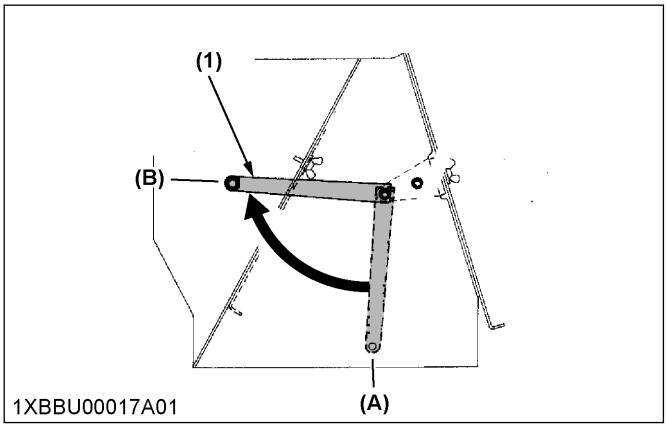
- **シュータ式拡散装置は、切断長さに応じてリヤシュートを前、後方向に調節してください。**

切換えが終わったあとはカッタ左サイドカバーを取り付けてください。

1.7 リヤシュート、サイドシュートの準備

1.7.1 リヤシュート、サイドシュートのセットのしかた

1. 蝶ボルトをゆるめます。
2. リヤシュートから左、右のサイドシュートをいったん外します。
3. 左、右のサイドシュートを広げます。
4. リヤシュートを後に広げます。
5. 左サイドシュートのイタバネを作業時の位置に締め付け、蝶ボルトで両サイドのシュートを締め付けます。

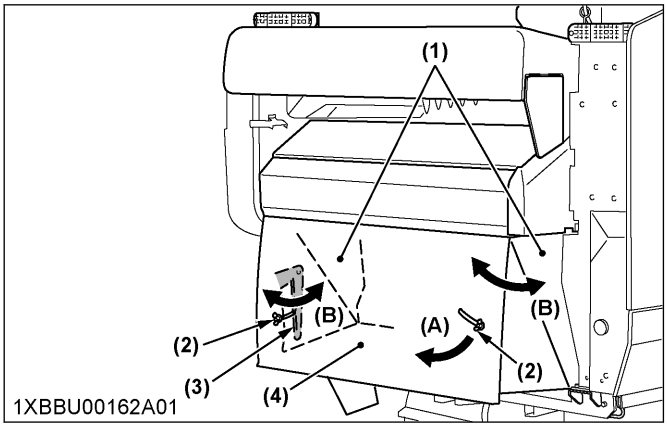


(1) イタバネ

(A) 出荷時
(B) 作業時

1.7.2 リヤシュート、サイドシュートの調整のしかた

作業に合わせて蝶ボルトをゆるめ、リヤシュート、サイドシュートを長穴方向に動かして調整します。

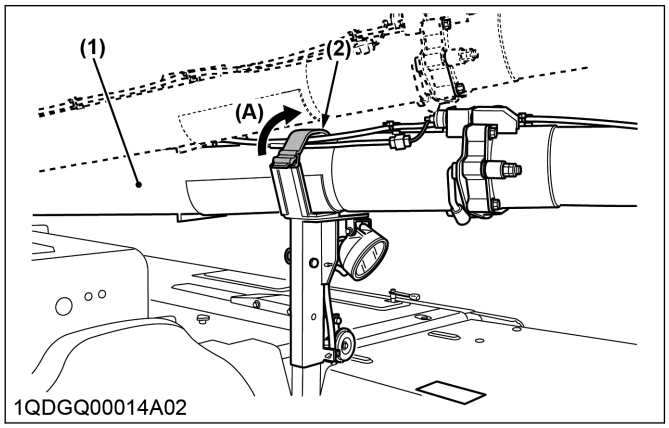


(1) サイドシュート
(2) 蝶ボルト
(3) イタバネ
(4) リヤシュート

(A) 広げる
(B) 調整

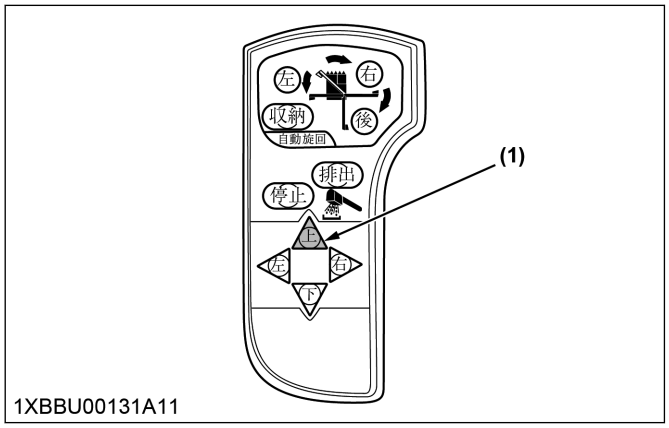
1.8 アンローダの準備

1. エンジンを始動して、アンローダを作業状態にします。
   a. 折りたたみ式アンローダを伸ばします。（アンローダを折りたたむ方法、伸ばす方法（104ページ）を参照）
   b. バンドを外します。



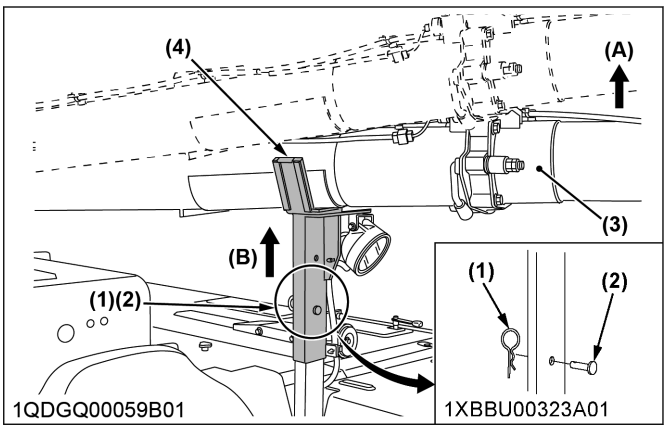
(1) アンローダ
(2) バンド
(A) 外す

   c. アンローダ手動スイッチの**[上]**を押してアンローダを上昇させます。



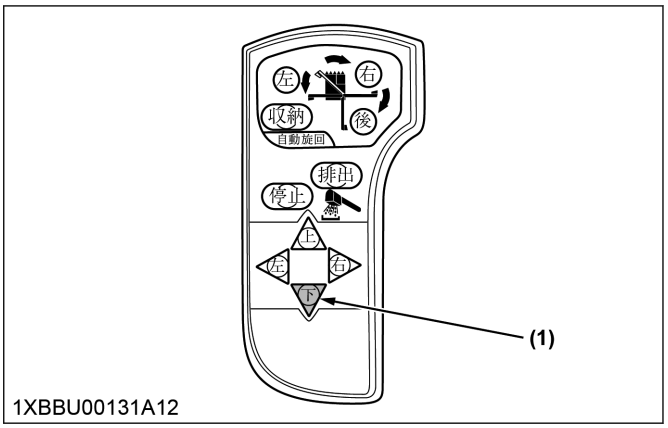
(1) アンローダ手動スイッチ（上）

   d. スナップピンを取り外し、頭付ピンを抜きます。
   e. アンローダ受けを上位置にします。
   f. スナップピンと頭付ピンを取り付けます。



(1) スナップピン
(2) 頭付ピン
(3) アンローダ
(4) アンローダ受け
(A) 上昇
(B) 上位置にセット

   g. アンローダ手動スイッチの**[下]**を押してアンローダを収納します。



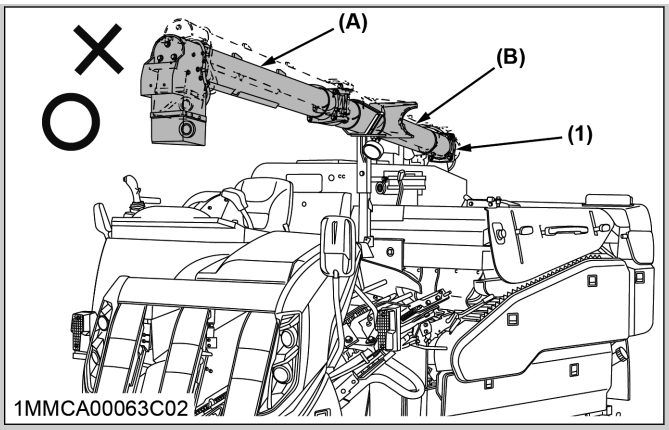
(1) アンローダ手動スイッチ（下）

2. エンジンを停止します。

2. アンローダを折りたたむ方法、伸ばす方法

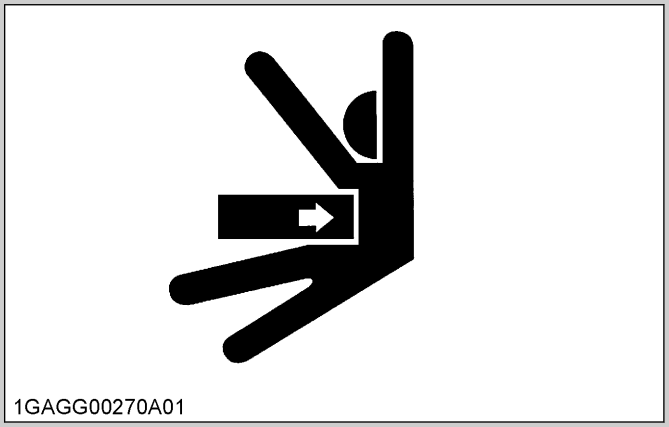
⚠ 警告

- **水平で平たんな場所でエンジンを必ず停止させて、メインスイッチのキーを抜いてください。**
- **機体やアンローダが傾いていると、吐出口側のアンローダが自然に動きケガをするおそれがありますので、アンローダは必ず水平状態にしてください。**

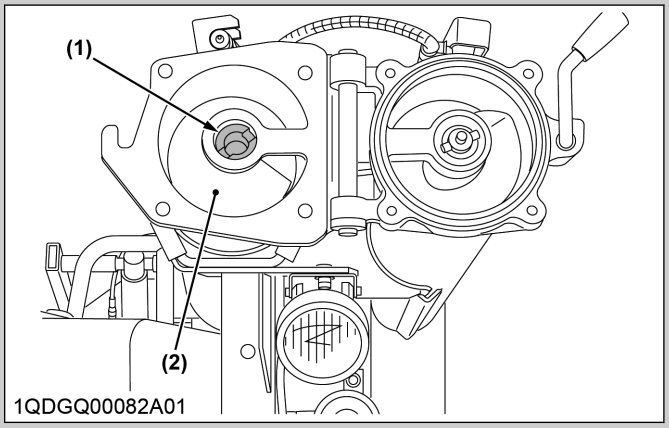


(1) アンローダ
(A) 吐出口側
(B) 本機側

- **アンローダ先端が大きく動き、ケガをするおそれがあるので、アンローダの旋回範囲に人がいるときは、アンローダを動かさないでください。**
- **フックの金具が確実にロックされていないと吐出口側のアンローダが不意に動いてケガをするおそれがあります。**



- **アンローダを折りたたんでいるときは、エンジンを始動した状態でもみ排出クラッチを“入”位置にしないでください。“入”位置にすると、本機側のアンローダスクリュが回転し、ケガをするおそれがあります。**

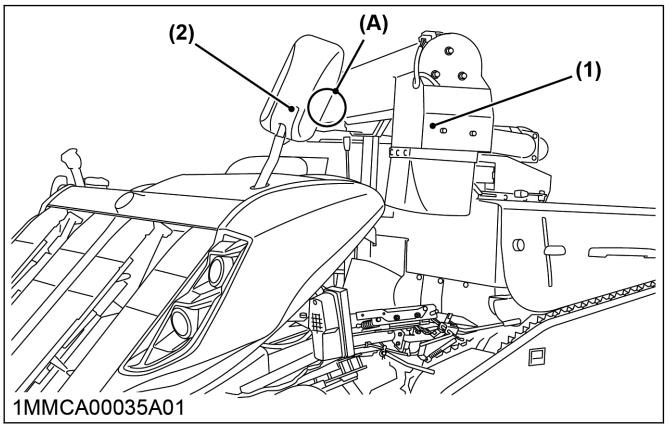


(1) ホルダ部
(2) アンローダスクリュ（本機側）

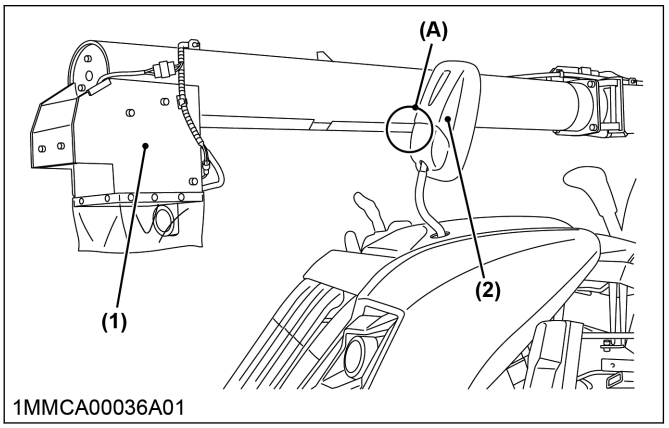
重要：

- **刈取部を上昇した状態でアンローダの折りたたみ、またはアンローダを伸ばす作業を行うと、吐出口側のアンローダが左側のバックミラーに接触し、破損するおそれがありますので、刈取部は必ず地面に接地させてください。**

伸ばすとき



折りたたむとき



(1) アンローダ（吐出口側）
(2) バックミラー
(A) 接触

2.1 アンローダを折りたたむ方法

⚠ 警告

- **あぜ越え時、移動走行時、およびトラックで輸送するときは、アンローダが人や物にぶつかるおそれがあるので必ず折りたたんでください。**

1. パワーステアリングレバーを操作して刈取部が地面に着くまで降ろします。

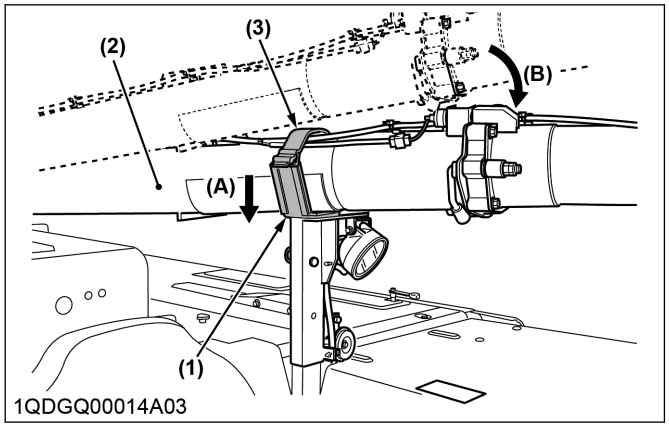
   補足：
   - **アンローダ内にもみが残っているときは、1 度アンローダを最上昇させてください。**

2. エンジンを停止します。

3. こぎ胴を閉じます。
（こぎ胴の開閉（137 ページ）を参照）

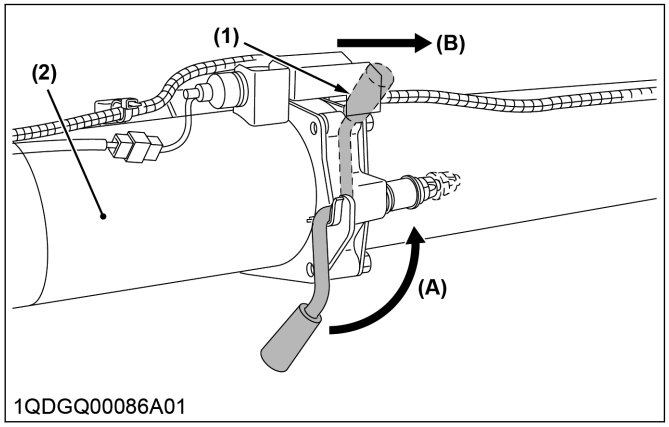
重要：
- **こぎ胴を開いた状態でアンローダを折りたたむと、アンローダとこぎ胴上部カバーが接触し破損するおそれがあります。**

4. アンローダを収納します。
   a. アンローダ受けを下位置にします。
   b. アンローダをアンローダ受けに収納します。
   c. バンドで固定します。



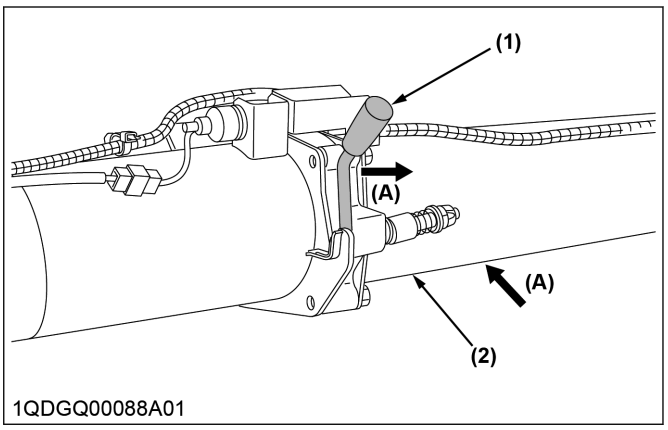
(1) アンローダ受け　　*(A)* 下位置にセット
(2) アンローダ　　*(B)* 収納固定
(3) バンド

5. アンローダを折りたたみます。
   a. ロックレバーを上側に回してロック解除の状態にします。



(1) ロックレバー　　*(A)* 回す
(2) アンローダ　　*(B)* 解除

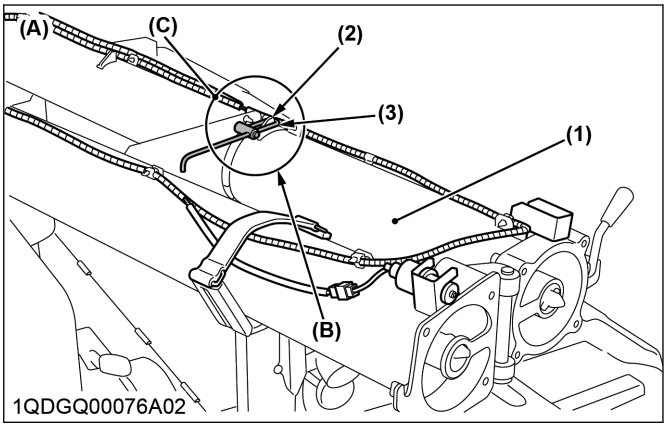
   b. ロックレバーを押します。
   c. 吐出口側のアンローダを次のように左側へ回動します。
      - アンローダを押して回動してください。



(1) ロックレバー　　*(A)* 押す
(2) アンローダ（吐出口側）

   d. 吐出口側のアンローダを左側に強く押して収納位置でロックします。
   e. アンローダを折りたたみ、次のように固定します。
      - フックにステーを引っ掛けます。

補足：
- **吐出口側のアンローダを強く押すと収納位置でステーにフックが引っ掛かり自動的にロックされます。**



(1) アンローダ（吐出口側）　　*(A)* 収納状態
(2) フック　　*(B)* 収納固定
(3) ステー　　*(C)* ロック

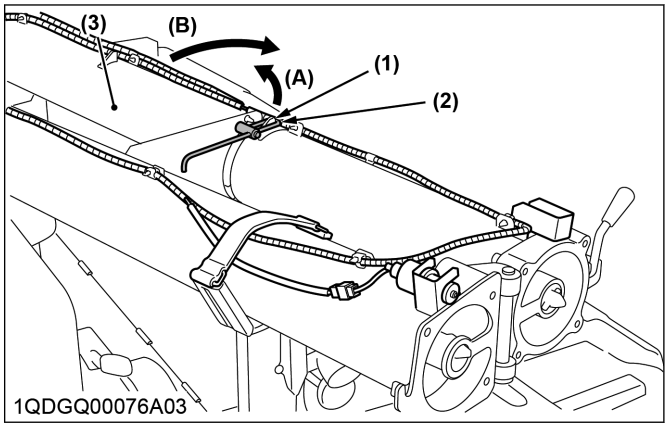
補足：
- **もみの排出途中で排出を止めたとき、アンローダ内に残っているもみがこぼれますので、アンローダは折りたたまないでください。**

2.2 アンローダを伸ばす方法

作業時はアンローダを伸ばしてください。

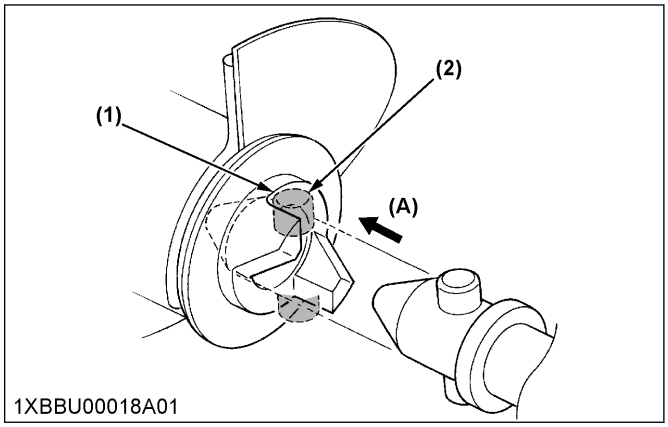
1. エンジンを始動します。
2. アンローダをいったん上昇します。
3. アンローダ受けを下位置にします。
4. アンローダをアンローダ受けに収納します。
5. パワーステアリングレバーを操作して刈取部が地面に着くまで降ろします。

6. エンジンを停止します。
7. アンローダを伸ばします。
   a. アンローダのロックを次のように解除します。
      • フックをステーから外し、解除します。
   b. 吐出口側のアンローダを次のように伸ばします。
      • アンローダを持って、右側に回動して伸ばします。

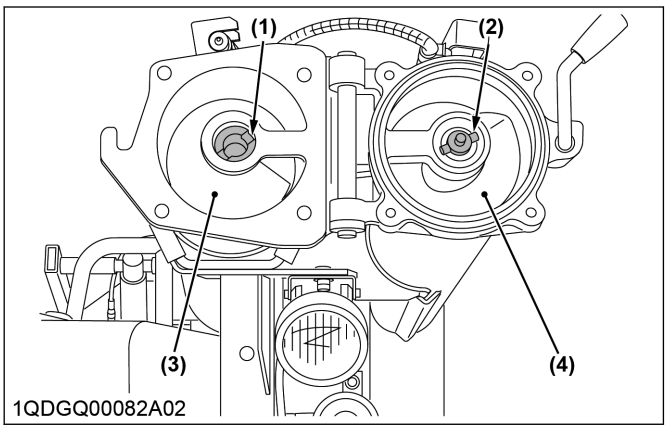


(1) フック
(2) ステー
(3) アンローダ（吐出口側）
(A) 解除
(B) 伸ばす

補足：
- **アンローダを伸ばすときは、本機側アンローダスクリュの切欠に吐出口側のピンを合わせてください。**

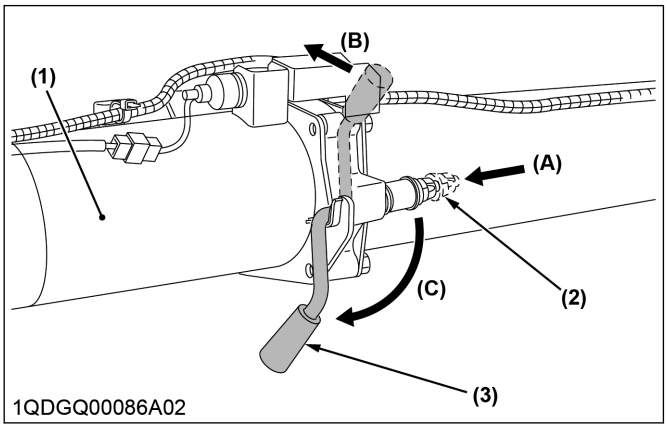


(1) 切欠
(2) ピン
(A) 差し込む



(1) 切欠部
(2) ピン部
(3) アンローダスクリュ（本機側）
(4) アンローダスクリュ（吐出口側）

8. ロックレバーで本機側と吐出口側のアンローダを固定します。
   a. スプリング部を指で押して、ロック溝にレバーを通して、下側に回してロックします。



(1) アンローダ
(2) スプリング部
(3) ロックレバー
(A) 押す
(B) ロック溝に通す
(C) 下側に回す

9. バンドを外します。
10. エンジンを始動します。
11. アンローダを上昇させます。
12. アンローダ受けを“上位置”にします。
13. アンローダをアンローダ受けに収納します。

刈取作業のしかた

1. ほ場の出入りのしかた

⚠ 警告
- **グレンタンク内に残っているもみはすべて排出してください。**
- **あぜやコンクリート畦畔など 10 cm 以上の段差のある場所ではあゆみ板を使ってください。**
- **あゆみ板はじゅうぶんな強度、幅、長さのある基準に合ったすべり止め付きの物を使用し、コンバインの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んで**

ください。また、あゆみ板はあぜに直角に置いてください。

あゆみ板の基準

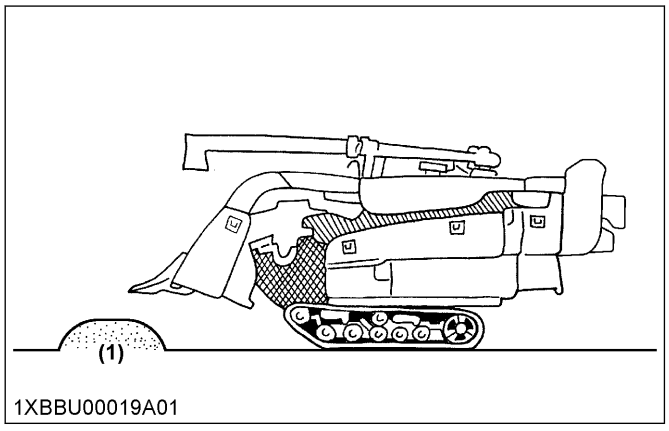
幅	55 cm 以上
長さ	トラックの荷台の高さの 4 倍以上

（あゆみ板の基準については、トラックとあゆみ板の準備（96 ページ）を参照）

- **あゆみ板を使うときや前後左右とも 10°をこえる傾斜地を走行するときは、速度を最低速にしてください。**
- **あゆみ板を使うときは、速度を最低速にし、あぜに対して上り方向は前進、下り方向は後進で直角に走行してください。**
  斜めに走行すると転倒してケガをするおそれがあります。
- **[L 仕様] あぜ越えやあゆみ板を走行するときは、自動車体水平制御（モンロー）は機体をいっぱいまで下げた状態にしてください**
- **右または左方向の傾きがある傾斜地は走行しないでください。機体が傾き転倒するおそれがあります。**
- **後進する場合は後方の安全確認をし、また後方に川や用水路、またはがけがある場合は、転落しないよう後方にはじゅうぶん注意してください。**
- **機体が凸部を越えるときは、重心の位置が変わって機体が上向きから下向きに姿勢が変わるのでじゅうぶん注意してください。**

1. 副変速レバーを**[低速]**位置、副変速切換えスイッチを“*S*（倒伏位置）”にし、手動アクセルダイヤルを操作してエンジン回転を 2000 rpm 以上にし、主変速レバーをゆっくり操作して、低速であぜ越えします。

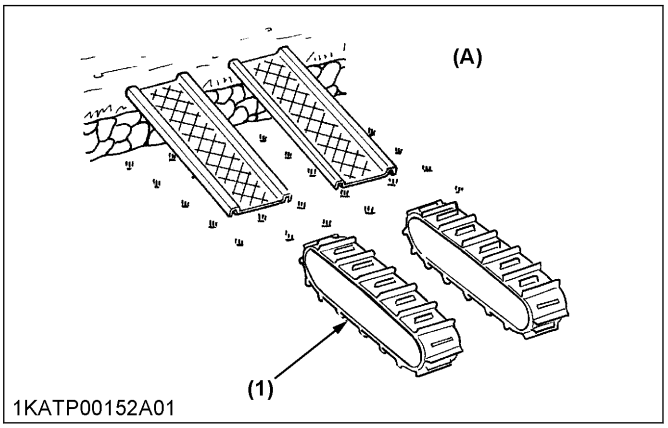
低いあぜごえ



(1) あぜ

- 10 cm 以上の高いあぜの場合はあゆみ板を使用してください。

高いあぜごえ



(1) クローラ　　*(A)* あゆみ板とクローラを合わす

2. 刈取作業の手順

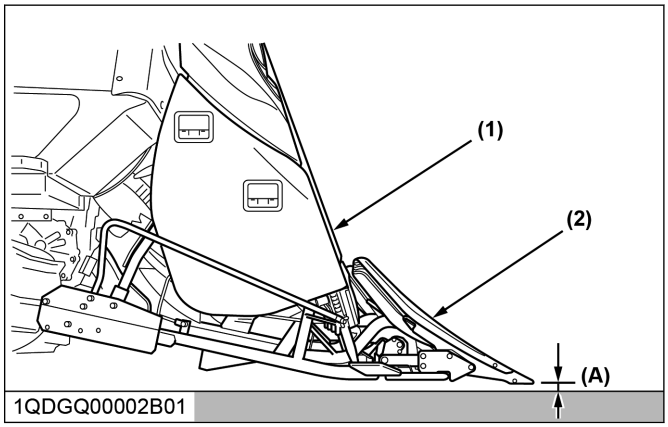
⚠ 警告

- **コンバインを停止するときは、わらくずの上に止めないでください。マフラ排気口にわらくずが触れると、火災のおそれがあります。**
- **マフラの排気口が泥で詰まるような湿田ほ場では、刈取作業をしないでください。マフラの排気口に泥詰まりが発生すると、火災のおそれがあります。**
- **異常が発生したときは、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてください。**
- **小さなほ場や、ほ場のすみでは作業がしにくいので、安全のため低速で注意しながら作業を行ってください。**
- **傾斜地で刈取作業中にかき込みペダルを踏み込むと、機体がすべるおそれがあるため、傾斜地では刈取かき込みペダルは踏まないでください。**
- **夜間など暗い場所で作業するときは、ヘッドランプや作業灯を必ず点灯してください。**
- **共同作業するときは、ホーンなどで合図を行ってください。**

重要：

- **枕地を刈り取るとき、アンローダの先端が、電柱や壁などの障害物に当たり、破損するおそれがありますので、アンローダは折りたたんだ状態で作業を行ってください。**
- **作業中エンジン周りの防じんカバーにゴミの付着が多くなれば、そのつど掃除してください。防じんあみ全面にゴミが付着したまま作業を続けますと、エンジンオーバーヒートの原因になりますので注意してください。**
- **湿田で作業をする場合、特に一方刈りで何回も後進するときは、フレーム下部に切わらを大量に抱え込み、トラブルの原因になりますので、切わらの無い場所を後進するか早めにわらを排出してください。**

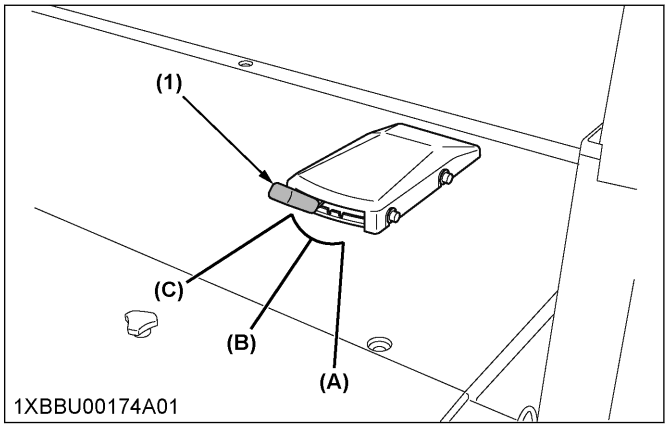
1. パワーステアリングレバーを操作し、通常はデバイダの先端を地面すれすれ（約 2 cm 程度）の所まで刈取部を下げます。



(1) 刈取部
(2) デバイダ
(A) 約 *2 cm*

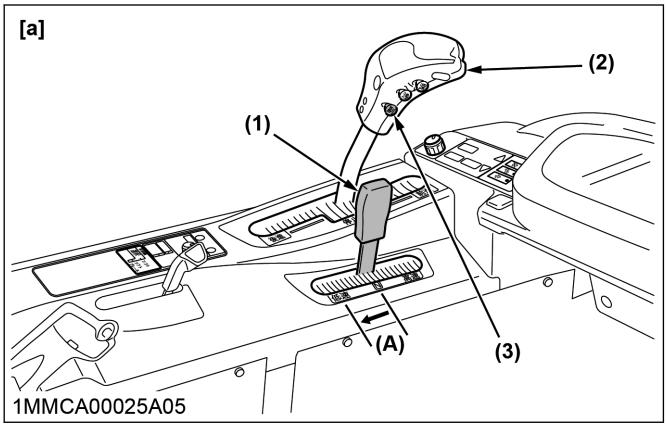
補足：
- **長かん作物、麦、雑草の多い作物は、高刈りしてください。**

2. 各レバー、スイッチのセットとエンジン回転数の調節を行います。
   a. こぎ室送じん調節レバーを“標準”位置にします。



(1) こぎ室送じん調節レバー
(A) 開
(B) 標準
(C) 閉

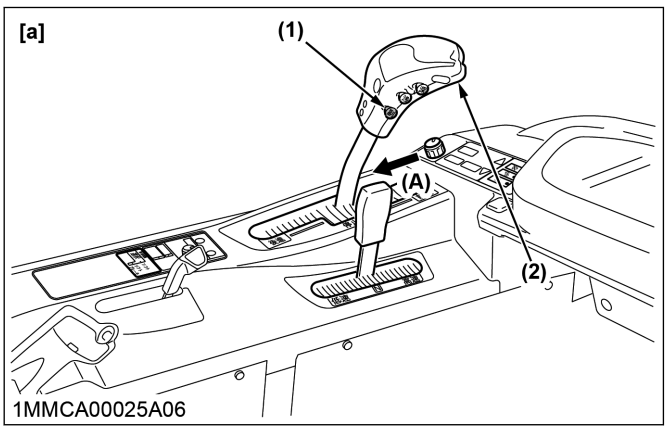
   b. 副変速レバーを**[低速]**または**[高速]**位置にします。
   c. 作物の条件に合わせて副変速切換えスイッチを切り換えます。
      - 副変速レバーが**[低速]**のときは、副変速切換えスイッチを“*L*（作業位置）”または“*S*（倒伏位置）”に切り換えます。
      - 副変速レバーが**[高速]**のときは、副変速切換えスイッチを“*L*（作業位置）”に切り換えます。



(1) 副変速レバー
(2) 主変速レバー
(3) 副変速切換えスイッチ
(A) 低速
[a] イラストは *L* 仕様

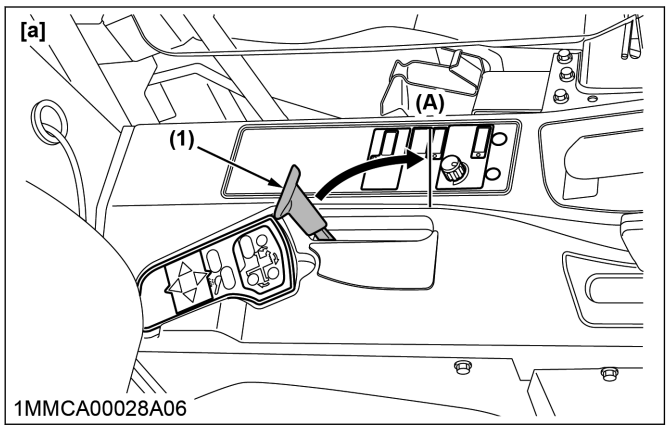
補足：
- **副変速切換えスイッチを押して“*L*（作業位置）”になったときは、エンジン回転計下側にある表示部に[L]“（作業位置）”を表示すると同時に、液晶ディスプレイに〝副変速 L 作業〟と表示します。**
- **副変速レバーが切り換えにくいときは、主変速レバーを少し[前進]側に動かして[停止]に戻してから切り換えてください。**

重要：
- **副変速レバーの切換えは、必ず平たんな場所で主変速レバーを[停止]位置にし、ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込み走行をいったん止めてから行ってください。故障の原因となります。**
- **走行中に副変速切換えスイッチを押したとき、急激な増減速に伴うショックが発生することがあるため、副変速切換えスイッチを押すときは、機体をいったん停止する、または機体の速度を 1.0 m/s 以下に落としてから副変速を切り換えてください。**



(1) 副変速切換えスイッチ
(2) 主変速レバー
(A) 停止または速度を落とす
[a] イラストは *L* 仕様

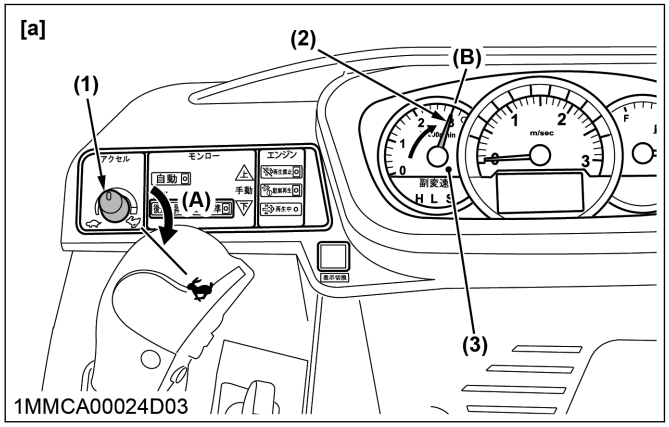
   d. 作業レバーを**[入]**にします。



(1) 作業レバー　　*(A)* 入
[a] イラストは *L* 仕様

補足：

- **作業レバーを“刈取、脱こく”[入]位置にすると、脱こく部が作動すると同時にエンジン回転数が刈取作業時の回転数に自動的にセットされ、刈取部が作動状態となり、自動こぎ深さ制御がはたらきます。**
- **作業レバーを“刈取、脱こく”[入]位置にしたときのエンジン回転数は、手動アクセルダイヤルの位置に関係無く、作業回転となります。**



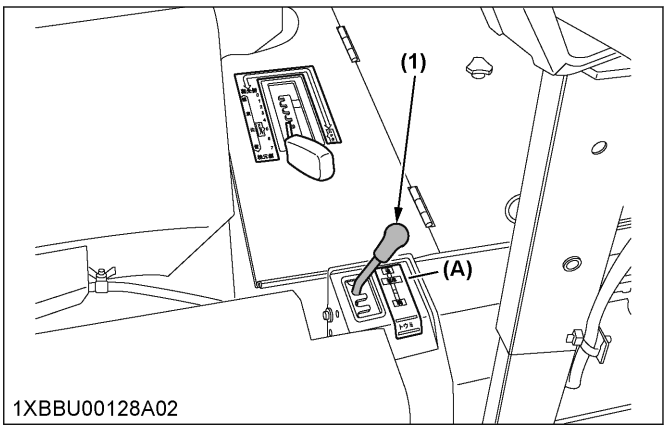
(1) 手動アクセルダイヤル　　*(A)* 右側いっぱいまで回す
(2) 指針　　*(B)* 刈取作業時の回転数
(3) エンジン回転計　　*[a]* イラストは *L* 仕様

- **作業レバーを“刈取、脱こく”[入]位置にしたあとにエンジン回転数の調整を行うときは、手動アクセルダイヤルを回してください。手動アクセルダイヤルで設定したエンジン回転数が優先されます。**
- **手動アクセルダイヤルで回転数の調整を行ったとき、エンジン回転数が低すぎるとブザーが鳴ります。**

e. トウミの風力を次のように標準にします。
- トウミ調節レバーを**[標準]**位置にします。

補足：

- **トウミの調節は、脱こく部を必ず回転させてから行ってください。**



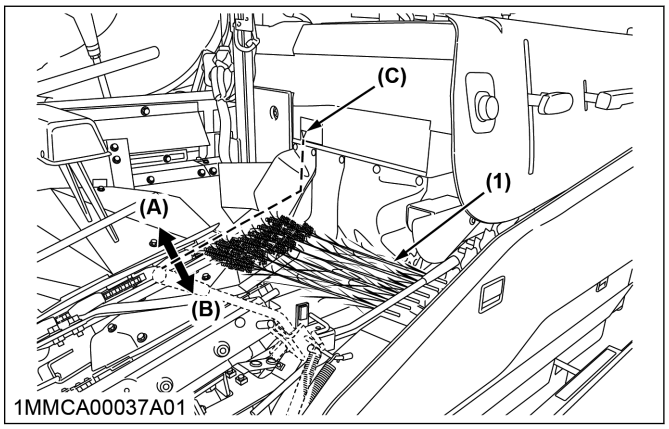
(1) トウミ調節レバー　　*(A)* 標準

補足：

- **副変速切換えスイッチが“*H*（走行位置）”の状態で刈取作業を開始すると、“*L*（作業位置）”へ自動的に切り換わります。**

3. 作物が刈り取れる長さであることを確認します。
4. 刈始めのこぎ深さの調節をします。
   a. 主変速レバーにある手動こぎ深さスイッチで合わせます。
   （手動こぎ深さスイッチ（73 ページ）を参照）
   b. 自動こぎ深さ切換えスイッチを“入”（ランプ点灯）にします。
   （自動こぎ深さスイッチ（72 ページ）を参照）
5. 作物の条件に合わせた速度に主変速レバーを合わせて刈り始めます。
（刈取変速、引起し変速の選択方法（113 ページ）を参照）

6. 作物の穂先先端を脱こく入口の ▼ マーク（こぎ深さ標準位置）に合うようにこぎ深さを調節します。（自動こぎ深さスイッチ（72 ページ）、手動こぎ深さスイッチ（73 ページ）を参照）



(1) 作物

(A) 深こぎ（穂先側）
(B) 浅こぎ（株元側）
(C) ▼ マークラベルに穂先先端を合わせる

補足：
- **“浅こぎ状態”では、こぎ残しが出て収穫量が下がったり、“深こぎ状態”では、負荷が大きくなり作業能率が上がりません。**

7. 刈取作業を少し行ったあと、選別状態やこぎ残しの有無を確認し、異常があれば各部の調節を行います。（こぎ室送じん調節レバーの調節（125 ページ）を参照）

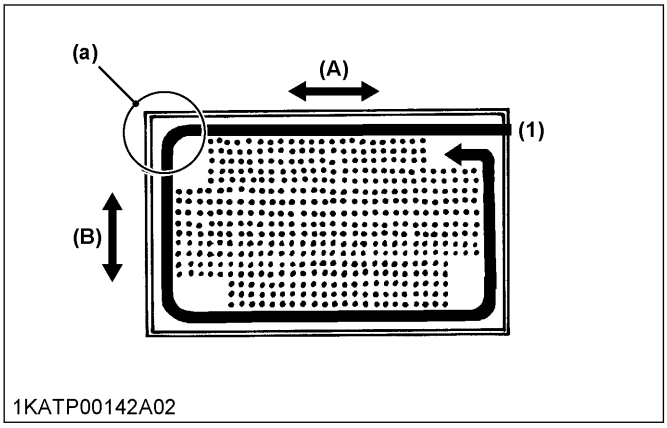
刈取作業終了後

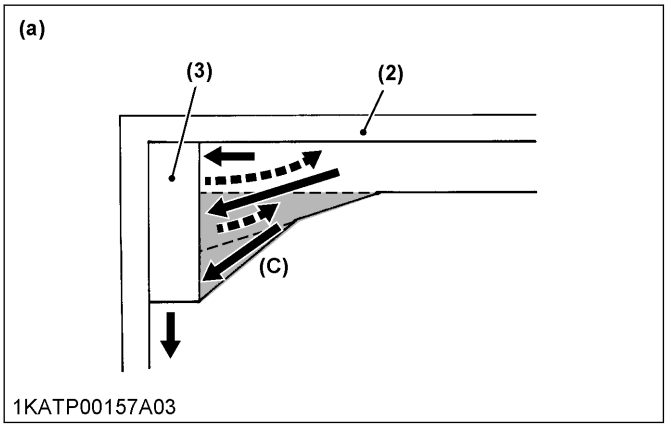
1. 刈取作業が終わると、次のように刈取クラッチを“切”にします。
   - 作業レバーを**[刈取切]**位置にします。
2. 脱こくが終わりもみがすべてグレンタンク内に入ったことを確認して、次のように脱こくクラッチを“切”にします。
   - 作業レバーを**[切]**位置にします。

3. ほ場で刈る方法と旋回のしかた

ほ場で作物を刈る方法は、作物、ほ場の状態や作業効率によって異なりますが、基本作業は、条刈りで左回りの 2 方向刈りを行ってください。

1. あぜは旋回できるまで 2 回～4 回斜め刈りします。

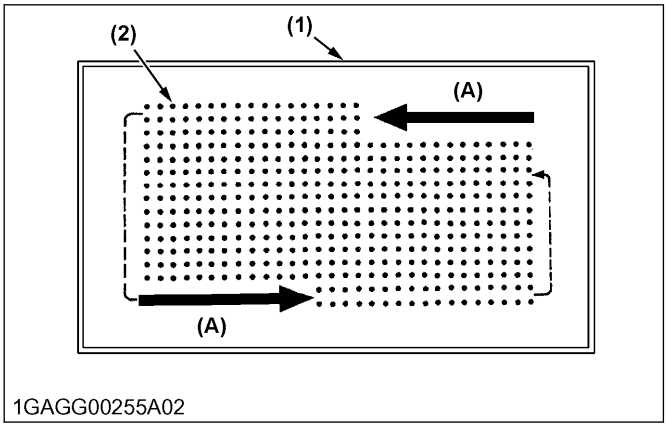




(1) 入口
(2) あぜ
(3) 手刈り範囲

(A) 条刈り
(B) 横刈り
(C) 斜め刈り

2. 両端の枕地を旋回できる範囲に刈り取ったら 2 方向刈りを行います。



(1) ほ場
(2) 作物

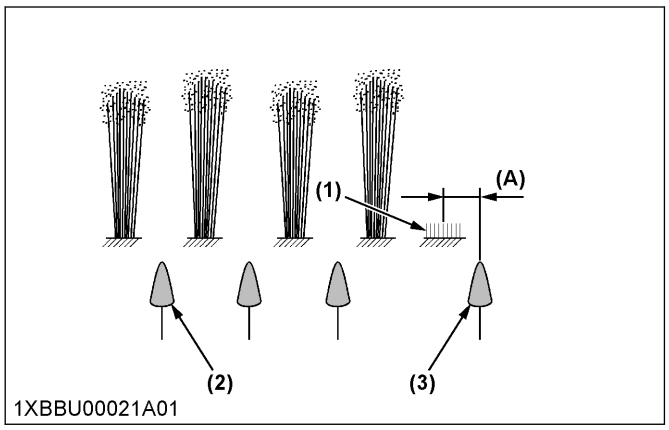
(A) 刈取方向

3.1 刈取部のデバイダの条合わせのしかた

右から 2 つめのデバイダを株と株の間（中心）に入れるように条合わせを行ってください。

3.1.1 通常の回り刈りのときのデバイダの条合わせ

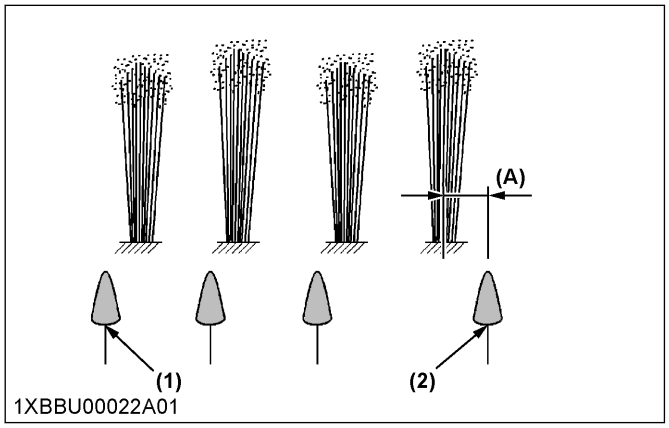
既刈株から約 15 cm の位置に右デバイダを合わせます。



(1) 既刈株
(2) 左デバイダ
(3) 右デバイダ
(A) 約 *15 cm*

3.1.2 刈始め、あぜぎわ刈り、中割り作業のときのデバイダの条合わせ

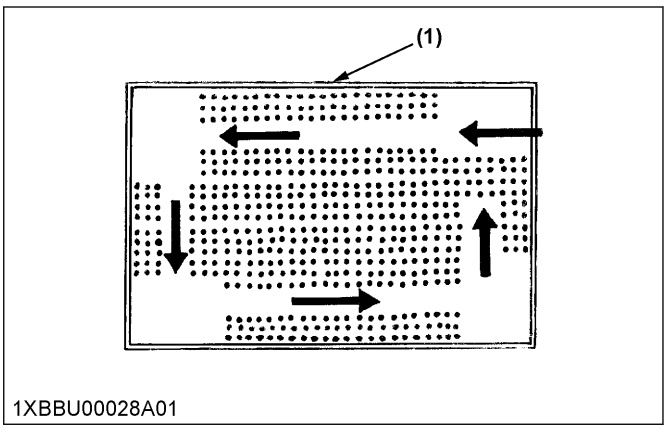
1. 右デバイダ基準で 4 条分刈り取ります。
2. 右デバイダを約 13 cm になるように合わせます。



(1) 左デバイダ
(2) 右デバイダ
(A) 約 *13 cm*

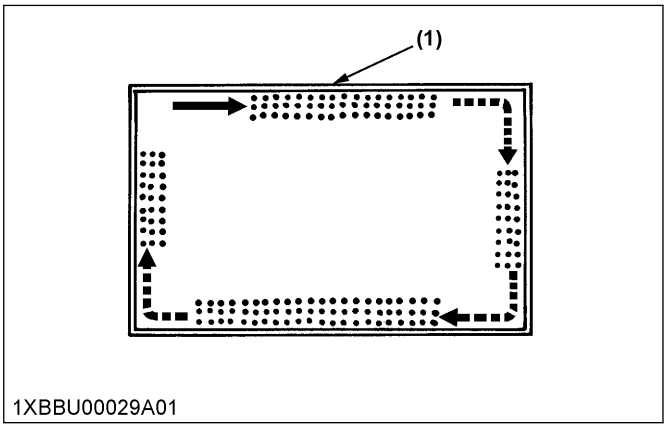
3.2 あぜぎわを刈る方法

1. あぜぎわの条があぜに近く、右クローラがあぜに乗り上げるときは、1 周目は次のように刈り取ります。
   - 周囲 3 条分を残して 4 条分



(1) あぜ

2. あぜぎわに残した“作物”の“刈取り”は、左分草かんを収納し、低速で右回りで行います。



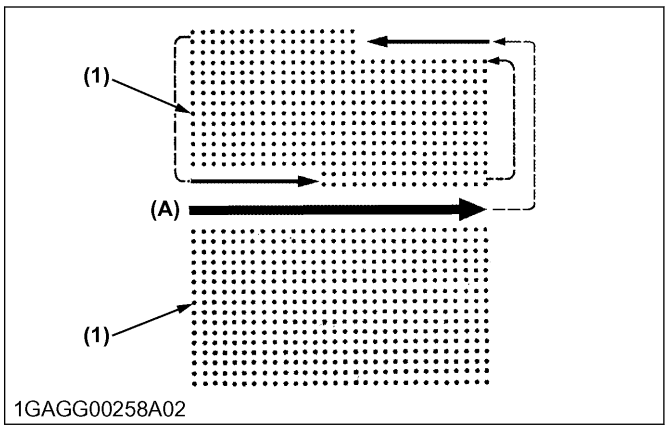
(1) あぜ

重要：
- **あぜぎわ刈りをするとき、デバイダをあぜに突っ込まないように、少し高刈りをしてください。また、分草かんを畦に強く当てると刈取部が変形しますので、収納して作業してください。**
- **コンクリートの畦畔にクローラをこすりつけると、クローラを欠損する場合がありますので注意してください。**

補足：
- **自動こぎ深さ制御装置を“切”位置にして、こぎ残しが出ないように手動こぎ深さスイッチで“深こぎ”ぎみにしてください。**

3.3 広いほ場の場合の刈取り

“中割り刈り”で分割して、通常のほ場と同じ要領で刈り取ります。



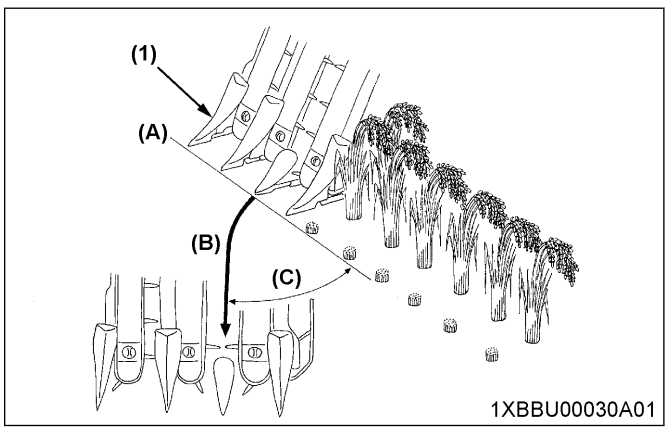
(1) 作物　　*(A)* 中割り

補足：
- **中割り刈り以外のときは、通常の回り刈りをしてください。**

3.4 刈取作業後の旋回のしかた

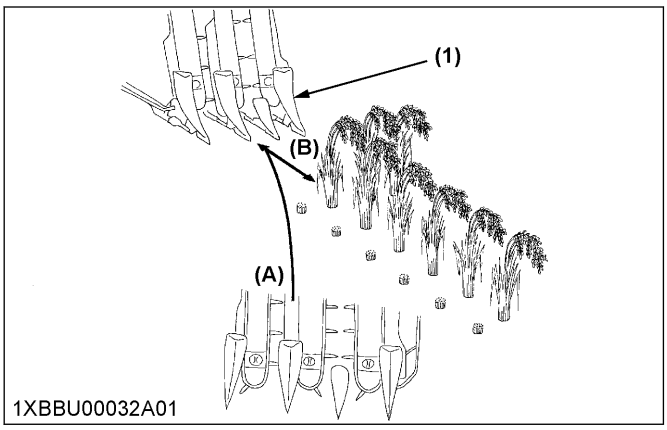
1. 刈り終わったら前進しながら刈取部を“最上昇位置”まで上げます。

   補足：
   - **刈り終わる前に刈取部を上げると刈残しが発生します。**
   - **エンジンの回転低下が大きいときは、旋回操作の前に減速してください。**
   - **パワーステアリングレバーを斜め方向に操作すると、機体の旋回と同時に刈取部が上下します。**
2. パワーステアリングレバーを左にいっぱい倒し、45度くらい旋回した位置で走行を停止します。



(1) 刈取部　　*(A)* 刈終わり位置
(B) 刈取部を上げて旋回
(C) *45* 度

3. 主変速レバーを**[後進]**位置に入れ、後進しながらパワーステアリングレバーを右に倒し、次に刈る方向に刈取部を合わせます。
4. 刈取部を下げて前進します。



(1) 刈取部　　*(A)* 後進
(B) 刈取部を下げて前進

重要：
- **エンジン回転数は、下げないでください。“選別が悪くなったり詰まりの原因”になります。**

補足：
- **刈取オートクラッチを“入”にしておくと、刈取部を上げたとき、自動的に刈取部の回転が停止するため、旋回が楽に行えます。**

4. 湿田作業のしかた

⚠ 警告
- **異常が発生したときは、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いて処置してください。**

湿田で刈取作業を行うときは、倒伏角の大きさなど作物の状態や、ぬかるみや起伏の大きさなどほ場の状態をよく確認してください。また、異常が発生したときは、次表を参照してください。

現象	処置
• スリップする。 • 沈下して動かなくなる。 • 機体が傾く。	• 低速で作業を行う。 • 同じ場所での旋回は避ける。 • 急旋回はしない。パワーステアリングレバーを小刻みに操作し、大回りする。 • 急発進はしない。 • 機体を軽くする。グレンタンク内のもみを早期排出する。
• 刈取部が詰まる。	• パッカ下部や搬送部のわらくずや泥の付着を取り除く。 • 少し高刈りする。
• カッタ部が詰まる。	• わらくずや泥の付着を取り除く。

5. 作物に合わせた変速の選択方法

作物の状態により適正な速度の位置を選んでください。

5.1 刈取変速、引起し変速の選択方法

刈取部の引起しおよび搬送の速度を作物の状態に合わせ、次表を参考にして、副変速レバーを**[低速]**位置の状態で副変速切換えスイッチの“*S*”、“*L*”の 2 段階と、引起

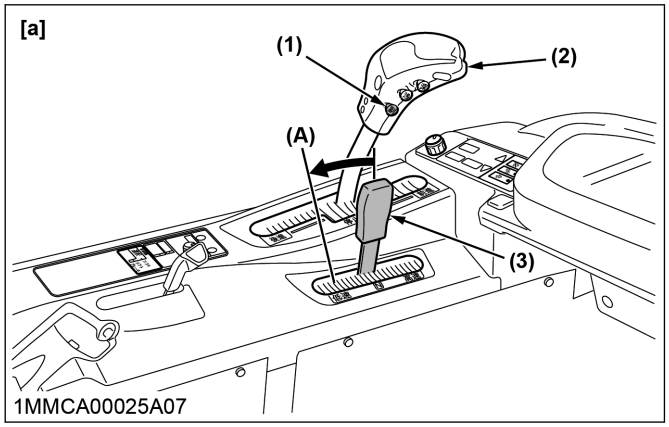
し変速レバーの“低速”、“高速”の 2 段階で変速を行ってください。

作物状態		副変速切換えスイッチ位置	引起し変速レバー位置
倒伏度合	その他の条件		
直立	一般的作物	*“L”*	“低速”
	周囲刈りなど低速走行作業	*“L”* または*“S”*	
	脱粒しやすい作物 麦穂切れ大も含む		
倒伏	45 度以下の倒伏作物		
	45 度以上の倒伏作物 長かん作物	*“S”* または*“L”*	“低速” または“高速”

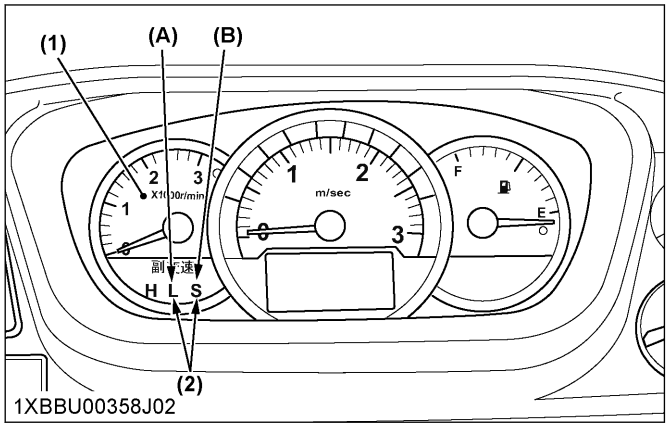
補足：

- **副変速切換えスイッチを押したとき、エンジン回転計下側にある[副変速]の表示部に[L]と[S]を交互に表示します。**
- **変速の選択方法の表は目安です。**
- **出荷時の引起し変速レバーは“低速”位置です。**
- **刈取部の引起しおよび搬送の速度は、車速が増減すると増減します。**

5.1.1 副変速切換えスイッチでの刈取変速の選択



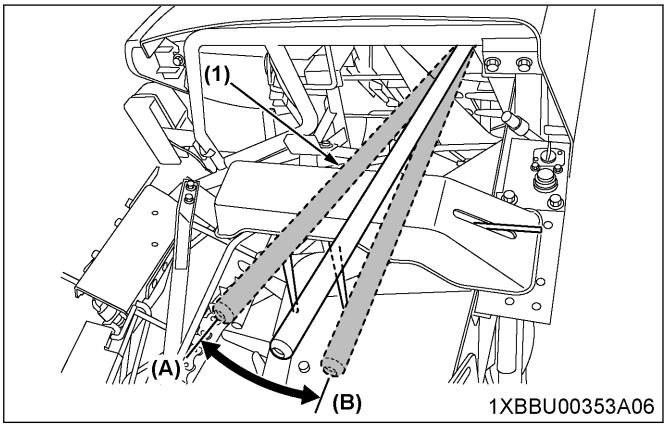
(1) 副変速切換えスイッチ
(2) 主変速レバー
(3) 副変速レバー
(A) 低速
[a] イラストは *L* 仕様



(1) エンジン回転計

(2)	副変速表示部	副変速レバーが**[低速]**位置の状態で副変速切換えスイッチを押すと**[L]**“（作業位置）”または**[S]**“（倒伏位置）”に切り換わる。
(A)	L（作業位置）	刈取作業時に使用
(B)	S（倒伏位置）	刈取作業時および傾斜地走行時に使用

5.1.2 引起し変速レバーでの刈取変速の選択

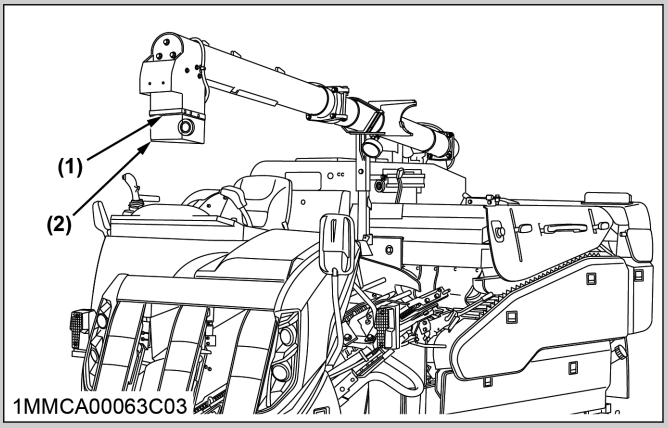


(1) 引起し変速レバー
(A) 低速
(B) 高速

6. もみの排出のしかた

⚠ 警告

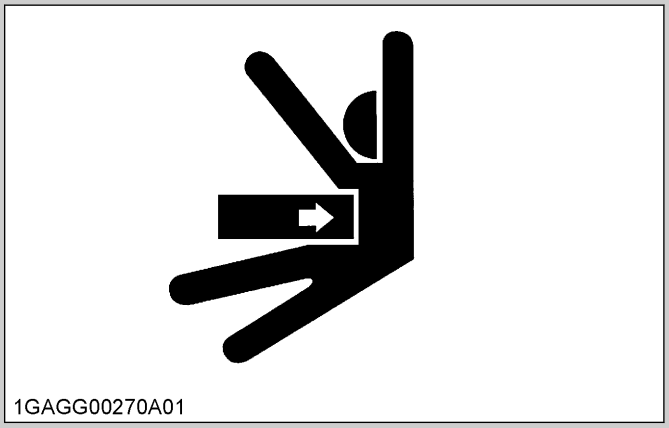
- **コンバインを必ず停止してください。**
- **吐出口に手は入れないでください。また、吐出口ブーツが破損したときは、直ちに交換してください。**



(1) 吐出口
(2) 吐出口ブーツ

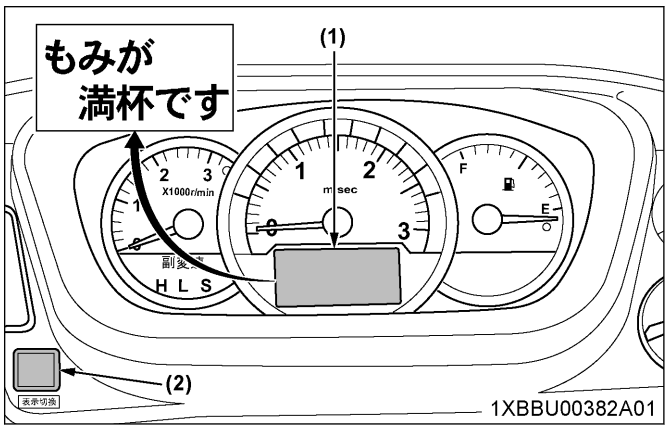
- **手を挟み、ケガをするおそれがあるので、アンローダ受けの上に手を置かないでください。**
- **次の操作によってもみがアンローダ排出口から排出されるとき、頭部や顔などをアンローダ先端部に近づけないでください。もみの重みでアンローダ先端部がわずかに下がります。**
  - **– もみ排出スイッチを押す**

- **アンローダの旋回範囲に人がいるときは、アンローダを動かさないでください。アンローダ先端が大きく動き、ケガをするおそれがあります。**


1GAGG00270A01

- **排出時は機体を水平な場所に停車させ、作業レバーを[切]位置にしてから排出作業を行ってください。**

- グレンタンク内のもみが満杯になると、マルチナビの液晶ディスプレイが〝もみが満杯です〟と表示すると同時にブザーが鳴ります。



(1) 液晶ディスプレイ　*(2)* 表示切換えスイッチ

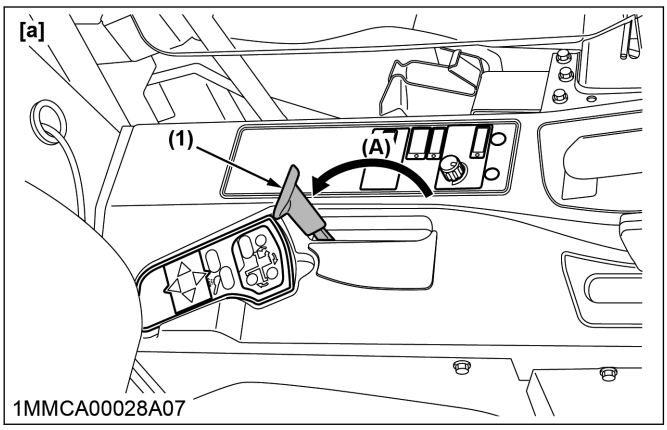
重要：

- **ブザーが鳴ったあとも刈取作業を行うと、もみがあふれたり、1 番スクリュが詰まったりして、故障の原因となります。**

補足：

- **表示切換えスイッチを押すと、ブザーは停止します。**

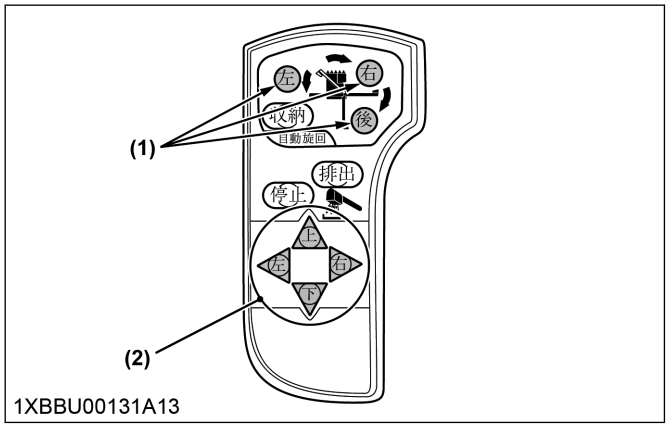
1. 刈取作業をいったん中止し、30 秒以上待ちます。
2. 作業レバーを**[切]**位置にして、所定の排出位置に移動します。



(1) 作業レバー　*(A)* 切
[a] イラストは *L* 仕様

3. 主変速レバーを**[停止]**位置にして、駐車ブレーキを掛けます。

4. アンローダ自動旋回スイッチ（**[左]**、**[右]**、**[後]**）またはアンローダ手動スイッチを操作して、アンローダを排出位置まで動かします。



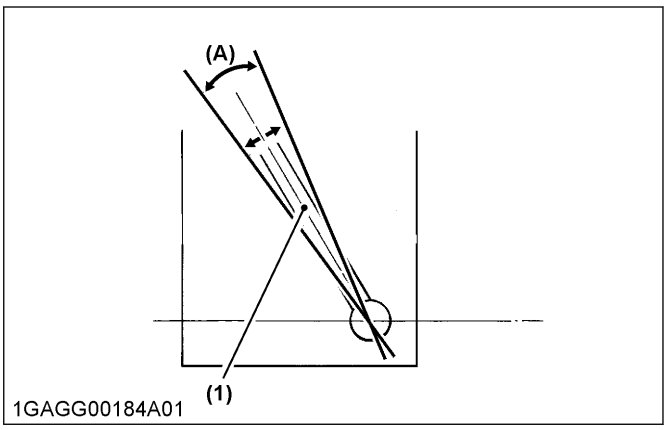
(1) アンローダ自動旋回スイッチ　*(2)* アンローダ手動スイッチ

重要：

- **走行しながらアンローダ旋回操作を行わないでください。機械故障（油圧系統の作動不良）およびアンローダホーム位置のズレによる収納不良の原因になります。**
- **アンローダ自動旋回スイッチを押す前に、アンローダの旋回範囲に障害物が無いか確認してください。**
- **傾斜地ではアンローダの操作やもみの排出は行わないでください。機械故障（モータなどの破損）の原因になります。**
- **自動旋回制御装置を用いてアンローダを収納する際、次の条件下ではアンローダが受けに入らない場合があります。その場合は、アンローダ手動スイッチを操作して収納してください。**
  - **機体がわずかでも傾いている状態**
  - **アンローダにもみが残っている状態**
  - **風が強い場合**

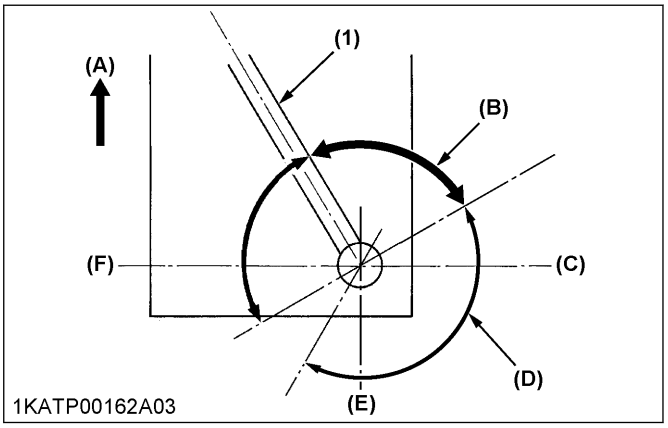
補足：

- **自動旋回制御装置作動中に、停止スイッチを押す、またはアンローダ手動スイッチを操作すると、自動旋回制御は停止します。**
- **アンローダ自動旋回スイッチを押したとき、アンローダが動作始動開始範囲外にあるときは、アンローダは自動旋回しません。旋回するときは、アンローダ手動スイッチで手動で操作する、またはアンローダをいったんアンローダ受けに収納したあと、アンローダ自動旋回スイッチを操作してください。**



(1) アンローダ　*(A)* 動作開始範囲

- **自動旋回制御装置作動中でもアンローダ手動スイッチの操作が優先され、その後の自動旋回は停止します。**
- **アンローダが最上昇位置のとき、“下降不可範囲”ではアンローダ手動スイッチを操作しても下降しません。また、このときに液晶ディスプレイに〝アンローダを上昇する〟と表示しますので、アンローダを最上昇位置まで上げて旋回してください。**
- **アンローダが作業範囲内で最上昇位置以外のとき、アンローダ手動スイッチを操作しても“下降不可範囲”内には旋回しません。また、このときに液晶ディスプレイに〝アンローダを上昇する〟と表示します。**



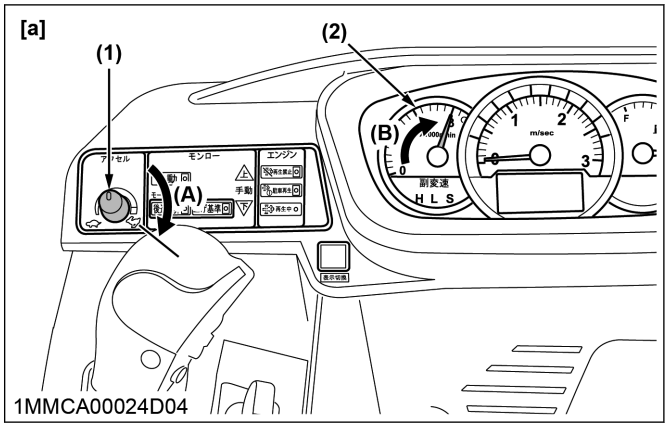
(1) アンローダ

(A) 機体前方
(B) 下降不可範囲
(C) 右
(D) 作業範囲
(E) 後
(F) 左

- **自動旋回制御装置作動中でもアンローダ手動スイッチの操作が優先され、その後の自動旋回は停止します。**
- **アンローダ手動スイッチとアンローダに貼付している操作方向識別ラベルを確認し、アンローダ手動スイッチを操作してください。アンローダ手動スイッチの[左]“（赤色）”を押すとアンローダは左旋回（ラベル赤色方向）し、アンローダ手動スイッチの[右]“（青色）”を押すとアンローダは右旋回（ラベル青色方向）します。**

- **アンローダが収納されていない状態で走行を開始すると、液晶ディスプレイに〝アンローダを確認する〟と表示すると同時に警報ブザーが鳴ります。**

5. 手動アクセルダイヤルを右側いっぱいまで回して刈取作業時と同じエンジン回転数にします。



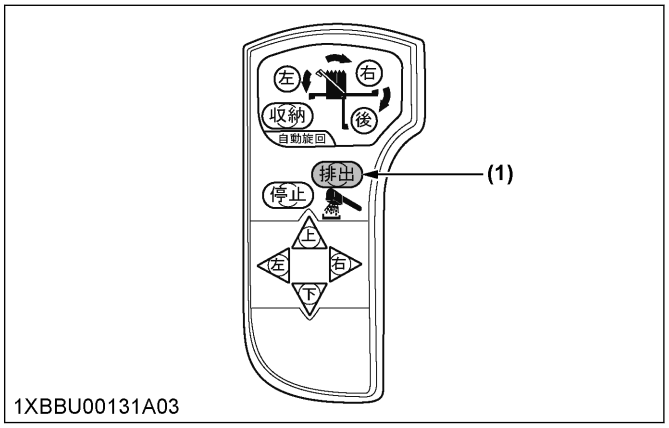
(1) 手動アクセルダイヤル
(2) エンジン回転計
(A) 右側いっぱいまで回す
(B) 刈取作業時のエンジン回転数
[a] イラストは *L* 仕様

補足：
- **排出作業は刈取作業時の回転のままでしてください。**
- **エンジン回転数を*"1600 rpm"*以下に下げないでください。もみ詰まりの原因となります。**
- **損傷しやすい作物は、エンジン回転数を約 2000 rpm 程度まで下げてください。**

6. 次の操作でもみを排出します。

補足：
- **アンローダリモコンの[停止]スイッチを押してももみの排出は停止しないため、操作を間違えないでください。[停止]スイッチを押すと旋回中のアンローダが停止します。**

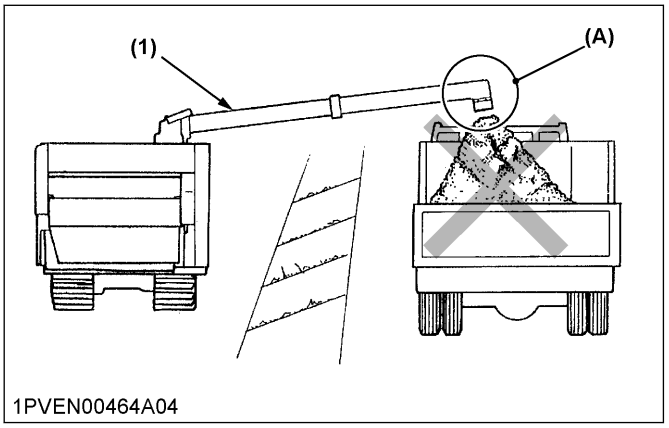
- もみ排出スイッチを押す



(1) もみ排出スイッチ

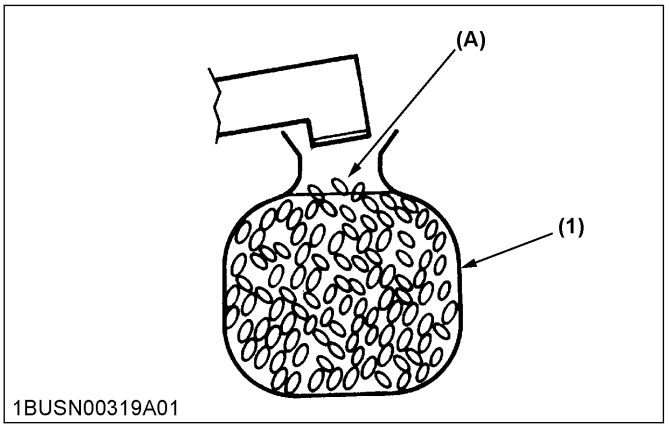
重要：
- **吐出口をふさがないようにアンローダの位置を調整してください。故障の原因となります。**

アンローダ出口注意



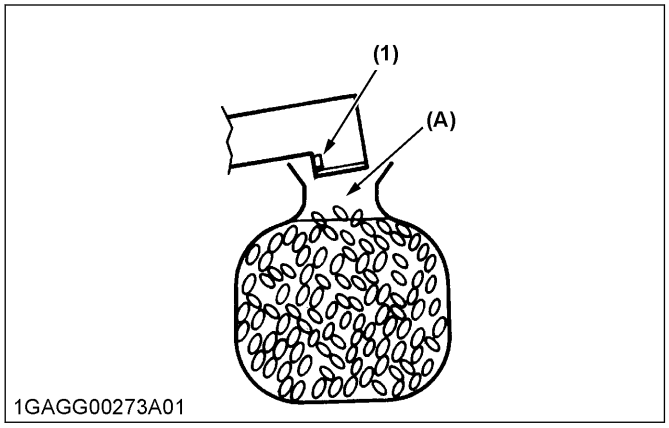
(1) アンローダ
(A) 吐出口をふさがない

- **アンローダには、絶対に物を吊るさないでください。**
- **アンローダで袋詰め作業を行うとき、次のように操作してください。アンローダが詰まると、駆動系統の故障の原因になります。**

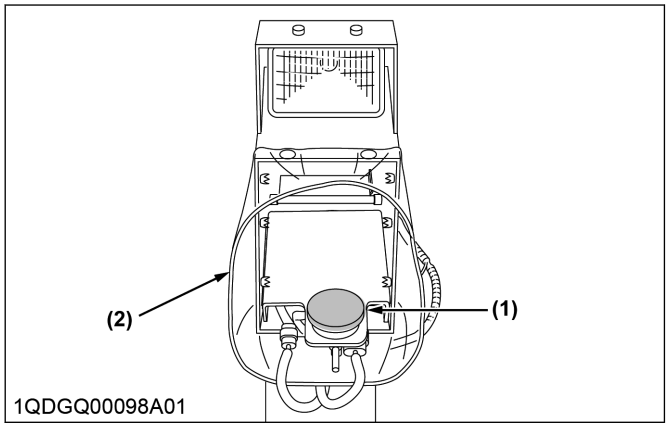


(1) もみ袋
(A) 余裕のあること

  - **詰まり防止センサに一定時間もみが接触するとセンサがはたらいてもみの排出が停止しますが、詰まり防止のため、袋に余裕のある状態で、アンローダリモコンの[停止]スイッチを押してください。**



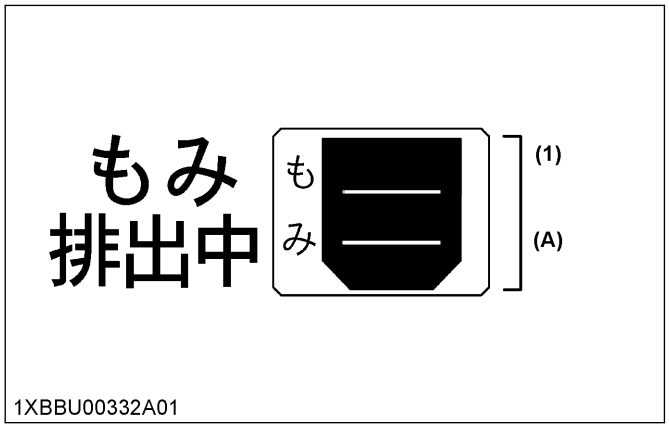
(1) 詰まり防止センサ　　*(A)* 余裕のあること



(1) 詰まり防止センサ　　*(2)* アンローダ吐出口

補足：

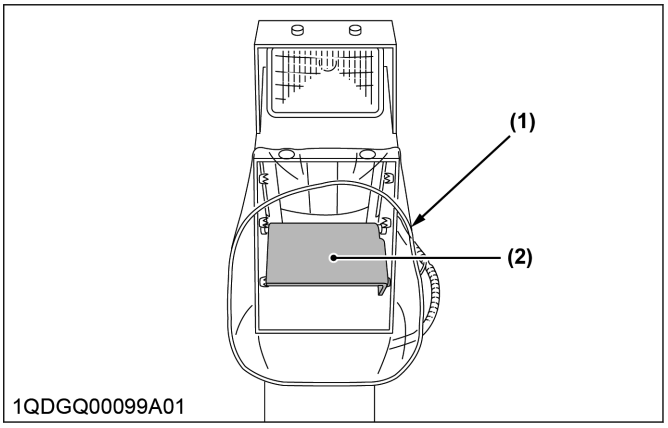
- **もみ排出中は、液晶ディスプレイにグレンタンク内のもみの残量を表示します。もみを排出し、もみの残量が少なくなると排出されたもみ量の目盛が点滅に変わります。**



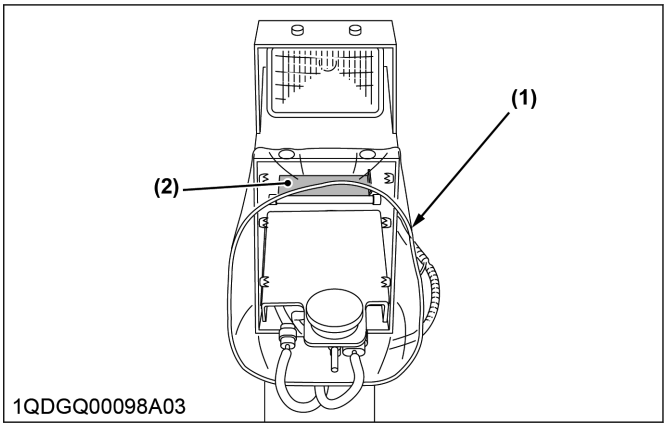
(1) 残量　　*(A)* 排出中は点滅

- **もみ排出クラッチが“入”の間は、液晶ディスプレイに〝もみ排出中〟を表示します。**
- **アンローダ先端部の吐出口にあるもみこぼれ防止用のもみシャッタは、もみを排出したあと、アンローダ受けに収納するときに閉じます。**

もみ排出時



収納時

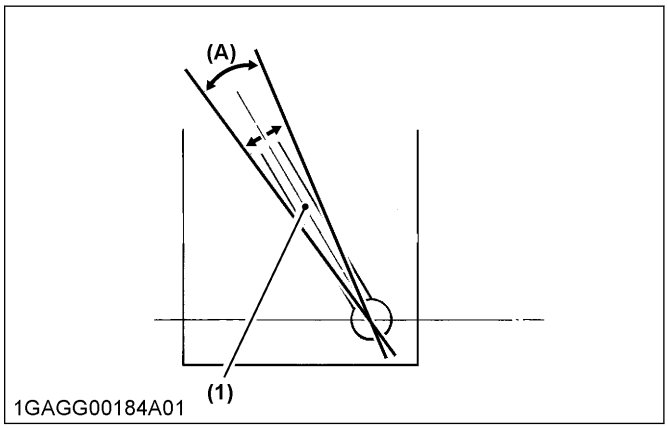


(1) 吐出口　　*(2)* もみシャッタ

7. もみの排出が終わったら、次の操作で排出を停止させます。
   - アンローダリモコンの**[停止]**スイッチを押す

8. 収納スイッチまたはアンローダ手動スイッチを操作してアンローダをアンローダ受けに収納します。

   補足：
   - **アンローダ手動スイッチでアンローダを操作するときは、アンローダを最上昇位置にして旋回後、アンローダ受けに収納してください。**
   - **収納スイッチを押したとき、アンローダが動作開始範囲内にあるときは、アンローダは収納しません。収納するときは、アンローダ手動スイッチで手動で操作してください。**



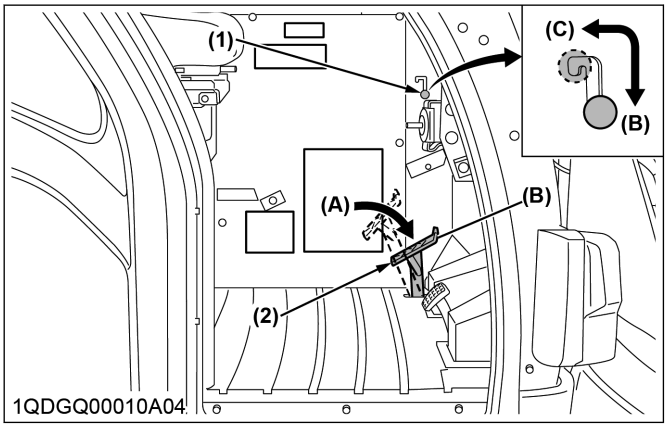
(1) アンローダ　　*(A)* 動作開始範囲

   - **アンローダ手動スイッチを操作してアンローダを収納するとき、アンローダ手動スイッチを押し続けるとアンローダ受けの上側でアンローダがいったん停止します。そのあと、アンローダの旋回を行うときは、いったんアンローダ手動スイッチから手を離し、再度手動スイッチを操作してください。**

7. 手刈りでの枕刈り脱こくのしかた

⚠ 警告
- **そで口はきっちり止めて、手袋、はち巻き、首巻き、腰タオルはしないでください。チェーンに巻き込まれてケガをするおそれがあります。**
- **コンバインは平たんな場所に止めて、駐車ブレーキを掛けてください。**
- **刈取部は地面に接地させて、停止してください。**
- **手刈りで枕刈り脱こくするときは、手や腕の位置を必ずチェーンの外側（コンバインから離れる位置）にして、作物を少量ずつ供給してください。**
- **手こぎレバーは、必ずグリップを持って上下させてください。**
- **エンジン停止スイッチを叩くと、エンジンが停止し、レール台が上昇します。接触するとケガをするおそれがあるので、可動部に手や体を近づけないでください。**

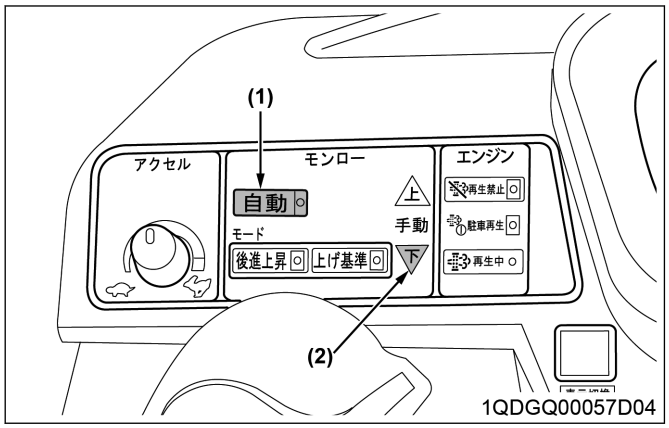
1. 駐車ブレーキを掛けます。
   a. 駐車ブレーキロックレバーをロック位置にします。
   b. 駐車ブレーキペダルをロックするまでいっぱい踏み込みます。



(1) 駐車ブレーキロックレバー　　*(A)* 踏込む
(2) 駐車ブレーキペダル　　*(B)* ロック
(C) 解除

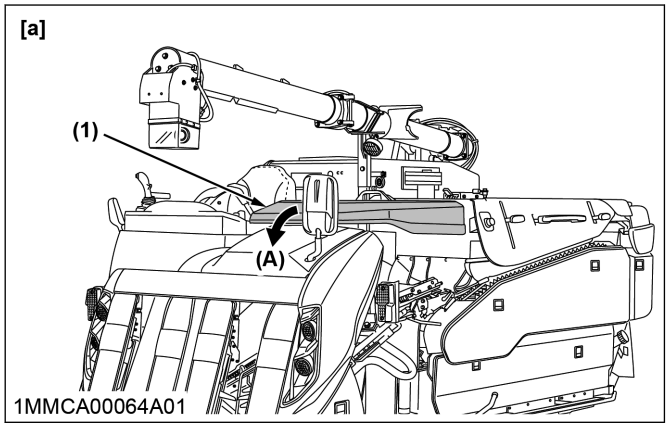
2. 機体を下げて、各部の準備をします。
   a. 水平自動スイッチを切にします。
   b. 水平操作手動スイッチの**[下]**を押して機体を最下降位置にします。

[L 仕様]



(1) 水平自動スイッチ　　*(2)* 水平操作手動スイッチ（下）

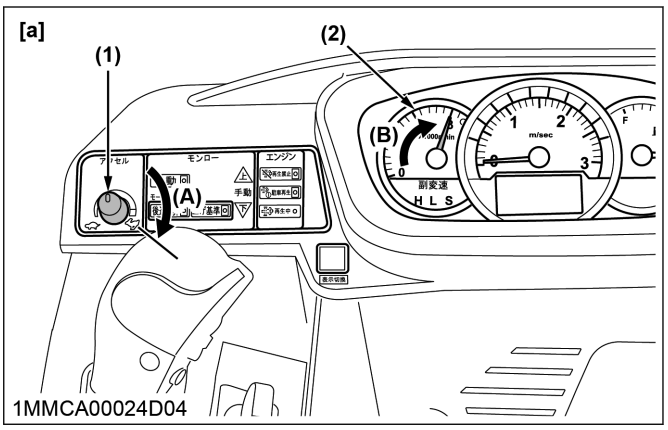
   c. **[オプションで防じんカバーを付けた場合]** 防じんカバーを引きます。



(1) 防じんカバー　　*(A)* 引く
[a] イラストはオプションで防じんカバーを付けた場合

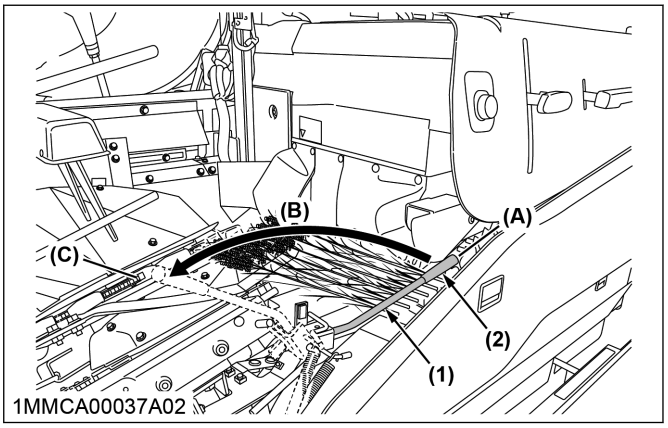
補足：
- **防じんカバーは前方いっぱいまで引いてください。**

3. 次のように操作し、脱こく部だけを動かします。
   a. 作業レバーを“刈取、脱こく”**[入]**位置
   b. 作業レバーを**[刈取切]**位置
4. 手動アクセルダイヤルを右側いっぱいまで回します。



(1) 手動アクセルダイヤル
(2) エンジン回転計
(A) 右側いっぱいまで回す
(B) 刈取作業時のエンジン回転数
[a] イラストは *L* 仕様

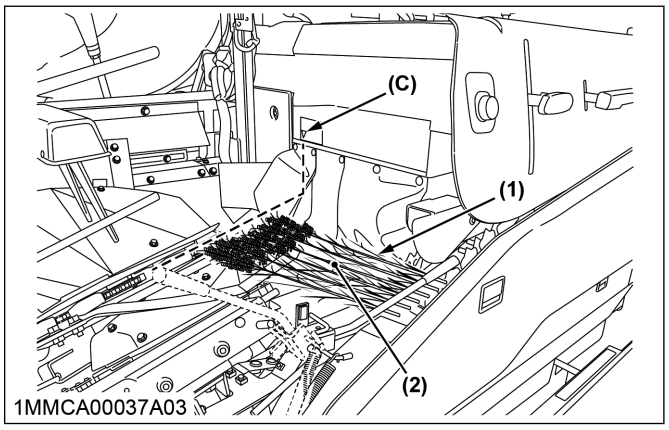
5. 手こぎレバーのグリップを持って、上方（“手こぎ位置”）に起こします。



(1) 手こぎレバー
(2) グリップ
(A) 作業位置
(B) 起こす
(C) 手こぎ位置

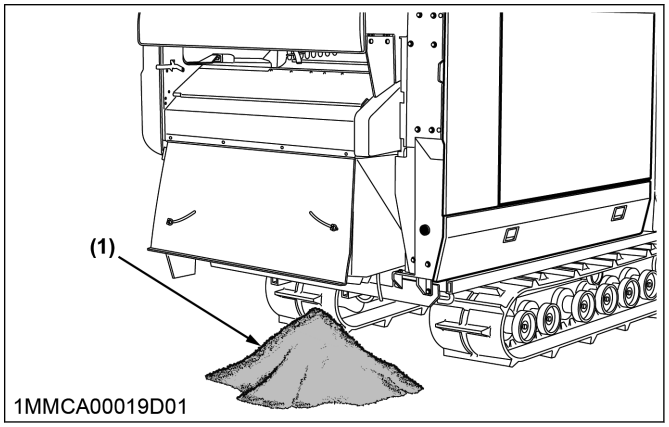
補足：
- **手こぎレバーを“手こぎ位置”にすると、自動的にエンジン回転数が少し下がります。**

6. 作物を少量ずつフィードチェーンに供給します。
   a. 枕こぎカバーに作物を乗せます。
   b. ▼マークラベルに穂先先端を合わせます。



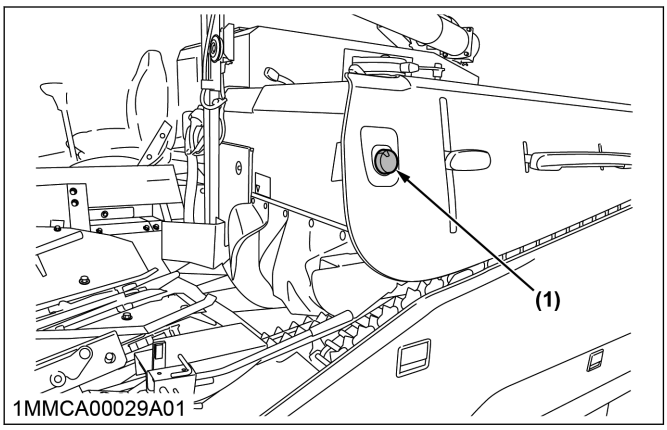
(1) 作物
(2) 枕こぎカバー
(3) ▼マークラベル

重要：
- **1 か所で多量の手こぎをする場合、カッタやドロッパの下に排わらや切断わらの堆積が原因で、カッタなどが詰まることがありますから、機体を定期的に移動させてください。**
- **切断わらがカッタわら排出口に詰まった場合は、エンジンを必ず止めて取り除いてください。**



(1) わらくず

- **手刈り脱こく時に万一異物などのかみ込みが発生したときは、エンジン停止スイッチを叩いてください。**



(1) エンジン停止スイッチ

- **手こぎ作業終了後は、手こぎレバーを下方（"作業位置"）に戻します。**
  "手こぎ位置"のまま作業すると、選別不良となるだけでなく、機械の故障の原因となります。

8. 作業に合わせた各部の調整、調節のしかた

⚠ 警告
- **作業中の調整以外は、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてから、調整、調節を行ってください。**
- **衣服などが回転部に巻き込まれ危険ですので、取り外した回転部のカバー類は必ず取り付けてください。**
- **平たんで安定した場所で行ってください。**
- **コンバインを停止するときは、わらくずの上に止めないでください。マフラ排気口にわらくずが触れると、火災のおそれがあります。**

8.1 刈取部の調整、調節

8.1.1 デバイダの上下調整

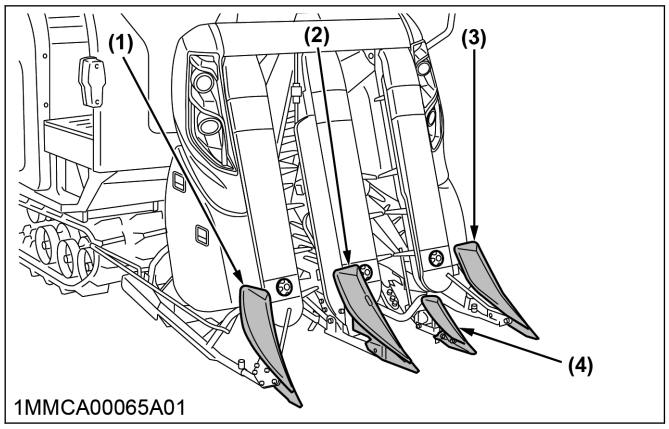
作物条件を目安にして、調整を行ってください。

1. ボルトをゆるめます。

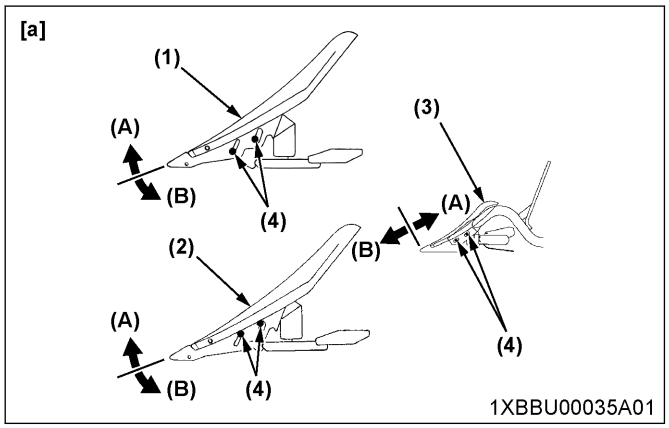
2. 次表の作物条件を参照し調整を行います。

作物、ほ場条件	調整方向
標準	出荷位置
湿田で前上りになるとき	(A)方向
うね作業のとき	(B)方向
雑草が多く高刈りしたいとき	
横倒伏刈りで刈残しがあるとき	
株の引抜きが多いとき	

- 表は目安です。



(1) 右デバイダ
(2) 中デバイダ
(3) 左デバイダ
(4) 小デバイダ



(1) 左、右デバイダ
(2) 中デバイダ
(3) 小デバイダ
(4) ボルト
[a] イラストは出荷状態

補足：

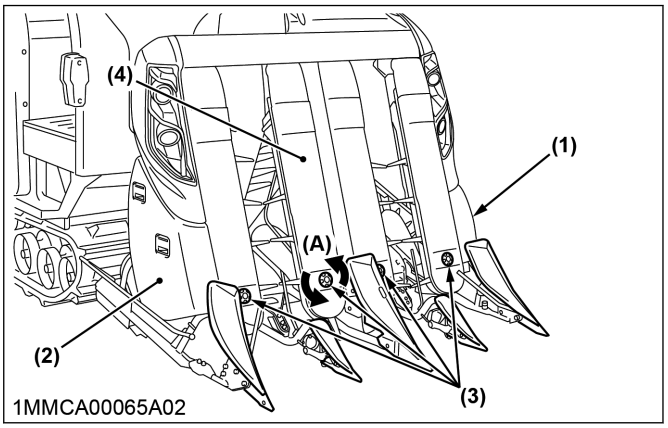
- **デバイダの上下高さは、すべてのデバイダを同じ高さにしてください。**

3. 調整を行ったあと、ボルトを締め付けます。

8.1.2 引起し爪高さの調節

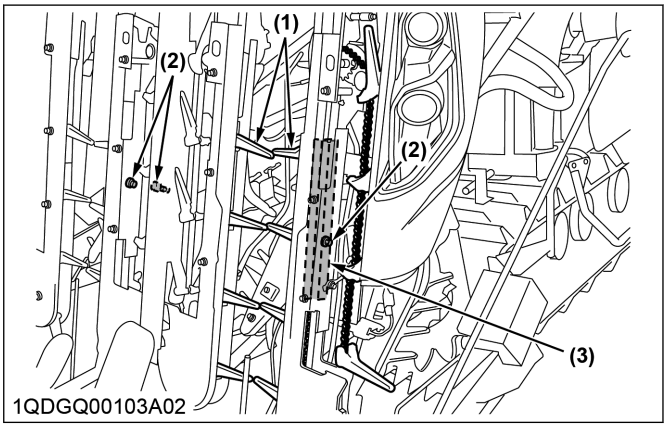
作物条件に応じて、引起し爪が収納される位置の調節を行ってください。
調節は必ず“全条同じ位置”にしてください。

1. 引起しサイドカバー左、右を取り外します。
2. 引起しカバーのノブボルトを外して、引起しカバーをすべて外します。
   a. ノブボルトを外します。
   b. 引起しカバーを外します。

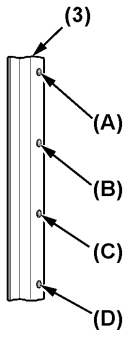


(1) 引起しサイドカバー左
(2) 引起しサイドカバー右
(3) ノブボルト
(4) 引起しカバー
(A) 外す

3. ボルトを外してスライドレールを上下に動かし調節します。
4. ボルトを締め付けます。



(1) 引起し爪
(2) ボルト
(3) スライドレール

(3)スライドレールの調節位置		作物条件
	(A)	• 極端に脱粒しやすい作物 • 穂切れ、ヘッドロスが多い作物
	(B)	• 脱粒しやすい品種 • 過熟小麦などわらちぎれの多い作物
	(C)	• “出荷時”標準の作物
	(D)	• 130 cm 以上の極長かん • 長かんで倒伏している作物

5. 引起しカバーをすべて装着します。
6. ノブボルトを締め付けます。
7. 引起しサイドカバー左、右を取り付けます。

8.1.3 刈刃の高さ調節

作物の刈高さを低くするときは、刈刃の高さ調節を行ってください。

⚠ 警告

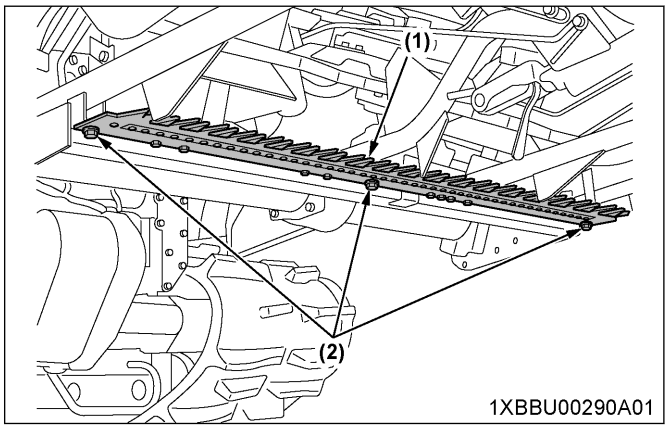
- **平たんな場所で刈取部を上げて、刈取下降ロックスイッチを“ロック”位置にして刈取部の下降防止を行ってください。さらに枕木などの固定用具を使用して、落下防止の歯止めをしてください。**
- **刃部に手を掛けないでください。不用意に刃が動くと危険です。**
- **脱着作業は手袋をして、2 人で刈刃の両端を持って行ってください。**

調節を行うときは 2 人作業で行ってください。

1. エンジンを始動します。
2. **[L 仕様]** は水平操作手動スイッチの**[上]**を押して機体を“最上昇位置”にします。
3. 刈取部を“最上昇位置”にします。
4. 刈取下降ロックスイッチを“ロック”位置にして刈取部の下降防止を行います。
5. エンジンを停止します。また、枕木などの固定用具を使用して、落下防止の歯止めをします。
6. ボルト（M10×25）を外して刈刃を取り外します。（刈刃の点検、調整（229 ページ）を参照）

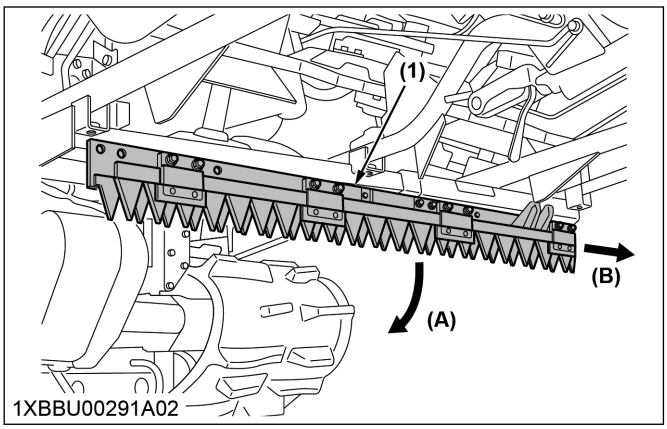
	本数
ボルト（M10×25）	3 本

a. ボルト（M10×25）を取り外します。



(1) 刈刃アッシ　　*(2)* ボルト（*M10×25*）

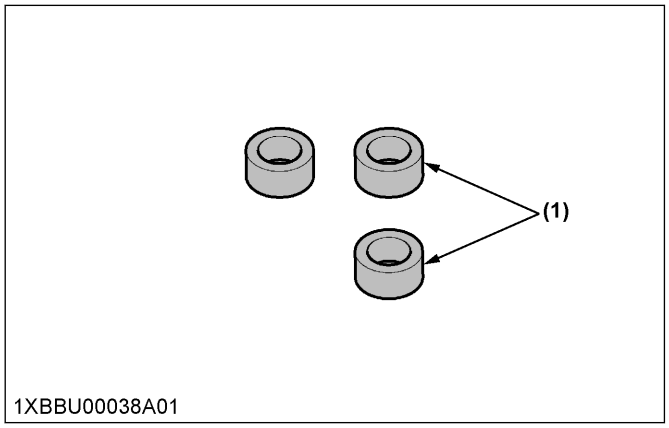
b. 刈刃アッシを下げます。
c. 刈刃アッシを機体の左側方向（図の右方向）に引いて取り外します。



(1) 刈刃アッシ　　*(A)* 下げる
(B) 外す

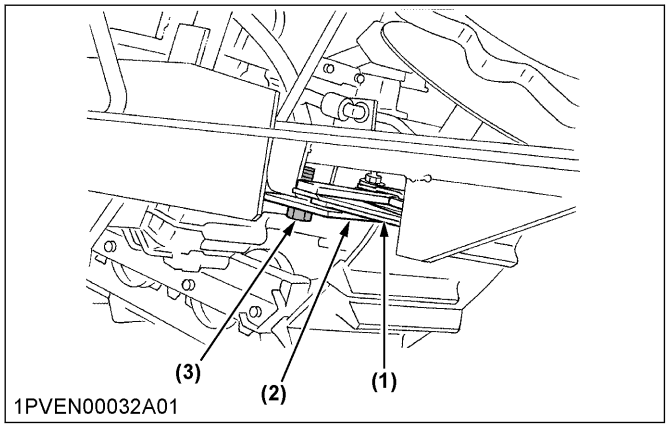
7. 付属部品のカラーをフレームと刈刃の受刃台の間に挟んで付属部品のボルト（M10×35）を取り付けます。
（刈刃の取付け方法は、刈刃の点検、調整（229 ページ）を参照）

	個数
カラー	3 個



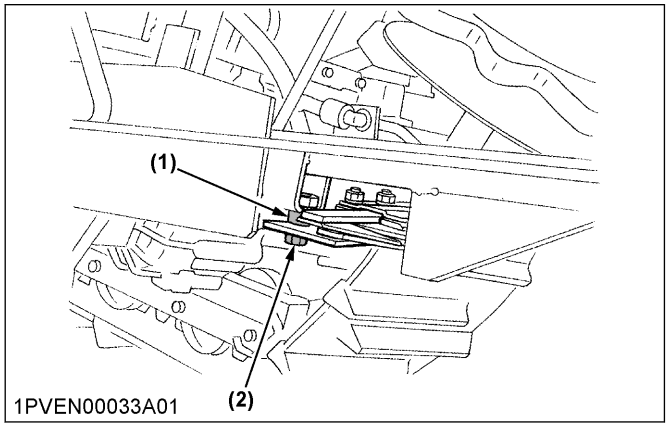
(1) カラー

カラー取付け箇所



(1) 刈刃
(2) 受刃台
(3) ボルト（*M10×35*）

カラーを取り付けた状態



(1) カラー
(2) ボルト

補足：
- **カラーを取り付けると刈刃の高さが約 9 mm 低くなります。**

8. すべての箇所のカラーおよびボルトを締め付けて刈刃を取り付けます。

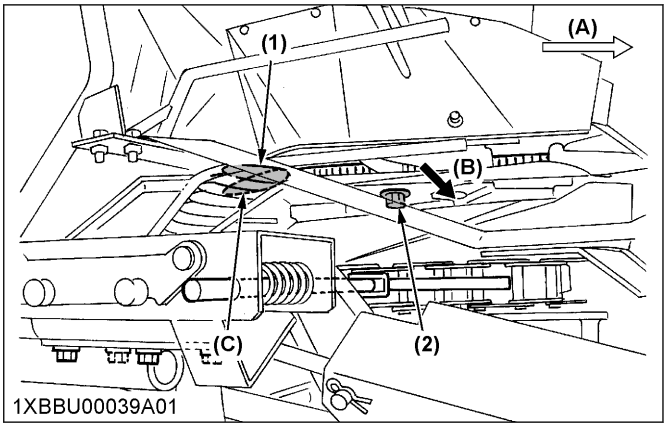
	箇所数
カラーおよびボルト	3 か所

重要：
- **次の条件のときは、作業のしかたにより刈刃に泥、土が掛かり破損の原因となりますので“標準位置”（出荷時）で作業を行ってください。**
  - **ほ場が湿田のとき**
  - **作物が麦などのうねのあるほ場のときや、雑草が多いとき**

8.1.4 右穂先チェーン爪ガイドの調整

脱粒しやすい稲で、ロスを少なくしたいときに右穂先チェーンの搬送爪の倒れ量を調整してください。

1. 次図のように、ケース裏側に 1 個ある右爪ガイドの下の調整ナットをゆるめます。
2. ➡ 方向に移動させてナットを締め付けます。



(1) 供給搬送爪
(2) 調整ナット
(A) 脱こく入口側
(B) 移動
(C) 移動後

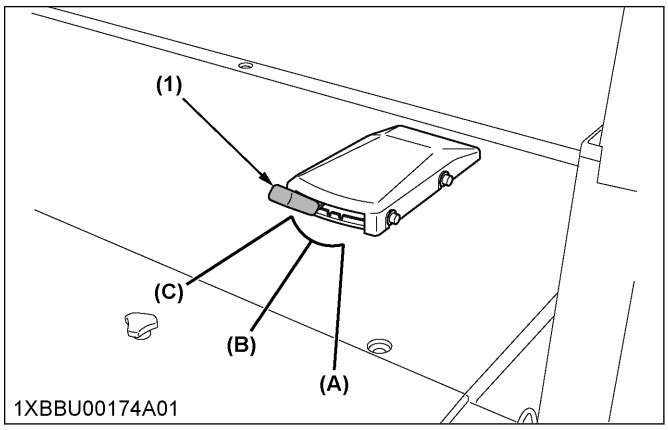
補足：
- **脱こくへの供給姿勢に乱れが多いときは、標準位置で使用してください。**

8.2 脱こく部の調整、調節

8.2.1 こぎ室送じん調節レバーの調節

1. 次表を参照してこぎ室送じん調節レバーで調節します。

調節方向	現象（状態）、条件
“開” ⬆	• こぎ胴の負荷が大きく、ゴトゴトと大きな異音がする • 倒伏作物や濡れ作物の刈取り • 脱ぷや損傷（胴割れや欠け）粒が多い。
“標準”	
⬇ “閉”	• 選別が悪い。 – 芒、枝梗粒が多い – 穂切れ粒が多い – ササリ粒が多い • 排じんロス（もみの飛散）が多い



(1) こぎ室送じん調節レバー
(A) 開
(B) 標準
(C) 閉

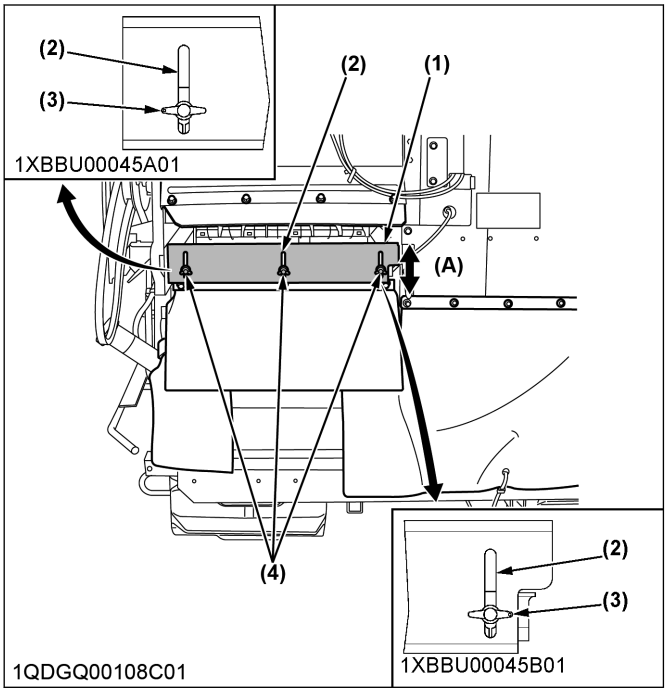
8.2.2 排じん調整板の調整

1. カッタ部を開きます。
（カッタ部の開閉（149 ページ）を参照）
2. 蝶ナット 3 個をゆるめます。

補足：
- **出荷時は、左、右の長穴横にある“標準位置合せマーク”位置に蝶ナットで締め付けています。**

3. 排じん調整板を動かして調整します。
次表を参照して排じん調整板を調整してください。

調節方向	現象（状態）
“上” ⬆	• 排じんロスが多い
“標準位置”	
⬇ “下”	• 濡れ作物の刈取り • 雑草が多い • 能率を上げる（高速刈取り）



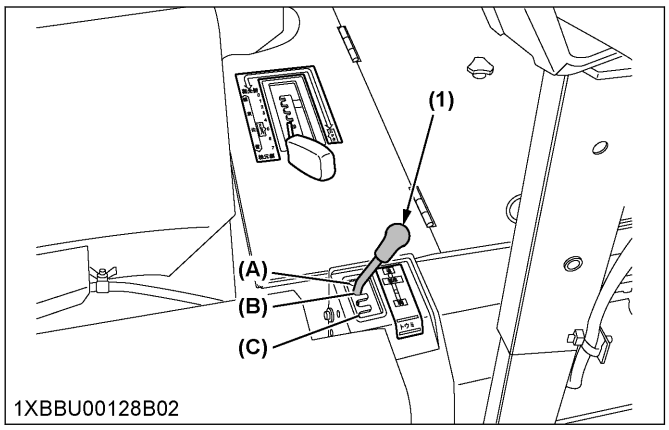
(1) 排じん調整板
(2) 長穴
(3) 標準位置合わせマーク
(4) 蝶ナット
(A) 調整

4. 蝶ナットを締め付けて、カッタ部を閉じます。

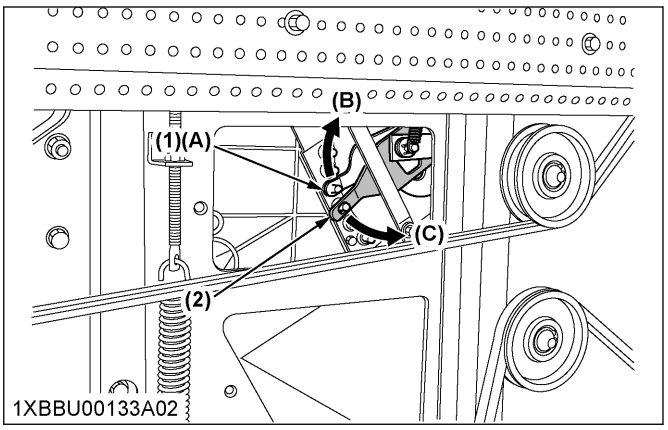
8.2.3 トウミの開度による風力とチャフのすき間の開度の調節

トウミの風力調節
作物の選別や飛散状態に合わせ、次表を参照してトウミ調節レバーで調節してください。

調節方向	現象（状態）
“強” ⬆	• 選別が悪い
“標準”	
⬇ “弱”	• 排じんロス（もみの飛散）が多い



(1) トウミ調節レバー
(A) 強
(B) 標準
(C) 弱

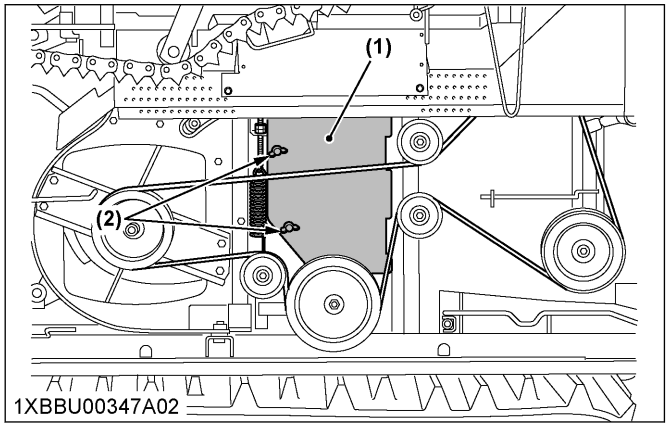


(1) 固定レバー
(2) チャフ調節レバー
(A) 動かないこと
(B) 閉
(C) 開

チャフのすき間調節

作物の選別や飛散状態に合わせ、次表を参照してチャフ調節レバーで調節してください。

1. 左サイドカバー上、下を取り外します。
2. ボルト 2 個を取り外して 1 番スクリュ上部左掃除口の掃除口カバーを外します。



(1) *1* 番スクリュ上部左掃除口カバー *(2)* ボルト

3. チャフ調節レバーで調節します。
   調節を行うときは、必ずチャフ調節レバーで行ってください。このとき、固定用レバーは動かさないでください。

チャフすき間調節

調節方向	現象（状態）
“開” ⬆	• 排じんロス（もみの飛散）が多い • 脱ぶが多い
“標準”	
⬇ “閉”	• 選別が悪い • 小枝梗が多い

補足：

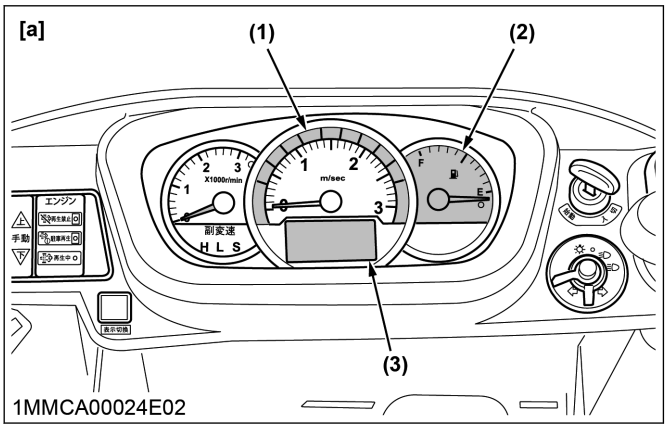
- **チャフの調節は、脱こく機内にこく粒が残っていないときに行ってください。**
- **チャフのすき間はもみの量により自動開閉するようになっていますが、選別をさらに良くしたい場合は作物の脱こく状態に合わせて調節を行ってください。**

4. 掃除口カバーをボルトで締め付けます。
5. 左サイドカバー（上、下）を取り付けます。

9. マルチナビによる異常の確認と処置

⚠ 警告
- **各部の点検やわら詰まりを取り除くときは、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてください。**
- **各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。**
- **エンジン停止直後は、エンジンに触ったり、ラジエータキャップを開けないでください。ヤケドをするおそれがあります。**
- **取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。**

マルチナビの液晶ディスプレイに警報が表示されたときは、次表を参照して処置してください。



(1) 負荷メータ
(2) 燃料計
(3) 液晶ディスプレイ
[a] イラストは *L* 仕様

燃料警報

液晶表示（液晶ディスプレイ） 処置内容 （表示時間）	警報ブザー （吹鳴時間）	現象	処置	参照ページ
燃料を給油して下さい 1GAGG00136B02 （約 5 秒後消灯）	○ 断続 （約 5 秒後停止）	燃料が少なくなっています。	燃料を補給します。	—

重要：
- **そのまま作業を続けると、“エンジンが停止します。”**

油圧警報

液晶表示（液晶ディスプレイ） 異常内容 （表示時間）	警報ブザー （吹鳴時間）	現象	処置	参照ページ
ｴﾝｼﾞﾝ油圧異常です 1GAGG00138B02 （処置後消灯）	○ 断続 （処置後停止）	エンジンオイルの圧力が不足しています。	エンジンを停止後、オイル量を点検します。	190
			オイルドレーンゴムホースの点検と処置をします。	200
			バンドの増締めをします。	200

重要：
- **そのまま作業を続けると、“エンジンが焼付きを起こし停止します。”**
  購入先へ連絡してください。

セパレータ排水警報

液晶表示（液晶ディスプレイ） 異常内容 （表示時間）	警報ブザー （吹鳴時間）	現象	処置	参照ページ
燃料系に水混入 1GAGG00546A02 （処置後消灯）	○ 断続 （処置後停止）	油水分離器（セパレータ）に水がたまり、排水レベルに達しています。	油水分離器（セパレータ）の水を排出します。	203

重要：
- **そのまま作業を続けると、“燃料に混入した水が燃料インジェクタに達し、インジェクタが破損します。”**

オーバーヒート警報

液晶表示（液晶ディスプレイ） 異常内容（表示時間）／処置内容 ⬅交互に表示➡	警報ブザー（吹鳴時間）	現象	処置	参照ページ
オーバーヒート / ｱｲﾄﾞﾘﾝｸﾞにして下さい 1GAGG00547A01 （処置後消灯）	○ 断続 （処置後停止）	エンジンの冷却水温が上昇しています。	“アイドリングにして下さい”を表示すると、手動アクセルダイヤルを操作して、エンジン回転数を“最低回転”位置にします。	55
オーバーヒート / 冷却後点検して下さい 1GAGG00548A01 （処置後消灯）			“冷却後点検して下さい”を表示すると、エンジンを停止し、30 分以上たってから、次表の点検と処置をします。	197
オーバーヒート / ｴﾝｼﾞﾝ停止して下さい ↕ 冷却後点検して下さい 1GAGG00549A02 （処置後消灯）			“エンジン停止して下さい” ⟷ “冷却後点検して下さい”を表示すると、エンジンを“直ちに停止”し、30 分以上たってから次表の点検と処置をします。	197

オーバーヒート時の点検と処置

点検箇所	現象	処置	参照ページ
冷却水量	不足	ラジエータ、リザーブタンクに清水を補給	197
	水漏れ	排水プラグ、ラジエータホースのバンドを増締め	197、200
ファン駆動ベルト	ゆるみ	張り調整	217
	破損など	交換、調整	217
防じんあみ、ラジエータフィン	汚れ、詰まり	掃除して取り除く	202

重要：
- **そのまま作業を続けると、“エンジンが焼付きを起こし停止します。”**
  購入先へ連絡してください。

充電警報

液晶表示（液晶ディスプレイ） 異常内容（表示時間）	警報ブザー（吹鳴時間）	現象	処置	参照ページ
充電系統が異常です 1GAGG00137A03 （処置後消灯）	○ 断続 （処置後停止）	バッテリに充電されていません。	エンジンを停止後、次表の点検と処置をします。	—

充電異常時の点検と処置

点検箇所	現象	処置	参照ページ
ファン駆動ベルト	ゆるみ	張り調整	217
	破損など	交換、調整	217
バッテリ	電圧低下	充電	237

重要：
- **そのまま作業を続けると、“バッテリ上りとなり、エンジンの始動ができなくなります。”**
- **バッテリを充電してもエンジンが始動しないときは、交換してください。（バッテリの点検、交換（237 ページ）を参照）**

DPF 警報

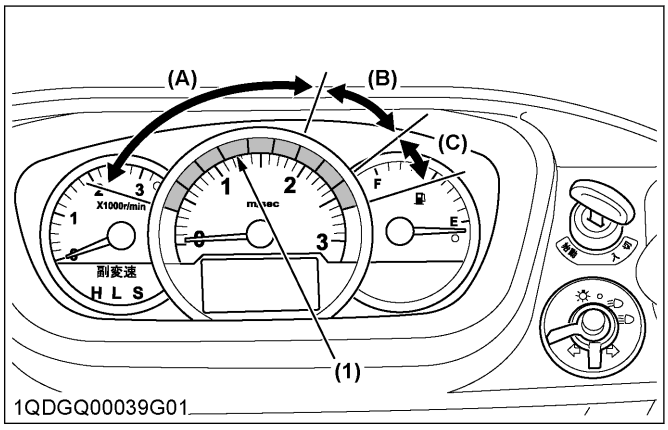
液晶表示（液晶ディスプレイ） 異常内容 （表示時間）	警報ブザー （吹鳴時間）	現象	処置	参照ページ
DPF異常 1GAGG00145A02 （処置後消灯）	○ 断続 （処置後停止）	DPF 内に PM が堆積しています。	駐車再生処理を行ってください。 **補足：** • **駐車再生処理が開始できないときは、購入先へ連絡してください。**	78

重要：
- **そのまま作業を続けると、“再生処理が不可能となり、*DPF* およびエンジンが破損します。”**

負荷警報

負荷

作業中にエンジン回転数が下がってきたときは、脱こく部に負荷が掛かっています。負荷メータのランプ表示を確認しながら適正範囲で作業してください。



(1) 負荷メータ（ランプ表示）

(A)	適正範囲	青色	作業を継続
(B)	減速範囲	オレンジ色	速度を落とす
(C)	即時減速	赤色	主変速レバーで減速する

ランプ表示が(C)即時減速範囲のとき

液晶表示（液晶ディスプレイ）		警報ブザー（吹鳴時間）	現象	処置	参照ページ
異常内容（表示時間）	処置内容				
⬅交互に表示➡					
負荷 / 速度を落として下さい 1GAGG00550A02 （処置後消灯）		○ 断続 （処置後停止）*1	エンジンや脱こく部に負担が掛かっています。	作業速度を落としてください。	55、108
				作業条件に合った調節や調整を行ってください。	113、125

*1　警報ブザーは速度を落として、(B)減速範囲に戻ると停止します。

重要：
- **そのまま作業を続けると、“エンジンが停止します。”**

もみ満杯警報

液晶表示（液晶ディスプレイ） 異常内容（表示時間）	警報ブザー（吹鳴時間）	現象	処置	参照ページ
もみが満杯です 1KATP00637B02 （処置後消灯）	○ 断続 （処置後停止、または表示切換えスイッチを押すと停止）	グレンタンク内のもみが満杯です。	刈取作業を中止し、もみを排出します。	114

重要：
- **そのまま作業を続けると、“グレンタンクからもみがあふれます。または *1* 番スクリュが詰まります。”**

2 番警報

液晶表示（液晶ディスプレイ）		警報ブザー（吹鳴時間）	現象	処置	参照ページ
異常内容（表示時間）	処置内容				
⬅交互に表示➡					
2番 / 詰まりを取り除く 1SSNN00500A01 （処置後消灯）		○ 断続 （処置後停止）	1 番縦スクリューケース内、または 2 番処理胴（ツースバー）、2 番縦スクリューケース内が詰まっています。	1 番縦スクリューケース、または 2 番処理胴（ツースバー）、2 番縦スクリューケースを掃除します。	161

重要：
- **そのまま作業を続けると、“ベルトの焼付きやベルト切れとなります。”**

浮きわら警報

液晶表示（液晶ディスプレイ）		警報ブザー（吹鳴時間）	現象	処置	参照ページ
異常内容（表示時間）	処置内容				
⬅交互に表示➡					
こぎ深さ / 穂先センサを点検 1JBLR00060A01 （処置後消灯）		○ 断続 （処置後停止）	浮きわらや雑草が穂先センサに長時間接触しています。	穂先センサを点検し、浮きわらや雑草を取り除きます。	73
			自動制御が困難なとき。	自動こぎ深さ制御を解除し（切換えスイッチ“切”位置）、手動で操作を行ってください。	72

重要：
- **そのまま作業を続けると、“選別不良となります。”**

シーブ警報

液晶表示（液晶ディスプレイ）		警報ブザー（吹鳴時間）	現象	処置	参照ページ
異常内容（表示時間）	処置内容				
⬅交互に表示➡ シーブ / 速度を落として下さい 1JBLR00057A01 （処置後消灯）		○ 断続 （処置後停止）	シーブケース上に詰まりが発生しています。	次表の順で処置します。	—
			刈取量が処理能力をこえています。		

シーブ異常時の処置

手順	処置	参照ページ
1	作業速度を落とします。	55、108
⬇		
2	刈取作業を中止し、脱こく部を空運転します。	55、59、108

重要：
- **そのまま作業を続けると、“ロスや損傷米が増えたり、*2* 番詰まりが発生します。”**

エンジンが停止する、またはエンジン回転が低下する警報

各警報	液晶表示（液晶ディスプレイ） 異常内容（表示時間）	液晶表示（液晶ディスプレイ） 処置内容	警報ブザー（吹鳴時間）	現象	処置	参照ページ
排ワラ詰まり警報	⬅交互に表示➡ 排ワラ 1KATP00673A02 （処置後消灯）	詰まりを取り除く		フィードチェーン終端部にわらが詰まっています。	こぎ胴を開いて、フィードチェーン終端部のわらを取り除きます。	137、250
カッタ詰まり警報	⬅交互に表示➡ カッタ 1KATP00674A02 （処置後消灯）	詰まりを取り除く		カッタ部にわらが詰まっています。	カッタの切換えカバーを開いて、わらを取り除きます。	251
排気管外れ警報	停止SW確認する 1QDGQ00055A01		○ 断続 （メインスイッチのキーが**[切]**で停止）	排気管が外れています。	エンジンを停止後、排気管を確認します。	164
					停止スイッチの点検と処置をします。	164
エンジン停止スイッチ押下警報	⬅交互に表示➡ ｴﾝｼﾞﾝ停止しました 1QDGQ00165A01 （処置後消灯）	ﾒｲﾝｽｲｯﾁ切して下さい	○ 断続 （メインスイッチのキーが**[切]**で停止）	エンジン停止スイッチが押されています。エンジンが停止し、フィードチェーンが停止して、レール台前方部が上方へ開きます。	メインスイッチのキーを**[切]**にして、エンジン停止スイッチを**[運転]**位置にしてください。	60
[オプションで結束機を付けた場合]結束機詰まり、ひも切れ警報	⬅交互に表示➡ 結束機 1PVEN00457A01 （処置後消灯）	詰まりを取り除く		結束部にわらが詰まっています。	わらを取り除きます。	—*1
	⬅交互に表示➡ 結束機 1PVEN00458A01 （処置後消灯）	ひも切れ点検		結束機のひも無し、ひも切れです。	新しいひものセット、ひもの再セットをします。	
	⬅交互に表示➡ 結束機 1PVEN00459A01 （処置後消灯）	ビル巻付き点検		結束機の結節部のビルにわらやひもが巻き付いています。	ビルからわらやひもを取り除きます。	

*1　別冊の結束機の取扱説明書を参照してください。

重要：

- **処置したあとに異常が直らないときは、購入先へ連絡して修理を依頼してください。**

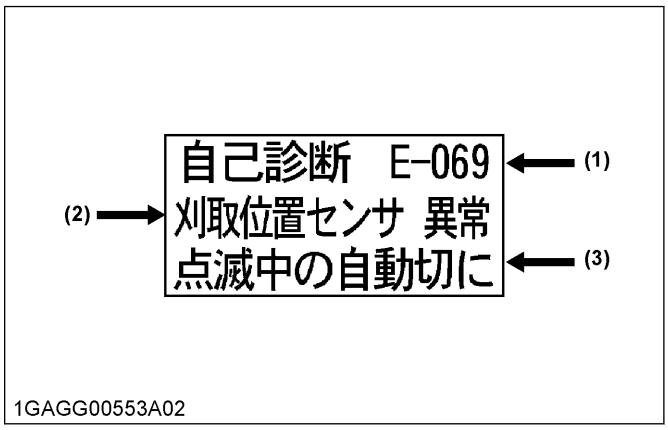
10. マルチナビによる故障の確認と処置

故障が発生すると、マルチナビの液晶ディスプレイに異常内容を表示します。
故障による異常が発生したときは刈取作業を中止し、購入先に連絡して処置してください。
なお、故障の内容によっては、次表を参照して手動操作で刈取作業を行うことができますが、作業終了後には必ず購入先に連絡してください。また、次表以外の異常内容が表示された場合は、直ちに購入先に連絡して処置してください。

補足：

- **液晶ディスプレイに故障の異常内容が表示されたとき、警報ブザーは鳴りませんので注意してください。**
- **手動操作で作業を続ける場合は、次表の処置の欄の内容をよく理解し、注意をしながら作業を行ってください。**
- **液晶ディスプレイに表示される異常内容は、“エラーコード”、“異常箇所”、“処置の指示”を表示します。**

表示例



1GAGG00553A02

(1) エラーコード
(2) 異常箇所
(3) 処置の指示

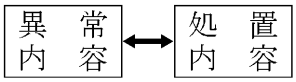
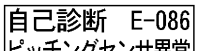
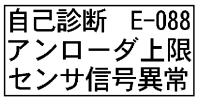
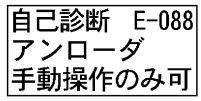
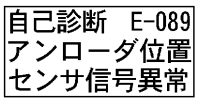
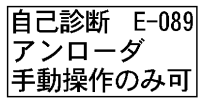
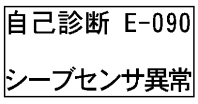
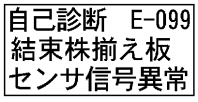
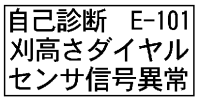
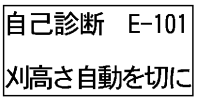
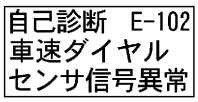
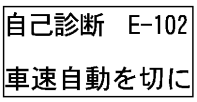
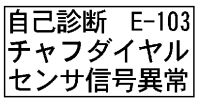
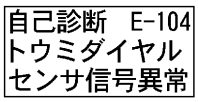
- **異常内容によっては、異常箇所または“処置の指示”を表示しない場合があります。**
- **購入先に連絡する際には、液晶表示のエラーコードおよび異常内容を連絡してください。**
- **故障の内容の表示は、異常内容のみの表示と異常内容と処置内容を交互に表示する場合があります。**

液晶表示（液晶ディスプレイ） **交互に表示** 異常内容 ⟷ 処置内容 1GAGG00551A01		**異常内容**	**処置**	**参照ページ**
自己診断 E-064 昇降レバー VR異常 1GAGG00552A01	---	パワーステアリングレバーを操作しても刈取部が昇降しません。	購入先に連絡して処置してください。	–
自己診断 E-065 旋回レバー VR 異常 1QDGQ00166A01	---	パワーステアリングレバーを操作しても旋回できません。	手動こぎ深さ**[深]**スイッチで左クラッチ旋回、**[浅]**スイッチで右クラッチ旋回を行うことができますが、購入先に連絡して処置してください。	–
自己診断 E-069 刈取位置センサ 異常 点滅中の自動切に 1GAGG00553A01	---	刈高さ制御、刈取オートクラッチ、ポジピタがはたらきません。また、刈高さ制御がはたらいているときは、警報ブザーが鳴ります。	パワーステアリングレバーの操作で作業を続けて行うことができます。	56
			刈高さ自動スイッチ、オートクラッチ切換えスイッチを“切”にしてください。	73、74

（次へ続く）

液晶表示（液晶ディスプレイ） 交互に表示 異常内容 ⟷ 処置内容 1GAGG00551A01		異常内容	処置	参照ページ
自己診断 E-072 かき込みセンサ センサ信号異常 1KATP00678A01	---	刈取かき込みペダルを踏んでもかき込み作業ができません。	作業を続けて行うことができますが、購入先に連絡して処置してください。	–
自己診断 E-073 こぎ深さセンサ異常 1KATP00679A01	---	こぎ深さ制御がはたらきません。	手動こぎ深さスイッチの操作で作業を続けて行うことができますが、こぎ深さに注意してください。	73
自己診断 E-076 刈高さセンサ右 センサ信号異常 1GAGG00554A01	自己診断 E-076 刈高さ自動を切に 1GAGG00555A01	刈高さ制御がはたらきません。 また、刈高さ制御がはたらいているときは、警報ブザーが鳴ります。	パワーステアリングレバーの操作で作業を続けて行うことができます。 刈高さ自動スイッチを“切”にしてください。	56、73
自己診断 E-077 刈高さセンサ左 センサ信号異常 1GAGG00556A01	自己診断 E-077 刈高さ自動を切に 1GAGG00557A01			
自己診断 E-079 モンロ左前センサ異常 水平自動を切に 1KATP00682A01	---	水平制御がはたらきません。	水平操作手動スイッチで機体を最下降位置にし、作業を続けてください。 水平自動スイッチを“切”にしてください。	70、72
自己診断 E-080 モンロ左後センサ異常 水平自動を切に 1KATP00683A01	---			
自己診断 E-081 モンロ右前センサ異常 水平自動を切に 1KATP00684A01	---			
自己診断 E-082 モンロ右後センサ異常 水平自動を切に 1KATP00685A01	---			
自己診断 E-083 モンロ左センサ異常 水平自動を切に 1GAGG00558A01	---			
自己診断 E-084 モンロ右センサ異常 水平自動を切に 1GAGG00559A01	---			
自己診断 E-085 ローリングセンサ異常 水平自動を切に 1GAGG00560A01	---			

（次へ続く）

液晶表示（液晶ディスプレイ） 交互に表示 異常内容 ⟷ 処置内容 		異常内容	処置	参照ページ
自己診断 E-086 ピッチングセンサ異常 水平自動を切に 	---	水平制御がはたらきません。	水平操作手動スイッチで機体を最下降位置にし、作業を続けてください。 水平自動スイッチを“切”にしてください。	70、72
自己診断 E-088 アンローダ上限 センサ信号異常 	自己診断 E-088 アンローダ 手動操作のみ可 	アンローダ自動旋回制御がはたらきません。	アンローダ手動スイッチで作業を続けて行うことができますが、運転席の上部（頭上）には注意してください。	75、77
自己診断 E-089 アンローダ位置 センサ信号異常 	自己診断 E-089 アンローダ 手動操作のみ可 			
自己診断 E-090 シーブセンサ異常 	---	シーブセンサが故障しています。	作業を続けて行うことができますが、選別やロスに注意してください。	–
自己診断 E-099 結束株揃え板 センサ信号異常 	---	結束制御がはたらきません。	**[オプションで結束機を付けた場合]**結束手動スイッチで作業を続けて行うことができます。	–[*1]
自己診断 E-101 刈高さダイヤル センサ信号異常 	自己診断 E-101 刈高さ自動を切に 	刈高さ制御がはたらきません。	パワーステアリングレバーの操作で作業を続けて行うことができます。	56
			刈高さ自動スイッチを“切”にしてください。	73
自己診断 E-102 車速ダイヤル センサ信号異常 	自己診断 E-102 車速自動を切に 	車速制御がはたらきません。	主変速レバーの操作で作業を続けて行うことができます。	55
			車速自動スイッチを“切”にしてください。	–
自己診断 E-103 チャフダイヤル センサ信号異常 	---	チャフの調節ができません。	作業を続けて行うことができますが、選別やロスには注意してください。	–
自己診断 E-104 トウミダイヤル センサ信号異常 	---	トウミの調節ができません。		
自己診断 E-120 脱こく SW異常 	---	脱こくクラッチレバースイッチが故障しています。	作業を続けて行うことができますが、2番スクリュに詰まりが発生しても2番の詰まり警報が鳴りませんので注意してください。	–

*1　別冊の結束機の取扱説明書を参照してください。

メンテナンス

各部の開閉と脱着のしかた

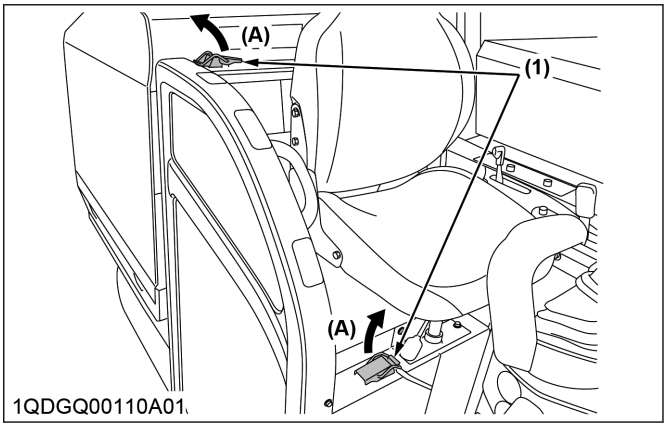
警告
- **平たんで安全な場所で、機械の移動や各部を動かすとき以外は、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜き、駐車ブレーキを掛けてから行ってください。**
- **傾斜地では、開閉や脱着を行わないでください。**
- **エンジンルームを閉じたときは、クランプで必ずロックしてください。**
- **取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。**

1. エンジンルームの開閉

警告
- **オーバーヒートなどの異常でエンジンルームを開けて点検、整備するときは、次の手順に従ってください。**
  1. **作業を中止します。**
  2. **エンジンを約 5 分間アイドリング回転で運転します。**
  3. **エンジンを停止し、メインスイッチのキーを抜きます。**
  4. **エンジン停止後 30 分以上経過してからエンジンルームを開けます。**
  5. **点検、整備で内部に触れるときは、ヤケドの危険性が無いことを確認します。**
- **エンジンが冷えていないときにエンジンルームを開けると、ラジエータ部より熱湯の噴出のおそれ、あるいは高温部に接触してヤケドするおそれがあります。**

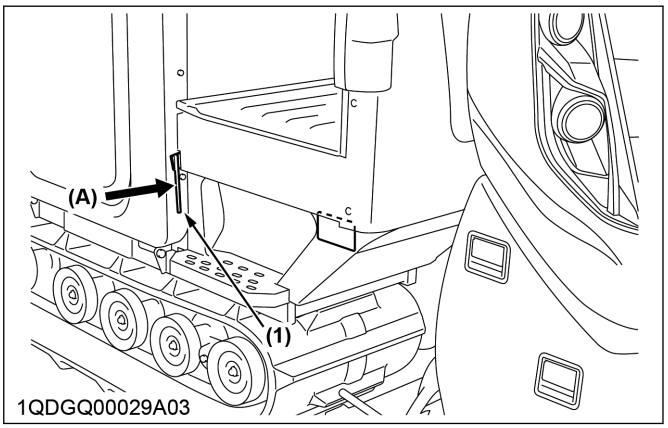
1.1 エンジンルームを開く方法

1. 2 か所のクランプを外します。



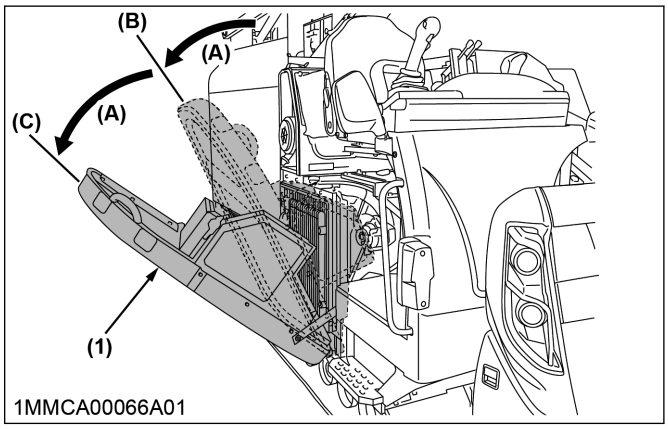
(1) クランプ　　*(A)* 外す

2. ロックレバーを押します。



(1) ロックレバー　　*(A)* 押す

3. エンジンルームを開きます。



(1) エンジンルーム
(A) 開く
(B) *30°*
(C) *60°*

重要：
- **エンジンルームを開くときは、手で支えてゆっくりと開いてください。カバーが破損するおそれがあります。**

補足：
- **エンジンルームは、30°と 60°の 2 段階開きます。30°でいったん止まったあと、再度ロックレバーを押すと 60°まで開きます。**

1.2 エンジンルームを閉じる方法

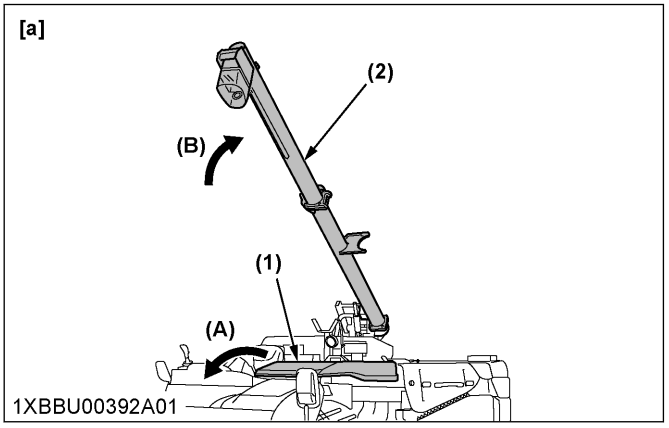
1. エンジンルームを閉じます。
2. 2 か所のクランプをロックします。

2. こぎ胴の開閉

⚠ 警告
- **こぎ胴を開閉するときは、平たんで安全な場所で行ってください。**
- **中でこぎ歯が高速で回転しているので接触するとケガをします。こぎ胴を開くときは、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてください。**
- **こぎ胴を開いて、受あみの脱着やこぎ室の掃除をするときは、こぎ胴が落下して身体が挟まれるおそれがあるので、オープンストッパで必ず固定してください。**
- **傾斜地では、こぎ胴の開閉は行わないでください。**
- **こぎ胴を開いた状態で走行しないでください。**
- **こぎ胴の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**

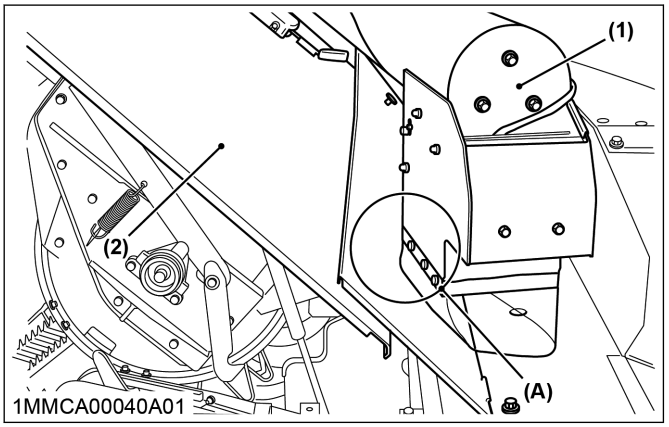
2.1 こぎ胴を開く方法

1. エンジンを始動します。
2. **[オプションで防じんカバーを付けた場合]**は防じんカバーを開きます。
3. アンローダを最上昇させます。
4. エンジンを停止し、メインスイッチのキーを抜きます。



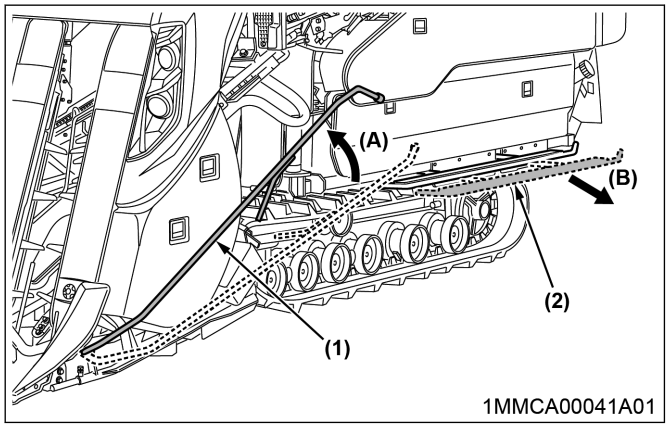
(1) 防じんカバー
(2) アンローダ
(A) 開く
(B) 最上昇
[a] イラストはオプションで防じんカバーを付けた場合

重要：
- **アンローダを折りたたんだ状態で収納位置のときにこぎ胴を開くと、こぎ胴上部カバーがアンローダに接触し、変形するおそれがあります。**



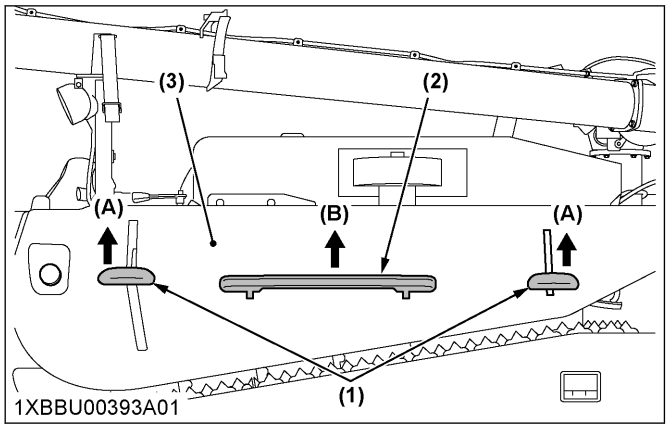
(1) アンローダ
(2) こぎ胴上部カバー
(A) 接触

5. こぎ胴を開きます。
   a. 左分草かんを収納します。
   b. 補助デッキを引き出します。



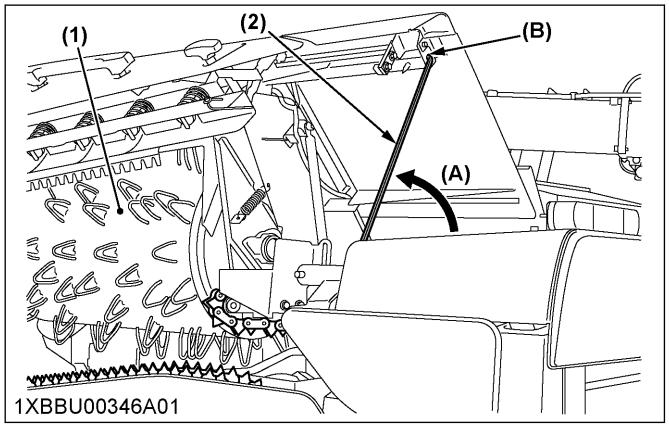
(1) 左分草かん　　*(A)* 収納
(2) 補助デッキ　　*(B)* 引き出す

   c. ロックハンドル前、後を上に上げます。
   d. オープンハンドルを持ってこぎ胴カバーを押し上げます。



(1) ロックハンドル前、後　　*(A)* 上げる
(2) オープンハンドル　　*(B)* 持ち上げる
(3) こぎ胴カバー

   e. オープンストッパを取付穴に差し込みます。



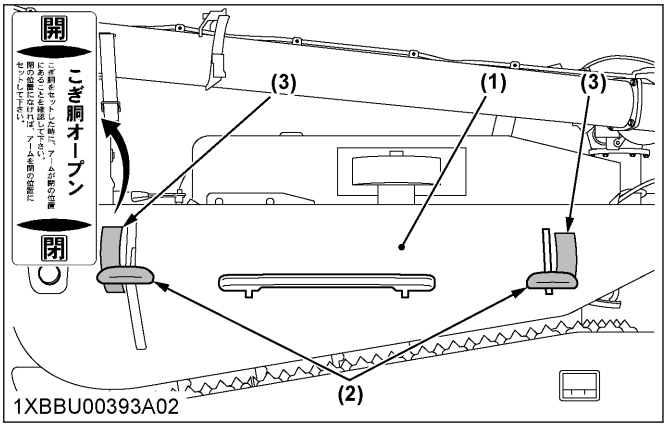
(1) こぎ胴　　*(A)* 上げる
(2) オープンストッパ　　*(B)* 取付穴に差し込む

重要：
- **補助デッキの上に乗って作業を行うとき、パイプ部の上に乗ると変形するおそれがあるため必ず板の部分に乗ってください。**

2.2 こぎ胴を閉じる方法

1. オープンストッパを取付穴から外します。
2. オープンハンドルを持って、こぎ胴カバーを押し下げます。

重要：
- **こぎ胴カバーを閉じたとき、ロックハンドルの前と後が、ロックハンドル横の[開]⟷[閉]ラベルの[閉]の位置にあることを確認してください。[閉]の位置以外で作業を行うと、こぎ室フレームが変形することがあります。**



(1) こぎ胴カバー　　*(3)* 開 ⟷ 閉マーク
(2) ロックハンドル

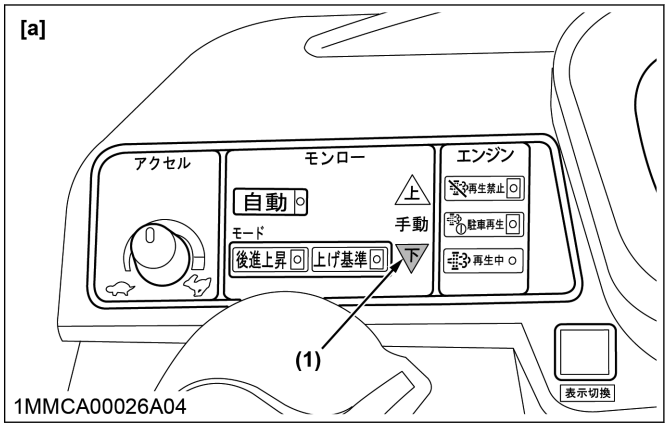
3. 補助デッキを収納します。
4. アンローダを収納します。
5. **[オプションで防じんカバーを付けた場合]**は防じんカバーを閉じます。

3. 刈取部の開閉

⚠ 警告
- **刈取部を開閉するときは、平たんで安全な場所で、刈取部の昇降操作以外はエンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてから行ってください。**
- **傾斜地では、刈取部の開閉を行わないでください。**
- **刈取部を開いた状態で作業を行う場合は、枕木などで刈取部の下降防止の歯止めをしてください。**
- **刈取部を開いたときは、刈取部が閉じないようにストッパを必ず掛けてください。刈取部が閉じると体が挟まれてケガをするおそれがあります。**
- **刈取部を開いた状態で走行をしないでください。**
- **刈取部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**
- **取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。**

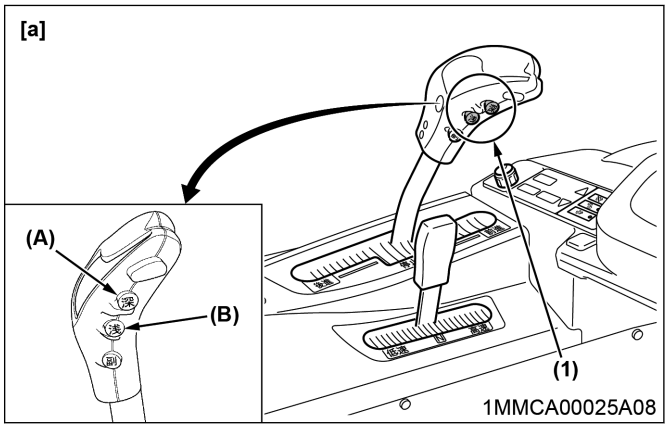
3.1 刈取部を開く方法

1. エンジンを始動します。
2. **［L 仕様］**は水平操作手動スイッチの**[下]**を押して機体を“最下降位置”まで下げます。



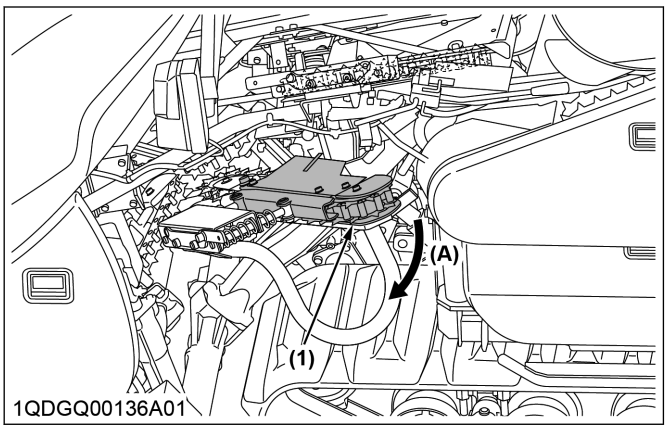
(1) 水平操作手動スイッチ（下） *[a]* イラストは *L* 仕様

3. 刈取部を地面まで降ろしたあと、エンジンを停止します。
4. メインスイッチのキーを**[入]**位置にセットします。
5. 手動こぎ深さスイッチの**[浅]**を押してこぎ深さチェーンを“最下降位置”（浅こぎ側）まで下げます。
6. メインスイッチのキーを**[切]**位置に切り換えます。



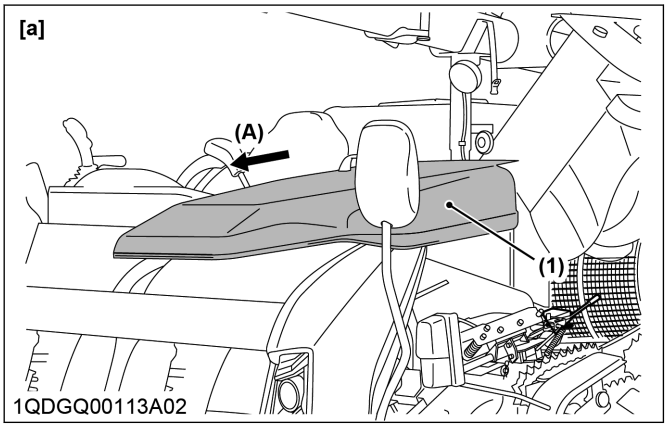
(1) 手動こぎ深さスイッチ *[a]* イラストは *L* 仕様

(A)	**[深]**（深こぎ）を押すとこぎ深さチェーンが上がる
(B)	**[浅]**（浅こぎ）を押すとこぎ深さチェーンが下がる



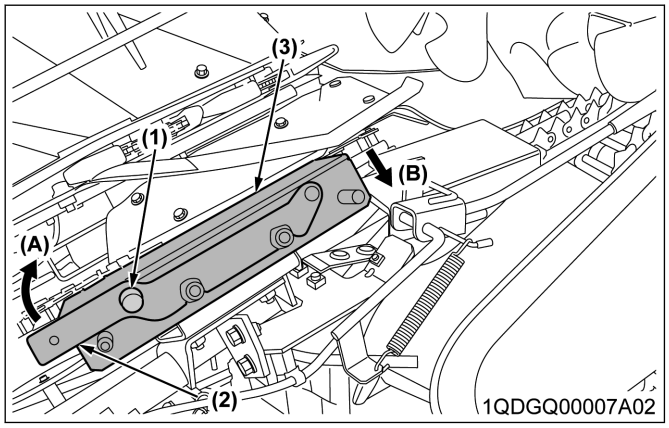
(1) こぎ深さチェーン *(A)* 浅こぎ

7. **[オプションで防じんカバーを付けた場合]**は防じんカバーを前方いっぱいまで引き出します。
8. こぎ胴を開きます。
9. 脱こく左サイドカバー上、下を取り外します。



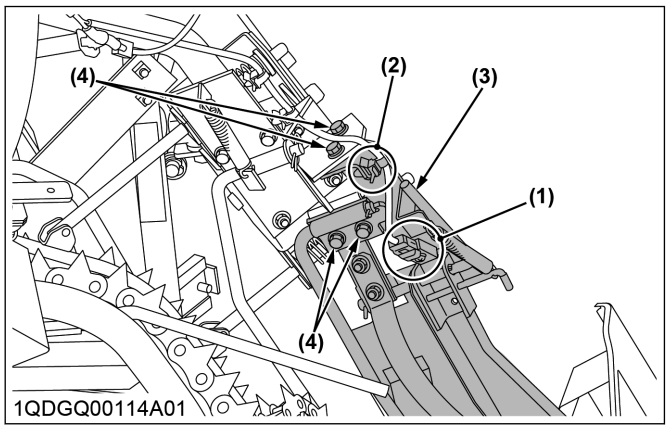
(1) 防じんカバー *(A)* 前方へ引き出す
[a] イラストはオプションで防じんカバーを付けた場合

10. わら詰まり除去装置、手こぎレバー装置、供給サポートチェーンガイドを取り外します。
    a. 樹脂ボルトを取り外します。
    b. ロックレバーを上げます。
    c. わら詰まり除去装置を手前に引いて取り外します。



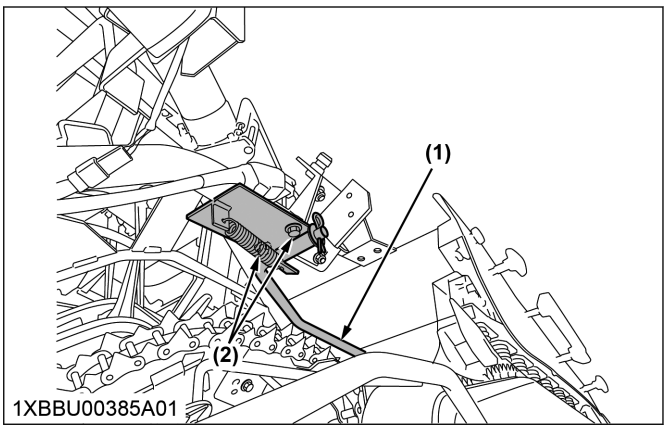
(1) 樹脂ボルト
(2) ロックレバー
(3) わら詰まり除去装置
(A) 上げる
(B) 引いて取り外す

    d. カプラとコードクランプを取り外します。
    e. ボルトを取り外して手こぎレバー装置を取り外します。



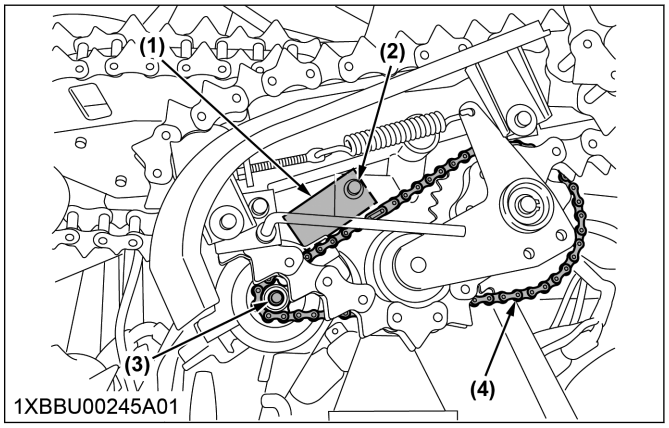
(1) カプラ
(2) コードクランプ
(3) 手こぎレバー装置
(4) ボルト

    f. ボルトを取り外して供給サポートチェーンガイドを取り外します。



(1) 供給サポートチェーンガイド
(2) ボルト

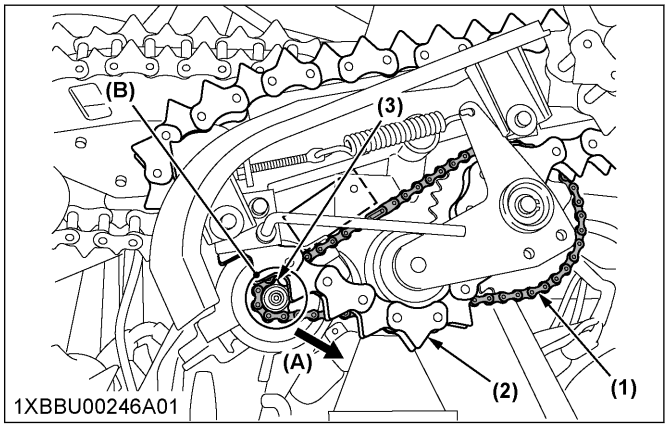
11. 供給サポートチェーン駆動チェーンの駆動スプロケットを取り外します。
    a. 補強ステーを固定しているボルトを取り外します。
    b. 駆動スプロケットを押さえているボルトと平座金を取り外します。



(1) 補強ステー
(2) 補強ステーのボルト
(3) 駆動スプロケットのボルト、平座金
(4) 供給サポートチェーン駆動チェーン

重要：
- **補強ステーを固定しているボルトを取り外し忘れると、刈取部を開くときに補強ステーが引っ張られて破損する恐れがあります。**

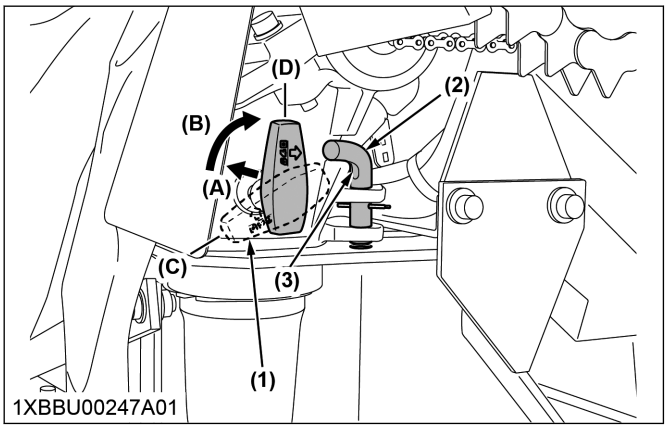
    c. 駆動軸から駆動スプロケットと一緒に供給サポートチェーン駆動チェーンを取り外します。



(1) 供給サポートチェーン駆動チェーン
(2) 供給サポートチェーン
(3) 駆動スプロケット
(A) 取り外す
(B) 供給サポートチェーン駆動チェーンは駆動スプロケットに取り付けた状態

補足：
- **供給サポートチェーン駆動チェーンは駆動スプロケットに取り付けた状態で、そのまま垂らしてください。**

12. エンジンを始動したあと、刈取部を“最上昇位置”まで上げます。
13. 刈取下降ロックハンドルを“ロック”位置にセットします。
    a. 刈取下降ロックハンドルを押しながら“ロック”位置まで回動します。
    b. 刈取部回動ロックピンを上げ、ピンを切欠部に入れて回動のロックを解除します。



(1) 刈取下降ロックハンドル
(2) 刈取部回動ロックピン
(3) 切欠部
(A) 押す
(B) 回動する
(C) 解除
(D) ロック

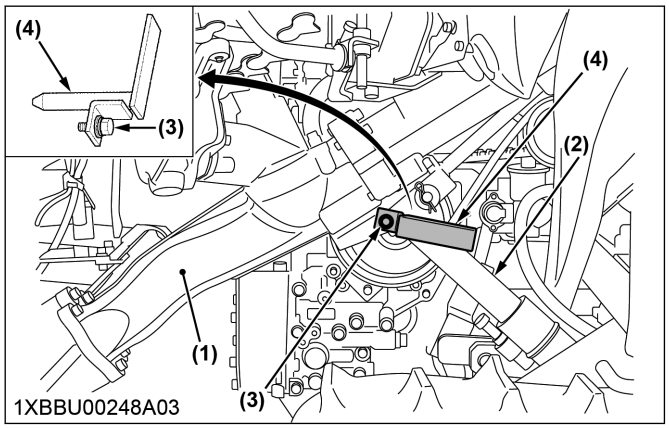
補足：
- **回動ロックピンがロック状態で刈取部を回動すると、回動ロックピンが変形したり、ケースが破損するおそれがあります。**

14. パワーステアリングレバーで刈取部の下降が停止するまで下げます。
15. 刈取部の下降が停止したあとも 2 秒～3 秒間パワーステアリングレバーを押さえ続けてから、エンジンを停止します。

補足：
- **油圧シリンダの残圧が残っていると、閉じるときに刈取フレームと油圧シリンダの取付ピンの穴位置が合わなくなるおそれがあるため、2 秒～3 秒間はパワーステアリングレバーを押さえ続けてください。**

16. メインスイッチのキーを**[入]**位置にセットしたあと、手動こぎ深さスイッチの**[深]**を押してこぎ深さチェーンを“最上昇”（深こぎ側）位置まで上げます。

17. 刈取フレームから油圧シリンダを外します。
    a. ボルトを取り外します。
    b. 固定ピンを抜きます。
    c. 油圧シリンダを外します。

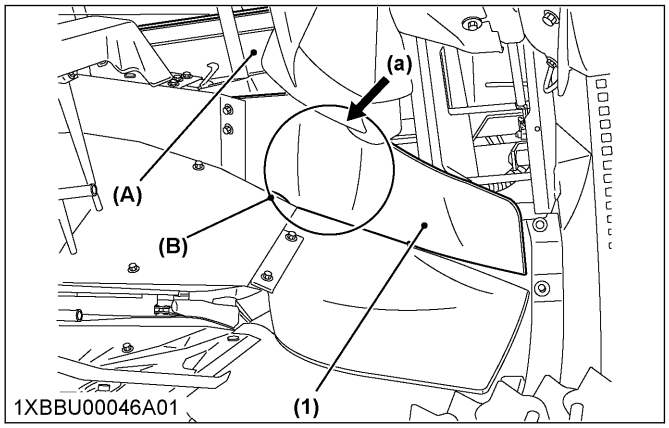


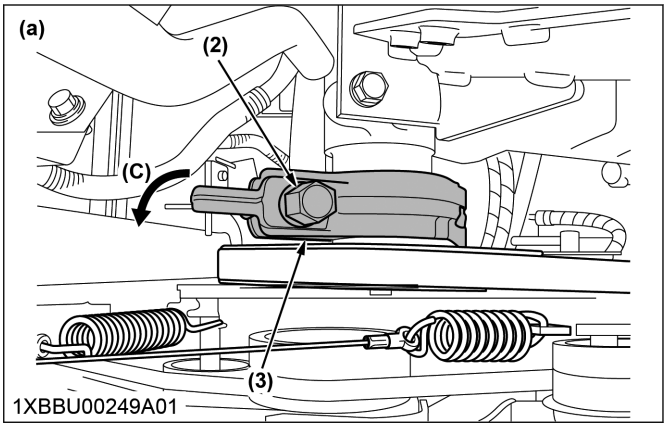
(1) 刈取フレーム
(2) 油圧シリンダ
(3) ボルト
(4) 固定ピン

18. 手動こぎ深さスイッチの**[浅]**を押してこぎ深さチェーンを“最下降”(浅こぎ側) 位置まで下げます。そのあと、メインスイッチのキーを**[切]**位置に切り換えます。

    重要：
    - **刈取部を開いたとき、こぎ深さチェーンが本機側に接触し、破損するおそれがあります。**

19. 運転席左下側の本機と刈取部を固定している右側の軸受けを前方に倒します。
    a. ボルトを取り外します。
    b. 軸受けを前方に倒します。

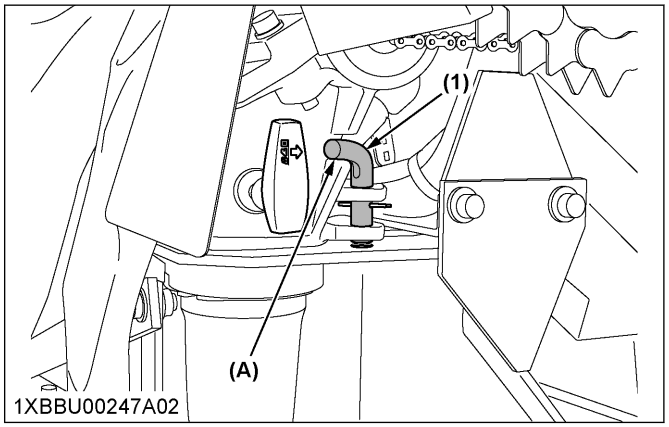




(1) 株元供給ハンプ
(2) ボルト
(3) 軸受け
(A) 運転席側
(B) 株元供給ハンプと運転席側の間から
(C) 前方に倒す

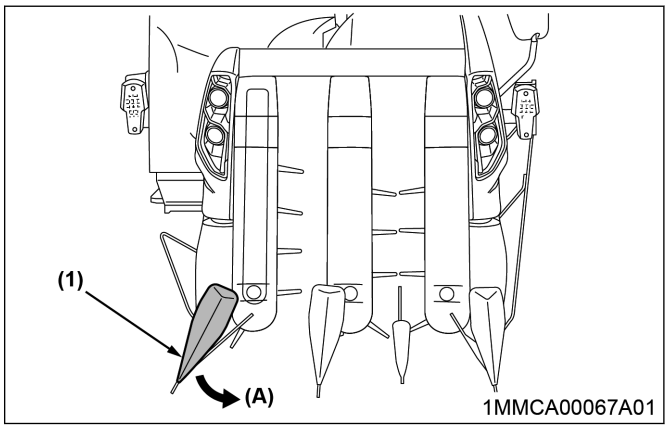
補足：
- **ボルトは、運転席左側からも取り外せますが、使用する工具については、購入先に相談してください。**

20. 刈取部を開きます。
    a. 刈取部回動ロックピンが“解除”位置にあることを確認します。



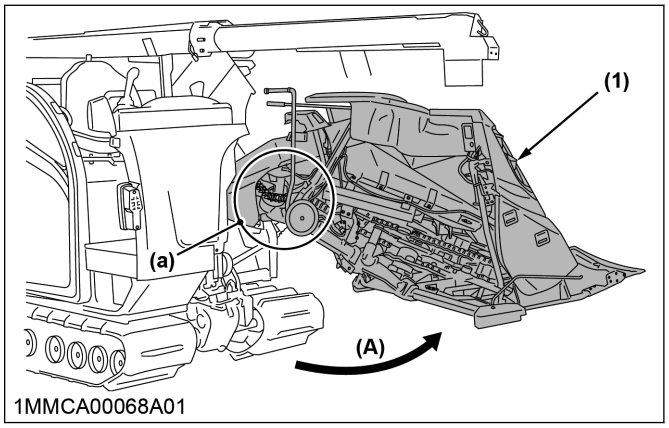
(1) 刈取部回動ロックピン　　*(A)* 解除位置

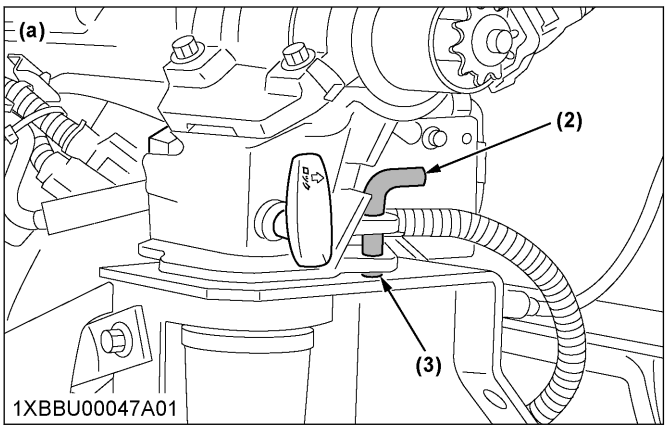
    b. 右端のデバイダを持ち、機体左側へ回動します。



(1) 右デバイダ　　*(A)* 左側へ回動

    c. 刈取部回動ロックピンが“ロック”位置の穴に差し込まれるまで回動します。

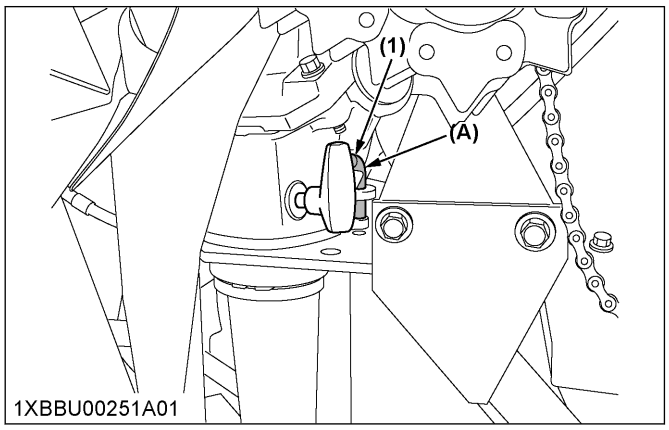




(1) 刈取部　　*(A)* 開く
(2) 刈取部回動ロックピン
(3) ロック位置の穴

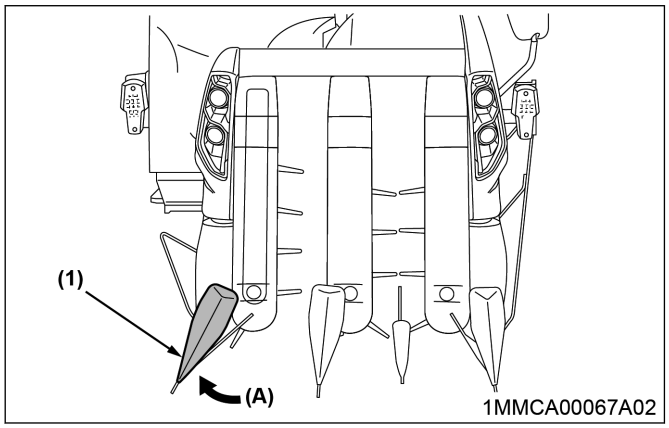
3.2 刈取部を閉じる方法

1. 刈取部を閉じます。
   a. 刈取部回動ロックピンを上げてロックを解除します。



(1) 刈取部回動ロックピン　*(A)* 解除位置

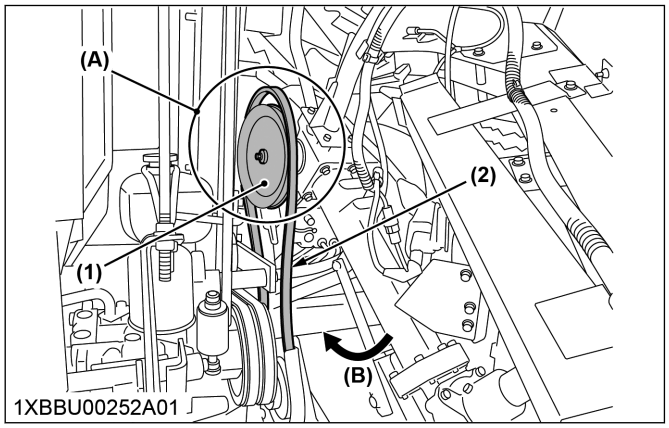
   b. 刈取部を機体右側へ、軸受けに軸が入るまで回動します。



(1) 右デバイダ　*(A)* 右側に回動

補足：

- **刈取部を閉じる前に刈取駆動ベルトをプーリに掛けながら閉じてください。**

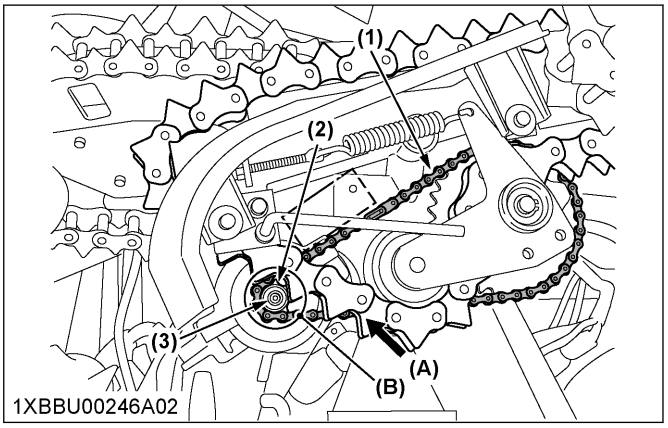


(1) プーリ
(2) 刈取駆動ベルト
(A) プーリに刈取駆動ベルトを掛ける
(B) 閉じる

重要：

- **回動ロックピンがロック状態で刈取部を回動すると、回動ロックピンが変形したり、ケースが破損するおそれがあります。**

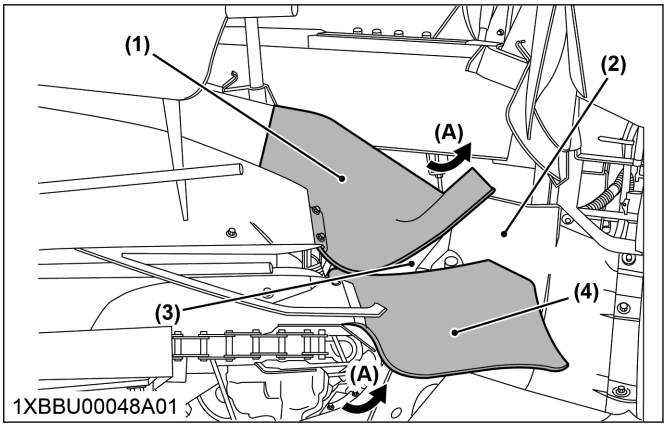
   c. 供給サポートチェーン駆動チェーンにたるみがある状態で、駆動スプロケットに供給サポートチェーン駆動チェーンを掛けてから駆動軸に取り付けます。



(1) 供給サポートチェーン駆動チェーン
(2) 駆動スプロケット
(3) 駆動軸
(A) 取り付ける
(B) 駆動軸に取り付ける前に駆動スプロケットに駆動チェーンを掛ける

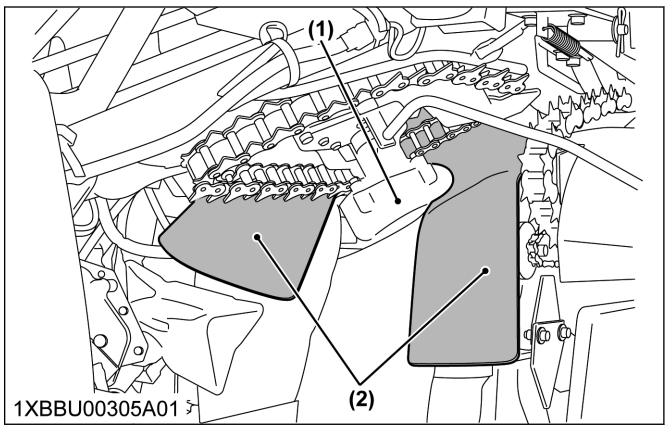
補足：

- **刈取部を完全に閉じると、駆動スプロケットの取付けが困難となるため、必ず刈取部を閉じる前に駆動スプロケットを駆動軸に取り付けてください。**
- **刈取部を閉じるとき、脱こく入口ハンプおよび株元供給ハンプが垂れ下がり脱こく入口部に挟まらないように引き出してください。また、脱こく入口ハンプの上に株元供給ハンプを重ねてください。**



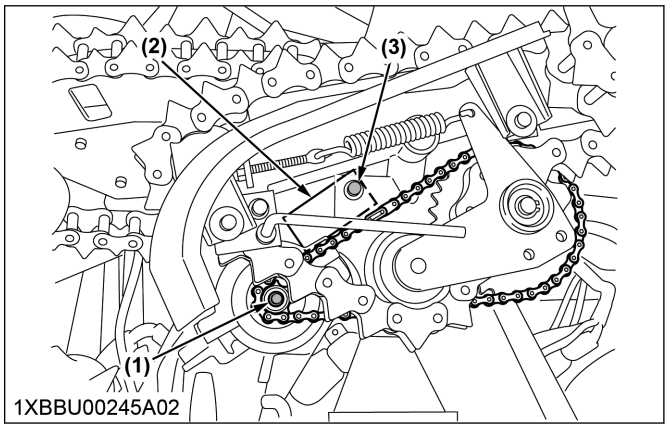
(1) 株元供給ハンプ
(2) 脱こく入口部
(3) 脱こくプレートハンプ
(4) 脱こく入口ハンプ
(A) 引き出す

- **刈取部を閉じたとき、脱こく入口プレートハンプは供給ケースを挟むようにセットしてください。正しくセットされていないとわら溜まりの原因となります。**



(1) 供給ケース　*(2)* 脱こく入口プレートハンプ

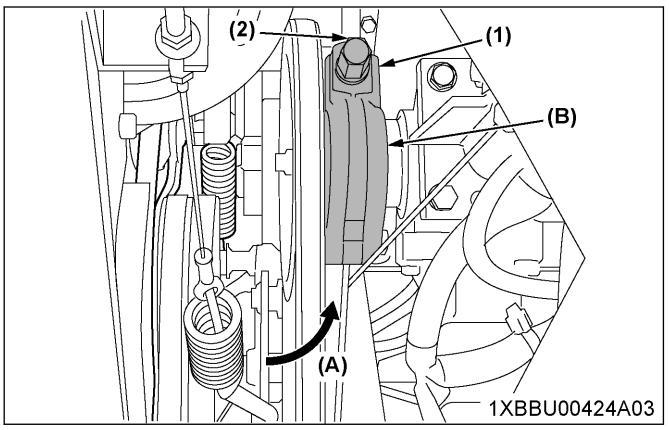
2. 各部を取り付けます。
   a. 駆動スプロケットのボルトと平座金を取り付けます。
   b. 補強ステーのボルトを取り付けて補強ステーを固定します。



(1) 駆動スプロケットのボルト、平座金　*(3)* 補強ステーのボルト
(2) 補強ステー

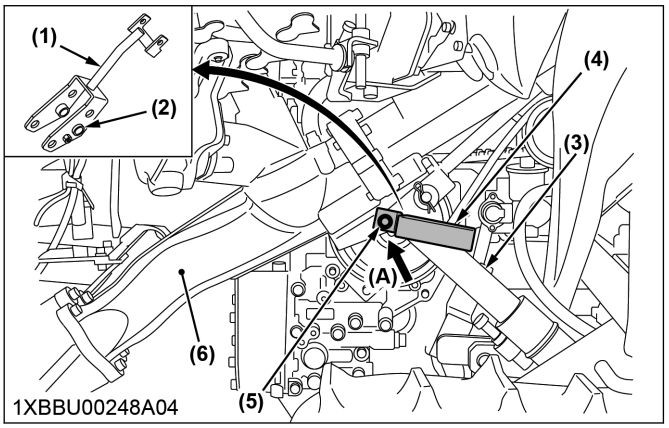
補足：
- **軸受けを上げる前に軸受けにグリースを塗布してください。**

   c. 軸受けを上げて軸を挟み込みます。
   d. ボルトを締め付けます。



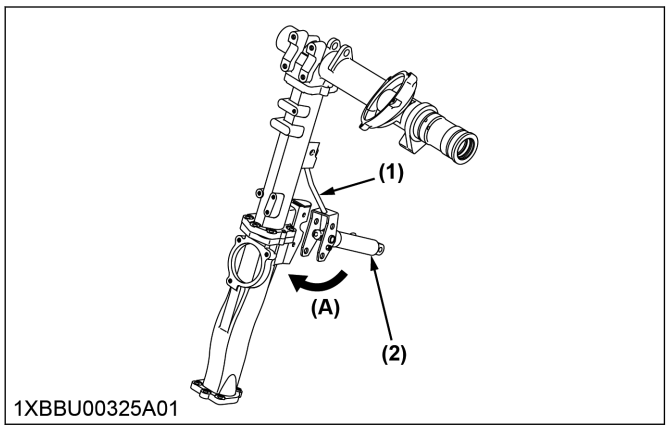
(1) 軸受け　*(A)* 上げる
(2) ボルト　*(B)* 軸を挟み込む

   e. シリンダリンクのボスに油圧シリンダの取付穴を合わせます。
   f. 固定ピンを差し込みます。
   g. ボルトを取り付けます。



(1) シリンダリンク　*(A)* 差し込む
(2) ボス
(3) 油圧シリンダ
(4) 固定ピン
(5) ボルト
(6) 刈取フレーム

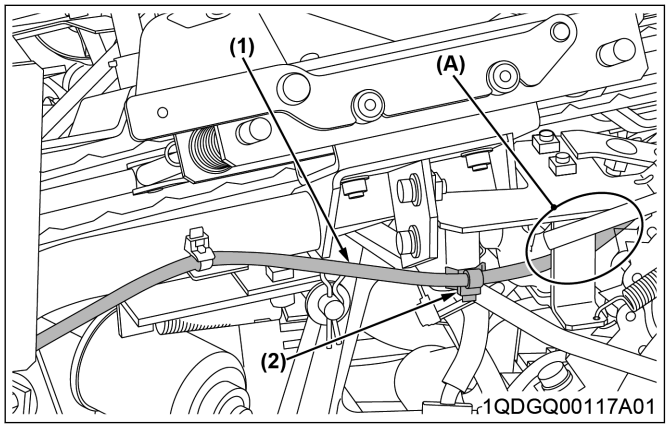
補足：
- **油圧シリンダが伸びたりして、穴位置が合わないときは、刈取部を再度開いて、油圧シリンダを最圧縮し、シリンダにシリンダリンクを取り付けてください。**



(1) シリンダリンク　　*(A)* 取り付ける
(2) 油圧シリンダ

3. 開く方法の逆の手順で各部品やカバー類を取り付けます。
（刈取部を開く方法（139 ページ）を参照）

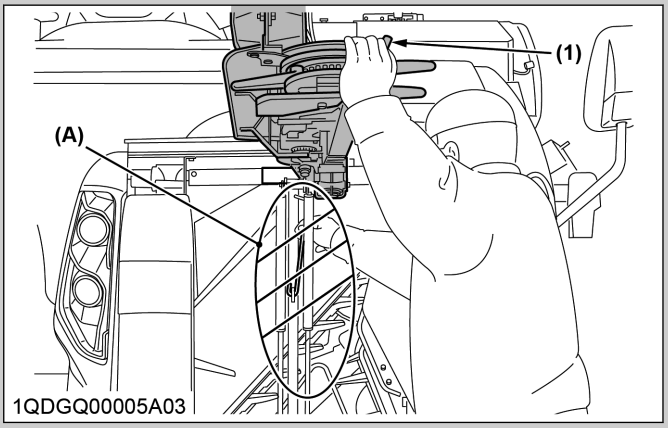
補足：
- **手こぎレバー装置のハーネスは、次図のようにステーの下を通し、ステーの横のコードクランプで固定してください。**



(1) ハーネス　　*(A)* 下を通す
(2) コードクランプ

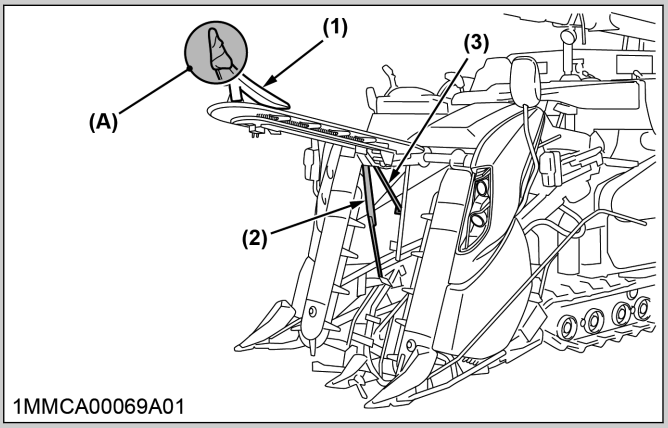
4. 引起し部の開閉

⚠ 警告
- **引起し部を開閉するときは、平たんで安全な場所で、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてから作業してください。刈取部が動くとケガするおそれがあります。**
- **傾斜地では、引起し部を開閉しないでください。**
- **引起し部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**
- **引起し部を分解した状態で開閉しないでください。開くときは、引起し部に手を添えた状態で最上昇位置まで持ち上げて固定してください。途中で手を離すと引起し部が勢い良く上がり、体に当たるとケガするおそれがあります。オプション部品のスイスイデバイダを装着している場合は特に注意してください。**
- **引起し部の開閉作業中は、引起し部の下の位置で作業をしないでください。引起し部が落下すると体が挟まれてケガをするおそれがあります。**



(1) 引起し部　　*(A)* この範囲内に入らないこと

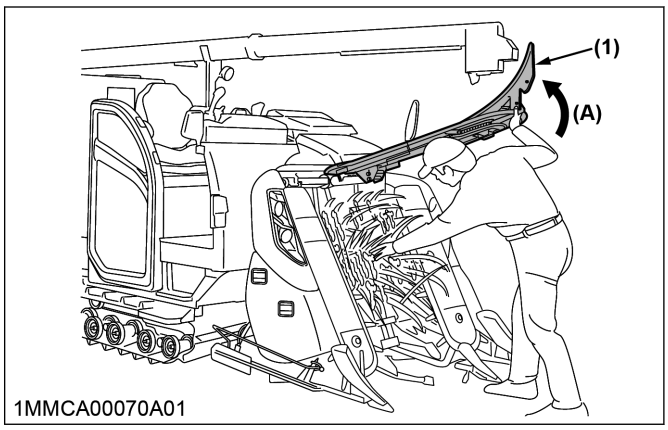
- **引起し部を開いた状態で作業するときは、デバイダ先端部に布などの厚手の物を必ず巻き付けてください。**
- **引起し部のガスダンパは、引起し部が開いた状態を保持するものではありません。引起し部を開いたときは、引起し部が落下しないようにストッパを必ず掛けてください。引起し部が落下すると体がはさまれてケガをするおそれがあります。**



(1) デバイダ　　*(A)* 布などを巻く
(2) ガスダンパ
(3) ストッパ

- **引起し部を開いた状態で走行しないでください。**

補足：
- **刈取部にわら詰まりが発生したときは、引起し部を開き、わらを取り除いてください。また、必要に応じて刈取部をメンテナンスするときに引起し部を開いてください。**



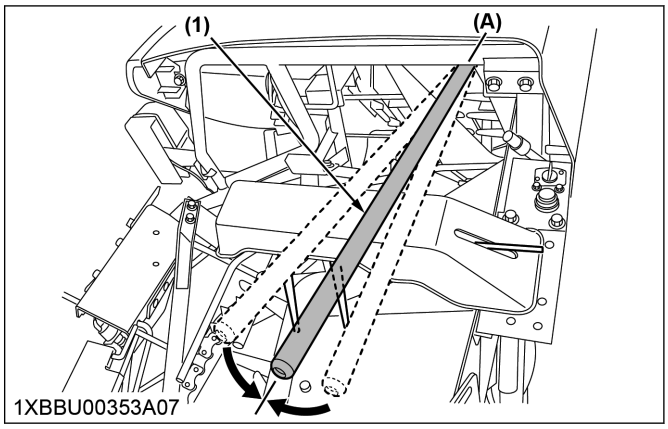
(1) 引起し部　　*(A)* 開く

4.1 引起し部を開く方法

1. 刈取部を地面から 5 cm～10 cm の高さまで降ろします。

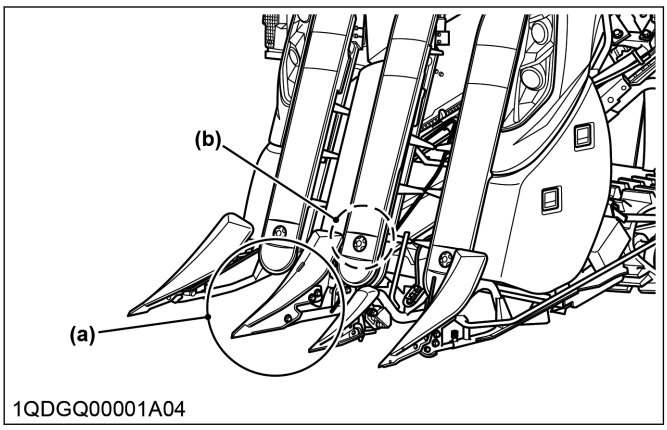
   補足：
   - **刈取部を地面に着くまで降ろすと、引起し部を開くことができません。**

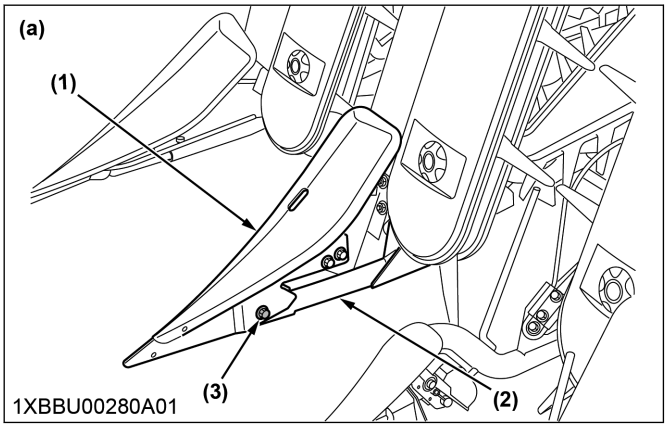
2. エンジンを停止します。
3. 引起し変速レバーを“中立”位置にします。

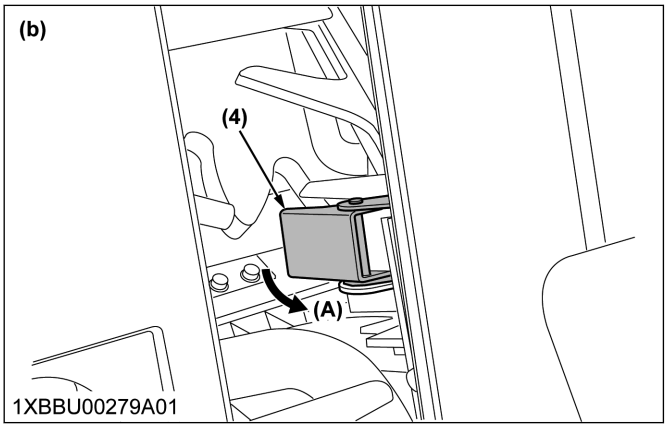


(1) 引起し変速レバー　　*(A)* 中立

4. 刈取部の中央にある引起し部のデバイダと刈取フレームを固定しているボルトを取り外したあと、クランプを解除します。
   a. ボルトを取り外します。
   b. クランプを解除します。

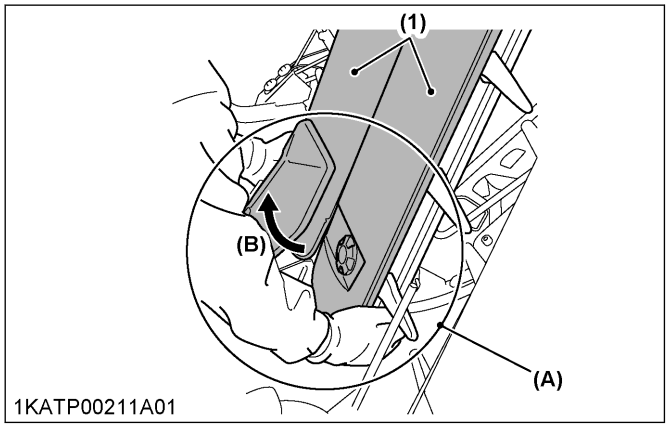






(1) デバイダ　　*(A)* 解除
(2) 刈取フレーム
(3) ボルト
(4) クランプ

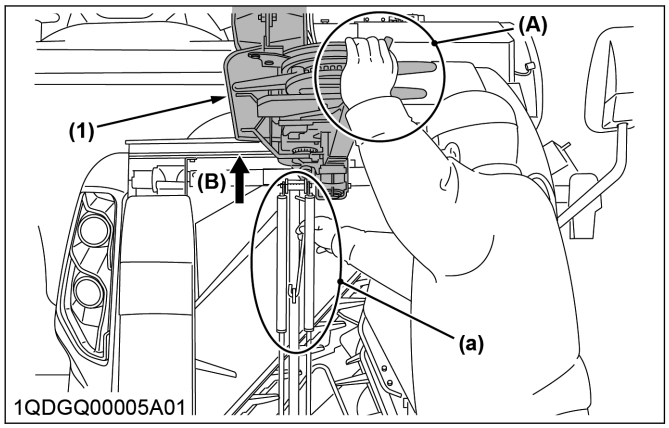
5. 引起し部を持ち上げて開きます。
   a. 引起し部の下端を両手で持ち上げて開きます。

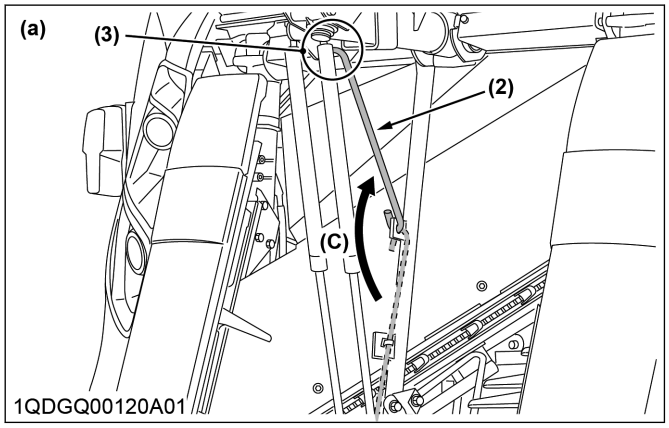


(1) 引起し部
(A) 下端を両手で持つ
(B) 持ち上げる

重要：
- **引起し部を持ち上げるとき、デバイダを持ち上げないでください。デバイダの取付部が曲がるおそれがあります。**

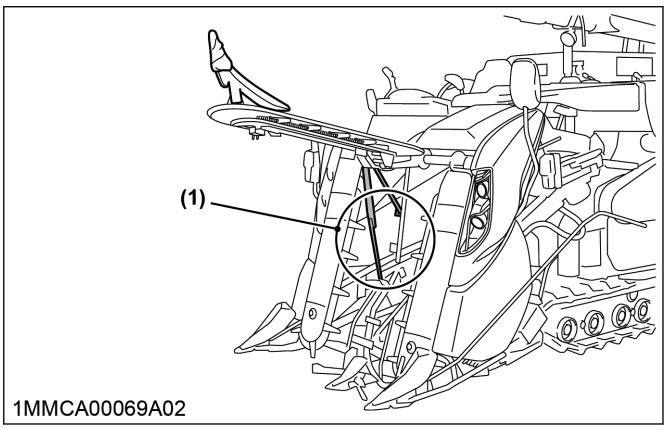
   b. 引起し部の外側の位置で引起し部を上まで持ち上げます。
   c. 引起し部落下防止のストッパを上げます。
   d. 取付穴にストッパを差し込みます。





(1) 引起し部
(2) ストッパ
(3) 取付穴
(A) 外側
(B) 持ち上げる
(C) 上げる

補足：
- **詰まったわらを取り除く、またはメンテナンスを行ってください。**



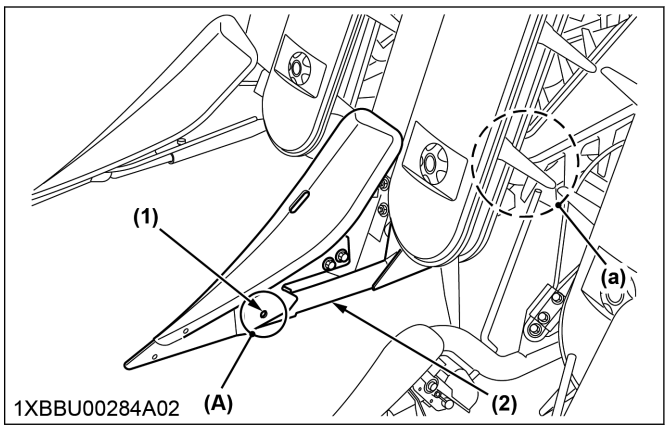
(1) 掃除、メンテナンス箇所

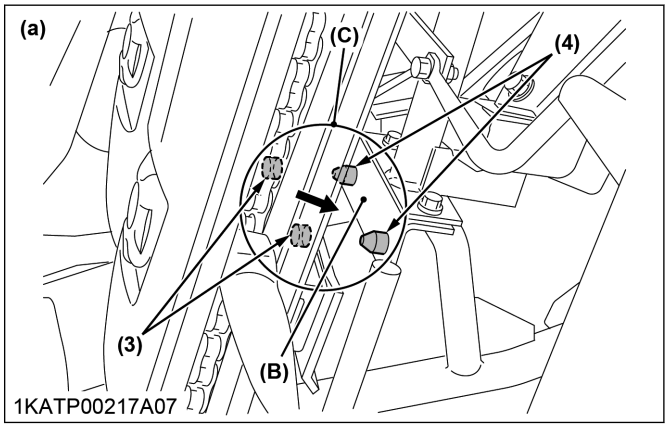
4.2 引起し部を閉じる方法

開く方法と逆の手順で引起し部を閉じてください。
（引起し部を開く方法（147 ページ）を参照）

重要：
- **引起し部を分解した状態で閉じないでください。引起しフレームの取付け部が曲がるおそれがあります。**
- **引起し部を閉じたときは、クランプとボルトで確実に引起し部と刈取フレームを固定してください。**
- **引起し部を閉じるときは、ゆっくりと閉じて最後まで手を離さないでください。勢いよく閉じると、引起し爪が刈取フレームの丸棒に接触して破損するおそれがあります。**

補足：
- **引起し部を閉じたあと、刈取フレームにデバイダをボルトで固定する際、取付穴にずれがあるときは、引起し部を受け側にきちんとセットしてください。**





(1) ボルト取付穴
(2) 刈取フレーム
(3) 穴
(4) ピン部
(A) ずれが無いことを確認
(B) 受け側
(C) 引起し部の穴を受け側のピン部に差し込む

- **引起し部を閉じたあと、引起し変速レバーを“低速”または“高速”位置にしてください。引起し変速レバーが“中立”位置の状態では刈取部が作動しません。**

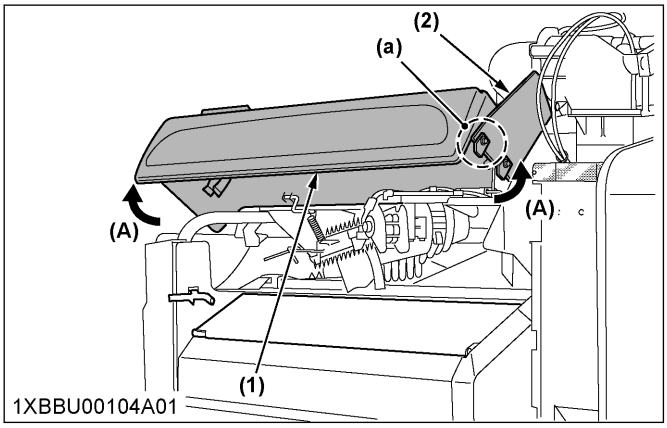
5. カッタ部の開閉

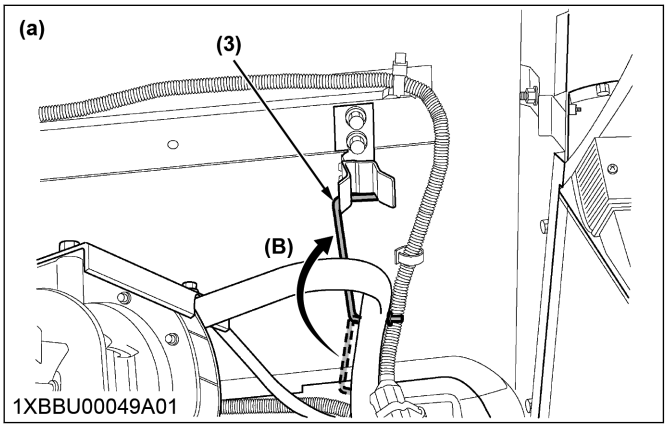
⚠ 警告

- **カッタ部を開いているときは、カッタの刃先に注意してください。**
- **平たんで安全な場所で、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてから行ってください。**
- **カッタ部を開いた状態で走行をしないでください。**
- **カッタ部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**
- **傾斜地では、カッタ部の開閉をしないでください。**
- **カッタ部を開いたときは、オープンストッパを必ず掛けてください。**
- **取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。**

5.1 カッタ部を開く方法

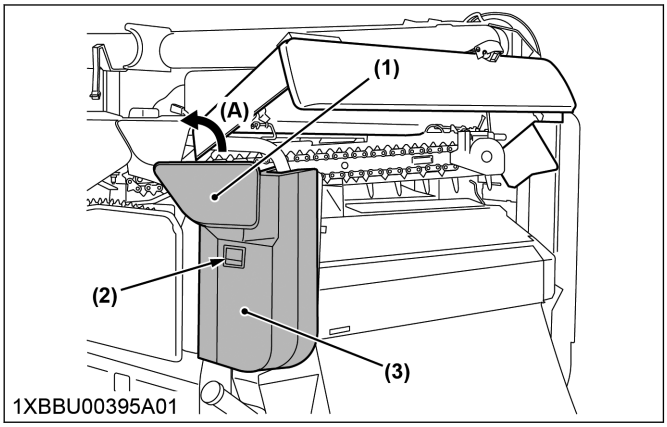
1. 排わら上部カバーを上げて、ストッパをセットしたあと、穂先カバーを上げます。
   a. 排わら上部カバーを上げます。
   b. 穂先カバーを上げます。
   c. ストッパをセットします。





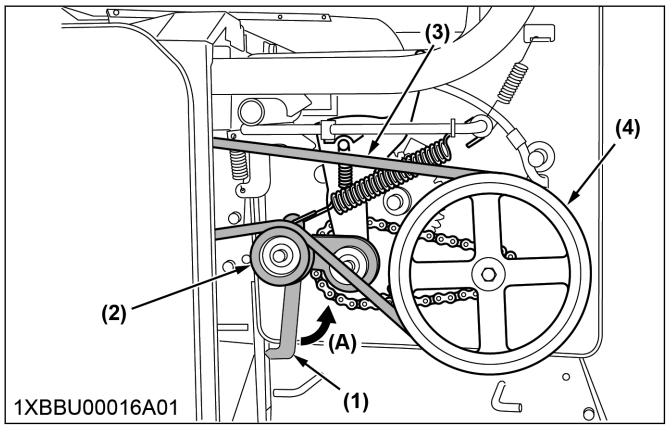
(1) 排わら上部カバー
(2) 穂先カバー
(3) ストッパ
(A) 上げる
(B) セット

2. 取手を引いてカッタ左サイドカバーを外します。
   a. 株元カバーを上げます。
   b. カッタ左サイドカバーを取り外します。



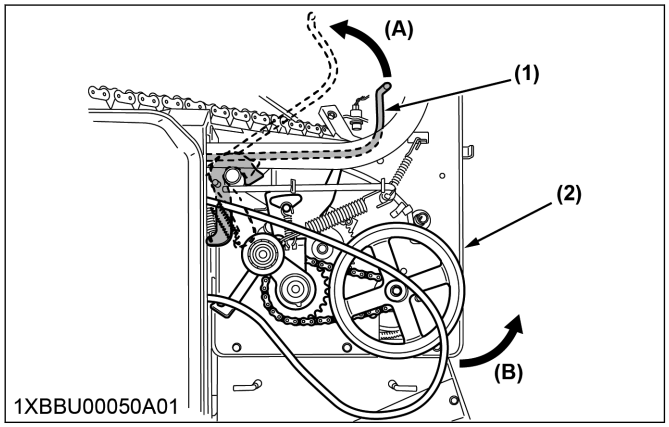
(1) 株元カバー
(2) 取手
(3) カッタ左サイドカバー
(A) 上げる

3. カッタ部を開きます。
   a. カッタテンションアームを引き、テンションローラを下げます。
   b. カッタ駆動ベルトをプーリから外します。



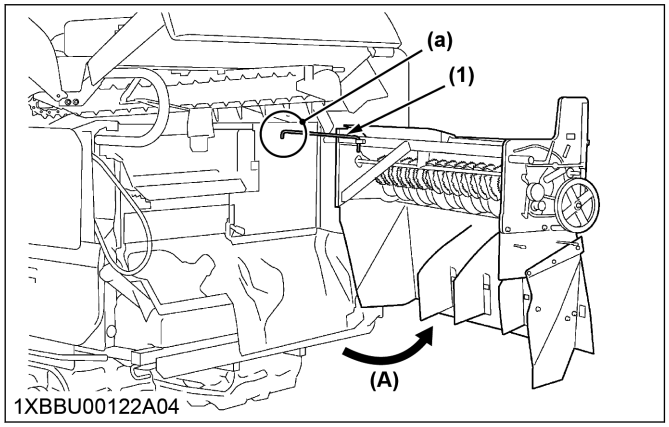
(1) カッタテンションアーム
(2) テンションローラ
(3) カッタ駆動ベルト
(4) プーリ
(A) 引く

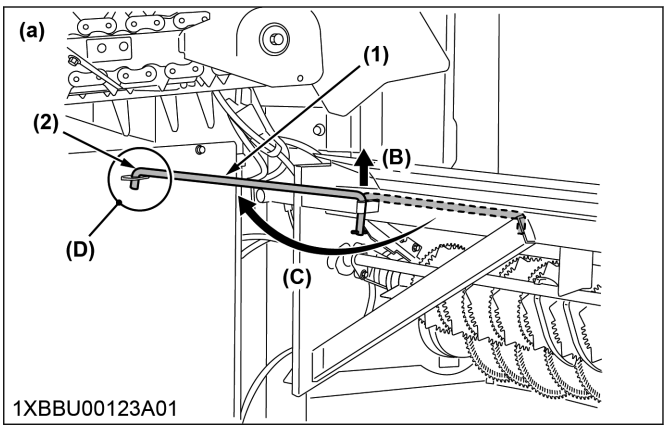
   c. オープンフックを引きながらカッタ部を開きます。



(1) オープンフック
(2) カッタ部
(A) 引く
(B) 開く

   d. オープンストッパを取付穴に差し込みます。





(1) オープンストッパ
(2) 取付穴
(A) 開く
(B) 上げる
(C) 回す
(D) 取付穴に差し込む

重要：
- **カッタ部を開きすぎないでください。開きすぎると、破損の原因となります。**

5.2 カッタ部を閉じる方法

開く方法と逆の手順でカッタ部を閉じてください。
（カッタ部を開く方法（149 ページ）を参照）

重要：
- **カッタ部を閉じたあとは、オープンフックが確実にロックされていることを確認してください。**
- **カッタ駆動ベルトはオープンフックの下側を通してください。掛け間違えると破損の原因となります。**

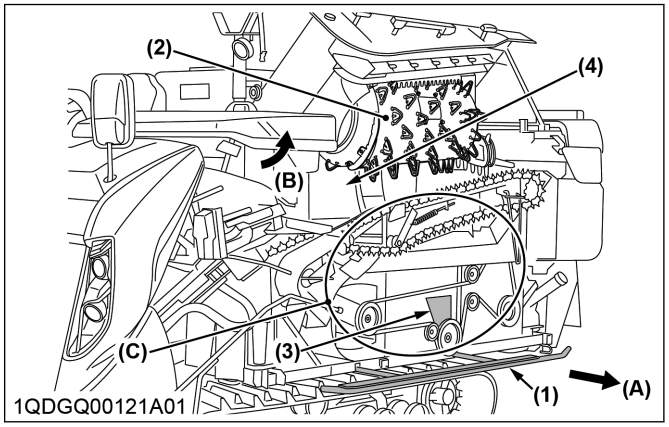
6. シーブケースの脱着

⚠ 警告
- **平たんで安全な場所で、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてから脱着を行ってください。**
- **脱着作業は、合図を掛け合って二人以上で行ってください。**
- **取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。**

6.1 シーブケースの抜出し方法

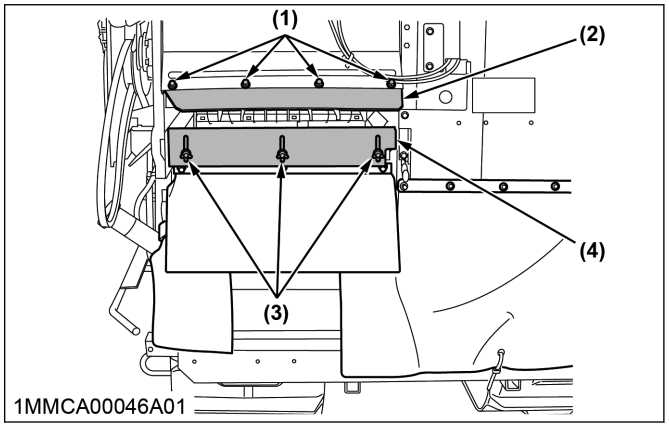
1. アンローダを上位置にセットしたあと、エンジンを停止します。
2. 補助デッキを引き出したあと、こぎ胴を開きます。
（こぎ胴の開閉（137 ページ）を参照）
3. 左サイドカバー上、下、および左サイドカバー内 1、内 2 を取り外します。
（左サイドカバー上、下の取外し方法（156 ページ）、左サイドカバー内 1、内 2、内 3 の取外し方法（156 ページ）を参照）

4. ボルトを取り外して、1 番スクリュ上部左掃除口カバーを外します。
5. 受あみを取り外します。
（受あみの脱着（153 ページ）を参照）



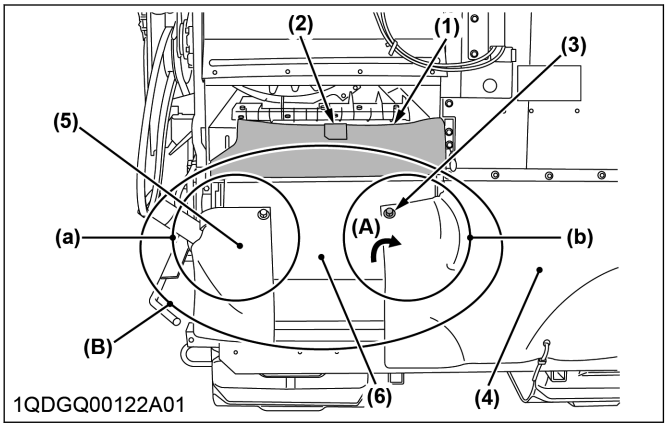
(1) 補助デッキ
(2) こぎ胴
(3) *1* 番スクリュ上部左掃除口カバー
(4) 受あみ
(A) 引き出す
(B) 開く
(C) すべての左サイドカバーを取り外す

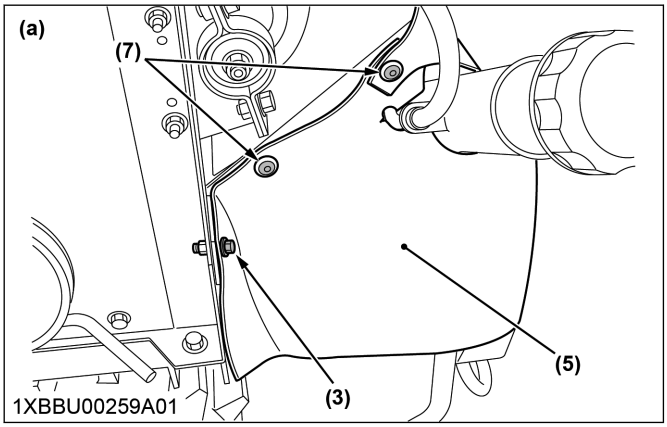
6. カッタ部を開きます。
（カッタ部の開閉（149 ページ）を参照）
7. シーブケースを引き出すために準備します。
   a. ボルトを取り外して排じんプレートを取り外します。
   b. 蝶ナットをゆるめ、排じん調整板を下げます。

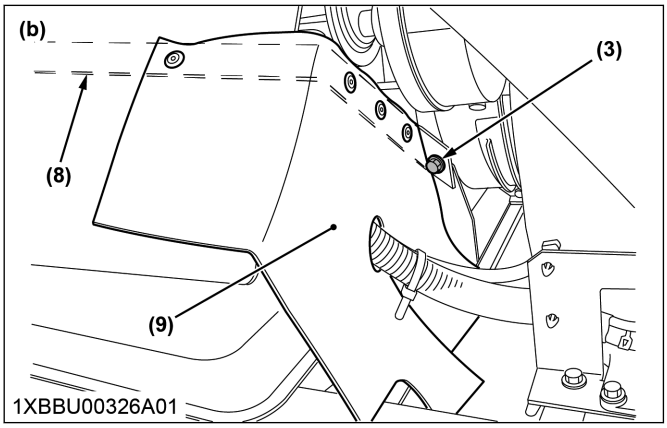


(1) ボルト
(2) 排じんプレート
(3) 蝶ナット
(4) 排じん調整板

   c. シール（後）をめくり上げガムテープなどの粘着テープで固定します。
   d. スクリューリベットを取り外します。
   e. 後カバーハンプのボルトを取り外します。
   f. 後カバーハンプをめくります。
   g. 燃料タンクハンプ左、右のボルトを取り外します。
   h. 燃料タンクハンプ左、右、およびプレート取付けフレームがプレートに取り付いている状態で、プレートを取り外します。

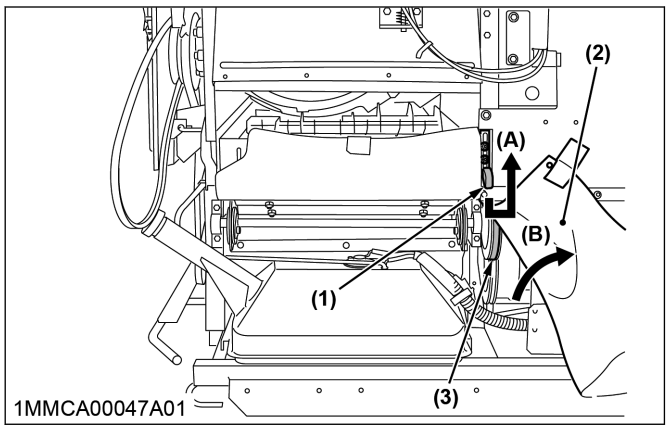






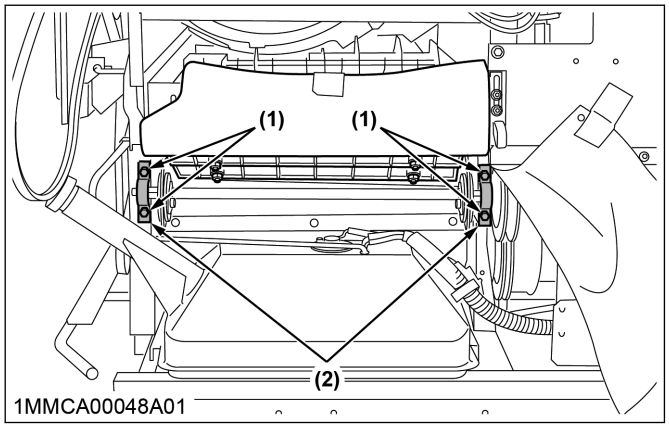
(1) シール（後）
(2) ガムテープ
(3) ボルト
(4) 後カバーハンプ
(5) 燃料タンクハンプ左
(6) プレート
(7) スクリューリベット
(8) プレート取付けフレーム
(9) 燃料タンクハンプ右
(A) めくる
(B) 燃料タンクハンプ左、右、およびプレート取付けフレームがプレートに取り付いている状態

   i. 揺動駆動ベルトテンションレバーを上げます。
   j. 後カバーハンプをめくり揺動駆動ベルトをプーリから外します。



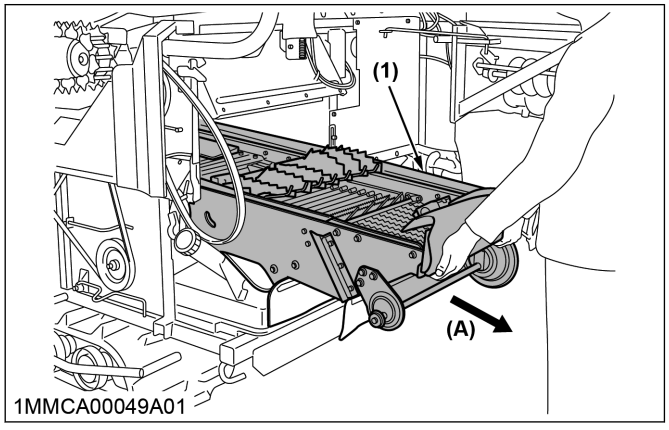
(1) 揺動駆動ベルトテンションレバー
(2) 後カバーハンプ
(3) 揺動駆動ベルト
(A) 上げる
(B) めくる

8. ボルトを取り外して左、右の揺動ブラケットを外します。



(1) ボルト
(2) 揺動ブラケット

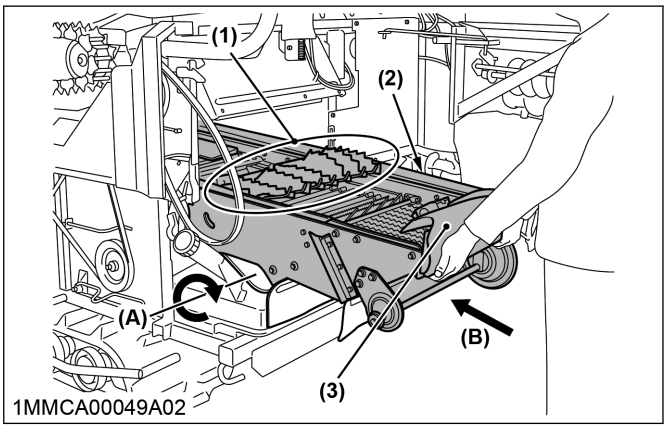
9. シーブケースを抜き出します。



(1) シーブケース
(A) 抜き出す

6.2 シーブケースの取付け方法

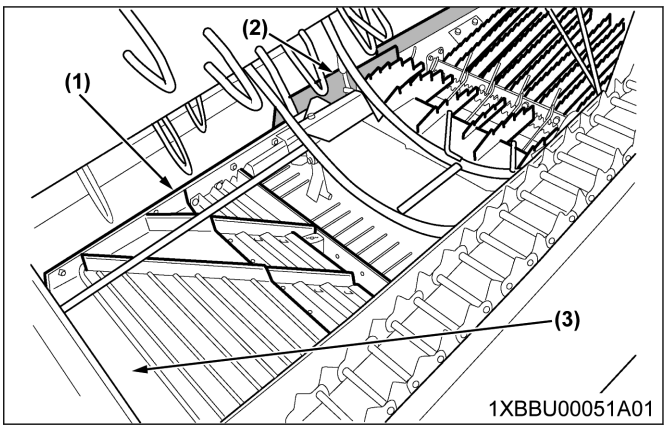
1. シーブケース後部のシール（後）をシーブケース上にめくり上げます。
2. シーブケース下側のシール（中 1）を右巻きに巻き込みます。
3. シーブケースをそう入します。



(1) ストローラック
(2) シーブケース
(3) シール（後）
(A) シール（中 *1*）を巻き込む
(B) そう入

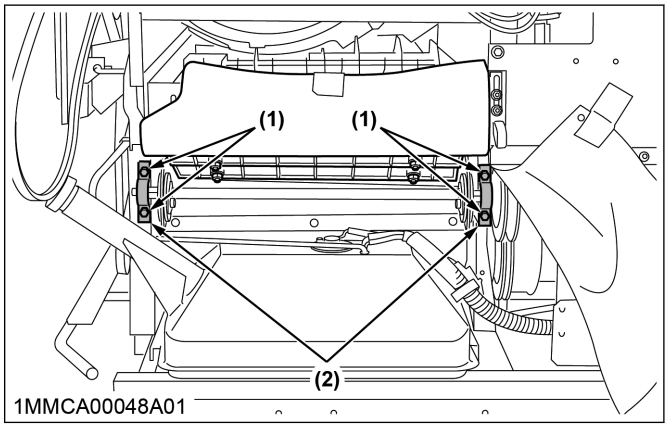
補足：
- **ストローラックの引っ掛かりに注意してください。**
- **そう入途中で、大きく上下動させないでくだ さい。**

4. そう入したあと、シーブケースの左、右および前にあるシール（サイド）およびシール（前）が下向きに折れ曲がっているときは、シーブケースを前、後に動かして、シール（サイド）およびシール（前）の先端を上向きにセットします。



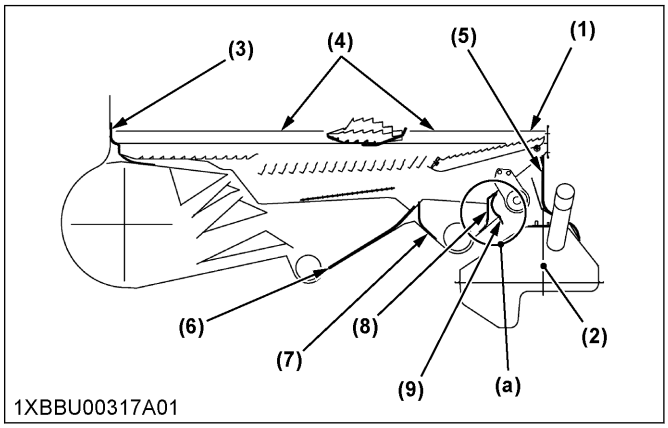
(1) シーブケース
(2) シール（サイド）
(3) シール（前）

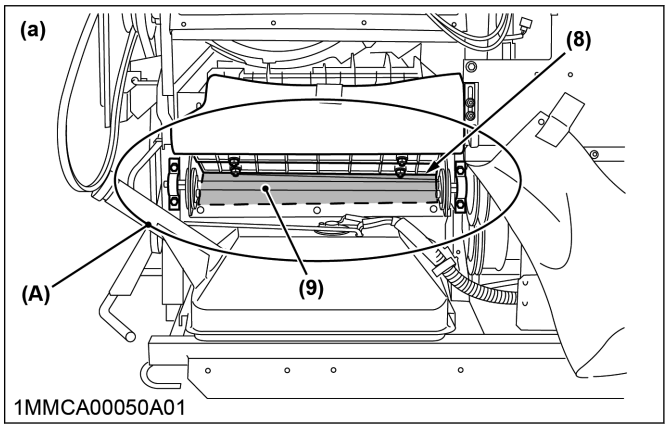
5. 左、右の揺動ブラケットをボルトで取り付けます。



(1) ボルト　　*(2)* 揺動ブラケット

6. シール各部を次図のような位置と向きにセットします。
   シール（2 番）をシール（中 3）の後方に引き出してセットしてください。

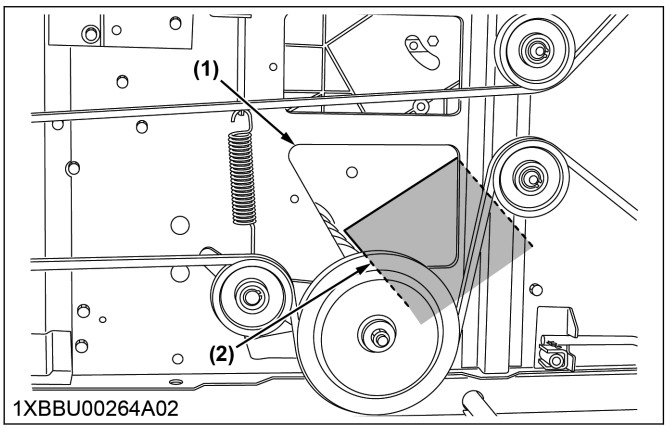




(1) シーブケース
(2) 燃料タンク
(3) シール（前）
(4) シール（サイド）
(5) シール（後）
(6) シール（中 *1*）
(7) シール（中 *2*）
(8) シール（中 *3*）
(9) シール（*2* 番）
(A) シール（*2* 番）はシール（中 *3*）の後方

補足：

- **シール（中 1）は、1 番スクリュ上部掃除口より手を入れて次図のようにセットします。**



(1) *1* 番スクリュ上部左掃除口　　*(2)* シール（中 *1*）

7. 揺動駆動ベルトをプーリに取り付けたあと、揺動駆動ベルトテンションレバーを下げてフック部に掛けます。
8. 燃料タンクハンプ左、右およびプレート取付けステーを取り付け、後カバーハンプと共締め状態でボルトを取り付けます。
9. 燃料タンクハンプ左のスクリューリベットを取り付けます。
10. シール（後）をセットし、排じん調整板を作業位置に調整します。
    （排じん調整板の調整（125 ページ）を参照）
11. 排じんプレートを取り付け、カッタを閉じます。
12. 受あみを取り付けます。
13. 1 番スクリュ上部左掃除口カバーを取り付けます。
14. 左サイドカバー内 1、2 を取り付けたあと、左サイドカバー上、下を取り付けます。
15. カッタ左サイドカバーを取り付けます
16. こぎ胴を閉じて補助デッキを収納します。
17. アンローダを収納します。

7. 受あみの脱着

補足：

- **受あみの脱着が困難なときは、付属部品の受あみ脱着金具を使用してください。**

抜出し方法

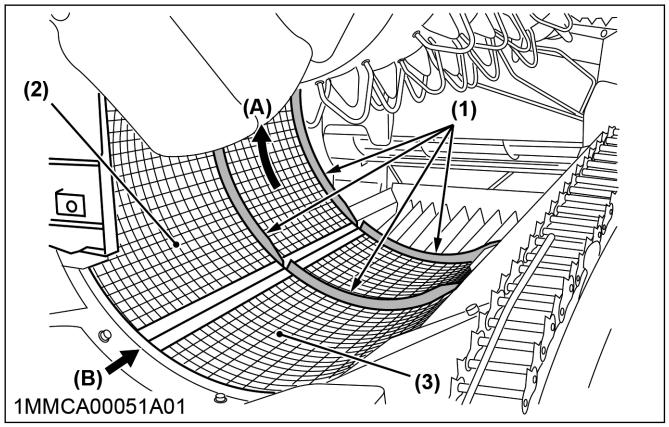
1. 補助デッキを引き出します。

   重要：

   - **補助デッキの上に乗って作業を行うとき、パイプ部の上に乗ると変形するおそれがあるため必ず板の部分に乗ってください。**

2. こぎ胴を開きます。
   （こぎ胴の開閉（137 ページ）を参照）
3. 受あみ 1 の（上）、（下）を外します。
   a. 弓金を持ち上げます。

b. 弓金を手前に引いて受あみ 1（上）を取り外します。
c. 受あみ 1（下）を取り外します。



(1) 弓金
(2) 受あみ *1*（上）
(3) 受あみ *1*（下）
(A) 持ち上げる
(B) すき間が無いこと

取付け方法

1. 抜出し方法と逆の手順で受あみ（下）、（上）それぞれを取り付けます。

重要：

- **取り付けたときに受あみ（上）、（下）の間にすき間があったり、受あみ（上）、（下）を逆に組み付けると、脱こく部の故障の原因となります。**
- **受あみが確実に取り付いていることを確認してください。**

2. こぎ胴を閉じます。
3. 補助デッキを収納します。

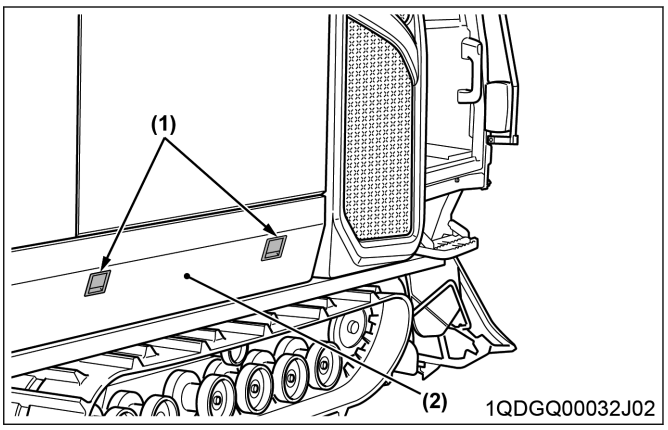
8. 受あみ脱着金具の使用方法

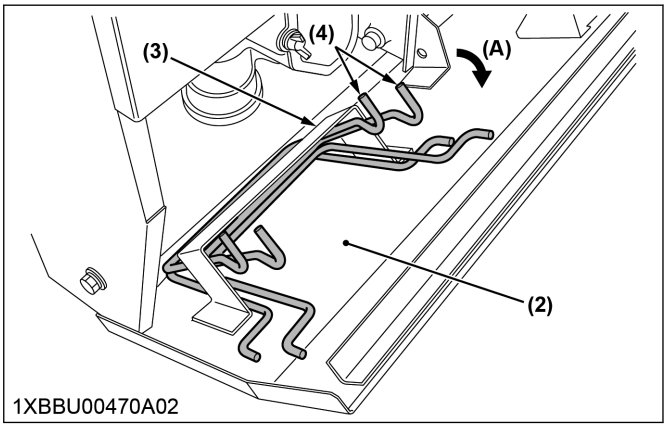
⚠ 警告

- **受あみを取り外すときは、受あみ脱着金具を強く握ってください。足元に受あみが落下しケガをするおそれがあります。**

8.1 受あみ脱着金具の保管について

1. 付属部品箱から受あみ脱着金具 2 本を取り出します。
2. 取手を引いてグレンタンク下カバーを倒し、グレンタンク下カバー裏側にある受あみ脱着金具の収納ラックに収納します。





(1) 取手
(2) グレンタンク下カバー
(3) 収納ラック
(4) 受あみ脱着金具
(A) 倒す

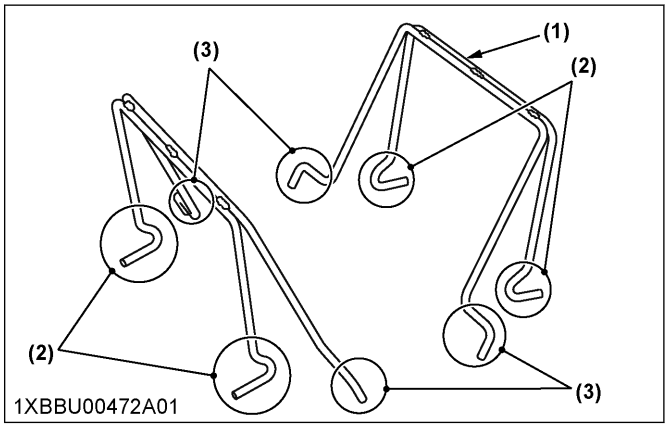
補足：

- **受あみ脱着金具を収納するとき、2 本を重ねて収納ラックに収納してください。**
- **トラック輸送時など、グレンタンク下カバーが脱落したとき、受あみ脱着金具が落下するおそれがあるため、受あみ脱着金具は必ずグレンタンク下カバーから取り外しておいてください。**

8.2 受あみ脱着金具を使用した受あみの脱着

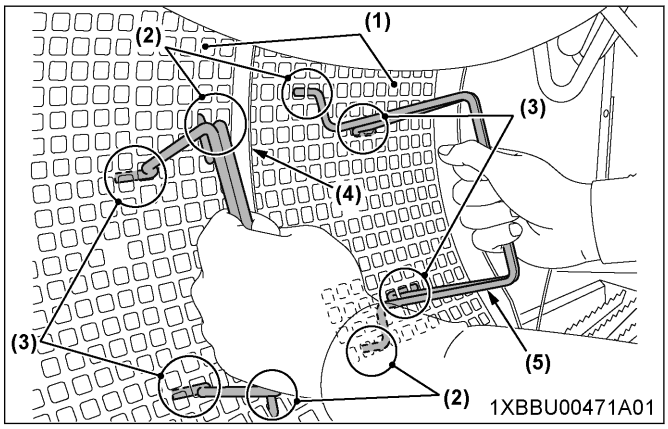
1. グレンタンク下カバーから受あみ脱着金具 2 本を取り外します。

2. 弓金を中心に受あみ脱着金具のフック部を受あみの穴にそれぞれフックします。



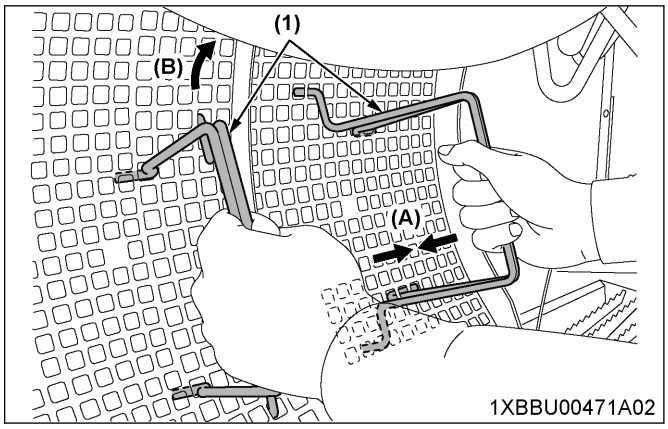
(1) 受あみ脱着金具
(2) フック部
(3) 固定部

3. 受あみ脱着金具を、次図のように固定部を受あみ（上）に差し込み、2 本の受あみ脱着金具を両手でしっかりと握ります。



(1) 受あみ（上）
(2) 固定部
(3) フック部
(4) 弓金
(5) 受あみ脱着金具

4. 両手で受あみ脱着金具の内方向に力を加えながら受あみ（上）を持ち上げ、受あみ脱着金具を手前に引いてゆっくり受あみ（上）を取り外します。



(1) 受あみ脱着金具
(A) 内側に力を入れる
(B) 上げる

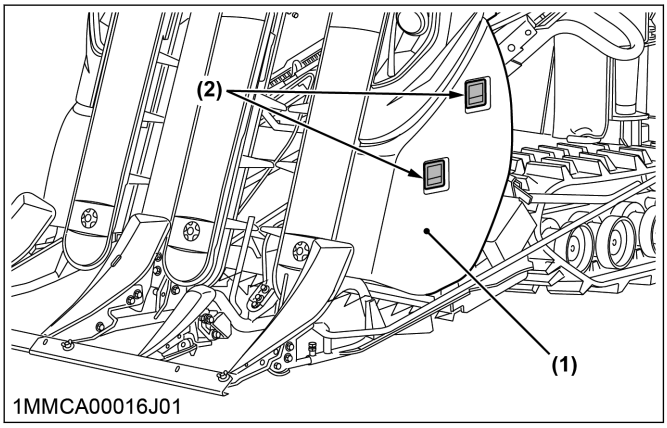
5. 受あみ（上）と同じ要領で受あみ（下）の取外しおよび取付けの作業を行います。

9. 引起しサイドカバーの脱着

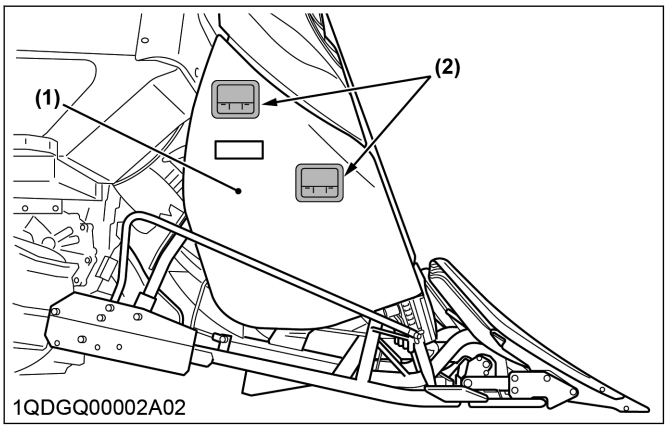
刈取部を地面まで降ろして行ってください。

9.1 引起しサイドカバーの取外し方法

1. 取手を引いて引起しサイドカバーを取り外します。



(1) 引起しサイドカバー左
(2) 取手



(1) 引起しサイドカバー右
(2) 取手

9.2 引起しサイドカバーの取付け方法

1. 引起し爪をすべて上側に倒します。
2. 引起しサイドカバーを取り付けます。

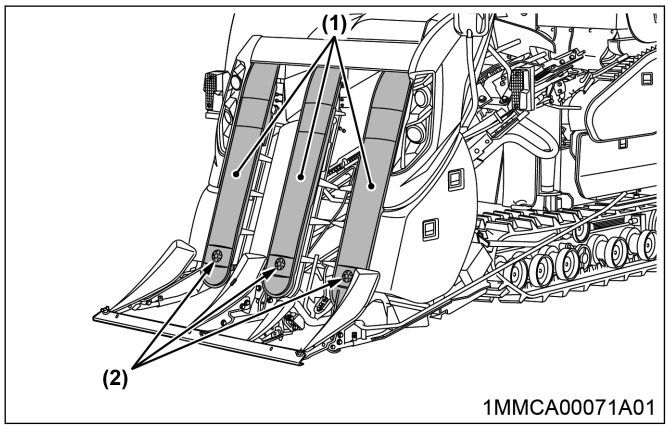
10. 引起しカバーの脱着

刈取部を地面まで降ろして行ってください。

10.1 引起しカバーの取外し方法

1. ノブボルトを外します。

2. 引起しカバーを少し持ち上げて取り外します。

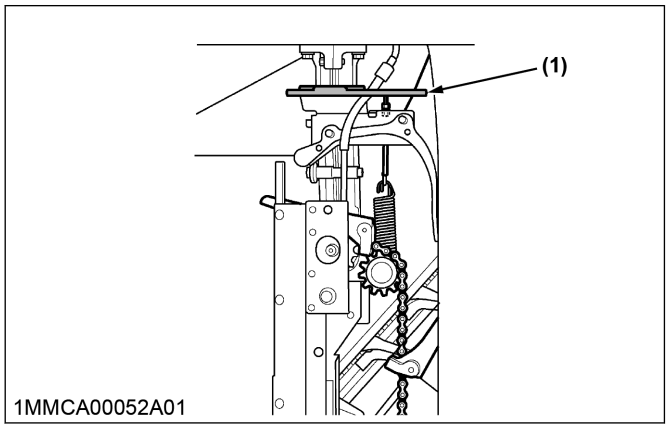


(1) 引起しカバー　　*(2)* ノブボルト

10.2 引起しカバーの取付け方法

1. 引起しカバーを取り付けて、ノブボルトを締め付けてロックします。

補足：
- **引起しカバーを取り付けるとき、上部にある取付金具に引っ掛けてください。**



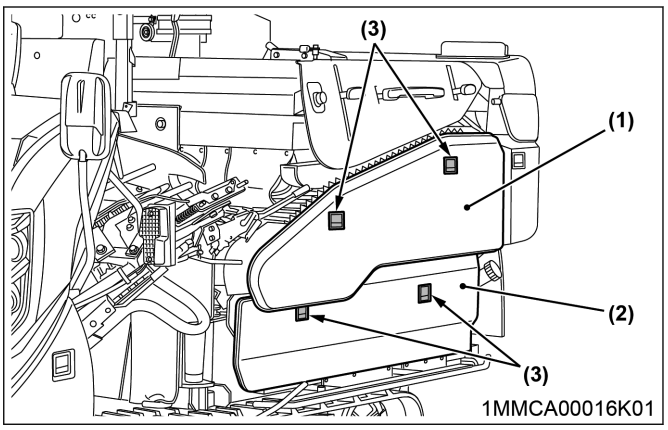
(1) 取付金具

11. 左サイドカバーの脱着

11.1 左サイドカバーの取外し方法

11.1.1 左サイドカバー上、下の取外し方法

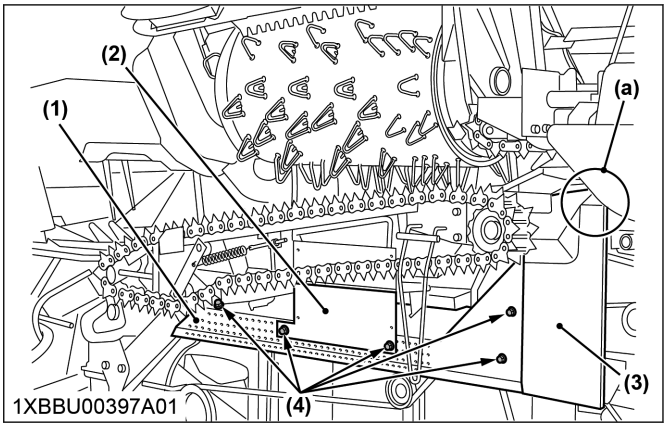
1. それぞれ取手を引いて取り外します。

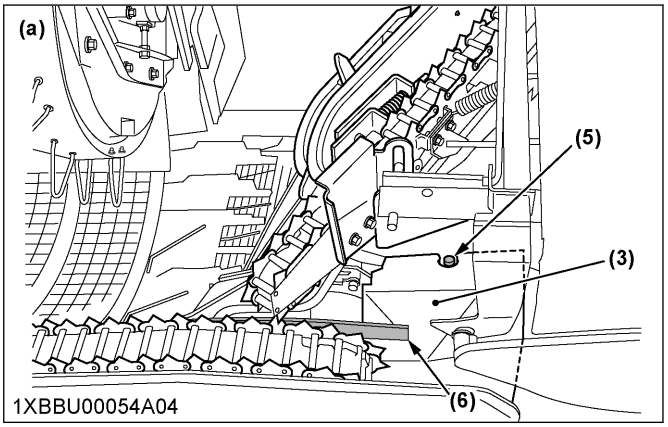


(1) 左サイドカバー上　　*(3)* 取手
(2) 左サイドカバー下

11.1.2 左サイドカバー内 1、内 2、内 3 の取外し方法

1. ボルトまたはナットを取り外して左サイドカバー内 1、内 3 を外します。
2. ボルトを取り外して左サイドカバー内 2 を外します。





(1) 左サイドカバー内 *1*　　*(5)* ボルト
(2) 左サイドカバー内 *3*　　*(6)* ステー
(3) 左サイドカバー内 *2*
(4) ボルト、ナット

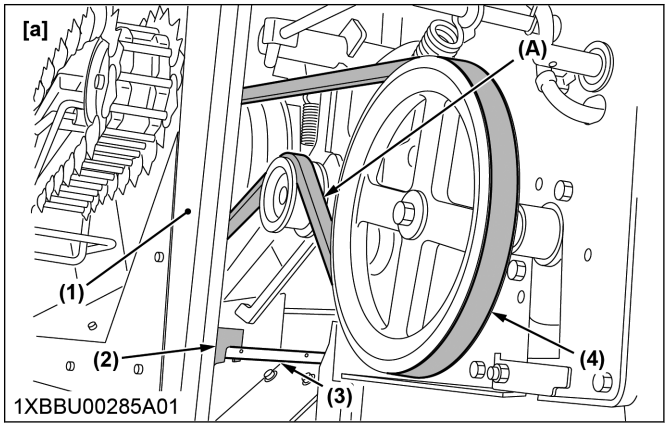
補足：
- **ステーの引掛かりに注意してください。**

11.2 左サイドカバーの取付け方法

取外し方法の逆の手順で各左サイドカバーを取り付けてください。
（左サイドカバー上、下の取外し方法（156 ページ）、左サイドカバー内 1、内 2、内 3 の取外し方法（156 ページ）を参照）

補足：

- **左サイドカバー内 2 を取り付けるとき、内側の取付けフックを掛け金具に掛けてください。**
  このとき、カッタ駆動ベルトの下側は、取付けフックの上側を通してください。

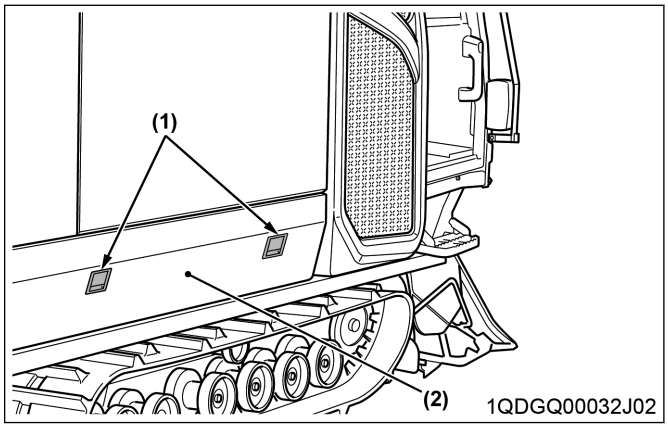


(1) 左サイドカバー内 *2*
(2) 取付けフック
(3) 掛け金具
(4) カッタ駆動ベルト
(A) 取付けフックの上側を通す
[a] イラストはカッタ駆動ベルトセット状態

12. グレンタンク下カバーの脱着

12.1 グレンタンク下カバーの取外し方法

1. 取手を引いてグレンタンク下カバーを取り外します。



(1) 取手
(2) グレンタンク下カバー

12.2 グレンタンク下カバーの取付け方法

取外し方法と逆の手順でグレンタンク下カバーを取り付けます。
（グレンタンク下カバーの取外し方法（157 ページ）を参照）

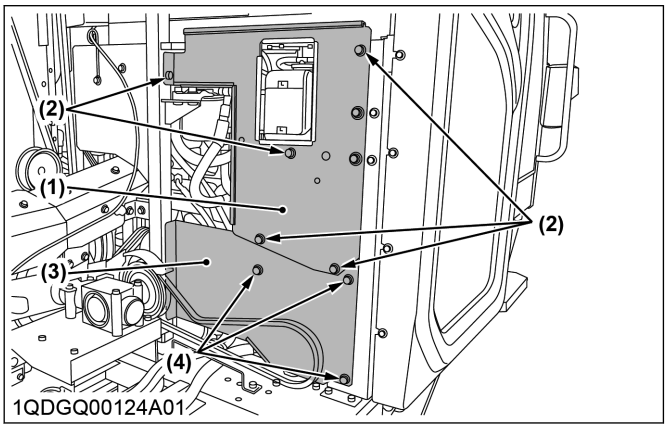
13. 運転席後カバー 1、2 の脱着

⚠ 警告

- **グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**
- **傾斜地では、グレンタンクの開閉を行わないでください。**

13.1 運転席後カバー 1、2 の取外し方法

1. グレンタンクを開きます。
   （グレンタンクの開閉（158 ページ）を参照）
2. ボルトを取り外して、運転席後カバー 1 を外します。
3. ボルトを取り外して、運転席後カバー 2 を外します。



(1) 運転席後カバー *1*
(2) ボルト
(3) 運転席後カバー *2*
(4) ボルト

13.2 運転席後カバー 1、2 の取付け方法

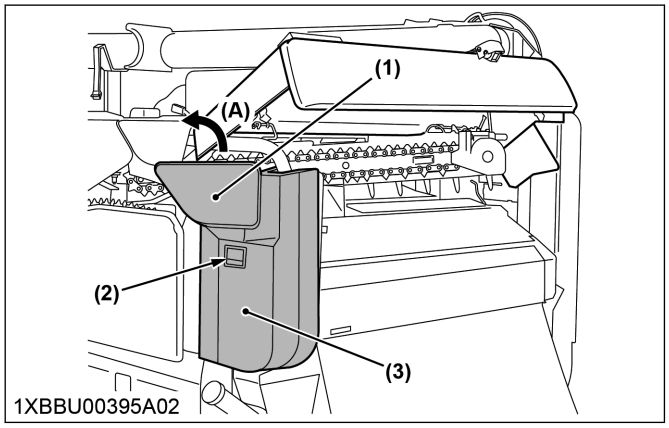
1. 取外し方法の逆の手順で運転席後カバー 1、2 を取り付けます。
   （運転席後カバー 1、2 の取外し方法（157 ページ）を参照）
2. グレンタンクを閉じます。

14. カッタ左サイドカバーの脱着

14.1 カッタ左サイドカバーの取外し方法

1. 株元カバーを上げます。

2. 取手を引き、カッタ左サイドカバーを取り外します。



(1) 株元カバー　　*(A)* 上げる
(2) 取手
(3) カッタ左サイドカバー

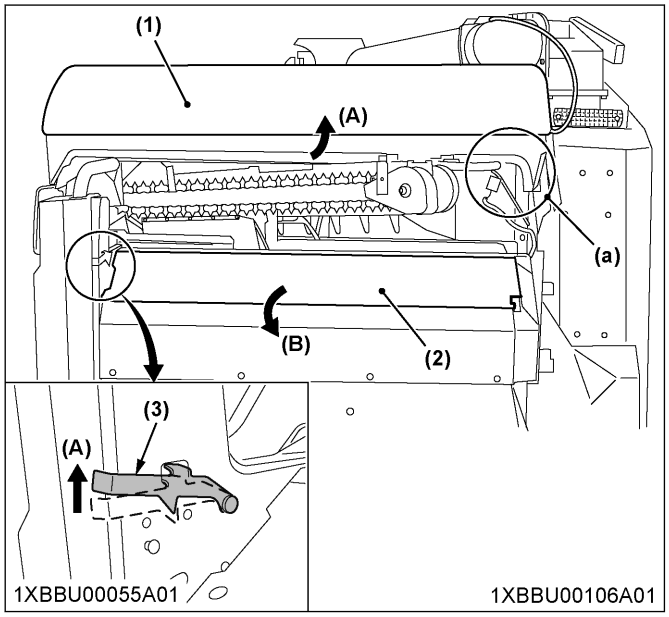
14.2 カッタ左サイドカバーの取付け方法

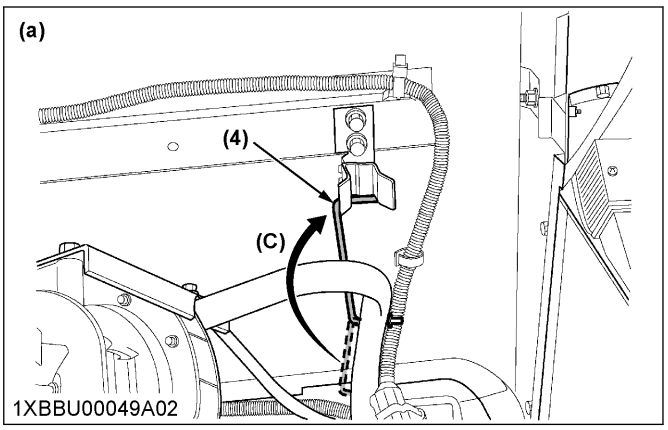
取外し方法と逆の手順でカッタ左サイドカバーを取り付けます。
(カッタ左サイドカバーの取外し方法（157 ページ）を参照)

15. カッタ切換えカバーの開閉

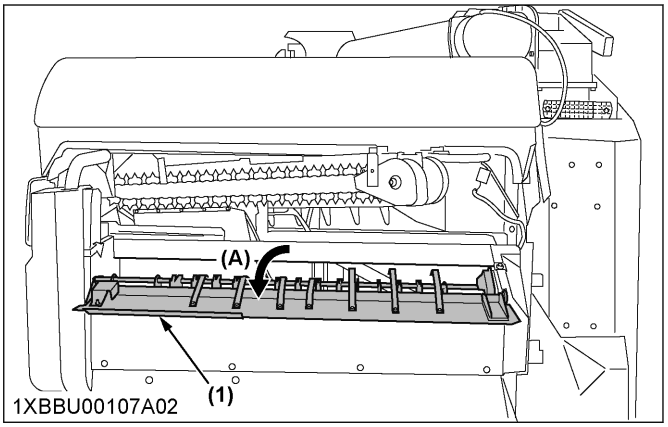
15.1 カッタ切換えカバーを開く方法

1. 排わら上部カバーを上げます。
2. カバーステーをセットします。
3. カッタ切換えカバーを後方へ引きながらロックレバーを上げて開きます。





(1) 排わら上部カバー　　*(A)* 上げる
(2) カッタ切換えカバー　　*(B)* 引く
(3) ロックレバー　　*(C)* セットする
(4) カバーステー



(1) カッタ切換えカバー　　*(A)* 開く

15.2 カッタ切換えカバーを閉じる方法

1. カッタ切換えカバーを閉じます。
2. ロックレバーで確実にロックします。

補足：
- **カッタ切換えカバーを開けたままでは、エンジンを始動しても次のように脱こくクラッチを“入”にセットするとエンジンが止まります。**
  – 作業レバーを[刈取切]または[入]位置
  点検、掃除後は、必ずロックレバーを引きながらカッタ切換えカバーを閉め、ロックレバーを確実にロックしてください。

16. グレンタンクの開閉

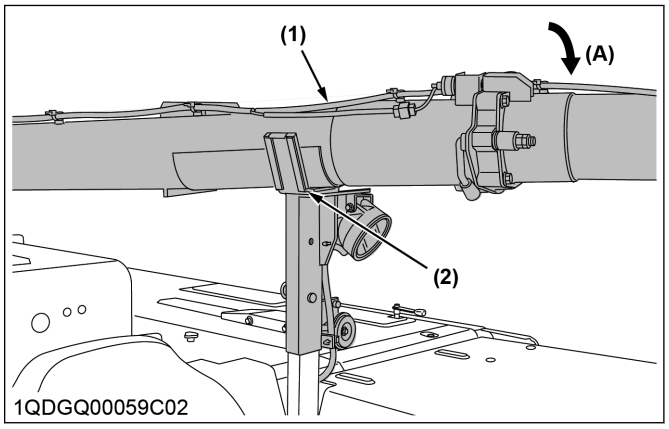
⚠ 警告
- **平たんで安全な場所で、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてから作業してください。**
- **グレンタンクを開いた状態で走行しないでください。**
- **グレンタンクの開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**

- **傾斜地では、グレンタンクの開閉を行わないでください。**
- **グレンタンク部を開いたときは、グレンタンク部が閉じないようにストッパを必ず掛けてください。グレンタンク部が閉じると体が挟まれてケガするおそれがあります。**
- **取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。**

重要：
- **カッタ部が開いているときは、グレンタンクを開けないでください。グレンタンク後カバーと接触し、破損するおそれがあります。**

16.1 グレンタンクを開く方法

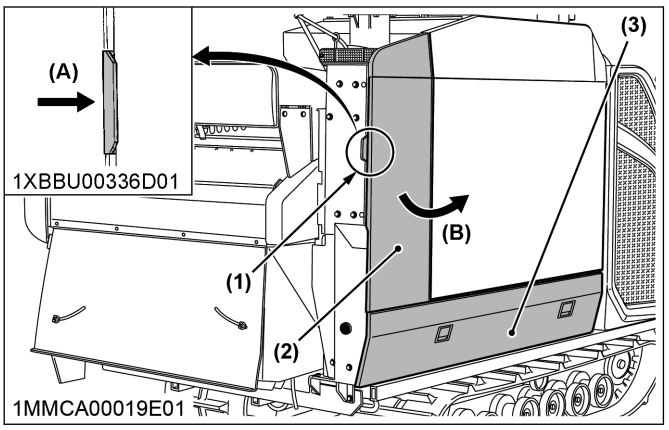
1. グレンタンク内に残っているもみは、すべて排出します。
   （もみの排出のしかた（114 ページ）を参照）
2. 主変速レバーを**[停止]**位置にします。
3. 作業レバーを**[切]**位置にします。
4. アンローダをアンローダ受けに収納し、エンジンを停止します。



(1) アンローダ
(2) アンローダ受け
(A) 収納

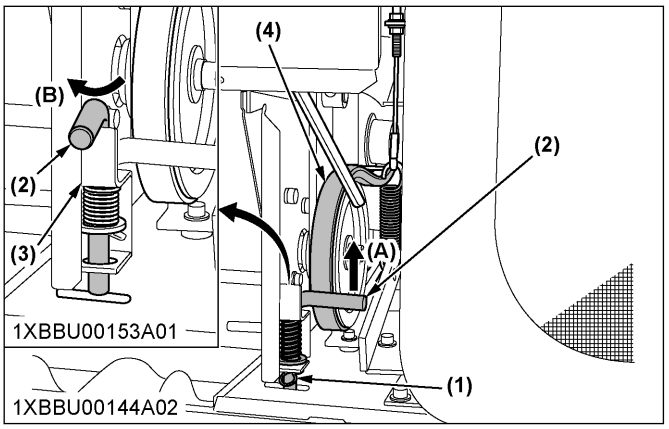
重要：
- **グレンタンクの開閉を行うときは、アンローダを必ず収納位置にしてください。**

5. グレンタンクを開きます。
   a. 開閉レバーを強く押します。
   b. グレンタンク後部カバーを開きます。
   c. グレンタンク下カバーを取り外します。



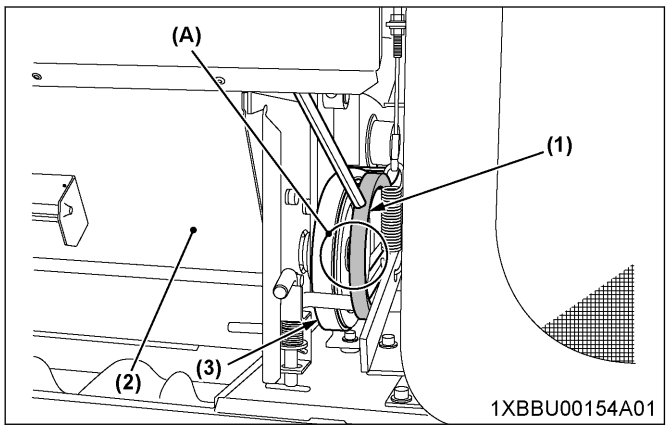
(1) 開閉レバー
(2) グレンタンク後部カバー
(3) グレンタンク下カバー
(A) 押す
(B) 開く

   d. スナップピンを抜きます。
   e. タンク固定ピンを引きます。
   f. タンク固定ピンを金具に掛けます。
   g. スクリュ駆動ベルトを外します。



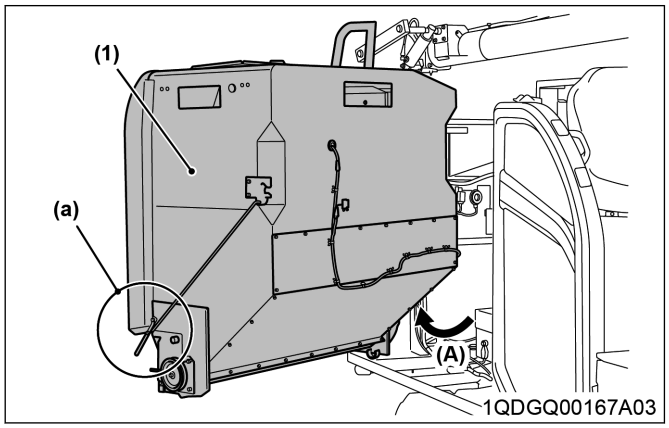
(1) スナップピン
(2) タンク固定ピン
(3) 金具
(4) スクリュ駆動ベルト
(A) 引く
(B) 掛ける

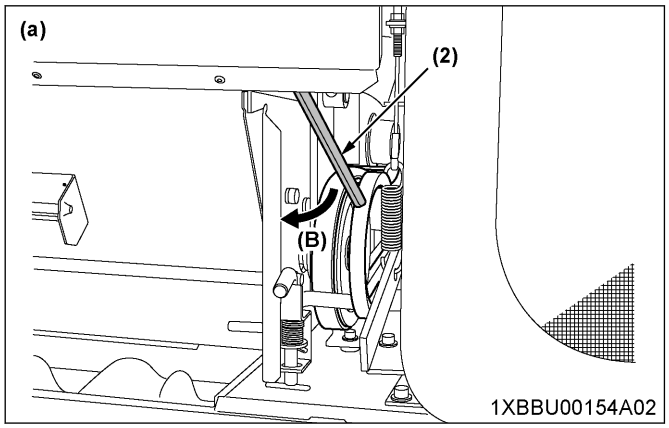
補足：
- **グレンタンクを開くとき、グレンタンク側プーリのボルト部にスクリュ駆動ベルトを引っ掛けないようにしてください。**



(1) スクリュ駆動ベルト
(2) グレンタンク
(3) プーリ
(A) ボルト部に引っ掛けないこと

h. ロック解除レバーを引いてグレンタンクを開きます。





(1) グレンタンク
(2) ロック解除レバー
(A) 開く
(B) 引く

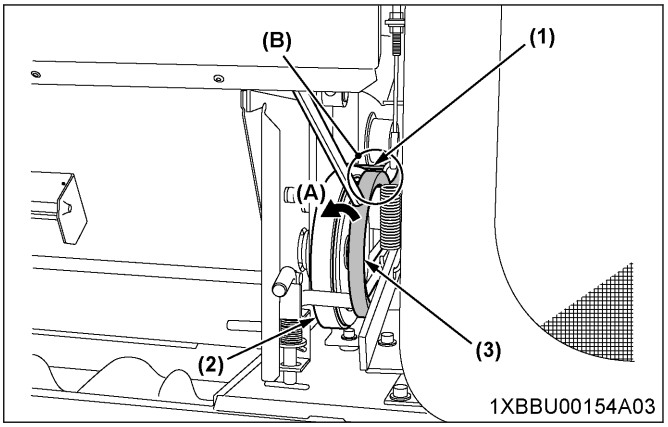
16.2 グレンタンクを閉じる方法

開く方法と逆の手順でグレンタンクを閉じてください。（グレンタンクを開く方法（159 ページ）を参照）

補足：

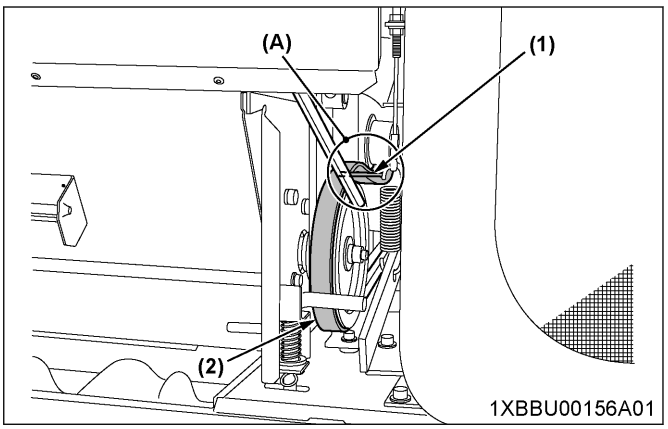
- **スクリュ駆動ベルトはベルト押さえの下側を必ず通してください。ベルトがベルト押さえの上側を通っていると接触してベルトやベルト押さえが破損するおそれがあります。**

正しいスクリュ駆動ベルト位置



(1) ベルト押さえ
(2) プーリ
(3) スクリュ駆動ベルト
(A) 掛ける
(B) ベルト押さえの下側を通す

間違ったスクリュ駆動ベルト位置



(1) ベルト押さえ
(2) スクリュ駆動ベルト
(A) ベルト押さえの上側を通った状態で掛けないこと

- **グレンタンクのロックや固定ピンの差込みは確実に行ってください。**

各部の掃除と注油のしかた

⚠ 警告

- **エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてください。**
- **各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガするおそれがあります。**
- **バッテリ、マフラ、エンジン、燃料タンク、ベルトカバー内、プーリ、カッタ部内、または配線部周辺にゴミまたは燃料の付着、わらくずや泥の堆積などの異物があると火災の原因になることがあるので、取り除いてください。**
- **刈取部を上げた状態で作業するときは、刈取下降ロックスイッチを“ロック”位置にセットして刈取部を下降防止してください。さらに枕木などの固定用具を使用して落下防止のため歯止めしてください。**

- **空運転するときには必ず機体各部の開いた所は閉じ、カバー類を取り付けてください。**
- **オイルがこぼれた場合は、きれいに拭き取ってください。**
- **刈刃やカッタの掃除、注油時は、手袋を着用し刃部に注意しながら作業してください。**
- **取り外したり、開いた回転部のカバー類は、衣服などが巻き込み危険ですので必ず取り付けて、または閉じてください。**

機械の故障などトラブルが発生しないように、各部をじゅうぶん手入れしてください。

重要：
- **水洗いするときは、電装部品に水を掛けないでください。故障の原因になります。**
- **取り外したボルトやナットは、必ず締め付けてください。トラブルの原因となります。**

補足：
- **掃除したあと、もみが掃除口の中に残っていないことを確かめてから各カバーを閉じる、または各カバーを取り付けてください。**
- **脱こく機の中をよく乾燥させてから掃除してください。脱こく機の中が濡れているともみが脱こく機の中に付着します。**
- **湿田で作業したあとは、クローラおよび周辺の泥を必ず取り除いてください。**

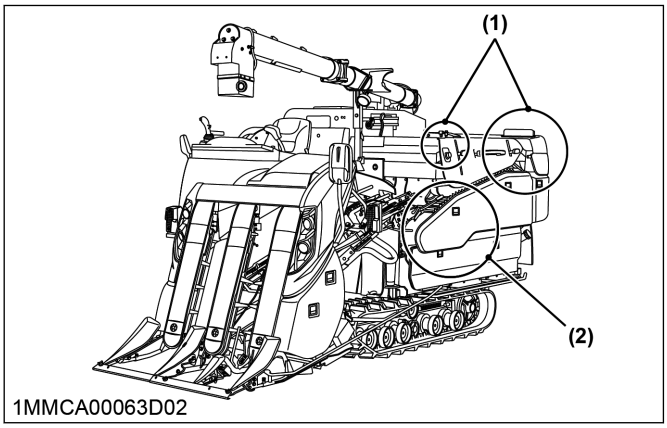
1. 各部の掃除

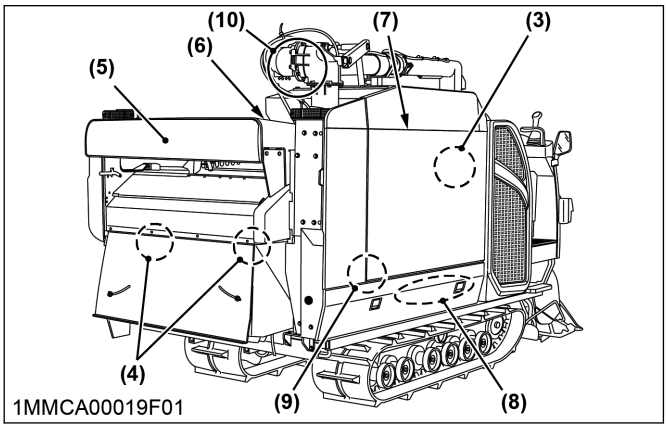
品種や稲、麦の混合を避けたいときや収穫シーズンが終わったときには、機内の残留こく粒をきれいに取り除いておきましょう。
また、特に次記の作業時は、常に掃除してください。
- 湿田作業や倒伏作物収穫時、カッタ部内のわら、泥の付着、わらの巻付きがある場合は必ず取り除いてください。

1.1 各部の掃除のしかた

1. 刈取り作業が終わり、もみの排出がすべて終わったあと脱こく部を約 3 分間空運転します。
2. いったん機体各部を収納状態にセットし、作業レバーを**[切]**位置にセットしてエンジンを止めます。
（収納状態のしかたは、刈取作業のためのコンバインの準備（100 ページ）を参照）
3. 各部の開閉部を開き、掃除口カバーを取り外して掃除します。

1.2 掃除箇所



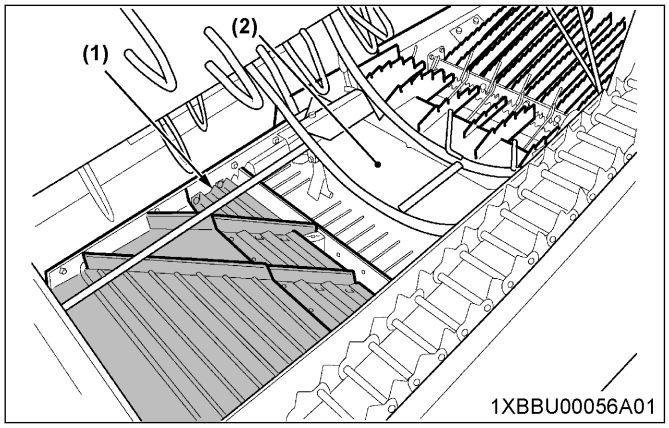


(1)	こぎ胴	脱こく部内（シーブケース内選別板上）、フロントカバー内、フィードチェーン終端部、排わら搬送部を掃除するとき開く
(2)	左サイドカバー上、下	ベルトカバー内、1 番スクリュ上部、1、2 番横スクリュ下部を掃除するとき外す
(3)	グレンタンク	1 番縦、横スクリュ、2 番処理胴（ツースバー）のツース（2 番）、2 番縦スクリューケースを掃除するとき開く
(4)	カッタ	シーブケース後部（3 番出口）を掃除するとき開く
(5)	カッタ切換えカバー	カッタ部内を掃除するとき開く
(6)	脱こく部上部	こぎ室内はここから掃除する
(7)	グレンタンク上部	グレンタンク内はここから掃除する
(8)	グレンタンク下カバー	グレンタンク下部を掃除するとき開く
(9)	グレンタンク後部カバー	アンローダ縦スクリュを掃除するとき開く
(10)	アンローダ水平スクリュ接続ケース掃除口	アンローダ水平スクリュはここから掃除する

1.2.1 脱こく部内の掃除

脱こく部内の掃除は、シーブケース内の選別板上を掃除してください。

1. こぎ胴を開きます。
   （こぎ胴の開閉（137 ページ）を参照）
2. 受あみ（上、下）を取り外します。
   （受あみの脱着（153 ページ）を参照）
3. 選別板上を掃除します。



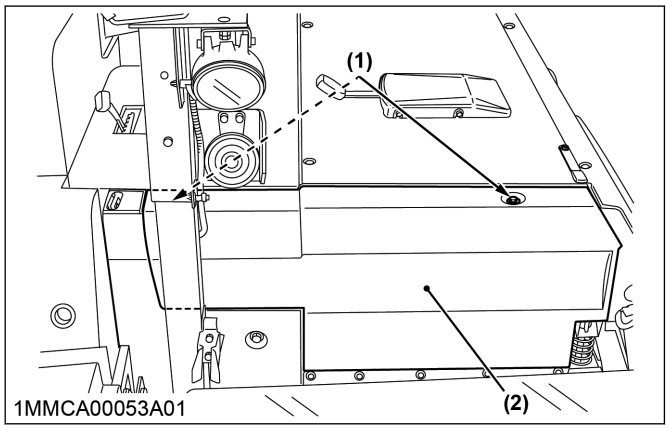
(1) 選別板上　　*(2)* シーブケース

掃除後

1. 受あみ（上、下）を取り付けます。
2. こぎ胴を閉じます。

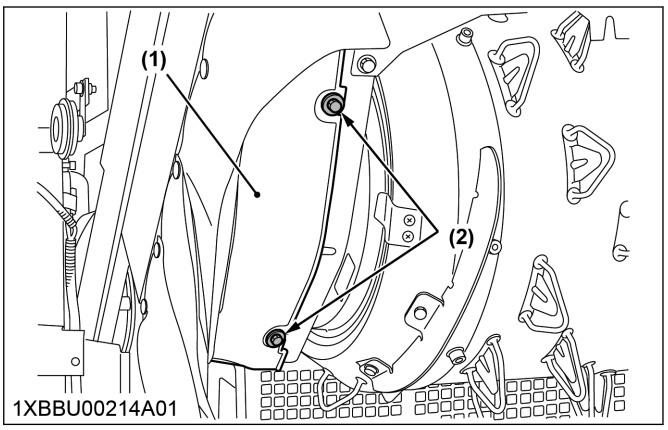
1.2.2 フロントカバー内の掃除

1. こぎ胴フロントカバーを取り外します。
   a. フロントカバー上部のボルト 2 本を取り外します。



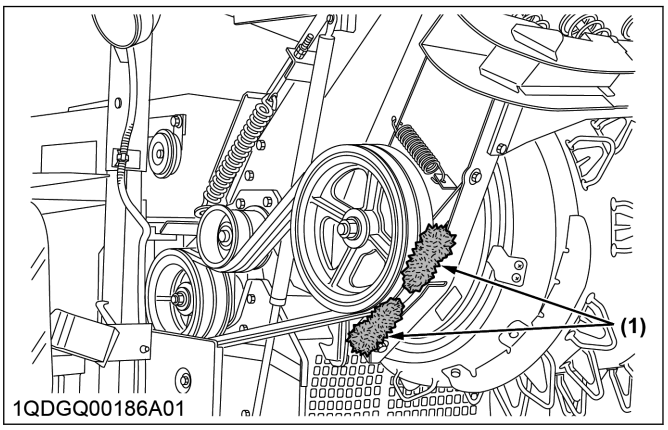
(1) ボルト　　*(2)* こぎ胴フロントカバー

   b. こぎ胴を開きます。
   c. フロントカバー下部のボルト 2 本をゆるめます。
   d. こぎ胴フロントカバーを取り外します。



(1) こぎ胴フロントカバー　　*(2)* ボルト

2. フロントカバー内を掃除します。



(1) わらくず

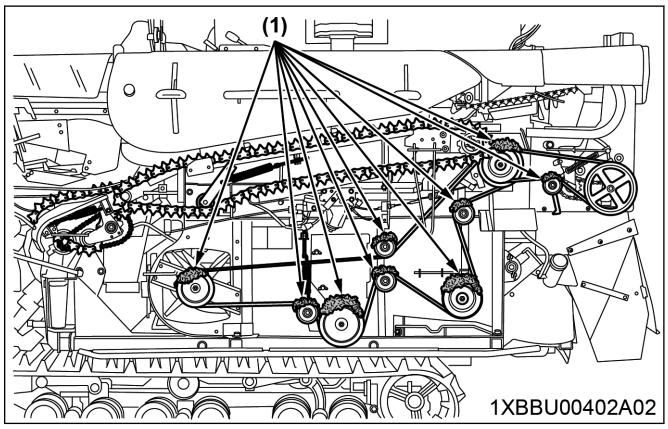
掃除後

こぎ胴フロントカバーを取り付け、こぎ胴を閉じてください。

1.2.3 ベルトカバー内の掃除

1. 左サイドカバー上、下を外します。
   （左サイドカバー上、下の取外し方法（156 ページ）を参照）
2. 左サイドカバーの内側カバー 2 か所を取り外します。
   （左サイドカバー内 1、内 2、内 3 の取外し方法（156 ページ）を参照）

3. ベルトカバー内を掃除します。

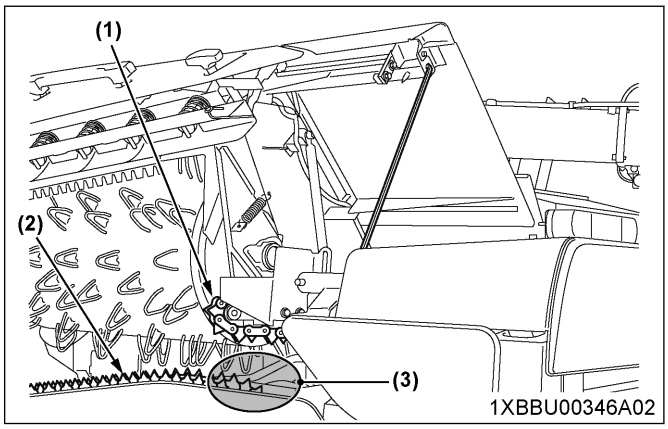


(1) わらくず

掃除後
各カバーを取り付けます。
（左サイドカバーの取付け方法（157 ページ）を参照）

1.2.4 フィードチェーン終端部、排わら搬送部の掃除

“わら詰まり”が発生し自動エンジン停止装置がはたらいたときに掃除してください。
排わら搬送部は排わら株元チェーンを掃除してください。

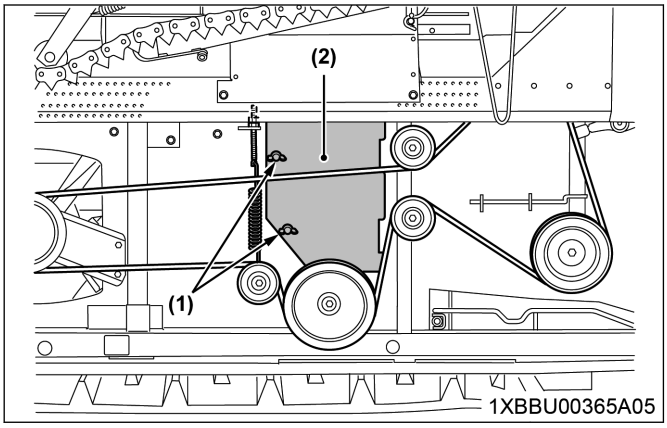


(1) 排わら株元チェーン
(2) フィードチェーン
(3) フィードチェーン終端部

掃除後
こぎ胴を閉じてください。

1.2.5 1 番スクリュ上部の掃除

1. 左サイドカバー上、下を外します。
（左サイドカバー上、下の取外し方法（156 ページ）を参照）
2. 左サイドカバーの内側カバー 2 か所を取り外します。
（左サイドカバー内 1、内 2、内 3 の取外し方法（156 ページ）を参照）
3. ボルトを外し、1 番スクリュ上部左掃除口カバーを取り外します。



(1) ボルト
(2) *1* 番スクリュ上部左掃除口カバー

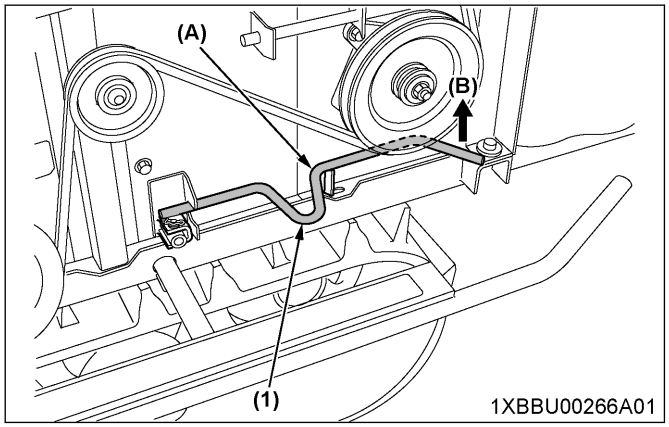
4. 1 番スクリュ上部を掃除します。

掃除後
掃除口カバーを取り付けます。

1.2.6 1、2 番横スクリュ下部の掃除

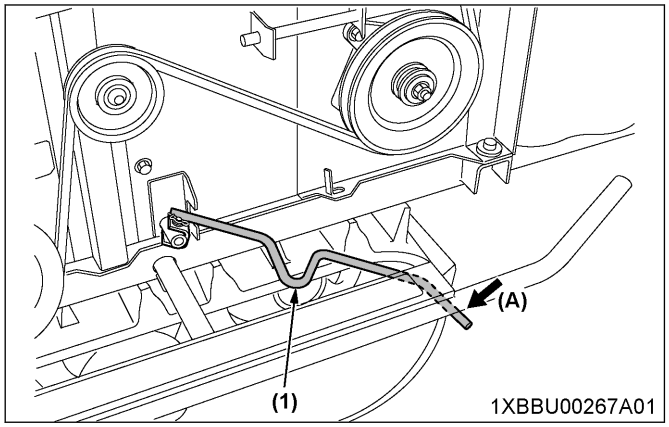
1. 左サイドカバー上、下を外します。
（左サイドカバー上、下の取外し方法（156 ページ）を参照）

2. 掃除口開閉レバーを収納位置から上げて、1、2 番横スクリュ下部にある掃除口の開閉カバーを開きます。



(1) 掃除口開閉レバー
(A) 収納位置
(B) 上げる

開閉カバーを開くときは、開閉レバーを下側に押します。



(1) 掃除口開閉レバー
(A) 押す

重要：

- **掃除口開閉レバーを使用しないときは、収納状態にしておいてください。走行中に掃除口開閉カバーが開いて破損するおそれがあります。**

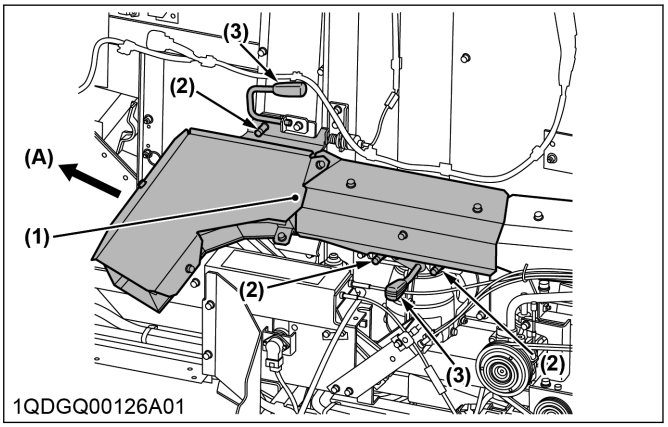
3. 1、2 番横スクリュ下部を掃除します。
4. 掃除後は、掃除口開閉レバーを収納位置に戻します。
5. 各カバーを取り付けます。

補足：

- **クローラに付着している泥は取り除いてください。掃除口開閉カバーに接触し、開閉しなくなります。**

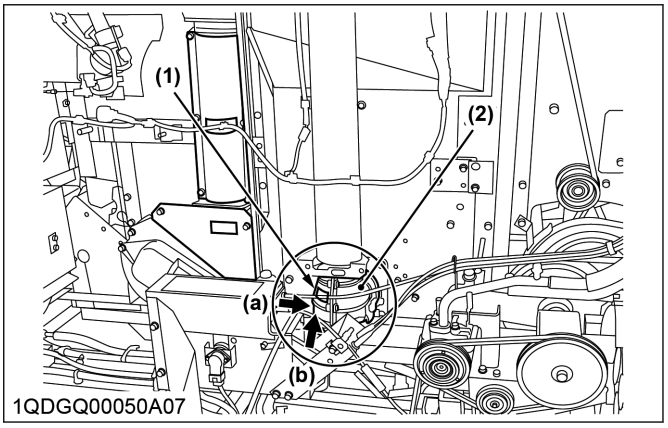
1.2.7 1 番縦、横スクリュの掃除

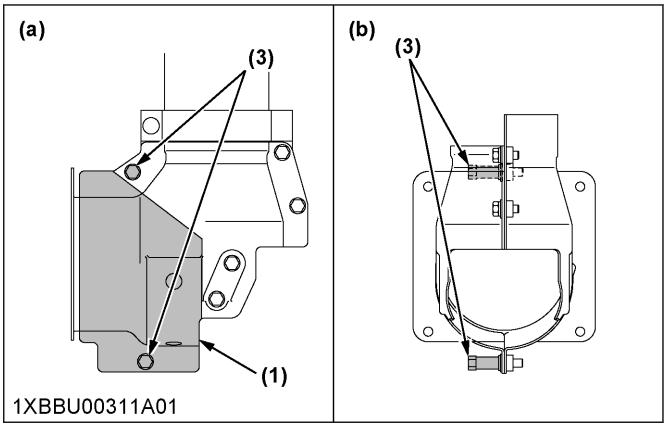
1. グレンタンクを開きます。
（グレンタンクの開閉（158 ページ）を参照）
2. ジャッキボルトを取り外します。
3. 排気管取っ手を持ち、機体後方に引いて排気管アッシを取り外します。



(1) 排気管アッシ
(2) ジャッキボルト
(3) 排気管取っ手
(A) 引く

4. ジャッキボルトを外して、1 番縦、横スクリュ掃除口の掃除口カバーを取り外します。





(1) *1* 番縦、横スクリュ掃除口カバー
(2) *1* 番直交部板金ケース（側板固定側）
(3) ジャッキボルト

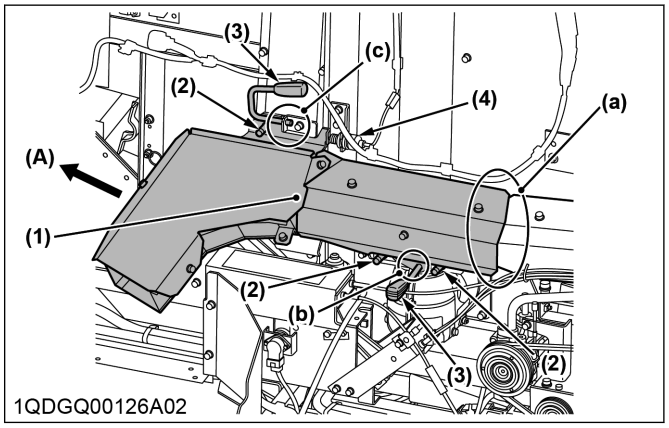
5. 1 番縦、横スクリュを掃除します。

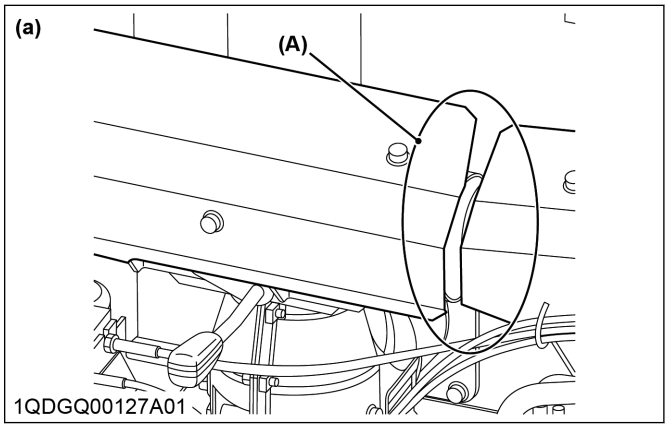
6. 掃除後は、ジャッキボルトで掃除口カバーを取り付けます。

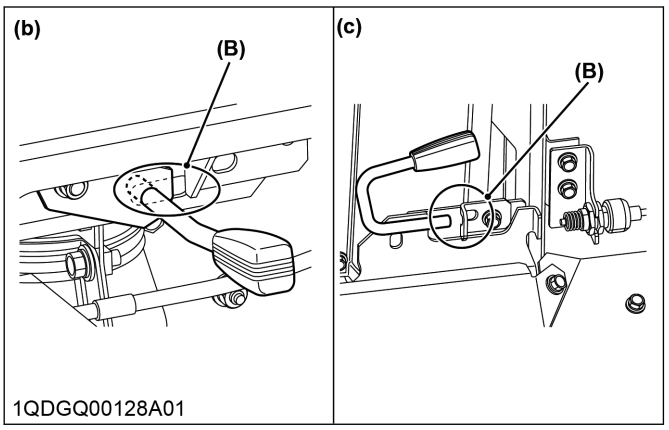
   補足：
   - **掃除口カバーを取り付けるときは、ジャッキボルトで確実に取り付けてください。1 番直交部板金ケースと掃除口カバーの間にすき間があるともみ漏れの原因になります。**

7. 排気管取っ手の差込部を元通りに差し込んで、排気管のつなぎ目が重なるように排気管アッシを組み戻します。
8. ジャッキボルトで排気管アッシを取り付けます。

   補足：
   - **ジャッキボルトで排気管アッシを取り付けるときは、排気管アッシが停止スイッチを確実に押していることを確認してください。**





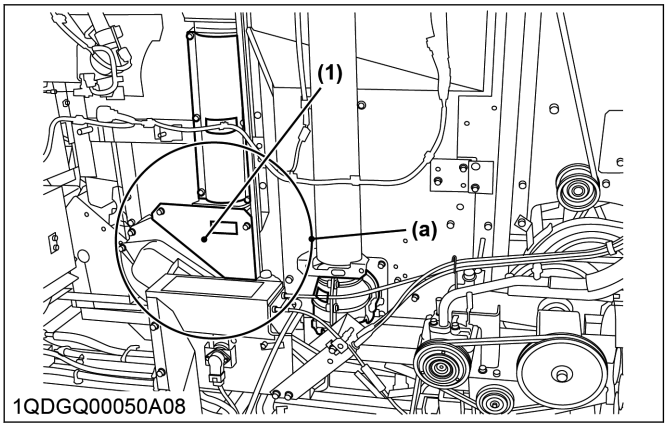


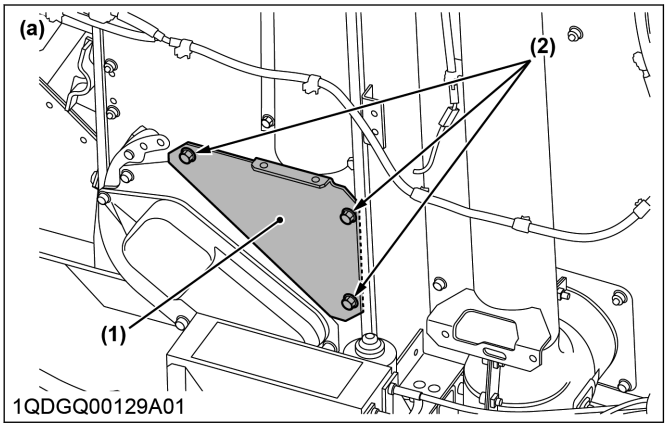
(1) 排気管アッシ
(2) ジャッキボルト
(3) 排気管取っ手
(4) 停止スイッチ
(A) 排気管つなぎ目
(B) 差込部

9. グレンタンクを閉じます。

1.2.8 2 番処理胴（ツースバー）の掃除

1. グレンタンクを開きます。
   （グレンタンクの開閉（158 ページ）を参照）
2. 排気管アッシを取り外します。
   （1 番縦、横スクリュの掃除（164 ページ）を参照）
3. ボルトを外して 2 番処理胴（ツースバー）の掃除口カバーを取り外します。





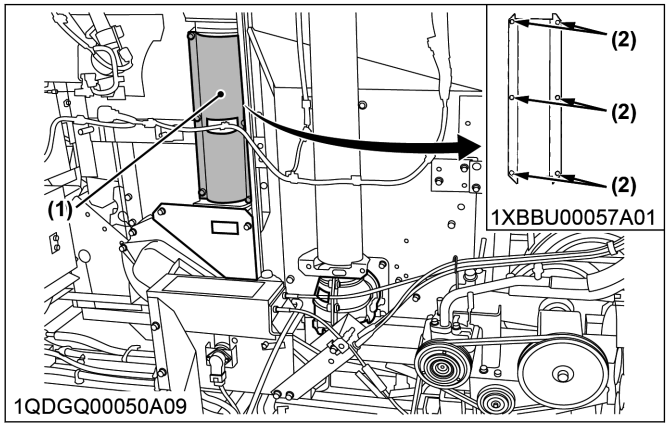
(1) 2 番処理胴（ツースバー）掃除口カバー
(2) ボルト

4. 2 番処理胴（ツースバー）を掃除します。

掃除後
1. 2 番処理胴（ツースバー）掃除口カバーを取り付けます。
2. 排気管アッシを取り付けます。
3. グレンタンクを閉じます。

1.2.9 2 番縦スクリューケースの掃除

1. グレンタンクを開きます。
（グレンタンクの開閉（158 ページ）を参照）
2. 排気管アッシを取り外します。
（1 番縦、横スクリュの掃除（164 ページ）を参照）
3. ボルトを外して 2 番縦スクリューケースの掃除口カバーを取り外します。

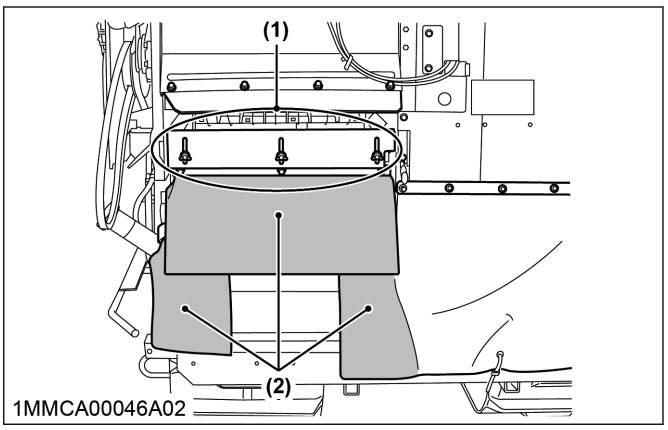


(1) 2 番縦スクリューケース掃除　*(2)* ボルト
口カバー

4. 2 番縦スクリューケースを掃除します。
5. 掃除後は、掃除口カバーを取り付けます。
6. 排気管アッシを取り付けます。
（1 番縦、横スクリュの掃除（164 ページ）を参照）
7. グレンタンクを閉じます。

1.2.10 シーブケース後部（3 番出口）の掃除

1. カッタ部を開きます。
2. 各ハンプを開きます。
3. シーブケース後部（3 番出口）を掃除します。

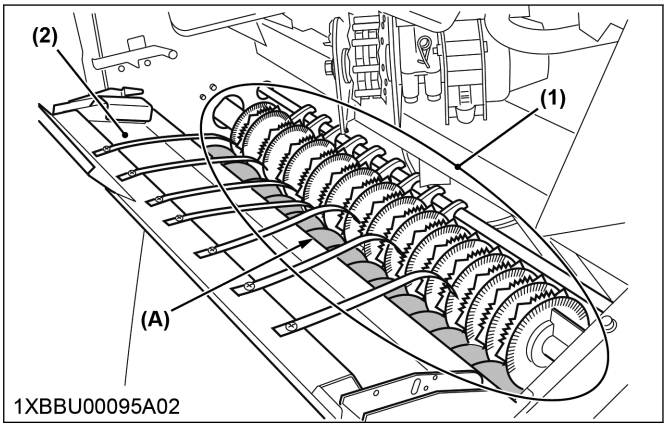


(1) シーブケース後部（*3* 番出口）　*(2)* ハンプ

掃除後
カッタ部を閉じます。

1.2.11 カッタ部内の掃除

1. カッタ切換えカバーを開きます。
2. カッタ部内を掃除します。
掃除するときは、特にカッタの切断軸に巻き付いたわらはすべて取り除いてください。



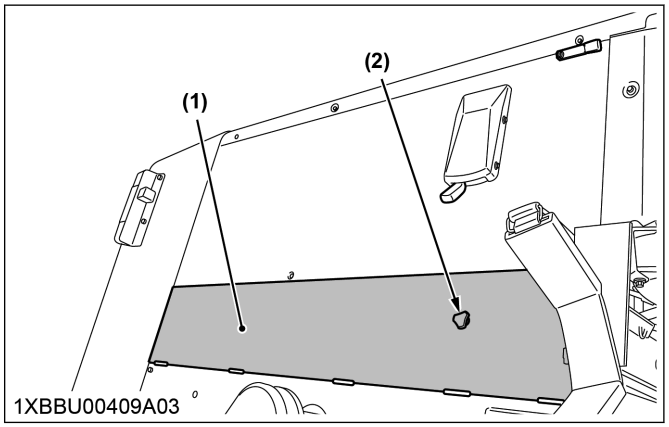
(1) カッタ部　　*(A)* 特に掃除する
(2) カッタ切換えカバー

掃除後
カッタ切換えカバーを閉じます。

1.2.12 こぎ室内の掃除のしかた

1. グレンタンクを開きます。
（グレンタンクの開閉（158 ページ）を参照）

2. ノブボルトを持ち上げて脱こく上部カバー右を開きます。



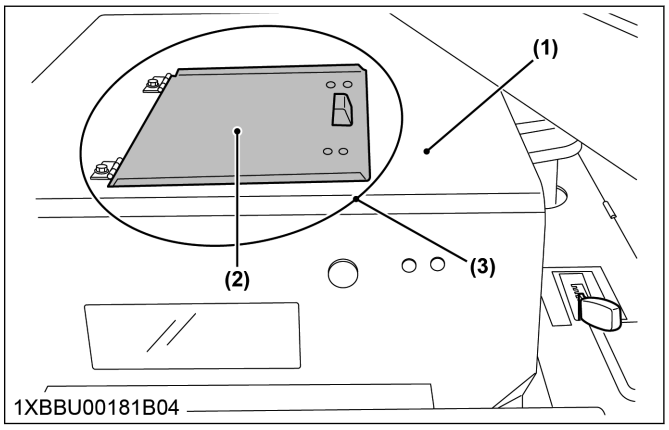
(1) 脱こく上部カバー右　*(2)* ノブボルト

3. こぎ室内を掃除します。

掃除後
1. 脱こく上部カバー右を閉じます。
2. グレンタンクを閉じます。

1.2.13 グレンタンク内の掃除

1. グレンタンク上部の掃除口の開閉カバーを開きます。



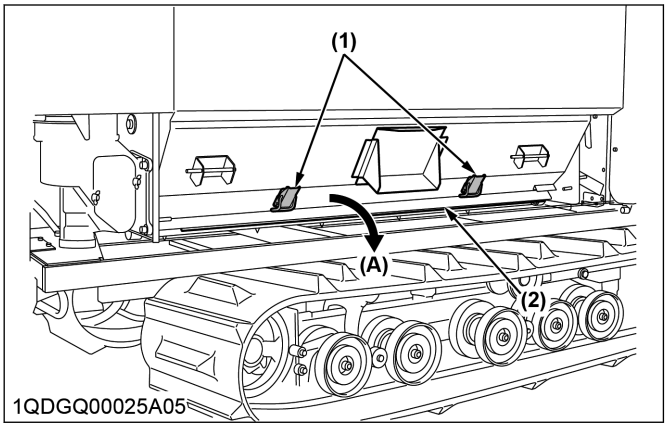
(1) グレンタンク　*(3)* グレンタンク上部掃除口
(2) 開閉カバー

2. グレンタンク内を掃除します。

掃除後
開閉カバーを閉じます。

1.2.14 グレンタンク下部の掃除

1. グレンタンク下カバーを外します。
（グレンタンク下カバーの取外し方法（157 ページ）を参照）
2. クランプを外し、グレンタンク下部掃除口カバーを開きます。



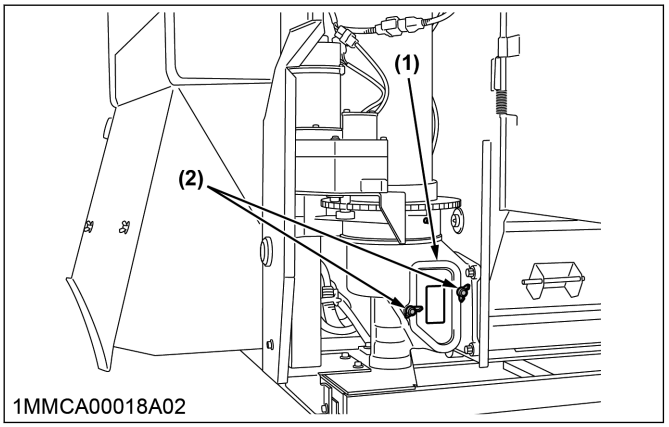
(1) クランプ　*(A)* 開く
(2) グレンタンク下部掃除口カバー

3. グレンタンク下部を掃除します。
4. 掃除後は、グレンタンク下部掃除口カバーをクランプし、グレンタンク下カバーを取り付けます。
（グレンタンク下カバーの取付け方法（157 ページ）を参照）

重要：
- **グレンタンク下部掃除口カバーを開いた状態で、グレンタンクを開閉しないでください。グレンタンク下部掃除口カバーが変形するおそれがあります。**

1.2.15 アンローダ縦スクリュの掃除

1. グレンタンク後部カバーを開きます。
2. アンローダ縦スクリュ掃除口の掃除口カバーを、蝶ボルトを外して取り外します。



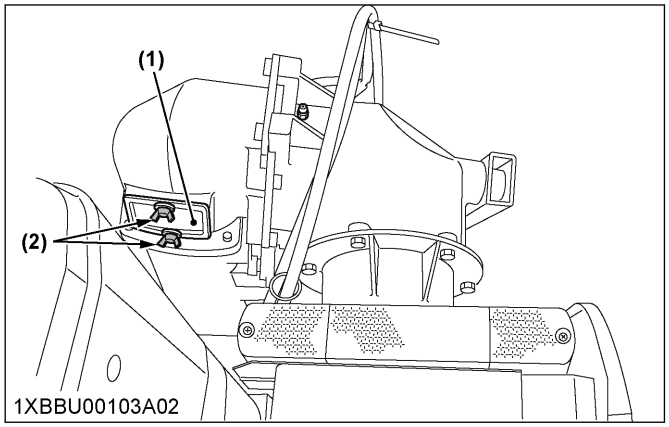
(1) アンローダ縦スクリュ掃除口カバー　*(2)* 蝶ボルト

3. アンローダ縦スクリュを掃除します。

掃除後
1. 掃除口カバーを取り付けます。
2. グレンタンク後部カバーを閉じます。

1.2.16 アンローダ水平スクリュの掃除

1. アンローダをいっぱいまで上昇させます。
2. 蝶ボルトを外して、アンローダ水平スクリュ掃除口カバーを取り外します。



(1) アンローダ水平スクリュ掃除口カバー　*(2)* 蝶ボルト

3. アンローダ水平スクリュを掃除します。

掃除後
掃除口カバーを取り付けます。

1.3 掃除後の処置と確認

掃除終了後は、取り外したり開いた掃除口カバーや安全カバーを必ず閉じるまたは取り付けてください。

2. 各部の注油

⚠ 警告
- **回転物や可動部に手や腕など体を近づけないでください。巻き込まれてケガをするおそれがあります。**
- **木片などで車止めをし、暴走を防いでください。**
- **そで口はきっちり止めて、手袋、はち巻き、首巻き、腰タオルはしないでください。チェーンに巻き込まれてケガをするおそれがあります。**
- **傾斜地では副変速レバーを絶対に[N]“（中立）”位置にしないでください。ブレーキがはたらかないため、暴走するおそれがあります。**
- **刈取部、引起し部などの各部を開いて作業を行うときは、次の事項を遵守してください。**
  - **平たんで安全な場所で、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてから行ってください。**
  - **傾斜地では、各部の開閉は行わないでください。**
  - **刈取部、引起し部を開いたときは、閉じないようにストッパを必ず掛けてください。**
  - **各部を開いた状態で走行をしないでください。**
  - **各部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**
- **刈取部を開いた状態で作業するときは、枕木などで刈取部の落下防止の歯止めをしてください。**
- **刈取部の開閉を行うときは、機体を最下降位置にしてください。**
- **取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。**

⚠ 注意
- **エンジン始動時やクラッチレバーを操作するときは、ホーンなどで周囲の人に始動の合図をしてから行ってください。**

機体各部の掃除が終わったあと、または刈取り作業を始める前には、各部の注油やグリースの塗布を行ってください。

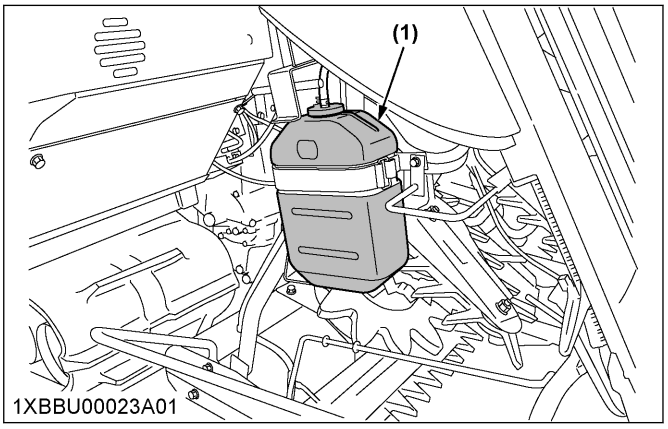
2.1 自動集中注油装置による注油

自動集中注油装置の注油スイッチを押して各作動部（刈刃や各チェーン）に注油してください。

補足：
- **気温が 10 ℃以下になると均等に注油されなくなります。寒い地域では、気温の上がる昼間に注油してください。**
- **各チェーン部に巻き付いたわらくずやごみは注油の前にきれいに取り除いてください。**

2.1.1 自動集中注油装置による注油のしかた

1. 平たんな場所で刈取部を地面から 5 cm～15 cm の位置まで下げたあと、エンジンを停止します。
2. 引起しサイドカバー右を取り外します。
3. オイルタンクのオイル量を確認して不足しているときは補給します。



(1) オイルタンク

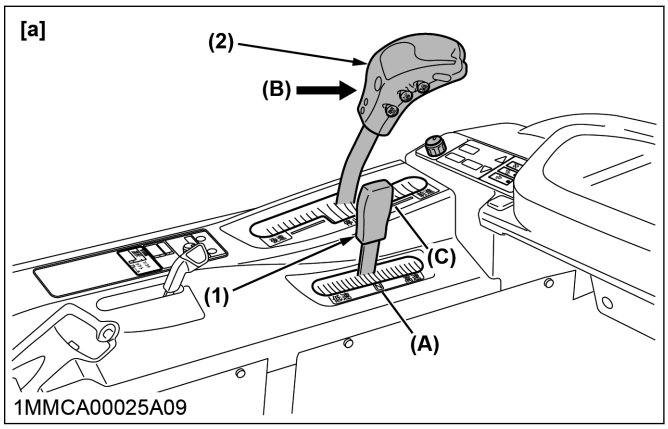
重要：
- **廃油などゴミの混入しているオイルを使用すると、ノズルの詰まりやバルブ不良の原因となります。**

オイルの種類	オイルタンク容量
指定オイル D10W-30	約 4 L

4. エンジンを再始動したあと、アクセルダイヤルを回して、エンジン回転数を中速回転（約 2000 rpm）に調整します。
5. 作業レバーを**[入]**位置にセットして刈取部、脱こく部を動かします。

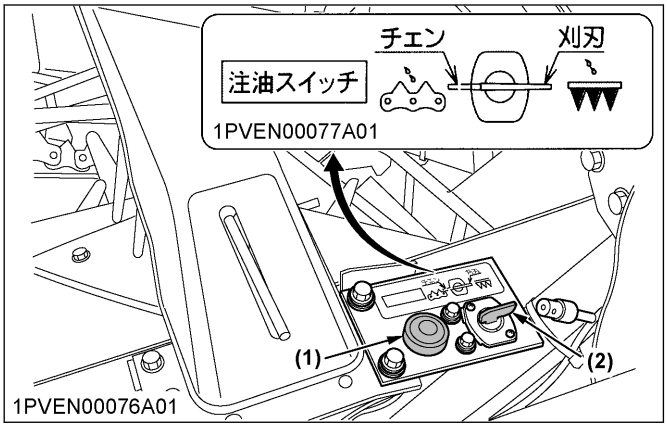
   補足：
   - **チェーンは中速回転で注油してください。その際、2 番警報が出ますが、異常ではありません。**
   - **注油したときチェーンが停止していると、オイルが 1 か所に集中するため、ベルトやカバーにオイルが付着したり、チェーンのスリップの原因となります。**

6. 副変速レバーを**[N]**“（中立）”位置にセットしたあと、駐車ブレーキを解除して主変速レバーを**[前進]**側へ中間の位置ぐらいまで押します。
   a. 副変速レバーを**[N]**“（中立）”位置にセットします。
   b. 主変速レバーを中間の位置ぐらいまで押します。



(1) 副変速レバー
(2) 主変速レバー
(A) *N*（中立）
(B) 押す
(C) 中間
[a] イラストは *L* 仕様

7. 切換えコックの位置が**[チェーン]**位置か**[刈刃]**位置かを確認して、注油スイッチを押します。
   切換えコックを切り換えて各部チェーン、刈刃の両方ともに注油します。
   - **[チェーン]位置**
     注油スイッチを 7 秒～10 秒間“連続”で押す。
   - **[刈刃]位置**
     注油スイッチを 5 秒～7 秒間“断続”で押す。



(1) 注油スイッチ
(2) 切換えコック

重要：
- **オイルタンク内のオイルが空の状態で注油スイッチを押すとポンプモータの故障の原因となります。**
- **万一ポンプとオイルタンク間のホースにエアが入り、注油スイッチを押してもオイルが送られない場合は、エア抜きキャップを押し、エア抜きしてから作動してください。**
- **必要以上に注油しないでください。機械が汚れるばかりでなく、故障の原因になります。**

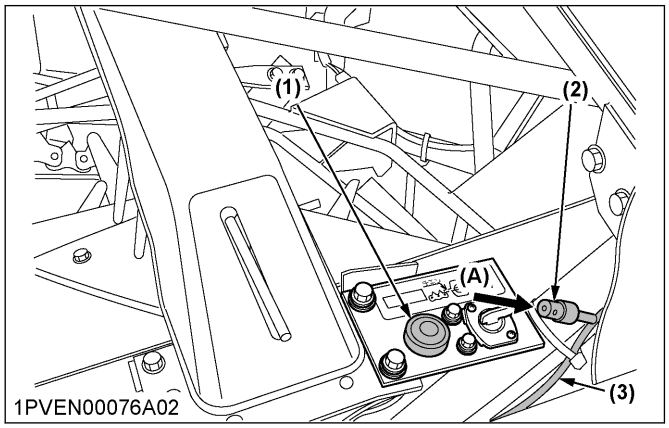
8. エンジンを停止したあと、各部チェーンや刈刃に注油されていることを確認します。

   補足：
   - **注油されていないときは、各注油ホースのノズルを掃除してください。**
   - **最初の 1 回目は配管内部にオイルがゆきわたり、配管内部にオイルが充満したことを確認したあと注油してください。配管内にオイルがゆきわたるまで約 30 秒掛かります。**

9. きちんと注油されていれば、再度エンジンを始動させ、手順 6, 7 の状態にしたあと 2 分～3 分間そのままの状態で運転します。
10. 主変速レバーを**[停止]**位置にします。
11. 副変速レバーを**[低速]**または**[高速]**位置にします。
12. エンジンを停止したあと、引起しサイドカバー右を取り付けます。

2.2 エア抜きの方法

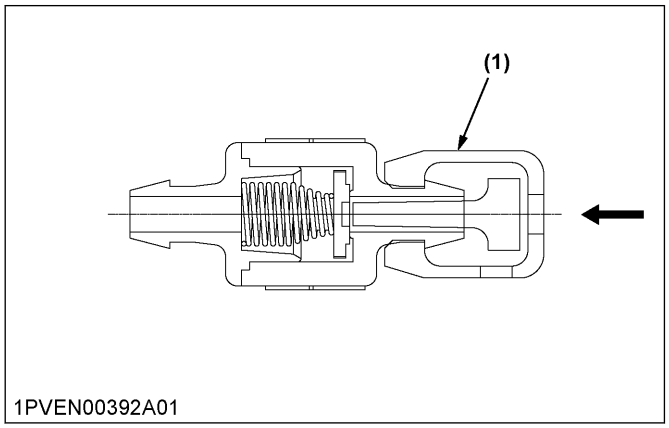
1. 図示のエア抜きキャップを押してから、注油スイッチを押して、油を送出します。



(1) 注油スイッチ　　*(A)* 押す
(2) エア抜きキャップ
(3) ホース

補足：

- **エア抜きを行うときは、次図の矢印の方向から断続的にエア抜きキャップを押してください。強く押しすぎると、エアが抜けにくくなります。**



(1) エア抜きキャップ

2.3 注油箇所、集中注油ノズルの掃除、グリース塗布

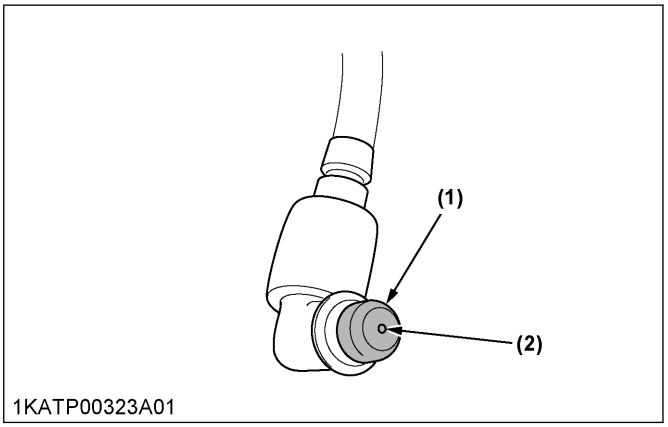
自動集中注油で注油が行える箇所以外の注油は、油差しで行ってください。

2.3.1 自動集中注油箇所と掃除のしかた

ノズルからオイルが出ていないときは、“エンジンを必ず止めて”、各ノズルの吐出口の掃除を行ってください。掃除を行うときは、水洗いまたは圧縮空気などを使用してください。

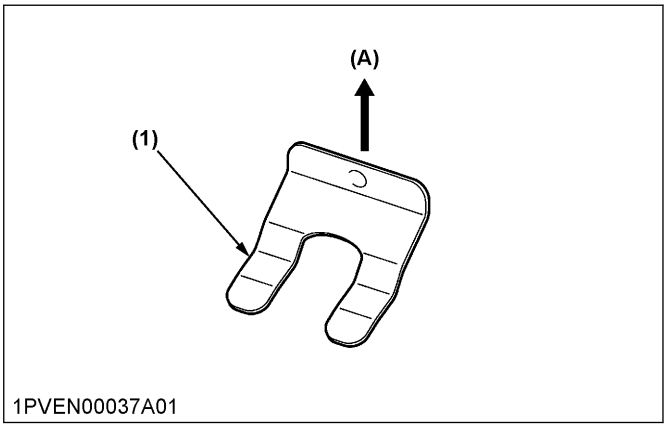
補足：

- **ノズル先端部の吐出口の掃除を行うときは、必ず針などを使用してください。つまようじなど折れやすいものを使用すると詰まりの原因となります。また、各ノズルの先端を固定している金具、ボルト、スナップピンなど各固定部品を取り外すと掃除が容易に行えます。**



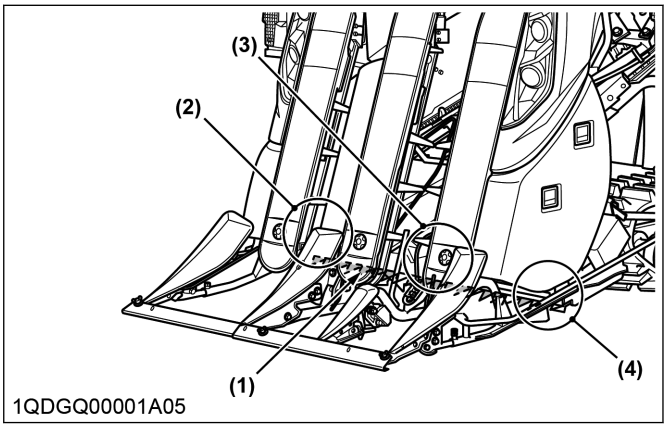
(1) ノズル　　*(2)* 吐出口

- **固定金具を取り付けるときは、必ず金具の L 字部上側に向けて取り付けてください。**



(1) 固定金具　　*(A)* *L* 字部を上向き

2.3.1.1 刈刃の自動集中注油箇所

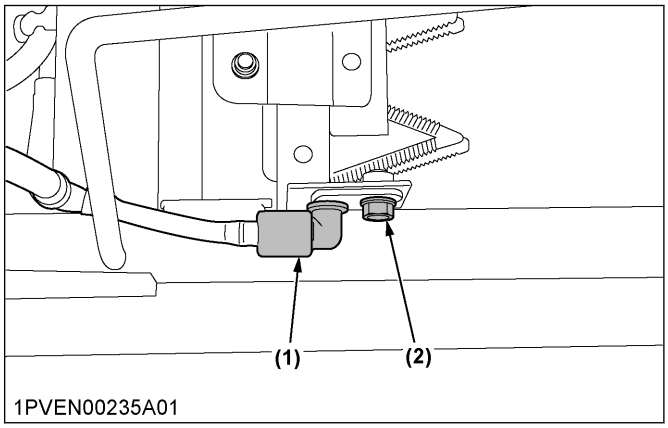


(1) 刈刃　　*(3)* ノズル（中央）
(2) ノズル（右）　　*(4)* ノズル（左）

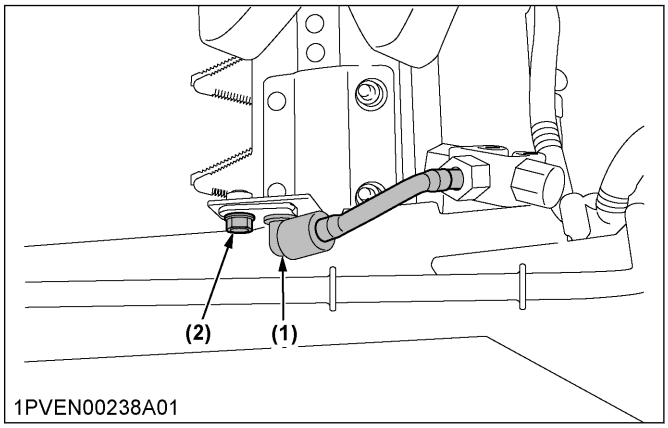
2.3.1.1.1 刈刃のノズル掃除

1. 刈取部を最上昇します。
2. 刈取下降ロックをし、刈刃に付いた泥などの異物を取り除きます。

3. 引起しサイドカバー左右を取り外します。
4. ボルトを取り外して、ノズルを外して掃除します。



(1) ノズル（右）　*(2)* ボルト

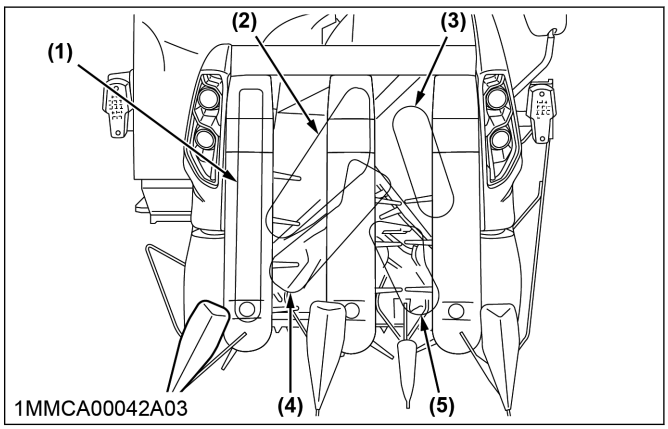


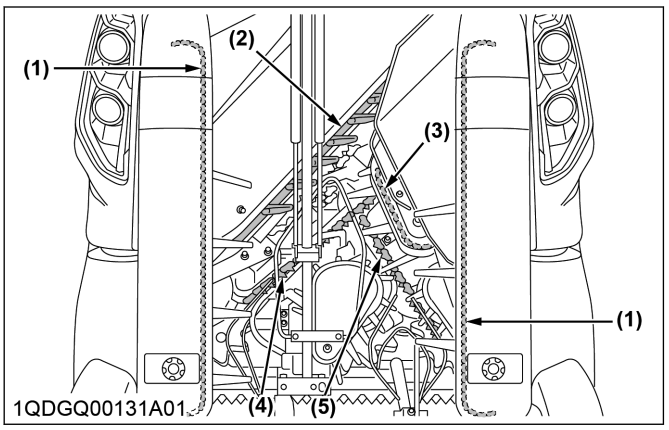
(1) ノズル（左）　*(2)* ボルト

掃除後

1. ノズルを取り付けます。
2. 引起しサイドカバー左右を取り付けます。

2.3.1.2 引起しチェーン、右穂先チェーン、右株元チェーン、左穂先チェーン、左株元チェーンの自動集中注油箇所

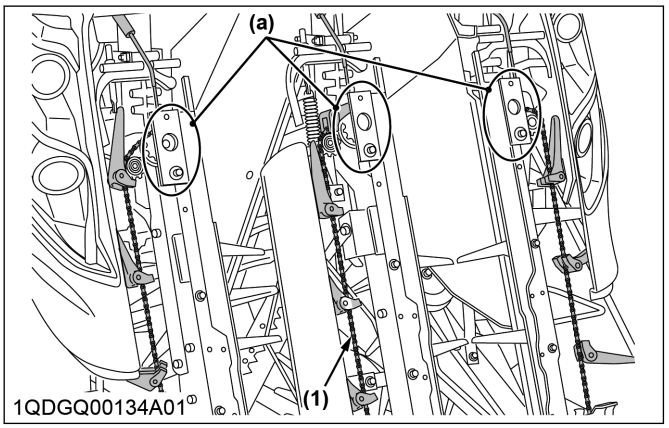


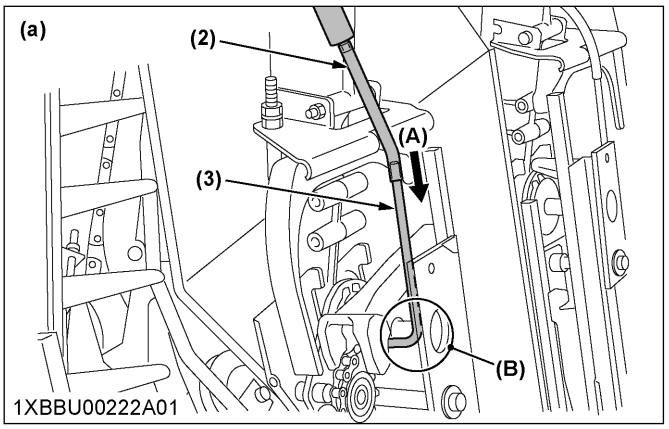


(1) 引起しチェーン
(2) 右穂先チェーン
(3) 左穂先チェーン
(4) 右株元チェーン
(5) 左株元チェーン

2.3.1.2.1 引起しチェーンのノズル掃除

1. 各引起しカバーを取り外します。
2. ホースをノズルから抜き取り、針金などで L 字部の詰まりを取り除きます。





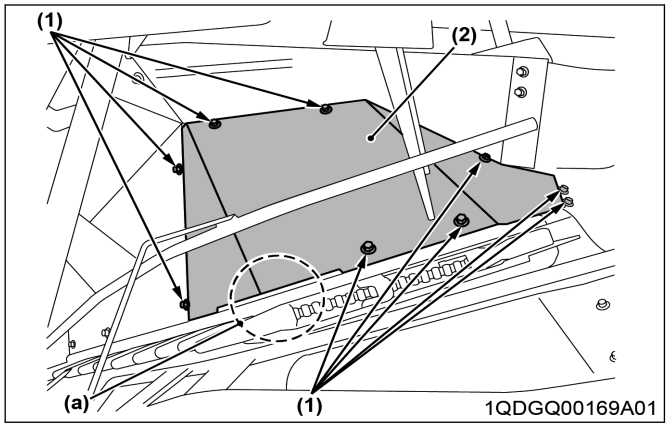
(1) 引起しチェーン
(2) ホース
(3) ノズル
(A) 針金などを差し込む
(B) L 字部の詰まりを取り除く

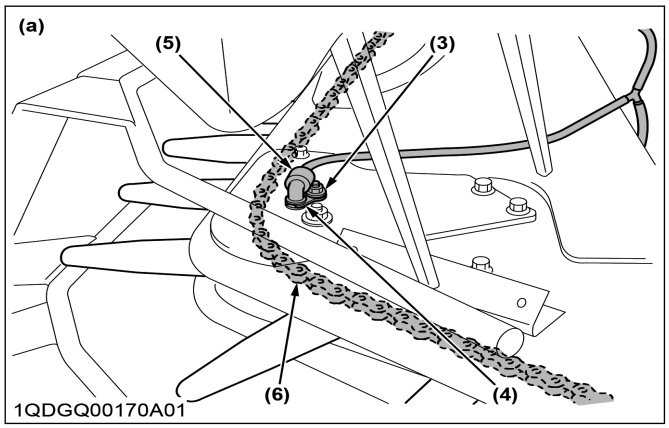
掃除後

各引起しカバーを取り付けます。

2.3.1.2.2 右穂先チェーンのノズル掃除

1. ボルトを外して、右穂先カバー上を取り外します。
2. 固定金具を取り外してノズルを外して掃除します。
   - ナットを外して、固定金具とともにノズルを取り外してください。



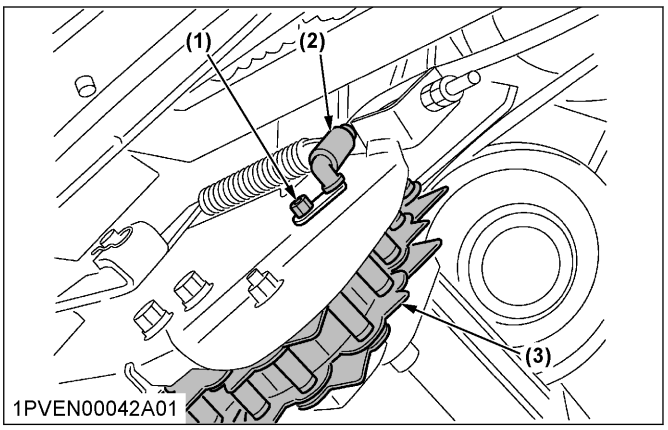


(1) ボルト
(2) 右穂先カバー上
(3) ナット
(4) 固定金具
(5) ノズル
(6) 右穂先チェーン

3. 掃除後は、ノズルを取り付けます。
4. 右穂先カバー上を取り付けます。

2.3.1.2.3 右株元チェーンのノズル掃除

1. ボルトを取り外してノズルを外して掃除します。

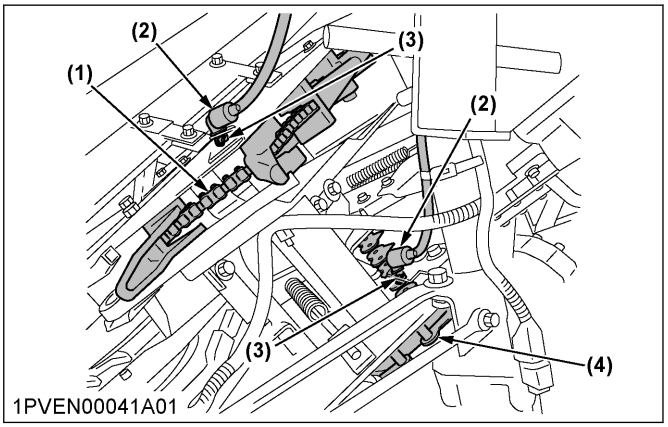


(1) ボルト
(2) ノズル
(3) 右株元チェーン

掃除後
ノズルを取り付けます。

2.3.1.2.4 左穂先チェーン、左株元チェーンのノズル掃除

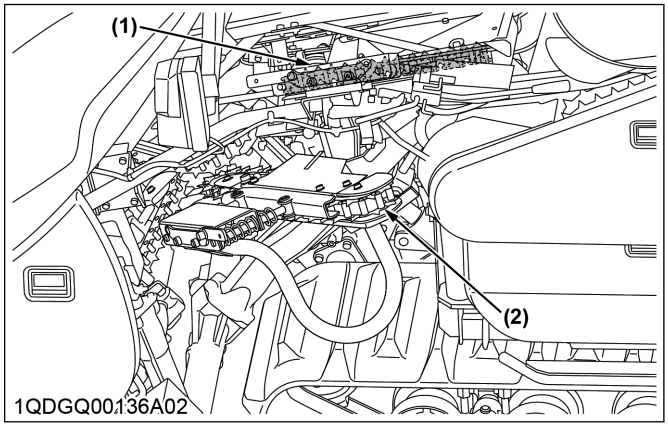
1. 刈取左サイドカバーを取り外します。
2. スナップピンを取り外してノズルを外して掃除します。



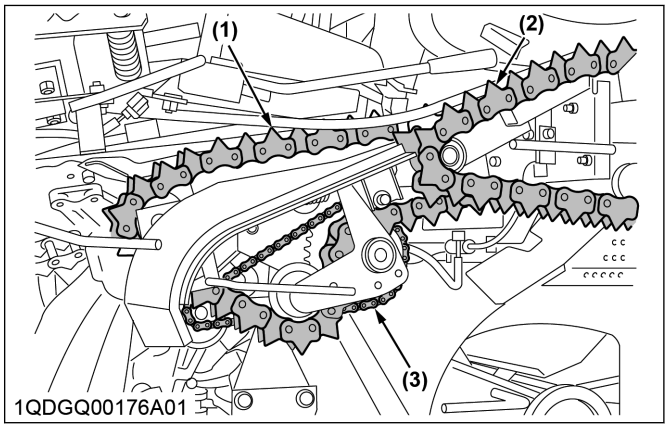
(1) 左穂先チェーン
(2) ノズル
(3) スナップピン
(4) 左株元チェーン

掃除後
1. ノズルを取り付けます。
2. スナップピンを取り付け、刈取左サイドカバーを取り付けます。

2.3.1.3 株元供給チェーン、供給サポートチェーン、供給サポートチェーン駆動チェーン、こぎ深さチェーン、フィードチェーンの自動集中注油箇所



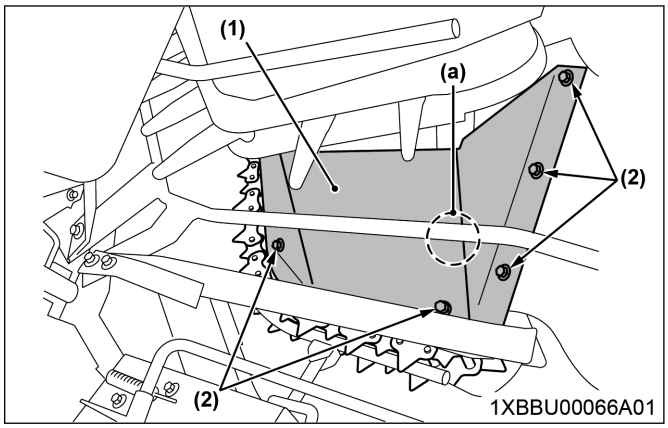
(1) 株元供給チェーン
(2) こぎ深さチェーン

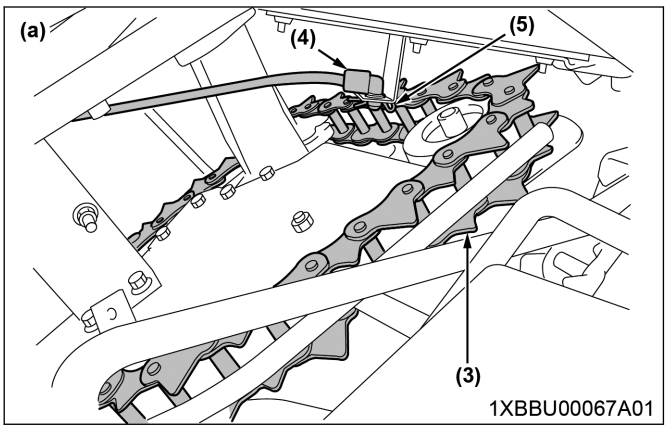


(1) 供給サポートチェーン
(2) フィードチェーン
(3) 供給サポートチェーン駆動チェーン

2.3.1.3.1 株元供給チェーンのノズル掃除

1. ボルトを外し、株元供給カバーを取り外します。
2. スナップピンをノズルから外して掃除します。





(1) 株元供給カバー
(2) ボルト
(3) 株元供給チェーン
(4) ノズル
(5) スナップピン
(A) 引く

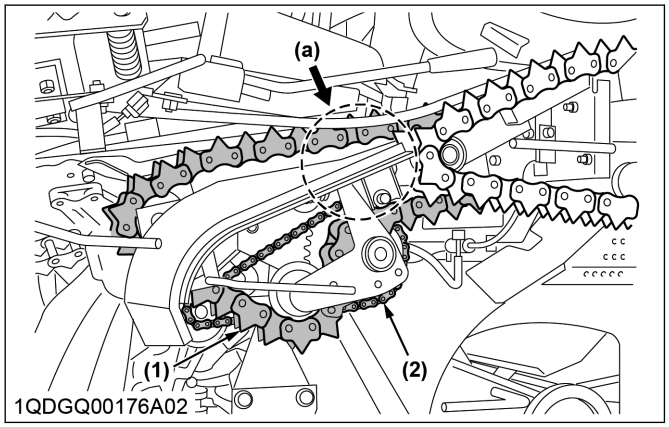
掃除後

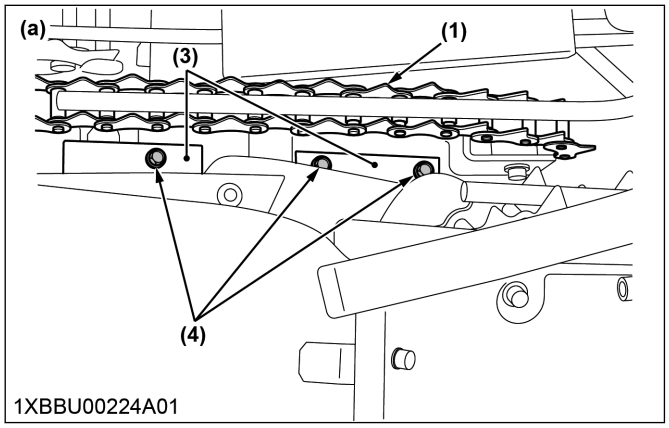
1. ノズルを取り付けます。
2. 株元供給カバーを取り付けます。

2.3.1.3.2 供給サポートチェーン、供給サポートチェーン駆動チェーンのノズル掃除

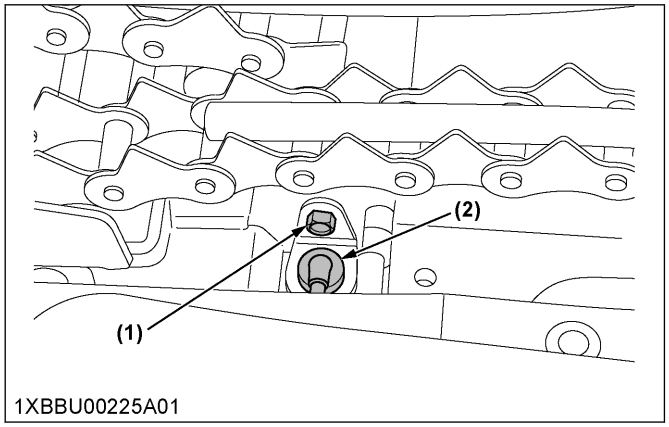
1. 左サイドカバー上を取り外し、ボルトを取り外して供給サポートチェーン上部カバーを外します。

2. ボルトを取り外し、ノズルを外して掃除します。





(1) 供給サポートチェーン
(2) 供給サポートチェーン駆動チェーン
(3) 供給サポートチェーン上部カバー
(4) ボルト

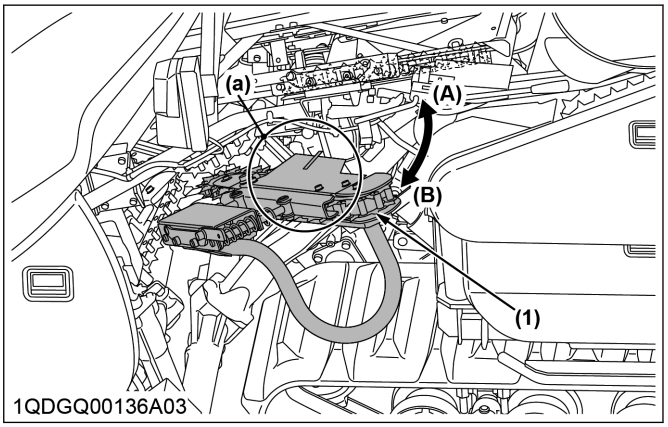


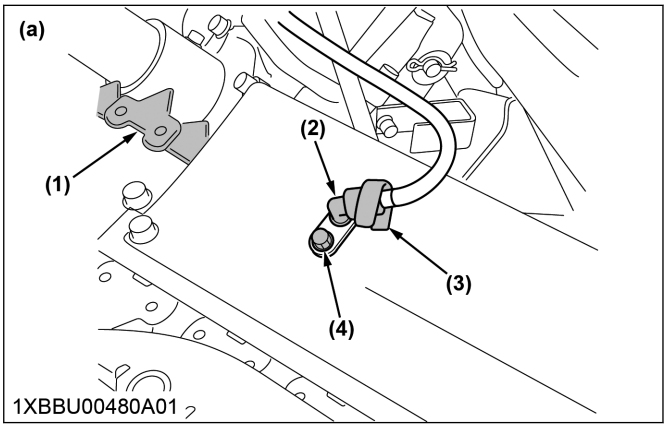
(1) ボルト
(2) ノズル（下側）

掃除後
1. ノズルを取り付けます。
2. 供給サポートチェーン上部カバー、左サイドカバー上を取り付けます。

2.3.1.3.3 こぎ深さチェーンのノズル掃除

1. こぎ深さチェーンを“浅こぎ”位置にします。
2. クランプを外し、ボルトを取り外してノズルを外して掃除します。





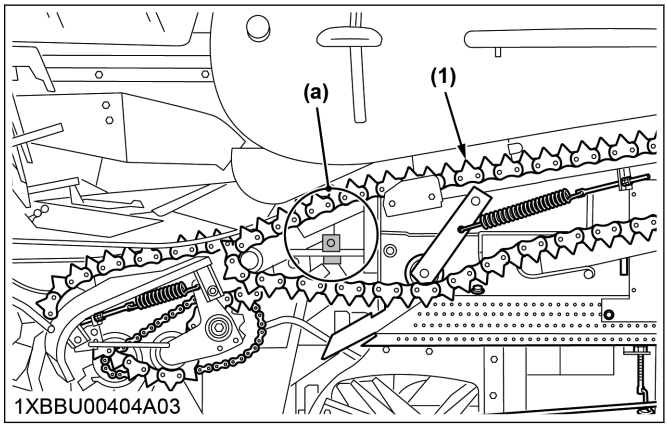
(1) こぎ深さチェーン
(2) ノズル
(3) クランプ
(4) ボルト
(A) 深こぎ
(B) 浅こぎ

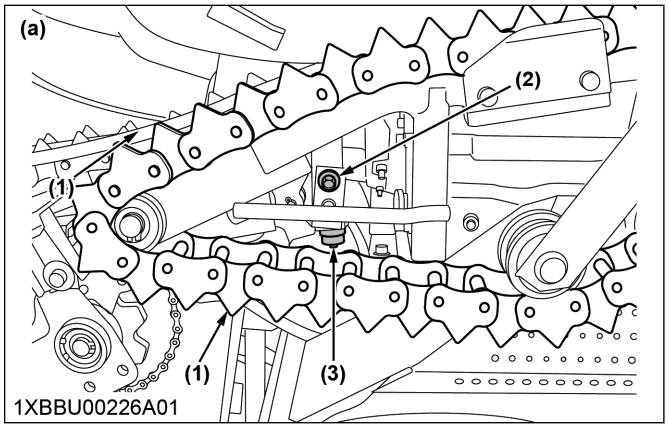
掃除後
1. ノズルを取り付けます。
2. クランプをします。

2.3.1.3.4 フィードチェーンのノズル掃除

1. 左サイドカバー上を取り外します。

2. ボルトを取り外してノズルを外して掃除します。



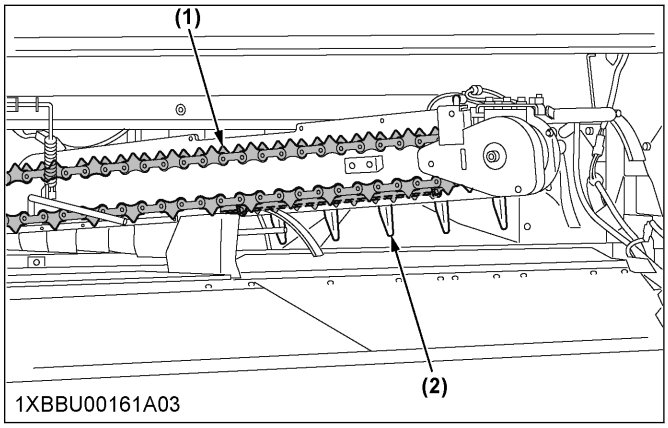


(1) フィードチェーン
(2) ボルト
(3) ノズル

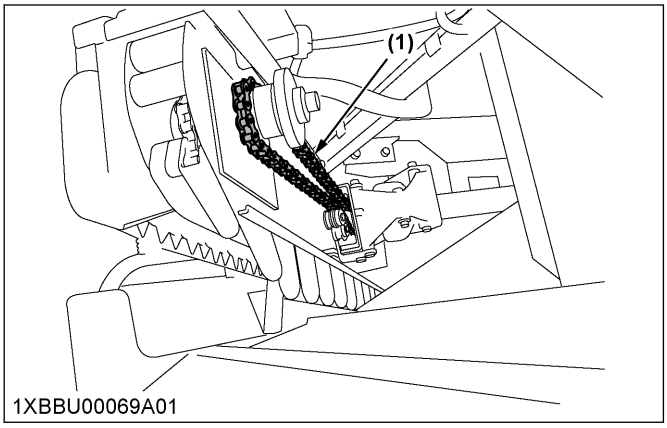
掃除後

1. ノズルを取り付けます。
2. 左サイドカバー上を取り付けます。

2.3.1.4 排わら穂先チェーン、排わら株元チェーン、排わら入力チェーンの自動集中注油箇所



(1) 排わら株元チェーン
(2) 排わら穂先チェーン



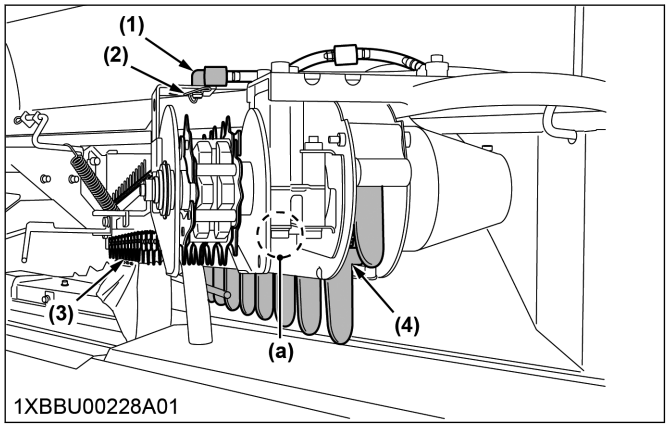
(1) 排わら入力チェーン

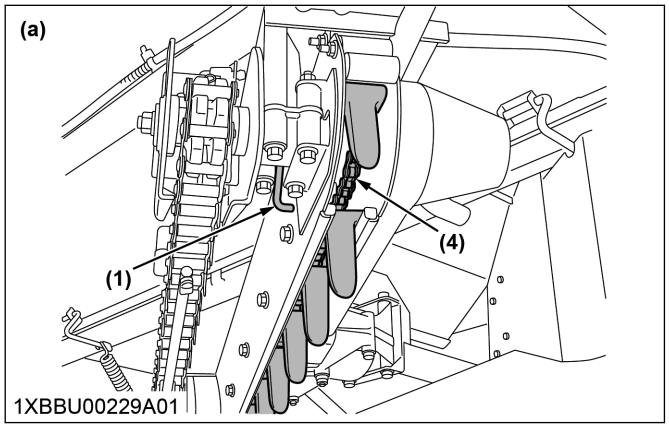
2.3.1.4.1 排わら穂先チェーン、排わら株元チェーン、排わら入力チェーンのノズル掃除

排わら株元チェーンのノズルを本項に従って掃除してください。

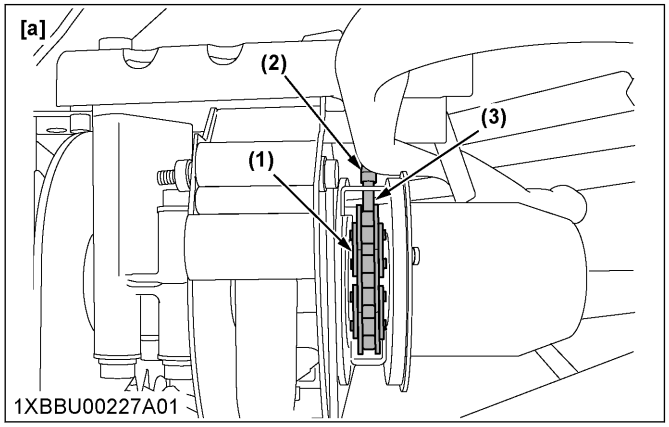
1. 排わら上部カバーを上げて、カバーステーで下降防止を行います。

2. スナップピンを外してノズルを取り外して掃除します。





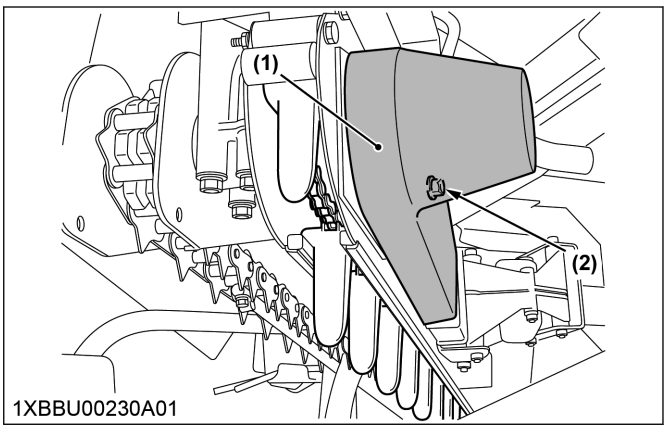
(1) ノズル
(2) スナップピン
(3) 排わら株元チェーン
(4) 排わら穂先チェーン



(1) 排わら入力チェーン
(2) ホース
(3) ノズル
[a] イラストはチェーンカバーを取り外した状態

補足：

- **排わら穂先チェーン、排わら入力チェーンのノズルの掃除は不要です。**
- **ボルトを外してチェーンカバーを取り外すと、排わら入力チェーンがあります。**



(1) チェーンカバー
(2) ボルト

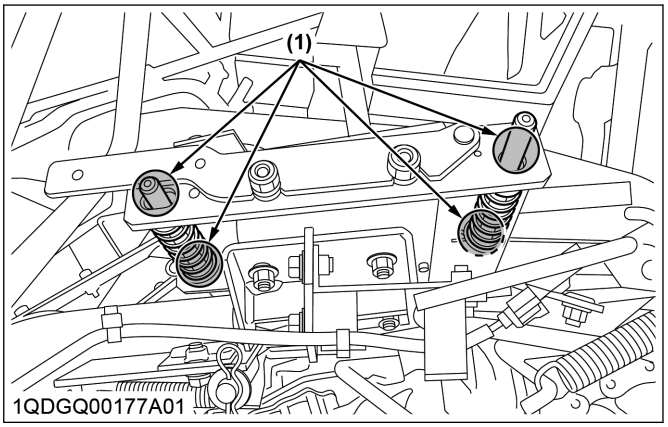
掃除後

1. ノズルを取り付けます。
2. 排わら上部カバーを閉じます。

2.3.2 手差し注油箇所

油差しを使用して注油を行ってください。

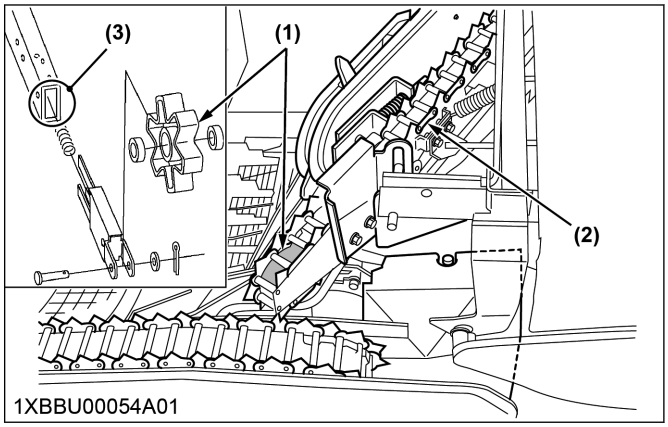
2.3.2.1 搬送レールピン支持部の手差し注油箇所



(1) 搬送レールピン支持部

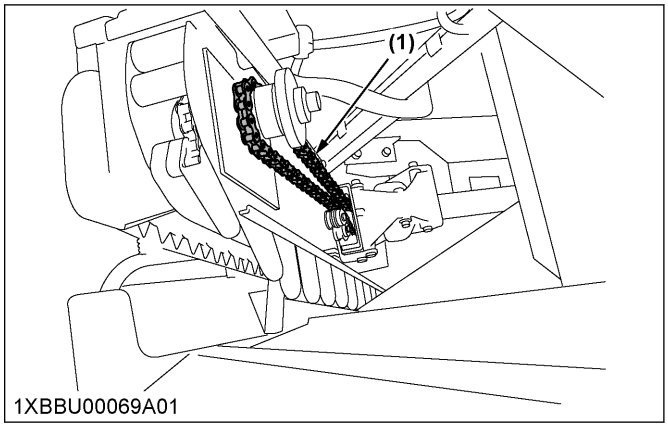
2.3.2.2 排わら株元チェーンテンション部の手差し注油箇所

排わらテンションスプロケットの差込部（角パイプのしゅう動部）に注油してください。



(1) 排わらテンションスプロケット
(2) 排わら株元チェーン
(3) 差込部

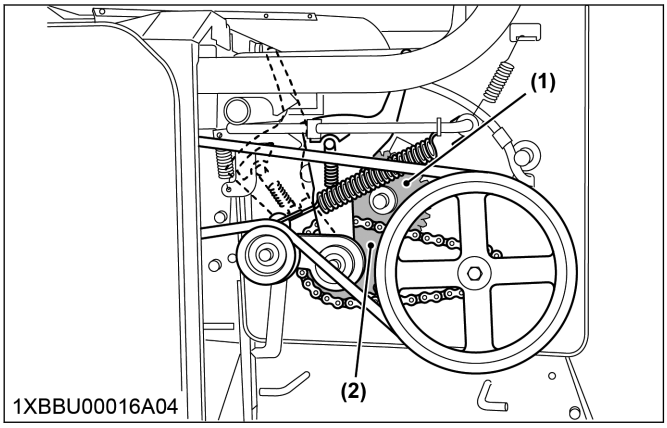
2.3.2.3 排わら入力チェーンの手差し注油箇所



(1) 排わら入力チェーン

2.3.2.4 カッタ駆動ギヤ、ギヤスプロケットの手差し注油箇所

1. カッタ左サイドカバーを取り外します。
2. カッタ駆動ギヤ、ギヤスプロケットに注油します。



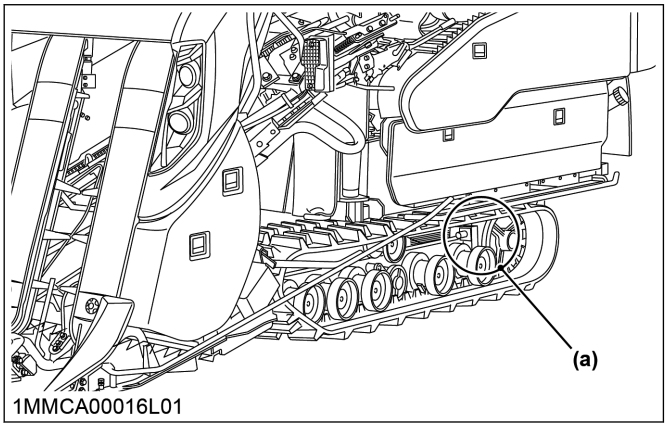
(1) カッタ駆動ギヤ
(2) ギヤスプロケット

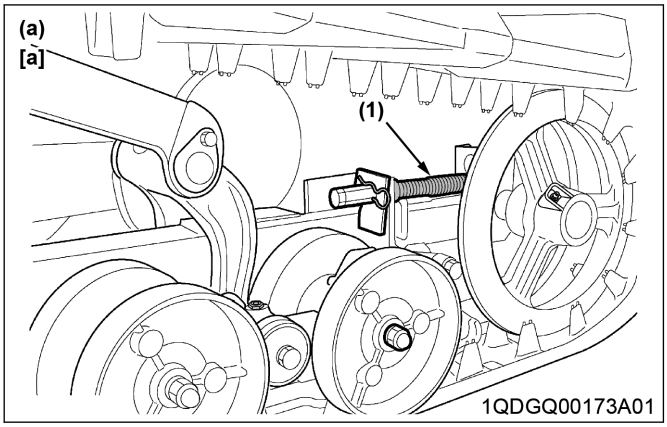
注油後
カッタ左サイドカバーを取り付けます。

2.3.3 グリース塗布箇所

グリースを塗布してください。

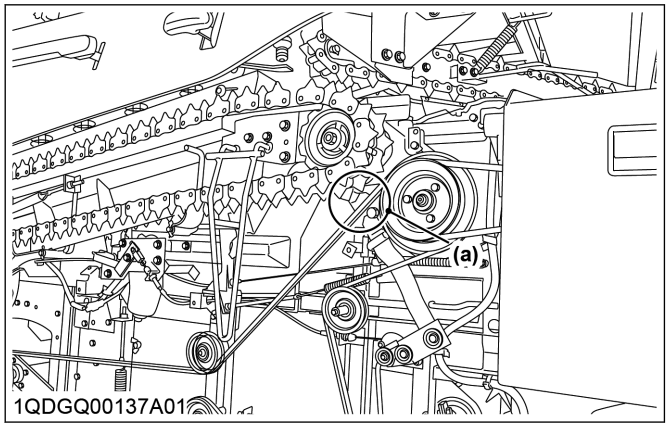
2.3.3.1 クローラ張りボルト（左、右）のグリース塗布箇所

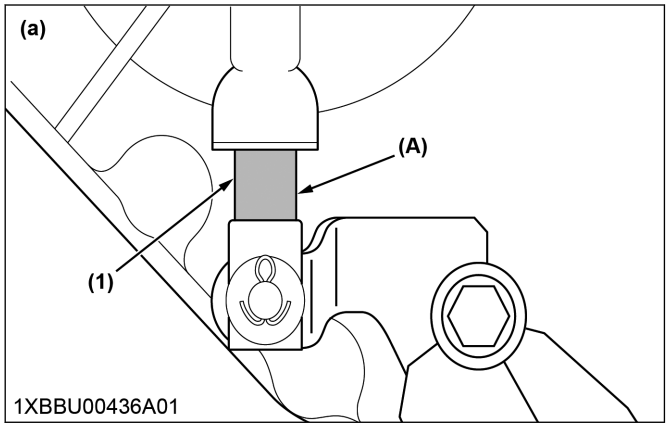




(1) 張りボルト
(A) グリース塗布
[a] イラストは *L* 仕様

2.3.3.2 フィードチェーンクラッチピンのグリース塗布箇所





(1) フィードチェーンクラッチピン　*(A)* グリース塗布

2.4 注油、ノズル掃除後の処置と確認

注油、ノズル掃除終了後は、取り外したり、開閉した掃除口カバーや安全カバーは必ず取り付けてください。

定期点検

定期点検は、コンバイン作業を行う人が定期的に行う点検です。

⚠ 警告

- **各部の調整、点検、交換を行うときは、各レバー類を“切”位置にして回転部を止め、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてから作業をしてください。**
- **点検、作業するときは、駐車ブレーキを掛けてください。また刈取部は一番下まで降ろしてください。もし刈取部を上げた状態で作業するときは、刈取下降ロックスイッチを“ロック”位置にして刈取部の下降防止を行ってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。**
- **エンジンルーム内の点検のためカバーを外すときは、内部がじゅうぶん冷え、ヤケドのおそれが無いことを確認してください。**
- **オイル交換中は火気厳禁です。**
- **刈刃やカッタの掃除や注油時は、手袋を着用し刃部に注意しながら行ってください。**
- **機械は平たんで、周りにわらくずなどの燃えやすいごみの無い場所へ置いてください。バッテリ、マフラやエンジン周辺部にごみや燃料の付着、泥の堆積などがあると火災の原因となります。**
- **燃料、オイルがこぼれた場合は、きれいに拭き取ってください。**
- **取り外した回転部のカバー類は、衣服などが巻き込み危険ですので、点検後は必ず取り付けから作業をしてください。**

コンバインは、使用時間と使用状況に応じて劣化が進み、その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくと故障や事故の原因となり、ひいてはコンバインの寿命を短くしてしまいます。
コンバインのもつ性能がいつまでもじゅうぶん発揮されるよう、定期的に点検を行いましょう。

重要：

- **エンジンを掛けた状態で長時間放置すると、DPF 装置に PM（ススなど粒子状物質）が堆積しやすくなりますのでご注意ください。また、駐車再生要求のブザーが鳴った場合、そのまま放置を続けると、DPF 装置の再生処理能力を超える PM（ススなど粒子状物質）が堆積し、DPF 装置にトラブルが発生する原因になります。**

補足：

- **専門的な技術や特殊工具を必要とする場合および定期点検一覧表（180 ページ）の“参照ページ”欄に☆印のある項目は、購入先または整備工場で行ってください。**
- **点検、交換の時期は、使用条件や環境に大きく左右されます。したがって 1 つの目安として早めの点検をお願いします。**

1. オイル、フィルタ類の交換とチェーン、ベルト、クローラの張り調整

- 新車時はコンバインの回転部、しゅう動部の各部品はなじみがついていませんので、ならし運転期間中に細かい金属粉が生じ、部品の極度な摩耗につながるおそれがあります。よって、オイル、フィルタ類は初期 50 時間で交換してください。
- チェーンやベルト類、クローラはならし運転中に初期伸びが発生します。チェーンやベルト類は初期 50 時間、クローラは初期 20 時間および 50 時間で張り調整をしてください。交換したときも同様です。

2. 廃棄物の処理について

⚠ 警告

廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながります。廃棄物を処理するときは次の注意事項を守ってください。

- **機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。**
- **地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。**
- **廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリ、ゴム類、その他の有害物を廃棄または焼却するときは、購入先または産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。**

3. 洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり、機械を破損、損傷、故障させることがありますので、高圧洗車機の取扱説明書、ラベルに従って、正しく使用してください。

⚠ 注意

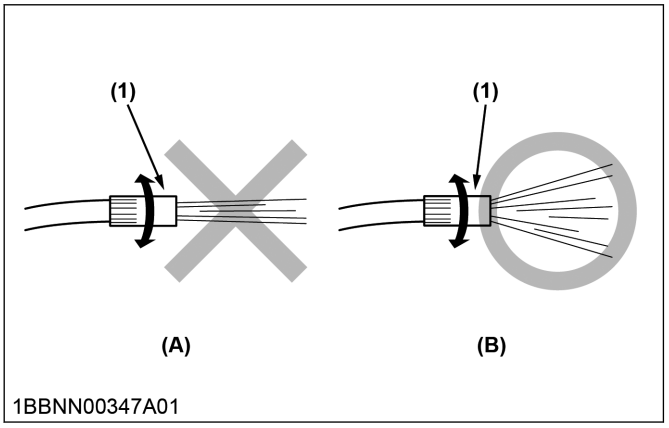
洗浄ノズルを拡散にし、2 m 以上離して洗車してください。
もし、直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると、次のような問題が発生するおそれがあります。

- **電気配線部被覆の損傷、断線により、火災を引き起こすおそれがあります。**
- **マフラ、排気管やその周辺の断熱材の破損、はがれにより、火災を引き起こすおそれがあります。**
- **油圧ホースの破損により、高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。**

重要：

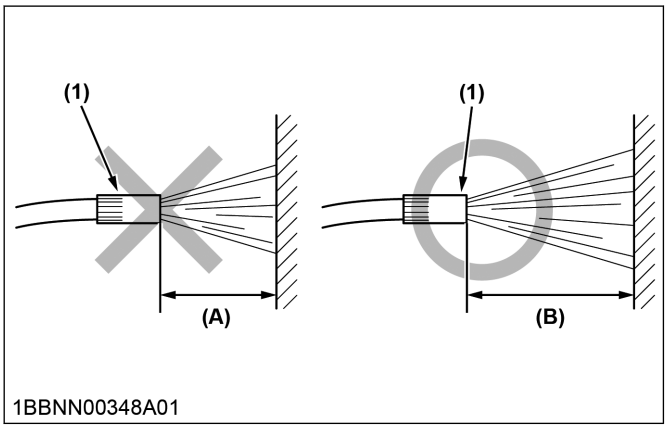
- **洗車のしかたが不適切な場合、次のような機械の破損、損傷、故障の原因になります。**
  - **シール、ラベルの剥がれ**
  - **電装部品、エンジン室内、ラジエータ室内、キャビン室内などへの浸入による故障**
  - **クローラ、タイヤ、オイルシールなどのゴム類、化粧カバーなどの樹脂部品、ガラスなどの破損**
  - **塗装、メッキ面の皮膜剥がれ**
  - **断熱材の破損、はがれによる火災**
- **直接オルタネータに水や油類を掛けないでください。発電不良の原因になります。**

直射洗車厳禁



(1) 洗浄ノズル
(A) 直射
(B) 拡散

近距離洗車厳禁



(1) 洗浄ノズル
(A) *2 m* 未満
(B) *2 m* 以上

4. 使用者が行ってはいけない修理

次の部位に異常があるときは、購入先に必ず連絡して修理を依頼してください。

- 結束部の結節部完備
- エンジン本体
- トランスミッション
- ベベルギヤを含むギヤを内蔵したケース類
- HST 含む油圧系統
- 電気部品と電気系統
- 刈取部の動力伝達系統
- エンジン正逆流ファン関係
- マフラ、排気管やその周辺の断熱材

重要：

- **分解、調整、交換などを自ら行うと機械のトラブルの原因となります。また、メーカ保証の対象外となりますのでご注意ください。**

5. 定期点検一覧表

エンジン部

処置項目：点検、調整、掃除、バンド締付け

点検項目	点検、処置／交換	点検、交換時期 アワメータ表示時間	対象型式	参照ページ
ファン駆動ベルト	調整	初回または交換後から 50 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	217 ☆
	交換	250 時間ごと		
エアクリーナエレメント	掃除	50 時間ごと	全型式	199
	交換	300 時間ごと（点検、掃除が 6 回目のときに交換）		
インレットパイプ	締付け	150 時間ごと、または 6 か月ごとの早いほうで点検、処置	全型式	200
	交換	300 時間ごと、または 2 年ごとの早いほうで交換		
油水分離器（セパレータ）のカップ	掃除	100 時間ごと	全型式	203
油水分離器（セパレータ）のエレメント	交換	200 時間ごと	全型式	
燃料フィルタカートリッジ	交換	400 時間ごと	全型式	204
エンジンオイルフィルタカートリッジ	交換	初回は 50 時間後、それ以降 200 時間ごと（エンジンオイルの交換が 2 回目のとき、同時に交換）	全型式	204
燃料ホース	締付け	150 時間ごと、または 6 か月ごとの早いほうで点検、処置	全型式	200 ☆
	交換	300 時間ごと、または 2 年ごとの早いほうで交換		
燃料こしあみ	掃除	100 時間ごと	全型式	189
オイルドレーンゴムホース	締付け	150 時間ごと、または 6 か月ごとの早いほうで点検、処置	全型式	200 ☆
	交換	300 時間ごと、または 2 年ごとの早いほうで交換		
ラジエータホース	締付け	150 時間ごと、または 6 か月ごとの早いほうで点検、処置	全型式	200 ☆
	交換	300 時間ごと、または 2 年ごとの早いほうで交換		
排水ホース	締付け	150 時間ごと、または 6 か月ごとの早いほうで点検、処置	全型式	200 ☆
	交換	300 時間ごと、または 2 年ごとの早いほうで交換		
オイルクーラホース	締付け	150 時間ごと、または 6 か月ごとの早いほうで点検、処置	全型式	200 ☆
	交換	300 時間ごと、または 2 年ごとの早いほうで交換		
防じんあみ、ラジエータフィン、オイルクーラフィン、燃料クーラフィン	掃除	50 時間ごと	全型式	202
DPF 差圧センサホース	交換	2 年ごと	全型式	☆
ブーストセンサホース	交換	2 年ごと	全型式	☆
EX マニホルド	点検	1 年ごと	全型式	☆
EX マニホルド取付ボルト	点検	1 年ごと	全型式	☆
DPF 差圧配管	点検	1 年ごと	全型式	☆
EGR システム配管	点検	1 年ごと	全型式	☆
EGR クーラ	点検	1500 時間ごと	全型式	☆
インジェクタ、アッシのノズル	点検	1500 時間ごと	全型式	☆
EGR システム	点検	3000 時間ごと	全型式	☆

（次へ続く）

点検項目	点検、処置／交換	点検、交換時期 アワメータ表示時間	対象型式	参照ページ
フィルタ、コンプ(DPF)	点検	3000 時間ごと	全型式	☆

- “参照ページ”欄に☆印のある整備項目（交換）については、購入先または整備工場で行ってください。
- 表の時間は作業条件、作物条件やメンテナンス（保守、点検）により異なる場合があります。

重要：
- **各ベルト、各ワイヤを交換したあとは、ならし運転後の点検と調整を行ってください。**

走行部、操作部
処置項目：点検、調整、掃除

点検項目		点検、処置／交換	点検、交換時期 アワメータ表示時間	対象型式	参照ページ
ミッション駆動ベルト		調整	初回または交換後から 20 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	218 ☆
		交換	300 時間ごと		
駐車ブレーキワイヤ		調整	初回または交換後から 50 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	207 ☆
		交換	300 時間ごと		
駐車ブレーキディスク		交換	300 時間ごと、または 2 年ごとの早いほうで交換	全型式	☆
刈取駆動プーリ		交換	500 時間ごと	全型式	☆
主変速レバー連結ロッドのリンクボール		交換	500 時間ごと	全型式	☆
HST オイルフィルタカートリッジ		交換	初回は 50 時間後、それ以降 400 時間ごと（ミッションオイルを 2 回交換するごとに同時に交換）	全型式	205
油圧サクションオイルフィルタカートリッジ		交換	初回は 50 時間後、それ以降 400 時間ごと（ミッションオイルを 2 回交換するごとに同時に交換）	全型式	205
クローラ		調整	初回または交換後から 20 時間後、および 50 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	245 ☆
		交換	500 時間ごと		
反射器		交換	破損しているとき	全型式	245 ☆
車幅灯ラベル		交換	破損しているとき	全型式	☆
ドライブスプロケット		交換	300 時間ごと	全型式	☆
トラックローラ	固定転輪、揺動転輪	点検	100 時間ごと	全型式	247 ☆
		交換	500 時間ごと、またはリブの厚さが 2 mm 以下のとき		
テンションローラ（後輪）、キャリアローラ、クローラガイド（前、後）		交換	500 時間ごと	全型式	☆
モンローリンク、揺動転輪軸部のブッシュ		交換	500 時間ごと	全型式	☆
車軸、トラックローラ、テンションローラ、キャリアローラのシール		交換	300 時間ごと	全型式	☆
トラックローラ、テンションローラ、キャリアローラのベアリング		交換	500 時間ごと	全型式	☆

- “参照ページ”欄に☆印のある整備項目（交換）については、購入先または整備工場で行ってください。
- 表の時間は作業条件、作物条件やメンテナンス（保守、点検）により異なる場合があります。

重要：
- **各ベルト、各ワイヤを交換したあとは、ならし運転後の点検と調整を行ってください。**

刈取部
処置項目：点検、調整

点検項目	点検、処置／交換	点検、交換時期 アワメータ表示時間	対象型式	参照ページ
刈取駆動ベルト	調整	初回または交換後から 20 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	218 ☆
	交換	300 時間ごと		
補助搬送（突起付）ベルト	調整	初回または交換後は 50 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	219 ☆
	交換	500 時間ごと		
刈取クラッチワイヤ	調整	初回または交換後は 20 時間後、それ以降 50 時間ごと	全型式	208 ☆
	交換	500 時間ごと		
引起しチェーン	調整	初回または交換後から 50 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	225 ☆
	交換	300 時間ごと		
引起し爪	交換	300 時間ごと	全型式	
引起しローラ	交換	500 時間ごと	全型式	☆
引起しスプロケット、引起しテンションスプロケット、引起し駆動シャーピン	交換	500 時間ごと	全型式	☆
引起しフレーム、引起しカバー	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
引起しスライドレール、クッションゴム	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
供給サポートチェーン	調整	初回または交換後から 50 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	227 ☆
	交換	300 時間ごと		
供給サポートチェーン駆動チェーン	交換	300 時間ごと	全型式	228 ☆
供給サポートチェーンの駆動シャーピン、ローラベアリング	交換	500 時間ごと	全型式	☆
供給サポートチェーンの駆動スプロケット	交換	300 時間ごと	全型式	☆
右穂先チェーン	交換	300 時間ごと	全型式	124 ☆
右穂先爪	交換	300 時間ごと	全型式	
右株元チェーン	調整	初回または交換後から 50 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	226 ☆
	交換	400 時間ごと		
右穂先チェーンのローラボールベアリング、アイドルスプロケット	交換	500 時間ごと	全型式	☆
右穂先カバー、右穂先フレーム	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
左穂先フレーム　上、下	交換	1000 時間ごと	全型式	☆
左株元レール、供給フレームガイド、供給ガイド、株元押え	交換	800 時間ごと	全型式	☆
株元供給チェーン	調整	初回または交換後から 50 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	227 ☆
	交換	400 時間ごと		
株元供給チェーンのローラボールベアリング、テンションローラボールベアリング	交換	500 時間ごと	全型式	☆
左穂先チェーン	交換	300 時間ごと	全型式	226 ☆
左穂先爪	交換	300 時間ごと	全型式	
左株元チェーン	調整	初回または交換後から 50 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	226 ☆
	交換	400 時間ごと		

（次へ続く）

点検項目	点検、処置／交換	点検、交換時期 アワメータ表示時間	対象型式	参照ページ
左株元チェーンのローラボールベアリング	交換	500 時間ごと	全型式	☆
左穂先チェーンのローラボールベアリング、アイドルスプロケット	交換	500 時間ごと	全型式	☆
こぎ深さチェーン	調整	初回または交換後から 50 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	228 ☆
	交換	300 時間ごと		
こぎ深さテンションローラのボールベアリング	交換	500 時間ごと	全型式	☆
こぎ深さチェーン押え	交換	800 時間ごと	全型式	☆
刈刃	調整	初回または交換後から 50 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	229
	交換	300 時間ごと		
刈刃クランクピン、ローラ、ベアリング、ベアリングホルダ、オイルシール	交換	300 時間ごと	全型式	☆
株元センサ	交換	800 時間ごと	全型式	☆
穂先センサ 株元側、穂先側	交換	800 時間ごと	全型式	☆
パッカ	交換	800 時間ごと	全型式	☆

- “参照ページ”欄に☆印のある整備項目（交換）については、購入先または整備工場で行ってください。
- 表の時間は作業条件、作物条件やメンテナンス（保守、点検）により異なる場合があります。

重要：
- **各ベルト、各チェーン、各ワイヤを交換したあとは、ならし運転後の点検と調整を行ってください。**

脱こく部
処置項目：点検、調整

点検項目	点検、処置／交換	点検、交換時期 アワメータ表示時間	対象型式	参照ページ
脱こく駆動ベルト	調整	初回または交換後から 20 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	219 ☆
	交換	300 時間ごと		
こぎ胴駆動ベルト	調整	初回または交換後から 20 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	221 ☆
	交換	300 時間ごと		
こぎ胴駆動ケース駆動ベルト	点検	初回または交換後から 20 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	220 ☆
	交換	300 時間ごと		
脱こくクラッチワイヤ	調整	初回または交換後から 20 時間後、それ以降 50 時間ごと	全型式	208 ☆
	交換	500 時間ごと		
1 番・2 番・チェーン駆動ベルト	調整	初回または交換後から 20 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	221 ☆
	交換	300 時間ごと		
揺動駆動ベルト	調整	初回または交換後から 20 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	221 ☆
	交換	300 時間ごと		
フィードチェーン	調整	初回または交換後から 50 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	228 ☆
	交換	400 時間ごと		
フィードチェーンクラッチスプリング	調整	100 時間ごと、または 1 年ごとの早いほう	全型式	237
フィードチェーンクラッチピン	交換	200 時間ごと	全型式	☆

（次へ続く）

点検項目		点検、処置／交換	点検、交換時期 アワメータ表示時間	対象型式	参照ページ
フィードチェーン停止ワイヤ		調整	100 時間ごと、または 1 年ごとの早いほう	全型式	207
排わら穂先チェーン		交換	300 時間ごと	全型式	229 ☆
排わら穂先搬送爪		交換	300 時間ごと		☆
排わら株元チェーン		交換	300 時間ごと	全型式	229 ☆
排わら入力チェーン		交換	300 時間ごと	全型式	229 ☆
わら切刃	穂先側	交換	200 時間ごと	全型式	233
こぎ歯		交換	300 時間ごと	全型式	232
受あみ 1		交換	400 時間ごと	全型式	153
フロントハンプ		交換	400 時間ごと	全型式	☆
1 番縦スクリュ		交換	400 時間ごと	全型式	☆
1 番スクリュ		交換	500 時間ごと	全型式	☆
1 番直交部板金ケース	側板固定側	交換	400 時間ごと	全型式	☆
2 番縦スクリュ		交換	500 時間ごと	全型式	☆
2 番スクリュ		交換	500 時間ごと	全型式	☆
2 番縦スクリューケース		交換	500 時間ごと	全型式	☆
2 番処理ケース		交換	500 時間ごと	全型式	☆
ツース	2 番固定歯	交換	500 時間ごと	全型式	☆
	2 番回転歯	交換	500 時間ごと	全型式	☆

- “参照ページ”欄に☆印のある整備項目（交換）については、購入先または整備工場で行ってください。
- 表の時間は作業条件、作物条件やメンテナンス（保守、点検）により異なる場合があります。

重要：
- **各ベルト、各チェーン、各ワイヤを交換したあとは、ならし運転後の点検と調整を行ってください。**

グレンタンク部
処置項目：点検、調整

点検項目	点検、処置／交換	点検、交換時期 アワメータ表示時間	対象型式	参照ページ
タンク駆動ケース駆動ベルト	調整	初回または交換後から 20 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	222 ☆
	交換	300 時間ごと		
もみ排出クラッチワイヤ	調整	初回または交換後から 50 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	212 ☆
	交換	500 時間ごと		
スクリュ駆動ベルト	調整	初回または交換後から 20 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	223 ☆
	交換	300 時間ごと		
吐出口ブーツ	交換	破損しているとき	全型式	237
底スクリュ軸	交換	300 時間ごと	全型式	☆
縦スクリュ軸	交換	300 時間ごと	全型式	☆

- “参照ページ”欄に☆印のある整備項目（交換）については、購入先または整備工場で行ってください。
- 表の時間は作業条件、作物条件やメンテナンス（保守、点検）により異なる場合があります。

重要：
- **各ベルト、各ワイヤを交換したあとは、ならし運転後の点検と調整を行ってください。**

カッタ部
処置項目：点検、調整

点検項目	点検、処置／交換	点検、交換時期 アワメータ表示時間	対象型式	参照ページ
カッタ駆動ベルト	調整	初回または交換後から 20 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	222 ☆
	交換	300 時間ごと		
カッタ切換えカバー開閉ワイヤ	調整	初回または交換後から 50 時間後、それ以降 100 時間ごと	全型式	209
	交換	500 時間ごと		
カッタ刃	交換	150 時間ごと	全型式	234 ☆
供給軸と切断軸のナット	増締め	初回または交換後から 50 時間後、それ以降 200 時間ごと	全型式	234

- “参照ページ”欄に☆印のある整備項目（交換）については、購入先または整備工場で行ってください。
- 表の時間は作業条件、作物条件やメンテナンス（保守、点検）により異なる場合があります。

重要：
- **各ベルト、各ワイヤを交換したあとは、ならし運転後の点検と調整を行ってください。**

電装部
処置項目：点検、充電

点検項目	点検、処置／交換	点検、交換時期 アワメータ表示時間	対象型式	参照ページ
バッテリ	充電	インジケータの色が黒色のとき	全型式	237
	交換	インジケータの色が透明のとき		
ワイヤハーネス、バッテリコード	点検	50 時間ごと	全型式	237、241 ☆
	交換	破損しているとき		
ヒューズ、スローブローヒューズ	点検	100 時間ごと	全型式	241
	交換	破損しているとき		
ランプ（電球）	点検	100 時間ごと	全型式	244
	交換	破損しているとき		
ホーンスイッチ	点検	100 時間ごと	全型式	244 ☆
	交換	破損しているとき		

- “参照ページ”欄に☆印のある整備項目（交換）については、購入先または整備工場で行ってください。
- 表の時間は作業条件、作物条件やメンテナンス（保守、点検）により異なる場合があります。

6. 給油、給水、注油点検一覧表

燃料

点検箇所	処置	点検、処置時期 アワメータ表示時間		容量、規定量(L)	種類	参照ページ
		点検	処置			
燃料タンク	給油	作業前または作業後	—	**容量** 約 40	ディーゼル軽油	189

- 表の時間は作業条件、作物条件、メンテナンス（保守、点検）により、異なる場合があります。

重要：
各部への補給と交換
- **点検するときは機体を水平な場所に置いて行ってください。機体が傾いていると正確な量を示しません。**
- **補給や交換の際は、ゴミや水が混入しないようにしてください。**

オイル

点検箇所		処置	点検、処置時期 アワメータ表示時間		容量、規定量(L)	種類	参照ページ
			点検	処置			
エンジン		補給、交換	作業前または作業後	初回は 50 時間目 2 回目以降は、200 時間ごとまたは 1 年ごとの早いほうで交換	**容量** 約 7.3 **規定量** オイルゲージの“下限”と“上限”の間	指定オイル D10W-30 DH-2	190
集中注油オイルタンク		補給		—	**容量** 約 4	指定オイル D10W-30	168
トランスミッションケース		補給、交換	50 時間ごと	初回は 50 時間目 2 回目以降は、200 時間ごとまたは 1 年ごとの早いほうで交換	**規定量** 約 10.0 検油窓からオイルが見えるまで	指定オイルスーパー UDT-2	191
フィードチェーン駆動ケース		補給	—	分解時	**容量** 約 0.6	指定オイル M80B または M90	192
こぎ胴駆動ケース					**容量** 約 0.15		193
引起しチェーン		注油	作業前または作業後	—	適量	指定オイル D10W-30	168
搬送レールピン支持部							
供給チェーン	株元、穂先						
フィードチェーン							
排わらチェーン	株元、穂先						
排わらチェーンテンション部	株元、穂先						
カッタ駆動ギヤ、ギヤスプロケット							

- 表の時間は作業条件、作物条件、メンテナンス（保守、点検）により、異なる場合があります。

重要：
各部への補給と交換
- **点検するときは機体を水平な場所に置いて行ってください。機体が傾いていると正確な量を示しません。**
- **使用するオイルは、必ず指定オイルを使用してください。**
- **補給や交換の際は、ゴミや水が混入しないようにしてください。**

水、液

点検箇所	処置	点検、処置時期 アワメータ表示時間		容量、規定量(L)	種類	参照ページ
		点検	処置			
リザーブタンクの冷却水	補水、交換	作業前または作業後	2 年ごと 冬期停止時は排出、または不凍液を入れる	**規定量** タンク側面の*"L"*（下限）と*"F"*（上限）の間 ***"L"* (LOW)** 0.15 ***"F"* (FULL)** 1.1	清水	197

- 表の時間は作業条件、作物条件、メンテナンス（保守、点検）により、異なる場合があります。

重要：
各部への補給と交換
- **点検するときは機体を水平な場所に置いて行ってください。機体が傾いていると正確な量を示しません。**
- **補給や交換の際は、ゴミや水が混入しないようにしてください。**

グリース

走行部

点検箇所		処置	点検、処置時期 アワメータ表示時間		容量、規定量(L)	種類	参照ページ
			点検	処置			
固定転輪部		補給	作業シーズン終了後	—	適量	指定グリース No.2	193
揺動転輪部	**[L 仕様]**						
後輪部							
スイングアーム部	**[L 仕様]**						
トラックフレーム部	**[L 仕様]**						

刈取部

点検箇所	処置	点検、処置時期 アワメータ表示時間		容量、規定量(L)	種類	参照ページ
		点検	処置			
刈取部各ケース	補給	分解時	—	適量	指定グリース No.2	☆
刈取軸受						

脱こく部

点検箇所	処置	点検、処置時期 アワメータ表示時間		容量、規定量(L)	種類	参照ページ
		点検	処置			
排わらベベルケース	補給	分解時	—	適量	指定グリース No.2	☆
1 番ベベルケース						
2 番ベベルケース						
2 番チェーンケース						
揺動ギヤケース						

グレンタンク部

点検箇所		処置	点検、処置時期 アワメータ表示時間		容量、規定量(L)	種類	参照ページ
			点検	処置			
グレンタンク駆動ケース		補給	分解時	—	適量	指定グリース No.2	☆
アンローダケース 1、2、3							
縦スクリューケース	アンローダブラケット部		200 時間ごと				193
	旋回モータベース部						
アンローダケース 2							

- “参照ページ”欄に☆印のある整備項目（交換）については、購入先または整備工場で行ってください。
- 表の時間は作業条件、作物条件、メンテナンス（保守、点検）により、異なる場合があります。

重要：
各部への補給と交換
- **点検するときは機体を水平な場所に置いて行ってください。機体が傾いていると正確な量を示しません。**
- **使用するグリースは、必ず指定グリースを使用してください。**
- **補給や交換の際は、ゴミや水が混入しないようにしてください。**

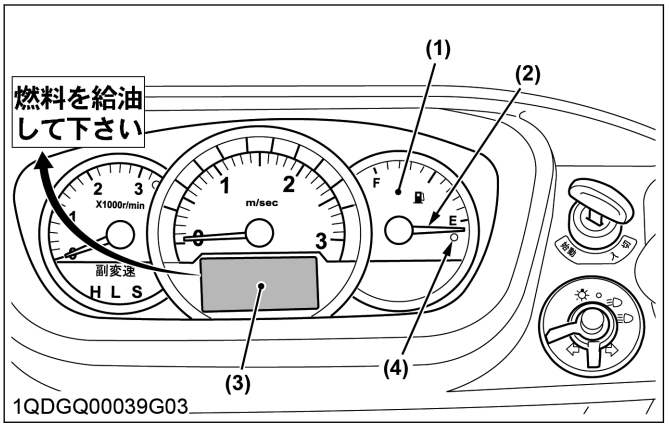
7. 燃料、オイル、グリースの点検、補給、交換

警告
- **燃料やオイル補給中は火気厳禁です。**
- **燃料を補給する前に給油口やタンク周辺のごみを取り除いてください。**
- **燃料やオイルを補給または交換したあと、こぼれた燃料やオイルは必ずきれいに拭き取ってください。また、燃料漏れや油漏れがあるときは購入先に連絡してください。**

重要：
- **点検するときは、水平で平たんな場所にコンバインを移動して行ってください。コンバインが傾いていると正しいオイルの量が測定できません。**
- **コンバインの故障の原因となりますので次の事項を守ってください。**
  - **廃油は使用しないでください。**
  - **オイルを補給するときは、現在使用しているオイルと同じメーカ、同じ品質（粘度など）のオイルを補給してください。また、異なるメーカ、異なる品質（粘度など）のオイルを使用するときは、オイルをすべて排出してから新しいオイルと交換してください。**
  - **燃料やオイルを補給、交換するときは、ゴミや異物の混入を防ぐため、給油口付近を掃除してください。また、給油口からゴミなどの異物を入れないでください。**
  - **オイルを補給するとき、規定量の上限以上にオイルを補給しないでください。**
  - **使用するオイルは、必ず指定オイルを使用してください。指定オイルの入手が困難な場合は推奨オイルを使用してください。また、指定オイルや推奨オイル以外のオイルを使用して、コンバインの機能が低下したり事故が起こった場合は、弊社は責任を負いませんので注意してください。**

8. 燃料の補給

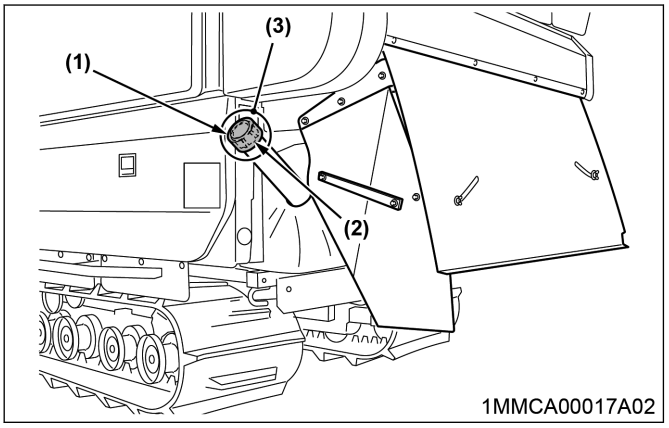
燃料計の指針が**[E]**（空）に近づくと、燃料残量警告ランプが点灯すると同時にマルチナビの液晶ディスプレイに〝燃料を給油して下さい〟と表示し、ブザーが鳴ります（燃料警報）。そのときは給油してください。



(1) 燃料計
(2) 指針
(3) 液晶ディスプレイ
(4) 燃料残量警告ランプ

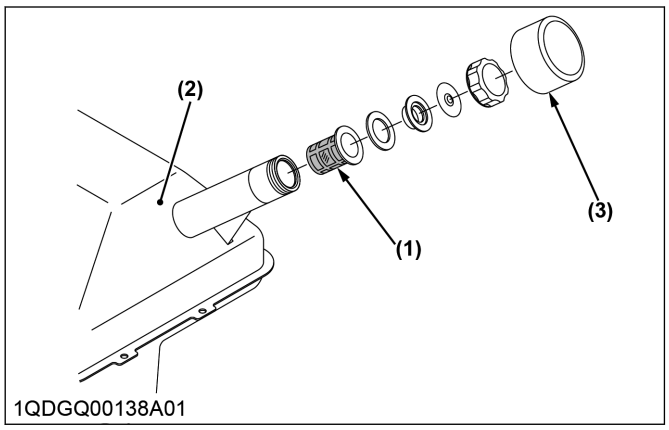
8.1 燃料の給油

燃料を給油するときは、ゴムキャップを外したあと、燃料キャップを外してください。



(1) ゴムキャップ
(2) 燃料キャップ
(3) 給油口

重要：
- **給油口の燃料こしあみは外さないでください。燃料タンクにゴミなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。**
- **ゴムキャップを付けたままで燃料キャップを付け外ししないでください。燃料キャップのねじ部が破損する原因となります。**



(1) 燃料こしあみ
(2) 燃料タンク
(3) ゴムキャップ

8.2 燃料の補給方法

1. 平たんな場所でエンジンを止め、ゴムキャップを外したあと燃料キャップを外します。
2. 給油口から燃料を給油します。
   メインスイッチのキーを**[入]**位置にセットすると、燃料が満タン近くになったとき満タンお知らせ機能がはたらき、ブザーが鳴ります。また、同時に液晶ディスプレイに〝燃料が満タンです〟と表示します。

燃料の種類	燃料タンク容量
ディーゼル軽油	約 40 L

補足：
- **“満タンお知らせ機能”は、ブザーが 5 回鳴ると停止します。**
- **ブザーが鳴ったあと、あふれないように注意してください。**
- **“満タンお知らせ機能”は次の条件のとき、はたらかない場合があります。**
  - **エンジン停止後約 20 秒間**
  - **給油中に機体を揺らしたり、急激に給油したとき**
  - **給油量が少ないとき**
  - **機体が極端に傾いているとき**

3. 給油後は、燃料キャップとゴムキャップを取り付けます。

9. エンジンオイルの点検、補給、交換

⚠ 警告
- **エンジンオイルの点検、補給、交換時は、エンジンを必ず止めて、エンジンがじゅうぶん冷えてから、メインスイッチのキーを抜いて作業してください。ヤケドするおそれがあります。**
- **傾斜地では、グレンタンクを開閉しないでください。**

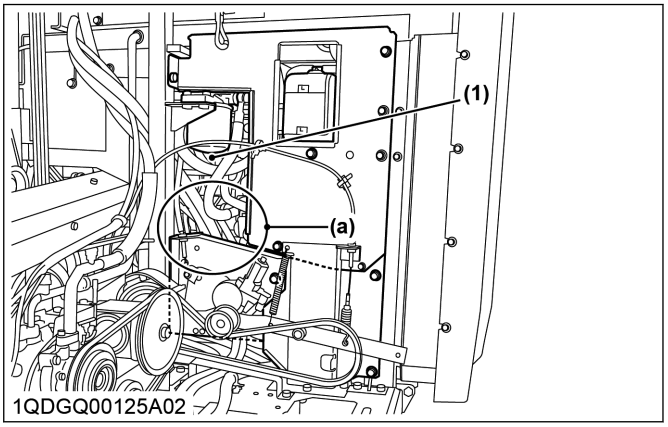
1. グレンタンクを開きます。
2. 運転席後カバー 1、2 を取り外します。
3. エンジンのオイル量を点検し、必要であれば補給、交換します。

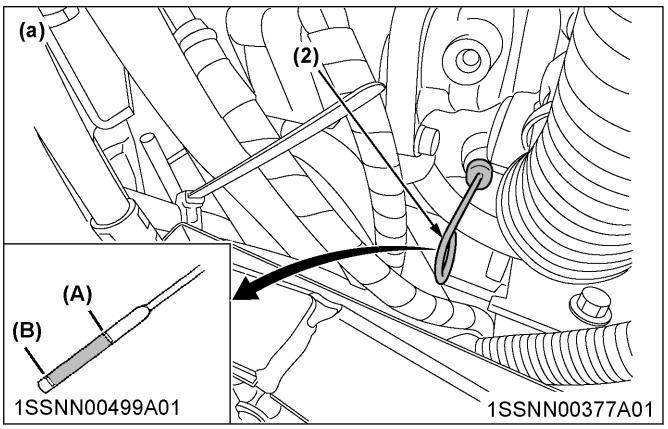
   重要：
   - **エンジンオイルをオイルゲージの“上限”以上給油しないでください。エンジントラブルの原因となります。**
   - **DPF（ディーゼル・パーティキュレート・フィルタ）付きエンジンでは、再生時に燃料の一部がエンジンオイルに混ざり、エンジンオイルが希釈（増加）される場合があります。オイルゲージの上限を超えた場合は、オイル希釈が限界を超え故障の原因になるので直ちにエンジンオイルを交換してください。**

4. 点検、補給、交換後は、運転席後カバー 1、2 を取り付けます。
5. グレンタンクを閉じます。

9.1 エンジンオイルの点検、補給

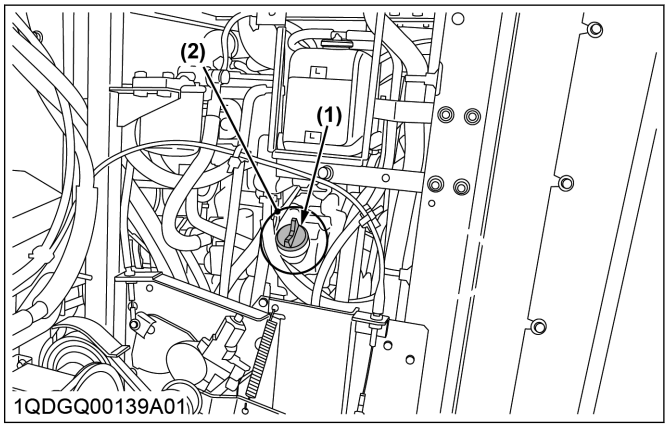
1. エンジン停止後、数分たってからオイルゲージを抜いて、先端をきれいに拭き取ります。
2. もう一度オイルゲージをいっぱいまで差し込んでから抜き、ゲージの“上限”と“下限”の間にエンジンオイルがあるか点検します。





(1) エンジン
(2) オイルゲージ
(A) 上限
(B) 下限

3. エンジンオイルが不足しているときは、給油口から規定量になるまで給油します。



(1) 給油栓　　*(2)* 給油口

4. さらに、油漏れの無いことも調べます。

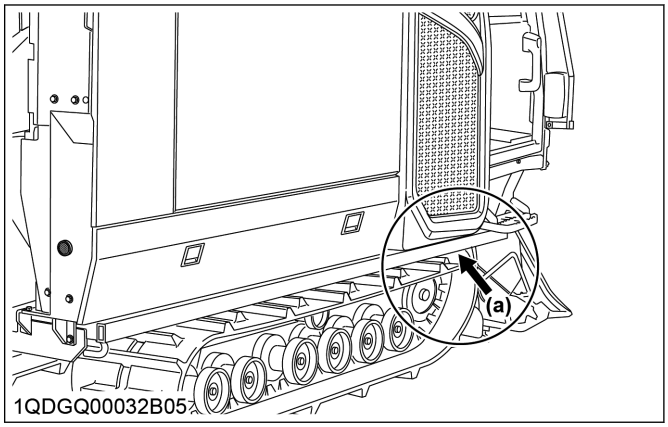
9.2 エンジンオイルの交換

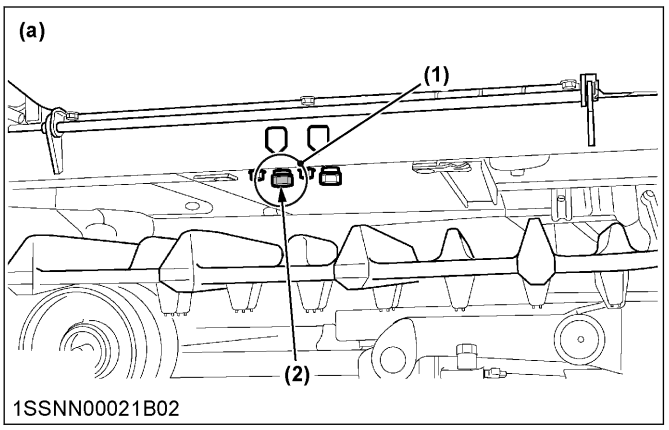
補足：

- **エンジンオイルの交換と同時に、エンジンオイルフィルタカートリッジも交換してください。（エンジンオイルフィルタカートリッジの交換（204 ページ）を参照）**

9.2.1 エンジンオイルの排油のしかた

1. 給油栓を外します。
2. 排油プラグを外し、排油口からオイルを排出します。





(1) 排油口　　*(2)* 排油プラグ

3. 排油プラグを取り付けます。

重要：

- **排油プラグを締め忘れると油漏れが発生し、クローラの劣化やエンジントラブルの原因となります。**

9.2.2 エンジンオイルの給油のしかた

1. グレンタンクを開きます。
2. 給油口から規定量のオイルを給油し、給油栓を締め付けます。

重要：

- **指定以外のオイルを使用すると、出力が低下したり、エンジンオイルが異常に消耗または劣化し、エンジントラブルの原因となります。**

オイルの種類	規定オイル量
指定オイル（ディーゼルエンジン用） D10W-30 DH-2	約 7.3 L

3. エンジンを始動し、アイドリング状態で約 1 分間運転します。
4. エンジンを停止したあと、5 分間以上たってからオイル量を点検します。
5. オイル量が不足しているときは、規定量になるまでエンジンオイルを追加補給します。

給油後

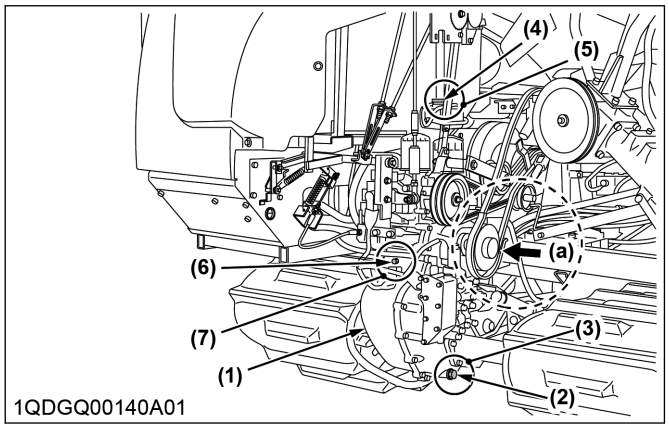
1. 取り外していた運転席後カバー 1、2 を取り付けます。
2. グレンタンクを閉じます。

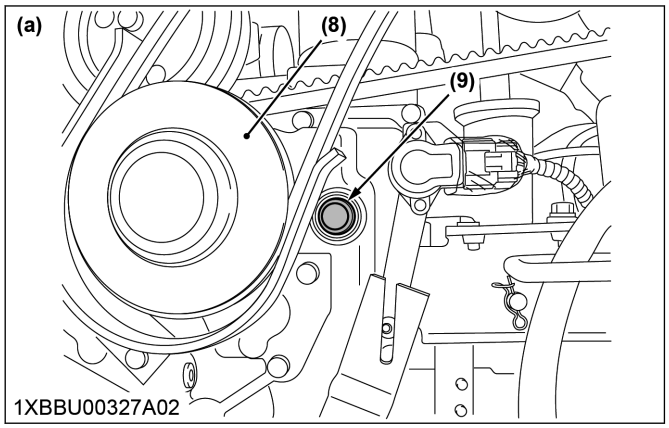
10. トランスミッションケースオイルの点検、補給、交換

⚠ 警告

- **刈取部の開閉を行うときは、平たんで安全な場所で、機体を最下降位置にしてエンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてから行ってください。**
- **傾斜地では、刈取部の開閉は行わないでください。**

- **刈取部を開いた状態で作業を行う場合は、枕木などで刈取部の下降防止の歯止めをしてください。**
- **刈取部を開いたときは、閉じないようにストッパを必ず掛けてください。**
- **刈取部各部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**





(1) トランスミッションケース
(2) 排油プラグ
(3) 排油口
(4) 給油栓
(5) 給油口
(6) 検油プラグ
(7) 検油口
(8) 刈取駆動プーリ
(9) 検油窓

オイルの種類	規定オイル容量
指定オイル スーパー UDT-2	約 10.0 L

点検
1. 刈取部を最上昇位置にします。
2. 刈取下降ロックスイッチを“ロック”位置にして刈取部の下降防止を行います。
3. トランスミッションケースのオイル量を点検します。
4. 点検後は刈取部を降ろします。

補給、交換
1. 刈取部を開きます。
2. トランスミッションケースオイルを補給、交換します。
3. 補給、交換後は刈取部を閉じます。

10.1 トランスミッションケースオイルの点検、補給

1. 刈取駆動プーリの後側にある検油窓を確認し、オイル量を点検します。
   油面が検油窓で確認できる範囲にあればトランスミッションケースオイルは適正量です。
2. オイル量が不足しているときは、給油口から規定量になるまで給油します。
3. さらに、油漏れの無いことも調べます。

10.2 トランスミッションケースオイルの交換

補足：
- **トランスミッションケースオイルの交換と同時に、トランスミッションオイルフィルタカートリッジも交換してください。**
  （HST オイルフィルタカートリッジ、油圧サクションオイルフィルタカートリッジの交換（205 ページ）を参照）

10.2.1 トランスミッションケースオイルの排油のしかた

1. 給油栓を外します。
2. 排油プラグを外し、トランスミッションケースオイルを排出します。

10.2.2 トランスミッションケースオイルの給油のしかた

排油プラグを締め付けてください。

1. 給油口から規定量のトランスミッションケースオイルを給油します。

   重要：
   - **給油したあと、エンジンをアイドリング状態で約 1 分間運転してエンジンを停止し、5 分間以上たってから再度点検を行い、検油窓からオイルが見えないときは、トランスミッションケースオイルを追加補給してください。**

   補足：
   - **トランスミッションケースオイルを規定量以上入れ過ぎて検油窓からオイル量が確認できないときは、検油プラグを取り外してオイルを適量排出してください。**

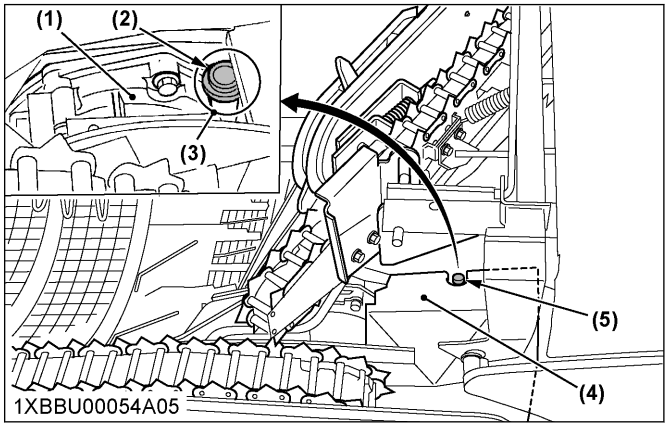
給油後
給油栓と検油プラグを締め付けます。

11. フィードチェーン駆動ケースオイルの補給

⚠ 警告
- **こぎ胴を開くときは、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてください。中でこぎ歯**

が高速で回転しているので接触するとケガをします。

1. こぎ胴を開きます。
2. ボルトを取り外して左サイドカバー内 2 を外します。
3. フィードチェーン駆動ケースのオイルを補給します。



(1) フィードチェーン駆動ケース
(2) 給油栓
(3) 給油口
(4) 左サイドカバー内 2
(5) ボルト

補給後
左サイドカバー内 2 を取り付けます。

11.1 フィードチェーン駆動ケースオイルの補給方法

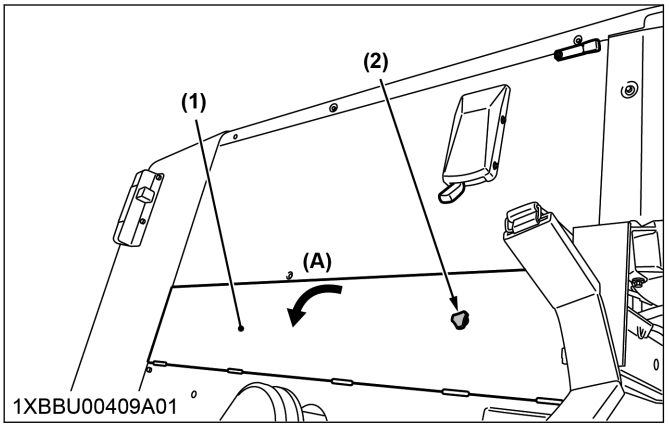
1. 給油栓を外して、フィードチェーン駆動ケースオイルを適量補給します。

オイルの種類	オイル容量
指定オイル M90 または M80B	約 0.6 L

補給後
1. 取り外していた左サイドカバー内 2 を取り付けます。
2. 最後にこぎ胴を閉じます。

12. こぎ胴駆動ケースオイルの補給

1. 脱こく部上部の上部カバー 2 を、ノブボルトを引いて開きます。

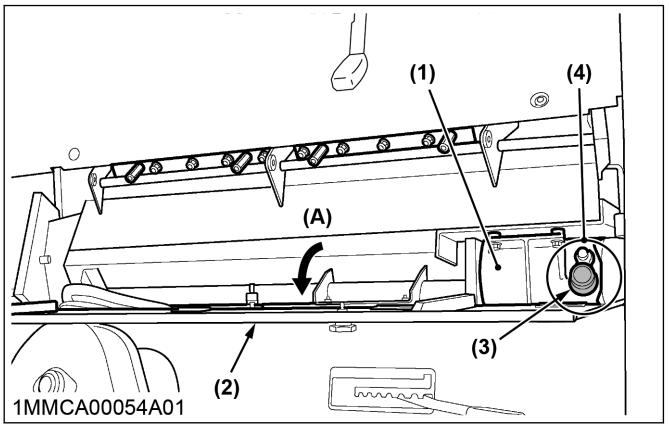


(1) 脱こく上部カバー右
(2) ノブボルト
(A) 開く

2. こぎ胴駆動ケースのオイル量を点検し、必要であれば補給します。

12.1 こぎ胴駆動ケースオイルの補給方法

1. 給油栓を外して、こぎ胴駆動ケースオイルを適量補給します。



(1) こぎ胴駆動ケース
(2) 上部カバー 2
(3) 給油栓
(4) 給油口
(A) 開く

オイルの種類	オイル容量
指定オイル M80B または M90	約 0.15 L

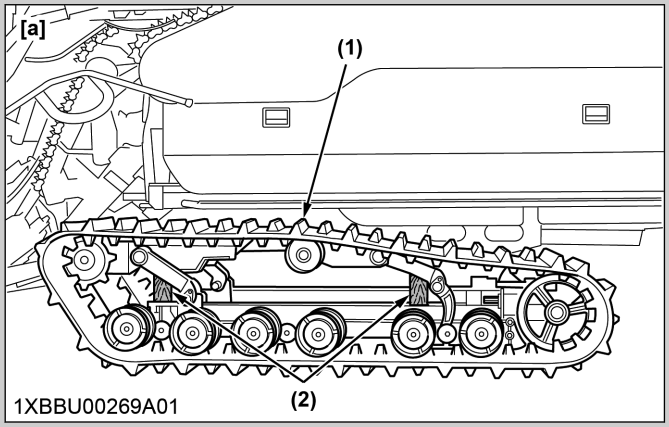
補給後
上部カバー 2 を閉じます。

13. 各部のグリース補給

⚠ 警告
- **グリースの補給を行うときは、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてから行ってください。**
- **クローラ周辺部にグリースを補給するときは、次のように処置してください。**

1. **［L 仕様］平たんな場所で車体水平制御の水平操作手動スイッチを操作して、機体を最上昇位置にします。**

［L 仕様］



(1) クローラ *[a]* イラストは左側
(2) 枕木

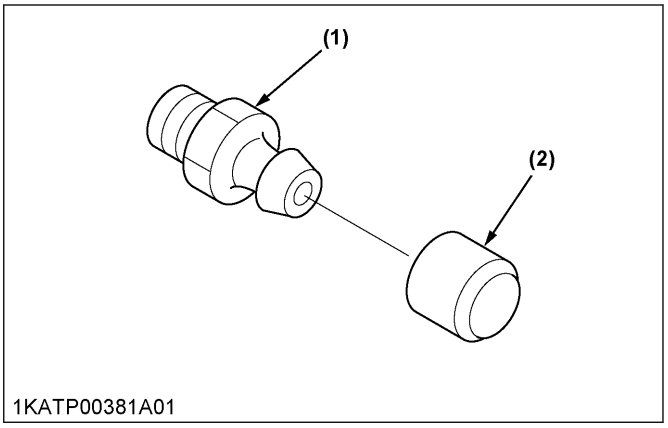
2. **刈取部を上げて、刈取下降ロックスイッチを“ロック”位置にして刈取部の下降防止を行います。**
3. **さらに、枕木などを使用して、落下防止の歯止めをします。**

重要：
- **グリースガンを押してもグリースが入らなくなったときは、補給を中止してください。**

13.1 グリースニップルからのグリース補給

グリースをグリースニップルから補給してください。また、グリースを補給するときは、グリースガンなどのグリースを補給する専用工具を使用してください。

補足：
- **グリースニップルはストレートタイプと L 字タイプがあります。**
- **指定グリース No.2 をグリースニップルから補給してください。**
  走行部（転輪、後輪、スイングアーム各部）にグリースの補給を行うときは、各グリースニップルのキャップを取り外してください。また、補給が終わったあと、各グリースニップルにキャップを取り付けてください。



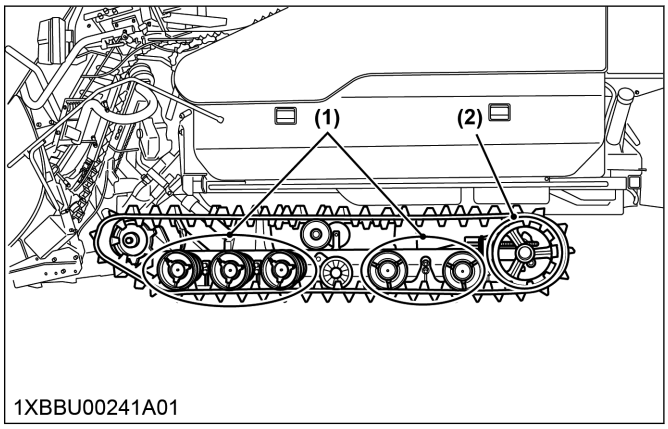
(1) グリースニップル *(2)* キャップ

- **グリース注入後は、グリースニップルのキャップを必ず取り付けてください。洗車時に水が浸入するおそれがあります。**

13.2 固定転輪部、後輪部のグリース補給［L 仕様除く］

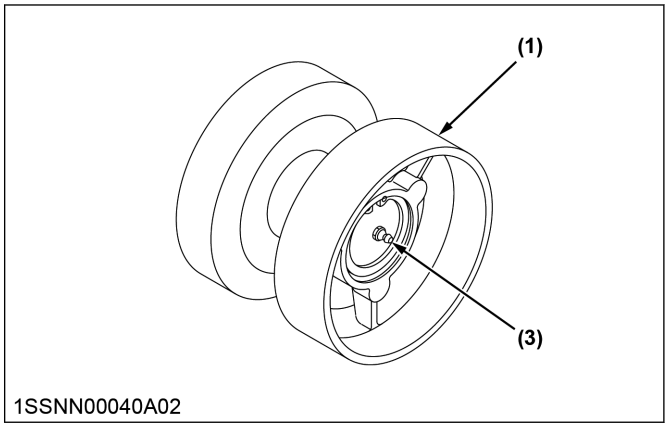
グリース補給部	グリース補給箇所
固定転輪部	左、右各 5 か所
後輪部	左、右各 1 か所

1. グリースニップルからグリースを補給します。



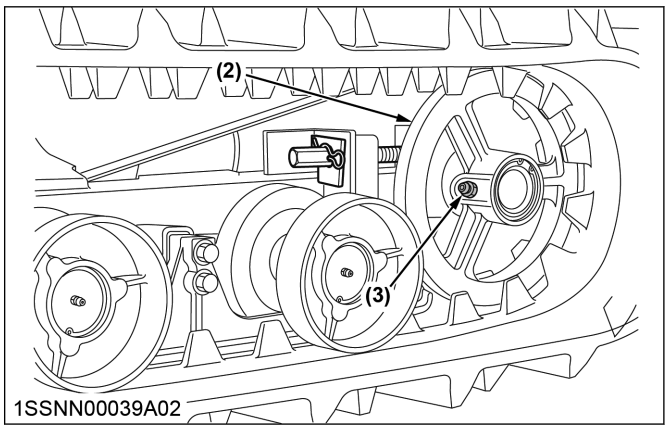
(1) 固定転輪 *(2)* 後輪

(1)固定転輪の詳細



(3) グリースニップル

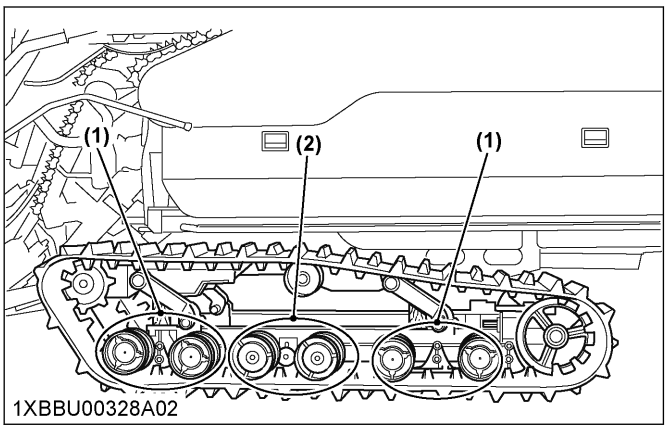
(2)後輪の詳細



(3) グリースニップル

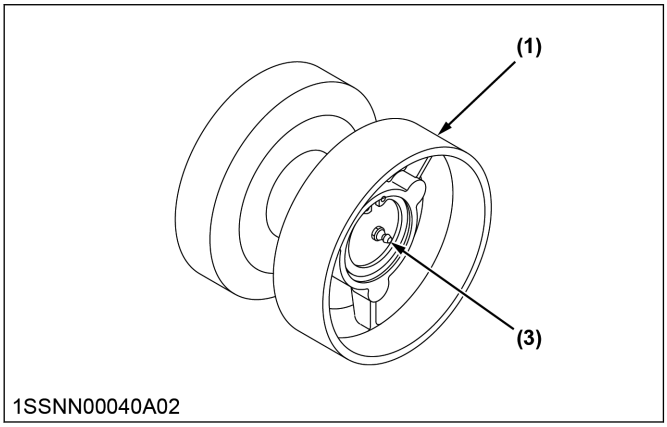
13.3 固定転輪部、揺動転輪部のグリース補給［L 仕様］

グリース補給部	グリース補給箇所
固定転輪部	左、右各 4 か所
揺動転輪部	左、右各 1 か所



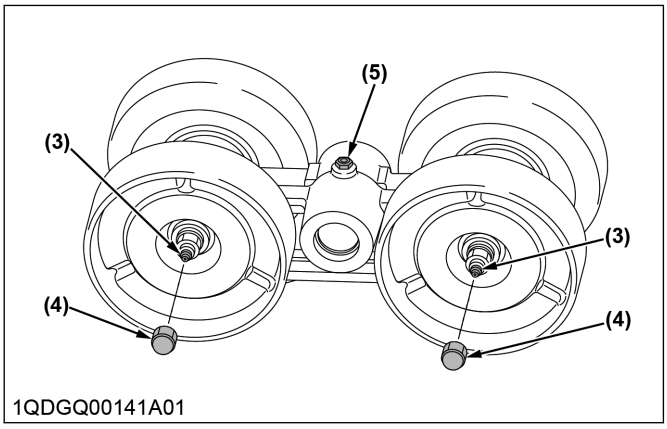
(1) 固定転輪 *(2)* 揺動転輪

(1)固定転輪の詳細



(3) グリースニップル

(2)揺動転輪の詳細



(3) グリースニップル *(5)* ブリーダ
(4) 袋ナット

固定転輪部のグリース補給
グリースニップルからグリースを補給します。

揺動転輪部のグリース補給
1. 袋ナット 2 か所を取り外します。
2. グリースニップルからグリースを補給します。
3. ブリーダからグリースがはみ出てきたら補給を中断します。
4. もう一方のグリースニップルに対しても同様にグリースを補給します。
5. 袋ナットを取り付けます。

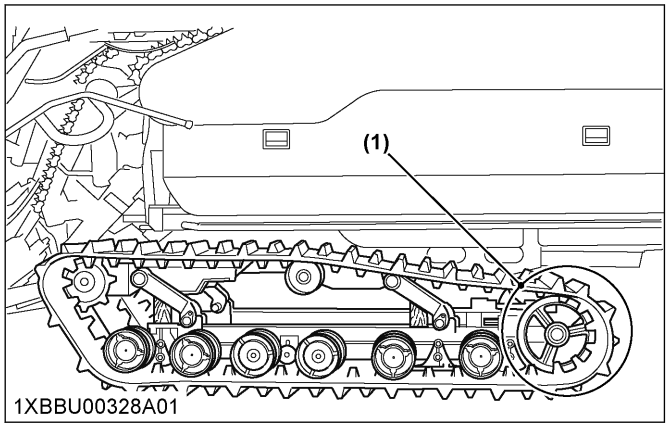
重要：
- **ねじ部にグリースが付いてしまった場合は油分がなくなるまで拭き取ってください。ねじのゆるみの原因になります。**

補足：
- **シールテープについては購入先に連絡してください。**

13.4 後輪部のグリース補給［L 仕様］

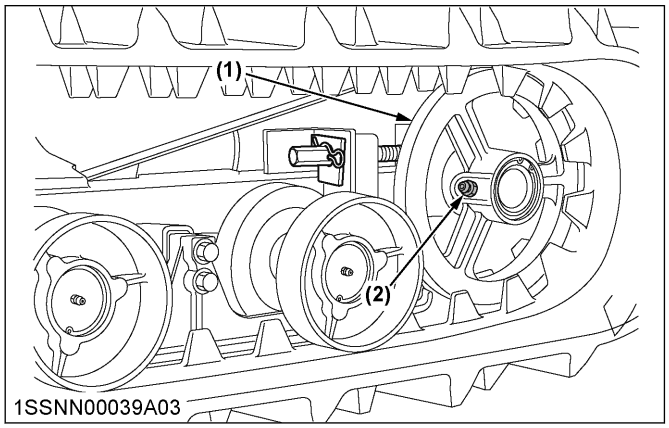
グリース補給部	グリース補給箇所
後輪部	左、右各 1 か所

グリースをグリースニップルから補給してください。



(1) 後輪

(1)後輪の詳細

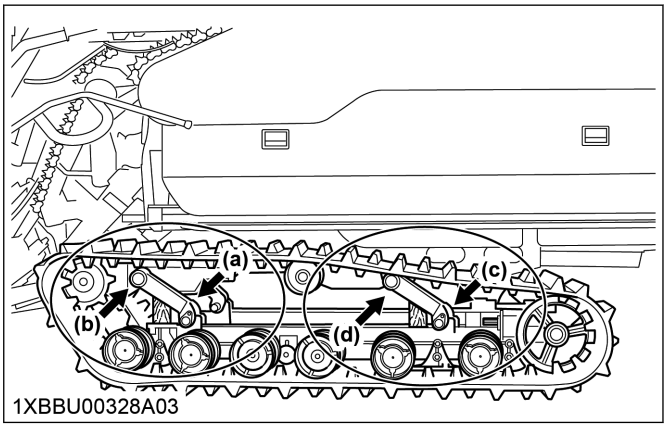


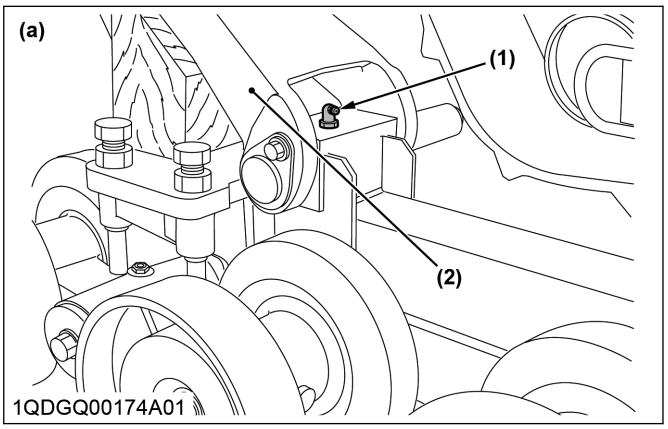
(2) グリースニップル

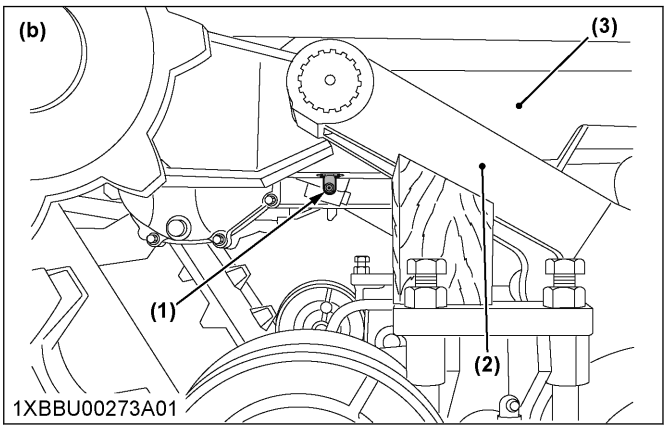
13.5 スイングアーム部、トラックフレーム部のグリース補給［L 仕様］

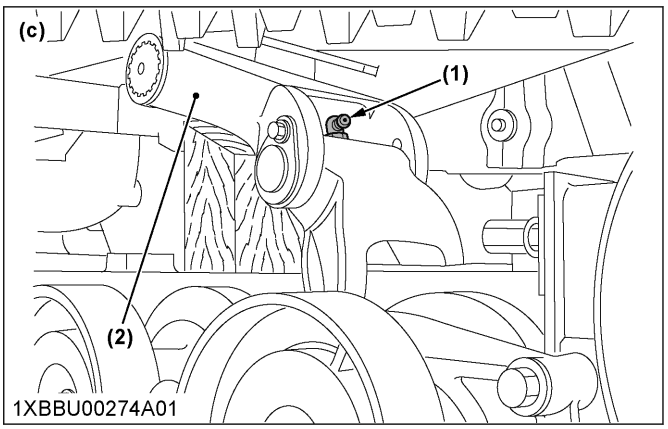
グリース補給部	グリース補給箇所
スイングアーム部	左、右各 2 か所
トラックフレーム部	左、右各 2 か所

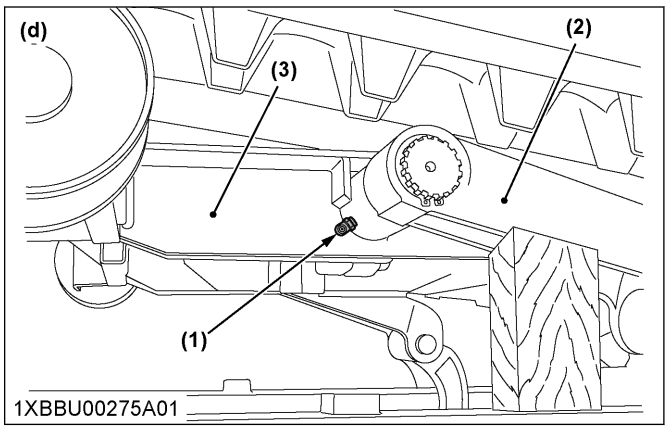
1. グリースニップルからグリースを補給します。
2. グリースがいっぱいまで補給されると、グリースガンのレバーを押してもそれ以上は入らなくなるため、補給を中止します。







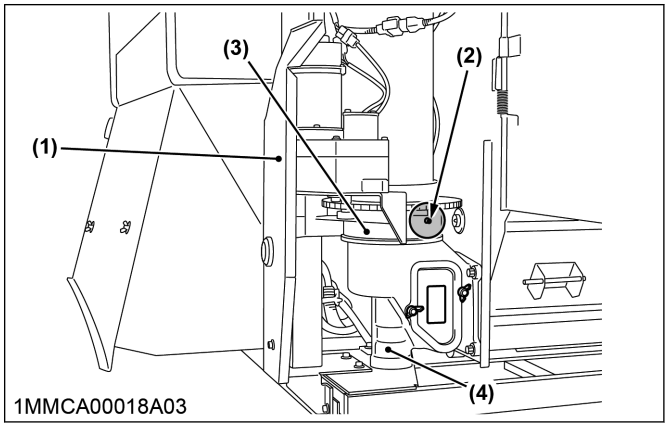




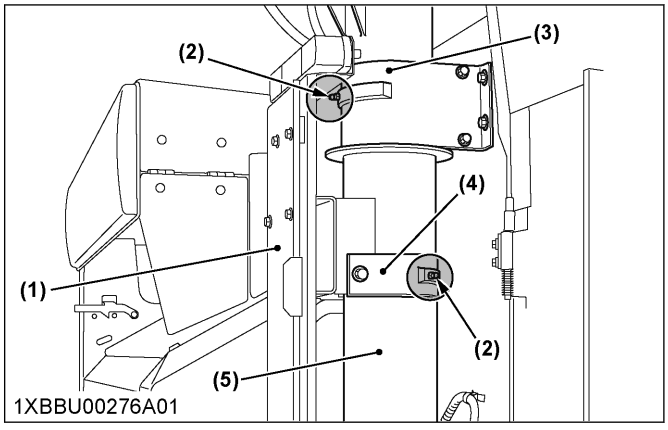
(1) グリースニップル
(2) スイングアーム
(3) トラックフレーム

13.6 アンローダ部のグリース補給

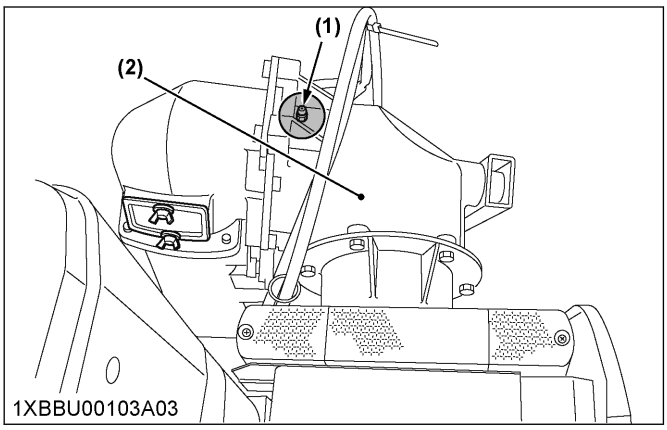
1. グレンタンク後カバーを開きます。
2. グリースニップルからグリースを補給します。



(1) グレンタンク後カバー
(2) グリースニップル
(3) 旋回モータベース部
(4) アンローダケース *1*



(1) グレンタンク後カバー
(2) グリースニップル
(3) アンローダブラケット部 *1*
(4) アンローダブラケット部 *2*
(5) 縦スクリューケース



(1) グリースニップル
(2) アンローダケース *2*

補足：

- **アンローダケース 2 にグリースを補給するときは、掃除口カバーを開いた状態でフランジの内側の面にグリースが付着しないように補給してください。もみにグリースが付着して汚粒発生の原因となります。**

補給後
グレンタンク後カバーを閉じます。

14. ラジエータ冷却水の点検、補給、交換

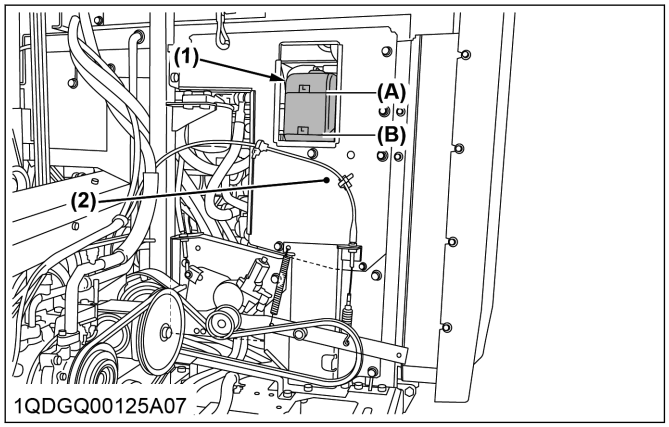
警告

- **ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けると、熱湯が噴出することがありますので、エンジン停止後じゅうぶん冷えてから、メインスイッチのキーを抜いて行ってください。**
- **グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**
- **傾斜地では、グレンタンクを開閉しないでください。**

14.1 ラジエータ冷却水の点検、補給

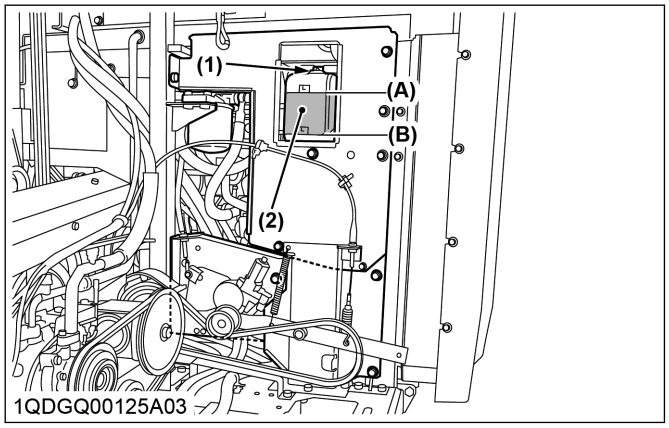
1. グレンタンクを開きます。

2. リザーブタンク内の冷却水が*"LOW"*（下限線）と*"FULL"*（上限線）の間にあるか確かめます。



(1) リザーブタンク
(2) 運転席後カバー *1*
(A) *FULL*（上限線）
(B) *LOW*（下限線）

3. リザーブタンク内の冷却水が*"LOW"*（下限線）より少ないときは、リザーブタンクのタンクキャップを取り外して清水を補給します。



(1) タンクキャップ
(2) リザーブタンク
(A) *FULL*（上限線）
(B) *LOW*（下限線）

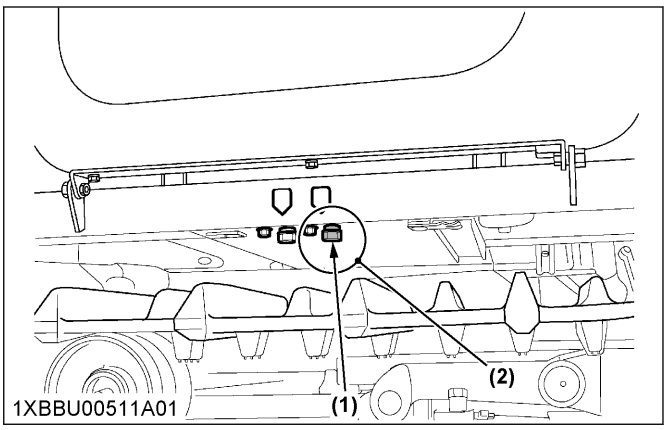
重要：
- **オーバーヒート時は、ラジエータ内の冷却水の水量を確認し、水量が不足しているときは、清水を補給してください。**
- **冷却水が自然に不足したときは、必ず清水を補給してください。不凍液を補給すると濃度が濃くなりエンジンやラジエータの故障の原因となります。**

補足：
- ***"FULL"*（上限線）の線以上は補給しないでください。**

4. リザーブタンクのキャップを取り付けます。

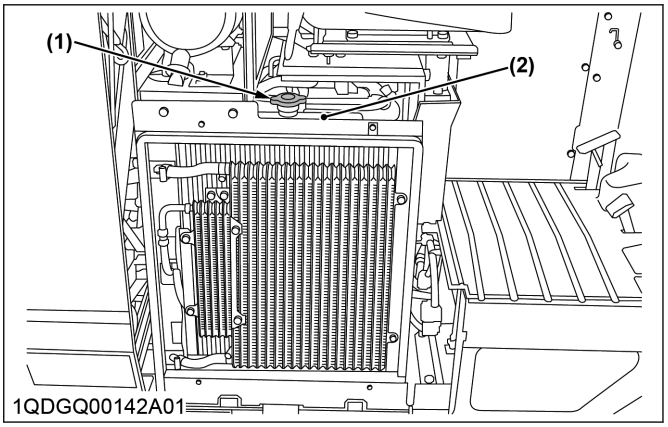
14.2 ラジエータ冷却水の交換

1. 排水プラグを外します。



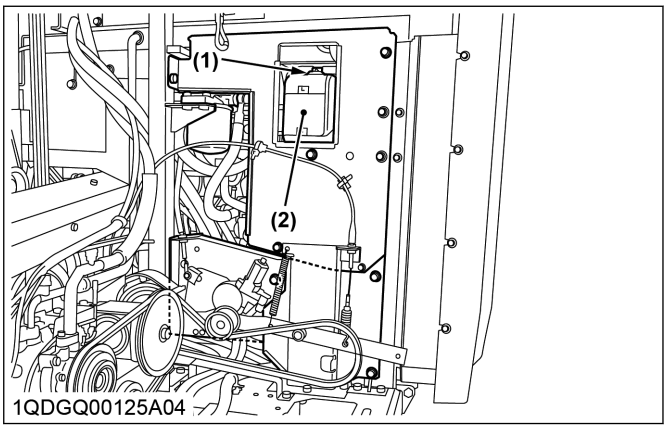
(1) 排水プラグ
(2) 排水口

2. ラジエータキャップを外してラジエータの冷却水を排水します。
   - エンジンルームを開きます。



(1) ラジエータキャップ
(2) ラジエータ

3. リザーブタンクの冷却水を排水します。
   a. リザーブタンクのキャップ（吸引パイプ付）を取り外します。
   b. リザーブタンクを上側に抜いて取り外し、排水します。



(1) タンクキャップ
(2) リザーブタンク

4. 水道水でごみや錆が出なくなるまで洗います。
5. リザーブタンクを取り付けます。
6. 排水プラグを締め付けます。

7. 目標温度（外気温）の比率分（混合比）の不凍液をラジエータおよびリザーブタンクに入れます。

重要：
- **不凍液の混合比を誤ると、冬期には冷却水の凍結、夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。**
- **不凍液を使用する場合は、ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので、保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。**
- **不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は 2 年間です。必ず 2 年で交換してください。**
- **異なるメーカの不凍液を混用しないでください。エンジンの故障の原因となります。**
- **排水プラグを締め忘れると水漏れが発生します。また、排水プラグ部を機体に取り付け忘れるとホースが破損するおそれがあります。**

補足：
- **不凍液混合比は、寒冷地ほど高くなります。購入先に相談して、次表を参照して混合比を決めてください。また、不凍液はエチレングリコール(EG)タイプのロングライフクーラントをご使用ください。**

不凍液混合比率表

外気温度(℃)		-5	-8	-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-43
比率	水(%)	85	80	75	70	65	60	55	50	45
	不凍液(%)	15	20	25	30	35	40	45	50	55

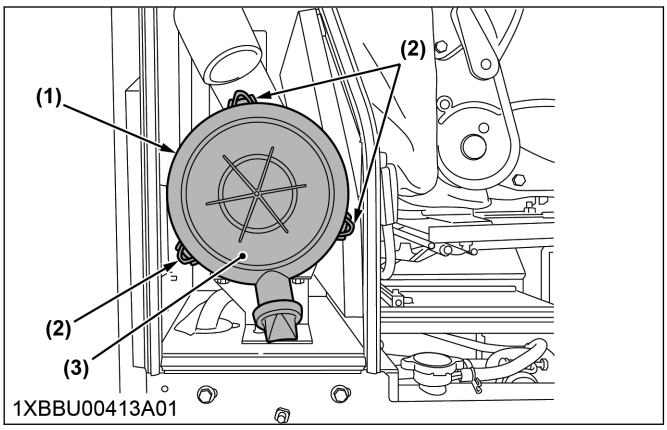
  - **出荷標準は、不凍液 35 %です。北海道向けは不凍液 50 %です。**
  - **ラジエータ容量は、リザーブタンク容量を含まず 3.7 L です。**
  - **新しい冷却水と交換を行ったあとは、必ず不凍液を入れて、5 分間エンジンを空回転し、不凍液の混合を早めてください。そのあと、冷却水が冷えてからラジエータキャップを取り外して、冷却水を補充してリザーブタンクの水量を確かめておいてください。**

8. ラジエータキャップおよびリザーブタンク、リザーブタンクキャップを取り付けます。
9. エンジンルームを閉じます。
10. グレンタンクを閉じます。

15. エアクリーナの点検、掃除、交換

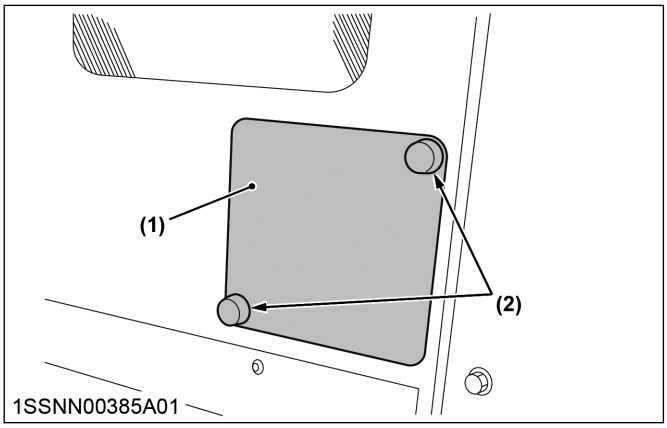
エアクリーナエレメントの点検、掃除、交換を行うときは、ダストカップを取り外してください。

1. エンジンルームを開きます。
2. クランプ 3 か所を外してダストカップを取り外します。



(1) エアクリーナ　*(3)* ダストカップ
(2) クランプ

補足：
- **クランプを外しにくいときは、運転席後部の樹脂ボルトを外して、カバーを取り外してください。**



(1) カバー　*(2)* 樹脂ボルト

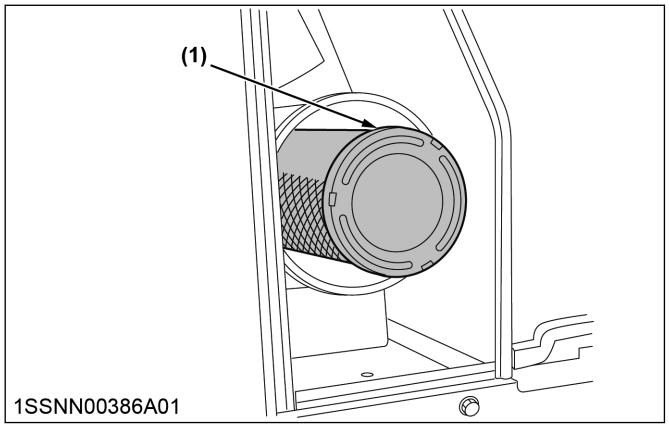
3. エアクリーナを点検し、必要であれば掃除または交換します。

15.1 エアクリーナの点検、掃除、交換方法

重要：
- **高性能サイクロン併用乾式エレメントを使用していますので、オイルを使用しないでください。**
- **エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると、エンジンの出力が低下したり、エンジンオイルが異常に消耗または劣化し、エンジントラブルの原因となります。点検は運転前に欠かさず行ってください。**
- **エレメントは傷がつかないように取り扱ってください。特に掃除時は、たたいたりかたい物に当てて変形させるとエンジンの故障の原因となりますので、しないでください。**
- **エレメントを掃除する場合、エアの圧力は 205 kPa (2.1 kgf/cm^2)をこえないよう注意し、エアガンのノズルとエレメントの間は適当にあけてください。**

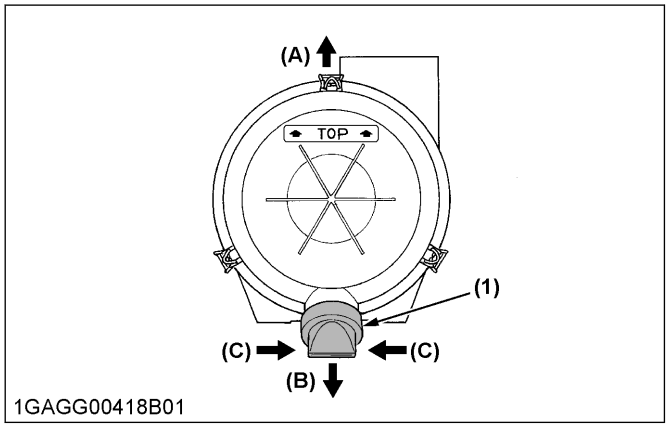
また、エアはエレメントの内側から外側に通してください。

1. エアクリーナエレメントの点検を行います。
2. 掃除または交換を行います。
   - **エレメントを掃除するとき**
     a. エレメントを引き抜いて取り外します。
     b. エレメントの内側から空気を吹きつけるか、またはエレメントを軽く振ってゴミを取り除きます。
   - **汚れのひどい場合や 300 時間経過しているとき**
     交換してください。



(1) エレメント

補足：
- **エアクリーナの点検を行ったときは、ダストカップのエバキュエータバルブの先端部をつまんでダストカップ内に溜まったゴミを排出してください。**
- **ダストカップを取り付けるときは[TOP]の文字を上側にしてください。**



(1) エバキュエータバルブ
(A) 上側
(B) 下側
(C) つまむ

作業終了後
1. ダストカップを取り付けます。
2. エンジンルームを閉じます。

16. パイプ、ホース類の点検

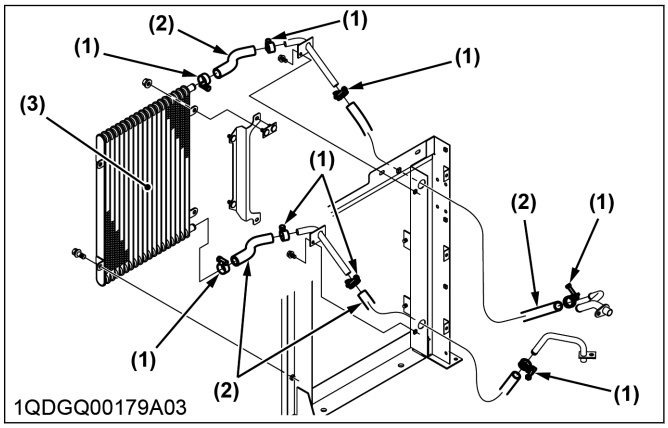
⚠ 警告
- **運転中ラジエータホースが外れると熱湯が吹き出し、ヤケドをするおそれがあります。**
- **燃料系ゴムホースが破損していると燃料漏れを起こし火災の原因となります。**
- **使用者は交換作業を行わないでください。**

16.1 パイプ、ホース類の点検方法

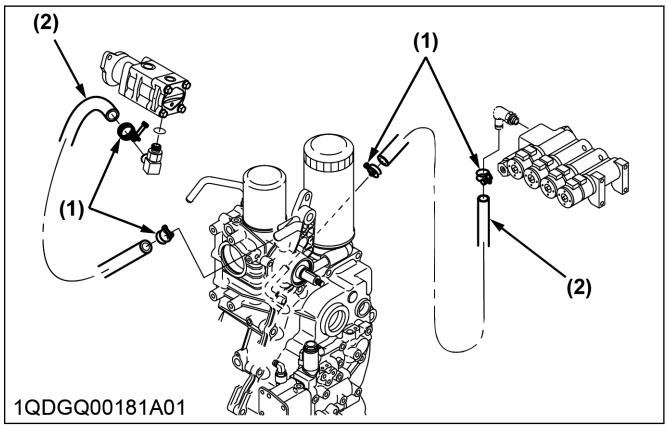
1. エンジン、エアクリーナ、プレクリーナ、ラジエータ、各オイルクーラ、燃料タンク各部にある各パイプやホースを点検します。

2. 油漏れや水漏れが発生しているときはパイプやホースを交換したり、パイプ、ホースがゆるんでいるときはバンドを締め付けます。

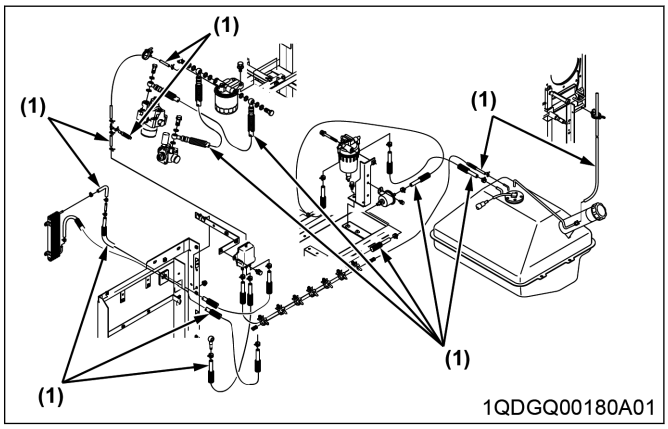
   重要：
   - **オイルドレーンゴムホースが破損していると、エンジンが焼付きを起こします。**
   - **油漏れや水漏れをしていなくても、“2 年経過しているときや劣化の激しい場合”は購入先に連絡して交換してください。**



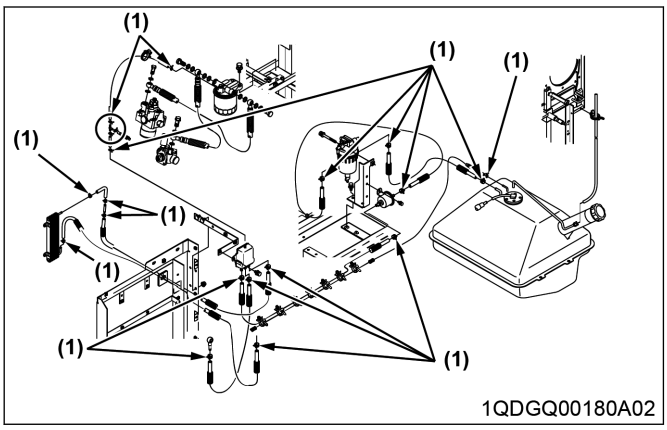
(1) 各バンド
(2) オイルクーラホース
(3) オイルクーラ



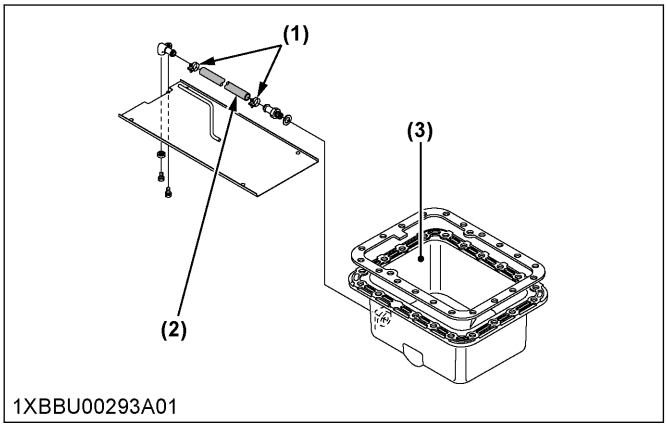
(1) 各バンド
(2) オイルクーラホース



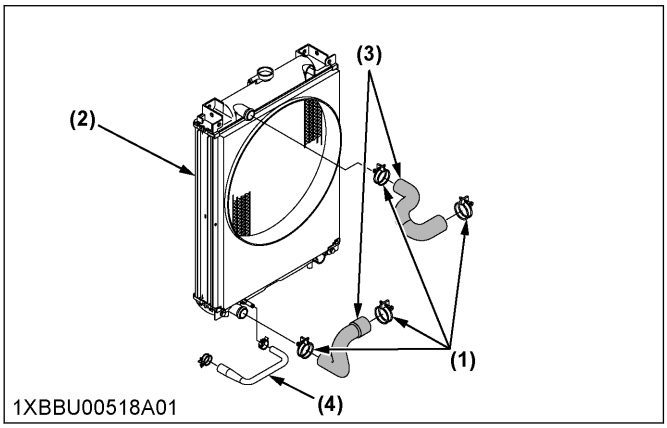
(1) 燃料ホース



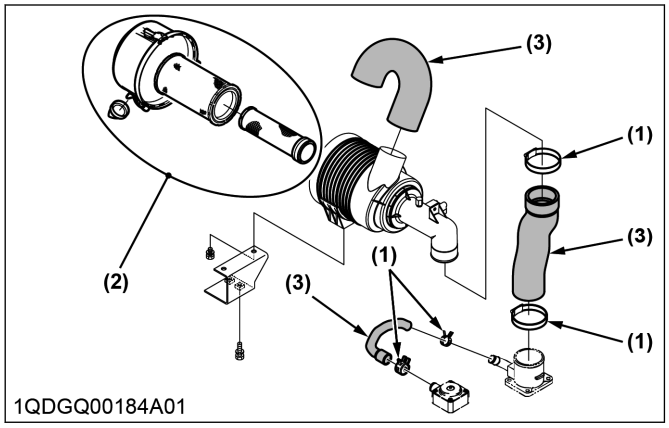
(1) 各バンド



(1) 各バンド
(2) オイルドレーンゴムホース
(3) エンジンオイルパン



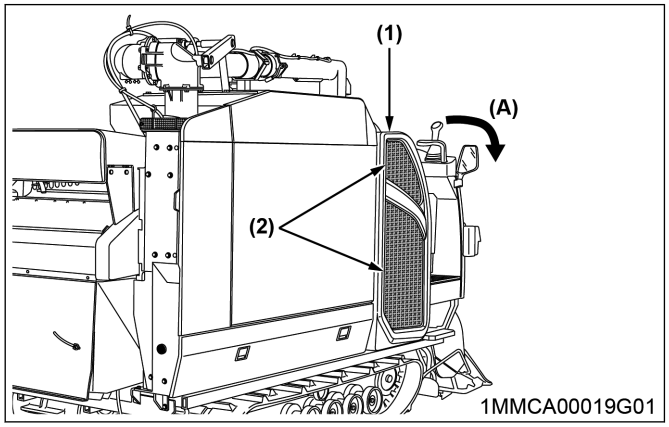
(1) 各バンド
(2) ラジエータ
(3) ラジエータホース
(4) 排水ホース



(1) 各バンド
(2) エアクリーナ
(3) エアクリーナ用インレットパイプ

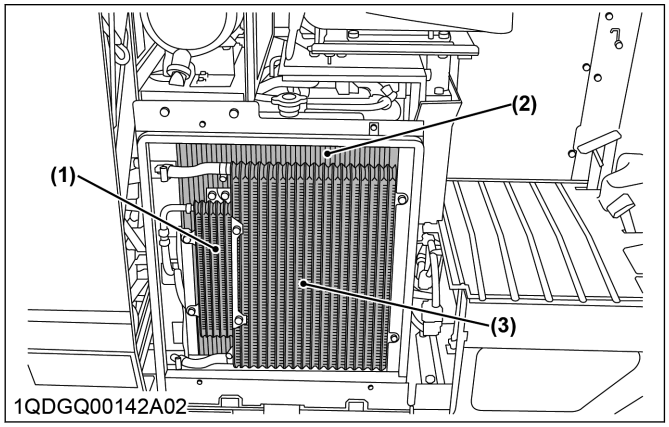
17. 防じんあみ、各フィンの掃除方法

1. エンジンルームを開きます。



(1) エンジンルーム
(2) 防じんあみ
(A) 開く

2. 圧縮空気を使用するなどして防じんあみやラジエータ部およびエンジンに付着しているゴミなどを掃除します。
   必要に応じてボルトを取り外して、オイルクーラを取り外してください。



(1) 燃料クーラフィン
(2) ラジエータフィン
(3) オイルクーラフィン

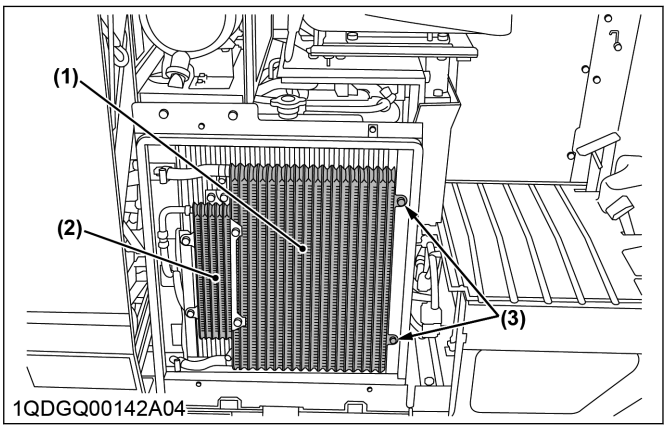
重要：
- **ヘラやドライバなどかたい物や高圧洗車機を使用して各フィンの掃除をしないでください。ラジエータフィンを傷めると、ラジエータの機能を低下させる原因になります。**

補足：
- **ラジエータフィンのほこりが取れにくい場合は、オイルクーラフィンおよび燃料クーラフィンを取り外してから掃除してください。**

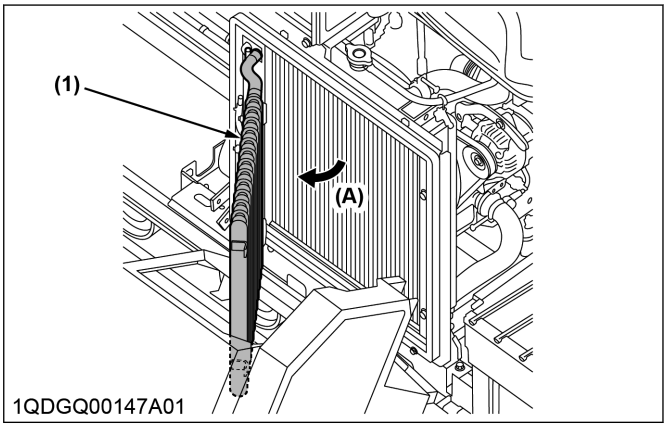
掃除後
エンジンルームを閉じます。

17.1 各フィンの取外し方法

1. オイルクーラフィンのボルトを取り外します。
2. オイルクーラフィンと燃料クーラフィンを手前に開きます。



(1) オイルクーラフィン
(2) 燃料クーラフィン
(3) ボルト



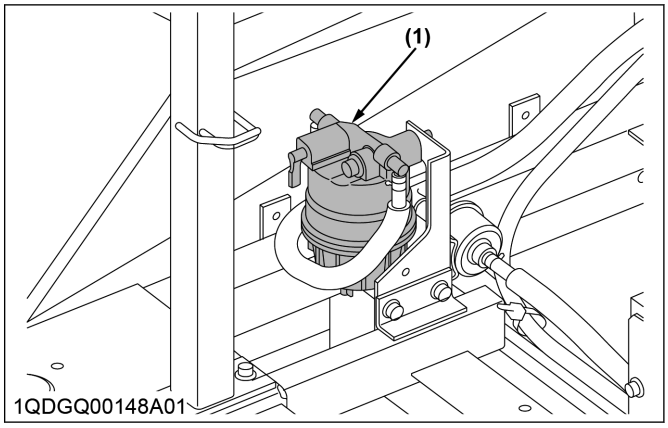
(1) オイルクーラフィン
(A) 開く

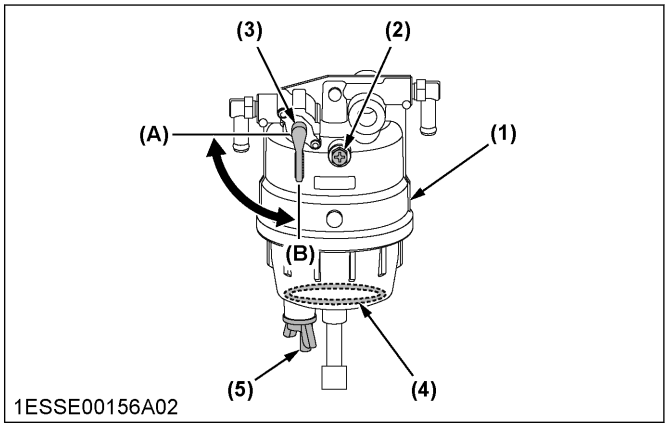
掃除後
1. オイルクーラフィンと燃料クーラフィンを取外しと逆の手順で取り付けます。
2. 最後にエンジンルームを閉じます。

18. 油水分離器（セパレータ）の点検、排水、掃除

警告
- **グレンタンクの開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**
- **傾斜地では、グレンタンクを開閉しないでください。**

1. グレンタンクを開きます。
2. 油水分離器（セパレータ）を点検し、カップに水が貯まっているときは排水します。





(1) 油水分離器（セパレータ）
(2) エアプラグ
(3) 燃料コック
(4) フロート
(5) ドレーンプラグ
(A) 閉*(C)*
(B) 開*(O)*

3. 油水分離器（セパレータ）が汚れているときは掃除します。

点検、排水後
グレンタンクを閉じます。

18.1 油水分離器（セパレータ）の点検

1. グレンタンクを開きます。
2. 油水分離器（セパレータ）の点検を行います。
3. セパレータのカップに水が貯まり、赤いフロート（浮輪）が規定ラインまで上昇したときは排水します。

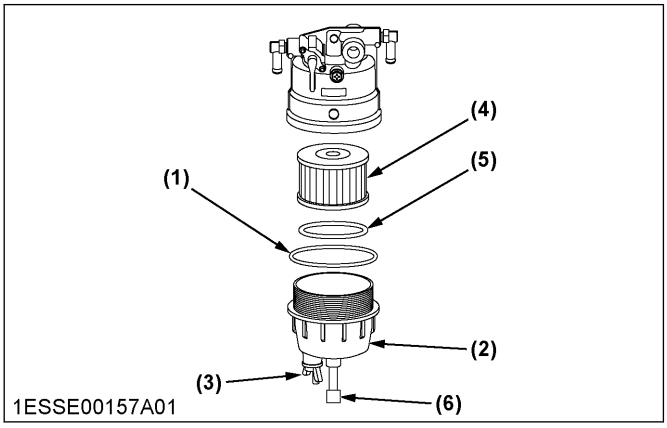
18.2 油水分離器（セパレータ）の排水

1. セパレータの燃料コックを“閉*(C)*”位置にします。
2. エアプラグとドレーンプラグをゆるめて水を排出します。
3. エアプラグとドレーンプラグを締め付けます。
4. 燃料コックを“開*(O)*”位置にします。

18.3 油水分離器（セパレータ）の掃除

1. カップ内の水を排出します。
（油水分離器（セパレータ）の排水（203 ページ）を参照）
2. 水位センサのコネクタを外します。
3. カップをゆるめて取り外します。
4. カップやエレメントなどを軽油で洗浄します。
5. エレメントを交換します。
6. 取外した逆の手順でセパレータを取り付けます。
7. エアプラグおよびドレーンプラグを締め付けたあと、燃料コックを開(O)位置にします。
8. 水位センサのコネクタを取り付けます。

重要：
- **組み付けるときは、チリやホコリが付着しないように注意してください。**



(1) O リング
(2) カップ
(3) ドレーンプラグ
(4) エレメント
(5) フロート
(6) 水位センサのコネクタ

- **O リングは傷つけないようにしてください。また、カップに正しく入れて組み付けてください。**

補足：
- **赤いフロートを捨てないでください。**
- **排水後は、メインスイッチのキーを[入]位置にすると 5 秒～10 秒で自動的にエア抜きされます。**

掃除終了後
開いていたグレンタンクを閉じます。

19. 燃料フィルタカートリッジの交換

警告
- **グレンタンクの開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**
- **傾斜地では、グレンタンクを開閉しないでください。**

交換は燃料を給油する前に行ってください。

重要：
- **燃料内にゴミなどの異物や水が混入すると、フィルタの目詰まりが早くなったり、フィルタ内に水が溜まりやすくなります。また燃料ポンプや噴射ノズルが摩耗し、エンジンの故障の原因となります。**

1. グレンタンクを開きます。
2. 燃料フィルタカートリッジを交換します。

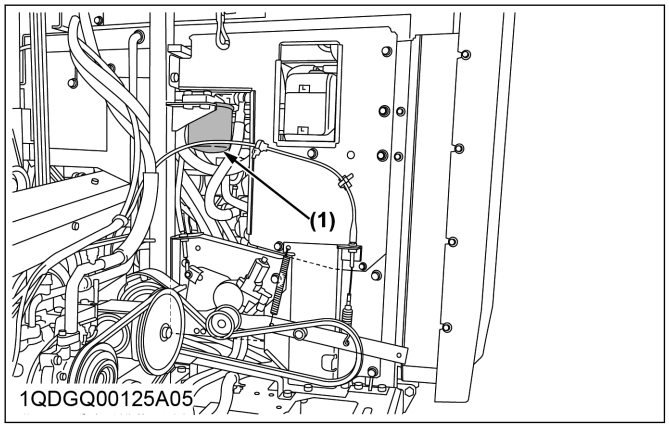
交換後
グレンタンクを閉じます。

補足：
- **交換後は、メインスイッチのキーを[入]位置にすると 5 秒～10 秒で自動的にエア抜きされます。**

19.1 燃料フィルタカートリッジの交換方法

1. グレンタンクを開きます。
2. 油水分離器（セパレータ）の燃料コックを“閉*(C)*”位置にします。
3. 専用工具を使って燃料フィルタカートリッジを取り外します。

   補足：
   - **燃料フィルタカートリッジの取外し方法や専用工具については、購入先にご相談ください。**
4. 新しい燃料フィルタカートリッジは、O リングに燃料を薄く塗布してから、フィルタレンチを使用せず手で締め付けます。



(1) 燃料フィルタカートリッジ

5. 油水分離器（セパレータ）の燃料コックを“開*(O)*”位置にします。
6. グレンタンクを閉じます。

20. エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

警告
- **グレンタンクの開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**
- **傾斜地では、グレンタンクを開閉しないでください。**

1. グレンタンクを開きます。
2. エンジンオイルフィルタカートリッジを交換します。

交換後
グレンタンクを閉じます。

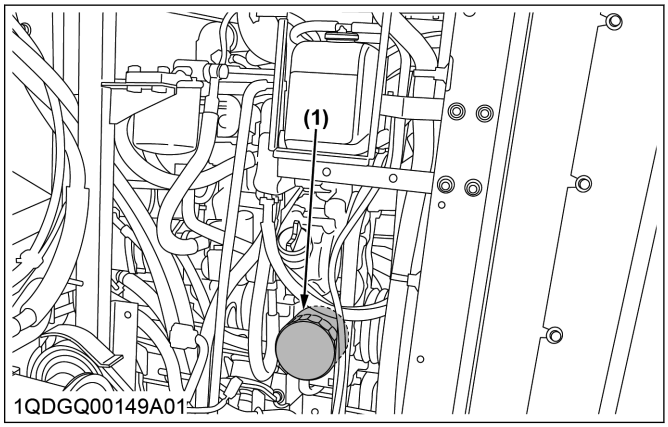
20.1 エンジンオイルフィルタカートリッジの交換方法

補足：
- **エンジンオイルフィルタカートリッジは、エンジンオイルの交換と同時に交換してください。**

1. グレンタンクを開きます。
2. 運転席後カバー 1、2 を取り外します。
3. 専用工具を使ってエンジンオイルフィルタカートリッジを取り外します。

   補足：
   - **エンジンオイルフィルタカートリッジの取外し方法や専用工具については、購入先にご相談ください。**

4. 新しいエンジンオイルフィルタカートリッジを取り付けます。



(1) エンジンオイルフィルタカートリッジ

重要：
- **新しいエンジンオイルフィルタカートリッジは、O リングにオイルを薄く塗布してから、フィルタレンチを使用せず手で締め付けてください。**
- **エンジンオイルフィルタカートリッジを交換するときに、ゴミなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり、エンジンの故障の原因となります。**

5. オイルゲージの上限線までオイルを補給します。
6. 5 分程度エンジンを運転して各部に異常が無いこと、および油圧に異常が無いこと（オイルランプ消灯）を確認します。
7. エンジンを止め、再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確めます。

補足：
- **オイルフィルタカートリッジを交換すると、オイルフィルタカートリッジに入る量だけエンジンオイルの油面が下がります。**

8. 運転席後カバー 1、2 を取り付けます。
9. グレンタンクを閉じます。

21. HST オイルフィルタカートリッジ、油圧サクションオイルフィルタカートリッジの交換

⚠ 警告
- **刈取部の開閉を行うときは、平たんで安全な場所で、機体を最下降位置にしてエンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてから行ってください。**
- **傾斜地では、刈取部の開閉は行わないでください。**
- **刈取部を上げて洗浄、交換を行うときは、刈取下降ロックスイッチを“ロック”位置にして、刈取部の下降防止を行ってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。**
- **刈取部を開いたときは、閉じないようにストッパを必ず掛けてください。**
- **刈取部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**

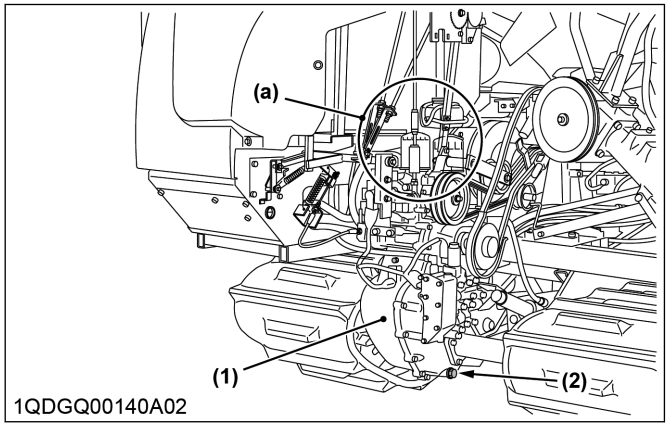
21.1 HST オイルフィルタカートリッジ、油圧サクションオイルフィルタカートリッジの交換方法

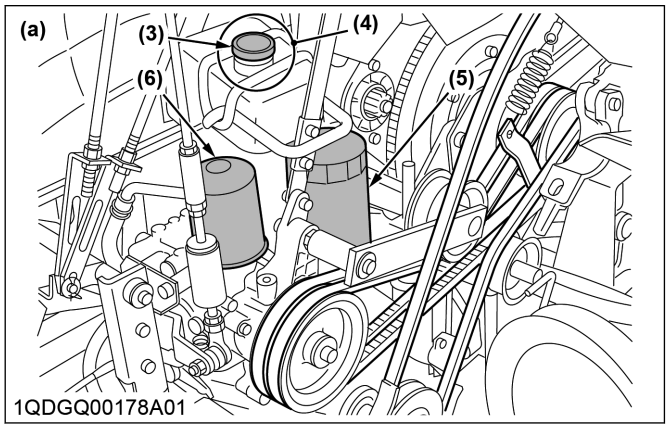
補足：
- **HST オイルフィルタカートリッジと油圧サクションオイルフィルタカートリッジは同時に交換を行ってください。**

1. 刈取部を開きます。
（刈取部の開閉（138 ページ）を参照）
2. トランスミッションケースの給油栓を外します。
3. 排油プラグを外し、トランスミッションケースオイルを排出します。
（トランスミッションケースオイルの点検、補給、交換（191 ページ）を参照）

4. 専用工具を使って HST オイルフィルタカートリッジ、油圧サクションオイルフィルタカートリッジを取り外します。

補足：
- **HST オイルフィルタカートリッジ、油圧サクションオイルフィルタカートリッジの取外し方法や専用工具については、購入先にご相談ください。**

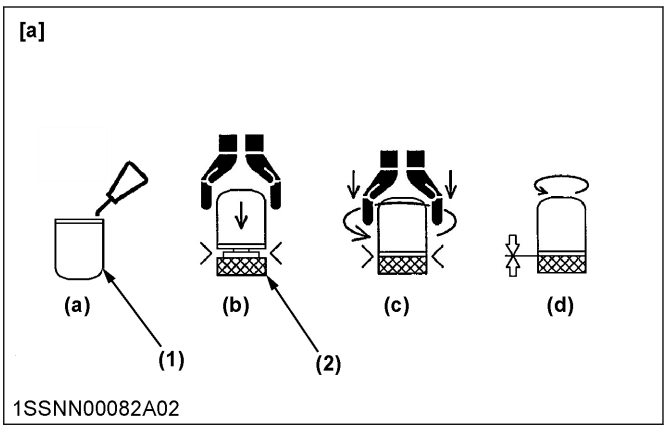




(1) トランスミッションケース
(2) 排油プラグ
(3) 給油栓
(4) 給油口
(5) 油圧サクションオイルフィルタカートリッジ
(6) *HST* オイルフィルタカートリッジ

5. 新しい HST オイルフィルタカートリッジ、油圧サクションオイルフィルタカートリッジを取り付けます。

重要：
- **新しいカートリッジを取り付けるときは、フィルタレンチを使用せず手で締め付けてください。また、オイルフィルタカートリッジを交換するときにごみなどの異物が混入すると、フィルタの目詰まりが早くなったり、HST の故障の原因となります。**
- **新しいオイルフィルタカートリッジを取り付けるときは、次の a～d の手順で取り付けてください。**



(1) オイルフィルタカートリッジ
(2) 取付部
[a] イラストは油圧サクションオイルフィルタカートリッジ

a. オイルフィルタカートリッジの取付面にオイルを薄く塗ります。
b. オイルフィルタカートリッジが傾かないように、両手で持ちながら取り付けます。
c. ゆるまない程度まで締め付けます。
d. オイルフィルタカートリッジと取付部にすき間が無いことを確認します。

6. トランスミッションケースの排油プラグを締め付けます。
7. トランスミッションケースオイルを規定量給油します。
（トランスミッションケースオイルの点検、補給、交換（191 ページ）を参照）

補足：
- **HST オイルフィルタカートリッジ、油圧サクションオイルフィルタカートリッジを交換すると、オイルフィルタカートリッジに入る量だけ油圧オイルタンクオイル、トランスミッションオイルの油面が下がります。**

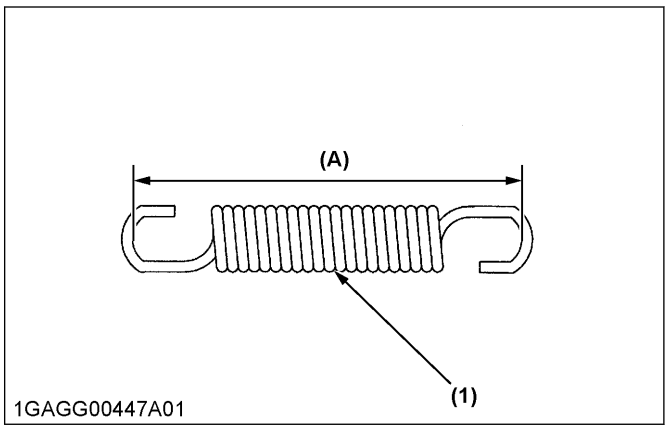
8. 刈取部を閉じます。

重要：
- **給油したあとエンジンを約 1 分間以上負荷を掛けずに回転させて、検油窓で点検を行い、下限より少ないときはトランスミッションケースオイルを追加補給してください。**

22. 各部ワイヤの点検、調整

重要：
- **テンションスプリングの張り調整が終わり、調整ナットまたはロックナットを締め付けるとき、テンションスプリングをねじれた状態で締め付けないでください。破損の原因となります。**

補足：
- **スプリングの取付け長さは、フックの内寸法を測定してください。**



(1) テンションスプリング *(A)* 内寸法

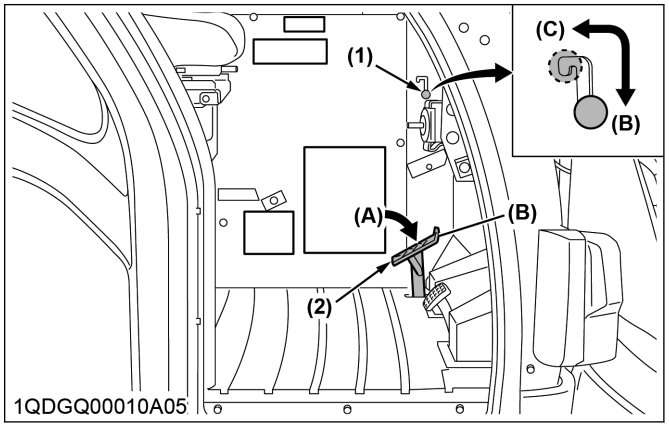
23. 駐車ブレーキワイヤの点検、調整

⚠ 警告

- **刈取部の開閉時は、平たんで安全な場所で、機体を“最下降位置”まで下げてエンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてから作業してください。**
- **傾斜地では、刈取部を開閉しないでください。**
- **刈取部を開いた状態で作業する場合は、枕木などの固定用具で刈取部の下降防止のため歯止めしてください。**
- **刈取部を開いたときは、閉じないようにストッパを必ず掛けてください。**
- **刈取部各部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**

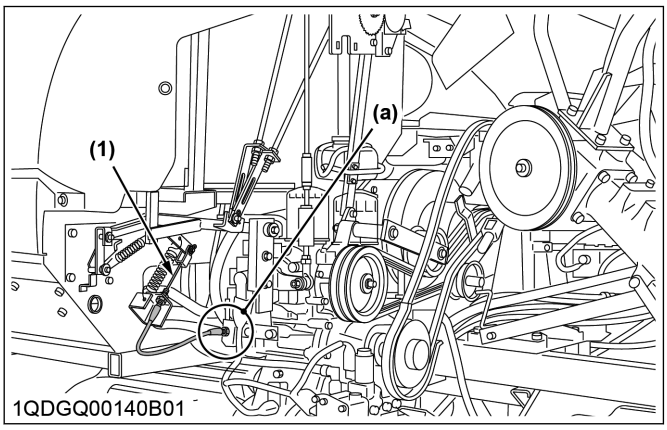
駐車ブレーキワイヤのテンションスプリングの長さを適正長さに調整します。

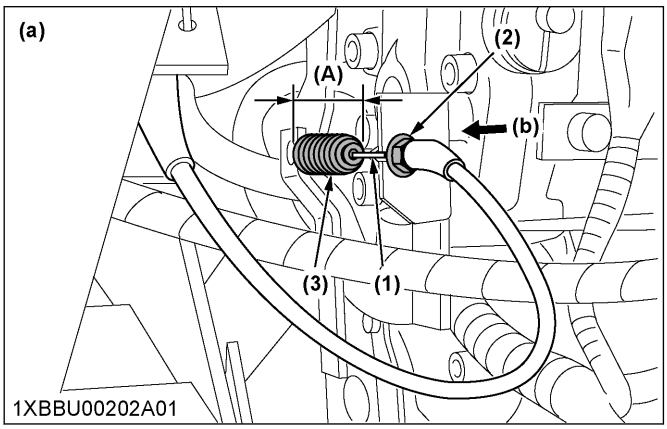
1. 駐車ブレーキを掛けます。
   a. 駐車ブレーキロックレバーを“ロック”位置にセットします。
   b. 駐車ブレーキペダルをロックするまでいっぱい踏み込みます。

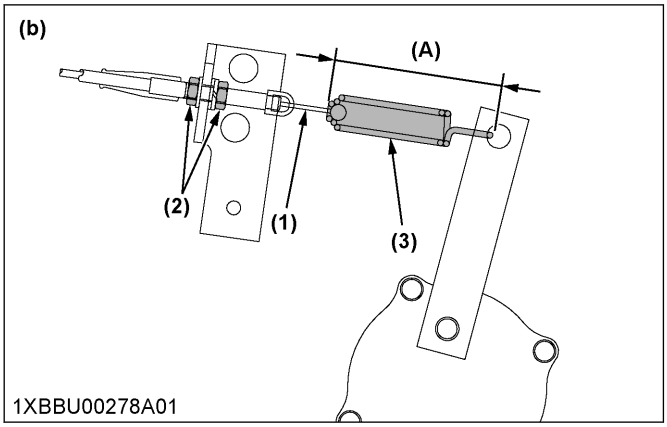


(1) 駐車ブレーキロックレバー *(A)* 踏込む
(2) 駐車ブレーキペダル *(B)* ロック
(C) 解除

2. 刈取部を開きます。
3. 調整ナット 2 個をゆるめて、テンションスプリングを調整します。







(1) 駐車ブレーキワイヤ *(A)* *75 mm～77 mm*
(2) 調整ナット
(3) テンションスプリング

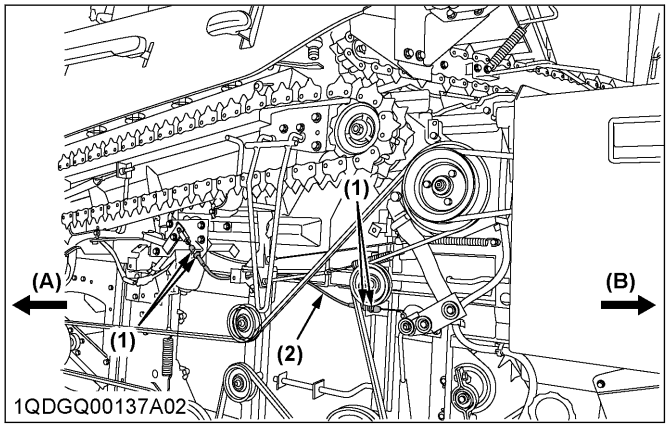
4. 調整ナットを締め付けます。
5. 刈取部を閉じます。
6. 駐車ブレーキを解除します。

24. フィードチェーン停止ワイヤの点検、調整

フィードチェーン停止ワイヤにたるみが無いように調整します。

1. 左サイドカバー内を取り外します。

2. 機体前方の調整ナットで、フィードチェーン停止ワイヤにたるみが無いように調整します。



(1) 調整ナット
(2) フィードチェーン停止ワイヤ
(A) 前方
(B) 後方

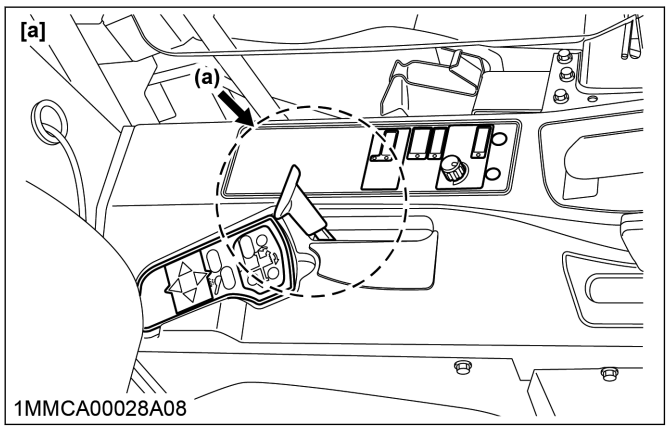
3. 左サイドカバー内を取り付けます。

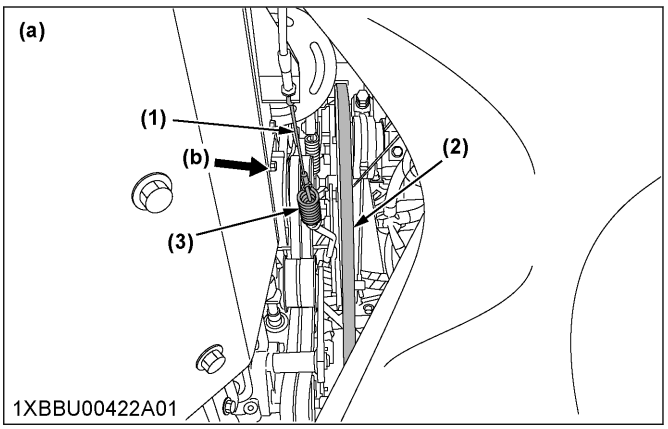
補足：
- **機体前方の調整ナットで調整しても、フィードチェーン停止ワイヤにたるみがあるときには、機体後方の調整ナットで調整してください。**

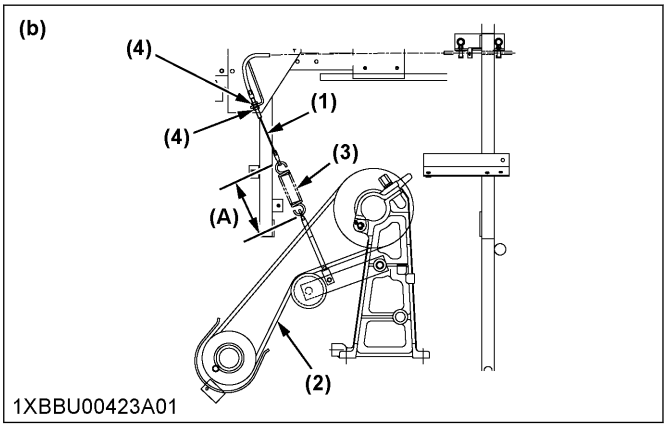
25. 刈取クラッチワイヤの点検、調整

刈取クラッチワイヤのテンションスプリングの長さを適正長さに調整します。

1. メインスイッチのキーを**[入]**位置にセットします。
2. 作業レバーを**[入]**位置にセットします。
   テンションスプリングが引っ張られた状態になります。
3. メインスイッチのキーを**[切]**位置に切り換えます。
4. 調整ナット 2 個をゆるめてテンションスプリングを調整します。







(1) 刈取クラッチワイヤ
(2) 刈取駆動ベルト
(3) テンションスプリング
(4) 調整ナット
(A) *127 mm～130 mm*
[a] イラストは *L* 仕様

5. 調整ナットを締め付けます。
6. メインスイッチのキーを**[入]**位置に戻します。
7. 作業レバーを**[切]**位置に切り換えます。
8. メインスイッチのキーを**[切]**位置に切り換えます。

26. 脱こくクラッチワイヤの点検、調整

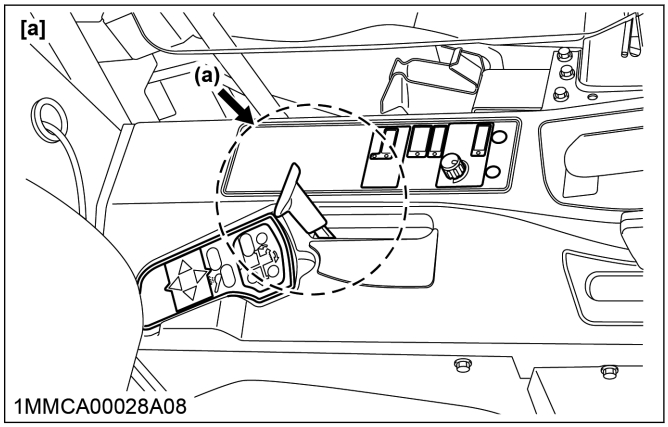
脱こくクラッチワイヤのテンションスプリングの長さを適正長さに調整します。

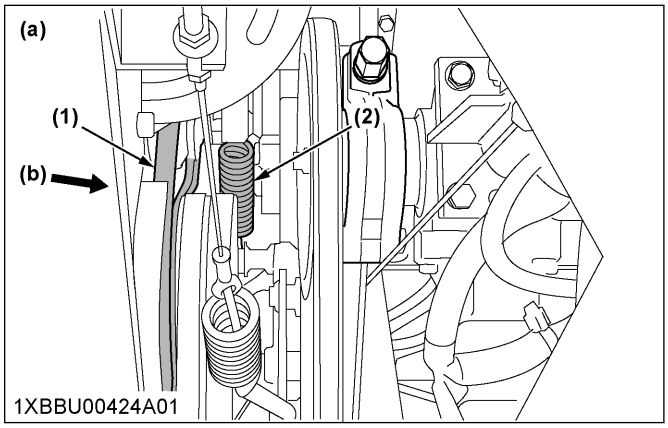
⚠ 警告
- **グレンタンクを開いたときは、閉じないようにストッパを必ず掛けてください。**
- **グレンタンクの開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**
- **傾斜地では、グレンタンクを開閉しないでください。**

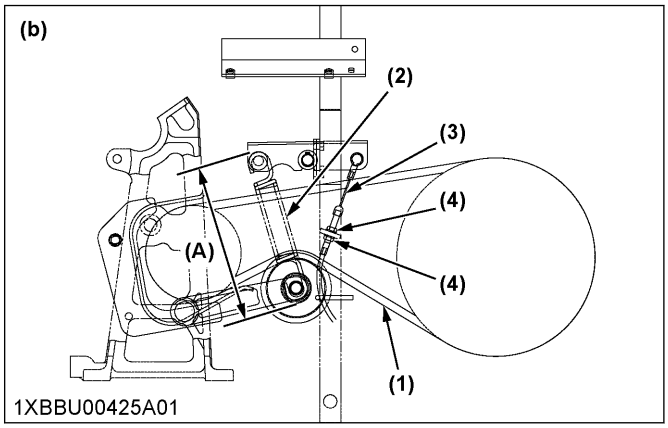
1. メインスイッチのキーを**[入]**位置にセットしたあと、次のように脱こくクラッチを“入れて”、テンションスプリングを引っ張った状態にします。
   - 作業レバーを**[刈取切]**位置にセットします。

   テンションスプリングが引っ張られた状態になります。
2. メインスイッチのキーを**[切]**位置に切り換えます。

3. 調整ナット 2 個をゆるめてテンションスプリングを調整します。







(1) 脱こく駆動ベルト
(2) テンションスプリング
(3) 脱こくクラッチワイヤ
(4) 調整ナット
(A) *204 mm～208 mm*
[a] イラストは *L* 仕様

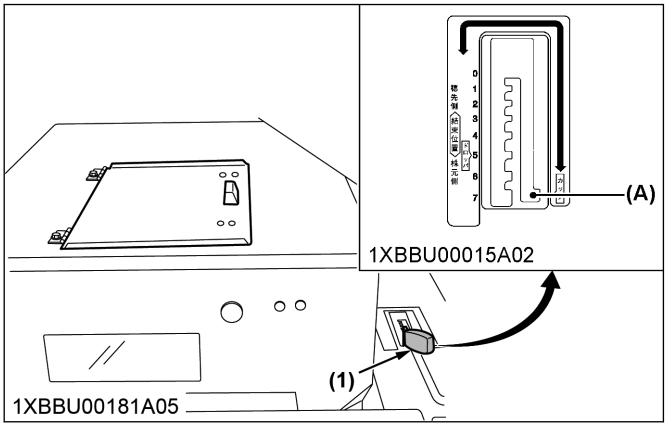
4. 調整ナットを締め付けます。
5. メインスイッチのキーを**[入]**位置に戻します。
6. 作業レバーを**[切]**位置に切り換えます。
7. メインスイッチのキーを**[切]**位置に切り換えます。

27. カッタ切換えカバー開閉ワイヤの点検、調整

27.1 排わら切換えカバー（カッタ切換えカバー）の点検、開閉ワイヤの張り調整

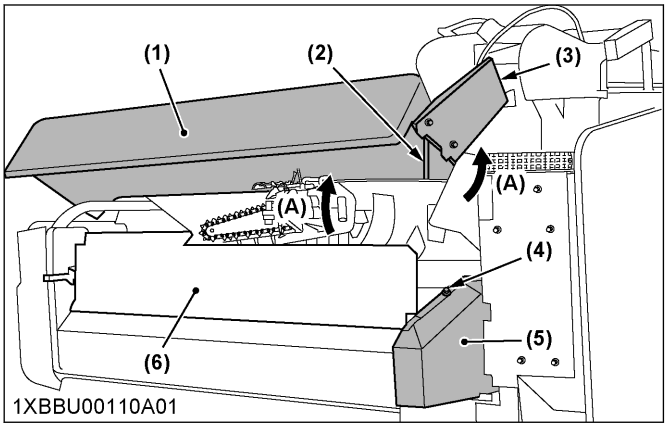
わら作業切換えレバーを“カッタ”作業位置にしたときにピンとカッタ切換えカバーのカバーロックレバーのすき間が適正幅以上のときは、カッタ切換えカバーの開閉ワイヤの張り調整を行ってください。

1. わら作業切換えレバーを“カッタ”作業位置にします。



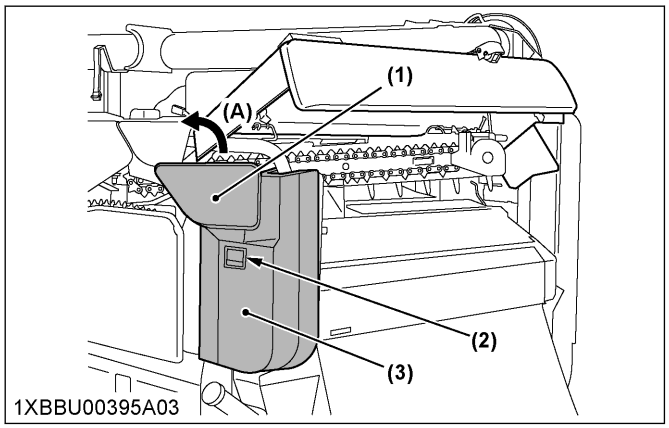
(1) わら作業切換えレバー
(A) カッタ作業位置

2. カッタ右サイドカバーを取り外します。
   a. 排わら上部カバーを上げます。
   b. カバーステーをセットします。
   c. 穂先カバーを上げます。
   d. ボルトを取り外してカッタ右サイドカバーを外します。



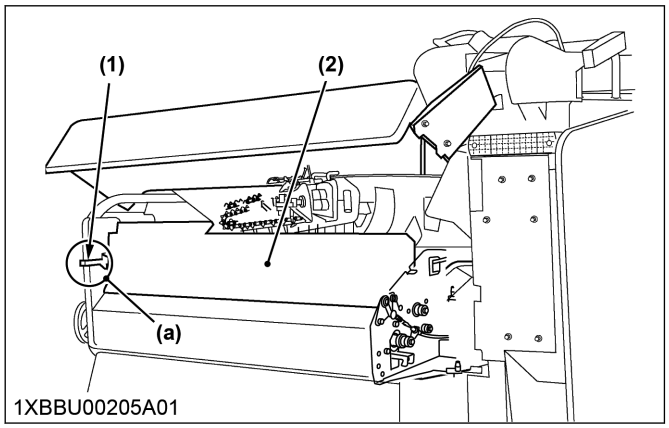
(1) 排わら上部カバー
(2) カバーステー
(3) 穂先カバー
(4) ボルト
(5) カッタ右サイドカバー
(6) カッタ切換えカバー
(A) 上げる

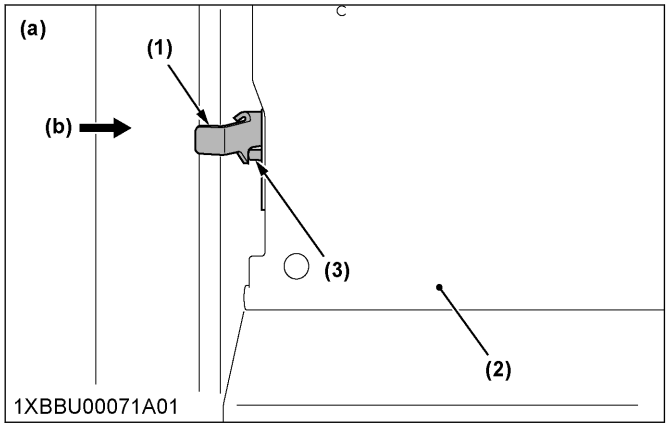
3. カッタ左サイドカバーを外します。
   a. 株元カバーを上げます。
   b. 取手を引いてカッタ左サイドカバーを外します。

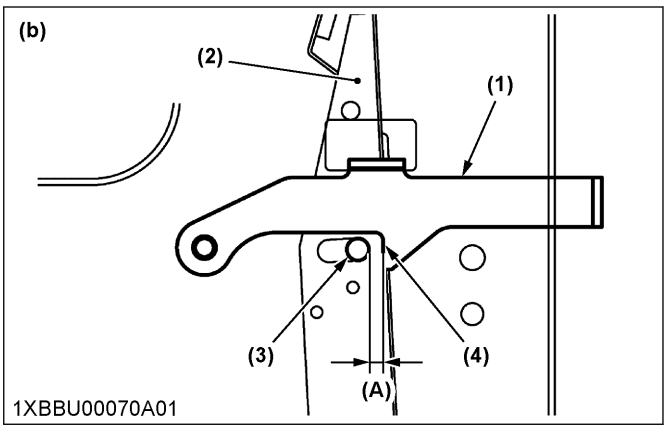


(1) 株元カバー
(2) 取手
(3) カッタ左サイドカバー
(A) 上げる

4. カッタ切換えカバーのピン部とカバーロックレバーのストッパ部のすき間を測定します。



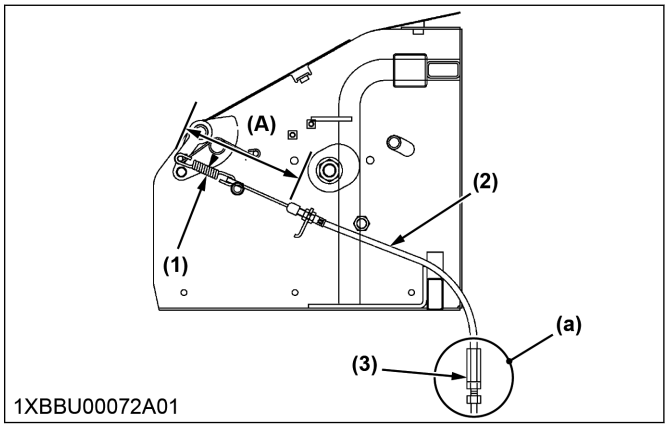


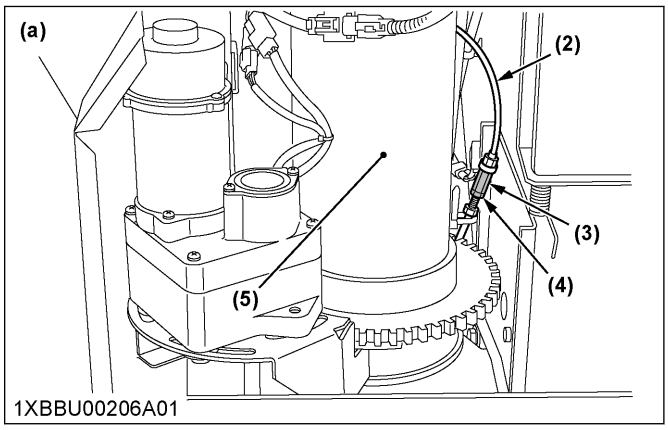


(1) カバーロックレバー
(2) カッタ切換えカバー
(3) ピン部
(4) ストッパ部

(A)	カッタ切換えカバーのピン部とカバーロックレバーのストッパ部のすき間	1 mm～8 mm

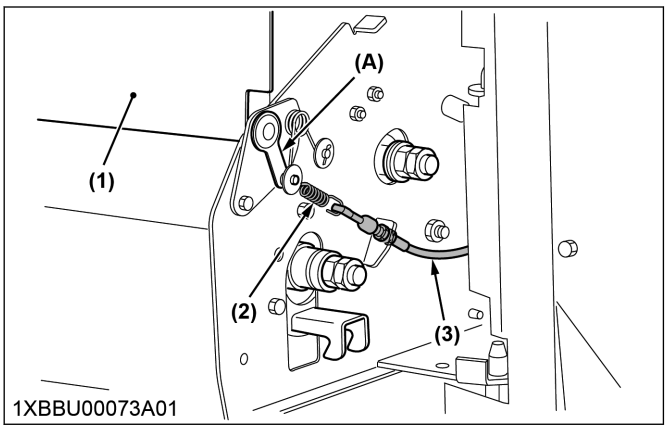
5. カッタ切換えカバーのピン部とカバーロックレバーのストッパ部のすき間が適正幅以上あるときは、適正範囲に調整します。
   a. わら作業切換えレバーを“ドロッパ、バラ落とし”作業位置にしていったんカッタ切換えカバーを閉じます。
   b. グレンタンク後部カバーを開き、カッタ切換えカバー開閉ワイヤ調整用のターンバックルのロックナットをゆるめ、ターンバックルを右回転方向に回してワイヤスプリングの張りをゆるめます。





(1) ワイヤスプリング
(2) カッタ切換えカバー開閉ワイヤ
(3) ターンバックル
(4) ロックナット
(5) アンローダ縦スクリューケース
(A) ゆるめる

   c. 再度わら作業切換えレバーを“カッタ”作業位置にします。



(1) カッタ切換えカバー
(2) ワイヤスプリング
(3) カッタ切換えカバー開閉ワイヤ
(A) カッタ作業位置

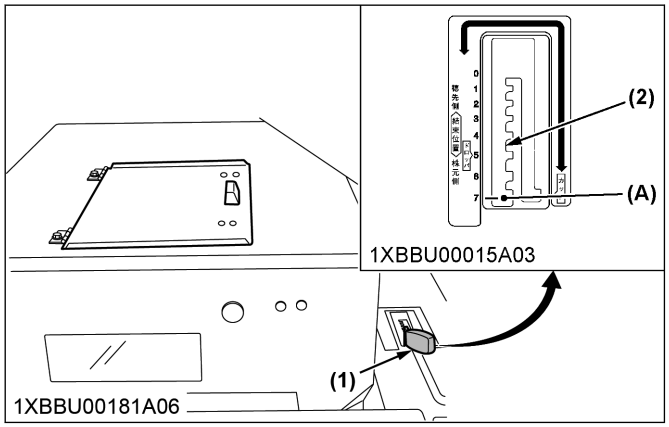
   d. ターンバックルを締付け方向に回しながらすき間を適正範囲に調整します。
   e. ターンバックルのロックナットを締め付けます。
   f. グレンタンク後部カバーを閉じます。
6. カッタ右サイドカバーおよびカッタ左サイドカバーを取り付けます。
7. 株元カバーを降ろします。
8. 排わら上部カバーおよび穂先カバーを閉じます。

28. 排わらレールワイヤの点検、調整

わら作業切換えレバーを“ドロッパ”作業位置にしたとき、排わら株元チェーン下側にある排わらレールの出代を適正範囲に調整します。

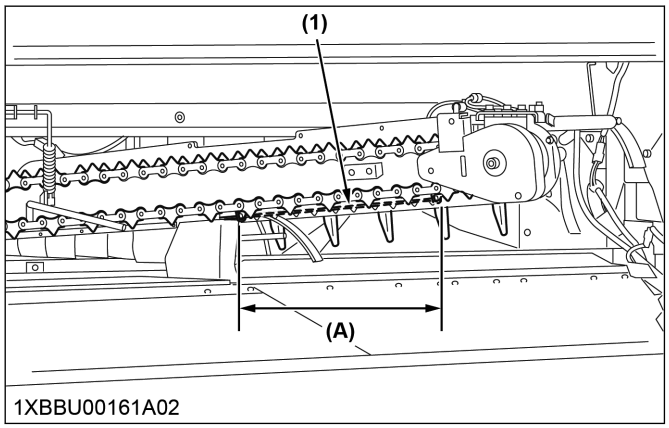
⚠ 警告
- **グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**
- **傾斜地では、グレンタンクの開閉を行わないでください。**

1. わら作業切換えレバーを“ドロッパ”作業側の切欠部**[7]**の位置（排わらレールがいっぱいまで出ている位置）にします。



(1) わら作業切換えレバー
(2) 切欠部
(A) ドロッパ、バラ落とし作業位置

2. 次図の出代の寸法を測定します。

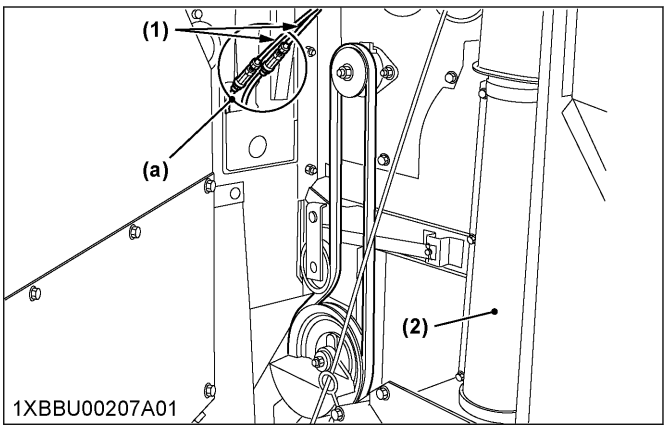


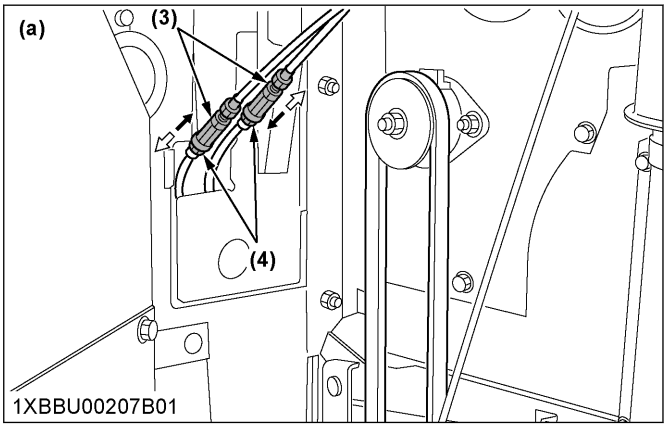
(1) 排わらレール
(A) 寸法

3. グレンタンクを開きます。
4. 排わらレールの出代の寸法が規定値から外れているときは、排わらレールワイヤを調整します。

排わらレールの出代の寸法	規定値	370 mm～390 mm

- 1 番縦スクリュ後部にある 2 か所のターンバックルで調整します。
  ターンバックルのロックナットをゆるめ、ターンバックルを回して排わらレールワイヤの調整を行って、調整後はターンバックルのロックナットを締め付けます。





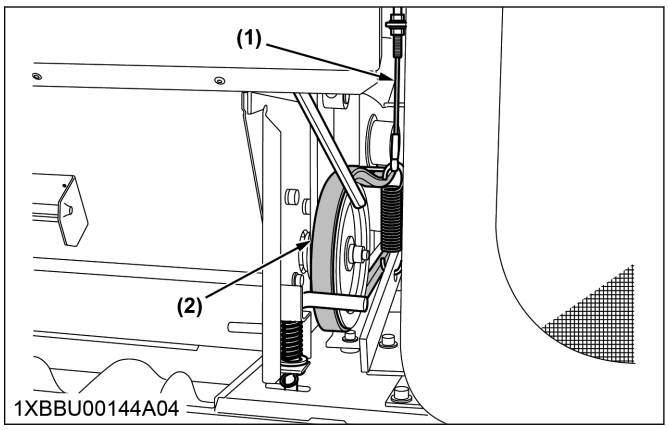
(1) 排わらレールワイヤ
(2) *1* 番縦スクリュ
(3) ターンバックル
(4) ロックナット

補足：
- **2 か所のターンバックルは片方を回転させると同じ量だけ、もう片方も回転させてください。**

5. グレンタンクを閉じます。

29. もみ排出クラッチワイヤの点検、調整

もみ排出クラッチワイヤの調整については、スクリュ駆動ベルトの点検、調整（223 ページ）を参照してください。
もみ排出クラッチワイヤとスクリュ駆動ベルトの張り調整は同じです。



(1) もみ排出クラッチワイヤ　*(2)* スクリュ駆動ベルト

30. 各部ベルトの点検、調整

警告

- **刈取部、引起し部、運転操作部、エンジンルーム、グレンタンク、こぎ胴などの各部を開いて作業するときは、次の事項を遵守してください。**
  - **平たんで安全な場所で、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてから作業を開始してください。**
  - **傾斜地では、各部を開閉しないでください。**
  - **刈取部、引起し部、グレンタンク、こぎ胴を開いたときは、閉じないようにストッパを必ず掛けてください。**
  - **各部を開いた状態で走行しないでください。**
  - **各部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**
- **刈取部を開いた状態で作業するときは、枕木などで刈取部の落下防止のため歯止めしてください。**
- **［L 仕様］刈取部を開閉するときは、機体を"最下降位置"まで下げてください。**
- **取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。**

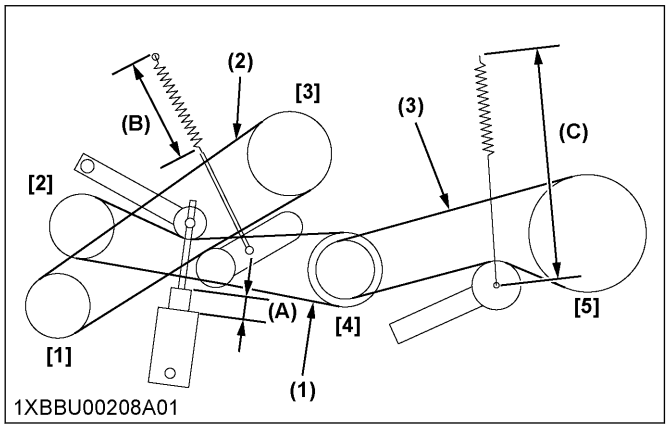
次表を参照して、各部ベルトの張りを調整してください。

エンジン、刈取部周辺

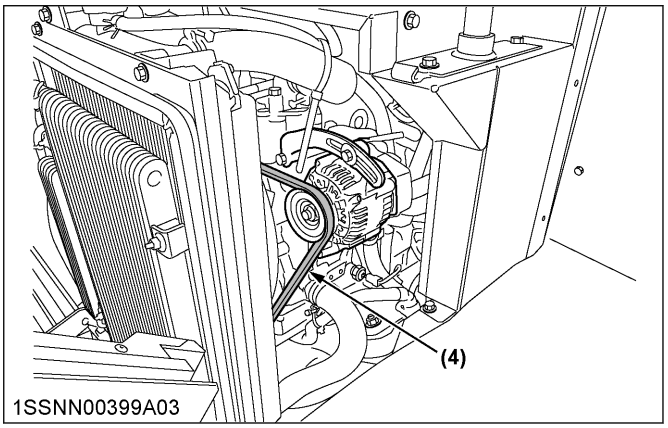
図番	名称	適応機種	サイズ	本数（本／台）	張り調整		
					テンションスプリング取付け長さ(mm)		たわみ量(mm)
(1)	ミッション駆動ベルト	全機種	特 B55	2	(A)	テンションロッドの出代 27～29	—
(2)	刈取駆動ベルト	全機種	特 B59	1	(B)	127～130	—
(3)	脱こく駆動ベルト	全機種	特 B60	2	(C)	204～208	—
(4)	ファン駆動ベルト	全機種	A41 ブイベルト（コグ）	1	—		10～12
(5)	補助搬送（突起付）ベルト	全機種	—	3	—		10～15

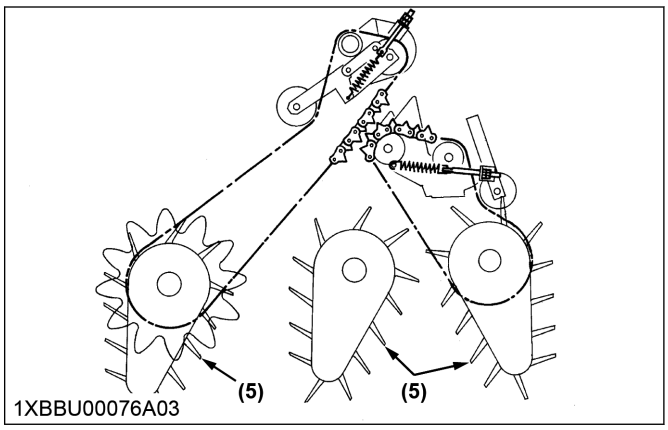
重要：

- **ミッション駆動ベルト、脱こく駆動ベルトは 2 本同時に交換してください。単品で交換すると、新しく交換したベルトの寿命が短くなるおそれがあります。**



[1] ミッション
[2] *HST* 駆動
[3] 刈取り
[4] エンジン
[5] トウミ

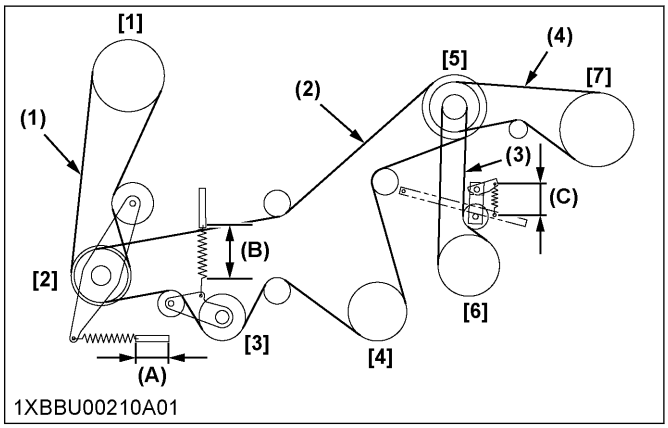




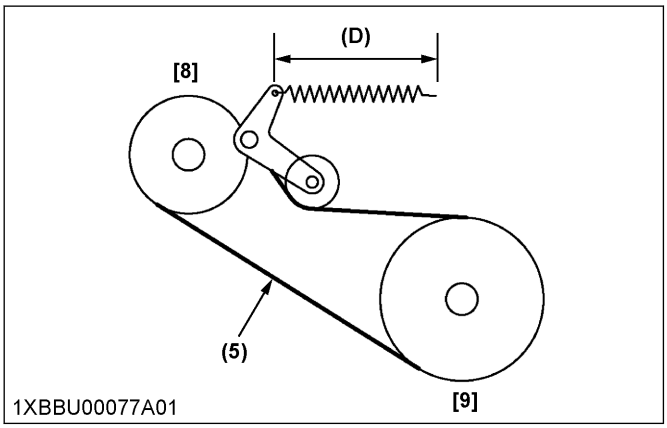
脱こく部、カッタ部周辺

図番	名称	適応機種	サイズ	本数(本／台)	張り調整		
					テンションスプリング取付け長さ(mm)		たわみ量(mm)
(1)	こぎ胴ケース駆動ベルト	全機種	特 C87	1	(A)	200～205	—
(2)	1 番・2 番・チェーン駆動ベルト	全機種	特 B139	1	(B)	250～255	—
(3)	揺動駆動ベルト	全機種	特 B50	1	(C)	74～79	—
(4)	カッタ駆動ベルト	全機種	特 B54	1	スプリングの掛換え		—
(5)	こぎ胴駆動ベルト	全機種	特 B55	2	(D)	233～238	—

重要：
- **こぎ胴駆動ベルトは、2 本同時に交換してください。単品で交換すると、新しく交換したベルトの寿命が短くなるおそれがあります。**



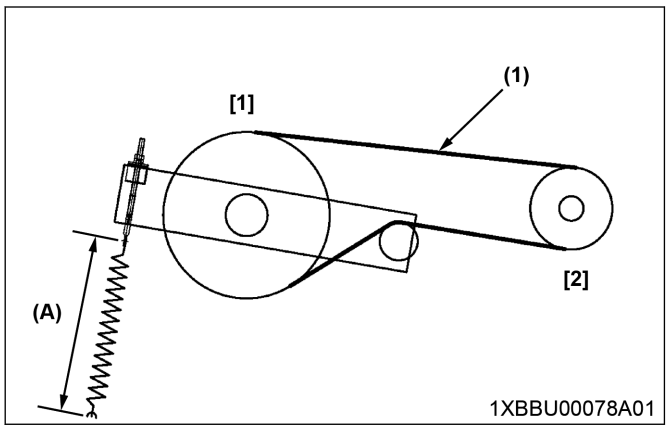
[1] こぎ胴ケース駆動
[2] トウミ
[3] *1* 番
[4] *2* 番
[5] チェーン駆動
[6] 揺動
[7] カッタ



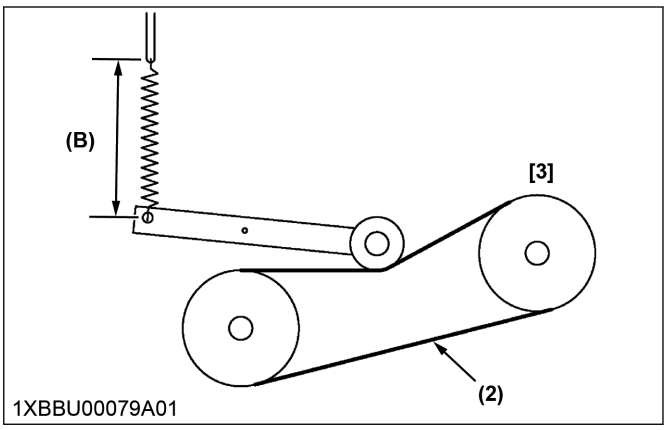
[8] こぎ胴駆動
[9] こぎ胴

グレンタンク部

図番	名称	適応機種	サイズ	本数(本／台)	張り調整		
					テンションスプリング取付け長さ(mm)		たわみ量(mm)
(1)	タンク駆動ケース駆動ベルト	全機種	特 B63	1	(A)	187～191	—
(2)	スクリュ駆動ベルト	全機種	特 B47	1	(B)	103～107	—



[1] グレンタンク駆動ケース *[2]* エンジン

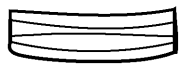
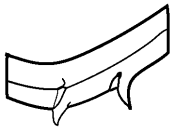
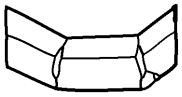


[3] タンクスクリュ

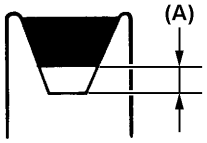
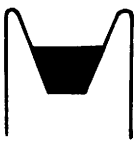
30.1 各部ベルトの点検

各部のベルトを点検するときは、次の事項をよく確認してください。

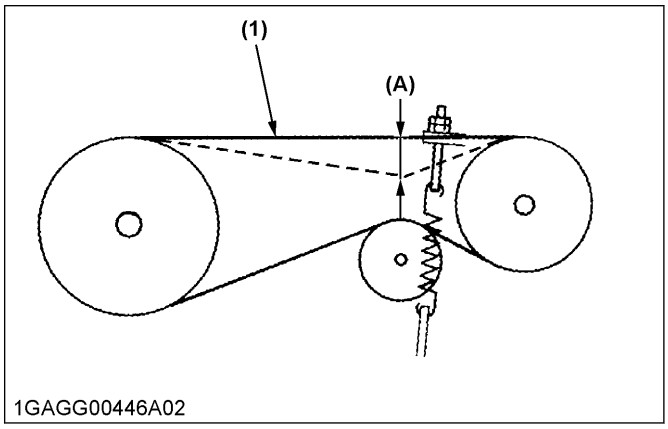
- ベルトの焼付きや摩耗、被覆のはがれ、き裂やひび割れ

焼付きや摩耗	被覆のはがれ	き裂やひび割れ
×	×	×
 1GAGG00441A01	 1GAGG00442A01	 1GAGG00443A01

- ベルトの底部とプーリ溝部のすき間

○	×
 1GAGG00444A02	 1GAGG00445A02
(A) すき間	

- ベルトの伸び（たわみ量）



(1) ベルト　　*(A)* たわみ量

点検事項を確認したとき、異常があればベルト交換またはベルトの張り調整を行ってください。ベルトの交換は購入先へ連絡して修理を依頼してください。

重要：

- **ベルトは必ず純正品を使用してください。**

30.2 各部ベルトの調整

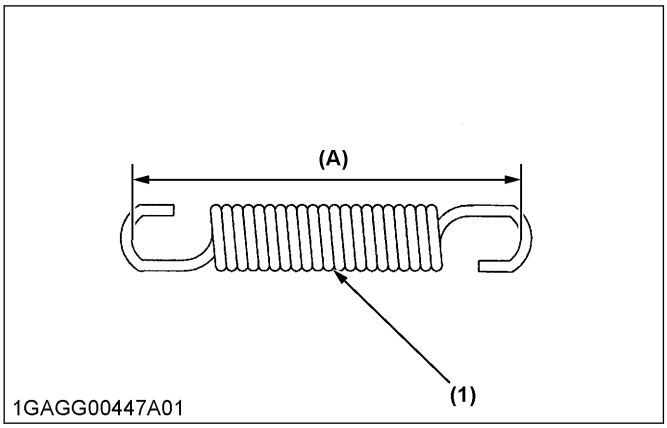
ベルトが伸びてスリップが発生しやすいときは、張り調整を行ってください。

重要：

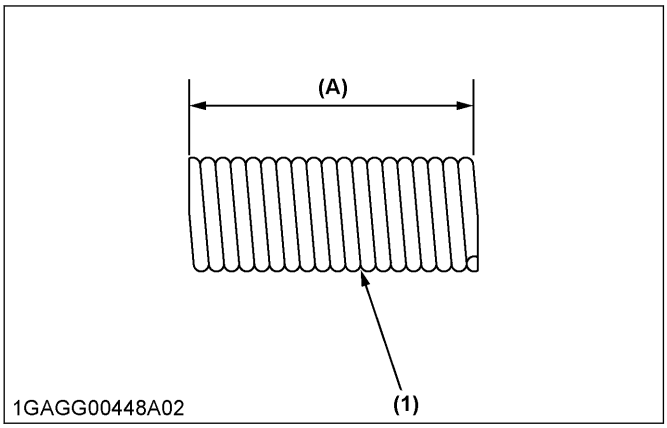
- **テンションスプリングの張り調整が終わり、調整ナットまたはロックナットを締め付けるとき、テンションスプリングをねじれた状態で締め付けないでください。破損の原因となります。**

補足：

- **スプリングの取付け長さは、引張りスプリングの場合はフックの内寸法、圧縮スプリングの場合は外寸法を測定してください。**



(1) 引張りスプリング　　*(A)* 内寸法



(1) 圧縮スプリング　　*(A)* 外寸法

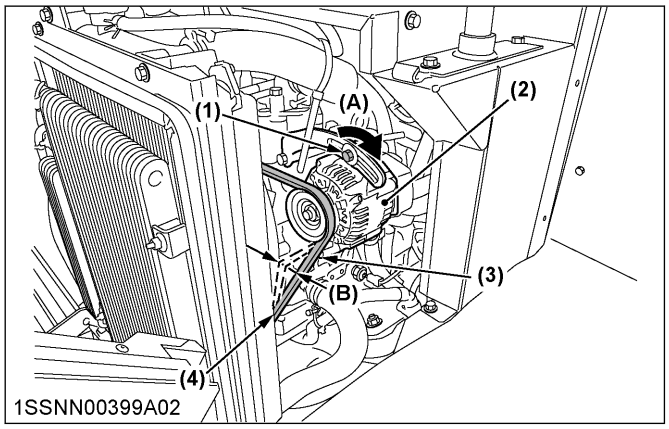
31. ファン駆動ベルトの点検、調整

指先でファン駆動ベルトの中央部を押したときのたわみ量を適正長さに調整します。

ファン駆動ベルトへの荷重	約 100 N～112 N（約 10 kgf～11 kgf）

1. エンジンルームを開きます。
2. オルタネータの取付けボルトと調整ボルトをゆるめます。

3. オルタネータを引っ張ります。



(1) 調整ボルト
(2) オルタネータ
(3) 取付けボルト
(4) ファン駆動ベルト
(A) 引く

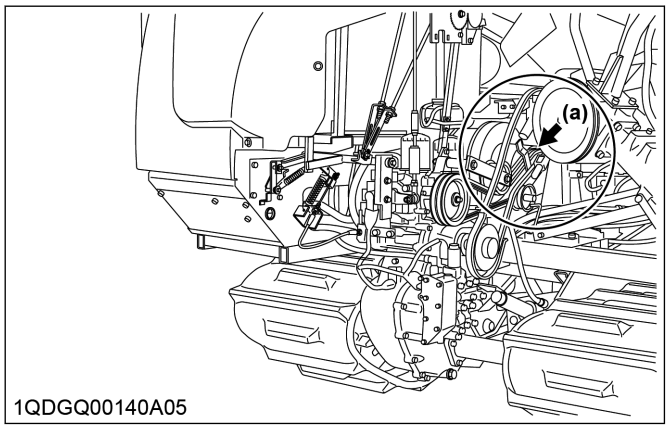
(B)	ファン駆動ベルトのたわみ量	10 mm～12 mm

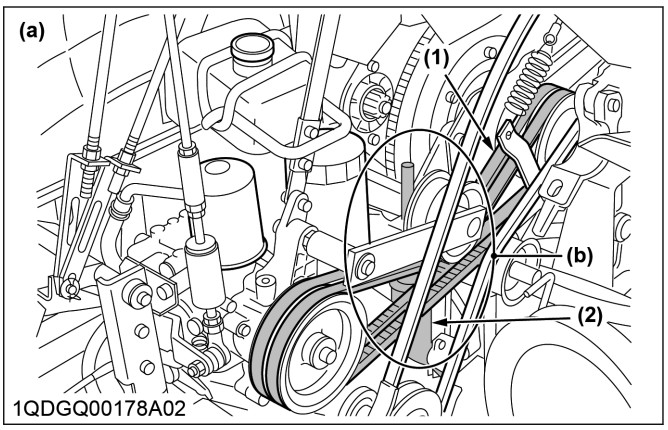
4. 調整ボルトを締め付けます。
5. 取付けボルトを締め付けます。
6. エンジンルームを閉じます。

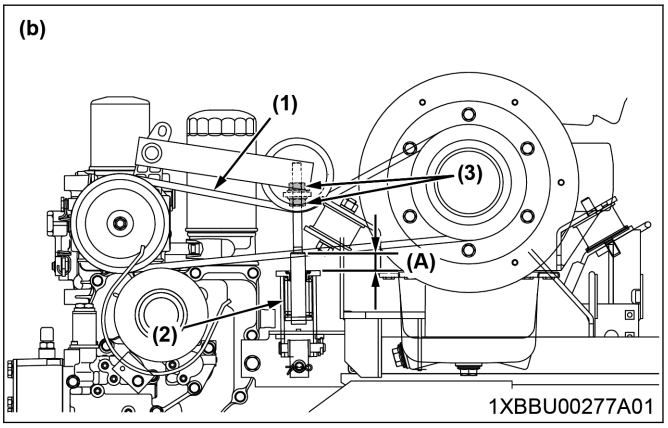
32. ミッション駆動ベルトの点検、調整

圧縮スプリングホルダから出ているテンションロッドの出代を適正長さに調整します。

1. 刈取部を開きます。
2. 調整ナット 2 か所をゆるめて、テンションロッドの調整を行います。







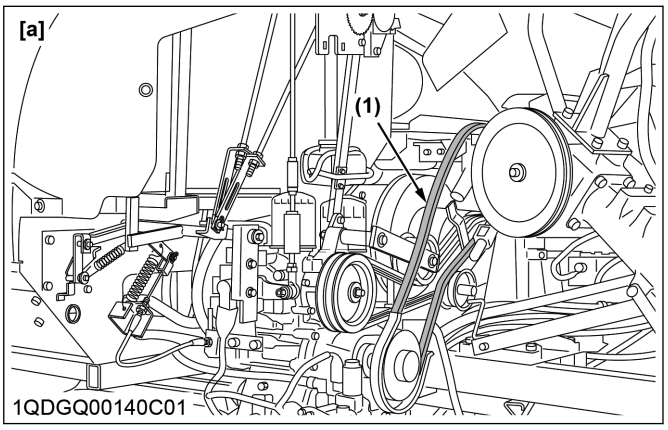
(1) ミッション駆動ベルト
(2) 圧縮スプリングホルダ
(3) 調整ナット

(A)	テンションロッドの出代	27 mm～29 mm

3. 調整ナットを締め付けます。
4. 刈取部を閉じます。

33. 刈取駆動ベルトの点検、調整

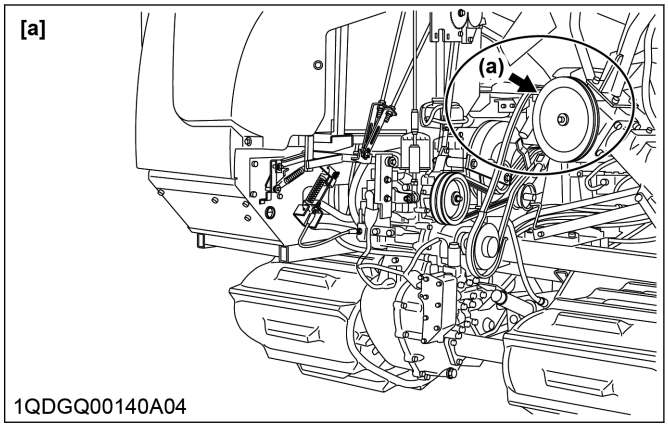
刈取駆動ベルトの調整については、刈取クラッチワイヤの点検、調整（208 ページ）を参照してください。
刈取クラッチワイヤと刈取駆動ベルトの張り調整は同じです。

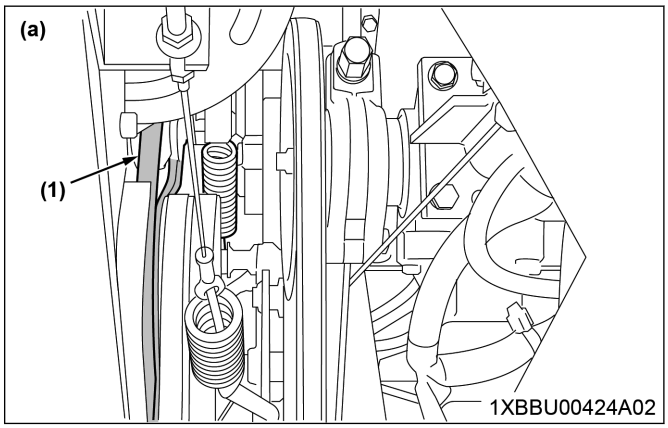


(1) 刈取駆動ベルト
[a] イラストは刈取部を開いた状態

34. 脱こく駆動ベルトの点検、調整

脱こく駆動ベルトの調整については、脱こくクラッチワイヤの点検、調整（208 ページ）を参照してください。脱こくクラッチワイヤと脱こく駆動ベルトの張り調整は同じです。



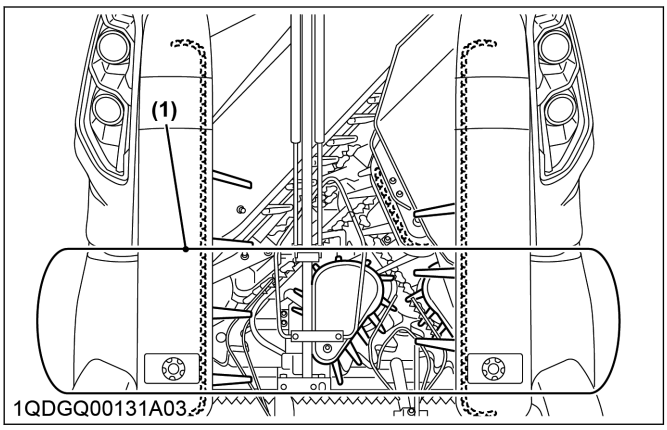


(1) 脱こく駆動ベルト　　*[a]* イラストは刈取部を開いた状態

35. 補助搬送（突起付）ベルトの点検、調整

指先で補助搬送（突起付）ベルトの中央部を引いたときのたわみ量を適正長さに調整します。

補助搬送（突起付）ベルトの中央部への荷重	約 50 N （約 5 kgf）

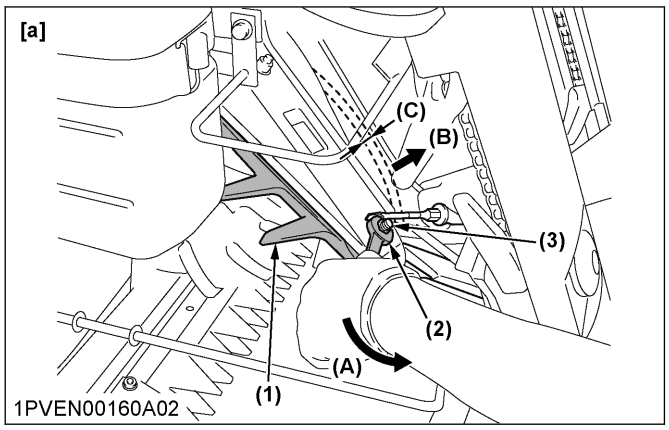


(1) 点検箇所

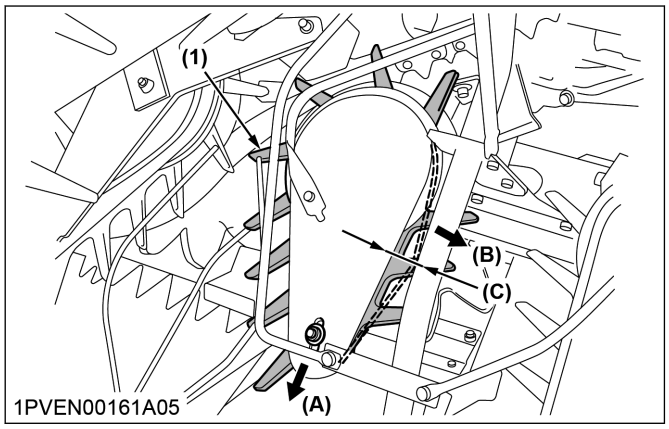
1. 引起しサイドカバー左、右を取り外します。
2. 引起し部を上側に開きます。
3. ナットをゆるめます。
4. 両端部は鉄の棒などかたい棒を切欠き部に差し込み、張り方向に押しながらレンチでナットを締め付けます。
5. 両端部以外はナットを少しゆるめて、樹脂ハンマーなどでナット取付部を前方に少しずつ張りながらベルトの調整を行います。

6. ナットを締付けます。

両端部



両端部以外



(1) 補助搬送（突起付）ベルト
(2) レンチ
(3) ナット
(A) 張る
[a] イラストは右端部

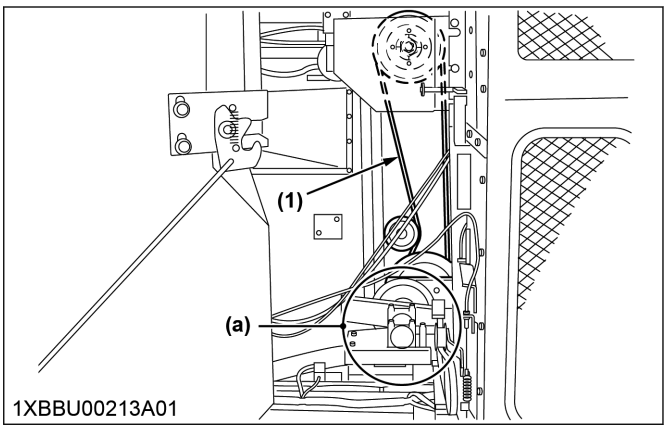
(B)	引く	約 50 N （約 5 kgf）
(C)	補助搬送（突起付）ベルトのたわみ量	10 mm～15 mm

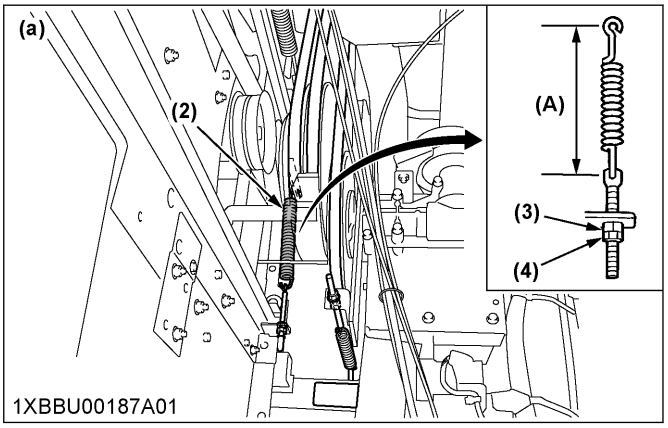
7. 引起しサイドカバー左、右を取り付けます。
8. 引起し部を閉じます。

36. こぎ胴駆動ケース駆動ベルトの点検、調整

こぎ胴駆動ケース駆動ベルトのテンションスプリングの長さを適正長さに調整します。

1. グレンタンクを開きます。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて、調整ナットで調整を行います。
3. ロックナットを締め付けます。





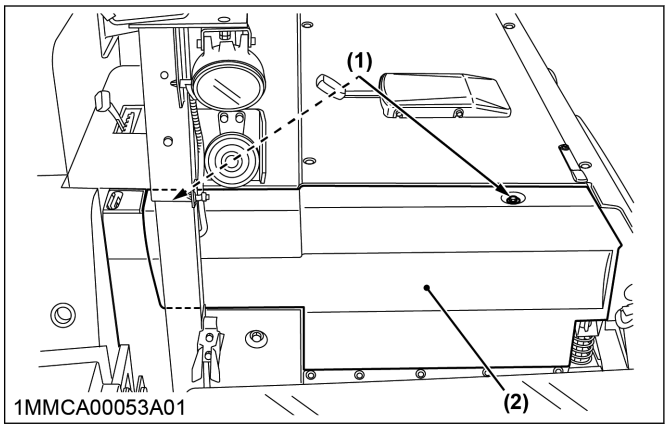
(1) こぎ胴駆動ケース駆動ベルト
(2) テンションスプリング
(3) 調整ナット
(4) ロックナット
(A) *200 mm～205 mm*

4. グレンタンクを閉じます。

37. こぎ胴駆動ベルトの点検、調整

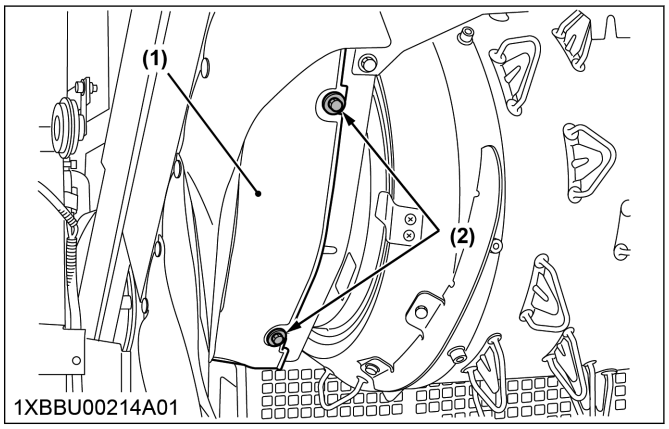
こぎ胴駆動ベルトのテンションスプリングの長さを適正長さに調整します。

1. こぎ胴フロントカバーを取り外します。
   a. フロントカバー上部のボルト 2 本を取り外します。



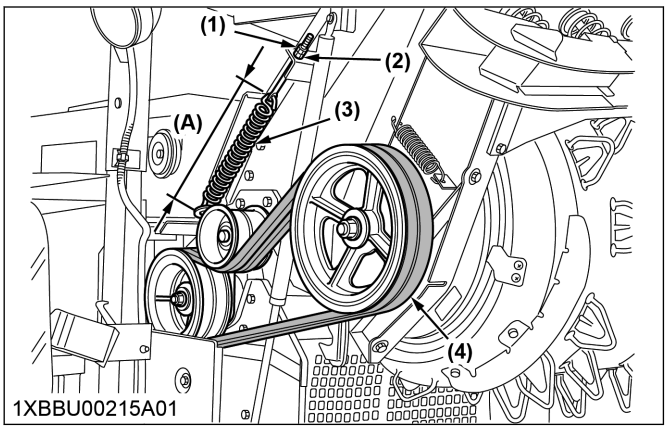
(1) ボルト　　*(2)* こぎ胴フロントカバー

   b. こぎ胴を開きます。
   c. フロントカバー下部のボルト 2 本をゆるめます。
   d. こぎ胴フロントカバーを取り外します。



(1) こぎ胴フロントカバー　　*(2)* ボルト

2. ロックナットと調整ナットをゆるめて、調整ナットで調整を行います。



(1) ロックナット　　*(4)* こぎ胴駆動ベルト
(2) 調整ナット
(3) テンションスプリング

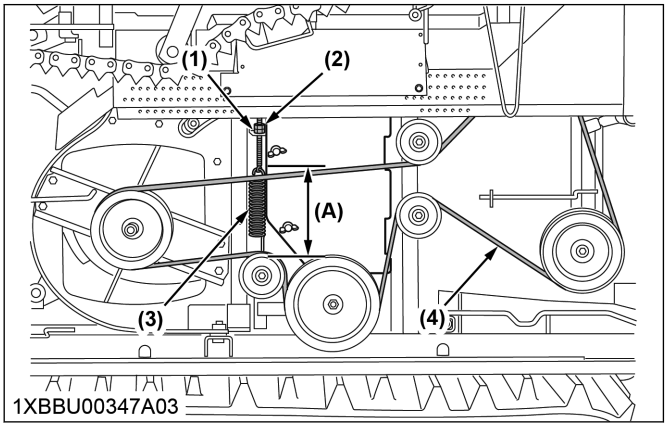
(A)	233 mm～238 mm

3. ロックナットを締め付けます。
4. こぎ胴フロントカバーを取り付けます。
5. こぎ胴を閉じます。

38. 1 番・2 番・チェーン駆動ベルトの点検、調整

1 番・2 番・チェーン駆動ベルトのテンションスプリングの長さを適正長さに調整します。

1. 左サイドカバー上、下を取り外します。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて、調整ナットで調整を行います。
3. ロックナットを締め付けます。



(1) 調整ナット　　*(A)* *250 mm～255 mm*
(2) ロックナット
(3) テンションスプリング
(4) *1* 番・*2* 番・チェーン駆動ベルト

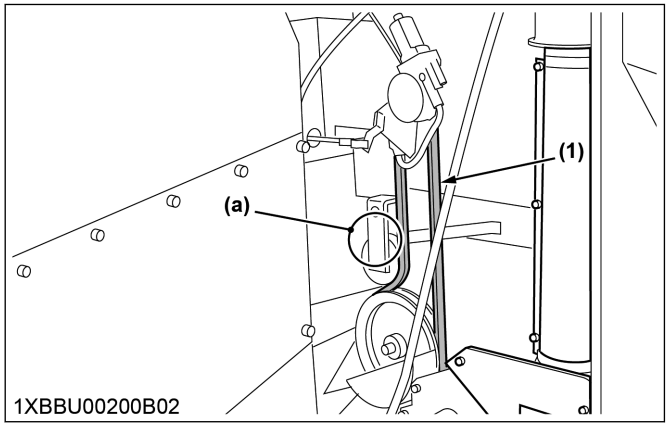
4. 左サイドカバー上、下を取り付けます。

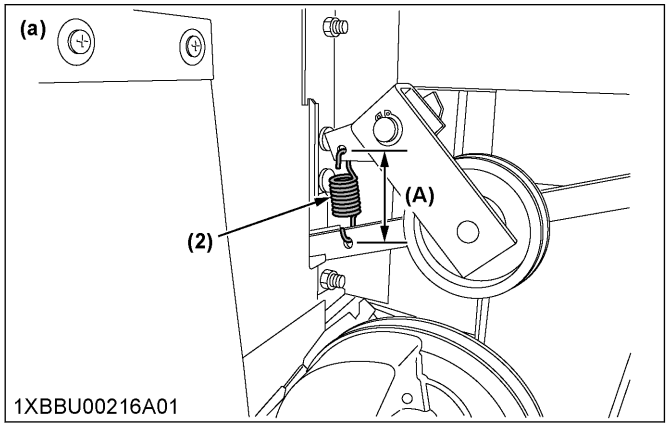
39. 揺動駆動ベルトの点検、調整

1. グレンタンクを開きます。

2. 揺動駆動ベルトのテンションスプリングを点検します。
   揺動駆動ベルトが伸びたときは、購入先に連絡して交換してください。

   補足：
   - **テンションスプリングが張られた状態の長さは次図のとおりです。**



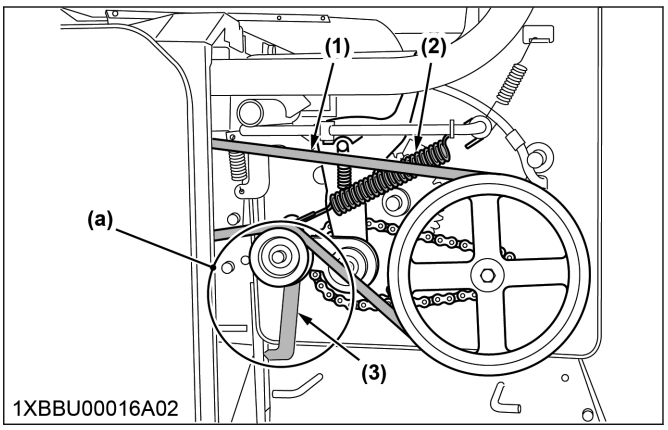


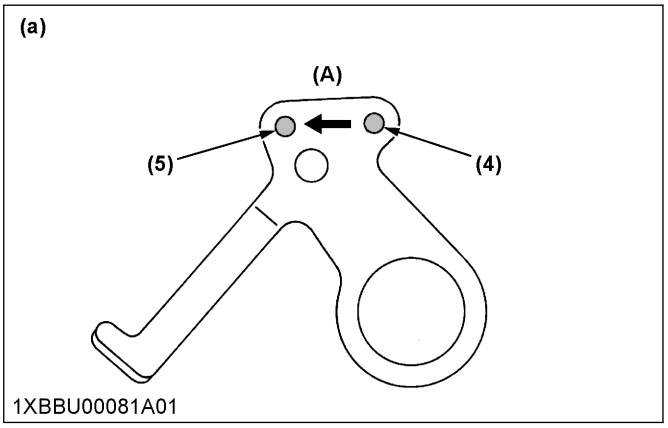
(1) 揺動駆動ベルト *(A)* *74 mm～79 mm*
(2) テンションスプリング

3. グレンタンクを閉じます。

40. カッタ駆動ベルトの点検

1. カッタ左サイドカバーを取り外します。
2. カッタ駆動ベルトの張りを点検します。
3. ベルトの張りが弱いときは、テンションスプリングを取り付けているカッタテンションアーム側の取付穴の位置を変更（掛けかえ）します。





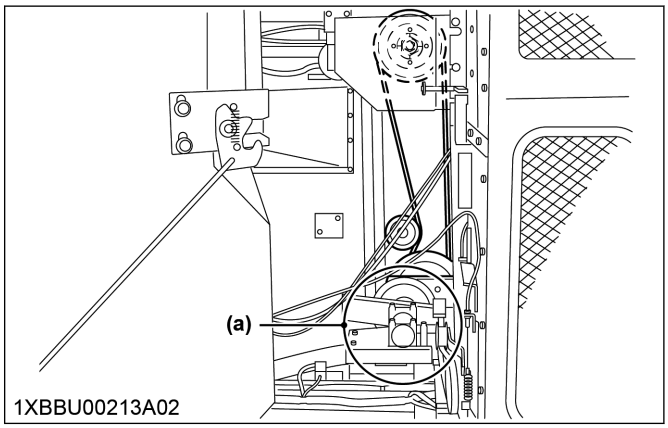
(1) カッタ駆動ベルト *(A)* 掛けかえ
(2) テンションスプリング
(3) カッタテンションアーム
(4) 出荷時の取付け穴
(5) 変更時の取付け穴

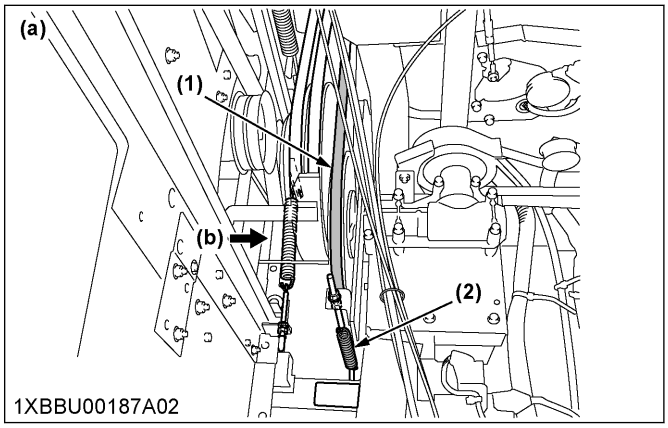
4. カッタ左サイドカバーを取り付けます。

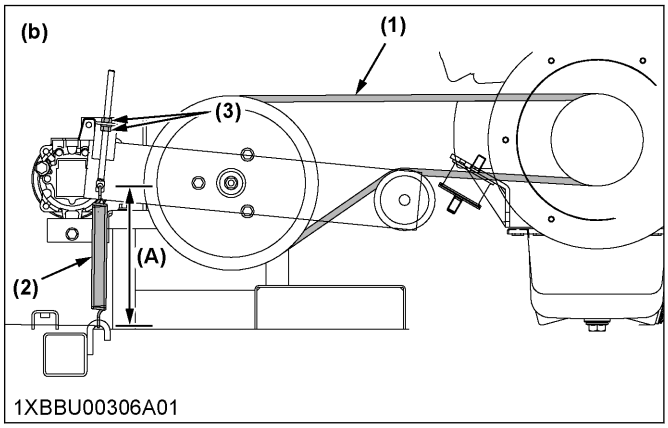
41. タンク駆動ケース駆動ベルトの点検、調整

タンク駆動ケース駆動ベルトのテンションスプリングの長さを適正長さに調整します。
1. グレンタンクを開きます。
2. 調整ナット 2 個をゆるめて、調整ナットで調整を行います。

3. 調整ナットを締め付けます。







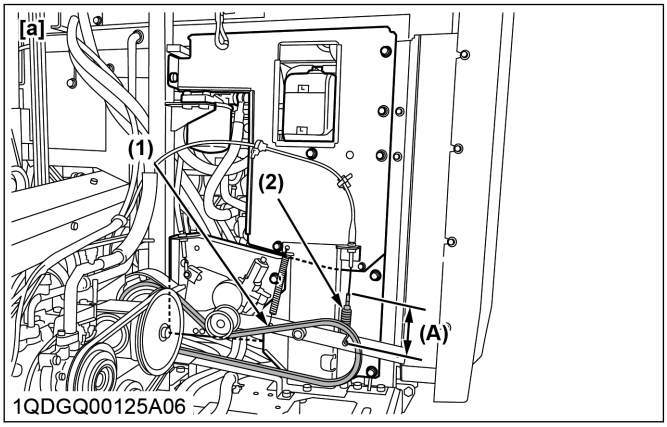
(1) タンク駆動ケース駆動ベルト
(2) テンションスプリング
(3) 調整ナット
(A) *187 mm～191 mm*

4. グレンタンクを閉じます。

42. スクリュ駆動ベルトの点検、調整

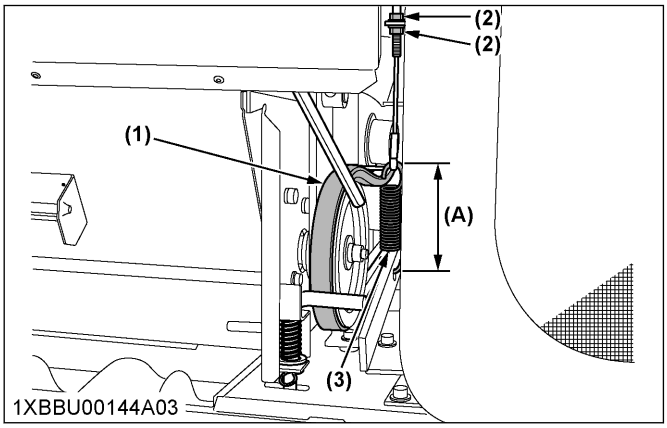
スクリュ駆動ベルトのテンションスプリングの長さを適正長さに調整します。

1. メインスイッチのキーを**[入]**位置にします。
2. 次の操作でテンションスプリングを引っ張った状態にします。
   - もみ排出スイッチを押す
3. メインスイッチのキーを**[切]**位置にします。
4. グレンタンク下カバーを取り外します。
5. テンションスプリングの長さを測定します。
   テンションスプリングの長さが規定値から外れているときは調整してください。



(1) スクリュ駆動ベルト
(2) テンションスプリング
(A) *103 mm～107 mm*
[a] イラストはグレンタンクを開いた状態

6. 調整ナット 2 個をゆるめて、テンションスプリングの調整を行います。
7. 2 個の調整ナットを締め付けます。



(1) スクリュ駆動ベルト
(2) 調整ナット
(3) テンションスプリング
(A) *103 mm～107 mm*

8. 再度次の操作でテンションスプリングを引っ張った状態にします。
   - もみ排出スイッチを押す
9. テンションスプリングが規定値になっていることを確認します。
10. グレンタンク下カバーを取り付けます。
11. メインスイッチのキーを**[入]**位置にし、もみ排出停止スイッチを押します。
12. メインスイッチのキーを**[切]**位置にします。

43. 各部チェーンの点検、調整

⚠ 警告

- **刈取部、引起し部などの各部を開いて作業を行うときは、次の事項を遵守してください。**

- **平たんで安全な場所で、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてから行ってください。**
- **傾斜地では、各部の開閉は行わないでください。**
- **刈取部、引起し部を開いたときは、閉じないようにストッパを必ず掛けてください。**
- **各部を開いた状態で走行をしないでください。**
- **各部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**

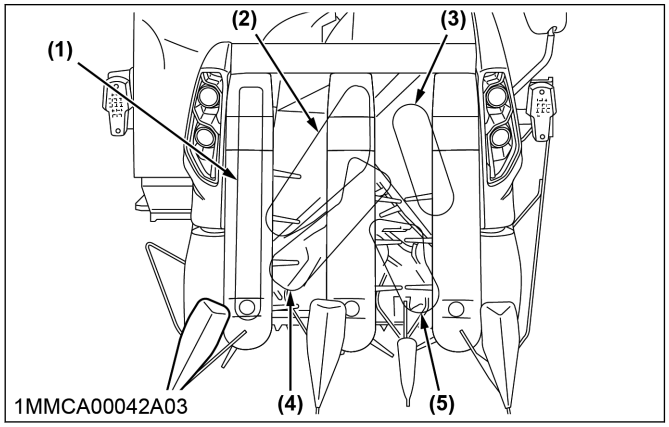
- **刈取部を開いた状態で作業するときは、枕木などで刈取部の落下防止の歯止めをしてください。**
- **刈取部の開閉を行うときは、機体を最下降位置にしてください。**
- **取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。**

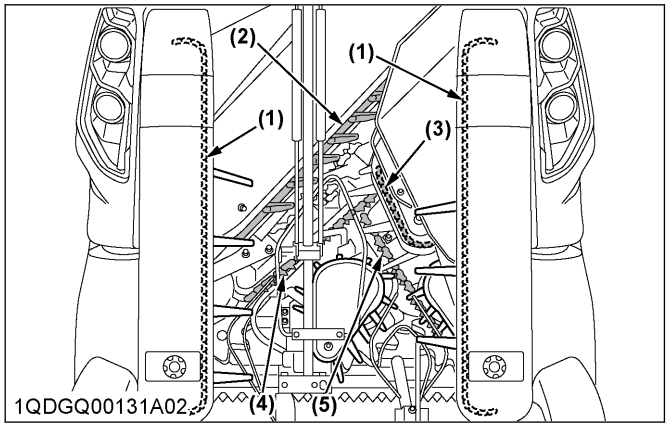
43.1 各部チェーンの点検

各部のチェーンを点検して、ゆるみがあるときは調整してください。

43.1.1 各部チェーンの点検箇所

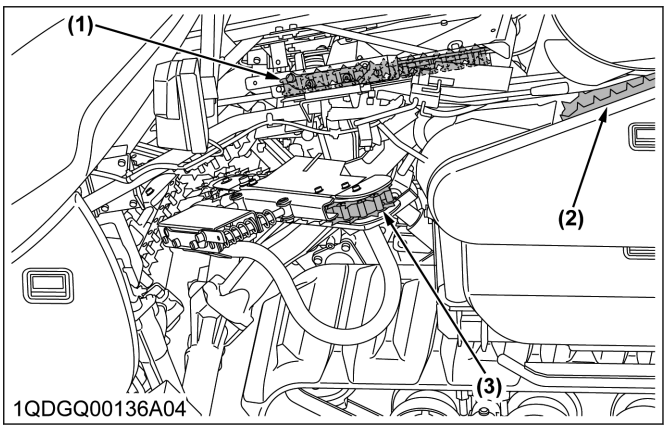
刈取部のチェーン





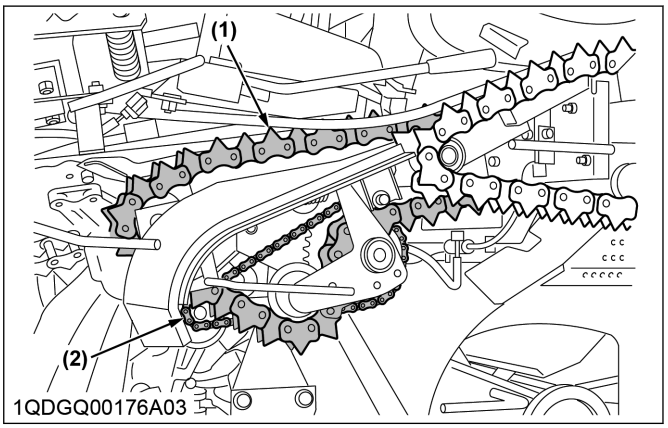
(1) 引起しチェーン
(2) 右穂先チェーン
(3) 左穂先チェーン
(4) 右株元チェーン
(5) 左株元チェーン

脱こく部のチェーン



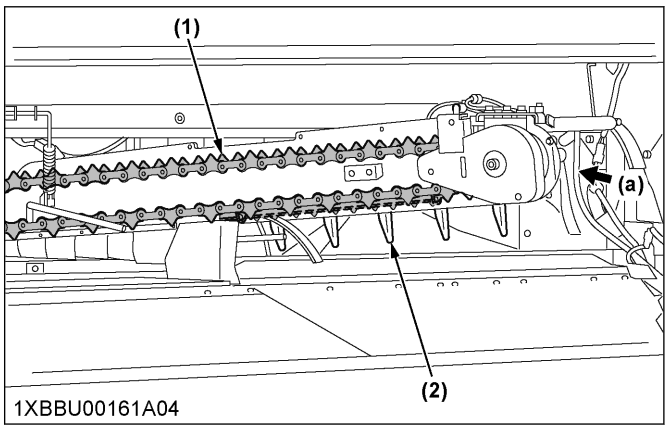
(1) 株元供給チェーン
(2) フィードチェーン
(3) こぎ深さチェーン

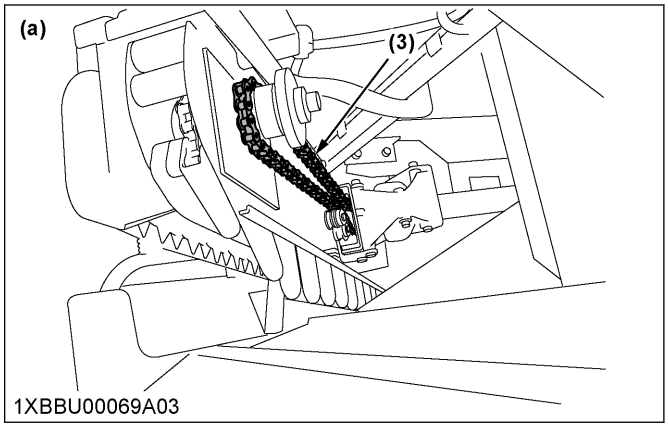
供給搬送部のチェーン



(1) 供給サポートチェーン
(2) 供給サポートチェーン駆動チェーン

わら処理部のチェーン





(1) 排わら株元チェーン
(2) 排わら穂先チェーン
(3) 排わら入力チェーン

43.1.2 各部チェーンの調整

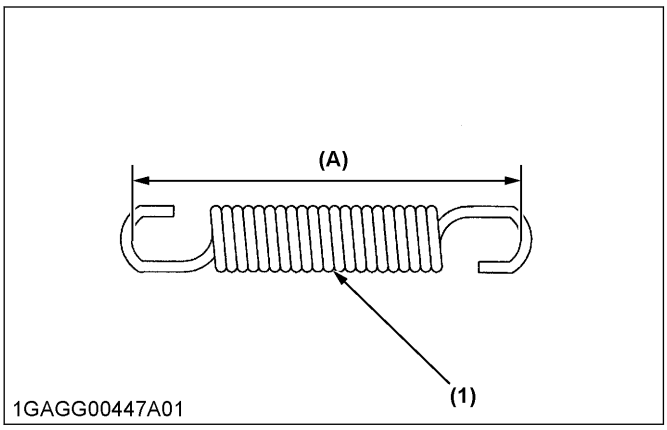
チェーンが伸びているときは、張り調整を行ってください。

重要：

- **テンションスプリングの張り調整が終わり、調整ナットまたはロックナットを締め付けるとき、テンションスプリングをねじれた状態で締め付けないでください。破損の原因となります。**

補足：

- **スプリングの取付け長さは、フックの内寸法を測定してください。**

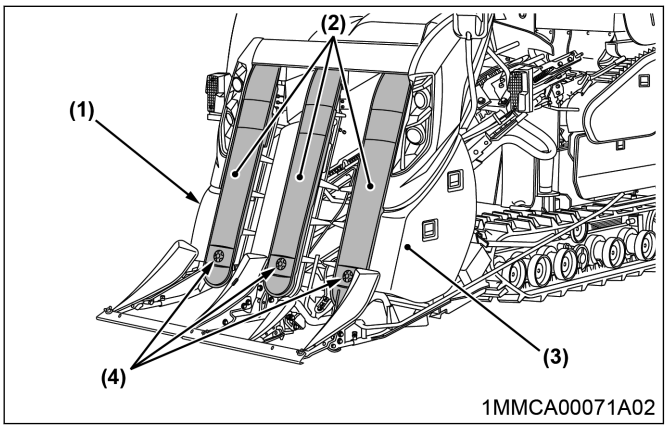


(1) テンションスプリング
(A) 内寸法

44. 引起しチェーンの点検、調整

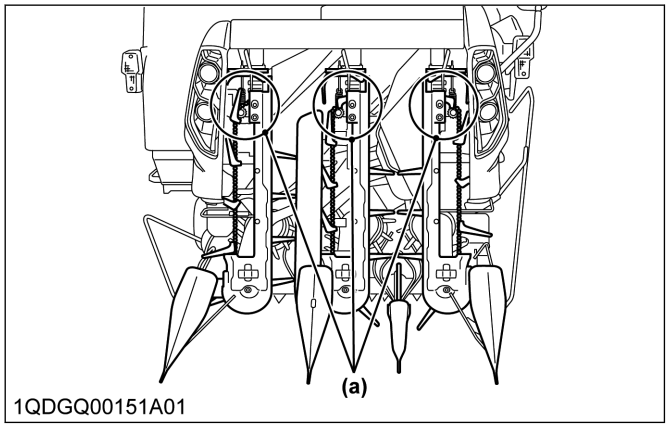
引起しテンションフックとテンションスプリングの段差を適正高さに調整します。

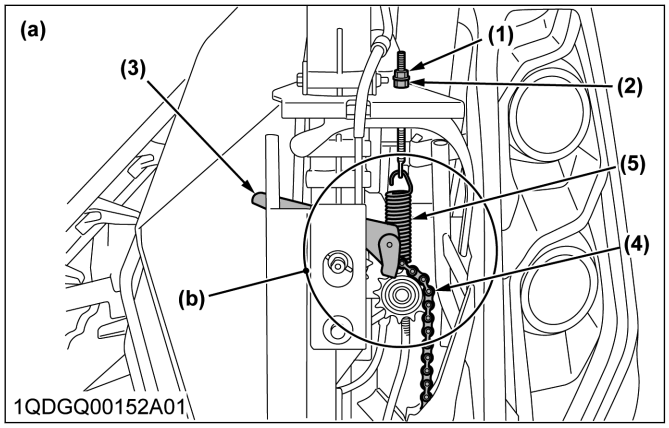
1. 引起しサイドカバー左、右および引起しカバーを取り外します。
   a. 引起しサイドカバー左、右を取り外します。
   b. 引起しカバーのノブボルトを外します。
   c. 引起しカバーを少し持ち上げて取り外します。

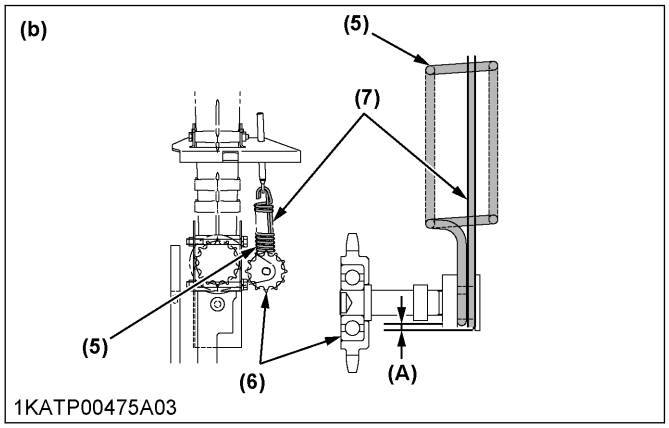


(1) 引起しサイドカバー右
(2) 引起しカバー
(3) 引起しサイドカバー左
(4) ノブボルト

2. ロックナットと調整ナットをゆるめて、調整ナットで引起しチェーンを調整します。







(1) ロックナット
(2) 調整ナット
(3) 引起し爪
(4) 引起しチェーン
(5) テンションスプリング
(6) スプロケット
(7) 引起しテンションフック

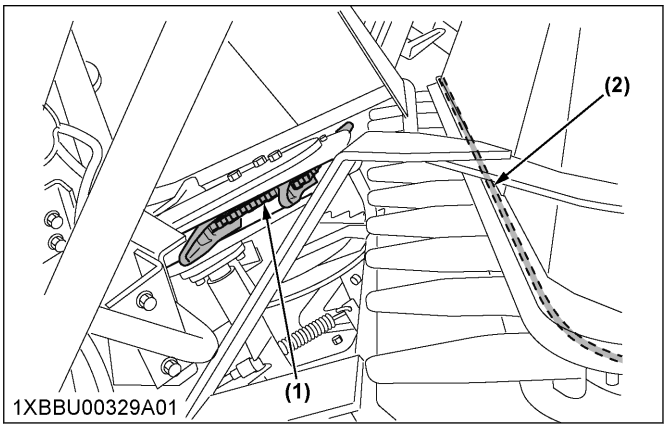
(A)	引起しテンションフックとテンションスプリングの段差	0.5 mm～2.5 mm

補足：
- **調整は全条行ってください。**

3. ロックナットを締め付けます。
4. 引起しカバーを取り付けます。
5. 引起しサイドカバー左、右を取り付けます。

45. 左穂先チェーン、右穂先チェーンの点検

1. 左穂先チェーン、右穂先チェーンを点検します。
   左穂先チェーン、右穂先チェーンは自動テンションになっていますが、チェーンが伸びたときは購入先に連絡して修理を依頼してください。



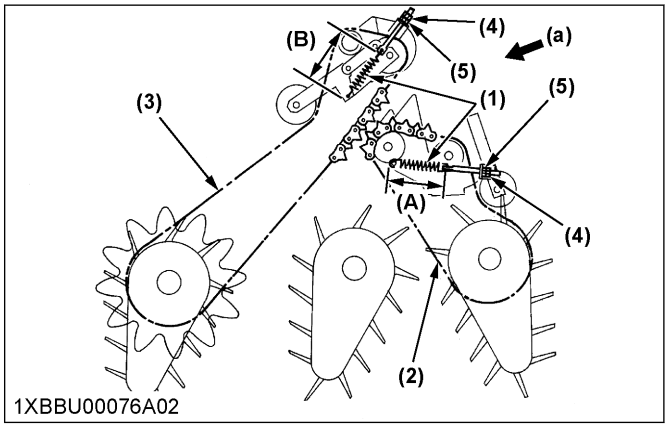
(1) 右穂先チェーン *(2)* 左穂先チェーン

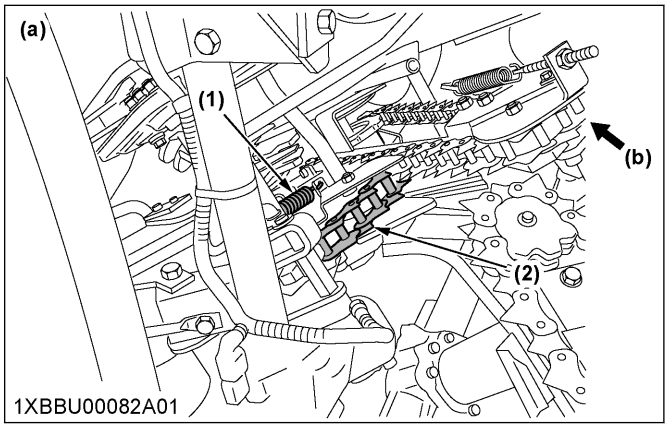
46. 左株元チェーン、右株元チェーンの点検、調整

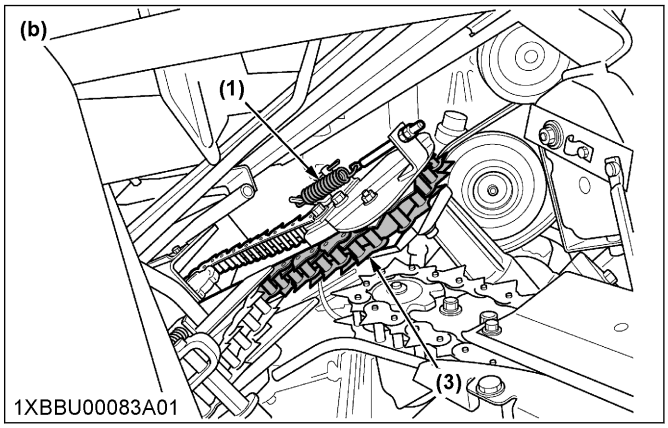
左株元チェーンのテンションスプリングの長さ(A)寸法、右株元チェーンのテンションスプリングの長さ(B)寸法をそれぞれ適正長さに調整します。

1. 引起しサイドカバー左を取り外します。
2. 引起し部を開きます。

3. ロックナットと調整ナットをゆるめて、調整ナットでテンションスプリングの調整を行います。







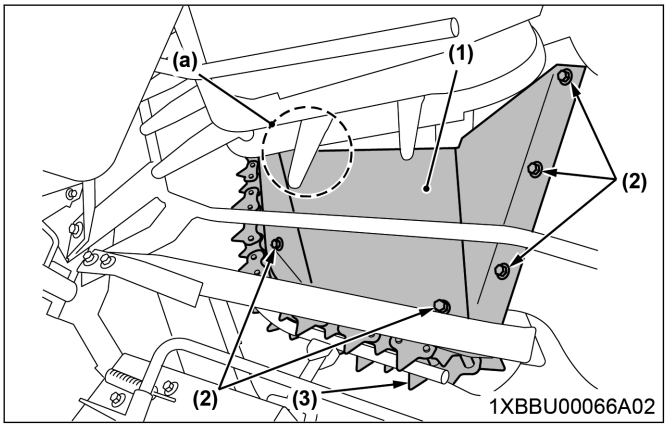
(1) テンションスプリング
(2) 左株元チェーン
(3) 右株元チェーン
(4) ロックナット
(5) 調整ナット
(A) *123 mm～129 mm*
(B) *123 mm～129 mm*

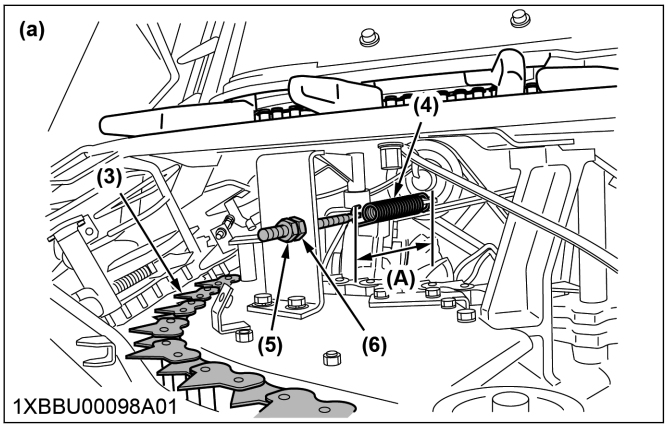
4. ロックナットを締め付けます。
5. 引起し部を閉じます。
6. 引起しサイドカバー左を閉じます。

47. 株元供給チェーンの点検、調整

株元供給チェーンのテンションスプリングの長さを適正長さに調整します。

1. ボルトを取り外して、株元供給カバーを外します。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて、調整ナットで調整します。





(1) 株元供給カバー
(2) ボルト
(3) 株元供給チェーン
(4) テンションスプリング
(5) ロックナット
(6) 調整ナット
(A) *123 mm～129 mm*

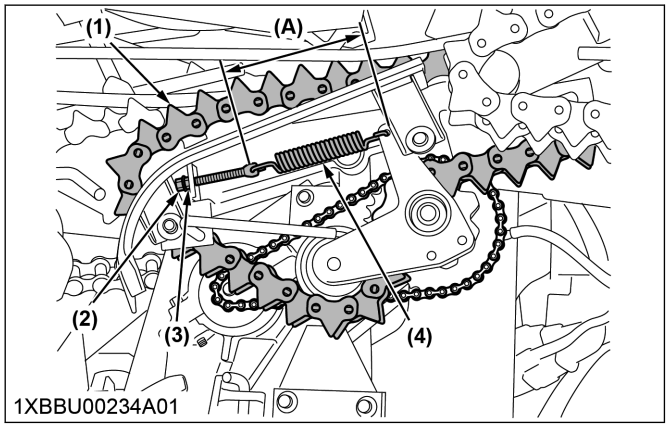
3. ロックナットを締め付けます。
4. 株元供給カバーを取り付けます。

48. 供給サポートチェーンの点検、調整

供給サポートチェーンのテンションスプリングの長さを適正長さに調整します。

1. 左サイドカバー上、下を取り外します。

2. 調整ナットをゆるめて、テンションスプリングの調整を行います。

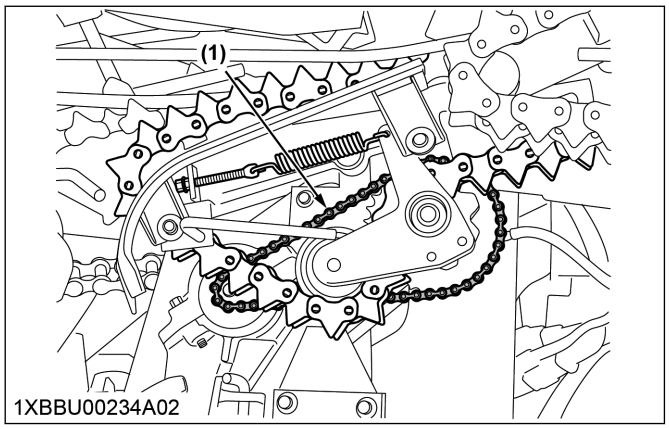


(1) 供給サポートチェーン *(A) 123 mm～129 mm*
(2) ロックナット
(3) 調整ナット
(4) テンションスプリング

3. 調整ナットを締め付けます。
4. 左サイドカバー上、下を取り付けます。

49. 供給サポートチェーン駆動チェーンの点検

1. 供給サポートチェーン駆動チェーンを点検します。供給サポートチェーン駆動チェーンが伸びたときは、購入先に連絡して修理を依頼してください。

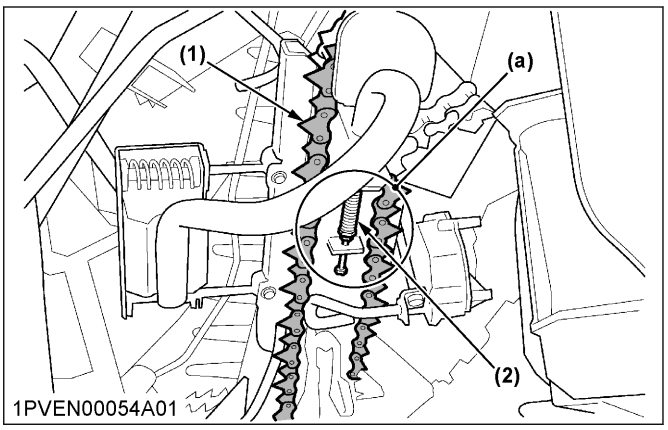


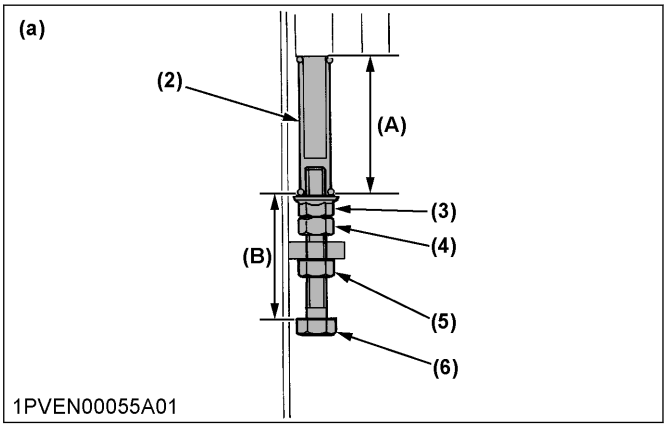
(1) 供給サポートチェーン駆動チェーン

50. こぎ深さチェーンの点検、調整

こぎ深さチェーンの圧縮スプリングの長さを適正長さに調整します。

1. テンションボルトを固定しているロックナット(下)をゆるめて、テンションボルトで調整を行います。





(1) こぎ深さチェーン *(A) 73 mm～77 mm*
(2) 圧縮スプリング
(3) 調整ナット
(4) ロックナット（上）
(5) ロックナット（下）
(6) テンションボルト

補足：

- **ロックナット（上）はゆるめないでください。スプリングの張り代が変わるおそれがあります。もしロックナット（上）をゆるめたときは、(B)寸法を適正長さに調整したあと、ロックナット（上）を締め付けてください。**

(B)	適正長さ	68 mm～70 mm

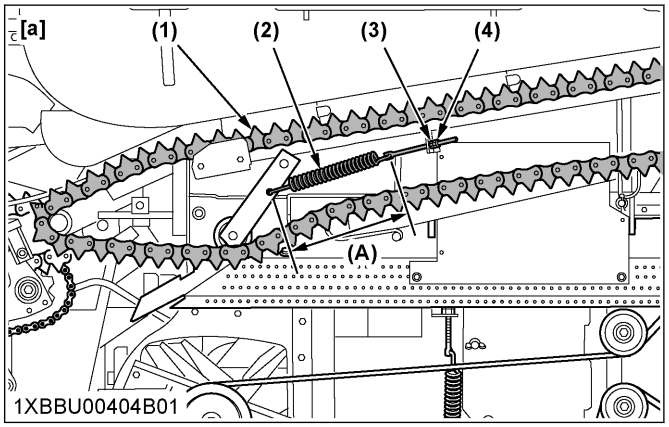
2. ロックナット（下）を締め付けます。

51. フィードチェーンの点検、調整

フィードチェーンのテンションスプリングの長さを適正長さに調整します。

1. 左サイドカバー上を取り外します。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめます。

3. 調整ナットでテンションスプリングの調整を行います。

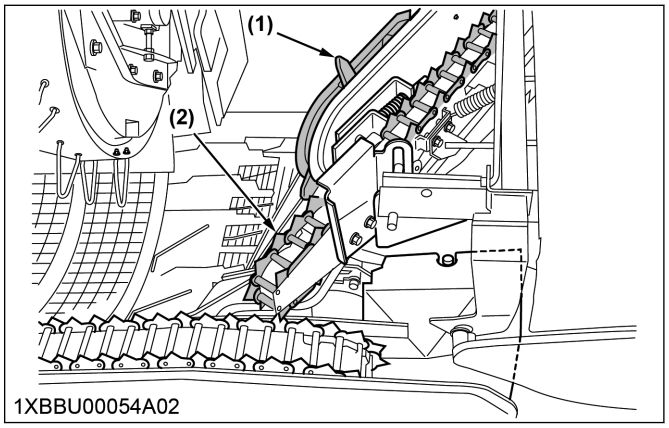


(1) フィードチェーン
(2) テンションスプリング
(3) 調整ナット
(4) ロックナット
(A) *203 mm～208 mm*
[a] イラストは *448*

4. 調整ナットを締め付けます。
5. 左サイドカバー上を取り付けます。

52. 排わら穂先チェーン、排わら株元チェーンの点検

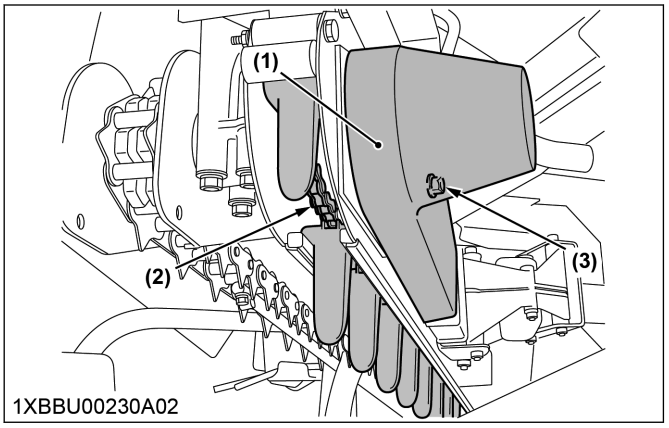
排わら穂先チェーンおよび排わら株元チェーンの張り調整は自動（自動テンション）で行いますが、チェーンが伸びたときは、購入先に連絡して修理を依頼してください。



(1) 排わら穂先チェーン
(2) 排わら株元チェーン

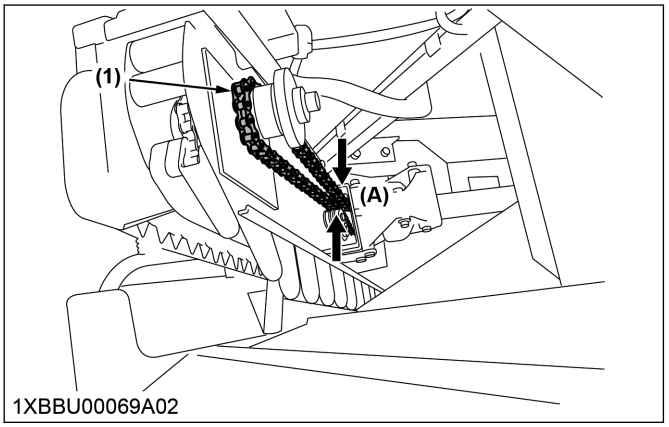
53. 排わら入力チェーンの点検

1. ボルトを取り外して排わら入力チェーンカバーを外します。



(1) 排わら入力チェーンカバー
(2) 排わら穂先チェーン
(3) ボルト

2. 指で排わら入力チェーンの上下の幅が一番狭いところを挟み、入力チェーンの上側と下側が接触していないか確認します。
   排わら入力チェーンの張り調整は自動（自動テンション）で行いますが、指で上下のチェーンを挟むと接触するときは、購入先に連絡してください。



(1) 排わら入力チェーン
(A) 挟んで接触していないか確認

3. 排わら入力チェーンカバーを取り付けます。

54. 刈刃の点検、調整

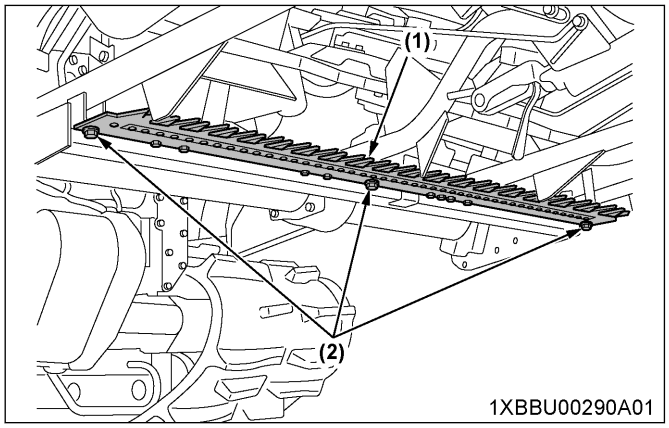
⚠ 警告

- **平たんな場所で刈取部を上げて、刈取下降ロックスイッチを“ロック”位置にして刈取部の下降防止を行ってください。さらに、枕木などを使用して、落下防止の歯止めをしてください。**
- **刃部に手を掛けないでください。不用意に刃が動くと危険です。**
- **脱着作業は手袋をして、二人で刈刃の両端を持って行ってください。**

刈刃の刃先が摩耗してきたり、欠けてくると、作物の刈跡が悪くなったり、引抜きを起こすことがありますので、早めの点検、調整、交換を行ってください。

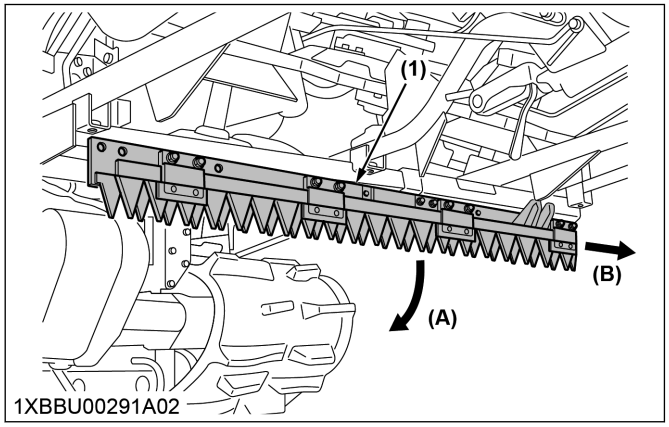
54.1 刈刃の点検、取外し

1. **[L 仕様]** 水平操作手動スイッチの**[上]**を押して、機体を“最上昇位置”まで上げます。
2. 刈取部を最上昇し、刈取下降ロックスイッチを“ロック”位置にセットし、スイッチロック金具をセットして、刈取部を下降防止したあと、エンジンを停止します。さらに枕木などの固定用具を使用して、落下防止のため歯止めします。
3. ボルトを取り外して刈刃アッシを下げたあと、機体の左側方向へ引いて刈刃アッシを取り外します。
   a. ボルト（M10×25）を取り外します。



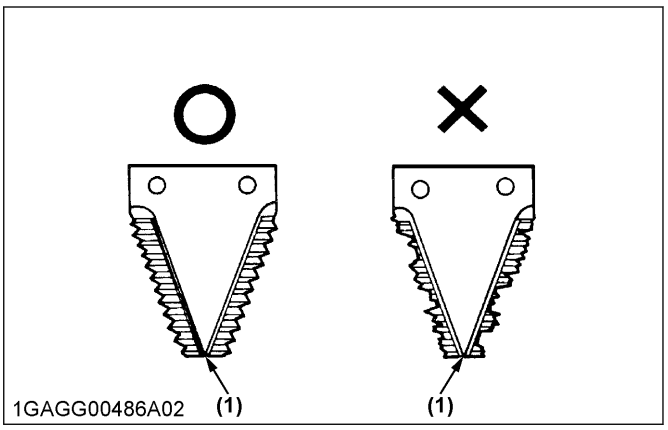
(1) 刈刃アッシ *(2)* ボルト（*M10×25*）

   b. 刈刃アッシを下げます。
   c. 刈刃アッシを機体の左側方向（図の右方向）へ引いて取り外します。



(1) 刈刃アッシ *(A)* 下げる *(B)* 外す

4. 刈刃の刃先と刈刃の動きを確認します。
   刈刃の動きがかたいときは、注油、グリース塗布やすき間を調整します。
   また、刃先が摩耗したり、欠けているときは購入先に連絡して修理を依頼します。



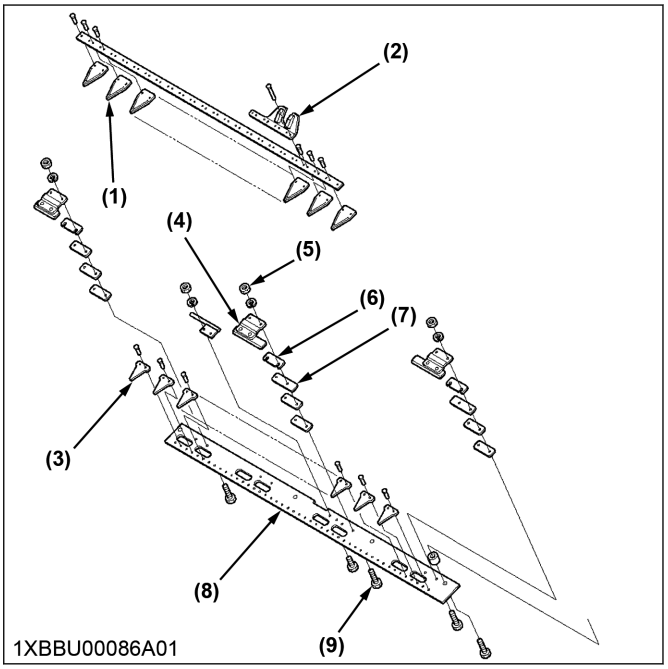
(1) 刈刃の刃先

54.2 刈刃のすき間調整

刈刃のすき間を測定するときは、すき間ゲージを使用してください。

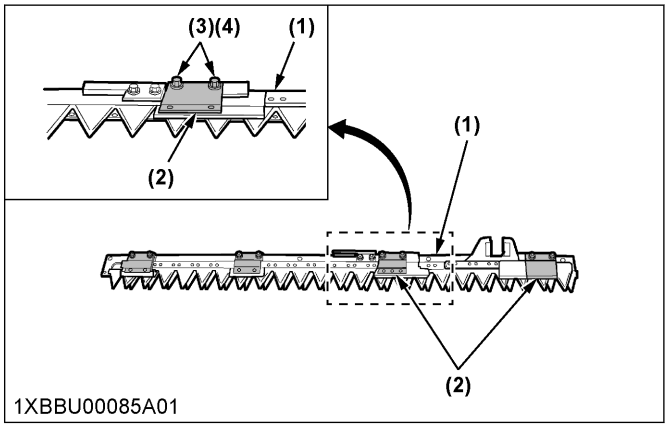
補足：

- **専用工具については、購入先にご相談ください。**



(1) 刈刃
(2) ナイフヘッド
(3) 受刃
(4) ナイフクリップ
(5) ナット
(6) シム
(7) スライドプレート 2
(8) 受刃台
(9) ボルト

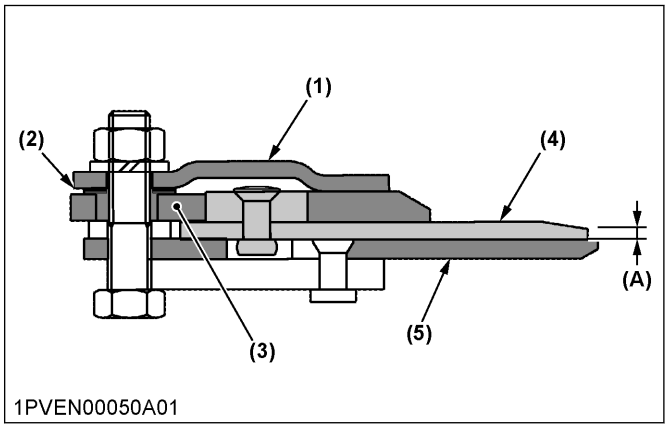
1. ボルト、ナットを取り外して各ナイフクリップを受刃台から外します。



(1) 受刃台　　*(2)* ナイフクリップ

(3)	ナット	上側
(4)	ボルト	下側

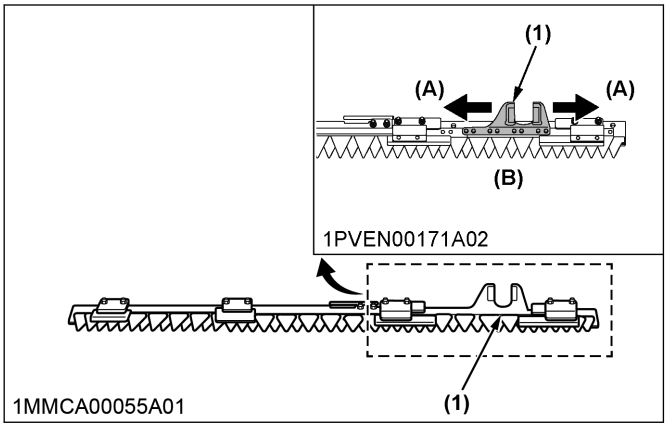
2. 刈刃を取り外します。
3. ワイヤブラシなどで泥や錆を取り除きます。
4. 刈刃と受刃のすき間を適正範囲に調整します。
   a. ナイフクリップとスライドプレート 2 の間にあるシムを増減して調整します。
   b. ボルト、ナットを締め付けたときの刈刃と受刃のすき間を適正範囲に調整します。



(1) ナイフクリップ
(2) シム
(3) スライドプレート *2*
(4) 刈刃
(5) 受刃

(A)	刈刃と受刃のすき間	0 mm～0.5 mm

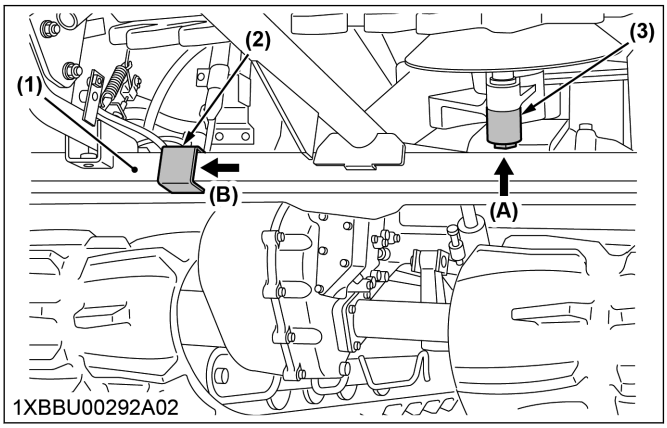
   c. ナイフヘッドを持ち、刈刃を左、右に動かします。
   動かないときや軽く動くときは再調整を行い、異常が無ければ刈刃全体にグリースを塗布します。



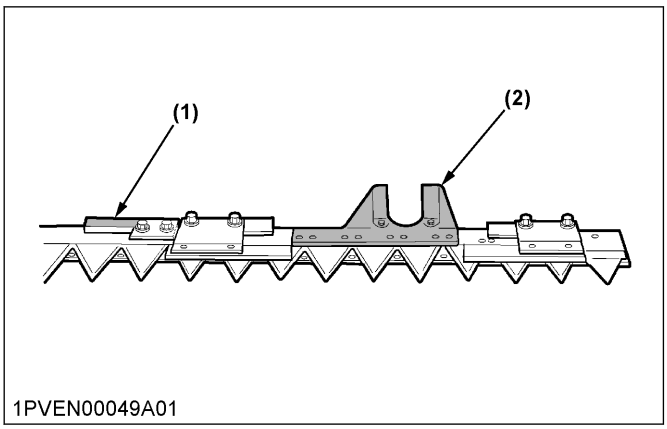
(1) ナイフヘッド
(A) 左、右に動かす
(B) 刈刃全体にグリース塗布

54.3 刈刃の取付け

1. 二人作業で刈刃アッシを垂直の状態にして、刈刃の差込みピンをフレームとガイドのすき間に差し込んで、刈刃全体を機体の右側方向（図の左方向）に移動させます。
2. 刈刃取付け台の前を持ち上げ、ナイフヘッドとローラの位置を合わせてから、ボルト穴まで持ち上げて、ボルトで刈刃アッシを取り付けます。



(1) フレーム
(2) ガイド
(3) ローラ
(A) ナイフヘッドとローラを合わせる
(B) 差込みピンを差し込む



(1) 差込みピン　　*(2)* ナイフヘッド

55. こぎ歯の点検、交換

警告
- **中でこぎ歯が高速で回転しているので接触するとケガをします。こぎ胴を開くときは、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてください。**
- **平たんな場所でこぎ歯の点検、交換を行ってください。**

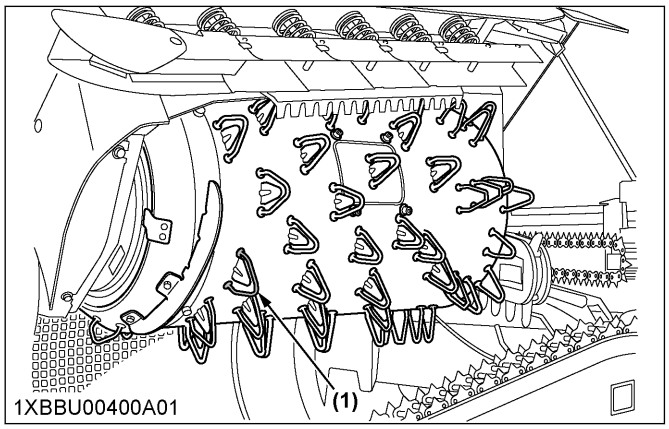
こぎ歯の歯先が摩耗してくると、受あみとのすき間が大きくなり、こぎ残しが発生する原因となりますので歯先の線径が適正長さ以下になったときは、こぎ歯の交換を行ってください。

歯先の線径の適正長さ	2.5 mm

重要：
- **歯先の線径が適正長さ以下になると、こぎ歯が変形したり、歯先が割れて故障の原因となります。**

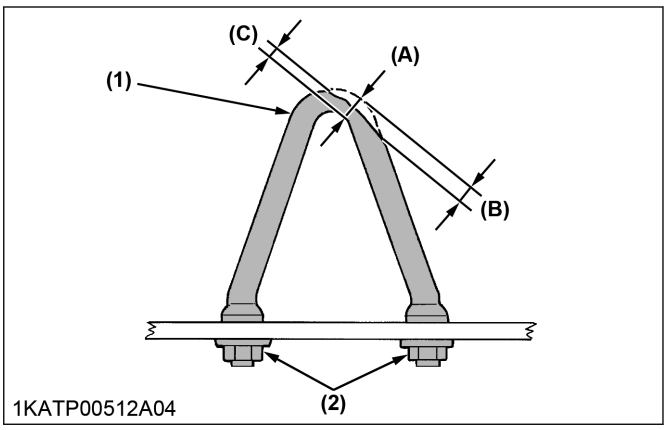
55.1 こぎ歯の点検

1. 補助デッキを引き出します。
2. こぎ胴を開きます。



(1) こぎ歯

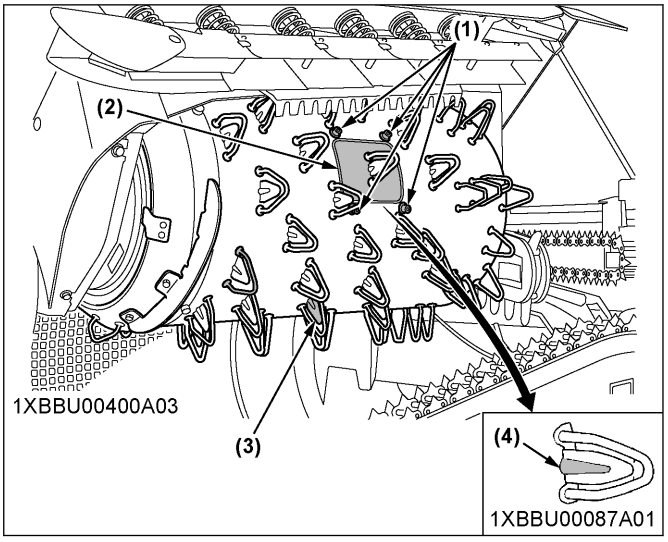
3. こぎ歯の歯先の摩耗量を測定します。
   線径が適正長さ以下のときは交換します。



(1) こぎ歯の歯先
(2) ナット
(A) 新品時 *6.25 mm*
(B) 摩耗
(C) 残りが *2.5 mm* 以上あること

55.2 こぎ歯の交換

1. 六角レンチでボルト 4 本を取り外し、円筒ふたを取り外します。
2. 円筒ふたから手を入れて、こぎ胴の内側からナット 2 個を取り外し、交換するこぎ歯を取り外します。
3. 新しいこぎ歯をナット 2 個で取り付けます。
4. 円筒ふたを取り付けます。



(1) ボルト
(2) 円筒ふた
(3) わら巻付防止板
(4) 凹凸部

補足：
- **円筒ふたは 2 か所あります。**
- **わら巻付防止板を取り付けるときは、凹凸部の凸部を左側に向けた状態で取り付けてください。**

交換後
1. 補助デッキを収納します。
2. こぎ胴を閉じます。

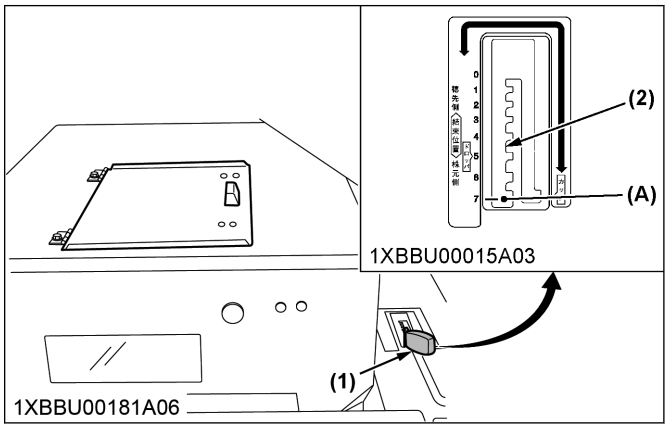
56. わら切刃の点検、組換え、交換

⚠ 警告
- **刃部に手を掛けないでください。**
- **危険ですので、手袋をして脱着作業をしてください。**

わら切刃が切れなくなると、こぎ胴室内に発生するわらくずを細かく切断できなくなるため、わらくずの移動が悪くなります。また、必要以上の動力を消費するばかりでなく、排じん選別室に送られたわらくずが 2 番スクリュに巻きついたり、2 番処理胴に詰まったりします。

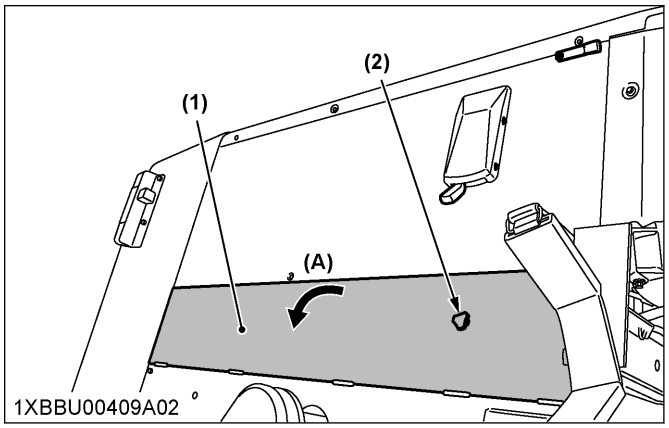
56.1 わら切刃の点検、組換え、交換方法

1. エンジンを始動したあと、アンローダを上昇します。
2. エンジンを停止します。
3. わら作業切換えレバーを“ドロッパ、バラ落とし”位置にします。



(1) わら作業切換えレバー
(2) 切欠部
(A) ドロッパ、バラ落とし作業位置

4. “穂先側”のわら切刃の点検を行うときは、ノブボルトを引いて脱こく上部カバー右を開きます。



(1) 脱こく上部カバー右
(2) ノブボルト
(A) 開く

5. “穂先側”、“株元側”のわら切刃を点検し、必要があれば組み換える、または交換します。
6. “穂先側”は刃先を“下側”にし、“株元側”は刃先を“上側”にしてわら切刃押さえを差し込みます。

重要：
- **わら切刃を取り付けるときは、刃面を上向きにし、傾きの出ないように注意して取り付けてください。**

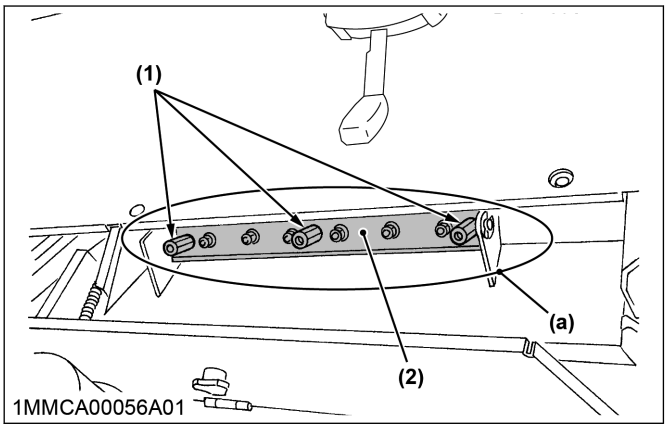
7. “穂先側”は固定ナットに、“株元側”は固定ボルトに、ネジロックを塗布してそれぞれ取り付けます。

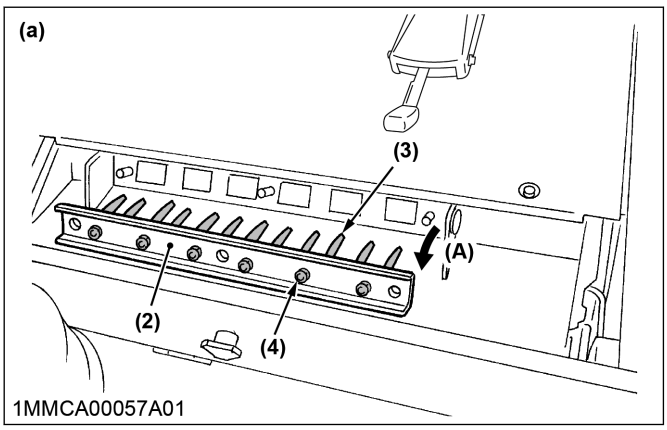
補足：
- **ネジロックは購入先に連絡してください。**

8. 脱こく上部カバー右を閉じます。
9. エンジンを始動したあと、アンローダをアンローダ受けに収納します。

56.1.1 穂先側のわら切刃の点検、組換え、交換

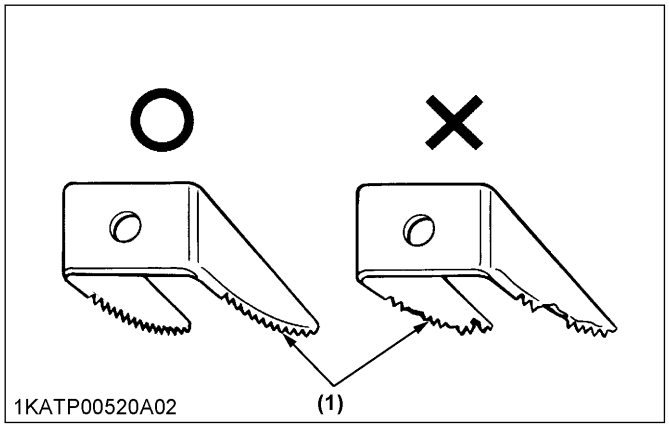
1. わら切刃押さえの固定ナットを外します。
2. わら切刃押さえを取り外します。





(1) 固定ナット
(2) わら切刃押さえ
(3) わら切刃
(4) ナット
(A) 取り外す

3. わら切刃の刃先を確認します。
   - **刃先が摩耗しているとき**
     ナットを取り外してわら切刃を 180°回して組み換えます。
   - **両刃とも摩耗や欠けが大きいとき**
     交換してください。



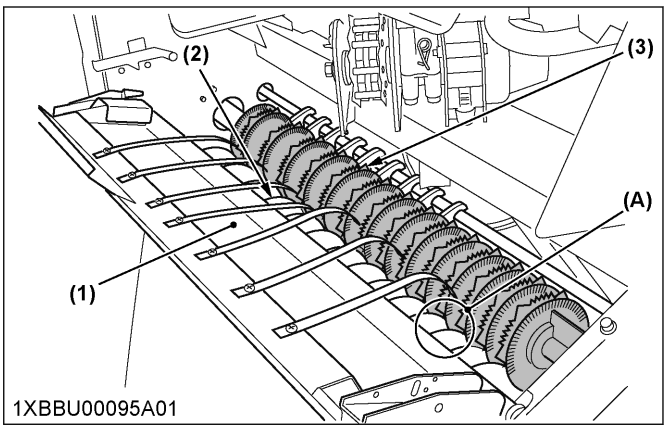
(1) わら切刃

57. カッタ部の点検、増締め

⚠ 警告
- **平たんな場所でエンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてから行ってください。**
- **手袋を使用し、直接カッタ刃に触れないでください。**
- **カッタ部を開いているときは、カッタの刃先に注意してください。**
- **傾斜地では、カッタ部の開閉をしないでください。**
- **カッタ部を開いて掃除をするときは、オープンストッパで必ず固定してください。**

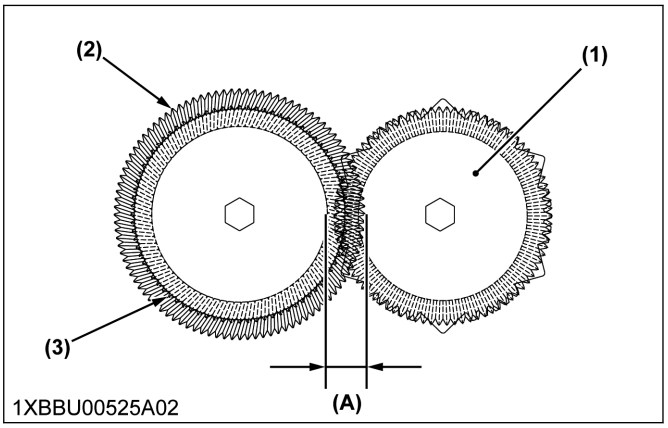
補足：
- **わらくずなどは取り除いてください。**

点検
1. カッタ切換えカバーを開きます。
   （カッタ切換えカバーを開く方法（158 ページ）を参照）
2. カッタ刃（切断刃）とギヤロータのラップ代を確認します。



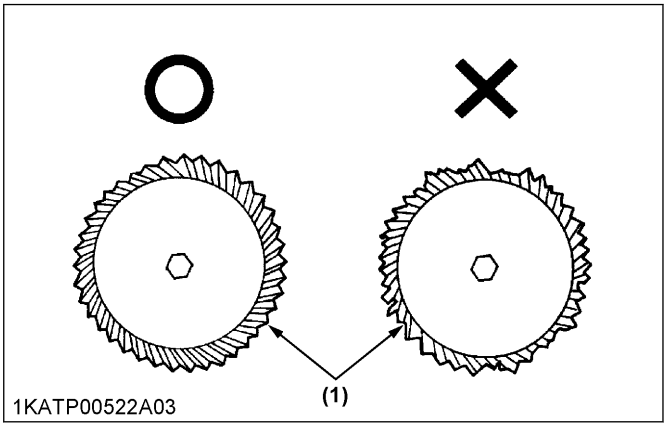
(1) カッタ切換えカバー
(2) カッタ刃（切断刃）
(3) ギヤロータ
(A) ラップ代

刃先が摩耗してラップ代が少なくなったり、欠けているときは購入先へ連絡してください。



(1) ギヤロータ

(2)	カッタ刃（切断刃）	φ150 mm
(3)	カッタ刃（切断刃）	φ130 mm
(A)	“短切断”位置でのラップ代	出荷時 20.5 mm



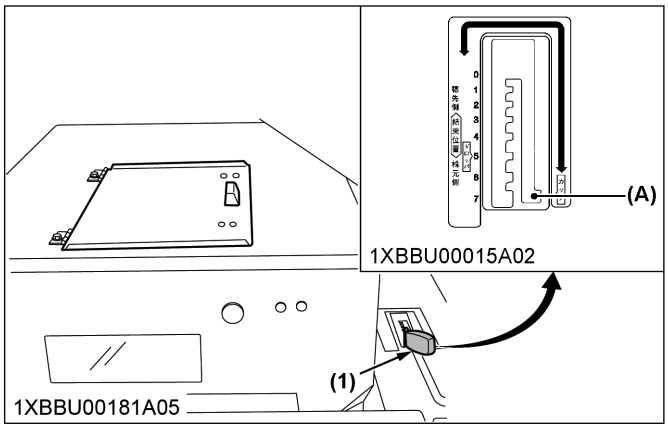
(1) カッタ刃（切断刃）

重要：
- **ラップ代が少なくなると、わらの切断長さが長くなったり、わらのブリッジにより排わら警報の発生の原因となりますので早めに交換してください。**

増締め
定期的（初回からまたは交換して 50 時間後、その後 200 時間ごと）に切断軸と供給軸の増締めを行ってください。

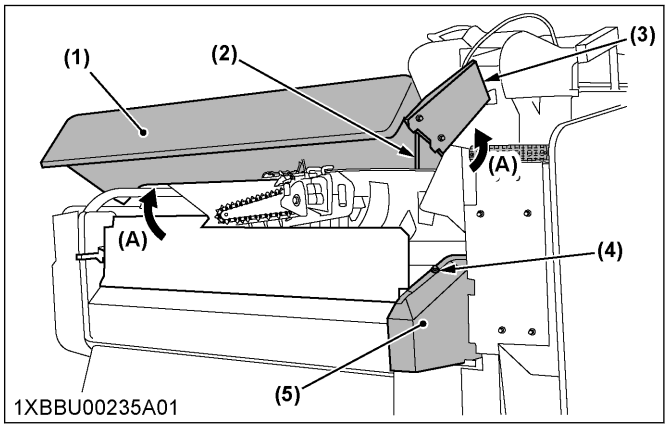
57.1 切断軸、供給軸の増締め

1. わら作業切換えレバーを“カッタ”作業位置にします。



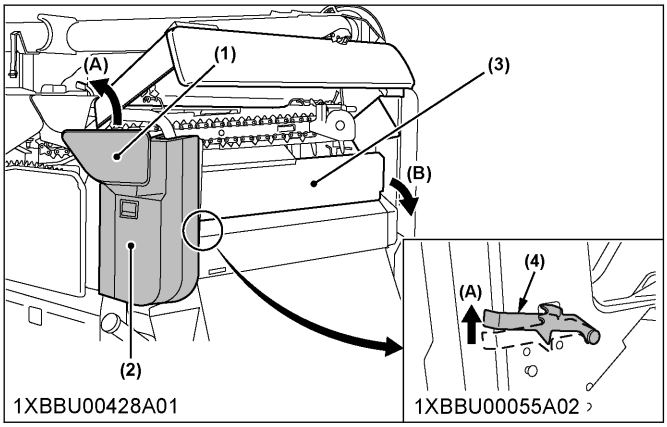
(1) わら作業切換えレバー　*(A)* カッタ作業位置

2. カッタ右サイドカバーを取り外します。
   a. 排わら上部カバーを上げます。
   b. カバーステーをセットします。
   c. 穂先カバーを上げます。
   d. ボルトを取り外してカッタ右サイドカバーを外します。



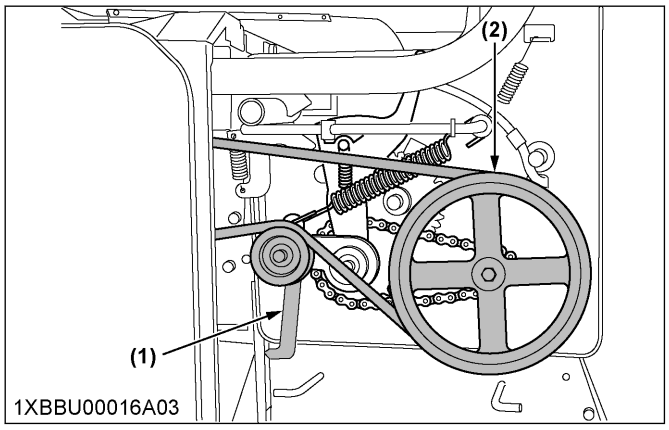
(1) 排わら上部カバー　*(A)* 上げる
(2) カバーステー
(3) 穂先カバー
(4) ボルト
(5) カッタ右サイドカバー

3. カッタ切換えカバーを開きます。
   a. 株元カバーを上げます。
   b. カッタ左サイドカバーを外します。
   c. カッタ切換えカバーを後方へ引きながらロックレバーを上げて開きます。



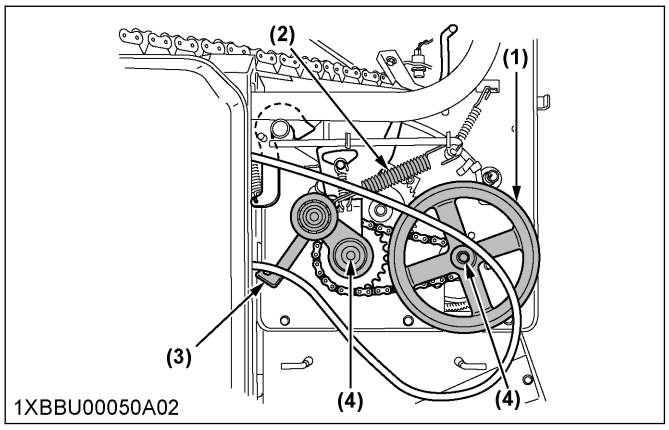
(1) 株元カバー　*(A)* 上げる
(2) カッタ左サイドカバー　*(B)* 開く
(3) カッタ切換えカバー
(4) ロックレバー

4. カッタ駆動ベルトを外したあと、カッタ駆動プーリおよびテンションアーム、スプリングを外します。
   a. テンションアームを引き、カッタ駆動ベルトを外します。



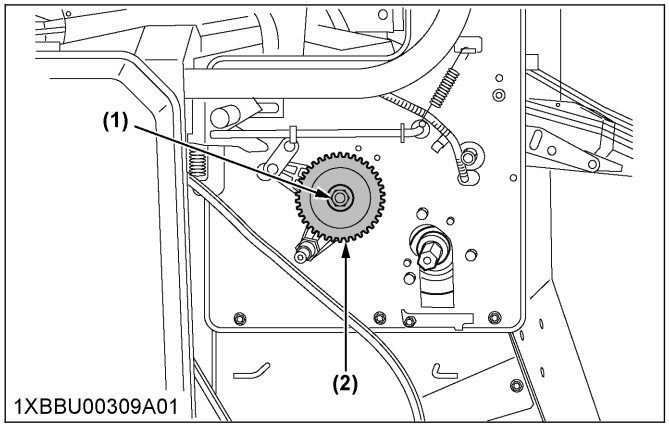
(1) テンションアーム *(2)* カッタ駆動プーリ

   b. ボルトを取り外してカッタ駆動プーリを外します。
   c. ボルトを取り外してテンションアームとスプリングを外します。



(1) カッタ駆動プーリ *(4)* ボルト
(2) スプリング
(3) テンションアーム

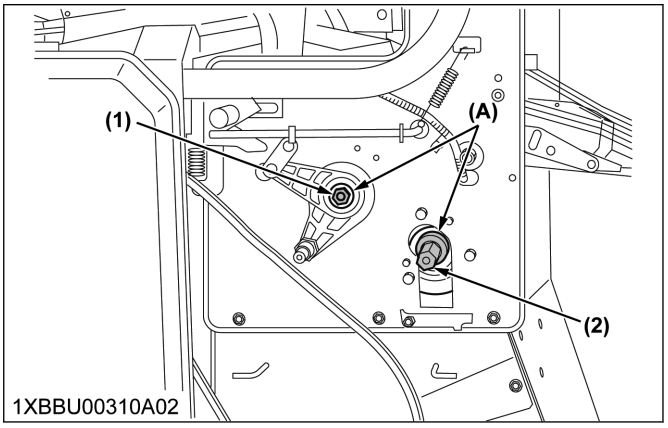
5. ボルトを取り外して、供給軸の 40 ギヤを外します。



(1) ボルト *(2)* *40* ギヤ

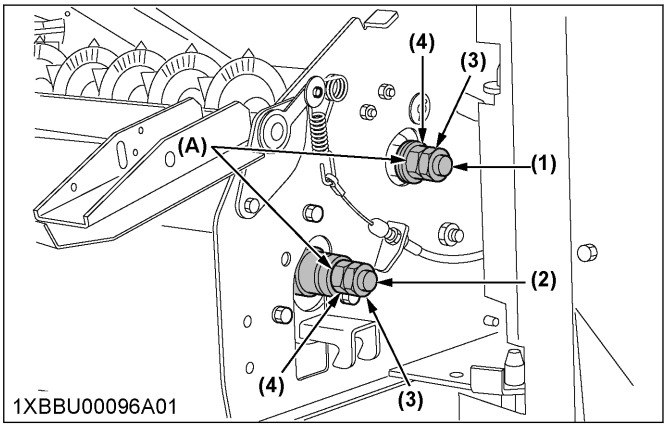
6. 切断軸株元側の六角軸に一人がスパナを掛けて軸が動かないように固定し、もう一人が切断軸穂先側のロックナットをゆるめます。
7. 調整ナットを締め付けて増締めを行い、ロックナットを締め付けます。
8. 同じ要領で供給軸の増締めをします。

株元側



(1) 供給軸 *(A)* 一人が軸にスパナを掛けて固定する
(2) 切断軸

穂先側



(1) 供給軸 *(A)* 調整ナットを締め付ける
(2) 切断軸
(3) ロックナット
(4) 調整ナット

重要：
- **軸の締付けトルクは次のとおりです。確実に締め付けてください。**

締付けトルク	切断軸、供給軸	49.0 N·m～58.8 N·m (500 kgf·cm～600 kgf·cm)

9. 取り外した逆の手順で各部品の取付けを行います。

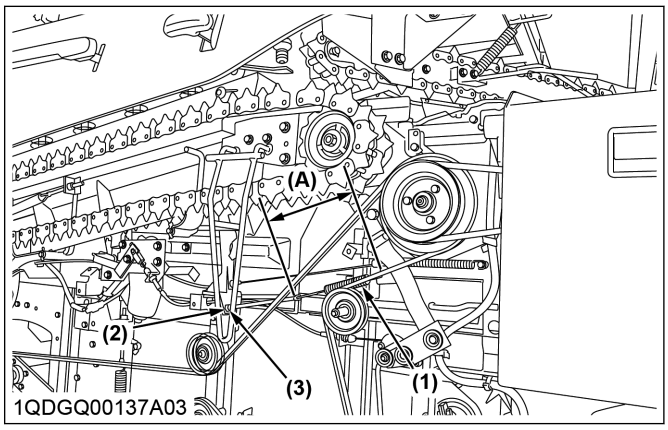
増締め後
最後にカッタ切換えカバーを閉じます。

補足：
- **カッタ切換えカバーをきちんと閉じないと、自動エンジン停止装置がはたらき、エンジンが始動しません。**

58. フィードチェーンクラッチスプリングの点検、調整

スプリングの長さを適正長さに調整します。

1. 左サイドカバーを取り外します。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて、調整ナットで調整します。



(1) フィードチェーンクラッチスプリング
(2) ロックナット
(3) 調整ナット
(A) 220 mm～223 mm

3. ロックナットを締め付けたあと、左サイドカバーを取り付けます。

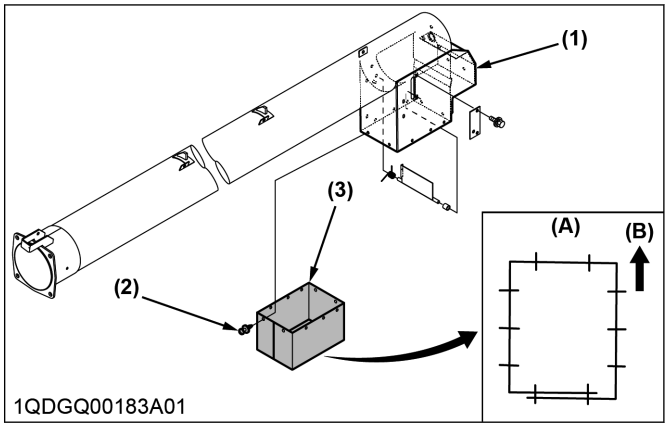
59. 吐出口ブーツの点検、交換

アンローダ先端部の吐出口ブーツが破損したときは交換してください。

59.1 吐出口ブーツの交換

1. 吐出口ブーツを取り付けている樹脂ファスナを外します。
2. 破損した吐出口ブーツを取り外し、新しい吐出口ブーツを取り付けます。

補足：
- **吐出口ブーツを取り付けるとき、吐出口ブーツの重なりの方向を間違えないでください。**



(1) アンローダ先端部
(2) 樹脂ファスナ
(3) 吐出口ブーツ
(A) 取付け方向
(B) 前

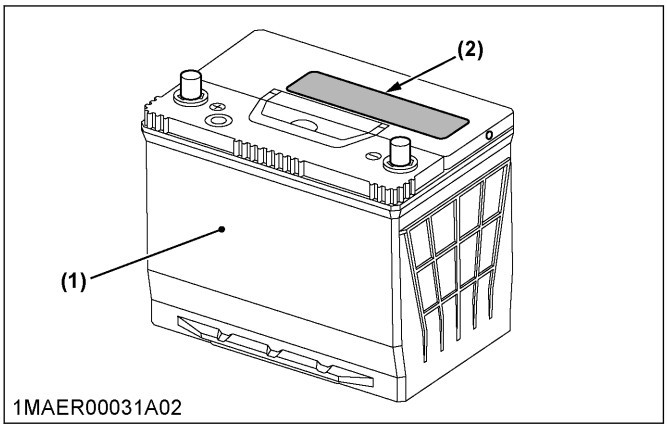
重要：
- **吐出口ブーツは必ず純正品を使用してください。**

60. バッテリの点検、交換

危険
- **バッテリの近くに裸火（マッチ、ライター、タバコの火など）を近づけたり、（+）端子と（−）端子が金属工具などとの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。**
- **バッテリを取り扱うときは、必ず保護メガネとゴム手袋を着用してください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により、失明やヤケドの原因となります。**
- **充電器やブースタケーブルを使用するときの取扱いは、それぞれの取扱説明書に従って行ってください。取扱いを誤ると引火爆発するおそれがあります。**
- **この 12 V バッテリはエンジン始動用ですから、他の用途には使用しないでください。**
- **急速充電は厳禁です。**
- **密封タイプであるため、開封は厳禁です。**

警告
- **バッテリを乾いた布などで掃除しないでください。静電気により引火爆発するおそれがあります。**

バッテリ上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください。



(1) バッテリ
(2) 注意ラベル

補足：
- **出荷時は、補水不要のバッテリです。**

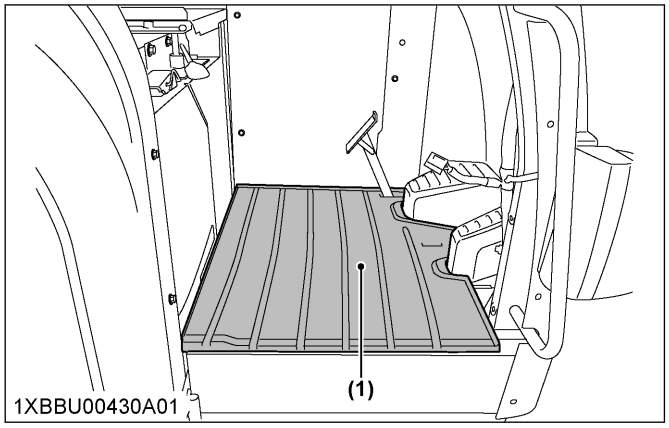
60.1 補水が不要なバッテリの点検、交換

60.1.1 バッテリの点検

警告
バッテリが破損や傾いたりして、液漏れが発生しているときは、次の事項を遵守してください。

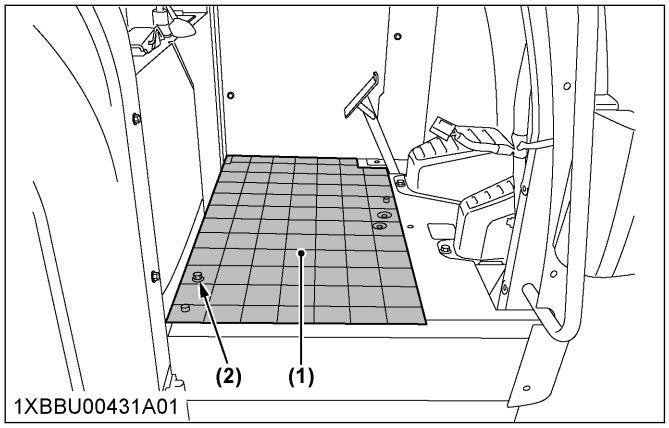
- **バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。**
- **バッテリの電解液（希硫酸）が目に入った場合は、ただちに多量の清水で洗浄したあと、速やかに眼科医の治療を受けてください。失明の原因となります。**

1. ステップのゴムカバーを取り外します。



(1) ゴムカバー

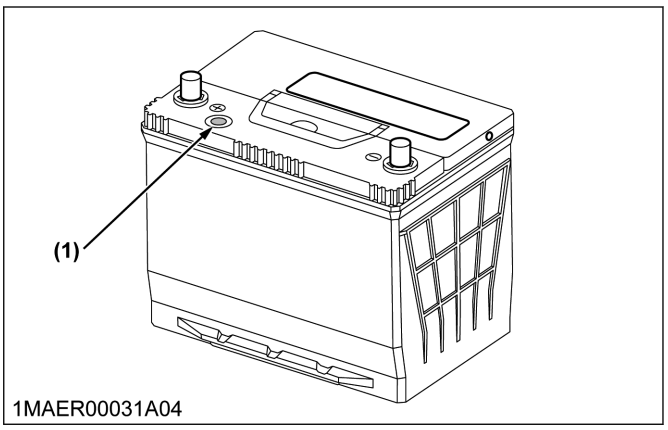
2. ボルトを取り外して、点検カバーを取り外します。



(1) 点検カバー *(2)* ボルト

3. バッテリの状態を点検し、異常があれば処置します。
   a. バッテリ上面にあるインジケータの色で充電状態を確認します。
   次表を参照し、処置を行ってください。

表示の色	充電状態	処置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換



(1) インジケータ

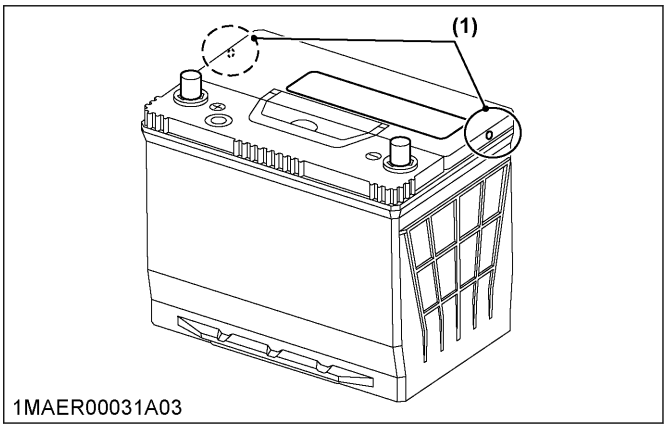
補足：
- **インジケータは真上から確認してください。**

   b. バッテリが破損して液漏れが発生しているときは、交換します。

重要：
- **バッテリから液漏れが発生すると車体が腐食する原因となります。**

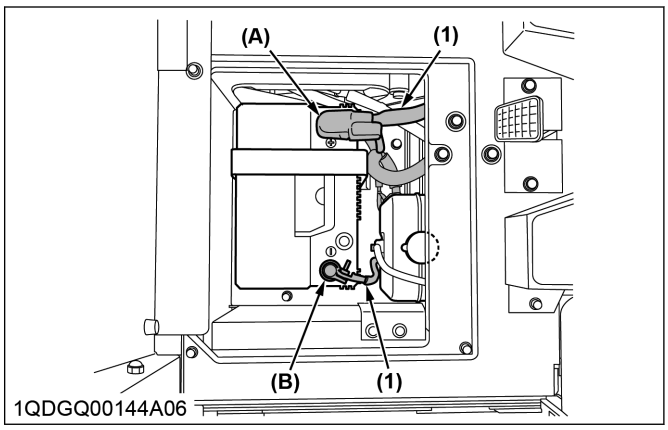
   c. ふたの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除します。

重要：
- **排気口をふさぐと、バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり、破損する原因となります。**



(1) 排気口

   d. バッテリケーブルの破損が無いか確認し、あればケーブルの交換を行います。また（+）端子、(-) 端子にゆるみや腐食が無いか確認し、あれば端子の増締めや掃除を行います。



(1) ケーブル
(A) （+）側
(B) （−）側

4. 点検カバーを取り付けます。
5. ゴムカバーを取り付けます。

60.1.2 バッテリの補充電、交換

危険

- **バッテリは、次の順序で取り換えてください。順序を誤ると、ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。**
  - **− 取外し時は、（−）端子側（アース側）から外す。**
  - **− 取付け時は、（−）端子側（アース側）を最後に接続する。**

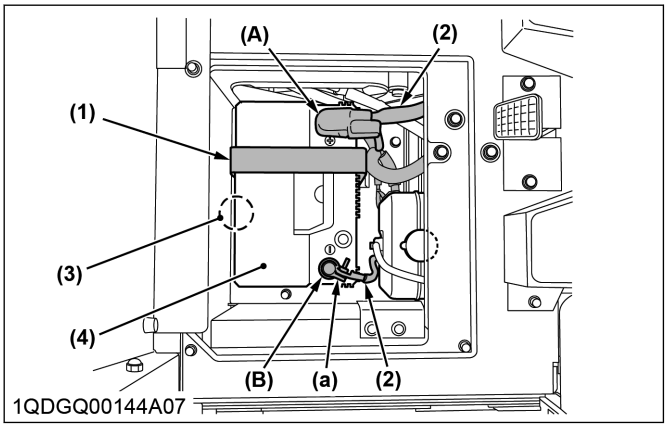
警告

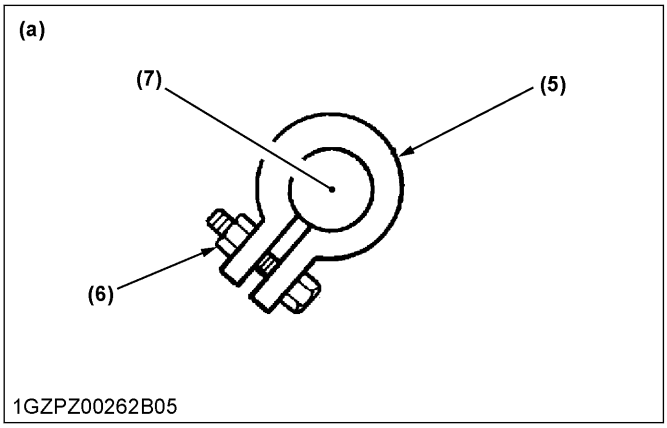
- **バッテリを倒したり、衝撃を与えないでください。電解液（希硫酸）の漏れにより、失明、ヤケドするおそれがあります。**
- **バッテリを機体に取り付けた状態での充電は避けてください。バッテリの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。**
- **バッテリの取付け方向を間違えないでください。（+）と（−）が逆に取り付けられると接続ケーブルが損傷し、火災の原因となるおそれがあります。**
- **バッテリを投げたり、落としたり、斜めに傾けたり、衝撃を与えないでください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により、失明やヤケドの原因となることがあります。**

次のような状態が発生したときは補充電してください。また補充電しても短時間で再発するときや状態が良くならないときは、バッテリの寿命です。交換してください。

- スタータモータの回転が、いつもより弱い。
- アクセルの加減で、ヘッドランプの明るさが変わる。
- ホーンの音が、いつもより低い。

1. ステップのゴムカバーを取り外し、点検カバーを取り外します。
2. バッテリを機体から取り外します。
   a. ゴムバンドの端部金具をフックから外します。
   b. ケーブル端子のナットをゆるめて、端子からケーブル端子を取り外します。
      取り外すときは、必ず（−）側から取り外してください。





(1) ゴムバンド
(2) ケーブル
(3) フック
(4) バッテリ
(5) ケーブル端子
(6) ナット
(7) 端子
(A) （+）側
(B) （−）側

重要：

- **バッテリを斜めに倒したり、横に倒して運ばないでください。電解液（希硫酸）がこぼれ、衣服の損傷の原因となります。**

3. 平たんで風通しの良い場所を選んで補充電します。バッテリの（+）を充電器の（+）側に、バッテリの（−）を充電器の（−）側にそれぞれ接続して、普通の充電方法で補充電してください。

4. 補充電が終わると、取り外したときと逆の手順で取り付けます。

重要：
- **新しいバッテリに交換するとき、バッテリは次の指定のバッテリを使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因となります。**

バッテリ形式	**80D26L**

- **バッテリはエンジン始動用ですから、他の用途には使用しないでください。**
- **バッテリはきちんと取り付けてください。傾いているなど、適切に取り付けられていないと転倒や液漏れの原因となります。**
- **機械にバッテリを搭載した状態で急速充電しないでください。**
- **バッテリの（+）端子、（−）端子をバッテリに取り付けるまたは増締めするときに、端子が破損したりバッテリのポスト部が破損するおそれがあるため、絶対に締めすぎないでください。また、締付けに電動工具を使用しないでください。バッテリ端子の締付けトルクは次のとおりです。**

締付けトルク	バッテリ端子	3.0 N·m～4.0 N·m (0.31 kgf·m～0.41 kgf·m)

- **端子を締め付けるときは端子底面とバッテリ上面部が接触した状態で締め付けてください。**

60.2 補水が必要なバッテリの点検、交換

補水が不要なバッテリの説明と異なる部分の説明です。

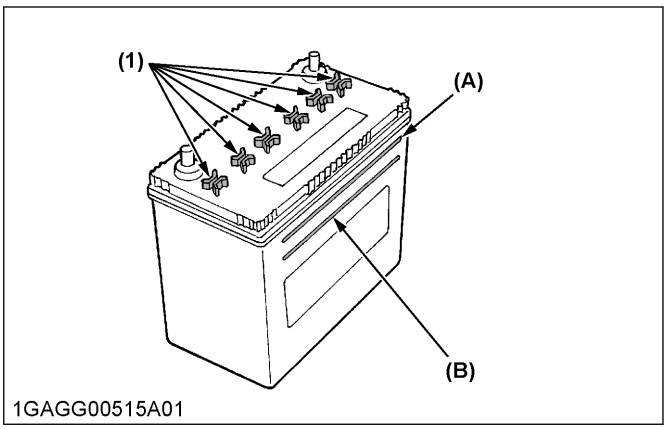
60.2.1 補水が必要なバッテリの点検、補水

バッテリの状態を点検し、異常があれば処置します。

⚠ 警告

バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの 2 種類があります。補水が必要なバッテリについては、次の事を守ってください。
- **バッテリは液面が*"LOWER"*（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。*"LOWER"*以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され、バッテリの寿命を縮めるばかりでなく、爆発の原因となることがあります。すぐに*"UPPER LEVEL"*と*"LOWER LEVEL"*の間に補水してください。**
- **バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。**

1. バッテリ液の量を点検し、*"UPPER LEVEL"*（最高液面線）と*"LOWER LEVEL"*（最低液面線）の間に液量があるか確認します。
2. バッテリ液が不足しているときは補水キャップを外して補水します。

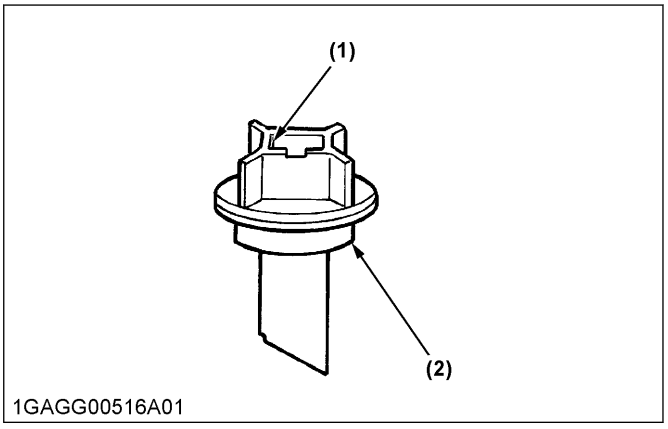


(1) 補水キャップ
(A) *UPPER LEVEL*（最高液面線）
(B) *LOWER LEVEL*（最低液面線）

重要：
- **バッテリ液が不足して極板が空気中に露出しますと、バッテリの寿命は著しく短くなります。**
- **バッテリ液を補充する場合は、必ず精製水を補充してください。希硫酸、井戸水、泥水などは絶対に入れないでください。**
- **バッテリに精製水を入れ過ぎないでください。液漏れして機体を傷めるおそれがあります。**

3. 補水キャップの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除します。

重要：
- **排気口をふさぎますと、バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり、破損する原因となります。**



(1) 排気口
(2) 補水キャップ

60.2.2 補水が必要なバッテリの補充電、交換

⚠ 危険

- **補充電中は補水キャップすべてを取り外して行いますので裸火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。**

1. 補充電を行うときは、平たんで風通しの良い場所を選んで補水キャップをすべて取り外します。
2. 充電は、バッテリの（+）を充電器の（+）を側に、バッテリの（−）を充電器の（−）側にそれぞれ接続して、普通の充電方法で行います。
3. 補充電が終わると補水キャップをすべて取り付けます。

61. 電気の各配線コード、各ヒューズの点検、交換

警告
- **配線コード被覆の損傷やコネクタ（端子）の接触不良によるろう電やショート（短絡）は火災の原因となります。**

61.1 各配線コードの点検、交換

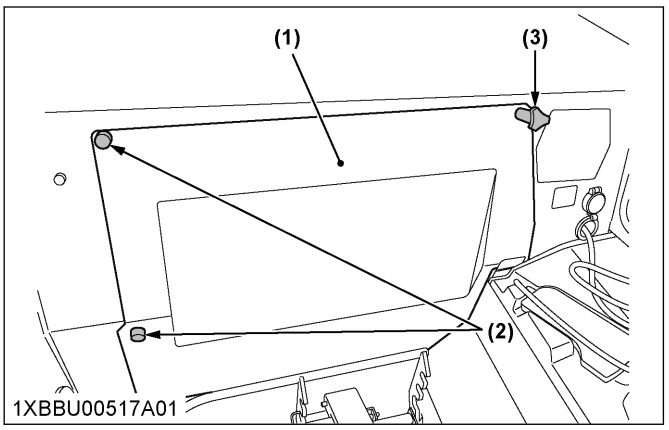
1. 各配線コードのコネクタ（端子）の接続状態を点検します。
   ゆるみや外れがあるときは確実に差し込んでください。
2. 被覆の損傷状態を点検します。
   被覆が破れているときは、購入先へ連絡して修理を依頼してください。

61.2 各ヒューズの交換

ヒューズ切れによる異常が発生したときは、ヒューズを交換してください。

重要：
- **新しいヒューズは必ず指定容量のヒューズを使用してください。異なる容量のヒューズを使用すると故障の原因となります。**
- **ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、購入先に連絡して修理を依頼してください。**

1. 刈取部を地面に着くまで降ろします。
2. エンジンを止めます。
3. 運転席（シート）を前方へ倒します。
4. 樹脂ボルト 2 本とノブボルト 1 本を取り外して運転席後面のカバーを外します。

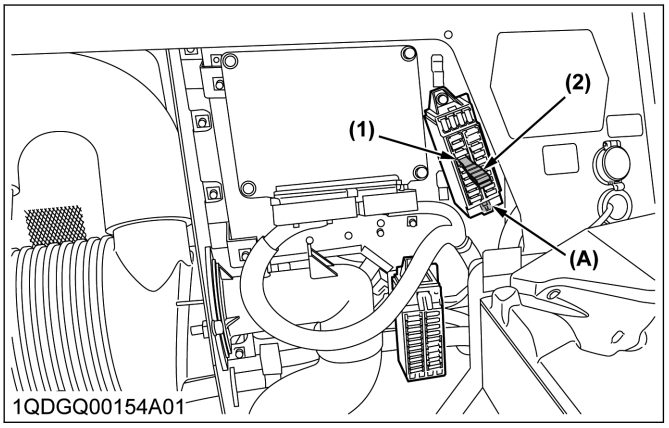


(1) カバー　　*(3)* ノブボルト
(2) 樹脂ボルト

5. ヒューズケースのカバーを取り外します。
6. 切れたヒューズを外します。

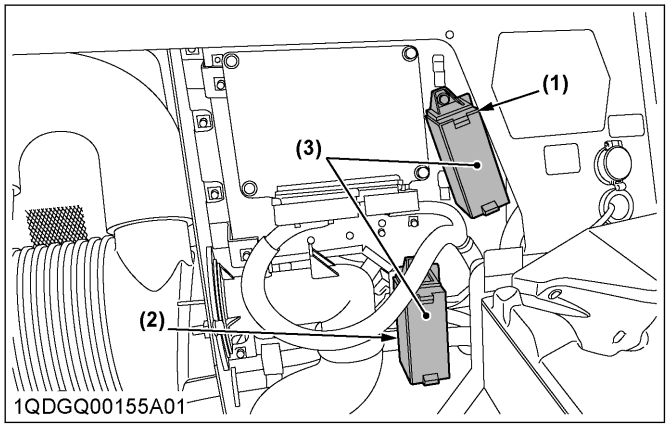
補足：
- **ヒューズを交換するときは、ヒューズボックスのカバーに設置しているヒューズプーラ（ヒューズ抜き）を使用してください。**

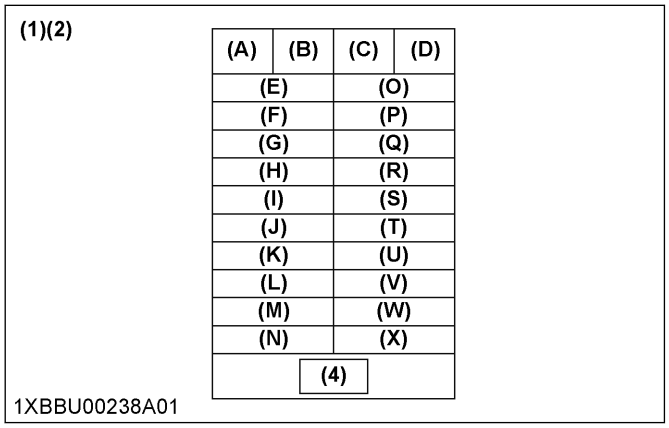
a. ヒューズプーラを抜きます。
b. 切れたヒューズをヒューズプーラに挟んで外します。



(1) 交換するヒューズ　　*(A)* ヒューズプーラを抜く
(2) ヒューズプーラ

7. ヒューズが切れた箇所で、同じ容量の新しいヒューズに交換します。





(1) ヒューズボックス *1*
(2) ヒューズボックス *2*
(3) カバー
(4) ヒューズ抜き

ヒューズボックス 1

	回路	容量(A)	対象型式
(A)	予備ヒューズ	25	全型式
(B)	予備ヒューズ	20	全型式
(C)	予備ヒューズ	20	全型式
(D)	予備ヒューズ	10	全型式
(E)	ブザー	10	全型式
(F)	注油ポンプ	20	全型式
(G)	ウインカ	10	全型式
(H)	こぎ深さモータ	20	全型式
(I)	レール台オープンモータ	25	全型式
(J)	フィードチェーン停止モータ	25	全型式
(K)	排ワラレールモータ	25	全型式
(L)	ワラ作業切換モータ	20	全型式
(M)	株揃えフレームモータ	20	全型式
(N)	–	–	–
(O)	電源ソケット	15	全型式
(P)	脱こくクラッチモータ	25	全型式
(Q)	分草かんオープンモータ	20	全型式
(R)	–	–	–
(S)	–	–	–
(T)	–	–	–
(U)	–	–	–
(V)	–	–	–
(W)	–	–	–
(X)	–	–	–

ヒューズボックス 2

	回路	容量(A)	対象型式
(A)	予備ヒューズ	30	全型式
(B)	予備ヒューズ	15	全型式
(C)	予備ヒューズ	10	全型式
(D)	予備ヒューズ	5	全型式
(E)	エアフロセンサ	5	全型式
(F)	スタータ SW	5	全型式
(G)	マイコン、メータ（直 B）	5	全型式
(H)	メイン SW	15	全型式
(I)	–	–	–
(J)	マイコン、パネル、メータ	5	全型式
(K)	OBD	5	全型式
(L)	エンジン制御	5	全型式

（次へ続く）

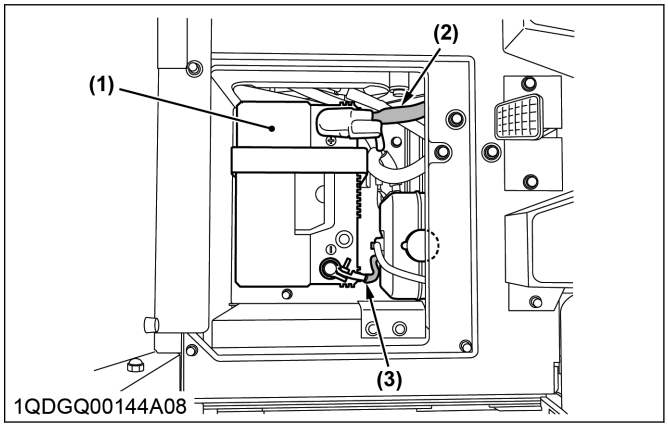
	回路	容量(A)	対象型式
(M)	–	–	–
(N)	オルタネータ、燃料ポンプ	10	全型式
(O)	–	–	–
(P)	–	–	–
(Q)	–	–	–
(R)	油圧バルブ	15	全型式
(S)	車速モータ	20	全型式
(T)	アンローダ旋回モータ	30	全型式
(U)	制動灯、後退灯	10	全型式
(V)	前照灯	10	全型式
(W)	–	–	–
(X)	本機作業灯	20	全型式

交換後
1. ヒューズケースのカバーを取り付けます。
2. 運転席後面のカバーを取り付けます。
3. 運転席（シート）を後方へ倒します。

61.3 スローブローヒューズ、バッテリ（+）コードの点検、交換

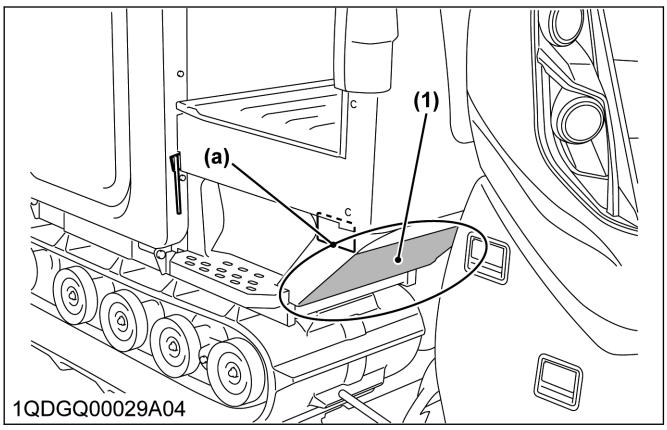
スローブローヒューズは、過電流が流れたときに各配線が損傷しないように保護するための物です。
エンジンが掛からないときは点検し、切れているときは新しいヒューズと交換してくださ い。

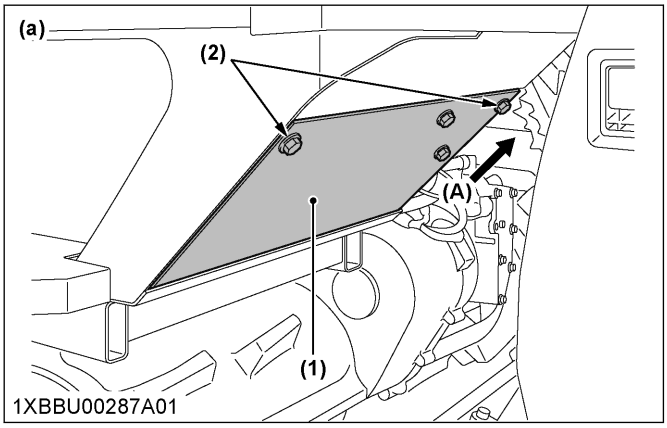
バッテリ部
コードを点検し、破損しているときは交換してください。



(1) バッテリ
(2) （+）コード
(3) （–）コード

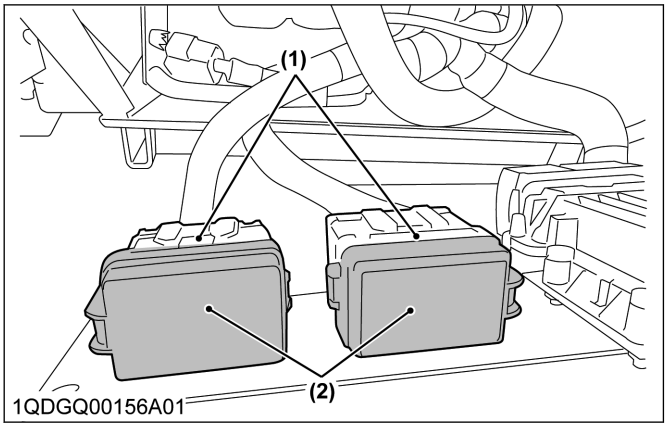
フロント下カバー内
1. ボルトを取り外します。
2. フロント下カバーを、少し上げて取り外します。





(1) フロント下カバー
(2) ボルト
(A) 上げる

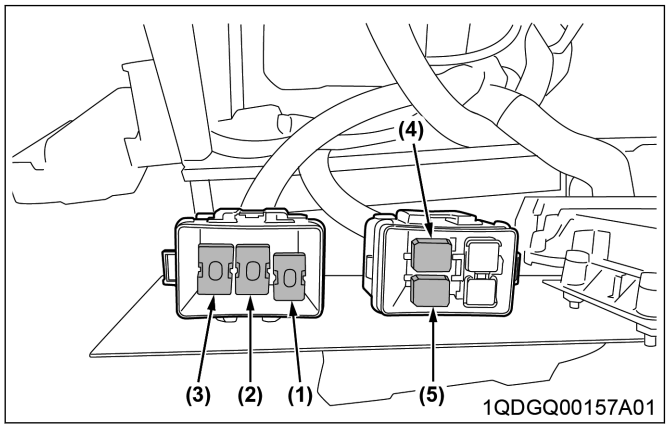
3. スローブローヒューズボックスのカバーを外します。



(1) スローブローヒューズボックス
(2) カバー

4. 各スローブローヒューズを点検します。

スローブローヒューズ



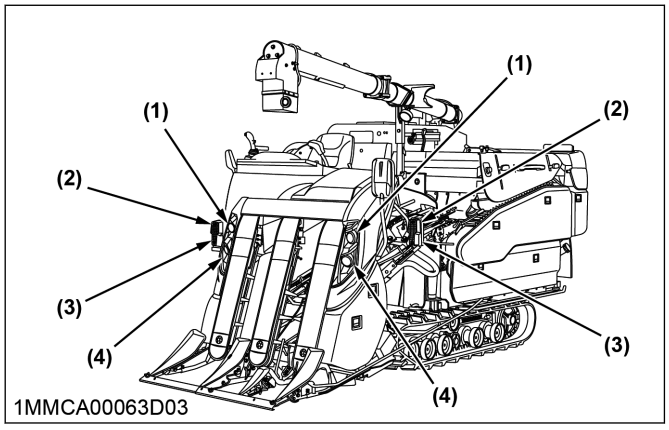
(1)	100 A	メイン
(2)	60 A	電源 1
(3)	60 A	電源 2
(4)	20 A	CRS
(5)	20 A	スタータ

62. ランプの電球の点検、交換、ホーンスイッチの点検

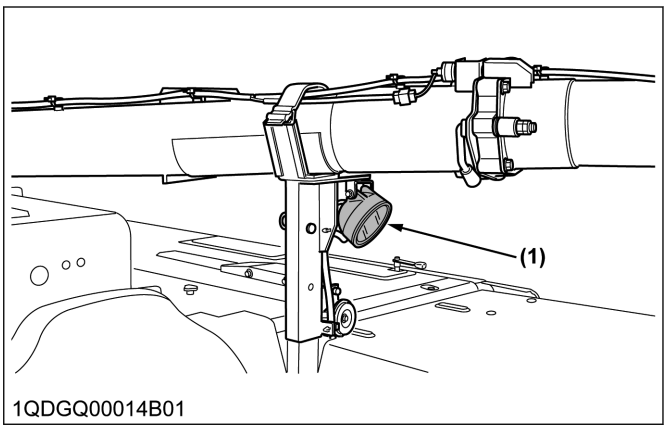
ランプの電球の点検、交換

1. ランプの電球切れが無いか点検します。
2. ランプの電球が切れているときは交換します。

機体前方

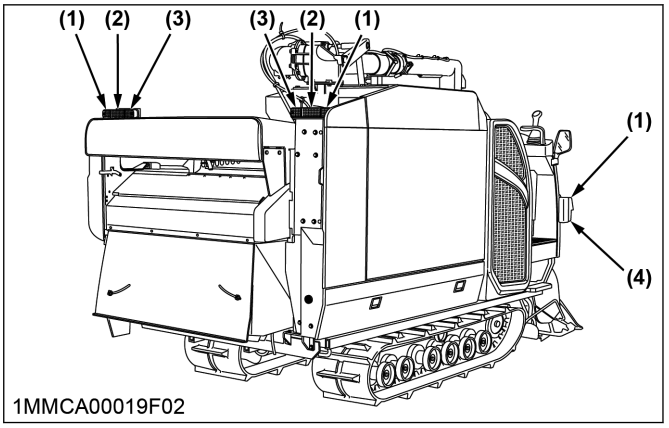


(1) 作業灯*(LED)*
(2) ウインカランプ
(3) 車幅灯
(4) ヘッドランプ*(LED)*



(1) 作業灯（ハロゲンランプ）

機体後方



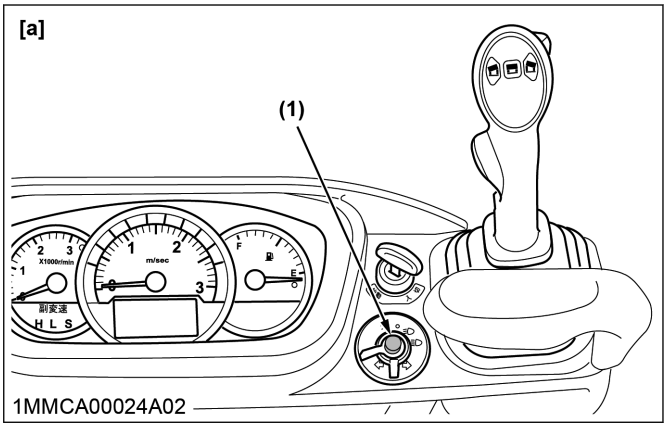
(1) ウインカランプ
(2) 尾灯兼制動灯
(3) 後退灯
(4) 車幅灯

重要：

- **ハロゲンランプ（作業灯）の交換をした際、ランプの表面に指紋などの油分が付着したときは、きれいに拭き取ってください。破損する原因になります。**

ホーンスイッチの点検

1. ホーンスイッチを押して点検します。

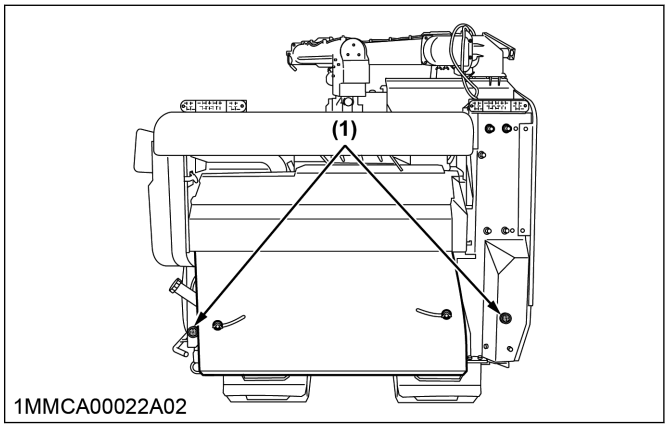


(1) ホーンスイッチ
[a] イラストは *L* 仕様

2. ホーンが鳴らないときは、配線やヒューズを確認します。

63. 反射器の点検、交換

1. 汚れや破損が無いか点検します。
2. 汚れがあれば掃除し、破損があれば交換します。



(1) 反射器

64. クローラの点検、調整

⚠ 警告

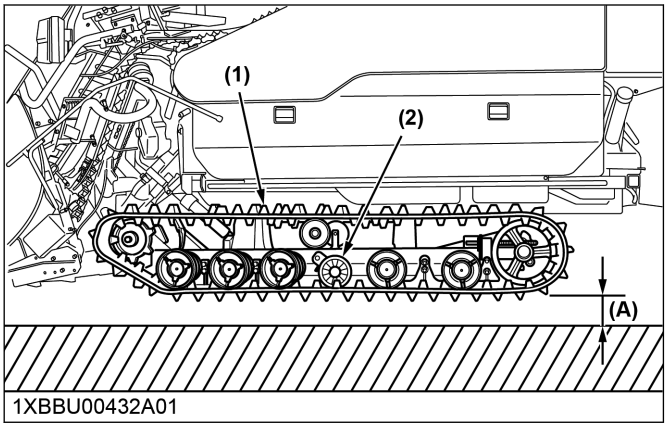
- **点検、調整時は、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてから作業してください。**
- **平たんな場所で刈取部を上げて、刈取下降ロックスイッチを“ロック”位置にセットして刈取部を下降防止してください。さらに、枕木などを使用して、落下防止のため歯止めしてください。**
- **ジャッキアップするときは、コンクリートなど地面のかたい場所でバランスのとれた位置に配置して作業してください。**
- **ジャッキは持上げ荷重が 2 トン以上の物を使用してください。**
- **機体にセットする木材やブロックなどの車止めは、じゅうぶんな強度があるものを使用し、セットするときは機体から外れないように注意しながら作業してください。**

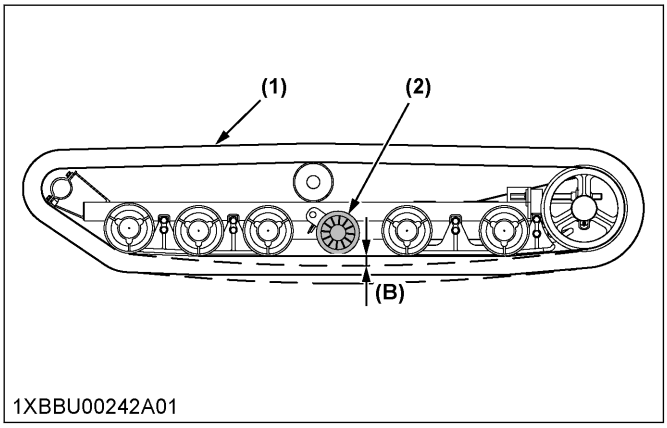
重要：

- **クローラがゆるみすぎると脱輪したりスプロケットおよび芯金が早期に摩耗することがあります。初期伸びがあるため初期 20 時間目および 50 時間目に点検してください。**

片側ずつ調整してください。

[L 仕様除く]
地面からクローラを約 10 cm 浮かした状態で、クローラ下側上面と可動転輪下端のすき間を適正幅に調整してください。

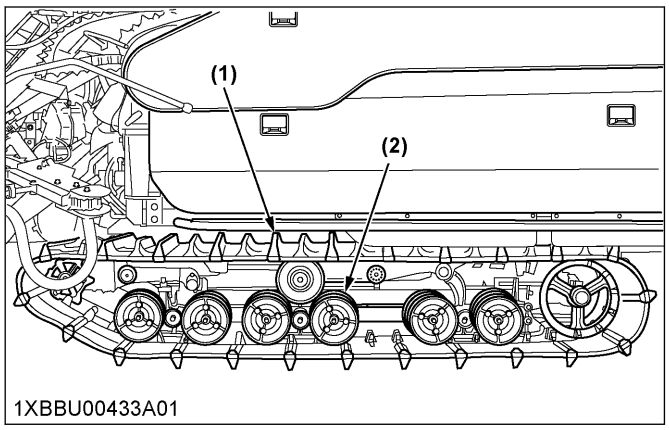


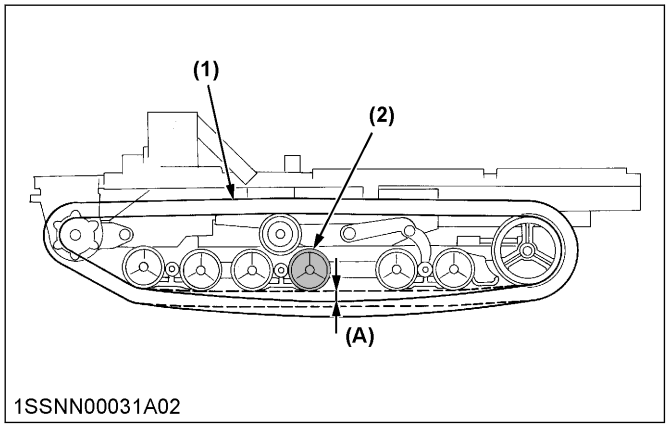


(1) クローラ
(2) 可動転輪
(A) 約 *10 cm* 浮かす

(B)	クローラ下側上面と可動転輪下端のすき間	10 mm～20 mm

[L 仕様]
地面からクローラを約 10 cm 浮かした状態で、機体を“最下降”位置まで下げ、クローラ下側上面と第 3、第 4 の揺動転輪下端のすき間を適正幅に調整してください。





(1) クローラ *(2)* 揺動転輪

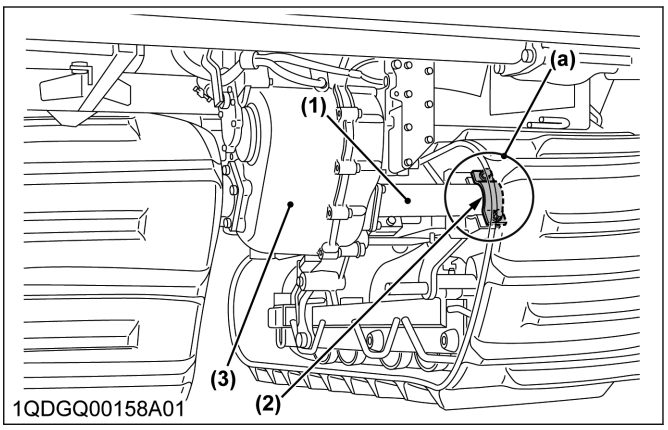
(A)	クローラ下側上面と第 3、第 4 揺動転輪下端のすき間	10 mm～20 mm

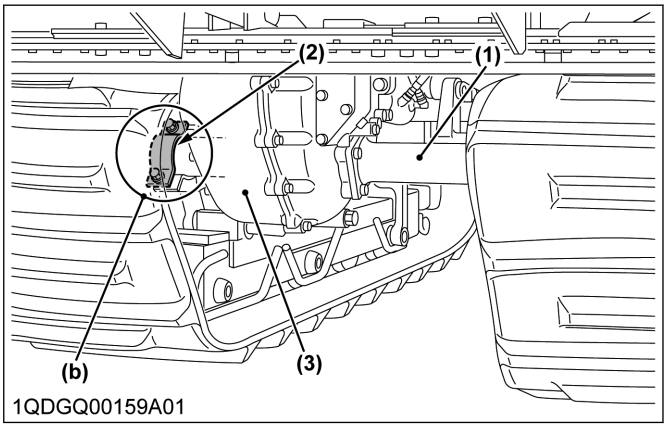
1. 機体を平たんな場所に移動します。
2. クローラを地面から 10 cm 程度浮かします。

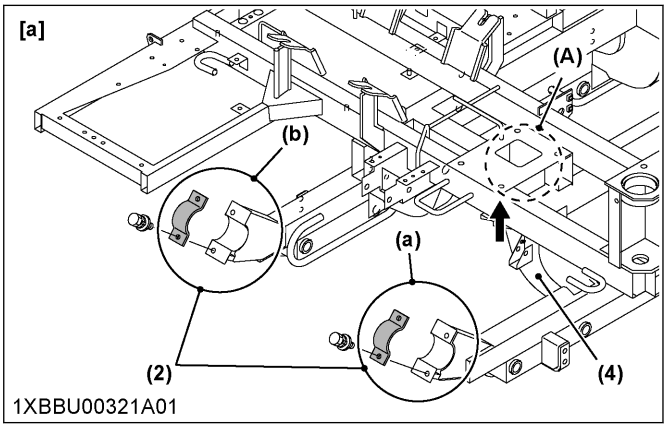
重要 :

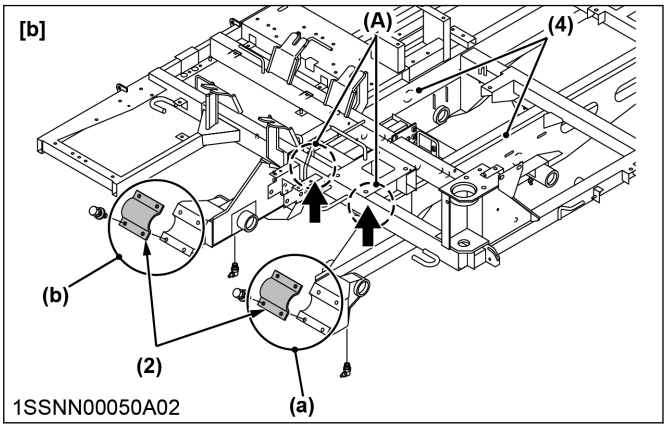
- **ミッションケースを絶対にジャッキアップしないでください。破損するおそれがあります。**

a. エンジンを始動したあと、刈取部を“最上昇位置”まで上げます。
b. 刈取下降ロックスイッチを“ロック”位置にセットして刈取部を下降防止します。
c. **［L 仕様］**水平操作手動スイッチの**[上]**を押して機体を上昇したあと、エンジンを停止します。
d. **［L 仕様除く］**機体をジャッキアップし、クローラを地面から 10 cm 程度浮かします。
e. 前部はトランスミッションケース部の前車軸後方にあるフレームに木材やブロックをセットします。



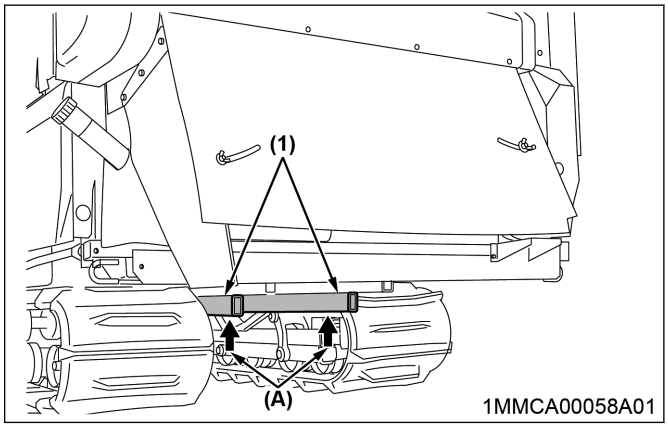






(1) 前車軸
(2) 前車軸軸受け
(3) トランスミッションケース
(4) フレーム
(A) ジャッキアップ
[a] *L* 仕様除く
[b] *L* 仕様

f. 後部は機体フレームの、調整する側のフレームの次図位置に木材やブロックをセットします。



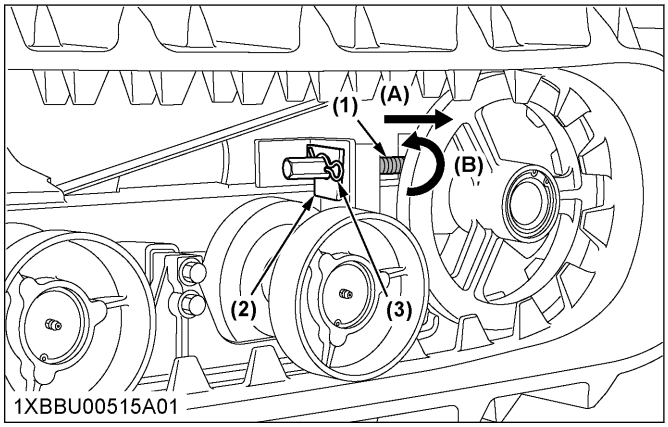
(1) フレーム　　*(A)* 木材やブロックをセット

g. **［L 仕様］**エンジンを始動したあと、水平操作手動スイッチの**[下]**を押して機体を“最下降位置”まで下げて、エンジンを停止します。

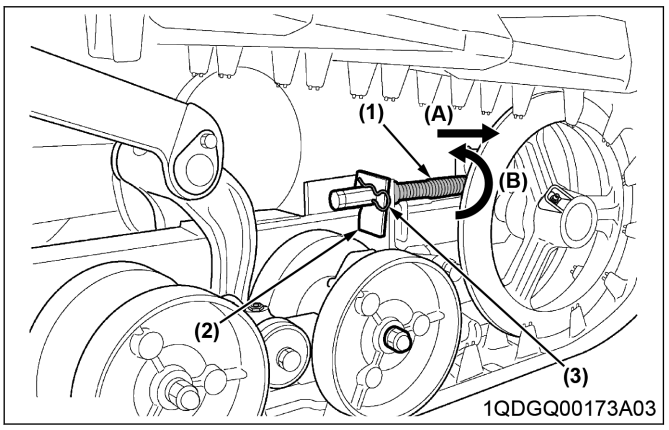
重要：
- **ジャッキアップするときは、前車軸にジャッキをセットしないでください。前車軸が変形するおそれがあります。**

3. クローラ後部にある張りボルトの回り止め金具を、スナップピンを抜いて取り外します。
4. 張りボルトでクローラを張りながら、すき間を調整します。
   左右両方ともに調整してください。

［L 仕様除く］



［L 仕様］



(1) 張りボルト
(2) 回り止め金具
(3) スナップピン
(A) 張る
(B) 左回転

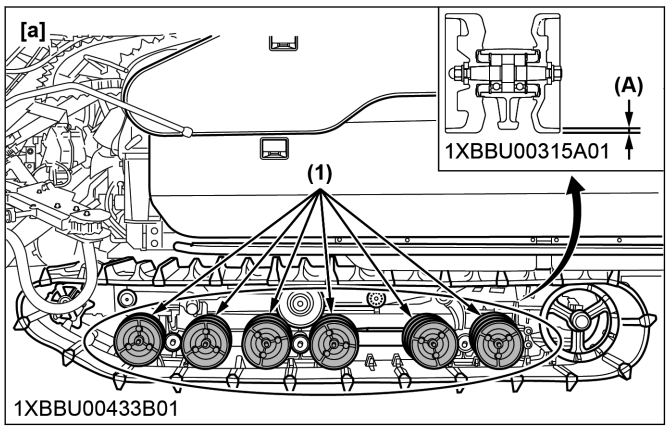
重要：
- **クローラを張り過ぎると車軸の折損の原因になります。**

5. 調整後は、回り止め金具を取り付けてスナップピンを差し込みます。
6. ジャッキおよびブロックや木材を取り外します。
   a. エンジンを始動します。
   b. **［L 仕様］**水平操作手動スイッチの**[上]**を押して機体を上げます。
   c. エンジンを停止します。
   d. 木材やジャッキおよびブロックを機体から取り外します。

重要：
- **クローラの劣化が早くなり早期破損の原因となるため、次の事項を守ってください。**
  - **日光や雨による劣化防止のため、屋外に長期保管しないでください。**
  - **オイルや燃料、農薬、肥料など油脂類の付着による劣化防止のため、クローラに付着した油脂類はきれいに拭き取ってください。**

65. トラッククローラ（転輪）の点検

トラッククローラの、次図の(A)寸法が適正長さ以下になったとき、または使用時間が 500 時間経過したときの早いほうで交換してください。
また、破損などがあるときも交換してください。



(1) トラックローラ（転輪）　*(A)* *2 mm*
[a] イラストは *L* 仕様の左側

補足：
- **交換を行うときは、購入先に連絡してください。**

刈取作業後の手入れ

刈取作業が終わったあとは、機械の点検、整備を怠らず、翌日または翌年の刈取作業に備えてください。

1. 毎日の作業後の手入れ

⚠ 警告
- **機体に本機カバーを掛けるときは、エンジン、マフラが冷えてから掛けてください。停止直後にカバーを掛けると火災のおそれがあります。**

1. 平たんな場所にコンバインを停めます。
2. 機体各部のわらくずを取り除きます。
3. 必要なときは各部に注油を行います。
（各部の注油（168 ページ）を参照）
4. アンローダを収納します。
5. 刈取部を地面に接地させます。
6. メインスイッチのキーを抜き取ります。
7. 本機カバーを掛けます。

2. 長期格納時の手入れ

刈取のシーズンが終了して翌年まで長期間使用しないときは、格納する前の各部の点検、整備を念入りに行ってください。

2.1 長期格納時の各部の掃除、注油と補修

1. 機体を平たんな場所に停めます。
2. 次の事項を行います。
   - 各部に付着した泥などの汚れをきれいに水洗いし、乾いた布で水分を拭き取ります。
   - 各回転部分や切刃部、ベルト、チェーンなどに巻き付いた雑草やわらくずを、完全に取り除きます。

重要：
- **機体を洗う場合は、電装部品に水が掛からないようにしてください。**
- **作業シーズン終了後および長期格納する前には、各部の注油（168 ページ）を参照して、各部の給油、給水、注油を行ってください。**

補足：
- **各部にもみやわらくずが残っていると、ネズミに配線部をかじられて故障の原因となるので、きれいに取り除いてください。**
- **各チェーン、各回転部分や摩擦しゅう動部分には、錆が発生しないようにじゅうぶん注油してください。**
- **塗料のはがれた所には補修塗料を塗って、錆が発生しないようにしてください。**

2.2 長期格納時のラジエータ冷却水の保管

ラジエータ冷却水は冬期のエンジン凍結割れを防止するため、排水、または不凍液（ロングライフクーラント）を清水に混ぜた冷却水を入れておきます。

2.2.1 長期格納時のラジエータ冷却水の排水

1. ラジエータおよびリザーブタンクの冷却水を排水します。
（ラジエータ冷却水の点検、補給、交換（197 ページ）を参照）
2. ラジエータキャップに“水なし”と書いた札を掛けておきます。

2.2.2 長期格納時のラジエータ冷却水と不凍液の配合

1. 冷却水の補給、交換を行います。
2. ラジエータおよびリザーブタンクには、不凍液の混ざった適正な混合比の冷却水を規定量入れておきます。
（ラジエータ冷却水の点検、補給、交換（197 ページ）を参照）

ラジエータ容量	3.7 L

重要：
- **冷却水には、不凍液（ロングライフクーラント）を適正量入れ（混合比は最高でも 50%以下）、よく水と混ぜ合わせてからお使いください。**
- **不凍液の混合比を誤ると、冬期には冷却水の凍結、夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。**
- **不凍液を使用する場合は、ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので、保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。**
- **不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は 2 年間です。必ず 2 年で交換してください。**

2.3 長期格納時のバッテリの保管

危険
- **保管や持運びの際にバッテリに火気を近づけたり、ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。**

警告
- **バッテリを点検するときは、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてください。**

長期間使用しない場合は、できるだけバッテリを機体から取り外し、次の点に注意して保管してください。
- 保管前に点検し、必要に応じて補充電を行ってください。バッテリ液補水タイプは、補水してから補充電を行ってください。
- バッテリは保管中でも自己放電するので、夏は 1 か月、冬は 2 か月に 1 回それぞれ点検し、必要に応じて補充電を行ってください。
- 次のような場所に保管してください。
  - 直射日光が当たらない、温度が低く変化の少ない、乾燥している場所
  - 雨露が少なく、水没のおそれが無い場所
  - バッテリの有害なガスや液、粉じんの発生が起こらない場所

機体に取り付けている場合は、（–）側のケーブルを必ず取り外してください。

2.4 長期格納時の各レバー、その他の操作

点検、整備が終わったあと、納屋などの格納場所に停めてください。

重要：
- **サイドシュートやリヤシュートをロープで押えないでください。変形するおそれがあります。**
- **刈取部を地面に降ろしたとき、刈取部の下に物が置かれているとトラブルの原因となります。**

1. 刈取部を地面に接地します。
2. デバイダカバーを取り付けたあと、分草かんを収納します。
3. アンローダ受けを下げて収納します。
4. アクセルダイヤルをいっぱい戻して（🚗位置）止めます。
5. 駐車ブレーキを掛けます。
6. 作業レバーを**[切]**位置にセットします。
7. **[L 仕様]** の車体水平制御は、機体いっぱいまで下げます。
8. メインスイッチのキーは、必ず抜き取って保管します。
9. 本機カバーを掛けます。

コンバインの不調と処置

コンバインの処置時の注意

⚠ 警告

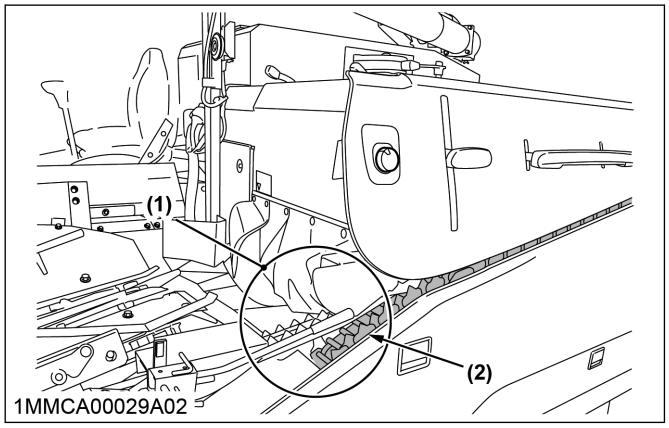
- **引起し部、グレンタンク、こぎ胴などの各部を開いて作業を行うときは、次の事項を遵守してください。**
  - **平たんで安全な場所で、エンジンを必ず止めて、メインスイッチのキーを抜いてから行ってください。**
  - **傾斜地では、各部の開閉は行わないでください。**
  - **引起し部、グレンタンク、こぎ胴を開いたときは、閉じないようにストッパを必ず掛けてください。**
  - **各部を開いた状態で走行をしないでください。**
  - **各部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**
- **取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。**

わらが詰まるときの処置

1. 自動エンジン停止装置がはたらいたときの処置

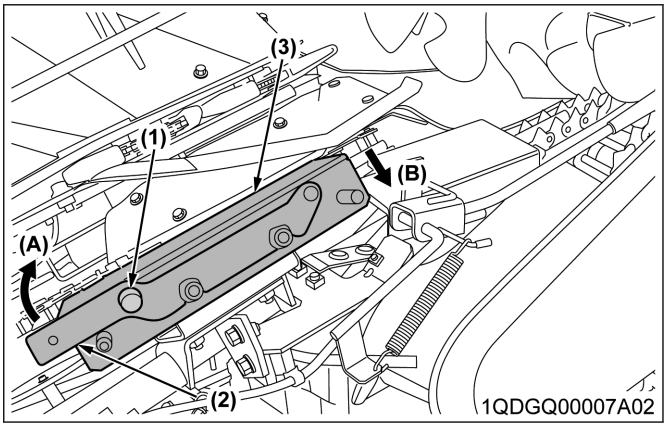
1.1 供給搬送部、フィードチェーン部の処置

供給搬送部のチェーンにわらが詰まったときは、エンジンを停止して、わら詰まり除去装置を取り外して、わらを取り除いてください。



(1) 供給搬送部、フィードチェーン部　*(2)* フィードチェーン部

1. こぎ胴のロックハンドル前、後を上げて、こぎ胴を開きます。
2. 樹脂ボルトを取り外します。
3. ロックレバーを上げます。
4. わら詰まり除去装置を手前に引いて取り外します。



(1) 樹脂ボルト
(2) ロックレバー
(3) わら詰まり除去装置
(A) 上げる
(B) 引いて取り外す

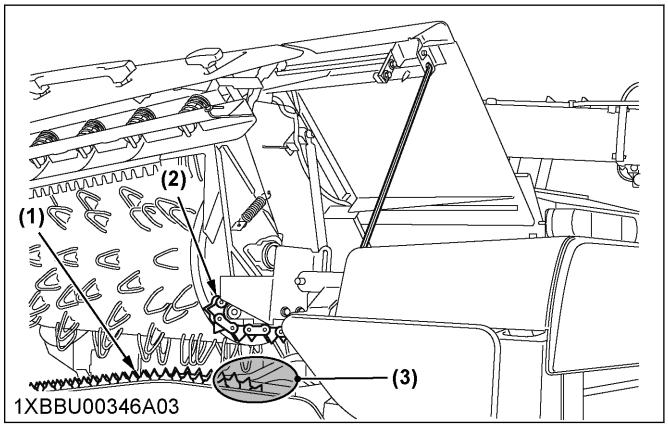
5. わらを取り除きます。
6. わら詰まり除去装置を取り付けます。
7. ロックレバーを下げてフックボルトの溝に引っ掛けてロックし、樹脂ボルトを締め付けます。
8. こぎ胴を閉じます。

1.2 フィードチェーン終端部、排わら搬送部の処置

自動エンジン停止装置がはたらき、液晶ディスプレイに〝排ワラ〟⟷〝詰まりを取り除く〟と表示し、ブザーが鳴ったときには、フィードチェーン終端部、排わら搬送部を掃除してください。

1. 作業レバーを**[切]**位置にセットしたあと、エンジンを停止します。
2. こぎ胴を開きます。

3. わらを取り除きます。
   排わら搬送部は排わら株元チェーンのわらを取り除いてください。



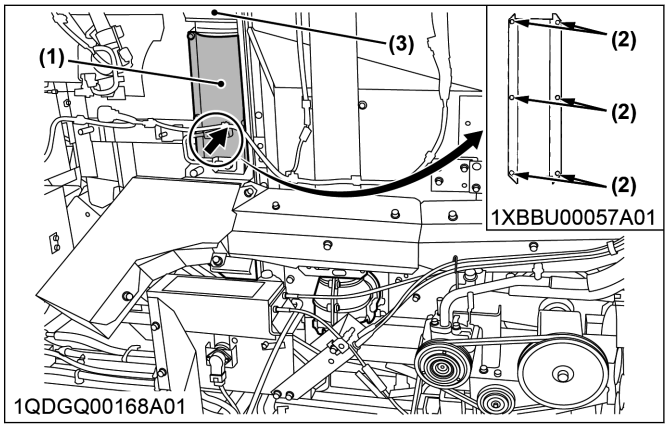
(1) フィードチェーン
(2) 排わら株元チェーン
(3) フィードチェーン終端部

4. こぎ胴を閉じます。

1.3 2 番縦スクリュの処置

液晶ディスプレイに〝2 番〟⟷〝詰まりを取り除く〟と表示し、ブザーが鳴ったときには、2 番縦スクリュを掃除してください。

1. グレンタンクを開きます。
2. ボルトを取り外して 2 番縦スクリュの掃除口カバーを外します。



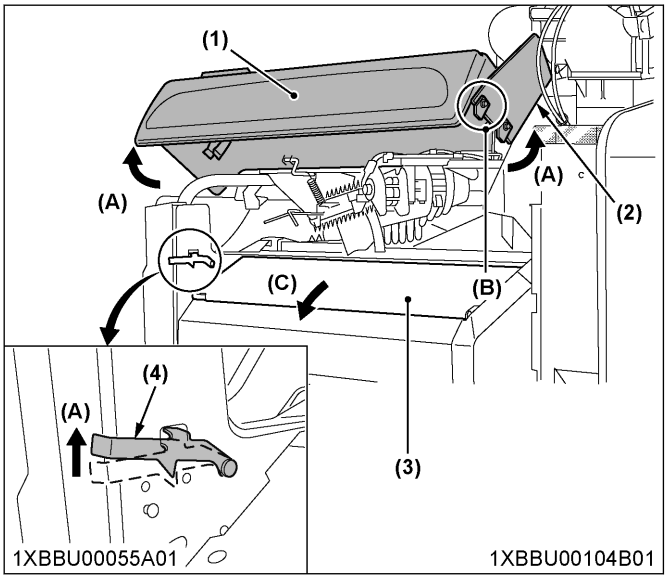
(1) 2 番縦スクリュ掃除口カバー
(2) ボルト
(3) 2 番縦スクリューケース

3. 2 番縦スクリュ内のわらくずを取り除きます。
4. 2 番縦スクリュの掃除口カバーを取り付けます。
5. グレンタンクを閉じます。

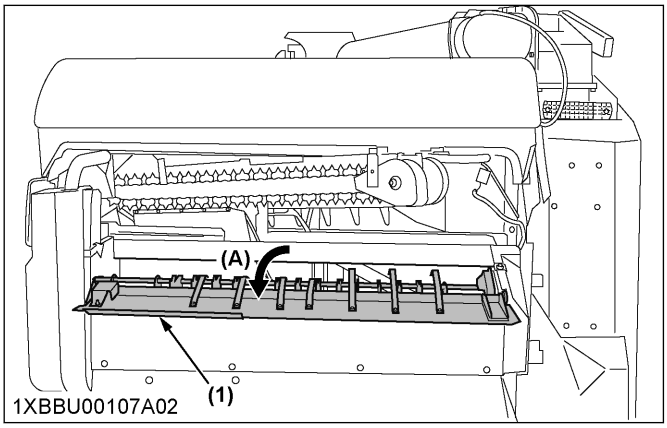
1.4 カッタ部、排わらチェーン部の処置

自動エンジン停止装置がはたらき、液晶ディスプレイに〝カッタ〟⟷〝詰まりを取り除く〟と表示し、ブザーが鳴ったときには、カッタ部、排わらチェーン部を掃除してください。

1. カッタ切換えカバーを開きます。
   a. 排わら上部カバーを上げてカバーステーをセットします。
   b. 穂先カバーを上げます。
   c. カッタ切換えカバーを後方へ引きながらカバーロックレバーを上げて開きます。



(1) 排わら上部カバー
(2) 穂先カバー
(3) カッタ切換えカバー
(4) カバーロックレバー
(A) 上げる
(B) カバーステーをセットする
(C) 開く



(1) カッタ切換えカバー
(A) 開く

2. カッタ部、排わらチェーン部のわらくずを取り除きます。

   補足：
   - **必要に応じて、このあとカッタを開いて掃除してください。**
   - **カッタ切換えカバーを開けたままでは、エンジンを始動しても次のように操作して脱こくクラッチを“入れる”とエンジンが止まります。**
     - **作業レバーを[刈取切]または[入]位置**

3. カバーロックレバーを引きながらカッタ切換えカバーを閉め、カバーロックレバーを確実にロックします。

2. シャーピンが破損したときの処置

引起しチェーンが動かなくなり、わらが刈取部前面に滞留し、わら詰まりが発生したときは、各引起しチェーンの駆動軸に差し込まれているシャーピンを確認し、折損しているときは購入先に連絡して交換してください。

補足：

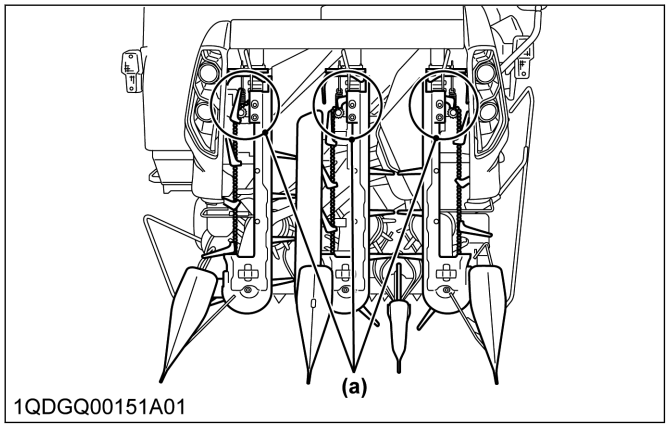
- **シャーピンは予備部品で付属品箱に 2 個入っています。**
- **予備のシャーピンが無くなったときは補充しておいてください。**

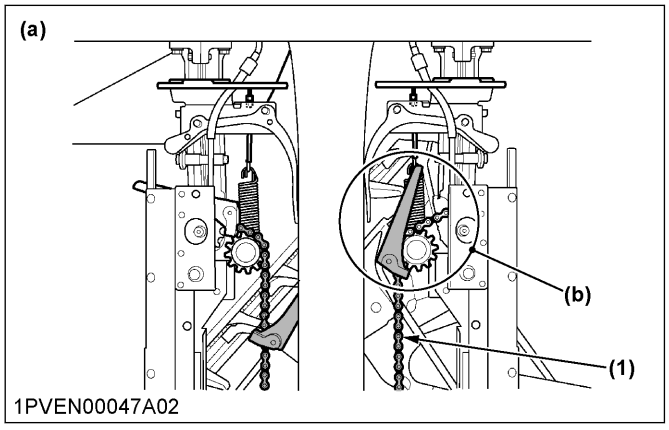
シャーピン	品番	90092019510

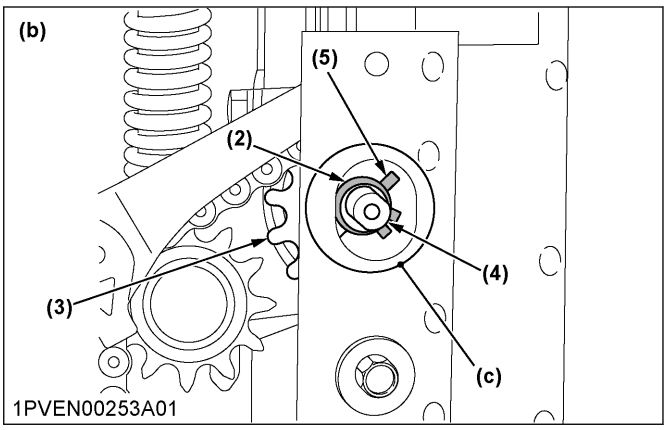
2.1 引起しチェーン駆動軸のシャーピンの確認

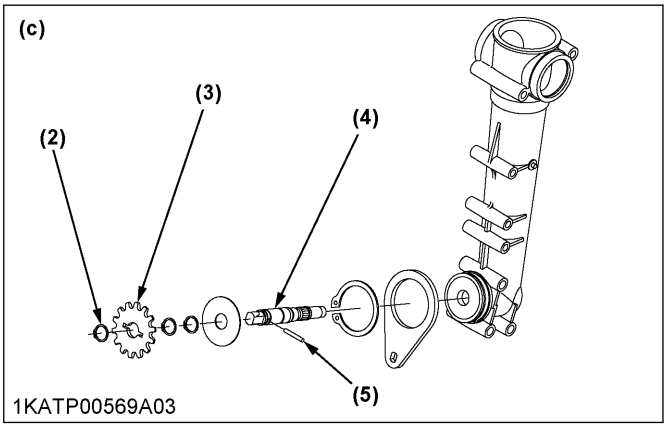
刈取部前面にわらが滞留したときは、刈取作業をいったん中止し、シャーピンの確認を行ってください。

1. 平たんな場所に移動します。
2. 刈取部を地面に着くまで降ろしてエンジンを停止します。
3. 動いていない引起しチェーンの引起しカバーを取り外します。
4. シャーピンを確認します。
   折損しているときは購入先に連絡して交換してください。









(1) 引起しチェーン
(2) ストッパ
(3) スプロケット
(4) 引起しチェーン駆動軸
(5) シャーピン

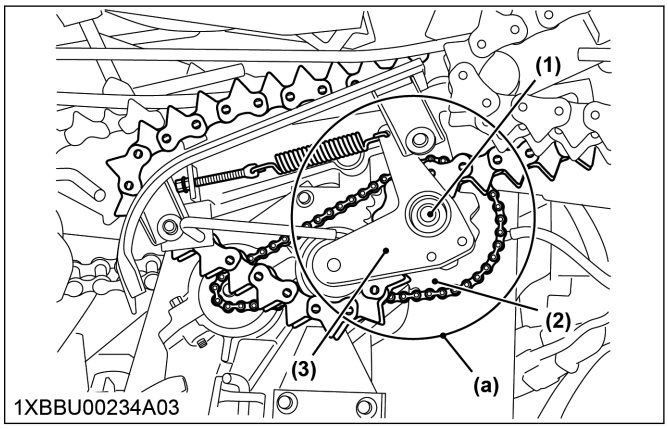
5. 引起しカバーを取り付けます。

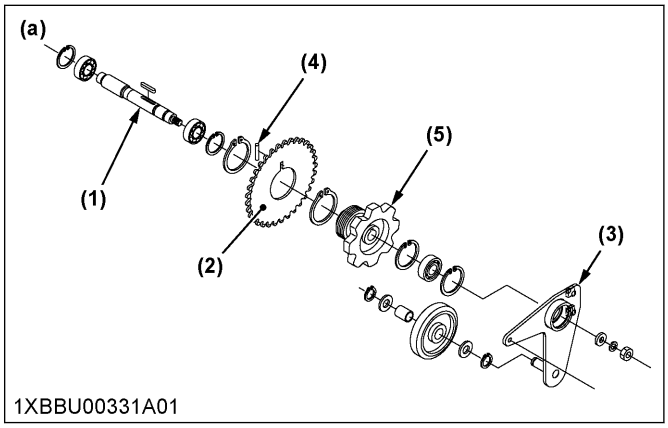
2.2 供給サポートチェーン駆動軸のシャーピンの確認

供給搬送部にわらが滞留し、詰まりが発生したときは、刈取作業をいったん中止し、わらを取り除いたあとシャーピンの確認を行ってください。

1. エンジンを停止します。
2. 供給搬送部のわらを取り除きます。
3. 左サイドカバー上、下を取り外します。

4. シャーピンを確認します。





(1) 供給サポート駆動軸
(2) *33* スプロケット
(3) サポートテンションアーム
(4) シャーピン
(5) *8* スプロケット

5. 左サイドカバー上、下を取り付けます。

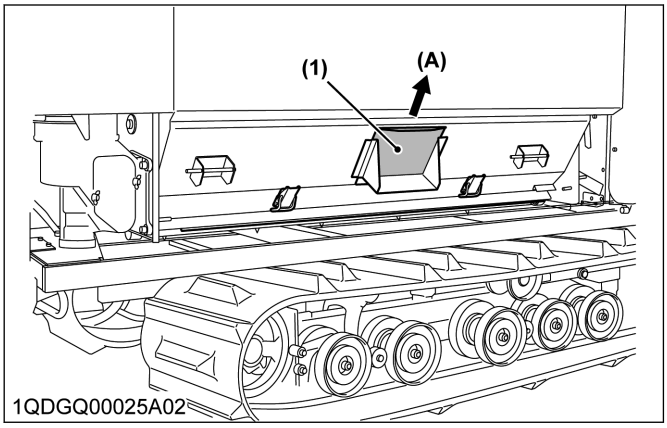
もみが詰まるときの処置

1. アンローダからもみが排出されないときの処置

異常箇所を点検し、必ずエンジンを止めてから処置してください。

1. 次の異常が無いか点検します。
   - 異物がかみ込んでいないか。
   - タンク駆動ベルトがスリップしていないか。
2. 異常がある場合は、もみ排出クラッチを“切”にします。
3. エンジンを止めてから、異常内容に応じて処置します。

- 異物がかみ込んでいるときは、アンローダの各掃除口を点検し、異物を取り除きます。
  （各部の掃除のしかた（161 ページ）を参照）
- タンク駆動ベルトがスリップしているときは処置します。
  1. シャッタを引いてもみを排出します。



(1) シャッタ
(A) 引く

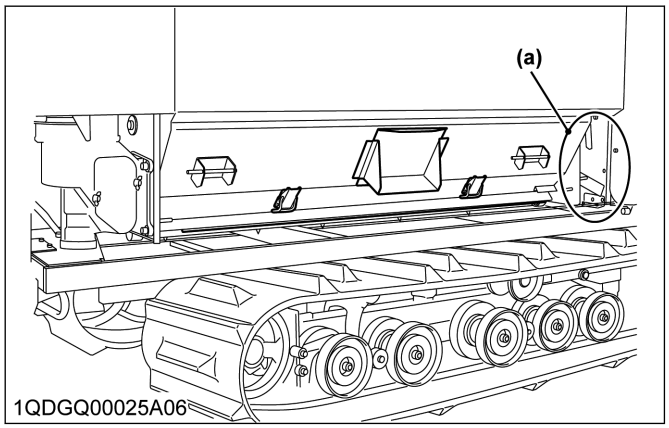
  2. グレンタンクを開きます。
     （グレンタンクの開閉（158 ページ）を参照）
  3. スクリュ駆動ベルトのテンションスプリングを調整します。
     （スクリュ駆動ベルトの点検、調整（223 ページ）を参照）
  4. 調整してもスリップが止まらないときは、ベルトを交換します。
- もみ排出スイッチを押しても、もみを排出しないときは、もみ排出レバーを操作してもみを排出します。

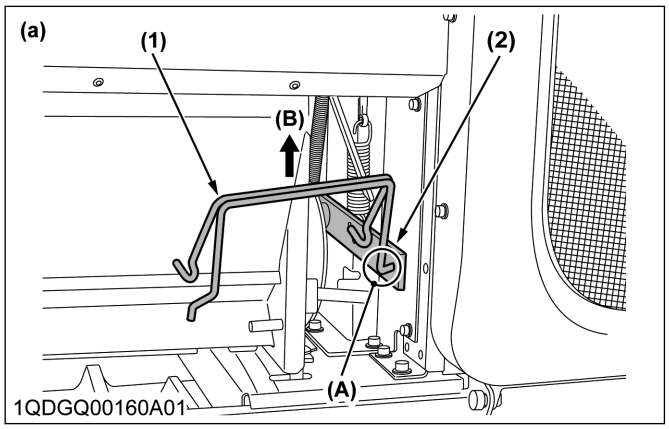
⚠ 警告
- **平たんで安全な場所で、必ずエンジンを止めて、メインスイッチのキーを抜いてから作業を開始してください。**
- **もみ排出スイッチを操作してもみを排出するときは、近くの回転物にじゅうぶん注意してください。**
- **アンローダの開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**

1.1 もみ排出クラッチが作動せずもみが排出されない場合の処置

1. エンジンを停止します。
2. グレンタンク下カバーを取り外します。
3. グレンタンク下カバーの収納ラックから受あみ脱着金具を 1 個取り出します。
4. エンジンを始動し、エンジン回転数を作業回転にします。

5. グレンタンクと防じんカバーの間にある、もみ排出レバーの穴に受あみ脱着金具を差し込み、受あみ脱着金具を引き上げます。
もみが排出されます。





(1) 受あみ脱着金具
(2) もみ排出レバー
(A) 差し込む
(B) 引き上げる

排出後

1. エンジンを停止します。
2. グレンタンク下カバーの収納ラックに受あみ脱着金具を収納します。
3. グレンタンク下カバーを取り付けます。
4. ヒューズや配線を点検し、もみ排出スイッチがはたらかない原因を処置します。

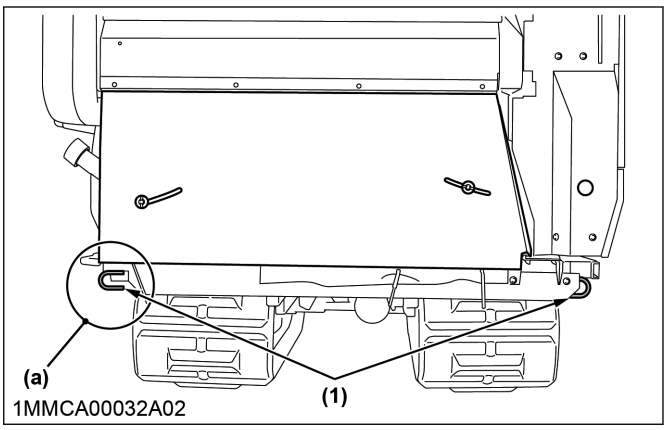
補足：

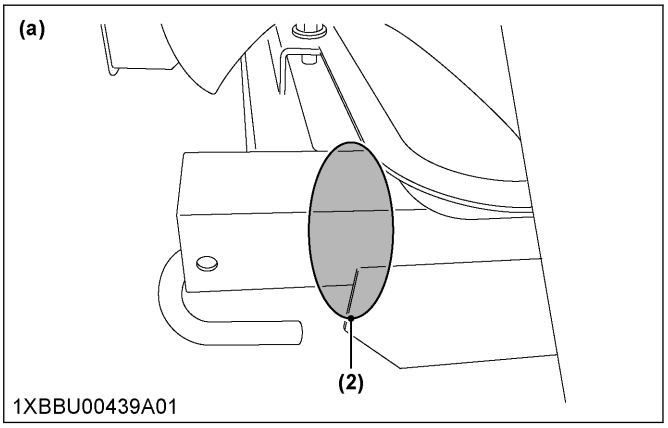
- **処置しても直らないときは、購入先に連絡してください。**

その他の不調と処置

1. けん引フックについて

コンバインが自力で動けずけん引作業を必要とする場合は、機体の左側後方のフレームを使用してください。このとき、ロープ掛けフックは、けん引作業に使用しないでください。





(1) ロープ掛けフック
(2) けん引箇所

重要：

- **このコンバインを使って、けん引作業はしないでください。故障の原因になります。**

付表

主要諸元

農機型式名				クボタ R2304	
商品名				XC334	
区分				M	LKM
機体寸法	全長		mm	3890	
	全幅		mm	1870	
	全高		mm	2090	
機体質量			kg	2130	2280
エンジン	型式名			D1803-CR-E5-C2	
	種類			水冷 4 サイクル 3 気筒立形ディーゼル〔直噴〕	
	総排気量		L (cc)	1.826 (1826)	
	出力／回転速度		kW (PS) / rpm	25.0 (34.0) / 2700	
	使用燃料			ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量		L	40	
	始動方式			セルモータ式	
	バッテリ		V・Ah	12・55〔80D26L〕	
走行部	クローラ	中心距離	mm	900	
		幅×接地長	mm	410×1430	410×1475
		平均接地圧	kPa (kgf/cm^2)	17.8 (0.182)	18.5 (0.189)
	変速方式			油圧モータ式〔HST〕	
	変速段数			前進無段・後進無段〔副変速 3 段：油圧 2 段＋ギヤ 2 段〕	
	走行速度〔エンジン定格回転速度時〕	前進	m/s	〔副変速レバー・副変速切換えスイッチ併用〕 倒伏：0～0.70 作業：0～1.15 走行：0～1.90	
		後進	m/s		
	旋回方式			ニュー VCCT（ソフト・ブレーキターン）	
刈取部	刈取り条数		条	3	
	刈幅〔デバイダ先端間隔〕		mm	1210	
	刈取装置形式			シングルアクション	
	刃幅		mm	1198	
	変速段数		段	副変速同調 2 段＋引起し 2 段	
	刈高さ範囲		mm	35～150	
	こぎ深さ調節方式			電動モータ式（自動・手動併用）	
脱こく部	脱こく方式			下こぎ・単胴・軸流式	
	こぎ胴	径×幅	mm	420×600	
		回転速度	rpm	506	
	処理胴	径×幅	mm	190×100（ツースバー）	
		回転速度	rpm	1114	
	2 番還元方式			スクリュ式	

（次へ続く）

付表

農機型式名				クボタ R2304	
商品名				XC334	
区分				M	LKM
脱こく部	揺動板	幅×長さ	mm	600×1160	
	選別方式			揺動・圧風・全幅吸引	
こく粒処理部	処理方式			グレンタンク式	
	排出方式			スクリューコンベア式	
	タンク容量		L	850（約 17 袋）〔1 袋約 50 L〕	
	アンローダ	長さ	mm	3900	
		旋回範囲	度	320〔右、左〕	
		旋回方式		電動モータ	
		昇降範囲	度	0〔水平〕～50	
		昇降方式		油圧式	
		排出高さ〔作業時〕	mm	1790～4780	
		排出長さ〔作業時〕	mm	2360～3580	
わら処理部	工場出荷仕様			・カッタ カッタ切断長さ：60 mm / 180 mm 切換え式 〔切断刃：標準切断刃〕	
	オプション			・60 mm / 180 mm 切換え式カッタ〔切断刃：標準切断刃／セラミック切断刃〕 ・カッタ後部標準結束機 ・カッタ後部ドロッパ ・シュータ式拡散装置	
諸装置	安全装置	エンジン始動時安全装置		駐車ブレーキ、主変速レバー、脱こくクラッチ、刈取クラッチ、もみ排出クラッチ、カッタ切換えカバー、停止スイッチ	
		エンジン自動停止装置		刈取詰まり、フィードチェーン詰まり、排わら詰まり、結束機わら詰まり／ひも切れ（ひも無し）／ビル巻付き**【オプションで結束機を付けた場合】**	
		その他の安全装置		刈取部下降ロック、手こぎレバー、エンジン停止装置**【手こぎ作業非常緊急停止装置】**	
	警報装置			燃料、充電、油圧、水温〔オーバーヒート〕、もみ満杯、負荷、刈取詰まり、2 番詰まり、シーブ、排わら詰まり、カッタ詰まり、燃料系水混入、排気管外れ、結束機わら詰まり／ひも切れ（ひも無し）／ビル巻付き**【オプションで結束機を付けた場合】**	
	自動化装置			刈取オートクラッチ、自動こぎ深さ制御、自動刈高さ制御〔上昇自動**【K 仕様】**〕、自動車体水平制御〔左右**【L 仕様】**〕、アンローダ自動旋回制御、自動エンジン停止	
	オープン装置			引起しオープン、刈取オープン、こぎ深さ搬送オープン、供給チェーンレールオープン、エンジンルームオープン、グレンタンクオープン、排わらチェーンオープン、こぎ胴オープン、カッタオープン、刈刃オープン	
	その他の装置	運転操作部		ファインビューメータ、アクセルダイヤル、副変速切換えスイッチ、作業（楽刈）レバー、旋回モード切換えスイッチ、刈取かき込みペダル、もみ排出スイッチ〔パワークラッチ〕・〔アンローダリモコン〕、左分草かん開閉スイッチ、集中注油装置、DC 電源ソケット	
		エンジン部、走行部		ディーゼル微粒子除去装置(DPF)、揺動転輪**【L 仕様】**	
		刈取部		供給サポートチェーン	
		グレンタンク部		もみこぼれ防止シャッタ	
		オプション		湿田用泥玉防止スクレーパ、スイスイデバイダ、前分草ガイド、左分草かん（後）、刈取スタンド、刈取防じんカバー、種子用交換部品、キャノピ、無線アンローダリモコン、作業灯ランプ、延長アンローダ、バックミラー、カッタ切換えカバー電動切換え装置	
適応作物範囲〔全長〕			mm	550～1300	
倒伏適応性			度	追刈り：85 以下、向刈り：70 以下	
作業能率〔計算値〕			a/hr（分/10 a）	37～9 （17～64）	

・ この主要諸元は改良のため予告無く変更することがあります。

付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

品名	数量	対象型式
保証書	1	
メンテナンスブック	1	
取扱説明書	1	
本機カバー	1	
バックミラー（左）	1	
カラー（刈高さ調整カラー） （刈刃の高さ調節（123 ページ）を参照）	3	
ボルト（低刈用） （刈刃の高さ調節（123 ページ）を参照）	3	
シム（供給サポート）	3	
シャーピン （シャーピンが破損したときの処置（252 ページ）を参照）	2	
受あみ脱着金具	2	

オプション（別売品）

オプション（別売品）は純正品を使いましょう。

1. 走行部のオプション

1.1 湿田用泥玉防止スクレーパー覧

湿田走行時、大きな泥玉の発生が少なくなります。

品番	品名	対象型式
97710000540	オプション（ドロタマ、コテイ）	全型式

2. 刈取部のオプション

2.1 スイスイデバイダー覧

倒伏した作物が能率良く刈取りできます。

品番	品名	対象型式
–	SP-XC334W（2 連）	全型式
–	SP-XC334TQ（右 1 連）	

2.2 前分草ガイド一覧

刈取前部に取り付ける前分草かんです。

品番	品名	対象型式
97710000500	オプション（3、マエブンソウ）	全型式

2.3 刈取部脱着用刈取スタンド一覧

刈取部を安定した状態で取り外すためのスタンドです。

品番	品名	対象型式
97710000340	スタンド、アッシ（カリトリ）	全型式

2.4 刈取り防じんカバー一覧

運転席側へ飛散してくるごみやちりを防ぐカバーです。

品番	品名	対象型式
97720000270	カバー、アッシ（ボウジン）	全型式

2.5 左分草かん後（サイドデバイダ）一覧

脱こく部左下側に取り付ける分草かんです。

品番	品名	対象型式
97710000590	オプション（デバイダ L、329）	全型式

3. 脱こく部のオプション

3.1 種子用交換部品一覧

品番	品名	対象型式
97710000940	交換部品、アッシ（シュシヨウ）	全型式

4. こく粒処理部のオプション

4.1 無線アンローダリモコン一覧

アンローダの昇降、旋回やもみの排出の操作が無線で行えます。

品番	品名	対象型式
97720000160	オプション（ムセンリモコン）	全型式

4.2 作業灯一覧

アンローダ先端に取り付けます。

品番	品名	対象型式
97720000340	オプション（サギョウトウ、HD）	全型式

4.3 延長アンローダー覧

0.5 m の延長アンローダを使用します。

品番	品名	対象型式
97720000170	オプション（エンチョウ UL、H）	全型式

5. 排わら処理部のオプション

5.1 カッタ切換えカバー電動切換え装置一覧

スイッチ操作でわら処理（カッタ作業、またはドロッパ、バラ落とし、結束作業）に合わせてカッタ切換えカバーの切換えが行えます。

品番	品名	対象型式
97710000720	オプション（カツドロデンドウ）	結束機無し
97720000100	オプション（カツケツデンドウ、SY）	結束機付き

5.2 カッタ後部標準結束機一覧

品番	品名	対象型式
–	KN-XC448	全型式

5.3 カッタ後部ドロッパー覧

品番	品名	対象型式
–	S-XC448D	全型式

5.4 シュータ式拡散装置一覧

品番	品名	対象型式
97720000140	カクサン、アッシ（3 条、簡易）	全型式

6. 運転席部のオプション

6.1 キャノピー覧

コンバインの日除け装置です。

品番	品名	対象型式
–	CH-XC448	全型式

6.2 バックミラー一覧

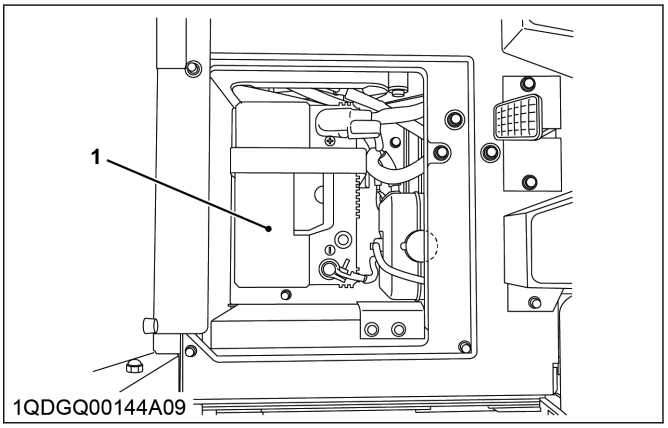
機体後方確認用のミラーです。

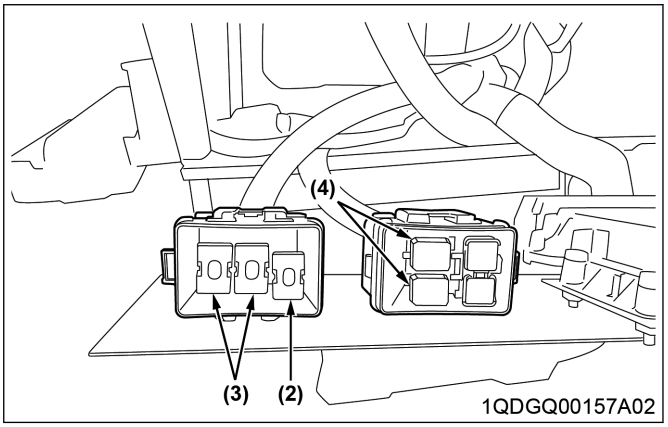
品番	品名	対象型式
97710000410	ミラー、キット（コウホウ、ケッソクキ）	結束機付き
97710000400	ミラー、キット（コウホウ）	結束機無し

消耗部品

消耗部品は純正部品を使いましょう。

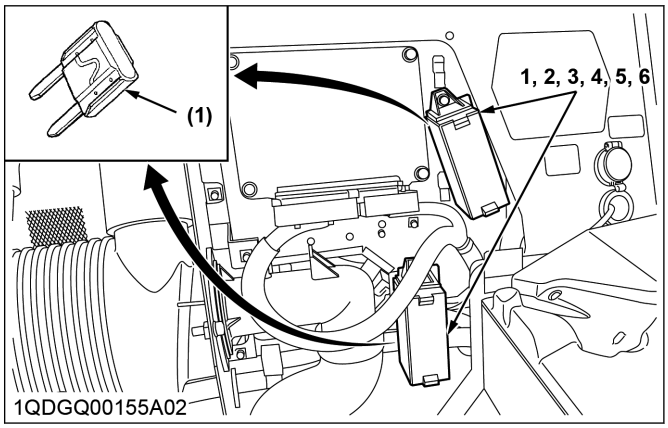
1. バッテリ、スローブローヒューズ一覧





図番	品名	品番	対象型式
1	バッテリ	97710000020	全型式
2	スローブローヒューズ(100 A)	99930005970	
3	ヒューズ(スローブローヒューズ 60 A)	95340000510	
4	スローブローヒューズ（ミニ、20 A）	97720000510	

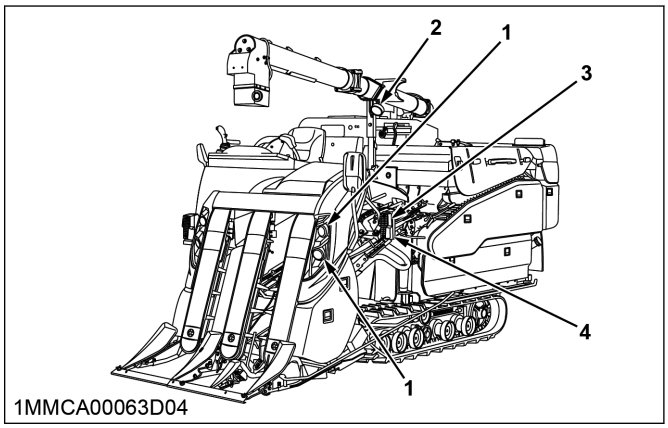
2. ヒューズ一覧

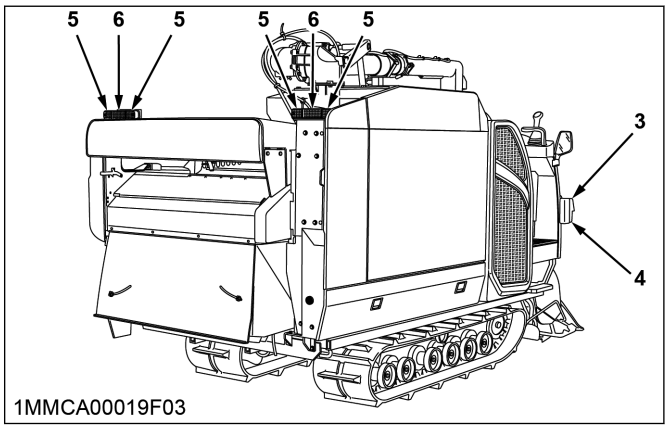


(1) ヒューズ

図番	品名	品番	対象型式
1	ヒューズ（ミニ 5 A）	99660028500	全型式
2	ヒューズ（ミニ 10 A）	99660028510	
3	ヒューズ（ミニ 15 A）	99660028520	
4	ヒューズ（ミニ 20 A）	99660028530	
5	ヒューズ（ミニ 25 A）	95290009200	
6	ヒューズ（ミニ 30 A）	99580008380	

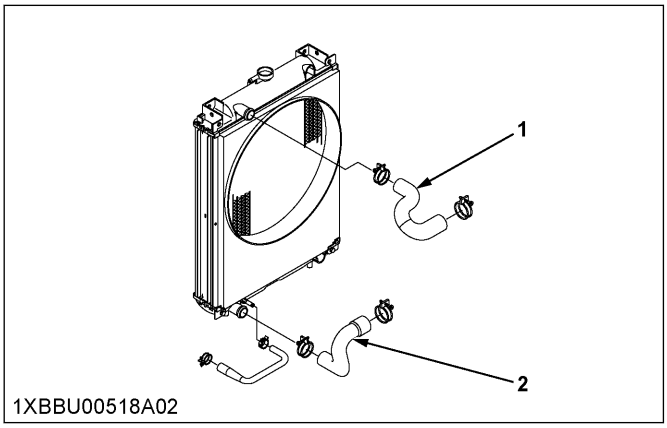
3. ランプ（電球）一覧





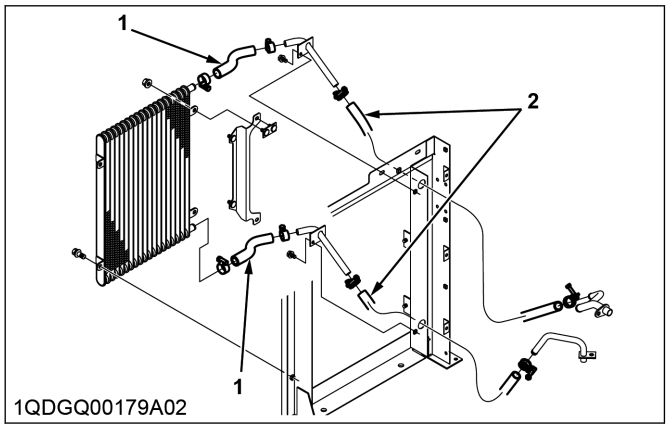
図番	品名	品番	対象型式
1	ランプ（ワーク、LED）	95210002490	全型式
2	バルブ（ヘッドライト 55 W）	97430011590	
3	バルブ(12 V 21 W)	99100022250	
4	バルブ(12 V 5 W)	99100022260	
5	バルブ(12 V 21 W)	99660029440	
6	バルブ(12 V 21 / 5 W)	99100021430	

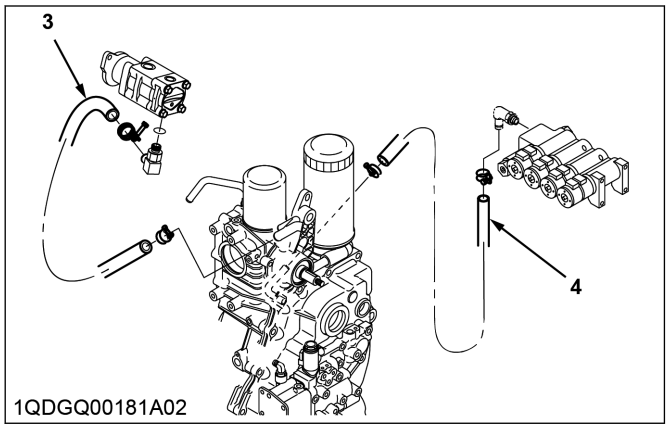
4. ラジエータホース一覧



図番	品名	品番	対象型式
1	ホース（1、ウォータ）	97720000350	全型式
2	ホース（2、ウォータ）	97520000150	

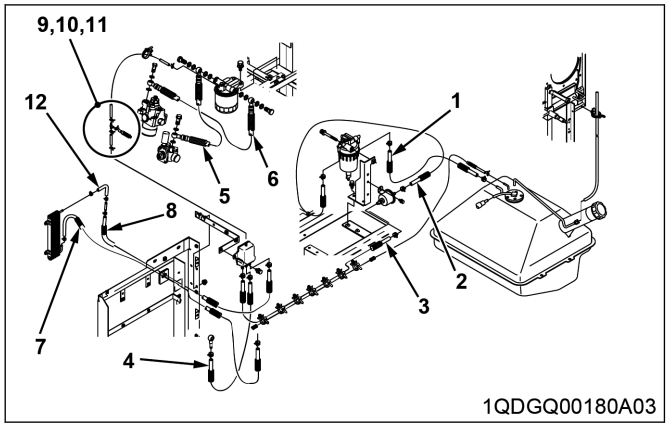
5. オイルクーラホース一覧





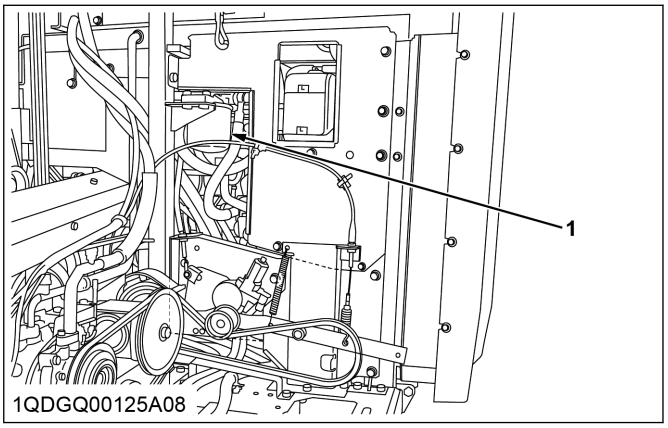
図番	品名	品番	対象型式
1	ホース（オイルクーラ、3）	97720000400	全型式
2	ホース（オイルクーラ、1）	97720000330	
3	ホース（インレット）	97720000310	
4	ホース（ユアツユニット、ドレン）	97720000320	

6. 燃料ホース一覧



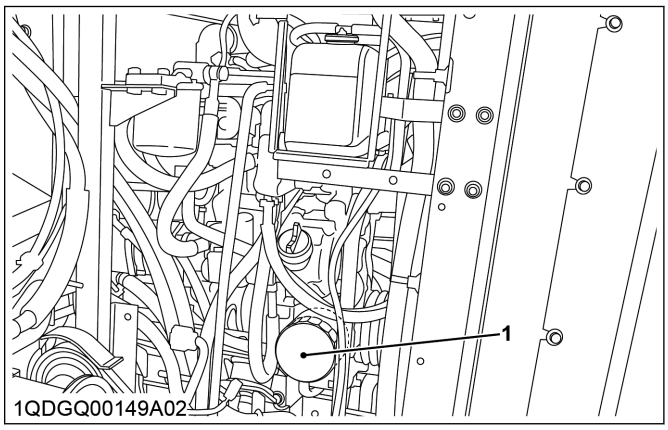
図番	品名	品番	対象型式
1	フューエルチューブ	97720000040	全型式
2	フューエルチューブ	99470000460	
3	フューエルチューブ	97720000050	
4	フューエルチューブ	K0966170500	
5	ホース、アッシ（フューエル）	97720000360	
6	ホース、アッシ（フューエル、2）	97720000130	
7	フューエルチューブ	97720000390	
8	フューエルチューブ	K0966170500	
9	フューエルチューブ	98490000020	
10	フューエルチューブ	97720000020	
11	フューエルチューブ	97720000030	
12	チューブ（フューエルクーラ）	97720000380	

7. 燃料フィルタカートリッジ一覧



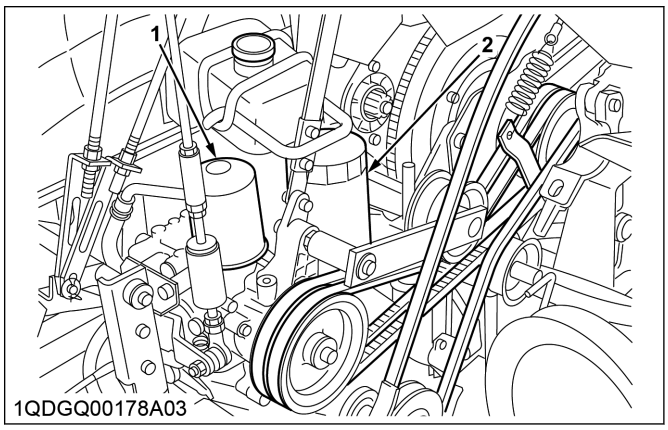
図番	品名	品番	対象型式
1	フィルタ（カートリッジ）	99930001510	全型式

8. エンジンオイルフィルタカートリッジ一覧



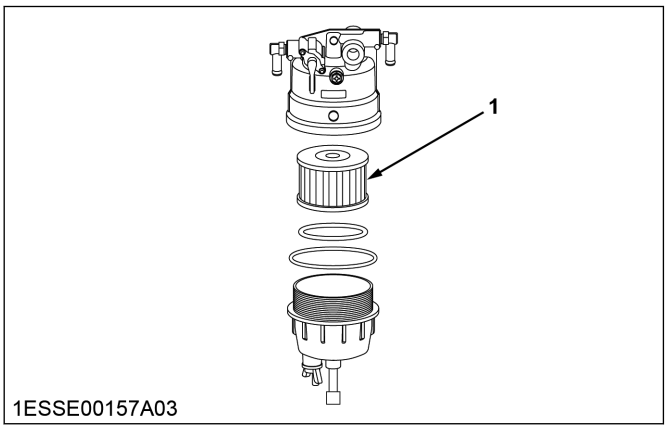
図番	品名	品番	対象型式
1	フィルタ（オイル、カートリッジ）	99580001871	全型式

9. 油圧サクションオイルフィルタカートリッジ、HST オイルフィルタカートリッジ一覧



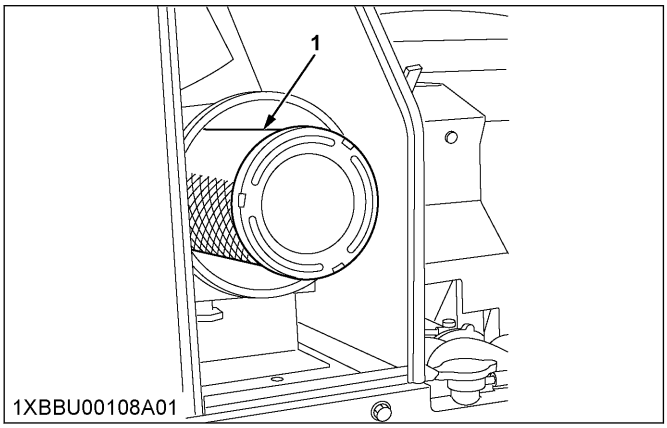
図番	品名	品番	対象型式
1	フィルタ（オイル）	97710000970	全型式
2	フィルタ	99100005990	

10. ウォータセパレータエレメント一覧



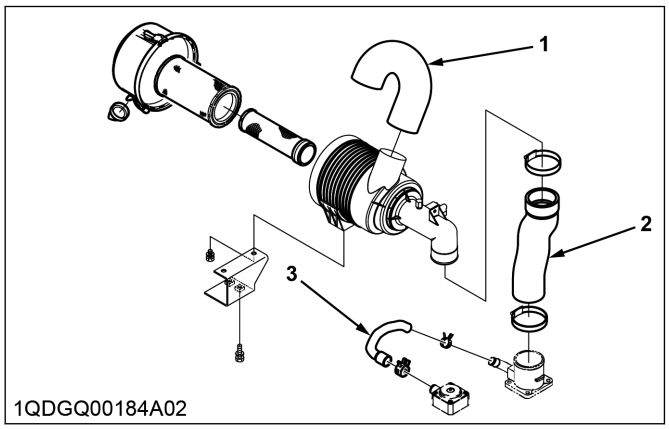
図番	品名	品番	対象型式
1	エレメント、アッシ	99950004250	全型式

11. エアクリーナー一覧



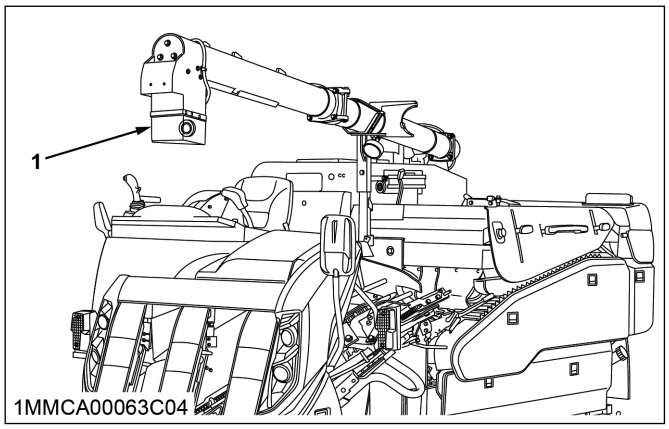
図番	品名	品番	対象型式
1	エレメント（アウタ）	99950002480	全型式

12. インレットパイプ、オイルセパレータホース一覧



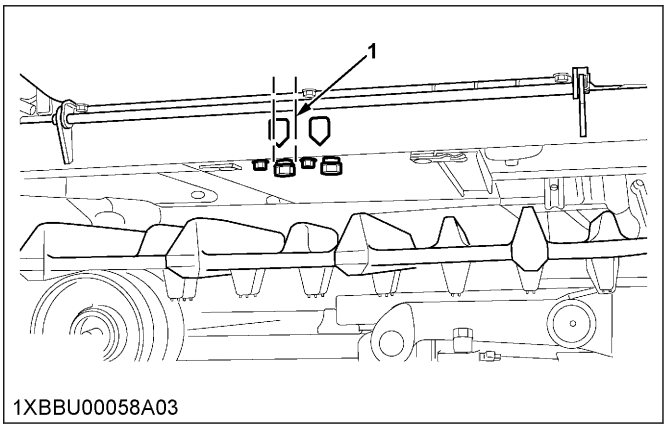
図番	品名	品番	対象型式
1	ホース（2、インレット）	97720000210	全型式
2	ホース（1、インレット）	97720000430	
3	チューブ（ブリーザ）	97720000110	

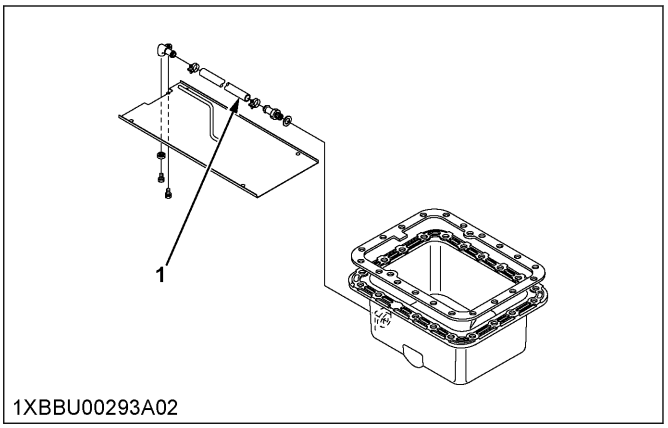
13. 吐出口ブーツ一覧



図番	品名	品番	対象型式
1	ブーツ	97720000150	全型式

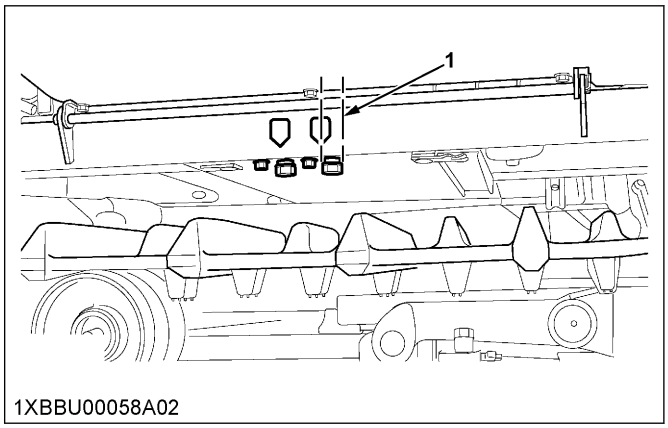
14. オイルドレーンゴムホース一覧

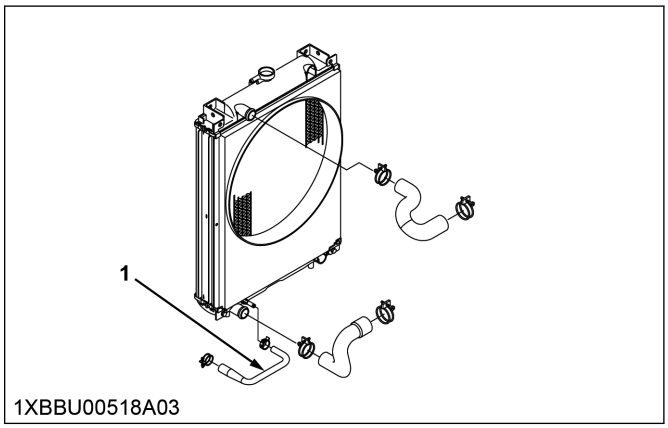




図番	品名	品番	対象型式
1	ホース（オイルドレン）	97720000290	全型式

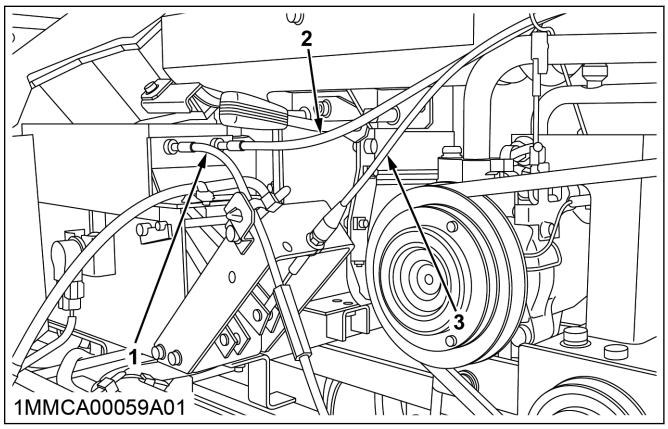
15. 排水ホース一覧

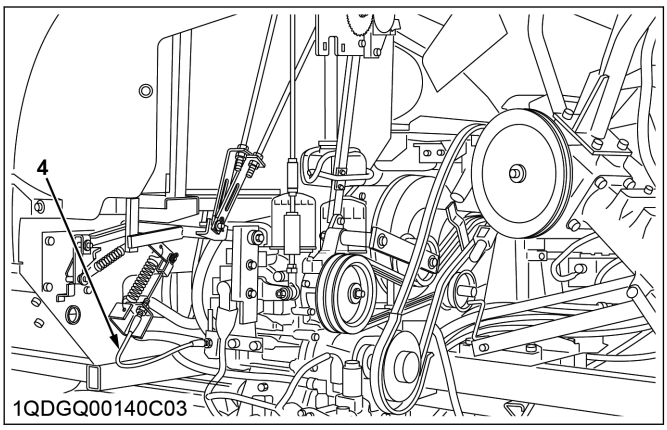


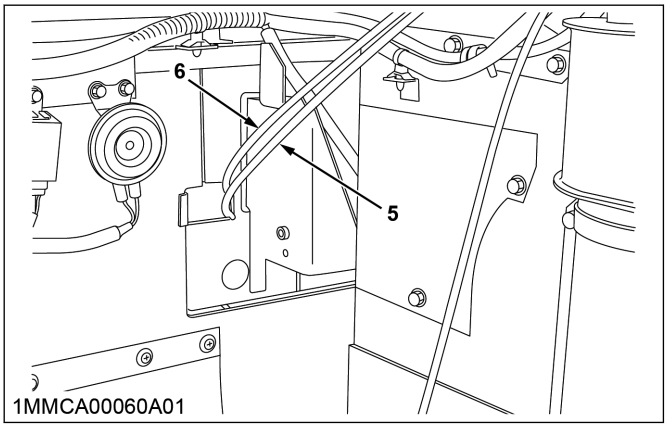


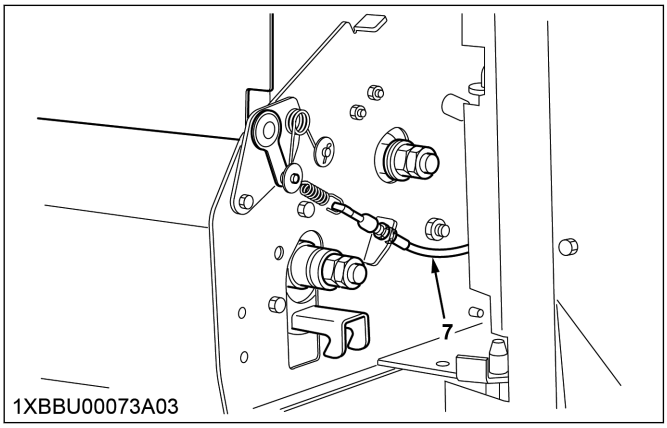
図番	品名	品番	対象型式
1	ホース（ハイスイ）	97720000300	全型式

16. 各ワイヤー覧





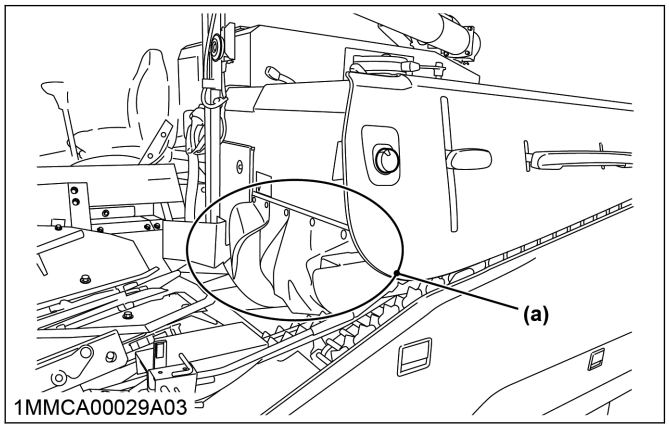


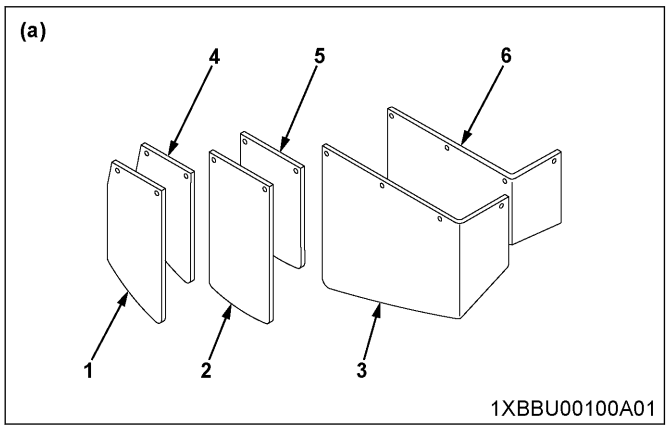


図番	品名	品番	対象型式
1	ケーブル（3、ダッコクラッチ）	97720000490	全型式
2	ケーブル（3、カリトリクラッチ）	97720000480	
3	3 ケーブル（3、グレンタンク）	97720000450	
4	ケーブル（ブレーキ）	97710000520	
5	ケーブル（1、レール）	97710000810	
6	ケーブル（2、レール）	97720000590	
7	ケーブル（カッタ）	97710000760	

17. フロントハンプ一覧

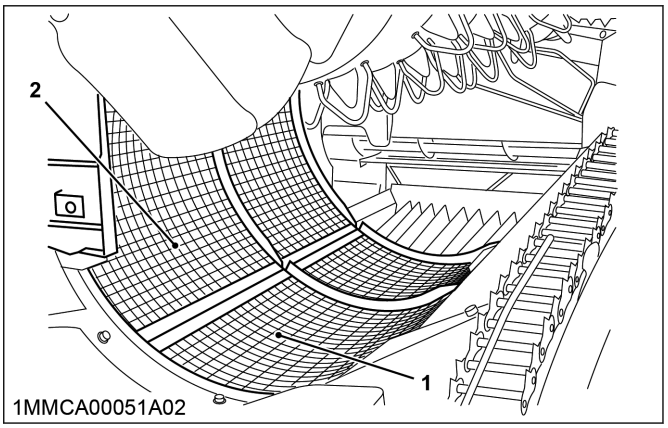
こぎ胴が閉じた状態





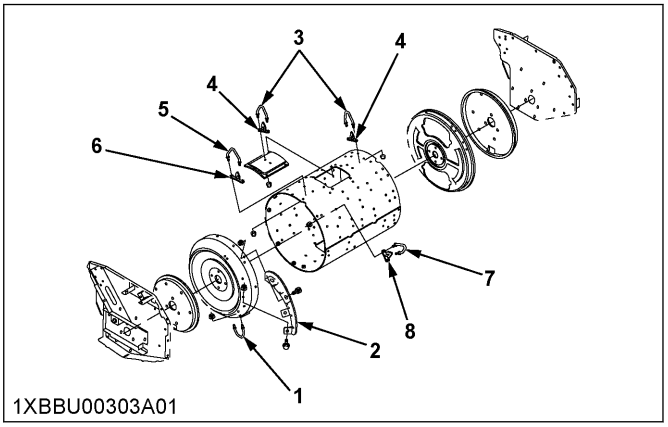
図番	品名	品番	対象型式
1	シール（1、入口飛散防止）（上側）	97710000770	全型式
2	シール（2、入口飛散防止）（上側）	97710000780	
3	シール（3、入口飛散防止）（上側）	97710000790	
4	シール（4、入口飛散防止）（下側）	97710000830	
5	シール（5、入口飛散防止）（下側）	97710000840	
6	シール（6、入口飛散防止）（下側）	97710000850	

18. 受あみ一覧



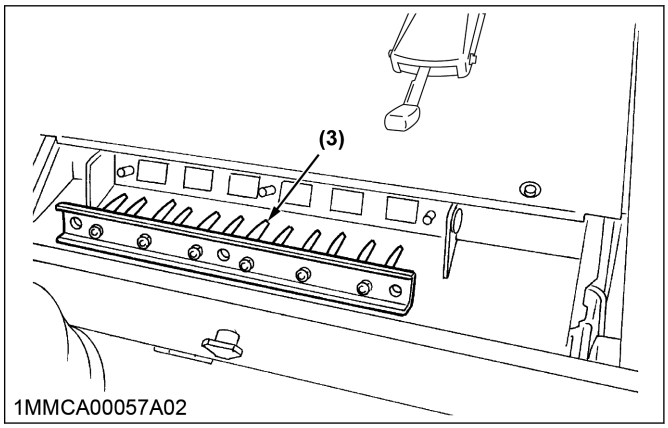
図番	品名	品番	対象型式
1	コンケーブ（1、11 + 13）	97710000870	全型式
2	コンケーブ（2、11 + 13）	97710000880	

19. こぎ歯一覧



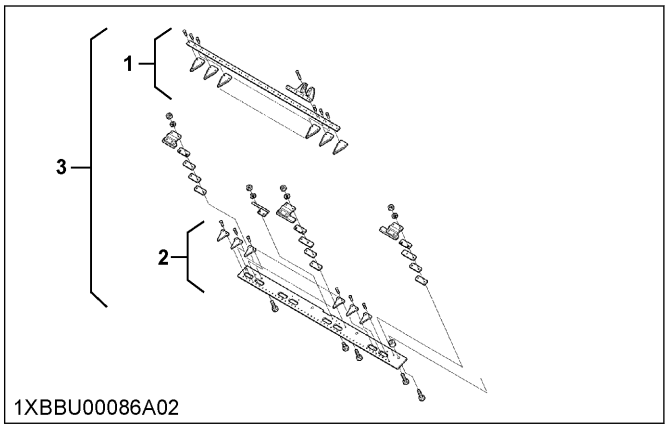
図番	品名	品番	対象型式
1	ダイ 1 セイソシ	97430003210	全型式
2	イタセイソシ	97710000130	
3	ナミハ	97430003250	
4	イタコキハ	97430000140	
5	ダイ 2 ホキョウシ	97710000100	
6	イタホキョウシ	97710000090	
7	ナミハ	97710000110	
8	イタコキハ	97710000120	

20. わら切刃一覧



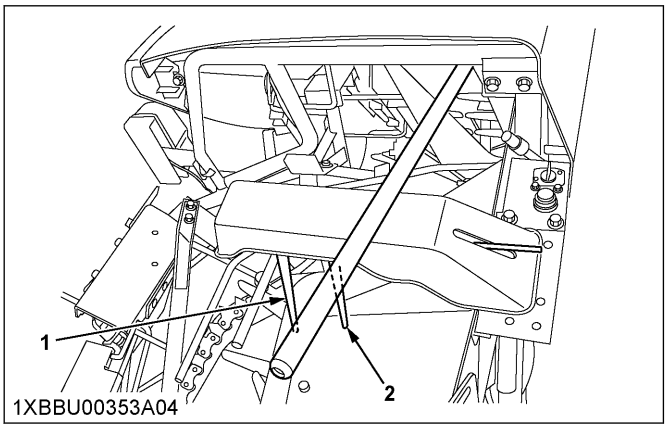
図番	品名	品番	対象型式
1	セツダンバ	97720000560	全型式

21. 刈刃一覧



図番	品名	品番	対象型式
1	刈刃コンプ	97720000230	全型式
2	受刃コンプ	97720000220	
3	刈刃アッシ	97710000430	

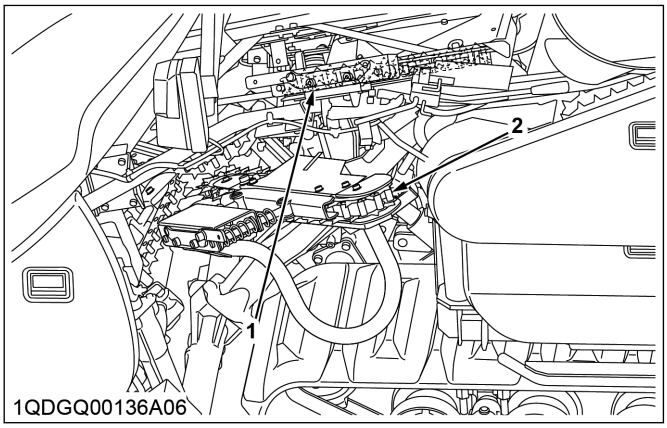
22. 穂先センサー一覧



図番	品名	品番	対象型式
1	スイッチ、アッシ（ホサキ、225）	97710000250	全型式
2	スイッチ、アッシ（ホサキ、190）	97710000260	

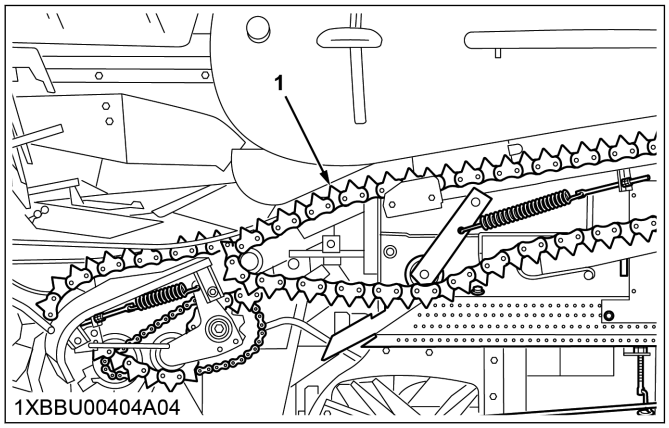
23. 各チェーン一覧

23.1 株元供給チェーン一覧、こぎ深さチェーン一覧



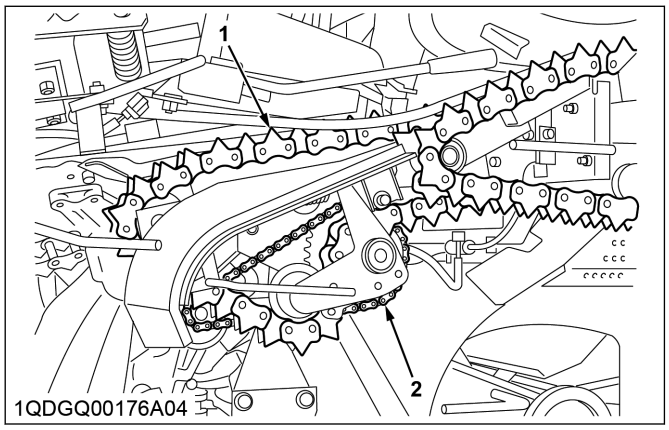
図番	品名	品番	対象型式
1	チェーン、アッシ（36、キョウキュウ）	97710000310	全型式
2	チェーン、アッシ（44、フカサ）	97710000330	

23.2 フィードチェーン一覧



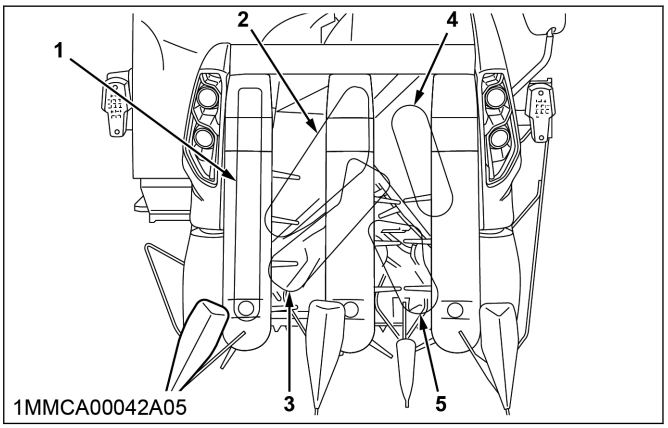
図番	品名	品番	対象型式
1	チェーン、アッシ（フィード、77 L）	97710000930	全型式

23.3 供給サポートチェーン一覧、供給サポートチェーン駆動チェーン一覧



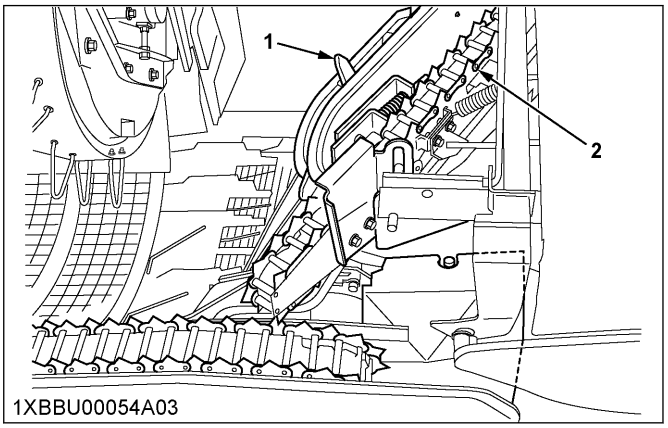
図番	品名	品番	対象型式
1	チェーン、アッシ（34、サポート）	97720000260	全型式
2	チェーン、アッシ（55、サポート）	97710000480	

23.4 引起しチェーン一覧、右穂先チェーン、右株元チェーン一覧、左穂先チェーン、左株元チェーン一覧



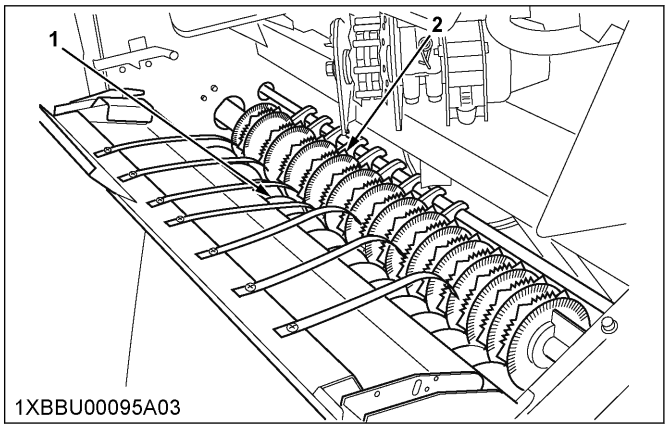
図番	品名	品番	対象型式
1	チェーン、爪アッシ（ヒキオコシ）	97710000300	全型式
2	チェーン、爪アッシ（ホサキ、R）	97720000190	
3	チェーン、アッシ（58、ミギ）	97720000250	
4	チェーン、アッシ（ホサキ、L）	97720000200	
5	チェーン、アッシ（34、ヒダリ）	97720000240	

23.5 排わら穂先チェーン、排わら株元チェーン一覧



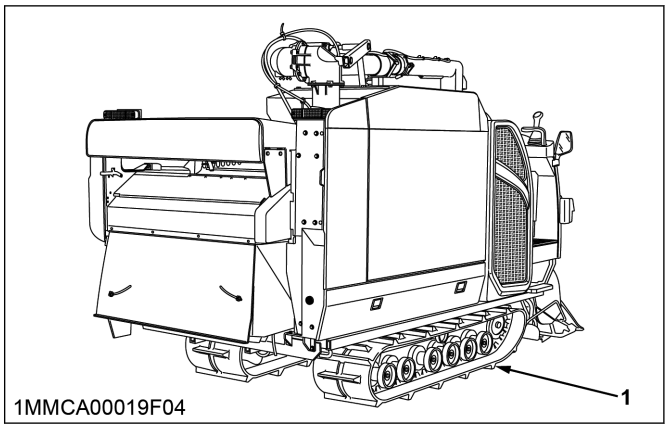
図番	品名	品番	対象型式
1	チェーン、アッシ（ハイワラホサキ）	97700001280	全型式
2	チェーン（ハイワラ）	97710000750	

24. カッタ刃、供給刃一覧



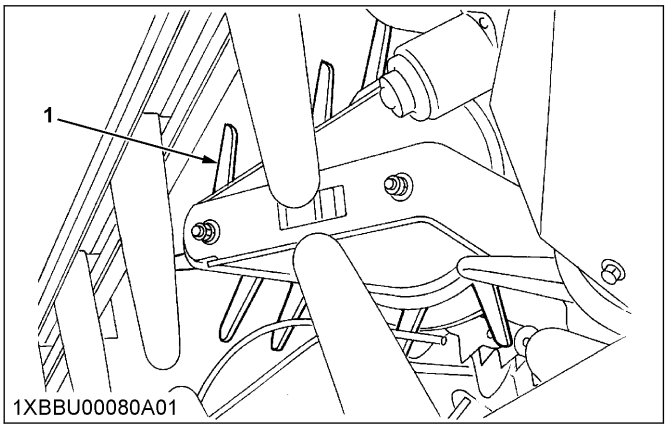
図番	品名	品番	対象型式
1	150 セツダンバ	97710000170	全型式
	セツダンバ 130	97710000160	
2	ロータ（130-17、ギヤ）	97700000300	
	130 キョウキュウバ	97720000090	

25. クローラー覧



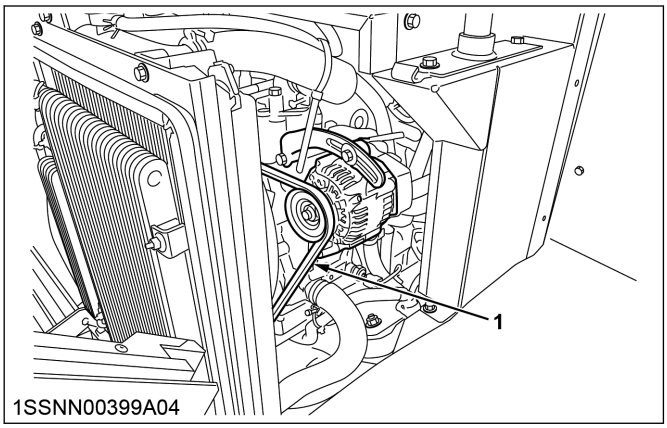
図番	品名	品番	対象型式
1	クローラ（410×46）	97720000420	L 仕様除く
	クローラ（410×47）	97720000460	L 仕様

26. 突起付ベルト一覧



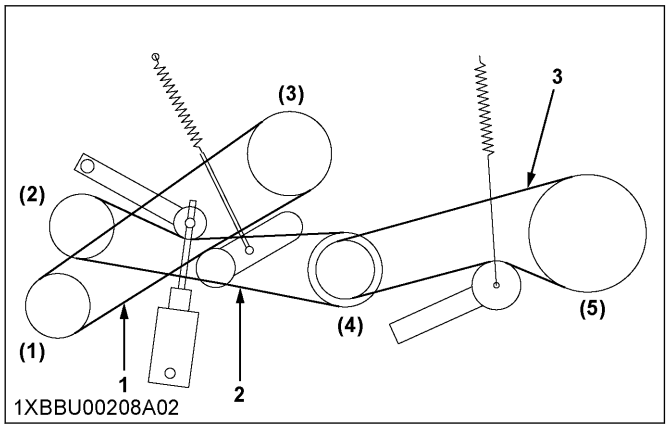
図番	品名	品番	対象型式
1	ベルト（突起付）	97710000150	全型式

27. ファン駆動ベルト一覧

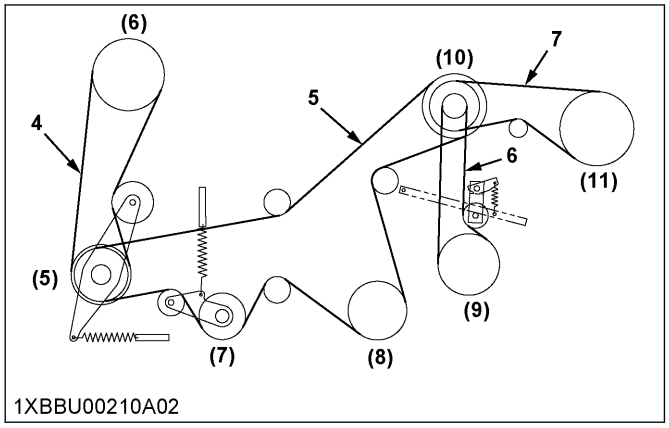


図番	品名	品番	対象型式
1	ファンベルト (41.0-A コグ)	97720000120	全型式

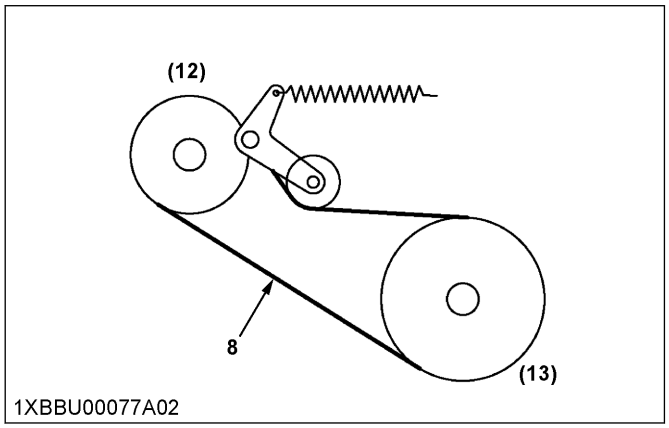
28. 各ベルト一覧



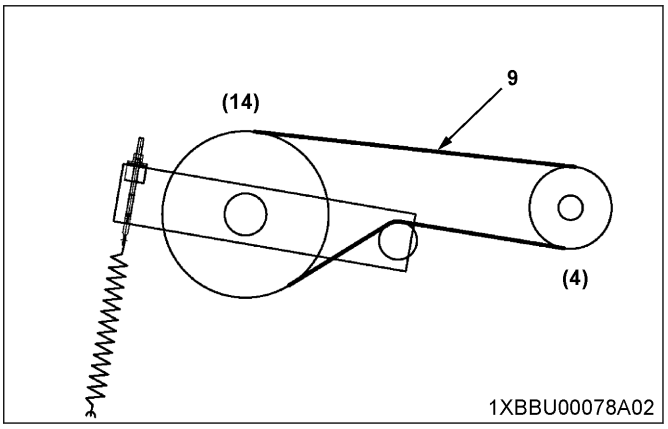
(1) ミッション
(2) *HST* 駆動
(3) 刈取り
(4) エンジン
(5) トウミ



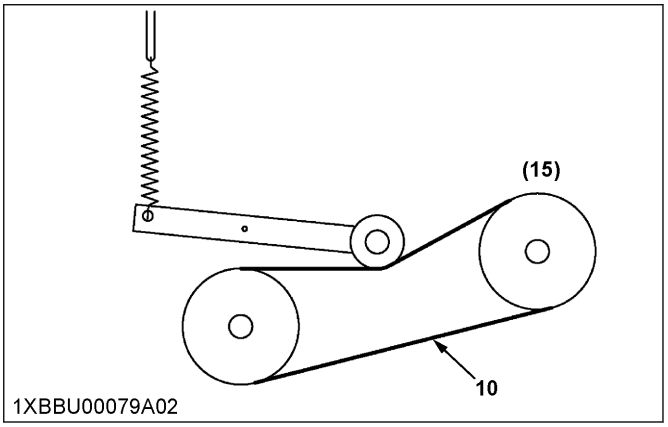
(5) トウミ
(6) こぎ胴ケース駆動
(7) *1* 番
(8) *2* 番
(9) 揺動
(10) チェーン駆動
(11) カッタ



(12) こぎ胴駆動
(13) こぎ胴



(4) エンジン
(14) グレンタンク駆動ケース



(15) タンクスクリュ

図番	名称	品名	品番	対象型式
1	刈取駆動ベルト	V ベルト(B59)	96060000020	全型式
2	ミッション駆動ベルト	V ベルト(B55)	97720000440	
3	脱こく駆動ベルト	V ベルト(B60)	97720000370	

（次へ続く）

図番	名称	品名	品番	対象型式
4	こぎ胴ケース駆動ベルト	V ベルト(C87)	97720000580	全型式
5	1 番・2 番・チェーン駆動ベルト	V ベルト(B139)	97710000890	
6	揺動駆動ベルト	V ベルト(B50)	97720000530	
7	カッタ駆動ベルト	V ベルト(B54)	97720000600	
8	こぎ胴駆動ベルト	V ベルト(B55)	97720000060	
9	タンク駆動ケース駆動ベルト	V ベルト(B63)	97720000280	
10	スクリュ駆動ベルト	V ベルト(B47)	97710000380	

指定オイル

1. 指定オイルについて

オイルは指定オイルをお使いください。
オイルは、コンバインの開発研究から生まれた指定オイルを、必ずお使いください。
市販のオイルをご使用になりますと、あなたの大切なコンバインの寿命を縮めることがあります。
お買求めは、購入先へご用命ください。

索引

記号・数字

1 番・2 番・チェーン駆動ベルト
　調整.....221
　点検.....221
1 番スクリュ上部
　掃除.....163
1 番縦スクリュ掃除口
　掃除.....164
1 番横スクリュ掃除口
　掃除.....164
1 番横スクリュ下部
　掃除.....163
2 番処理胴（ツースバー）
　掃除.....165
2 番縦スクリュ
　処置.....251
2 番縦スクリューケース
　掃除.....166
2 番横スクリュ下部
　掃除.....163

アルファベット

DC 電源ソケット.....69
DPF 再生処理方法.....81
DPF スイッチパネル.....79
　再生禁止スイッチ.....80
　再生禁止ランプ.....80
　再生状態ランプ.....79
　駐車再生スイッチ.....79
　駐車再生ランプ.....79
DPF 装置.....78
HST オイルフィルタカートリッジ
　一覧.....261
　交換.....205
　交換時の注意事項.....205

あ

上げ基準スイッチ［L 仕様］.....71
あぜぎわ
　刈る方法.....112
あゆみ板
　準備時の注意事項.....96
アワメータ表示.....64
安全ラベル.....29
　記載.....44
　取扱い.....44
アンローダ
　折りたたむときの注意.....104
　折りたたむ方法.....105
　刈取作業の準備.....104
　伸ばすときの注意.....104
　伸ばす方法.....106
　もみが排出されないときの処置.....253
アンローダ自動旋回スイッチ.....76
アンローダ自動旋回制御装置.....75
　アンローダ自動旋回スイッチ.....76
　収納スイッチ.....76
　停止スイッチ.....76
アンローダ手動スイッチ.....77
アンローダ水平スクリュ
　掃除.....168
アンローダ縦スクリュ
　掃除.....167
アンローダ部
　グリース補給.....197
インレットパイプ
　一覧.....262
ウインカスイッチ.....68
　操作.....96
ウォータセパレータエレメント
　一覧.....261
カッタ部
　閉じる方法.....150
受あみ
　一覧.....264
　受あみ脱着金具を使用した脱着.....154
　脱着.....153
　脱着時の注意事項.....154
受あみ脱着金具
　使用.....154
　使用時の注意事項.....154
　保管.....154
運転席後カバー 1、2
　脱着時の注意.....157
　取付け.....157
　取外し.....157
運転席（シート）.....58
運転前の点検.....84
運転免許証
　携帯.....47
エアクリーナ
　一覧.....261
　交換.....199
　掃除.....199
　点検.....199
エンジン
　始動.....87
　始動と停止時の注意.....87
　暖機運転.....89
　停止.....90
　燃料切れ後の再始動.....89
　バッテリが上がったときの始動.....89
エンジンオイル
　給油.....191
　交換について.....191
　手入れ.....190
　点検.....190
　排油.....191

補給.....190
エンジンオイルフィルタカートリッジ
一覧.....261
交換.....204
交換の概要.....204
エンジン回転計.....63
エンジン停止スイッチ.....60
作業状態への復帰.....61
エンジンルーム
開閉時の注意.....136
閉じる方法.....137
開く方法.....136
延長アンローダ
一覧.....257
オイルクーラホース
一覧.....260
オイルセパレータホース
一覧.....262
オイルドレーンゴムホース
一覧.....262
オイル表示.....64
オプション（別売品）一覧表
作業灯.....257
オプション（別売品）一覧
延長アンローダ.....257
カッタ切換えカバー電動切換え装置.....258
カッタ後部ドロッパ.....258
カッタ後部標準結束機.....258
刈取スタンド.....257
刈取り防じんカバー.....257
キャノピ.....258
湿田用泥玉防止スクレーパ.....257
種子用交換部品.....257
シュータ式拡散装置.....258
スイスイデバイダ.....257
バックミラー.....258
左分草かん後（サイドデバイダ）.....257
前分草ガイド.....257
無線アンローダリモコン.....257
オートクラッチ切換えスイッチ.....75

か

カッタ切換えカバー
点検.....209
閉じる方法.....158
開く方法.....158
カッタ切換えカバー開閉ワイヤ
調整.....209
カッタ切換えカバー電動切換え装置
一覧.....258
カッタ駆動ギヤ
手差し注油箇所.....177
カッタ駆動ベルト
点検.....222
カッタ後部ドロッパ
一覧.....258
カッタ後部標準結束機
一覧.....258
カッタ刃
一覧.....267
カッタ左サイドカバー
取付け.....158
取外し.....157
カッタ部
開閉時の注意事項.....149
処置.....251
点検.....234
内部の掃除.....166
開く方法.....149
増締め.....234
株元供給チェーン
一覧.....265
自動集中注油箇所.....173
調整.....227
点検.....227
ノズル掃除.....173
刈取オートクラッチ.....75
オートクラッチ切換えスイッチ.....75
刈取りかき込みペダル.....60
刈取下降ロックスイッチ.....58
刈取駆動ベルト
調整.....218
点検.....218
刈取クラッチワイヤ
調整.....208
点検.....208
刈取スタンド
一覧.....257
刈取部
あぜぎわ刈りのときのデバイダの条合わせ.....112
開閉時の注意事項.....138
刈始めのデバイダの条合わせ.....112
通常の回り刈りのときのデバイダの条合わせ.....111
閉じる方法.....144
中割り作業のときのデバイダの条合わせ.....112
開く方法.....139
刈取変速
作物に合わせた変速の選択.....113
刈取り防じんカバー
一覧.....257
刈刃
一覧.....265
自動集中注油箇所.....170
すき間調整.....230
高さ調節.....123
点検.....230
点検、調整の目安.....229
取付け.....231
取外し.....230
ノズル掃除.....170
機械の積込みおよび積降し時の速度.....27
機体方向説明.....48
ギヤスプロケット
手差し注油箇所.....177

キャノピ
一覧.....258
供給サポートチェーン
一覧.....266
自動集中注油箇所..... 173
調整.....227
点検.....227
ノズル掃除..... 173
供給サポートチェーン駆動軸
シャーピンの確認..... 252
供給サポートチェーン駆動チェーン
一覧.....266
自動集中注油箇所..... 173
点検.....228
ノズル掃除..... 173
供給軸
増締め..... 235
供給刃
一覧.....267
供給搬送部
処置.....250
グリース
グリースニップルからの補給..... 194
グリースニップル
グリースの補給.....194
グレンタンク
開閉時の注意事項..... 158
閉じる方法..... 160
内部の掃除..... 167
開く方法.....159
グレンタンク下部
掃除.....167
グレンタンク下カバー
取付け..... 157
取外し..... 157
クローラ
一覧.....267
調整.....245
点検.....245
クローラ張りボルト
グリース塗布箇所..... 177
傾斜角手動調節スイッチ［L 仕様］..... 70
けん引フック
けん引作業時の注意.....254
後進時機体上昇スイッチ［L 仕様］..... 71
後輪部
グリース補給［L 仕様除く］.....194
グリース補給［L 仕様］..... 196
小型特殊自動車.....47
小型特殊自動車取得
届出.....47
こぎ室
内部の掃除..... 166
こぎ室送じん調節レバー
調節.....125
こぎ胴
開閉時の注意事項..... 137
閉じる方法..... 138
開く方法.....137
こぎ胴駆動ケースオイル
点検.....193
補給.....193
こぎ胴駆動ケース駆動ベルト
調整.....220
点検.....220
こぎ胴駆動ベルト
調整.....221
点検.....221
こぎ歯
一覧.....264
交換.....232
手入れ..... 232
点検.....232
こぎ深さチェーン
一覧.....265
自動集中注油箇所..... 173
調整.....228
点検.....228
ノズル掃除..... 174
こぎ深さ調節レバー.....73
ご相談窓口..... 45
固定転輪部
グリース補給［L 仕様除く］..... 194
グリース補給［L 仕様］..... 195
コンバイン
移動走行.....90
移動走行前の準備..... 90
エア抜き.....170
オイル類の交換.....178
各フィンの掃除.....202
各フィンの取外し..... 202
各部チェーンの調整.....225
各部の点検箇所.....224
各部の開閉時の注意.....136
各部の脱着時の注意.....136
各部への注油.....100
各部ベルトの調整..... 217
各部ベルトの点検..... 217
各部ベルトの点検、調整箇所..... 214
各部ワイヤの点検、調整.....206
刈取作業.....108
刈取作業後の旋回.....113
機体周りの点検.....84
給水点検一覧表.....186
給油点検一覧表.....186
クローラの交換.....178
湿田作業.....113
自動集中注油.....168
自動集中注油箇所の掃除.....170
自動集中注油の概要.....168
使用者が行ってはいけない修理.....179
新車時の扱い.....87
旋回.....95
前日の異常箇所の点検..... 84
掃除.....161
掃除箇所.....161

掃除後の処置と確認.....168
チェーン類の交換..... 178
駐車.....95
注油後の処置と確認.....178
注油点検一覧表.....186
長期格納時の掃除..... 248
長期格納時の注油..... 248
長期格納時のバッテリの保管..... 249
長期格納時の補修..... 248
長期格納時のレバー、その他の操作.....249
定期点検.....178
定期点検一覧表.....180
停車.....95
手刈り脱こく.....119
トラックへの積込み、積降し..... 97
ならし運転.....87
ノズル掃除後の処置と確認.....178
パイプ類の点検.....200
発進.....93
広いほ場の場合の刈取り.....112
フィルタ類の交換..... 178
ベルト類の交換.....178
ホース類の点検.....200
毎日の作業後の手入れ..... 248
枕刈り脱こく.....119
もみの排出..... 114
ランプの電球の交換.....244
ランプの点検.....244
コンビネーションスイッチ..... 68
ウインカスイッチ..... 68
ライティングスイッチ..... 68

さ

再生禁止スイッチ..... 80
再生禁止ランプ.....80
再生状態ランプ.....79
サイドシュート
セット..... 103
調整.....103
作業灯
一覧.....257
作業レバー（楽刈レバー）..... 59
作物
刈り取れる長さ.....99
条件についての注意事項.....99
倒伏.....99
濡れ.....99
湿田用泥玉防止スクレーパ
一覧.....257
指定オイル..... 270
自動化装置..... 69
自動刈高さ制御装置［K 仕様］..... 73
上昇（リフト）自動スイッチ..... 74
高さ調節ダイヤル..... 74
自動こぎ深さスイッチ..... 72
自動こぎ深さ制御装置
自動こぎ深さスイッチ..... 72
自動再生処理.....83
自動車体水平制御装置（左右モンロー）［L 仕様］
上げ基準スイッチ..... 71
後進時機体上昇スイッチ.....71
水平自動スイッチ..... 70
シャーピン
供給サポートチェーン駆動軸部の確認.....252
破損したときの処置.....252
引起しチェーン駆動軸部の確認.....252
充電表示.....64
収納スイッチ.....76
種子用交換部品
一覧.....257
手動アクセルダイヤル..... 55
手動こぎ深さスイッチ..... 73
主変速レバー.....55
主要諸元.....255
準備時の注意事項
トラックとあゆみ板準備時.....96
シュータ式拡散装置
一覧.....258
上昇自動（リフト）［K 仕様］ 74
上昇（リフト）自動スイッチ［K 仕様］ 74
消耗部品一覧
HST オイルフィルタカートリッジ..... 261
インレットパイプ..... 262
ウォータセパレータエレメント.....261
受あみ..... 264
エアクリーナ.....261
エンジンオイルフィルタカートリッジ.....261
オイルクーラホース.....260
オイルセパレータホース.....262
オイルドレーンゴムホース.....262
カッタ刃.....267
株元供給チェーン..... 265
刈刃.....265
供給サポートチェーン..... 266
供給サポートチェーン駆動チェーン.....266
供給刃..... 267
クローラ.....267
こぎ歯..... 264
こぎ深さチェーン..... 265
スローブローヒューズ.....258
吐出口ブーツ.....262
突起付ベルト.....267
燃料フィルタカートリッジ.....260
燃料ホース.....260
排水ホース..... 263
排わら株元チェーン.....266
排わら穂先チェーン.....266
バッテリ.....258
引起しチェーン.....266
左株元チェーン.....266
左穂先チェーン.....266
ヒューズ.....259
ファン駆動ベルト..... 267
フィードチェーン..... 266
フロントハンプ.....264

ベルト各種.....268
穂先センサ.....265
右株元チェーン.....266
右穂先チェーン.....266
油圧サクションオイルフィルタカートリッジ....261
ラジエータホース.....259
ランプ（電球）.....259
ワイヤ各種.....263
わら切刃.....265
シーブケース
選別板上部の掃除.....162
脱着時の注意事項.....150
取付け.....152
抜出し.....150
シーブケース後部（3 番出口）
掃除.....166
シーブ表示.....64
水温表示.....64
スイスイデバイダ
一覧.....257
水平自動スイッチ［L 仕様］.....70
水平操作手動スイッチ［L 仕様］.....72
スイングアーム部［L 仕様］
グリース補給.....196
スクリュ駆動ベルト
調整.....223
点検.....223
スローブローヒューズ
一覧.....258
交換.....243
点検.....243
掃除.....161
切断軸
増締め.....235
旋回モード
選択.....101
旋回モード切換えスイッチ.....57
選別板
上部の掃除.....162
装置の名称
運転席周りのレバー、スイッチ類.....53
機体後方.....51
機体前方.....49
レバー、スイッチ類の詳細.....54
速度計.....63
損害賠償保険.....47

た

高さ調節ダイヤル［K 仕様］.....74
ダストカップ
取外し.....199
脱こく駆動ベルト
調整.....219
点検.....219
脱こくクラッチワイヤ
調整.....208
点検.....208
脱こく部
内部の掃除.....162
タンク駆動ケース駆動ベルト
調整.....222
点検.....222
チャフ
すき間の開度調節.....125
チャフ調節レバー.....62
注意事項
DPF 再生処理を行うとき.....21
HST オイルフィルタカートリッジの交換時.....205
あゆみ板.....26
アンローダを動かすとき.....18
アンローダを折りたたむとき.....104
アンローダを伸ばすとき.....104
異常に気づいたら.....19
移動走行するとき.....15
受あみ脱着金具の使用.....154
受あみの脱着.....154
運転してはいけない人.....12
運転席後カバー 1、2 の脱着.....157
運転席を離れるとき.....17
エンジンの始動と停止時.....87
エンジンルームの開閉.....136
エンジンを回すとき.....22
屋内で運転するとき.....13
改造禁止.....12
火気厳禁.....13
各部の開閉と脱着.....136
各部の掃除.....160
各部の注油.....160
各部の注油時.....168
各部を開閉するとき.....15
カッタ刃の調整および交換時.....23
カッタ部の開閉.....149
体の調子が悪いとき.....11
刈取作業のためのコンバインの準備時.....100
刈取作業をするとき.....17
刈取部、引起し部、こぎ胴、カッタ部、結束機、およびグレンタンクを開くとき.....22
刈取部の開閉.....138
刈取部を上げて点検、整備、および掃除するとき23
刈刃に触らない.....20
刈刃の調整および交換時.....23
機体の各カバーの固定.....27
機械の積込みおよび積降し作業.....26
機械の積込みおよび積降し前.....26
機械輸送時の注意.....28
機体にカバー（おおい）を掛けるとき.....21
機体の方向修正時の注意.....27
急旋回禁止.....16
共同作業するとき.....17
グリース補給時.....193
グレンタンクの開閉.....158
後進するとき.....15
公道の走行.....12
こぎ胴の開閉.....137
子供を機械に近づけない.....15

コンバインの処置時.....250
坂道での走行.....16
作業に合わせた各部の調整、調節時.....121
作業に適した服装.....11
作業方法.....11
作業前点検.....14
左右の傾きのある傾斜地での走行.....16
湿田で作業するとき.....18
指定外のバッテリは使わない.....24
周囲の安全.....13
重量物の脱着作業.....23
シーブケースの脱着.....150
すみ刈りを行うとき.....18
洗車時.....179
正しい運転.....11
駐車するとき.....17
駐車場所.....19
定期点検整備.....21
手こぎ作業するとき.....18
電気の配線コードの手入れ.....241
電気のヒューズの手入れ.....241
電気配線の点検.....21
点検、整備、交換、および掃除するとき.....22
点検、整備、掃除、給油するとき.....14
点検および掃除で外したカバー.....19
点検および掃除をするとき.....20
点検および掃除をする前に.....20
同乗禁止.....12
道路走行時.....95
飛降り禁止.....12
飛乗り禁止.....12
トラック荷台上での機械の固定方法.....27
トラックへの積込み、積降し時.....96
取り外したカバー類.....23
燃料、オイル、グリースの点検、補給、交換時.189
燃料噴射管の漏れ点検.....25
廃棄物の処理.....21
パイプ類の点検時.....200
初めての運転.....14
バッテリ液（希硫酸）を体に付着させない.....24
バッテリの液量.....24
バッテリの手入れ時.....237
バッテリの取扱い.....20
バッテリを取り外すとき.....24
各部チェーンの点検、調整時.....223
引起し部の開閉.....146
ほ場の出入り.....17
ホース類の交換.....25
ホース類の点検時.....200
道幅が狭く高所にある道路.....17
夜間の使用禁止.....13
油圧サクションオイルフィルタカートリッジの交換時.....205
油圧パイプの漏れ点検.....25
ラジエータの圧力キャップ.....25
ラジエータのリザーブタンク.....25
ラジエータ冷却水の手入れ時.....197
わら切刃の調整および交換時.....23
わらくずの除去.....20
わらくずの付着点検.....14
駐車再生処理
しかた.....83
駐車再生スイッチ.....79
駐車再生ランプ.....79
駐車ブレーキ.....56
駐車ブレーキペダル.....56
駐車ブレーキワイヤ
調整.....207
点検.....207
停止スイッチ.....76
ディーゼル微粒子除去装置.....78
デバイダ
あぜぎわ刈りの条合わせ.....112
刈始めの条合わせ.....112
上下調整.....121
通常の回り刈りのときの条合わせ.....111
中割り作業の条合わせ.....112
デバイダカバー
取外しと収納.....100
電気の配線コード
手入れについての注意事項.....241
電気のヒューズ
手入れ時の注意事項.....241
トウミ
開度による風力調節.....125
トウミ調節レバー.....62
吐出口ブーツ
交換.....237
一覧.....262
突起付ベルト
一覧.....267
トラック
コンバインの積込み、積降し.....97
準備時の注意事項.....96
積込み、積降し時の注意事項.....96
トラック上での処置.....98
トラックフレーム部［L 仕様］
グリース補給.....196
トラックへの積込み時の準備.....96
トラックローラ（転輪）
点検.....247
トランスミッションケースオイル
給油.....192
交換について.....192
手入れ.....191
点検.....192
排油.....192
補給.....192
取扱説明書
収納場所.....46

な

ならし運転.....87
日常点検項目.....85
認定番号.....46

燃料
給油.....189
補給.....190
補給時期.....189
燃料計..... 63
燃料フィルタカートリッジ
一覧.....260
交換.....204
交換の概要.....204
燃料ホース
一覧.....260

は

廃棄物
処理についての注意事項.....179
排じん調整板
調整.....125
排水ホース
一覧.....263
配線コード
交換.....241
点検.....241
排わら株元チェーン
一覧.....266
自動集中注油箇所..... 175
点検.....229
ノズル掃除..... 175
排わら株元チェーンテンション部
手差し注油箇所.....177
排わら切換えカバー
点検.....209
排わら切断長さ
選択.....103
排わらチェーン部
処置.....251
排わら入力チェーン
自動集中注油箇所..... 175
手差し注油箇所.....177
点検.....229
ノズル掃除..... 175
排わら搬送部
処置.....250
掃除.....163
排わら穂先チェーン
一覧.....266
自動集中注油箇所..... 175
点検.....229
ノズル掃除..... 175
排わらレールワイヤ
調整..... 211
点検..... 211
バックミラー
一覧.....258
バッテリ
一覧.....258
交換.....239
長期格納時の保管..... 249
手入れ時の注意事項.....237
点検.....237
補充電..... 239
バッテリ（要補水）
交換.....240
点検.....240
補充電..... 240
補水.....240
バッテリ（+）コード
交換.....243
点検.....243
パワーステアリングレバー..... 56
傾斜角手動調節スイッチ［L 仕様］..... 70
反射器
交換.....245
点検.....245
搬送レールピン支持部
手差し注油箇所.....176
引起しカバー
取付け..... 156
取外し..... 155
引起しサイドカバー
取付け..... 155
取外し..... 155
引起しチェーン
一覧.....266
自動集中注油箇所..... 171
調整.....225
点検.....225
ノズル掃除..... 171
引起しチェーン駆動軸
シャーピンの確認..... 252
引起し爪
爪高さの調節.....122
引起し部
開閉時の注意事項..... 146
閉じる方法..... 148
開く方法.....147
引起し変速
作物に合わせた変速の選択..... 113
引起し変速レバー..... 59
作物に合わせた刈取変速の選択..... 114
左株元チェーン
一覧.....266
自動集中注油箇所..... 171
調整.....226
点検.....226
ノズル掃除..... 172
左サイドカバー
上、下の取外し.....156
内 1、内 2、内 3 の取外し..... 156
取付け..... 157
左分草かん
セット..... 101
左分草かん後（サイドデバイダ）
一覧.....257
左分草かん開閉スイッチ.....59

左穂先チェーン
一覧.....266
自動集中注油箇所.....171
点検.....226
ノズル掃除.....172
ヒューズ
一覧.....259
交換.....241
標識（ナンバプレート）
取付け.....47
ファインビューメータ.....63
エンジン回転計.....63
速度計.....63
燃料計.....63
負荷メータ.....63
ファン駆動ベルト
一覧.....267
調整.....217
点検.....217
フィードチェーン
一覧.....266
自動集中注油箇所.....173
調整.....228
点検.....228
ノズル掃除.....174
フィードチェーン駆動ケースオイル
補給.....192,193
フィードチェーンクラッチスプリング
調整.....237
点検.....237
フィードチェーンクラッチピン
グリース塗布箇所.....178
フィードチェーン終端部
処置.....250
掃除.....163
フィードチェーン停止ワイヤ
調整.....207
点検.....207
フィードチェーン部
処置.....250
負荷メータ.....63
副変速切換えスイッチ.....55
作物に合わせた刈取変速の選択.....114
副変速レバー.....55
付属部品.....257
不凍液
長期格納時のラジエータ冷却水への配合.....248
フロントカバー内
掃除.....162
フロントバンプ
一覧.....264
ベルト各種
一覧.....268
ベルトカバー
内部の掃除.....162
防じんあみ
掃除.....202
穂先センサ
位置調節.....73
一覧.....265
補修用部品
供給年限.....46
ほ場
あぜぎわの手刈り.....100
傾き.....99
刈る方法.....111
旋回.....111
出入り.....107
ぬかるみ.....99
枕刈り.....100
補助搬送（突起付）ベルト
調整.....219
点検.....219
ホーンスイッチ.....68
点検.....244

ま

前分草ガイド
一覧.....257
マルチアンローダリモコン.....75
アンローダ自動旋回スイッチ.....76
アンローダ手動スイッチ.....77
収納スイッチ.....76
停止スイッチ.....76
もみの排出および停止操作.....78
もみ排出スイッチ.....62
マルチナビ.....64
アワメータ表示.....64
異常確認.....127
異常発生時.....65
オイル表示.....64
故障確認.....133
誤操作時.....67
充電表示.....64
シーブ表示.....64
水温表示.....64
もみ表示.....64
右株元チェーン
一覧.....266
自動集中注油箇所.....171
調整.....226
点検.....226
ノズル掃除.....172
右穂先チェーン
一覧.....266
自動集中注油箇所.....171
点検.....226
ノズル掃除.....172
右穂先チェーン爪ガイド
調整.....124
ミッション駆動ベルト
調整.....218
点検.....218

無線アンローダリモコン
一覧.....257
メインスイッチ.....55
もみ排出クラッチワイヤ
調整.....212
点検.....212
もみ排出スイッチ..... 62
もみの排出および停止操作.....78
もみ表示.....64

や

油圧サクションオイルフィルタカートリッジ
一覧.....261
交換.....205
交換時の注意事項..... 205
油水分離器（セパレータ）
掃除.....203
手入れ..... 203
点検.....203
排水.....203
揺動駆動ベルト
調整.....221
点検.....221
揺動転輪部
グリース補給［L 仕様］..... 195

ら

ライティングスイッチ..... 68
ラジエータホース
一覧.....259
ラジエータ冷却水
交換.....198
長期格納時の排水..... 248
長期格納時の不凍液の配合.....248
手入れ時の注意事項.....197
点検.....197
補給.....197
ランプ（電球）
一覧.....259
リヤシュート
セット..... 103
調整.....103

わ

わら切刃
一覧.....265
組換え..... 233
交換.....233
手入れについて.....233
点検.....233
穂先側の組換え.....233
穂先側の交換.....233
穂先側の点検.....233
わら処理切換えスイッチ
排わら処理の選択..... 102